

東関東自動車道（千葉・富津線） 埋蔵文化財調査報告書 5

市原市中伊沢遺跡・百目木遺跡・下椎木遺跡・
志保知遺跡・ヤジ山遺跡・細山(1)(2)遺跡

平成12年3月

日本道路公団

財団法人 千葉県文化財センター

東関東自動車道 (千葉・富津線) 埋蔵文化財調査報告書 5

いちほら なか い さわ どうめぎ しもしいのき
市原市中伊沢遺跡・百目木遺跡・下椎木遺跡・
しほち やま ほそやま
志保知遺跡・ヤジ山遺跡・細山(1)(2)遺跡



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第383集として、日本道路公団の東関東自動車道（千葉・富津線）建設事業に伴って実施した市原市ヤジ山遺跡ほか6遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の石器、縄文時代の土器及び石器を初め、縄文時代早期の炉穴や礫群が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成12年3月31日

財団法人千葉県文化財センター
理事長 中 村 好 成

凡 例

- 1 本書は、日本道路公団による東関東自動車道（千葉・富津線）建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書の第5集である。
- 2 本書は、下記の遺跡を収録したものである。
 - 中伊沢遺跡 千葉県市原市海保字中伊沢1290-1ほか（遺跡コード 219-049）
 - 百目木遺跡 千葉県市原市豊成396ほか（遺跡コード 219-057）
 - 下椎木遺跡 千葉県市原市不入斗字下椎木543ほか（遺跡コード 219-056）
 - 志保知遺跡 千葉県市原市深城字志保知577-3ほか（遺跡コード 219-055）
 - ヤジ山遺跡 千葉県市原市深城字ヤジ山282-1ほか（遺跡コード 219-046）
 - 細山(1)遺跡 千葉県市原市椎津字バチ谷2,970-1ほか（遺跡コード 219-053）
 - 細山(2)遺跡 千葉県市原市天羽田字出崎台1,163-1ほか（遺跡コード 219-054）
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、日本道路公団の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、主任技師 豊田秀治が各章の旧石器時代の部分を、主任技師 小笠原永隆がそれ以外の部分と編集を行った。ただし、第2章第2節2及び第7章第3節については、小笠原と技師 吉野健一が共同で執筆を行った。
- 6 発掘調査から報告書作成に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、日本道路公団、市原市教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
 - 第1図 国土地理院発行 1/50,000地形図「姉崎」(N1-54-19-16)
 - 第2図 市原市役所発行 1/10,000都市計画図「市原4」「市原5」「市原7」「市原9」
 - 第3図 国土地理院発行 1/25,000地形図「姉崎」(N1-54-19-16-3)
- 8 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和47年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 10 挿図に使用した記号の用例は、以下のとおりである。また、土器断面図中のドットは、繊維の混入を示している。

旧石器時代遺物分布図凡例

《器種別》		《石材別》	
○ 剥片・碎片	○ 黒曜石	○ 頁岩・珪質頁岩	
● U F・R F	● 安山岩・ホルンフェルス	● 流紋岩	
□ 石核	□ 凝灰岩	□ 砂岩	
× 楔形石器	▲ チャート	▲ メノウ	
▲ ナイフ形石器	☆ 閃緑岩	☆ 石英斑岩	
▲ 掻・削器	(黒色)	(赤色)	
● 礫			
■ 敲石			
☆ 磨製石斧			
○ 礫器			

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
第2節	遺跡の位置と環境	3
第2章	中伊沢遺跡	7
第1節	概要	7
第2節	出土遺物	7
第3章	百目木遺跡	12
第1節	概要	12
第2節	旧石器時代	12
第3節	縄文時代	12
第4章	下椎木遺跡	16
第1節	概要	16
第2節	旧石器時代	16
第3節	縄文時代	29
第5章	志保知遺跡	36
第1節	概要	36
第2節	旧石器時代	36
第3節	縄文時代	42
第6章	ヤジ山遺跡	49
第1節	概要	49
第2節	旧石器時代	49
第3節	縄文時代	123
第7章	細山(1)(2)遺跡	201
第1節	概要	201
第2節	旧石器時代	201
第3節	縄文時代	257
第8章	まとめ	271
第1節	旧石器時代	271
第2節	縄文時代	272

挿図目次

第1図	遺跡の位置と周辺地形	1	第3図	本書に収録した遺跡と周辺の主な遺跡	6
第2図	遺跡付近の地形	3			

(中伊沢遺跡)

第4図 調査区及びグリッド設定……………8
 第5図 縄文土器……………9
 第6図 弥生土器……………11
 第7図 銭貨……………11

(百目木遺跡)

第8図 調査区及びグリッド設定……………13
 第9図 検出遺構……………14
 第10図 遺跡出土遺物……………15

(下椎木遺跡)

第11図 グリッド設定, 上層本調査区
 及び確認トレンチ配置……………17
 第12図 下層本調査区及び確認トレンチ配置……………18
 第13図 3Dブロック出土状況……………19
 第14図 3Dブロック出土石器(1)……………20
 第15図 3Dブロック出土石器(2)……………21
 第16図 4Cブロック出土状況……………22
 第17図 4Cブロック出土石器(1)……………23
 第18図 4Cブロック出土石器(2)……………24
 第19図 4Cブロック出土石器(3)……………25
 第20図 4Cブロック出土石器(4)……………26
 第21図 4Cブロック出土石器(5)……………27
 第22図 縄文時代遺構配置……………30
 第23図 炉穴(1)・陥穴……………34
 第24図 炉穴(2)……………35
 第25図 遺構内出土遺物……………35

(志保知遺跡)

第26図 グリッド設定, 上層本調査区
 及び確認トレンチ配置……………37
 第27図 下層本調査区及び確認トレンチ配置……………38
 第28図 第1ブロック, 1号礫群……………39
 第29図 第1ブロック出土石器……………40
 第30図 単独出土石器……………41
 第31図 縄文時代遺構配置……………44
 第32図 陥穴(1)……………45
 第33図 陥穴(2)・土坑……………47
 第34図 出土遺物……………48

(ヤジ山遺跡)

第35図 年度別調査範囲及びグリッド設定……………50
 第36図 上層本調査区及び確認トレンチ配置……………51
 第37図 下層本調査区及び確認トレンチ配置……………52
 第38図 Aブロック出土状況……………53
 第39図 Aブロック出土石器(1)……………54
 第40図 Aブロック出土石器(2)……………55
 第41図 Aブロック出土石器(3)……………56
 第42図 Aブロック出土石器(4)……………57
 第43図 Aブロック出土石器(5)……………58
 第44図 Bブロック器種別分布……………62
 第45図 Bブロック石材別分布……………63
 第46図 Bブロック出土石器(1)……………64
 第47図 Bブロック出土石器(2)……………65
 第48図 Bブロック出土石器(3)……………66
 第49図 Bブロック出土石器(4)……………67
 第50図 Bブロック出土石器(5)……………68
 第51図 Bブロック出土石器(6)……………69
 第52図 Bブロック出土石器(7)……………70
 第53図 Bブロック出土石器(8)……………71
 第54図 Bブロック出土石器(9)……………72
 第55図 Bブロック出土石器(10)……………73
 第56図 Bブロック出土石器(11)……………74
 第57図 Bブロック出土石器(12)……………75
 第58図 第1文化層ブロック外出土石器……………80
 第59図 第1文化層接合関係……………82
 第60図 第1文化層接合資料(1)……………83
 第61図 第1文化層接合資料(2)……………84
 第62図 第1文化層接合資料(3)……………85
 第63図 第1文化層接合資料(4)……………86
 第64図 第1文化層接合資料(5)……………87
 第65図 第1文化層接合資料(6)……………88
 第66図 第1文化層接合資料(7)……………89
 第67図 Cブロック出土状況……………90
 第68図 Cブロック出土石器……………91
 第69図 Dブロック出土状況……………92
 第70図 Dブロック出土石器……………92

第71図	Eブロック器種別分布	94	第107図	炉穴・土坑出土石器	145
第72図	Eブロック石材別分布	95	第108図	縄文時代石器集中①	147
第73図	Eブロック出土石器(1)	96	第109図	縄文時代石器集中②	148
第74図	Eブロック出土石器(2)	97	第110図	縄文時代石器集中出土遺物	149
第75図	Eブロック出土石器(3)	98	第111図	第I群(撚糸文)土器出土分布	155
第76図	9Fブロック器種別分布	100	第112図	第I群土器	157
第77図	9Fブロック石材別分布	101	第113図	第II群(田戸下層式)土器出土分布	158
第78図	9Fブロック出土石器(1)	103	第114図	第II群土器	159
第79図	9Fブロック出土石器(2)	104	第115図	第III群1類(田戸上層式~子母口式) 土器出土分布	160
第80図	第2文化層ブロック外出土石器	106	第116図	第III群1類土器(1)	163
第81図	第2文化層接合関係	107	第117図	第III群1類土器(2)	164
第82図	第2文化層接合資料(1)	108	第118図	第III群1類土器(3)	166
第83図	第2文化層接合資料(2)	109	第119図	第III群2類a種(擦痕)土器出土分布	167
第84図	9L・8F・10Mブロック器種別分布	111	第120図	第III群2類a種土器	168
第85図	9L・8F・10Mブロック出土石器	112	第121図	第III群2類b種(条痕)土器出土分布	169
第86図	8Mブロック出土状況	113	第122図	第III群2類b種土器	171
第87図	8Mブロック出土石器(1)	114	第123図	第IV群(後期)土器出土分布	172
第88図	8Mブロック出土石器(2)	115	第124図	第IV群土器	173
第89図	8Mブロック出土石器(3)	116	第125図	縄文時代石器出土分布(1)	175
第90図	8Lブロック出土状況	117	第126図	縄文時代石器出土分布(2)	176
第91図	8Lブロック出土石器(1)	118	第127図	縄文時代石器(1) - 尖頭器	177
第92図	8Lブロック出土石器(2)	119	第128図	縄文時代石器(2) - 石鏃	178
第93図	上層遺構配置図(1)	124	第129図	縄文時代石器(3) - 楔形石器・石核	180
第94図	上層遺構配置図(2)	125	第130図	縄文時代石器(4) - 石核	181
第95図	竪穴住居跡及び出土遺物	126	第131図	縄文時代石器(5) - U・R-f 1・剥片	182
第96図	炉穴(1)	129	第132図	縄文時代石器(6) - 剥片	183
第97図	炉穴(2)	132	第133図	縄文時代石器(7) - 石斧	185
第98図	炉穴(3)	133	第134図	縄文時代石器(8) - 石斧	186
第99図	炉穴出土土器	134	第135図	縄文時代石器(9) - 磨石・敲石	187
第100図	土坑(1)	136	第136図	縄文時代石器(10) - 磨石・敲石	188
第101図	土坑(2)	138	第137図	縄文時代石器(11) - 凹石・石皿	189
第102図	土坑出土土器	139	第138図	縄文時代礫重量分布	190
第103図	陥穴(1)	141			
第104図	陥穴(2)	142			
第105図	溝状遺構	144			
第106図	陥穴及び溝状遺構出土土器	145			

第139図	12Dグリッド付近石器類出土状況……	191	第168図	Dブロック石材別分布……	232
第140図	縄文時代礫重量別出現頻度……	192	第169図	Dブロック出土石器(1)……	233
	(細山(1)(2)遺跡)		第170図	Dブロック出土石器(2)……	234
第141図	グリッド設定, 上層本調査区 及び確認トレンチ配置……	202	第171図	Dブロック出土石器(3)……	235
第142図	下層本調査区及び確認トレンチ配置……	203	第172図	Dブロック出土石器(4)……	236
第143図	旧石器出土状況(細山(1)遺跡)……	204	第173図	Dブロック出土石器(5)……	237
第144図	出土石器(細山(1)遺跡)……	204	第174図	Dブロック出土石器(6)……	238
第145図	C1ブロック器種別分布……	206	第175図	Dブロック出土石器(7)……	239
第146図	C1ブロック石材別分布……	207	第176図	Dブロック出土石器(8)……	240
第147図	C1ブロック出土石器(1)……	208	第177図	第1文化層ブロック外出土石器……	242
第148図	C1ブロック出土石器(2)……	209	第178図	第1文化層接合関係……	243
第149図	C1ブロック出土石器(3)……	210	第179図	第1文化層接合資料(1)……	245
第150図	C1ブロック出土石器(4)……	211	第180図	第1文化層接合資料(2)……	246
第151図	C1ブロック出土石器(5)……	212	第181図	第1文化層接合資料(3)……	247
第152図	C1ブロック出土石器(6)……	213	第182図	第1文化層接合資料(4)……	248
第153図	C1ブロック出土石器(7)……	214	第183図	第1文化層接合資料(5)……	249
第154図	C1ブロック出土石器(8)……	215	第184図	第1文化層接合資料(6)……	250
第155図	C1ブロック出土石器(9)……	216	第185図	Aブロック出土状況……	251
第156図	C1ブロック出土石器(10)……	217	第186図	Aブロック出土石器……	252
第157図	C1ブロック出土石器(11)……	218	第187図	ブロック外石器分布……	253
第158図	C2ブロック器種別分布……	221	第188図	Bブロック出土石器……	253
第159図	C2ブロック石材別分布……	222	第189図	Bブロック器種別分布……	254
第160図	C2ブロック出土石器(1)……	223	第190図	Bブロック石材別分布……	254
第161図	C2ブロック出土石器(2)……	224	第191図	グリッド出土石器……	256
第162図	C2ブロック出土石器(3)……	225	第192図	細山(1)遺跡出土遺物……	258
第163図	C2ブロック出土石器(4)……	226	第193図	細山(2)遺跡上層遺構配置……	259
第164図	C2ブロック出土石器(5)……	227	第194図	炉穴……	264
第165図	C2ブロック出土石器(6)……	228	第195図	炉穴出土遺物(1)……	265
第166図	C2ブロック出土石器(7)……	229	第196図	炉穴出土遺物(2)……	266
第167図	Dブロック器種別分布……	232	第197図	遺構外出土遺物(1)……	267
			第198図	遺構外出土遺物(2)……	269

表目次

(下椎木遺跡)

第1表	3Dブロック石器属性……	27
第2表	4Cブロック石器属性……	28

(志保知遺跡)

第3表	第1ブロック石器属性……	41
第4表	ブロック外石器属性……	41

第5表 1号礫群属性……………42 (ヤジ山遺跡)	第19表 縄文時代石器集中地点出土石器 ……149
第6表 Aブロック石器属性……………59	第20表 遺構外出土石器 (実測分)……………193
第7表 Bブロック石器属性……………75	第21表 遺構外出土石器 (未実測)……………194 (細山(1)(2)遺跡)
第8表 第1文化層ブロック外石器属性……………80	第22表 C1ブロック石器属性 ……218
第9表 Cブロック石器属性……………90	第23表 C2ブロック石器属性 ……229
第10表 Dブロック石器属性……………93	第24表 Dブロック石器属性 ……240
第11表 Eブロック石器属性……………99	第25表 第1文化層ブロック外石器属性 ……242
第12表 9Fブロック石器属性 ……101	第26表 Aブロック石器属性 ……252
第13表 第2文化層ブロック外石器属性 ……105	第27表 第2文化層ブロック外石器属性 ……253
第14表 9L・8F・10Mブロック石器属性 ……110	第28表 Bブロック石器属性 ……255
第15表 8Mブロック石器属性 ……120	第29表 遺構出土石器 ……270
第16表 8Lブロック石器属性 ……121	第30表 遺構外出土石器 ……270
第17表 第1・2文化層における母岩別分類 ……122	第31表 遺構外出土礫 ……270
第18表 遺構出土石器 ……146	

図版目次

図版1 遺跡付近の空中写真 (中伊沢遺跡)	(ヤジ山遺跡)
図版2 調査状況 (百目木遺跡)	図版15 調査前風景
図版3 調査状況・検出遺構(1)	図版16 縄文時代包含層・竪穴住居跡(033)
図版4 検出遺構(2) (下椎木遺跡)	図版17 炉穴(1)
図版5 検出遺構(1)	図版18 炉穴(2)
図版6 検出遺構(2)	図版19 炉穴(3)
図版7 検出遺構(3)	図版20 炉穴(4)
図版8 検出遺構(4)	図版21 炉穴(5)
図版9 検出遺構(5)	図版22 炉穴(6)・陥穴(1)
図版10 検出遺構(6)	図版23 陥穴(2)
図版11 検出遺構(7)・ 旧石器時代遺物集中地点	図版24 陥穴(3)・土坑(1)
(志保知遺跡)	図版25 土坑(2)
図版12 検出遺構(1)	図版26 土坑(3)・溝状遺構
図版13 検出遺構(2)	図版27 下層基本層序・ 旧石器時代遺物集中地点(1)
図版14 旧石器時代遺物集中地点	図版28 旧石器時代遺物集中地点(2)
	図版29 旧石器時代遺物集中地点(3)
	(細山(1)遺跡)
	図版30 旧石器時代遺物出土状況

(細山(2)遺跡)

図版31 炉穴(1)

図版32 炉穴(2)

図版33 旧石器時代遺物集中地点(1)

図版34 旧石器時代遺物集中地点(2)

(中伊沢遺跡)

図版35 縄文土器・弥生土器

(百目木遺跡)

図版36 縄文土器・縄文時代石器

(下椎木遺跡)

図版37 縄文土器・

旧石器時代石器(1)

図版38 旧石器時代石器(2)

(志保知遺跡)

図版39 縄文土器・

旧石器時代石器

(ヤジ山遺跡)

図版40 旧石器時代石器(1)

図版41 旧石器時代石器(2)

図版42 旧石器時代石器(3)

図版43 旧石器時代石器(4)

図版44 旧石器時代石器(5)

図版45 旧石器時代石器(6)

図版46 旧石器時代石器(7)

図版47 旧石器時代石器(8)

図版48 遺構内出土遺物(1)

図版49 遺構内出土遺物(2)

図版50 遺構内出土遺物(3)

図版51 縄文土器(1)

図版52 縄文土器(2)

図版53 縄文土器(3)

図版54 縄文土器(4)

図版55 縄文土器(5)

図版56 縄文土器(6)

図版57 縄文土器(7)

図版58 縄文土器(8)

図版59 縄文土器(9)

図版60 縄文土器(10)

図版61 縄文土器(11)

図版62 縄文土器(12)

図版63 縄文土器(13)・

縄文時代石器(1)

図版64 縄文時代石器(2)

図版65 縄文時代石器(3)

図版66 縄文時代石器(4)

図版67 縄文時代石器(5)

図版68 縄文時代石器(6)

図版69 縄文時代石器(7)

図版70 縄文時代石器(8)

図版71 縄文時代石器(9)

図版72 縄文時代石器(10)

(細山(1)(2)遺跡)

図版73 旧石器時代石器(1)

図版74 旧石器時代石器(2)

図版75 旧石器時代石器(3)

図版76 旧石器時代石器(4)

図版77 旧石器時代石器(5)

図版78 旧石器時代石器(6)

図版79 縄文土器・縄文時代石器

図版80 遺構出土縄文土器

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査に至る経緯

日本道路公団では、千葉県の実現・進行に寄与することを目的として、千葉市から富津市に至る高速自動車道である東関東自動車道館山線を計画した。この路線のうち、千葉市から市原市、袖ヶ浦市を経て木更津市に至る約35kmの区間が事業化され、千葉・富津線として建設が行われることとなった。

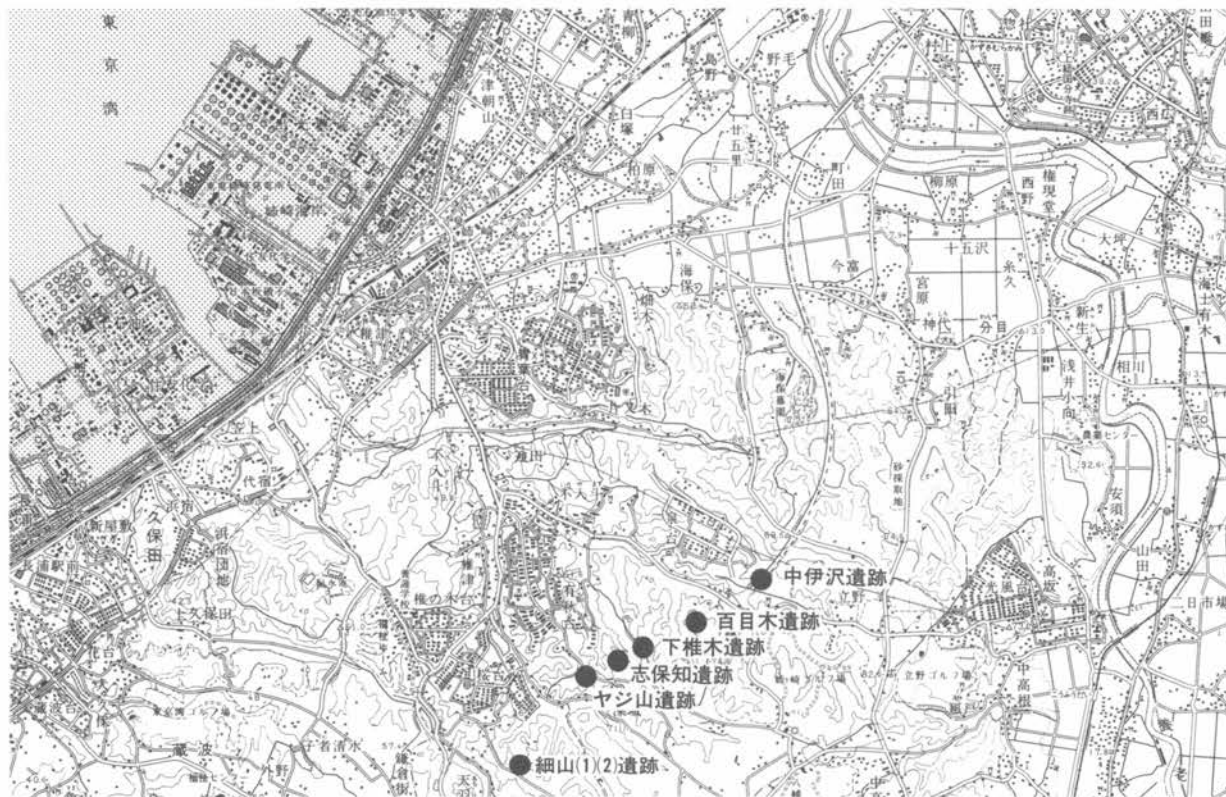
用地内には数多くの遺跡が所在することから、その取扱いについて、千葉県教育委員会との慎重な協議が重ねられた。その結果、現状保存が困難な部分については、やむを得ず発掘調査による記録保存の措置を講ずることで協議が整い、財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

調査は、平成元年1月から開始され、平成6年6月に全ての発掘が終了した。平成5年度から各遺跡ごとの本格的な整理作業が開始され、順次報告書を刊行し、現在に至っている。

2 調査経過

今回報告する中伊沢、百目木、下椎木、志保知、ヤジ山、細山(1)、細山(2)の各遺跡はいずれも市原市内に所在し、平成元年度から平成3年度にかけて調査が行われた。本格的な整理作業は平成9年度から実施されている。各年度の組織、担当者、内容は以下のとおりである。

(1) 発掘調査



第1図 遺跡の位置と周辺地形 ※トーン部は埋立前の海岸線

平成元年度

ヤジ山遺跡：平成2年1月1日～3月17日

内 容：（上層）確認調査 9,500㎡のうち883㎡，本調査 3,400㎡のうち1,700㎡

担当者：研究員 村木正記，主任技師 永沼律朗，技師 福田 誠

平成2年度

中伊沢遺跡：平成2年4月2日～5月16日

内 容：（上層）確認調査 6,000㎡のうち600㎡，本調査 なし

（下層）確認調査 6,000㎡のうち240㎡，本調査 なし

担当者：主任技師 加藤修司

下椎木遺跡：平成3年1月7日～2月28日

内 容：（上層）確認調査 3,800㎡のうち380㎡，本調査 1,000㎡

（下層）確認調査 3,800㎡のうち152㎡，本調査 200㎡

担当者：主任技師 加藤修司

志保知遺跡：平成2年11月26日～平成3年1月31日

内 容：（上層）確認調査 7,000㎡のうち700㎡，本調査 2,875㎡

（下層）確認調査 7,000㎡のうち408㎡，本調査 100㎡

担当者：技師 沖松信隆

ヤジ山遺跡：平成2年4月1日～8月21日

内 容：（上層）確認調査 1,770㎡のうち177㎡，本調査 3,470㎡（平成元年度未了分を含む）

（下層）確認調査 11,270㎡のうち504㎡，本調査 1,350㎡

担当者：研究員 村木正記，技師 高梨俊夫

細山(1)遺跡：平成2年11月1日～平成3年1月31日

内 容：（上層）確認調査 3,800㎡のうち380㎡，本調査 なし

（下層）確認調査 3,800㎡のうち184㎡，本調査 100㎡

担当者：技師 沖松信隆・糸原 清

細山(2)遺跡：平成2年11月1日～平成3年3月28日

内 容：（上層）確認調査 8,000㎡のうち800㎡，本調査 700㎡

（下層）確認調査 8,000㎡のうち320㎡，本調査 960㎡

担当者：主任技師 加藤修司，技師 糸原 清

平成3年度

百目木遺跡：平成3年4月1日～7月15日

内 容：（上層）確認調査 12,700㎡のうち1,222㎡，本調査 1,140㎡

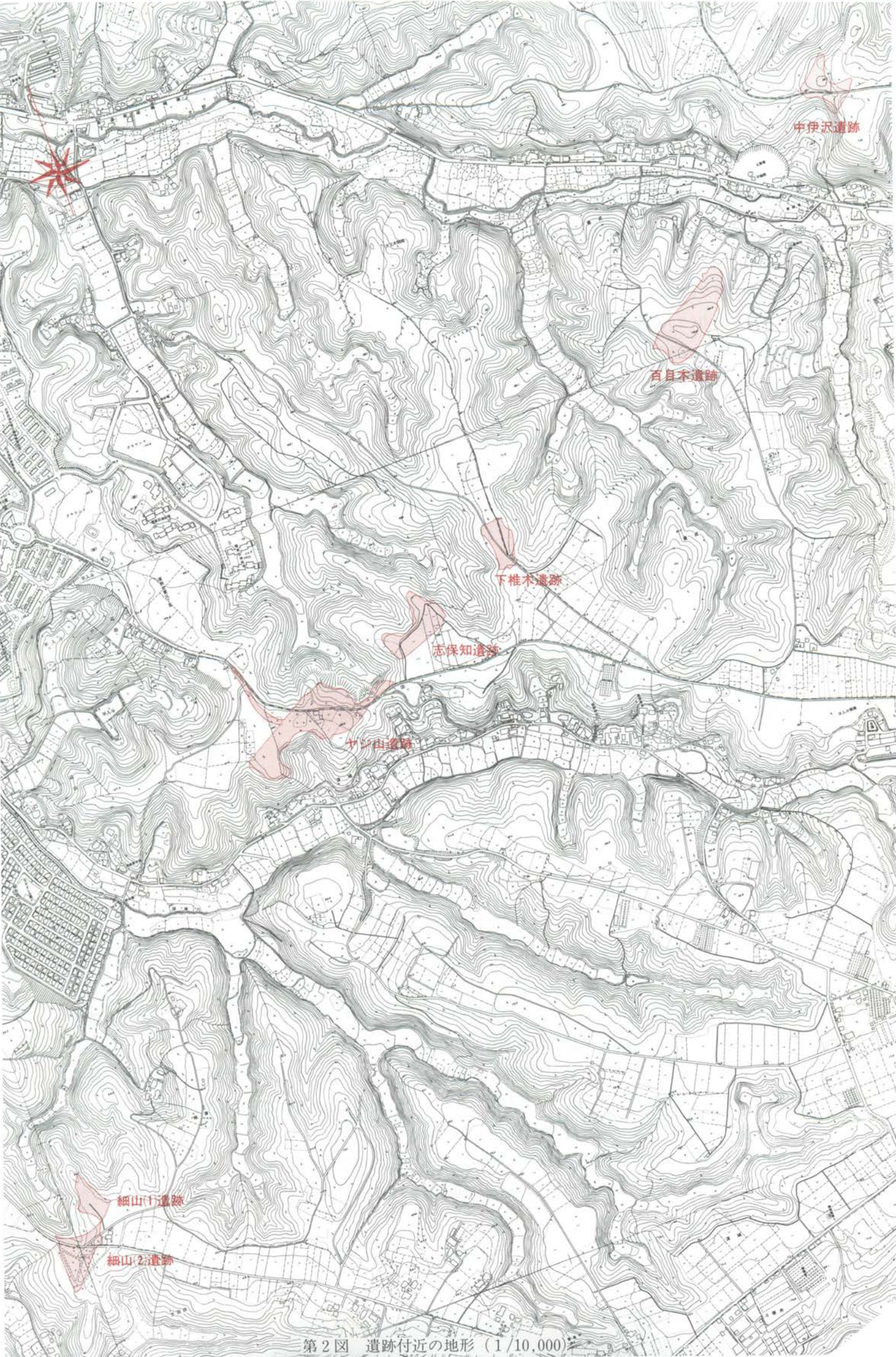
（下層）確認調査 12,700㎡のうち520㎡，本調査 なし

担当者：班長代理 加藤修司，研究員 村木正記

ヤジ山遺跡：平成3年9月17日～12月25日

内 容：（上層）確認調査 6,430㎡のうち480㎡，本調査 520㎡

（下層）確認調査 6,430㎡のうち220㎡，本調査 530㎡



中伊沢遺跡

百目木遺跡

下椎木遺跡

志保知遺跡

マツ山遺跡

細山1遺跡

細山2遺跡

第2図 遺跡付近の地形 (1/10,000)

担当者：班長代理 加藤修司，主任技師 田島 新，技師 大石理子

(2) 整理作業

平成9年度

内 容：ヤジ山遺跡 図面整理から実測まで

担当者：ヤジ山遺跡 副所長 川島利道

平成10年度

内 容：ヤジ山遺跡 挿図・図面から原稿執筆・編集まで

細山(2)遺跡 記録整理から原稿執筆・編集まで

担当者：ヤジ山遺跡 主任技師 加納 実

細山(2)遺跡 技師 吉野健一・高梨友子

平成11年度

内 容：ヤジ山・細山(2)遺跡 報告書刊行

中伊沢・百目木・下椎木・志保知・細山(1)遺跡 記録整理から報告書刊行まで

担当者：主任技師 豊田秀治・小笠原永隆，技師 吉野健一

3 調査方法

各遺跡の発掘区は、対象となる区域を包含するように、国土地理院の国土座標を基準とした設定を行った。この発掘区は、基本的に20m×20mの方眼を大グリッドとして設定し、北から1, 2, 3, …, 西からA, B, C, …, とした。さらにその大グリッドを2m×2mの小グリッドに100分割し、北から00~90, 西から00~09とした。従って、各小グリッドは2C-56, 2F-14のように呼称されている。

調査に際しては、調査対象範囲の面積に対し、上層10%, 下層4%の割合でトレンチを設定し、確認調査を行い、この結果を考慮して本調査範囲を決定した。なお、上層本調査では、表土を重機で除去し、ジョレンによる遺構及び遺物包含層の検出後、精査を行った。下層本調査では、原則としてジョレンで掘り下げ、遺物を検出した。

遺構名は、遺跡ごとに通し番号が付された。原則として、現地調査から報告に至るまで、遺構番号の変更は行っていない。

第2節 遺跡の位置と環境

1 遺跡周辺の地形と環境 (第1・2図, 図版1)

今回報告する7遺跡は、下総台地の南端部、通称姉崎台地に立地している。姉崎台地は、北東側を養老川、南西側を小櫃川によって形成された氾濫平野に挟まれ、市原市から袖ヶ浦市にまたがっている。また、北西側は、東京湾に面した海食崖によって台地は切られ、その下には海岸平野が広がり、砂堆による微高地が多く見られる。南東側には上総層群を基盤とした急峻な山々が広がっている。

現在沿岸部は埋め立てられ、京葉工業地域が形成されているが、かつては、広大な干潟が広がり、豊かな海産物資源は、沿岸漁業を活発なものにしていた。また、養老川沿いの氾濫平野及び海岸平野には、大規模な水田が営まれ、千葉県内有数の穀倉地帯であった。

台地内部は、東京湾に注ぎ込む幾つもの小河川によって、谷が樹枝状に刻まれている。今回報告する遺跡が立地する市原市側は、椎津川及びこの支流を初めとした河川により、特に複雑に開析されている。従

って、台地上の平坦面は、尾根上にそってわずかに形成されているのみであり、広がりを見せる部分は少ない。こうした地形的特徴が、本地域の遺跡の性格を決定づけるものとなっている。

2 周辺の遺跡（第3図）

姉崎台地周辺の遺跡は、その縁辺部から、海岸平野部分にある砂堆上の微高地にかけて遺跡が集中する傾向がある。対して、台地中央部から奥部では、先に述べたような地形的特徴から、分布は散発的である。

前者には、数多くの古墳が集中的に分布している。特に、前方後方墳である六孫王原古墳（37）、前方後円墳である姉崎天神山古墳（41）、鶴窪古墳（43）及び二子塚古墳（49）などが著名である。これらは、周辺の古墳群を含め、姉崎古墳群と総称され、古くから注目を浴びてきたものである。後者では、縄文時代草創期の南原遺跡（11）や縄文時代後期の上高根貝塚などで学術調査が行われているものの、調査例は少なく、その実態に関しては不明な点が多かった。しかし、近年は東関東自動車道建設に伴う調査を初めとして、開発に伴う調査が断続的に行われ、各時代の集落が検出されるなど、徐々に遺跡のあり方が明らかとなっている。

今回報告する7遺跡は、いずれも市原市内にあり、旧石器時代から縄文時代の遺構・遺物を中心とするものである。従って、ここでは姉崎台地における、市原市内の該期遺跡を概観することにする。

旧石器時代の遺跡としては、現在のところ、東関東自動車道関連遺跡を除いては、目立った検出例は見られない。海保野口遺跡¹⁾（7）では、Ⅸ層からⅢ層にかけて幾つかの文化層が認められるが、Ⅵ層段階の石器群が比較的まとまっている。また、本報告で取り扱うヤジ山遺跡（2）及び細山遺跡（1）においては、第二黒色帯（Ⅸ層）中から、良好な組成の石器群が検出されている²⁾。

縄文時代の遺跡は、先にも触れたように、南原遺跡³⁾（11）から草創期の爪形文土器を伴う石器群が検出されている。早期になると遺跡数は増加する。東関東自動車道建設に伴う調査では、大作頭遺跡⁴⁾（8）、海保野口遺跡（7）、ヤジ山遺跡（2）を初めとして、ほとんどの遺跡から、子母口式期から野島式期にかけての炉穴群が検出され、大量の礫を伴うことが明らかとなっている。また、片又木遺跡（27）及び立野遺跡群（14～17）からも、包含層及び炉穴群が検出されている。前期は、わずかに海保野口遺跡などから、少量の遺物が確認されている程度である。中期にはいると、遺構形成が再び見られ、小規模ながら貝塚が比較的多く分布する。報告例があるのは、海保野口遺跡の遺構内貝層のみであるが、深城貝塚（22）、諸久蔵貝塚（25）等でも中期の貝層が確認されている。後期～晩期にかけては、再び遺跡は減少し、遺構の検出例もほとんどない。養老川を挟んで北西側にある、上総国分寺周辺では大規模な遺跡形成が行われるのと対照的である。わずかに、海保野口遺跡や今回報告するヤジ山遺跡などから、少量の遺物が検出されている程度である。

注1 森本和男・新田浩三・川島利道 1998 「東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書1 - 市原市海保野口遺跡 -」（財）千葉県文化財センター

2 村木正記 1991 「市原市ヤジ山遺跡第2黒色帯中の石器群」研究連絡誌第31号 （財）千葉県文化財センター

3 田村 隆 1980 「市原市南原遺跡第2次調査抄報」伊知波良4

4 加納 実 1999 「東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書3 - 市原市大作頭遺跡 -」（財）千葉県文化財センター



- 1 細山遺跡
- 2 ヤジ山遺跡
- 3 志保知遺跡
- 4 下椎木遺跡
- 5 百目木遺跡
- 6 中伊沢遺跡
- 7 海保野口遺跡
- 8 大作頭遺跡
- 9 今富新山遺跡
- 10 今富遺跡
- 11 南原遺跡
- 12 堀込貝塚
- 13 大街道遺跡
- 14 山見塚遺跡
- 15 外迎山遺跡
- 16 唐沢遺跡
- 17 大道遺跡
- 18 豊成沖ノ台遺跡
- 19 一本松遺跡
- 20 小林遺跡
- 21 上椎木遺跡
- 22 深城貝塚
- 23 不入斗元居原遺跡
- 24 曾別当上遺跡
- 25 諸久蔵貝塚
- 26 尾沢遺跡
- 27 不入斗片又木遺跡
- 28 爾宜台遺跡
- 29 本山遺跡
- 30 今富峯ノ下遺跡
- 31 八幡台遺跡
- 32 公家ノ谷古墳群
- 33 海保吉谷前古墳群
- 34 海保古墳群
- 35 小谷作古墳群
- 36 竹谷古墳群
- 37 六孫王原古墳
- 38 堰頭古墳
- 39 原古墳群
- 40 要害山城跡
- 41 姉崎天神山古墳
- 42 鬼子母神貝塚
- 43 鶴窪古墳
- 44 釈迦山古墳
- 45 山王山古墳
- 46 島原遺跡
- 47 椎津台貝塚
- 48 山新貝塚
- 49 二子塚古墳
- 50 姉崎妙経寺古墳
- 51 椎木茶ノ木遺跡

第3図 本書に収録した遺跡と周辺の主な遺跡 (1/25,000)

第2章 中伊沢遺跡

第1節 概要（第4図，図版2）

中伊沢遺跡は，市原市海保字中伊沢1290-1ほかに所在する。付近は，樹枝状に開析された台地と，これをつなぐ痩せ尾根が連続している。今回調査対象となった範囲は，中央部に東西両側から谷が入り込み，南北の台地をつなぐやせ尾根上及びその隣接部分である。標高は，約68m～70mである。

上層確認調査の結果，遺構は検出されず，縄文時代前期，弥生時代初頭，平安時代及び近世の遺物が少量出土したのみであった。なお，調査区北側には，大きく攪乱されている部分が確認された。下層確認調査でも遺物の出土は認められなかった。従って，上層，下層とも確認調査で終了とし，本調査は行わないこととした。

また，当センター調査区を東西に通る抜ける，市道148号線については，道路拡幅工事に伴い，平成5年度に（財）市原市文化財センターが，確認調査を行っている。その結果によると，東側へ約400mのやせ尾根上からは，縄文時代早期の遺物包含層及び炉穴が，西側に隣接する地点からは平安時代と推定される竪穴住居跡が検出された。また，東側に隣接する地点の下層（V層）から，剥片が出土している⁽¹⁾。

第2節 出土遺物

1 縄文時代（第5図，図版35）

縄文時代の遺物は，土器，石器及び礫が出土した。土器の時期から，いずれも前期の所産であると考えられる。先に述べたように，いずれも遺構に伴ったり，集中して出土したものではない。

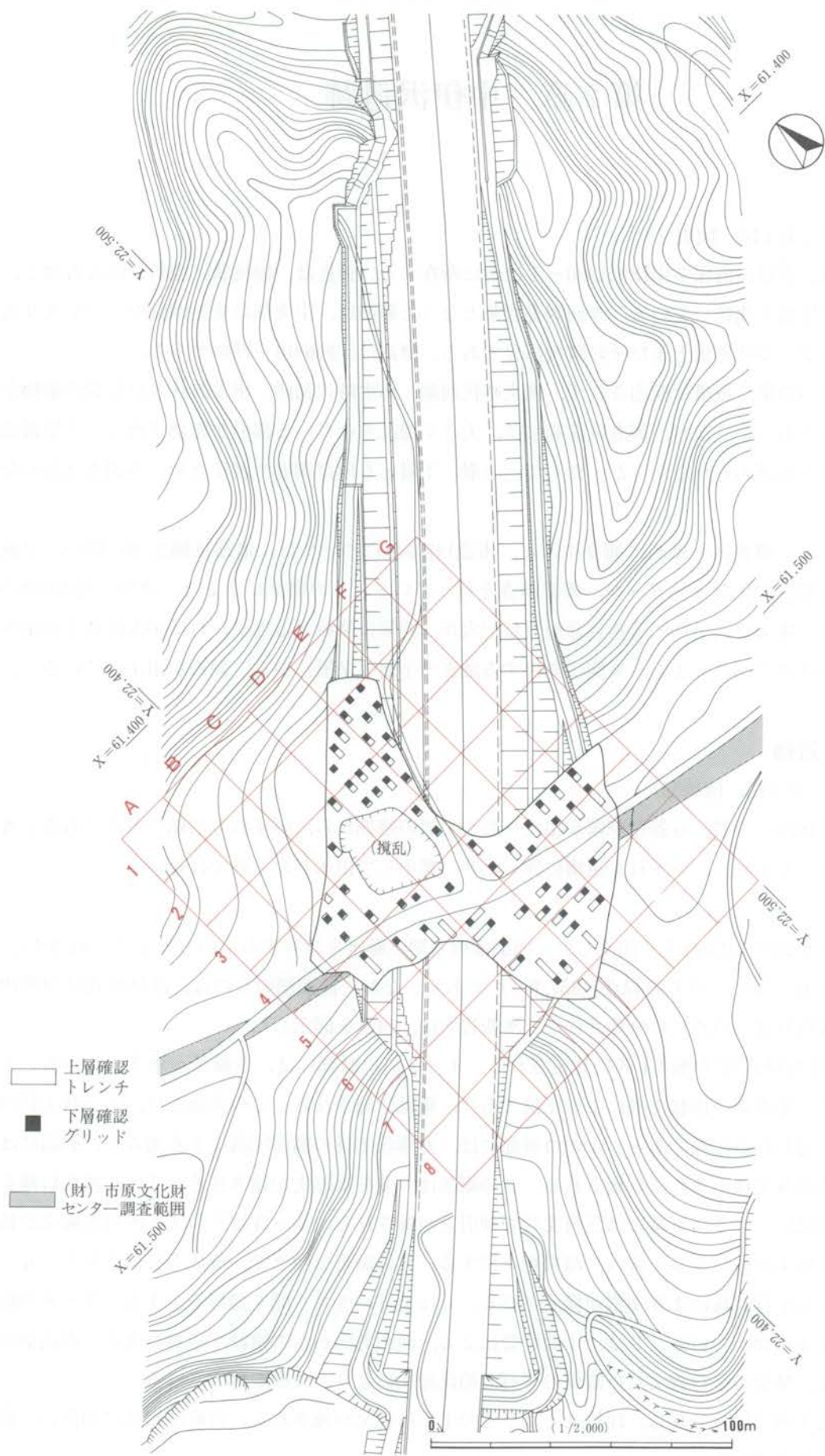
（1）土器

前期の土器片が46点（952.6g）出土した。内訳は前半期（繊維を含有する）のもの4点（95.4g），後半期（繊維を含有しない）のもの42点（857.0g）である。なお，後半期のものは，浮島Ⅲ式及び興津Ⅰ式（31点）と諸磯b式（11点）に分類された。本報告では，14点を図示した。

1～9，11は浮島Ⅲ式及び興津Ⅰ式に比定される。1・2の口縁部には，条線帯が施されている。1の条線帯は，三本一組の細い棒状工具による圧痕であり，粗雑に施される。2の条線帯は，へら状工具の角部を利用したと思われる沈線である。1の口唇部には，丸棒状工具の側面圧痕による刻みが，胴部には，平行沈線による波状文様がそれぞれ施される。2の胴部は，変形爪形文が施される。3は，波状口縁を呈する。口縁部は肥厚し，その下端には三角文状の押引文が施される。4・5は三角文と平行沈線文が施されている。4は胎土に砂粒を多く含み，暗褐色を呈する。5は緻密な胎土で，焼成も良好である。6～8は，変形爪形文と平行沈線により文様が構成される。6は上方へ大きく開く器形を呈する。7・8の胎土は，砂粒をやや多く含んでいる。9は，半截竹管による，斜め方向からの連続する刺突文が，器面全面に施される。11は，横位の平行線文及び縦位の平行有節沈線文により，文様が構成される。

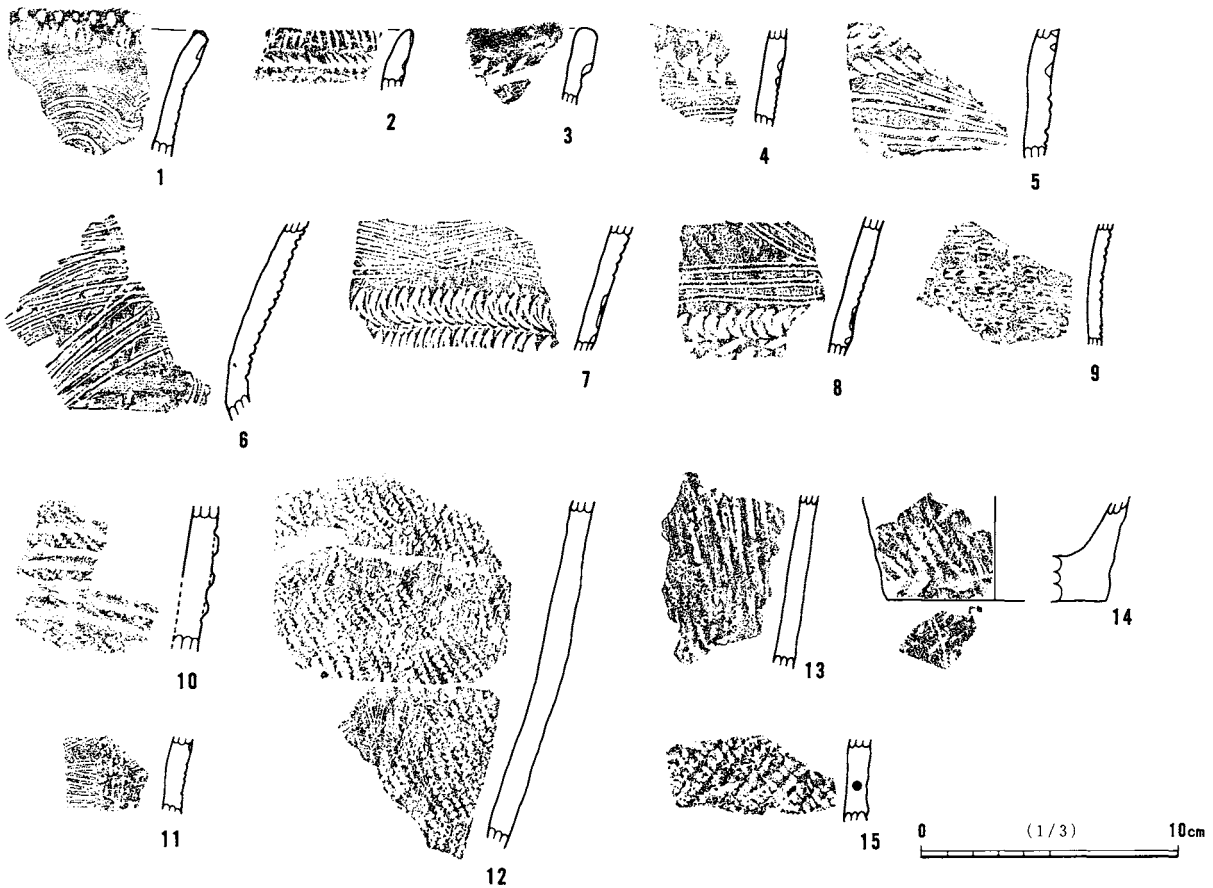
10は諸磯b式土器に比定される。浮線文上及びその上下に縄文が施される。内面は板状に剥落し，胎土には砂粒を多く含んでいる。

12～15は，縄文及び条痕のみの資料である。12は，外面に単節縄文RLが施される。胎土は砂粒を少量



第4図 調査区及びグリッド設定

含み、色調は明褐色を呈する。諸磯式併行と考えられる。13・14は同一個体である。外面には斜位の条痕が施される。内面には、ミガキによる丁寧な調整が施される。焼成は良好で、暗褐色を呈する。14の底面には、木葉痕が観察される。15は、外面に単節縄文LRが施文される。丁寧な内面調整が施されている。色調は黒褐色を呈し、胎土は繊維を含む。13～15は前期前半の資料と考えられる。



第5図 縄文土器

(2) 石器

安山岩製磨石片1点(234.4g)が出土した。残存面は、よく研磨されており、平滑である。

(3) 礫

礫は31点(1867.5g)出土した。いわゆる礫群のように、一か所に集中する出土状況を示すものではなかった。状態別内訳は、次の通りである。完形・赤化4点(323.4g)、完形・非赤化11点(675.2g)、破損・赤化4点(98.3g)、破損・非赤化12点(770.6g)となる。石材は、1点のメノウを除き、チャート及び砂岩である。

2 弥生時代(第6図, 図版35)

弥生時代の遺物は、初頭期に比定される土器片(110点, 861.0g)が検出された。しかし、その全てが小破片であり、器形を復元できる資料は見られなかった。本報告では、60点を図示した。

1・2は壺の頸部付近の破片である。1は横位の沈線、山形の沈線により文様が構成される。2も山形の平行沈線が施される。

3・4は甕の口縁部から頸部の破片である。3は、頸部破片で、条痕を地文とし、沈線を施した後に刺

突文を配している。4は、撚糸文を地文とし、沈線による文様が施されている。口唇部には刻み目が施される。5・6は小型の壺の胴部破片である。いずれも沈線により文様が構成される。

7～11は、深鉢の口縁部破片である。7は、口縁が内傾する例で、外面には横位の沈線により文様が施され、口唇部には刻みが見られる。8～10は器面に条痕が施される例である。横位もしくは斜位の条痕が施される。11は、無文の破片である。口唇部断面は尖り気味で、外面から指頭圧痕が配される。

12～57は胴部破片である。深鉢もしくは甕のものと考えられる。15・16のように条痕が明瞭なもの、41・42のように不明瞭なものがあり、個体内での部位によって違いが見られるものと考えられる。斜位に施されるものがほとんどで、右下がりの方向のものが多いが、7～10といった口縁部破片では、横位に施されることから、口縁部付近では横位に近く、底部に近づくと縦位に近づいてくるものと考えられる。12, 15～21は、条の幅が比較的広く、明瞭な例である。胎土は緻密で、焼成は良好である。色調は18, 21・22が明灰褐色である他は暗褐色である。20は厚手の資料で、外反しており、頸部を形成する個体である可能性がある。21の外面には炭化物の付着が見られる。22～26は、条痕が不明瞭で、焼成がやや悪い例である。23, 25には炭化物の付着が見られる。色調は暗褐色から赤褐色である。13・14, 31～33は、細かい条痕が施される例である。胎土は緻密だが、焼成はやや甘い。13・14は明褐色、他は暗褐色を呈する。34はやや細かい条痕が施される例である。胎土は緻密で、焼成は良好である。35～42, 44～46, 48, 50は、条痕が不明瞭な例である。40・41, 48のように外面の風化が見られるものもみられるが、焼成は良好であったと考えられる。色調は褐色から明褐色である。43, 47, 49は、器厚が薄く焼成が良好な例である。条痕は明瞭である。38, 47は暗褐色だが、他は明褐色から赤褐色である。56・57は縄文が施文される例である。胎土は緻密で、焼成は良好である。色調は外面は黒褐色、内面明灰色である。

58～60は底部破片である。58は、底面に不明瞭ながら、網代痕が確認できる。胎土に砂を多く含み、焼成は比較的良好的である。59は、底面に何も見られない例である。胎土は緻密で、焼成も良好である。60は底面が小さく、尖底に近い例である。胎土は比較的緻密だが、やや脆い。

3 平安時代

平安時代の遺物は、土師器杯底部破片1点と土師器甕胴部破片3点の計4点(83.9g)が採集された。しかし、小破片のため図示せず、ここに記載するのみとする。杯底部破片は、褐色を呈し、底面に回転糸切り痕が観察される。甕胴部破片は3個体分あり、うち1点は小型甕である。

4 近世(第7図)

陶器片4点(46.5g)、磁器片1点(15.6g)及び寛永通宝が2点採集された。陶器及び磁器は、いずれも小破片であることから、本報告では寛永通宝2点のみを図示する(第7図1・2)。2点とも「新寛永」である。1は腐食が進み、表面の磨耗が激しい。現存質量は1が2.71g、2が2.80gである。

注1 大村 直 1997 「3.中伊沢遺跡」『市原市文化財センター年報 平成5年度』 (財)市原市文化財センター



0 (1/3) 10cm



0 (1/1) 5cm

第7回 錢貨

第3章 百目木遺跡

第1節 概要（第8図，図版3）

百目木遺跡は，市原市豊成396ほかに所在する。遺跡は，北側が椎津川に面し，東西を椎津川に注ぐ支谷に挟まれた，標高約70mの台地上に展開する。今回の調査区は，台地の中央部から，小支谷よって浸食され東側に延びる尾根上の部分である。

確認調査の結果，遺構及び遺物の分布の見られた上層1,222㎡を本調査範囲とした。本調査の結果，縄文時代早期の炉穴を2群13基検出した。なお，下層については，確認調査で終了とした。

第2節 旧石器時代

下層確認調査では，8F-05グリッドから，黒曜石製剥片1点をⅣ層中から検出した。しかし，他のグリッドからは遺物が検出されず，このグリッドの周囲のみを2mずつ拡張し，遺物の広がりを確認した。その結果，遺物は検出されず，本調査は行わないこととした。

第3節 縄文時代（第9・10図，図版3・4・36）

前述したとおり，炉穴を2群13基検出した。（第9図）いずれも早期（条痕文期）に属するものである。

P 001

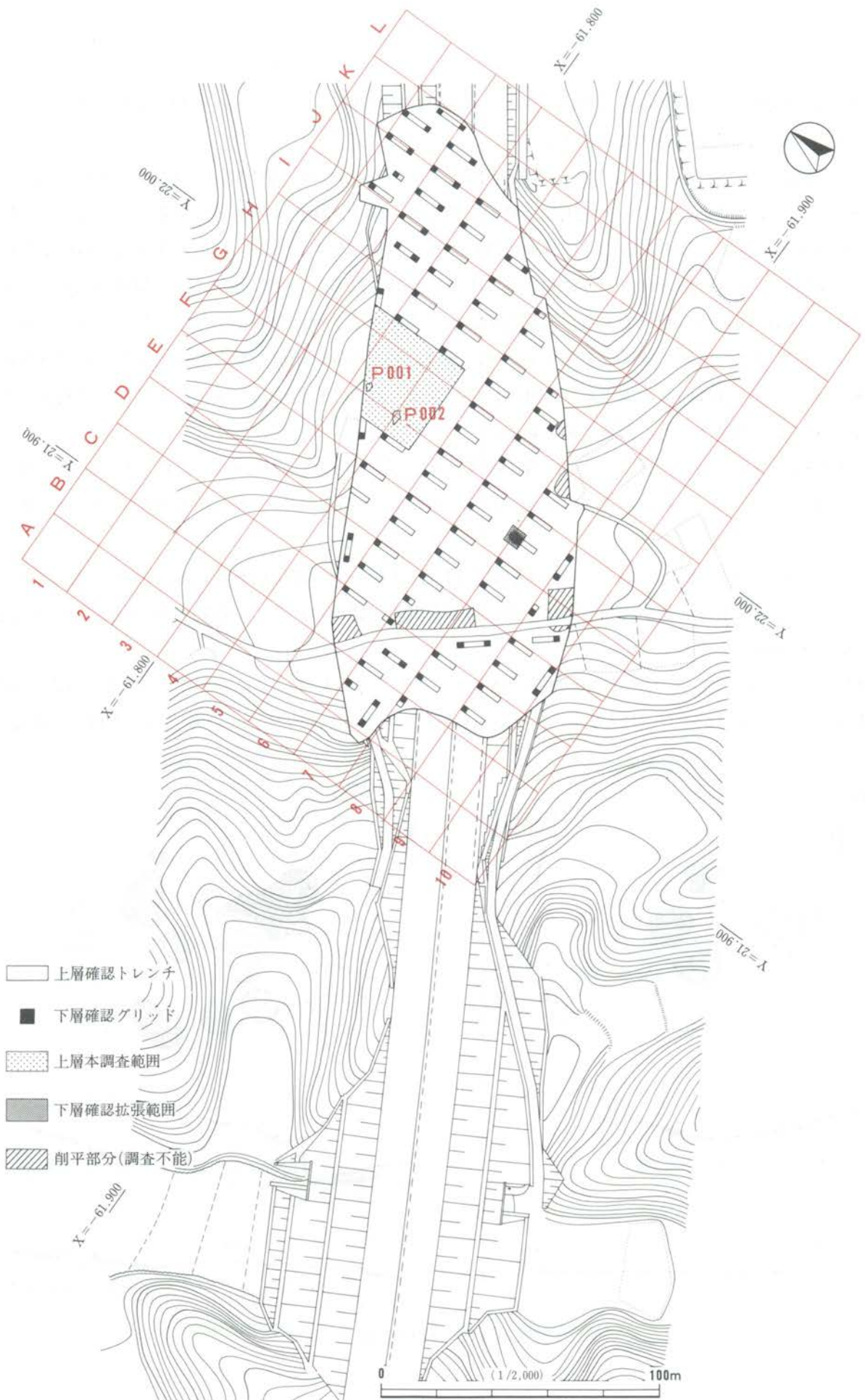
4G-21グリッド付近に位置する。燃焼部の数から，4基重複する炉穴群であると考えられ，浅い掘込みの南北2基と深い掘込みの東西2基が，それぞれ相對している。しかし，各炉穴の形態及び新旧関係は，判然としない。遺物は，土器及び礫が出土している。

土器は3個体分出土した（第10図1～3）。1aは底部を欠損するものの，完形復元をし得た深鉢である。内外面に条痕が施される。条痕の施文方向は，外面口縁部付近及び内面は横位，外面胴部は斜位及び縦位である。胎土は繊維を含むが，焼成は良好である。色調は，内外面の口縁部から胴部上下半にかけて暗褐色～黒褐色，外面胴部下半が明赤褐色，内面胴部下半が黒褐色である。1bを見ると，部分的に口唇部に刻みが施されていることがわかる。1cは底部近くの破片である。2は，やや細かな条痕が内外面に施される。図示したもののほかに，57点（755.4g）出土しているが，接合するものは少なく，復元することはできなかった。口唇部に斜位の刻みが施されている。条痕の施文方向は，外面が斜位，内面が横位である。胎土には繊維を含むが，焼成は良好である。色調は暗褐色を呈する。3は内外面に擦痕調整が施される個体である。図示したものを含め，4点（95.0g）出土した。擦痕の方向は，内外面とも縦位である。胎土には繊維を含むが，焼成は良好である。色調は，外面が明褐色～暗褐色，内面が暗褐灰色である。

礫は5点（109.7g）出土した。全て赤化し，うち4点（85.8g）が破損している。石材は，砂岩及び流紋岩である。

P 002

9か所の燃焼部が確認されるが，確認面がⅢ層（ソフトローム）上面であり，重複関係や掘込みの形態は不明である。わずかに，北側の燃焼部が低く位置することが確認できたのみであるが，何度にもわたる



第8図 調査区及びグリッド設定

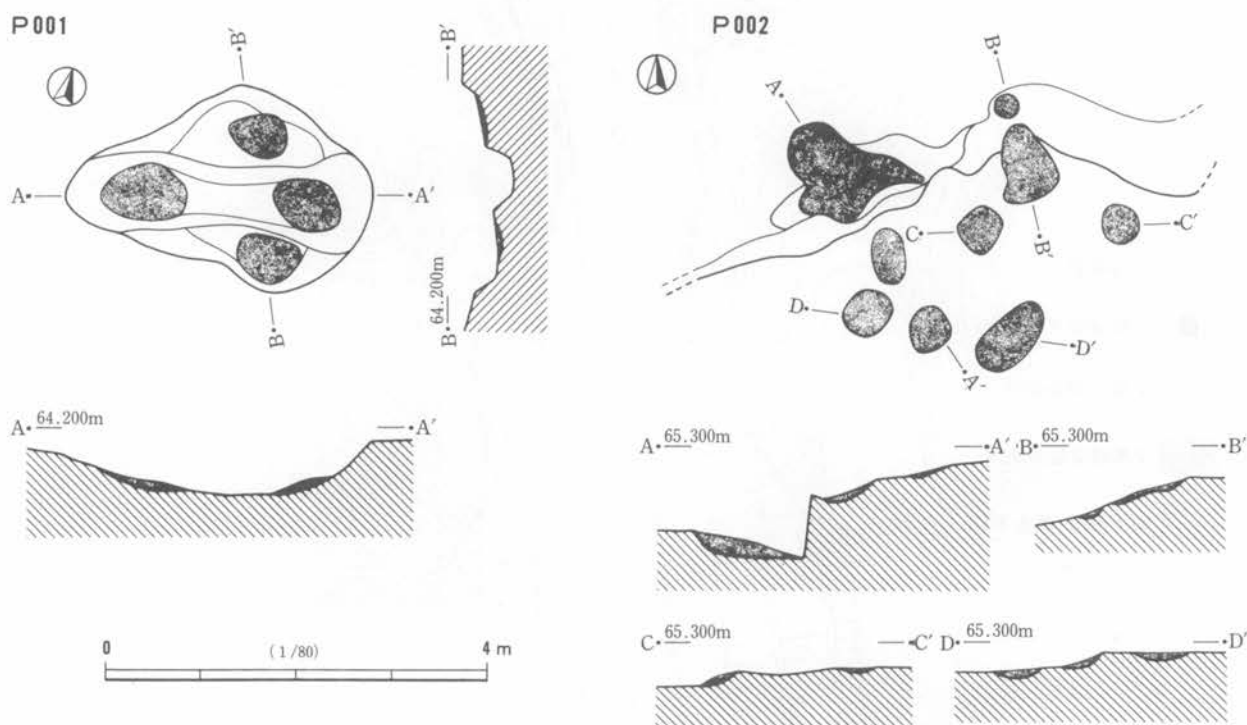
作り替えの結果と考えられる。遺物は、土器、石器及び礫が出土した。土器は全て、条痕あるいは擦痕を施すものであり、早期後半に比定できる。

土器は82点 (1,482.4g) 出土した。本報告では、10点を図示した (第10図4~13)。いずれも胎土に繊維を含むが、焼成は良好である。色調は、特記したものを除き、褐色~黒褐色である。4, 5, 7, 10, 12・13は表裏に条痕が施される。4は外面に深い条痕が斜位に施されるが、内面の条痕は、口縁部付近のみに横位ないし斜位に施される。5は口唇部にも条痕が施される。7の口唇部には、斜位の深い刻みが施される。13は底部付近の破片である。底部内面はナデ調整が施され、条痕が磨り消されている。色調は、外面が明黄灰褐色、内面が黄灰色を呈する。6, 9は、外面のみに条痕が見られる。なお、6は底部近い破片である。8, 11は同一個体であり、外面に擦痕が施される。口唇部に、丸棒状工具による斜位の沈線が施文される。内面は、ナデ調整が施される。

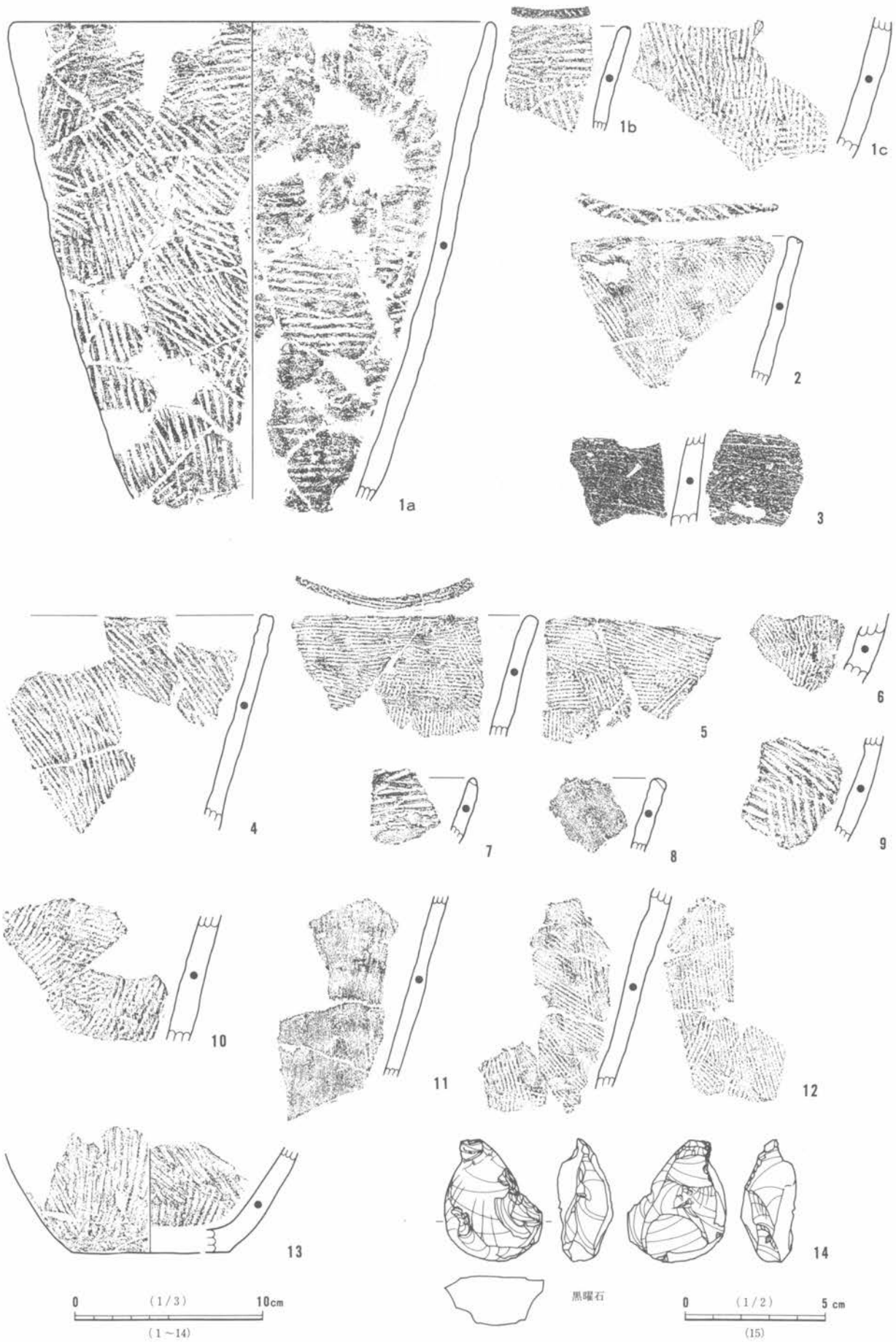
図示しなかった土器で、8, 11と同一個体と思われるものが13点 (287.8g) 認められる。他には、個体別分類はできなかったものの、条痕が施されるものが53点 (572.4g)、無文のものが6点 (48.7g) ある。

石器は1点 (26.84g) 出土した (第10図14)。14は、黒曜石製の使用痕あるいは二次加工のある剥片である。正面右側縁中央部及び背面右側縁上部に微細な剥離が認められる。不純物の多い材質のため、剥離は極めて不規則なものとなっている。

礫は9点 (256.6g) 出土した。状態別に見ると、完形で赤化していないものが5点 (117.4g)、破損で赤化しているものが4点 (139.2g) となる。石材は、前者5点がチャート、後者4点が砂岩である。



第9図 検出遺構



第10图 遺跡出土遺物

第4章 下椎木遺跡

第1節 概要 (第11・12図)

下椎木遺跡は、市原市不入斗字下椎木543ほかに所在する。遺跡は、椎津川に注ぐ支谷の奥部、標高約70mの台地上に展開する。今回の調査区は、東西に谷が入り込む台地のくびれ部分にあたり、やせ尾根状となる部分である。

確認調査の結果、遺構及び遺物の分布が認められた上層1,000㎡、下層200㎡について本調査範囲とした。本調査の結果、旧石器時代の遺物集中地点2か所、縄文時代早期の炉穴27基、陥穴2基、土坑1基を検出した。

第2節 旧石器時代 (第13～21図, 第1～4表, 図版11・37・38)

1 概要

本遺跡において、2m×2mのグリッド39か所156㎡において確認調査を行ったところ、3D-50, 4C-33グリッドの2か所で旧石器時代の遺物の広がり確認され、両地点周辺200㎡において、旧石器時代の本調査を実施し、ブロック2か所を検出した。

2 検出した遺構と遺物

今回検出した2か所のブロックは指呼の間にあるといえども、層位に違いがあり、異なる文化層によるものである。

(1) 第1文化層

3Dブロック (第13～15図, 第1表, 図版37)

本ブロックは、3C-49, 3D-40, 3C-59, 3D-50, 3C-69グリッドに位置し、南北10m, 東西7m程の範囲に、搔器2点、使用痕を有する剥片1点、楔形石器5点、石核1点、剥片11点が分布している。垂直分布は、標高68.697m～68.881mの約0.2m、V層の下よりに認められた。

石器の石材は、珪質頁岩が11点、安山岩が5点、黒曜石が4点で、珪質頁岩が過半数を占めている。このうち珪質頁岩2点(接合1)に接合関係が認められた。

1～2は、珪質頁岩の搔器である。共に縦長剥片の先端部に刃部を作り出しているが、1の刃部は腹面から背面側に調整を施し、先端がやや尖った形状を呈しているのに対して、2の刃部は背面から腹面側に調整を施し、やや内湾気味の形状を呈している。3は、珪質頁岩の使用痕を有する剥片である。やや幅広の縦長剥片の左側縁に、使用による微小剥離が認められる。4～8は、両極打法による楔形石器である。4・5が黒曜石、6～8が珪質頁岩である。9は、珪質頁岩の石核である。右側面に素材時の主要剥離面の一部が残る。10～12は、珪質頁岩の剥片である。なお、6, 10・11は、同一母岩である。

接合1は、7と12の接合状態である。両極打法によって12が剥離されている。

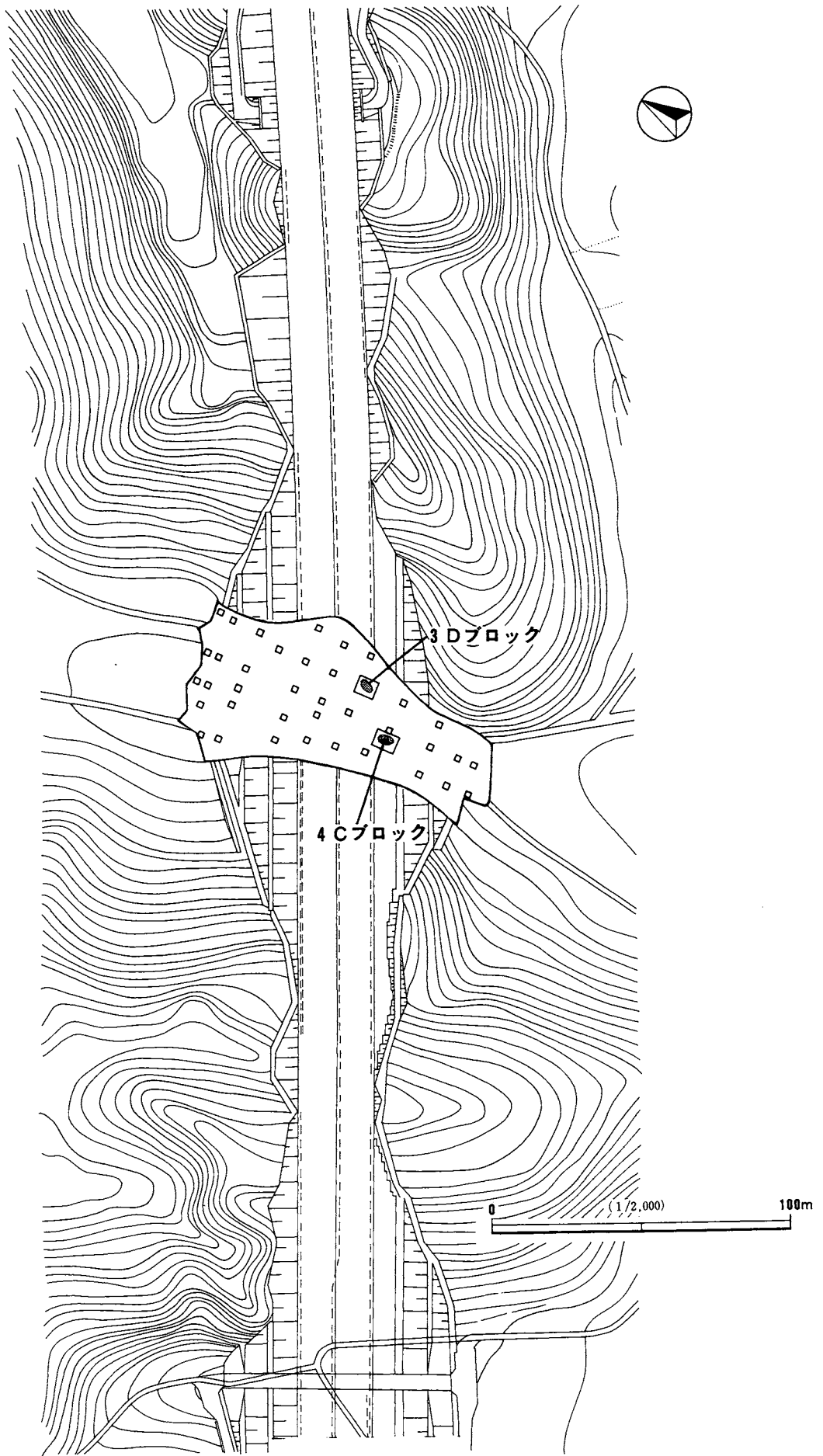
(2) 第2文化層

4Cブロック (第17～21図, 第2表, 図版38)

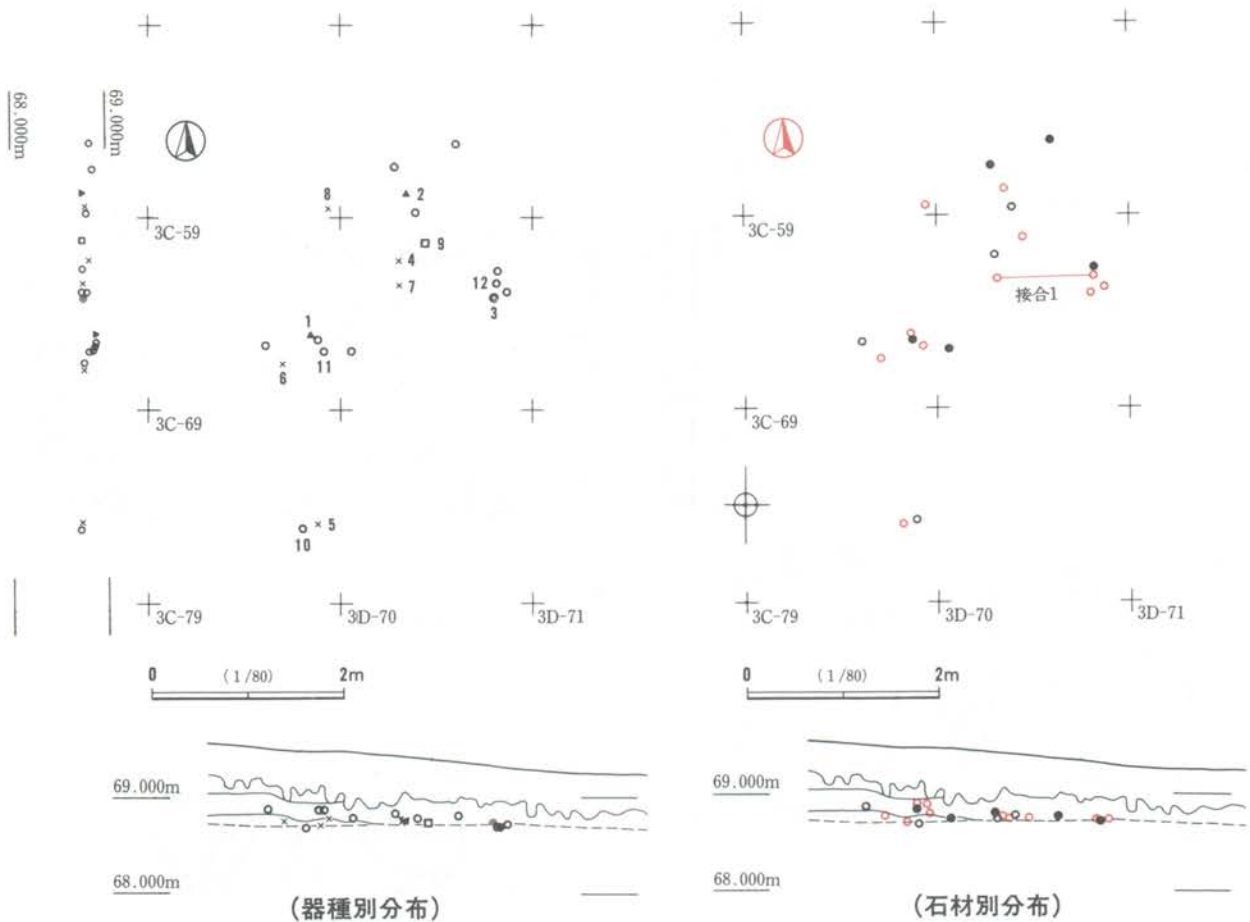
本ブロックは、4C-13・14, 4C-22～24, 4C-33・34グリッドに位置し、南北12m, 東西8mの範



第11図 グリッド設定、上層本調査区及び確認トレンチ配置



第12図 下層本調査区及び確認トレンチ配置

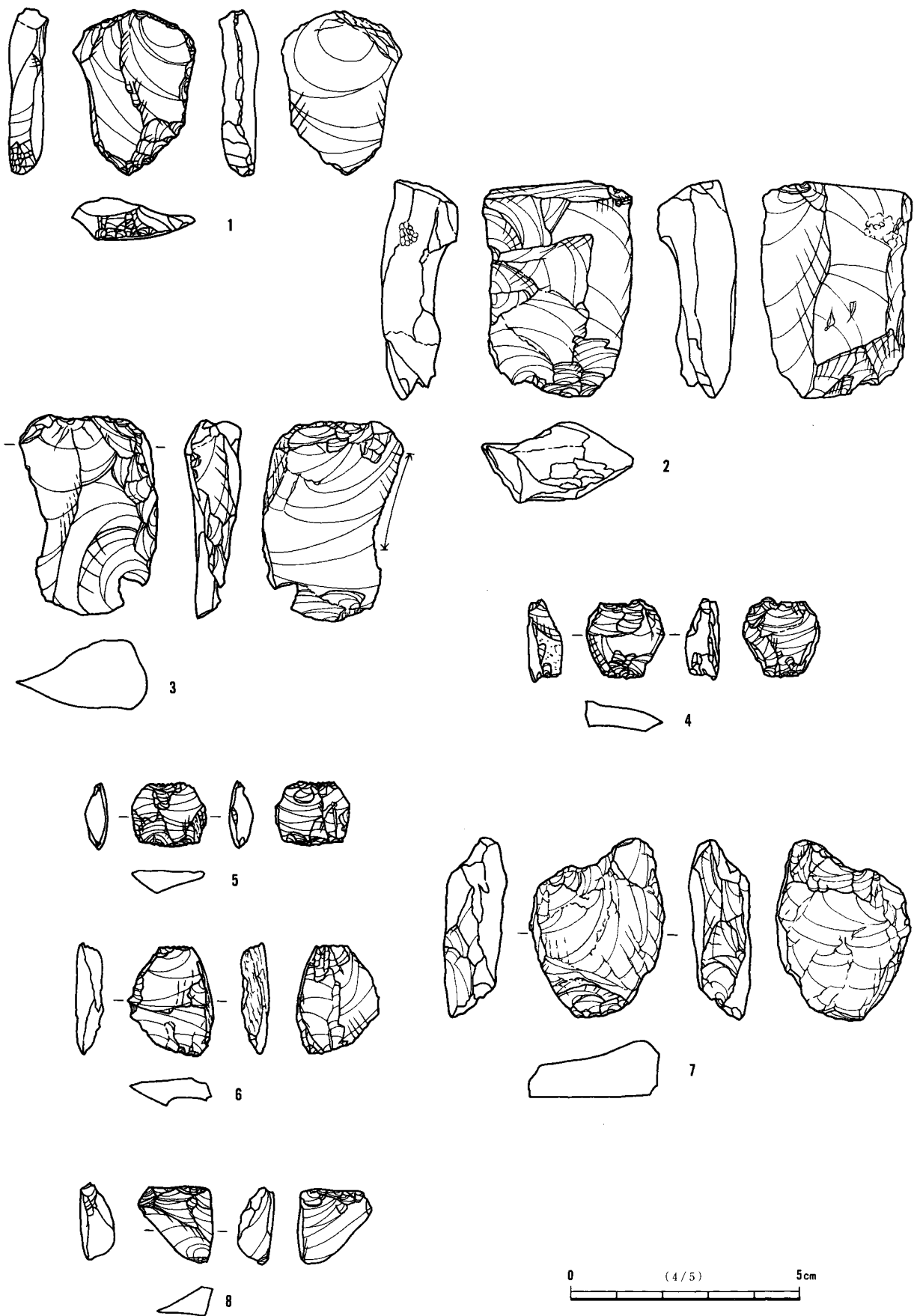


第13図 3Dブロック出土状況

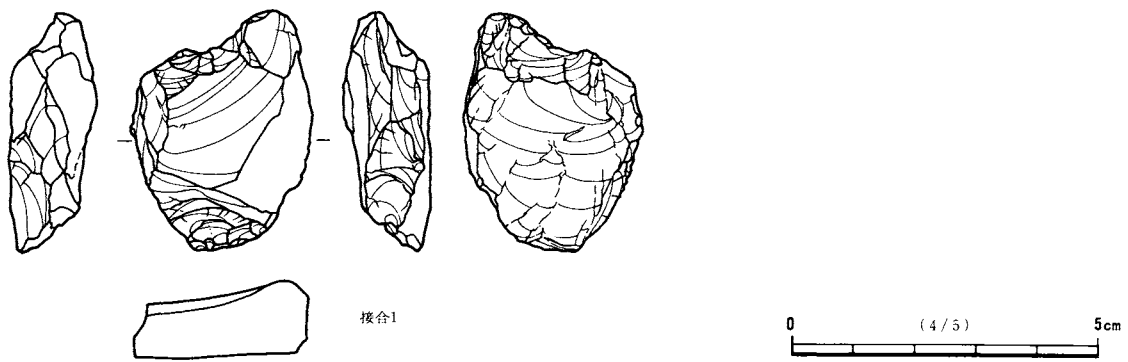
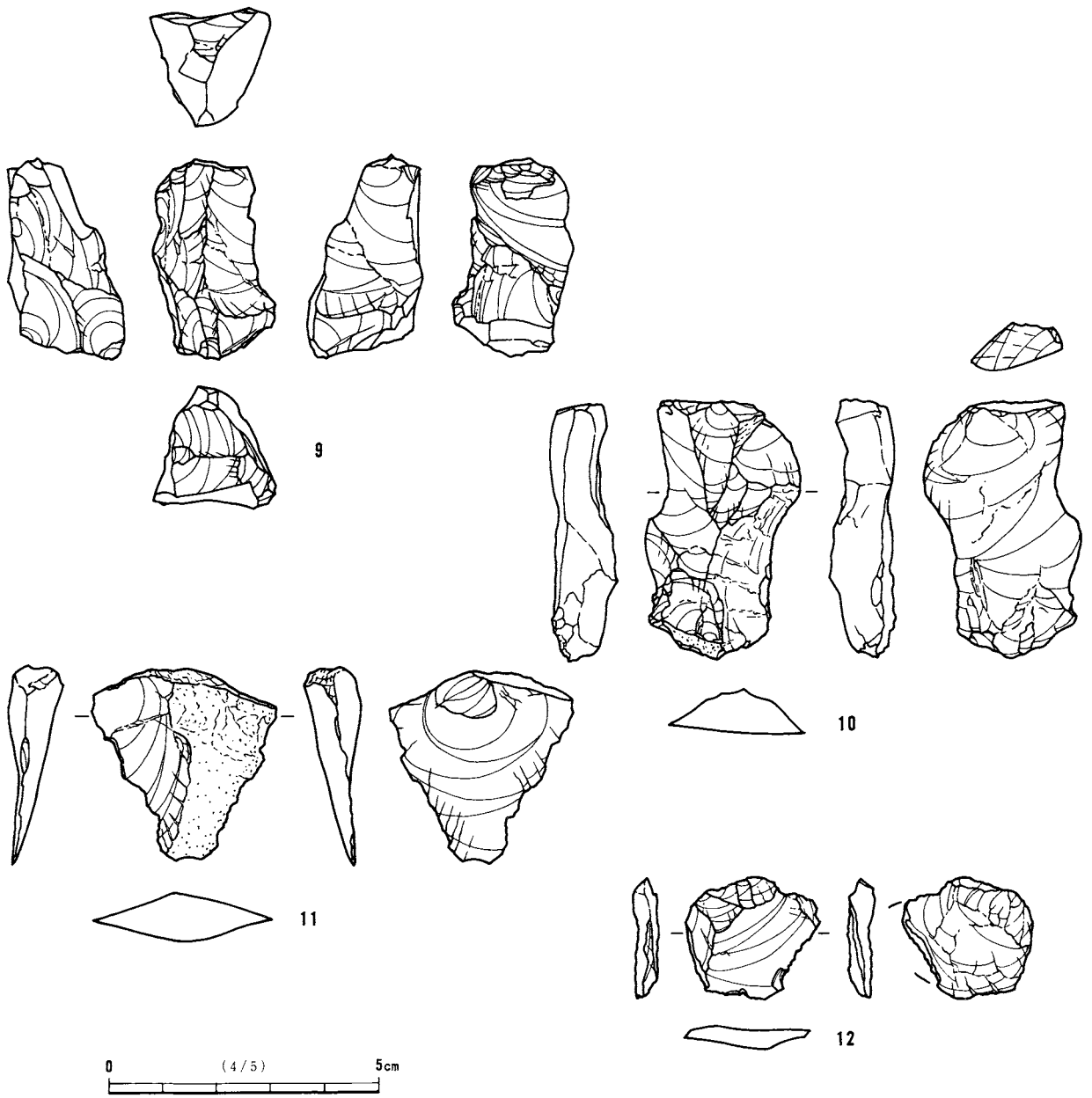
囲に、使用痕を有する剥片4点、石核5点、剥片34点が分布している。垂直分布は、標高69.178m～69.440mの約0.3m、Ⅲ層中に認められた。

石器の石材は、黒曜石とメノウが21点ずつで、1点だけ凝灰岩がある。

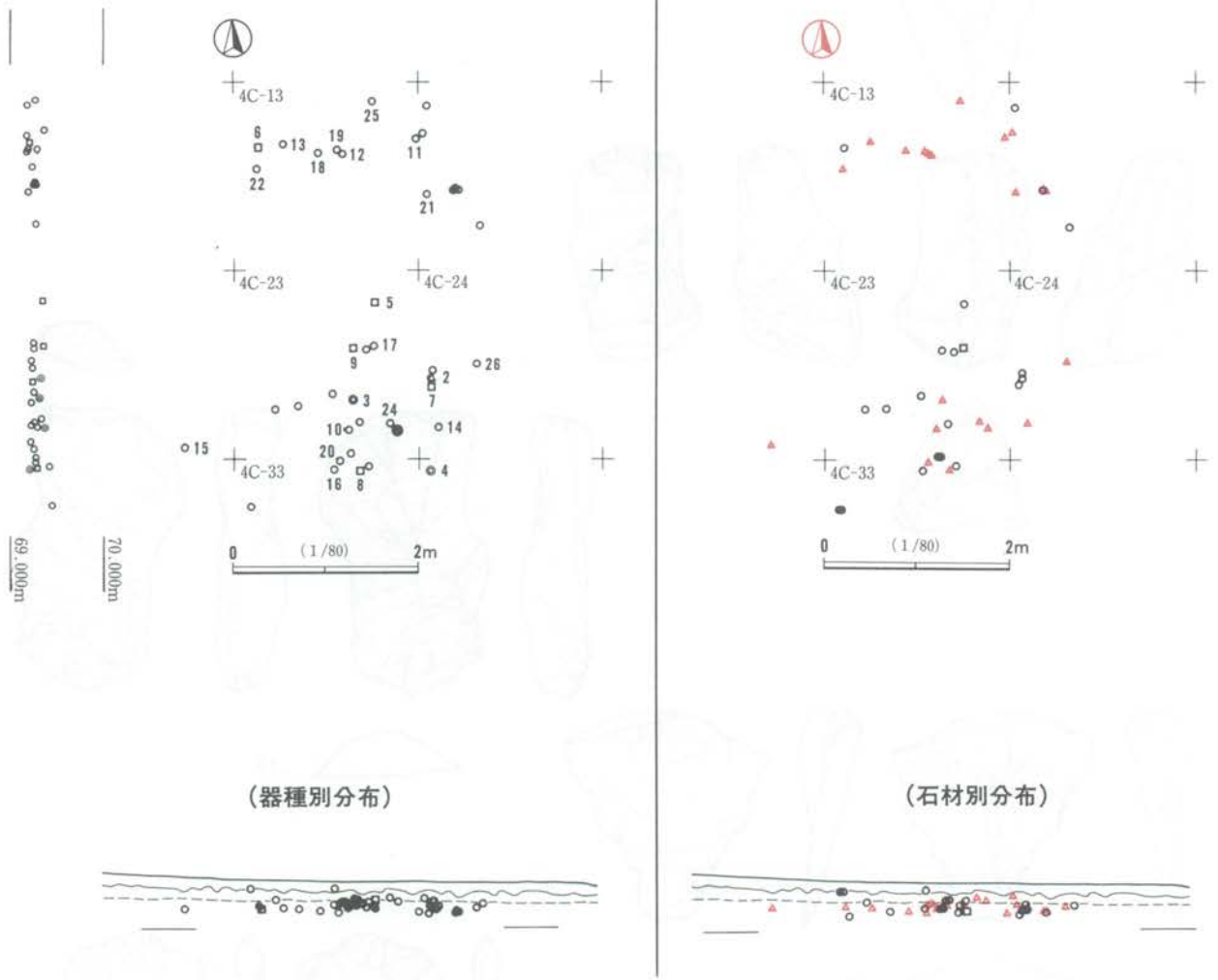
1～4は、使用痕を有する剥片である。1～2は、横長剥片の先端部に使用による微小剥離が認められる。2～4は、側面に使用による微小剥離が認められる。1, 3がメノウ, 2, 4が黒曜石である。5～9は、石核である。5・6は裏面に素材時の主要剥離面が残る。7は、自然面が一部残る面を打面として、打面調整を行いながら、横長剥片を剥離している。8・9は、打面転移を繰り返した剥片剥離を行っている。5～7, 9は黒曜石, 8はメノウである。10～26は剥片である。10～12は薄手の縦長剥片, 13～17は薄手の横長剥片, 18～22は厚手の縦長剥片, 23・24は厚手の横長剥片である。25～26は小振りな剥片で、調整剥離によるものと思われる。石材は17のみが凝灰岩で、10～16, 18～26は全てメノウである。



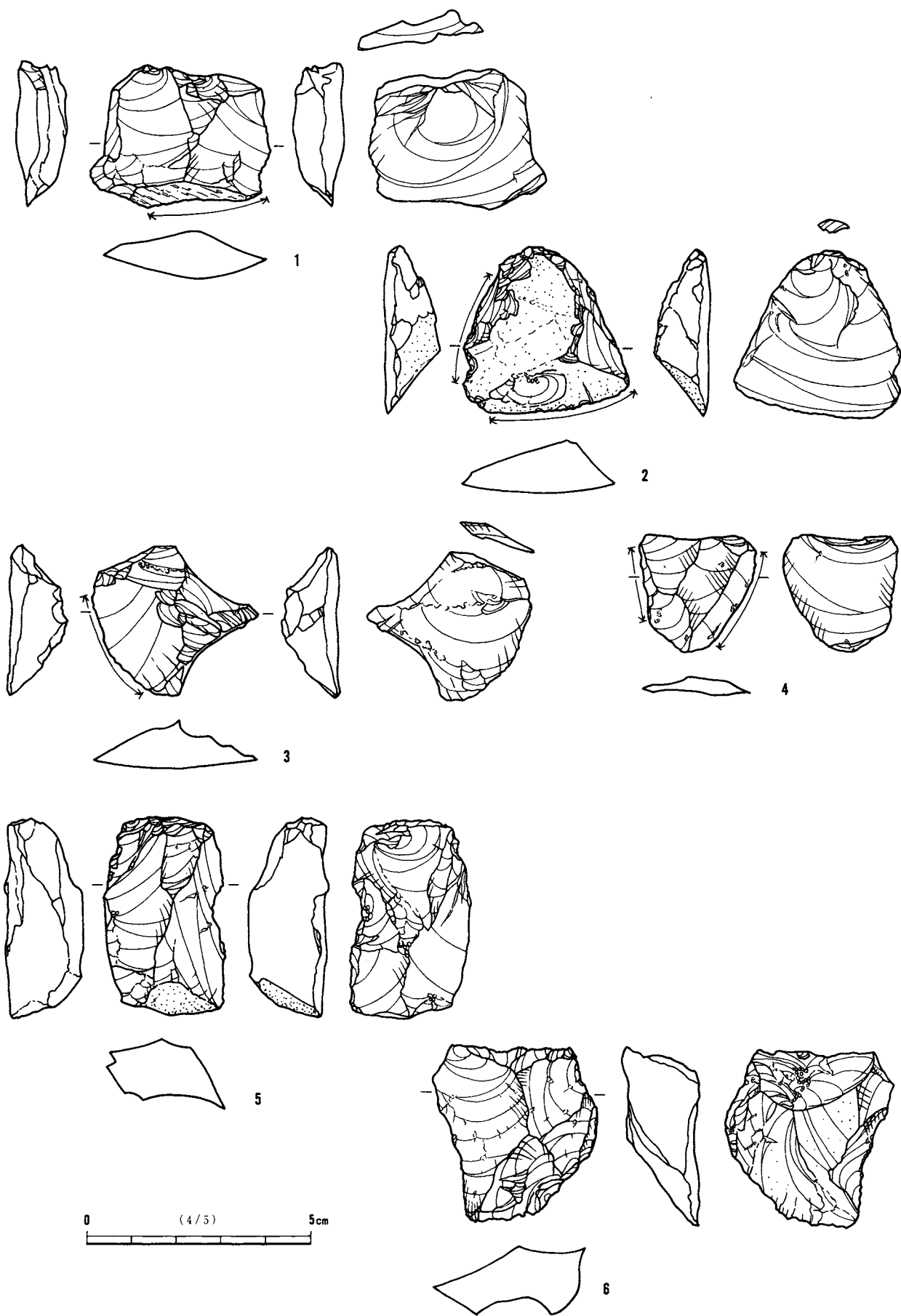
第14図 3Dブロック出土石器(1)



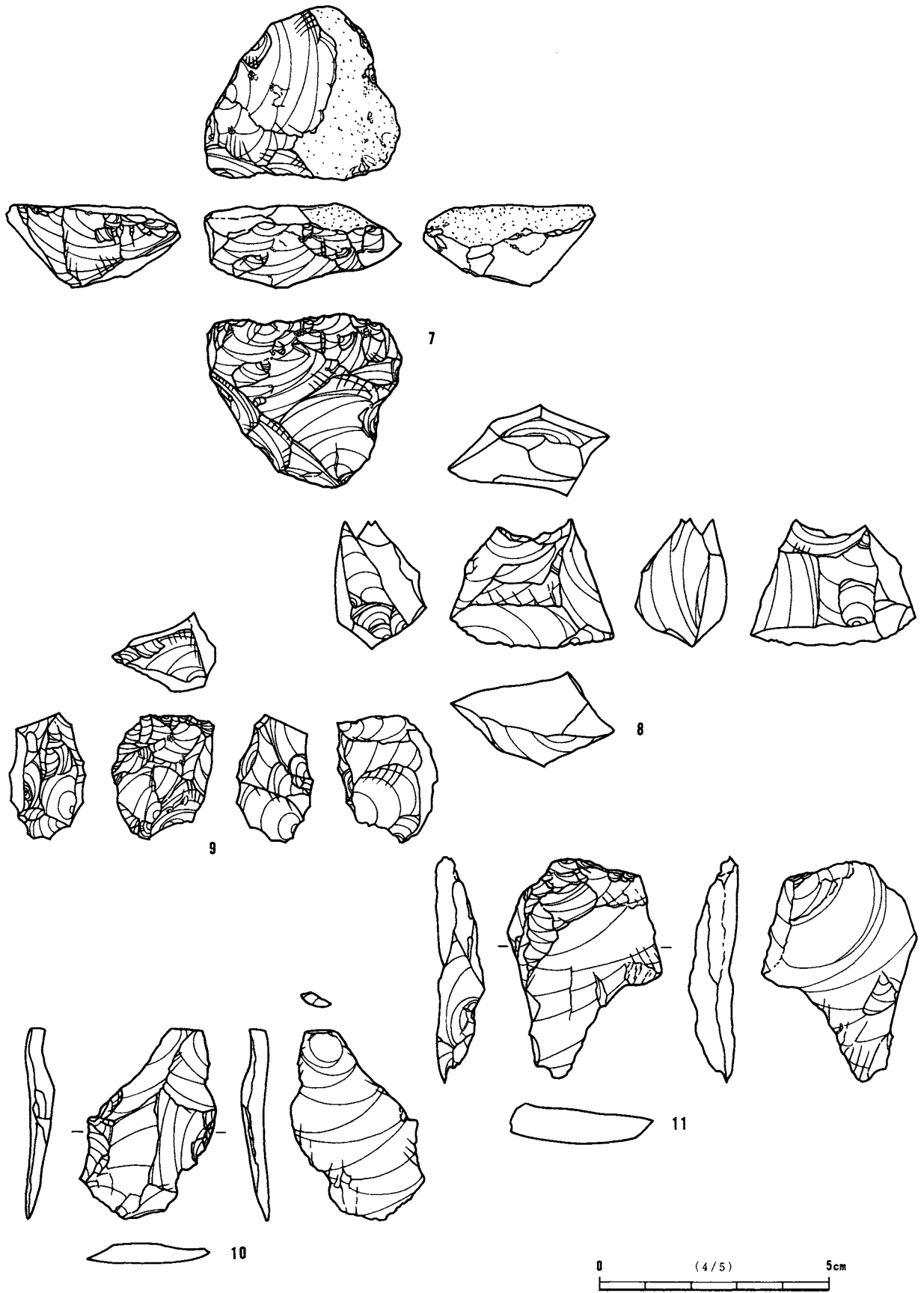
第15図 3Dブロック出土石器(2)



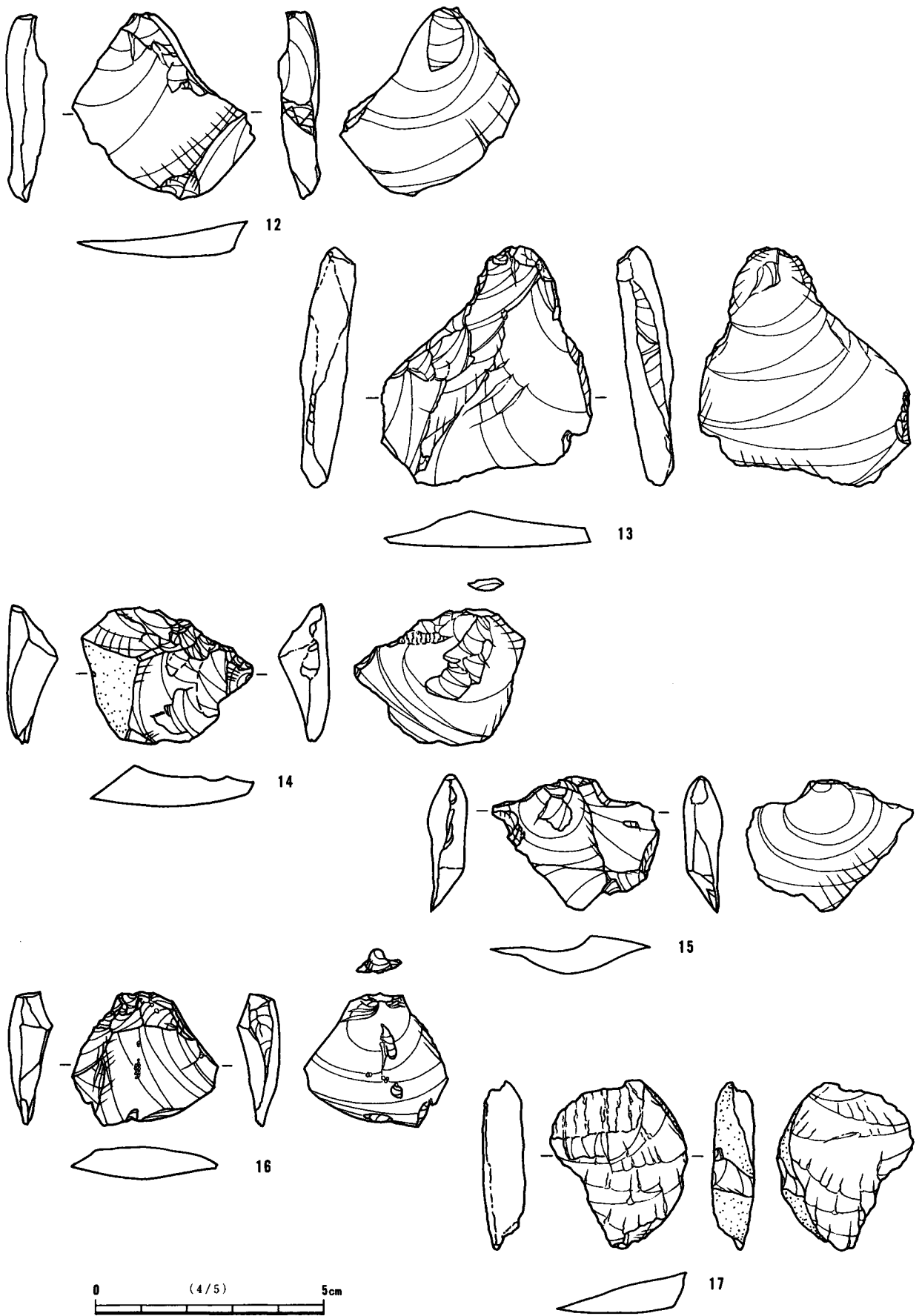
第16図 4Cブロック出土状況



第17図 4Cブロック出土石器(1)



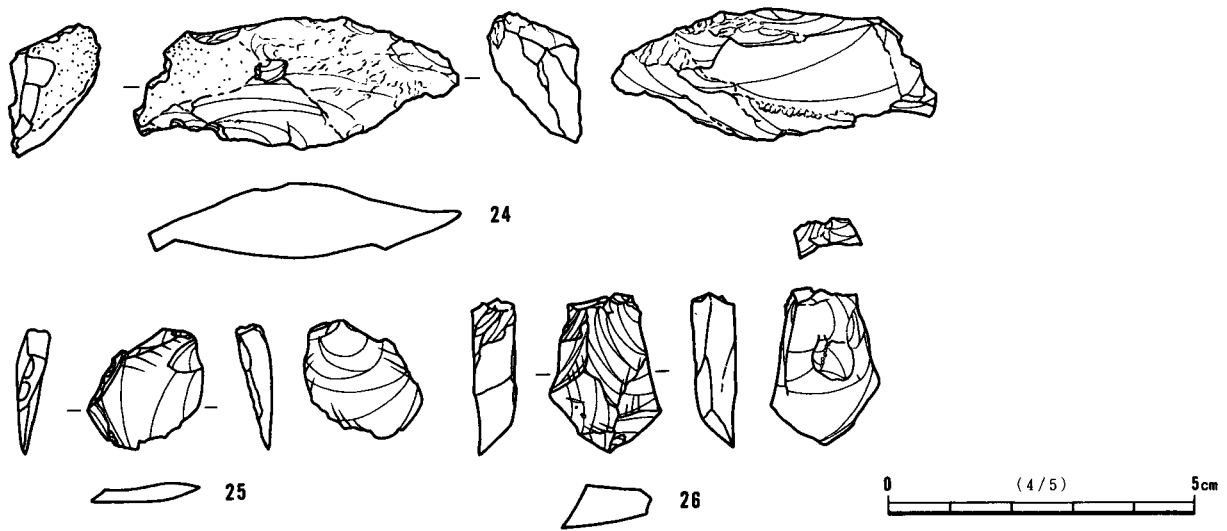
第18図 4Cブロック出土石器(2)



第19図 4Cブロック出土石器(3)



第20図 4 Cブロック出土石器 (4)



第21図 4Cブロック出土石器(5)

第1表 3Dブロック石器属性

図 No.	遺物 No.	接合	標高	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
	B-1-001		68,881	剥片	黒曜石	1.1	19.0	14.3	5.8
6	B-1-002		68,759	楔形石器	珪質頁岩	1.9	23.6	18.1	4.8
	B-1-003		68,877	剥片	安山岩	1.5	19.2	10.5	8.8
1	B-1-004		68,877	搔器	珪質頁岩	6.5	35.0	26.6	7.0
11	B-1-005		68,872	剥片	珪質頁岩	6.5	35.4	34.0	9.5
	B-1-006		68,844	剥片	安山岩	0.8	14.6	12.9	5.6
7	B-1-007	接合1	68,777	楔形石器	珪質頁岩	13.3	37.5	29.6	11.3
4	B-1-008		68,781	楔形石器	黒曜石	1.7	17.3	17.3	7.1
9	B-1-009		68,744	石核	珪質頁岩	13.3	39.1	21.3	19.0
	B-1-010		68,787	剥片	黒曜石	0.2	10.6	7.7	3.5
2	B-1-011		68,743	搔器	珪質頁岩	22.8	46.2	32.7	15.3
	B-1-012		68,839	剥片	安山岩	0.2	10.2	5.6	3.1
8	B-1-013		68,794	楔形石器	珪質頁岩	1.8	17.1	15.9	7.6
	B-1-014		68,810	剥片	安山岩	0.3	9.0	14.5	2.4
3	B-1-015		68,741	使用痕を有する剥片	珪質頁岩	13.1	43.2	31.5	12.5
	B-1-016		68,727	剥片	珪質頁岩	3.9	24.0	19.3	10.1
12	B-1-017	接合1	68,727	剥片	珪質頁岩	2.0	21.7	24.4	3.8
	B-1-018		68,726	剥片	安山岩	0.6	10.7	14.5	5.0
10	B-1-019		68,697	剥片	珪質頁岩	14.1	47.2	27.7	11.2
5	B-1-020		68,705	楔形石器	黒曜石	0.8	14.0	16.1	5.0

第2表 4Cブロック石器属性

図 No.	遺物 No.	接合	標高	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
16	B-2-001		69.438	剥片	黒曜石	5.8	28.6	31.8	8.7
	B-2-002		69.440	剥片	黒曜石	0.4	10.0	15.9	2.3
	B-2-002		69.432	剥片	黒曜石	1.3	15.9	9.2	10.0
20	B-2-003		69.272	剥片	メノウ	9.9	35.3	31.0	11.7
8	B-2-004		69.264	石核	メノウ	18.0	25.9	36.5	18.8
	B-2-005		69.290	剥片	黒曜石	0.4	8.4	18.8	4.2
1	B-2-006		69.287	使用痕を有する剥片	メノウ	12.4	30.3	40.9	11.0
24	B-2-007		69.338	剥片	メノウ	12.2	24.7	53.7	11.1
	B-2-008		69.322	剥片	黒曜石	1.8	23.0	19.7	4.9
10	B-2-009		69.221	剥片	メノウ	4.3	44.2	25.4	5.3
3	B-2-010		69.277	使用痕を有する剥片	メノウ	10.0	31.5	31.2	12.0
	B-2-011		69.264	剥片	黒曜石	1.0	9.2	17.4	4.3
	B-2-012		69.205	剥片	黒曜石	1.9	22.0	26.2	6.1
	B-2-013		69.307	剥片	黒曜石	0.8	15.6	17.7	4.3
15	B-2-014		69.209	剥片	メノウ	7.6	33.2	32.2	11.0
9	B-2-016		69.333	石核	黒曜石	8.2	26.8	21.2	16.9
17	B-2-017		69.225	剥片	凝灰岩	7.8	30.2	35.8	9.1
2	B-2-018		69.286	使用痕を有する剥片	黒曜石	12.7	36.7	37.2	13.0
14	B-2-019		69.241	剥片	メノウ	5.8	29.4	37.1	8.3
4	B-2-020		69.219	使用痕を有する剥片	黒曜石	2.7	26.4	26.7	3.8
26	B-2-021		69.230	剥片	メノウ	2.9	18.7	25.5	6.8
5	B-2-022		69.333	石核	黒曜石	19.0	43.1	29.5	16.4
	B-2-024		69.273	剥片	黒曜石	5.7	22.2	25.5	10.4
	B-2-025		69.196	剥片	黒曜石	1.2	13.6	20.0	5.5
	B-2-025		69.196	剥片	メノウ	1.3	26.3	12.1	6.3
23	B-2-025		69.196	剥片	メノウ	40.1	46.7	51.8	26.5
	B-2-026		69.254	剥片	メノウ	6.0	34.9	15.3	13.6
	B-2-027		69.345	剥片	メノウ	0.6	10.5	19.9	3.0
25	B-2-028		69.267	剥片	メノウ	1.3	15.1	22.5	4.6
	B-2-030		69.289	剥片	メノウ	8.9	39.0	29.9	8.8
12	B-2-030		69.289	剥片	メノウ	1.3	17.7	16.0	5.3
18	B-2-031		69.188	剥片	メノウ	11.0	42.7	43.9	7.8
13	B-2-032		69.232	剥片	メノウ	20.0	54.5	47.1	10.0
6	B-2-033		69.198	石核	黒曜石	22.0	41.2	38.0	18.2
22	B-2-034		69.239	剥片	メノウ	24.5	58.5	48.8	20.0
	B-2-035		69.246	剥片	黒曜石	0.4	13.7	7.2	4.9
	B-2-035		69.246	剥片	黒曜石	0.22	9.2	12.4	1.7
7	B-2-036		69.227	石核	黒曜石	2.5	42.2	39.0	16.7
	B-2-037		69.233	剥片	黒曜石	0.9	15.1	8.8	6.0
11	B-2-038		69.178	剥片	メノウ	10.0	46.8	31.9	7.1
	B-2-039		69.187	剥片	黒曜石	0.4	17.2	9.3	2.6
19	B-2-040		69.195	剥片	メノウ	10.7	38.8	36.4	10.3
	B-2-041		69.223	剥片	黒曜石	0.2	13.6	7.2	3.8

第3節 縄文時代（第22図～25図，図版5～11・37）

縄文時代の遺構は，炉穴27基，陥穴2基，土坑1基が検出された（第22図）。全て，Ⅲ層（ソフトローム）上面において検出したものである。以下に，各遺構の概要及び遺物の出土状況について記載する。

1. 炉穴（遺構：第23・24図，図版5～11，遺物：第25図，図版37）

P001

2C-34グリッド付近に位置する。2基が重複する。南側に位置する1基は，長軸方向がN-4°-Eである。推定規模は，長軸2.7m，短軸1.7mほどである。北側の1基は，長軸方向がS-63°-Eである。推定規模は，長軸2.4m，短軸1.0mほどである。新旧関係は不明である。覆土は暗褐色土で，底面付近ではローム粒を少量含む。燃焼部には，黒褐色土を少量含む焼土が堆積する。なお，遺物は検出されなかった。

P002

2C-76グリッド付近に位置する。燃焼部の数から，少なくとも4基の炉穴が重複しているものと考えられる。全体の規模は，長軸4m，短軸1.7mほどである。長軸方向での方位は，北東に燃焼部を持つものが，N-38°-E，南側に燃焼部を持つものがN-4°-Eである。いずれも覆土は暗褐色土で，底面付近に黄褐色土が堆積している。燃焼部には，黒褐色土を少量含む焼土が堆積している。

遺物は，縄文時代早期後半の土器片が15点出土している。いずれも小片だが，胎土に繊維を含み器面には擦痕が見られるものが大半である。細片のため，図示できなかったが，沈線文を施す土器を1点含んでいる。第25図1・2の2点を図示した。1は口縁部に，半截竹管を用いた連続刺突文が施されている。2は底部に近い部分の破片である。外面に波状の条痕が観察できるが，ナデ調整によって不明瞭なものとなっている。図示しなかった破片も含め，田戸上層式終末から子母口式に比定される資料である。従って，本遺構も同時期と考えられる。

P003

2C-72グリッドに位置する。平面形は長楕円形，長軸方向はN-26°-Eである。規模は長軸が1.9m，短軸が0.9mである。覆土は暗褐色土を基本とし，底面に近い部分はローム粒を含んでいる。燃焼部には，黒褐色土を斑状に含む焼土が堆積している。

遺物は土器小片が3点検出された。図示しなかったが，いずれも胎土に繊維を含み，脆いものである。

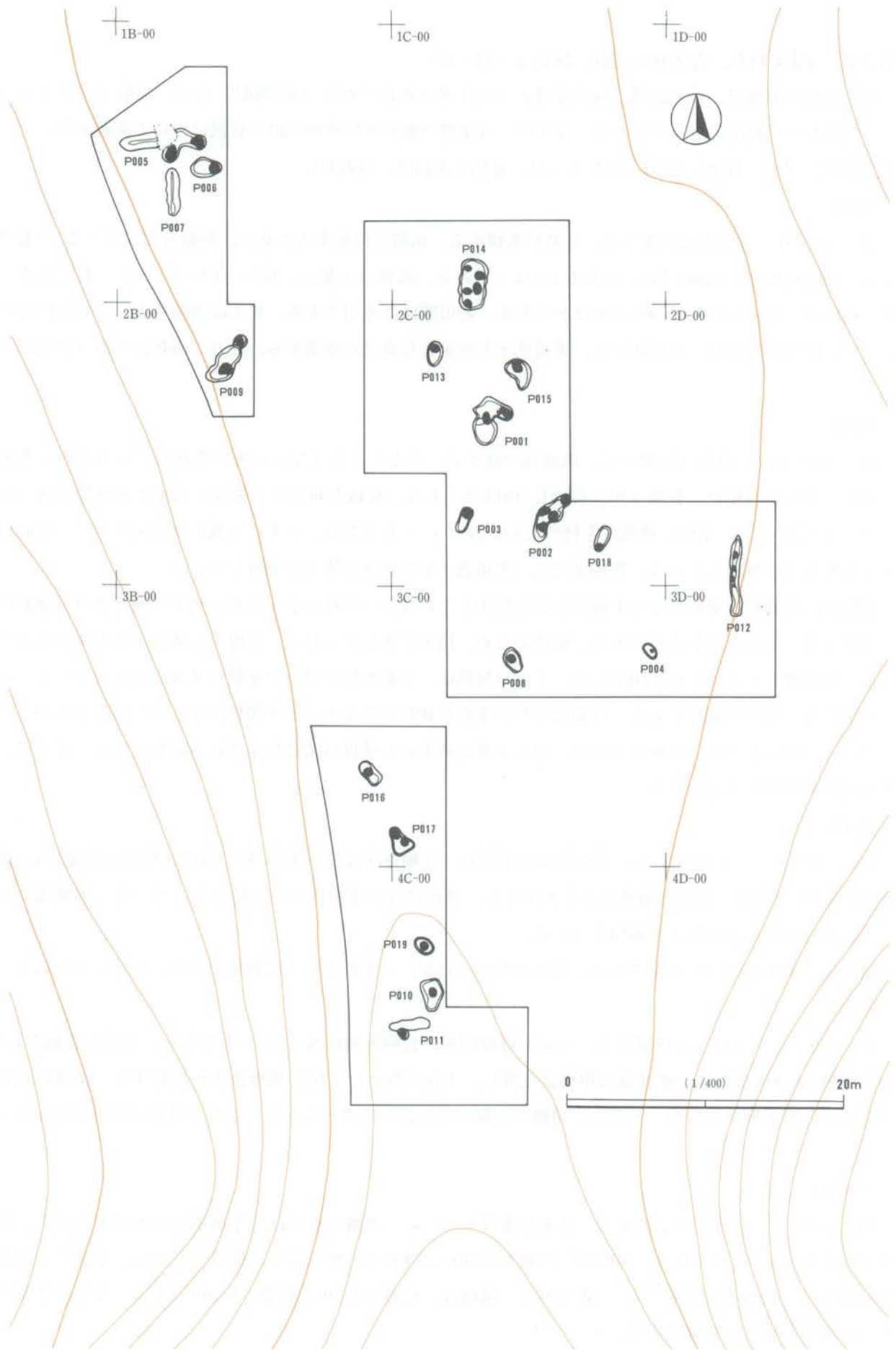
P004

3C-56グリッド付近に位置する。平面形は楕円形，長軸方向はN-32°-Wである。規模は長軸が1.3m，短軸が0.8mである。燃焼部は中央に位置し，上位に焼土，下位に黒褐色土が堆積する。遺構の掘込みが浅く，断面形が平坦なことから，遺構の上部は失われたと考えられる。なお，遺物は検出されなかった。

P005 B

1B-50グリッド付近に位置する。2基が重複している。西側のものは，平面形が長楕円形をなし，長軸方向がN-66°-Eである。規模は，長軸が2.6m，短軸が1.1mである。東側のものは，平面形が長楕円形をなし，長軸方向がN-75°-Wである。規模は，長軸が2.5m，短軸が0.9mである。なお，2基の炉穴の新旧関係は不明確である。

遺物は，覆土中から土器が，1点検出された。第25図3は底部付近の胴部破片で，胎土に繊維を含む。



第22図 縄文時代遺構配置

色調は外面が褐色、内面が黄灰褐色である。器面調整は擦痕の後、ナデを施す。

P 006

1B-42グリッド付近に位置する。平面形は不定形、長軸方向はN-86°-Wである。規模は長軸が2.15m、短軸が1.25m、確認面からの燃焼部の深さは0.22mである。覆土は、ローム粒を含む黒褐色土である。燃焼部には、焼土が薄く（8cm程度）堆積する。なお、遺物は検出されなかった。

P 008

3C-24グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-25°-Wである。規模は長軸が1.83m、短軸が1.16mである。燃焼部は中央部付近、やや北寄りに位置する。覆土は黒褐色土であり、燃焼部には、ローム粒を少量含む焼土が堆積する。

P 009A・B・C ※P009Bは土坑

2B-23グリッド付近に位置する。3基の重複である。北からP009A、P009B、P009Cとする。調査所見から、P009BがP009A及びP009Cよりも新しいと考える。P009Aは、平面形が楕円形であり、中央部に燃焼部が位置する。推定規模は、長軸約0.9m、短軸0.87mである。P009Bは、燃焼部が検出されなかったことから、土坑として扱うこととする。平面形は長楕円形、長軸方向はN-71°-Eである。長軸は2.0m、短軸は1.3mである。P009Cは、平面形が不定形をなし、長軸方向がN-74°-Eである。規模は長軸が2.3m、短軸が約1.1mである。覆土は黒褐色土を基本とし、底面付近にはローム粒を少量含んでいる。

遺物は、撚糸文土器を4点、早期後半の繊維を含む擦痕調整土器を3点（同一個体）検出した。これら土器の総重量は、56.8gである。また、黒曜石剥片が1点（1.99g）、チャート礫1点（14.63g、赤化、破損）、流紋岩礫（5.57g、赤化、破損）も検出した。すべて、覆土中からの出土である。A・B・Cのどれに伴うかは、いずれの遺物も不明確である。しかし、出土土器から、撚糸文土器と早期後半期の2時期において、遺構が構築されたものと考えられる。ここでは、撚糸文土器2点を図示した（第25図4・5）。4は、肥厚する口唇部を欠損している。口縁部には密接する横位の撚糸文1を、胴部には縦位の撚糸文rを施文する。残存する口唇部上端は、平坦に調整されている。5は、底部に近い胴部破片である。外面に撚糸文rが施される。いずれも胎土に白色粒子を少量含み、焼成は良好である。色調は、4が暗灰褐色、5が赤褐色である。なお、5の内面は、色調が黒褐色であり、器表面がやや荒れている。以上の2点は、胎土などが類似し、同一個体の可能性がある。さらに、4の文様構成から、井草1式に比定される。

P 010

4C-42グリッド付近に位置する。平面形は不整形で、燃焼部はほぼ中央にある。底面はほぼ平坦であるが、東側から西側にかけてやや深くなっている。従って、別の土坑などが重複している可能性も指摘できる。長軸方向はN-3°-E、規模は長軸が2.3mである。なお、遺物は検出されなかった。

P 011

楕円形で、燃焼部付近のみ検出した。北側は木根により攪乱されている。規模は長軸0.8m、短軸0.6mほどである。なお、遺物は検出されなかった。

P 012

2D-92グリッド付近に位置する。燃焼部の数から、4基の重複と考えられる。最も北側に位置する1基と、その次に連なる1基については、長軸方向、規模などがある程度推測できるが、他の2基の様相は

不明瞭である。また南に長く伸びる部分は燃焼部が確認されていないことから、木根などで攪乱されている可能性がある。北側のものは、長軸方向がN-5°-Eで、推定規模は長軸が2.2m、短軸が0.8mほどである。次に連なるものは、長軸方向がN-10°-Wで、推定規模は長軸が0.9m、短軸が0.6mほどである。

遺物は、早期後半の土器片9点(49.3g)、破損礫2点(5.1g)が出土した。4基のどれに伴うものかは、不明瞭である。土器は擦痕調整で無文のものが8点、丸棒状工具による沈線が施されたもの1点である。なお、擦痕は明瞭なものではなく、その後のナデ調整によって磨り消され、痕跡程度になっている。胎土には繊維を含む。沈線のものは、小破片のため文様構成は不明である。なお、胎土に繊維は含まれていない。本報告では、1点を図示した。第25図6は底部付近の破片である。色調は外面が暗褐色、内面が黒褐色である。外面は横方向のナデによって、丁寧に調整される。胎土は、細砂粒及び繊維を多く含む。焼成は良好で、堅致である。破損礫の石材はチャート、凝灰岩である。なお、チャートは赤化している。

P013

2C-11グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-8°-Eである。規模は長軸が1.7m、短軸が1.0mである。覆土は黒褐色土を基本とし、底面付近にはローム粒を少量含む。燃焼部には、黒褐色土ブロックを部分的に含む焼土が堆積する。なお、遺物は検出されなかった。

P014

1C-92グリッド付近に位置する。5基の炉穴が重複している。重複が激しく、各炉穴の平面形をとらえることは困難であった。だが、掘込みの深さなどから、南東隅と北西隅に位置するものについては、平面形、規模が推定できる。ともにおよそ南北を長軸方向とし、長楕円形をなす。規模は長軸1.8m~2.0m、短軸0.9m~1.1mほどである。また、燃焼部は北側に位置する。他の3基は燃焼部の位置などから、およそ東西方向が長軸になると推測される。

遺物は、早期土器片が9点(132.1g)出土している。いずれも、胎土に繊維を含み、擦痕調整が施されるものである。そのうち3点を図示した(第25図7~9)。7は条痕調整の後、部分的に擦痕調整を施している。器面調整は、あまり丁寧なものではなく、器面に製作時の指頭圧痕を残している。胎土は繊維、砂粒を多く含む。色調は暗褐色である。8は、口縁部付近で外反する器形であり、外削ぎ状の口唇部に刺突文が施される。刺突文は、3列の串状工具により、押引き状に施される。色調は明灰褐色で、胎土は繊維を多く含んでいる。9は、口唇部に斜位の絡状体圧痕文を施文している。器面調整は、擦痕の後、軽いナデを加えている。胎土は繊維を多く、砂粒、赤色スコリア粒を少量含んでいる。色調は褐色であり、焼成は良好である。口唇部の文様から、子母口式に比定できる。他の破片についても、器面調整の特徴から、ほぼ同時期のものと考えられる。また、破損礫が3点(88.3g)出土している。石材は砂岩、ホルンフェルス、流紋岩である。なお、流紋岩のものは赤化している。

P015

2C-24グリッド付近に位置する。平面形は不整形である。規模は長軸2.2m、短軸1.5mほどである。覆土は黒褐色土を基本とし、底面付近はローム粒を少量含む。燃焼部には、焼土が堆積している。

遺物は、早期後半の土器が15点(130.1g)、礫片が1点(2.2g)出土した。土器は、いずれも繊維を多く含み、擦痕及び条痕調整のみで、無文である。なお、条痕はいずれも浅いものであり、擦痕やナデが加えられ、痕跡程度になっているものも見られる。礫片の石材は、流紋岩である。

P 016

3B-68グリッド付近に位置する。平面形はややゆがみのある長楕円形で、長軸方向はN-45°-Wである。規模は、長軸が2.0m、短軸が1.1mほどである。燃焼部はやや中央寄りに位置する。覆土は黒褐色土で、燃焼部には焼土が堆積している。なお、遺物は検出されなかった。

P 017

3B-80グリッド付近に位置する。平面形は不整形である。燃焼部の数から、2基の重複と考えられる。北側の燃焼部に伴う掘込みは、南に伸びると思われ、長軸方向がN-11°-W、長軸が約2.0mであると推測される。東側の燃焼部に伴う掘込みの様相は、不明確である。なお、遺物は検出されなかった。

P 018

2C-87グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形、長軸方向S-25°-Wである。規模は長軸が1.8m、短軸が0.8mほどである。燃焼部は南側に位置する。覆土は黒褐色土で、底面近にはローム粒を少量含む。燃焼部には、焼土が薄く堆積する。なお、遺物は検出されなかった。

P 019

楕円形の炉穴で、ほぼ中央に燃焼部が検出されている。4C-21グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-65°-Wである。規模は長軸が1.5m、短軸が1.0mほどである。燃焼部はほぼ中央に位置する。覆土はロームブロックの混入した黒褐色土で、燃焼部には焼土が堆積する。なお、遺物は検出されなかった。

2. 陥穴

P 005 A

1B-40グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形、長軸方向はN-78°-Eである。東側は木根による攪乱されている。規模は、長軸が約3.0m（推定）、短軸が1.1m、確認面からの深さが0.8mほどである。なお、遺物は検出されなかった。

P 007

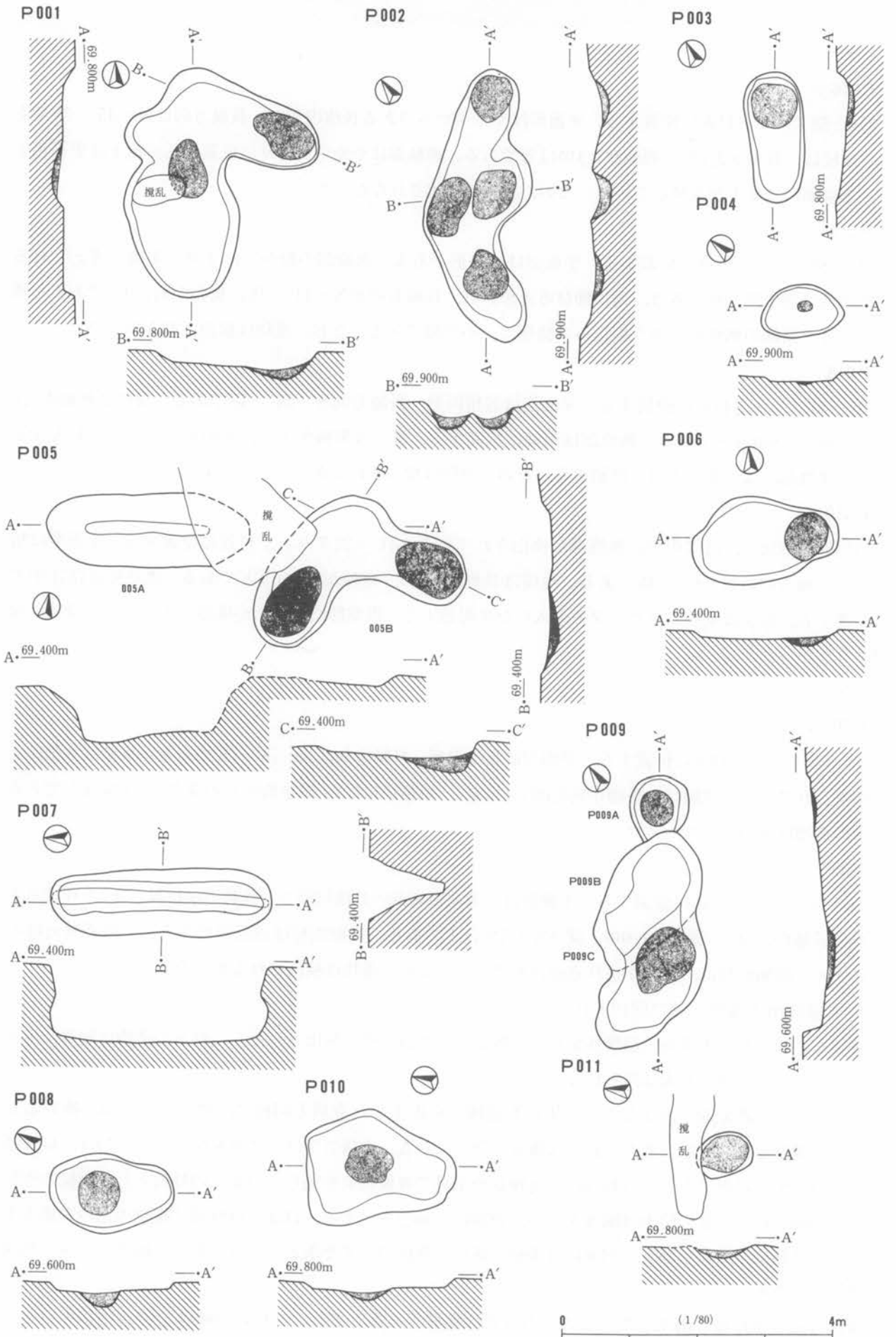
1B-42グリッド付近に位置する。平面形は、南北に細長い長楕円形で、長軸方向はN-1°-Wである。規模は長軸が3.3m、短軸が1.0m、深さが1.1mほどである。横断面形は逆三角形であり、底面付近は非常に狭い。縦断面形は、両端が抉れる逆台形である。なお、遺物は検出されなかった。

3. 遺構外出土遺物（第25図10・11）

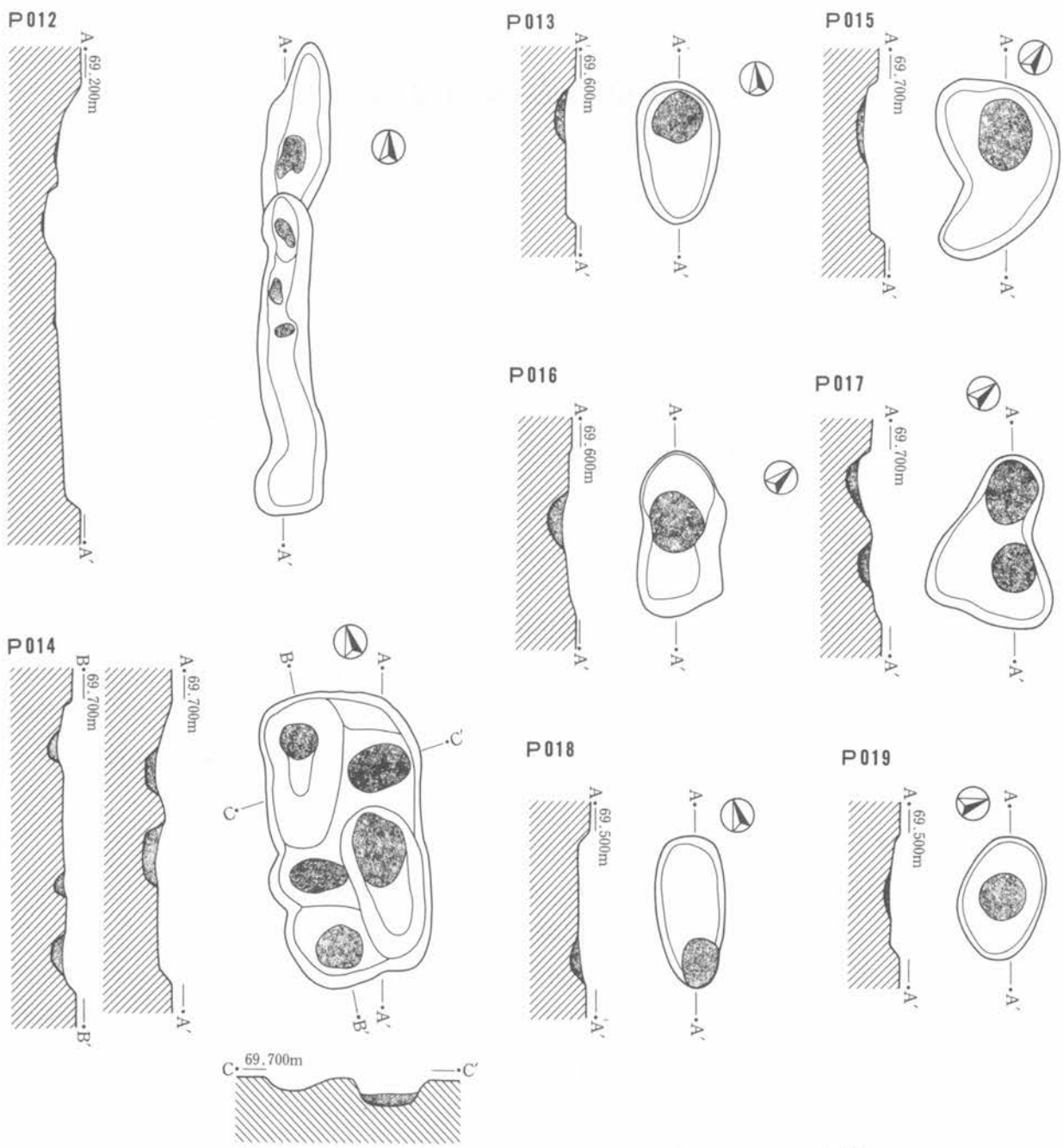
確認トレンチ及び本調査区遺構外から、少数ながら土器、礫が検出された。これらの遺物は散漫に出土し、いわゆる包含層の形成は見られなかった。

土器は17点（295.2g）出土した。いずれも遺構から出土した資料と同様に、無文で、器面に擦痕もしくは条痕調整が施される。また、胎土は繊維を含んでいる。本報告では、2点を図示する。10は、口縁部がやや内湾する器形である。口唇部に、角棒状の工具で連続刺突を施している。内外面とも、横位の擦痕により調整されている。胎土は繊維を含み、色調は明褐色を呈する。11は、口唇部に縦位の刻みを施文する。外面に横位の条痕を施し、内面には条痕の後に、横位のナデを加えている。胎土は繊維を含み、色調は明褐色である。

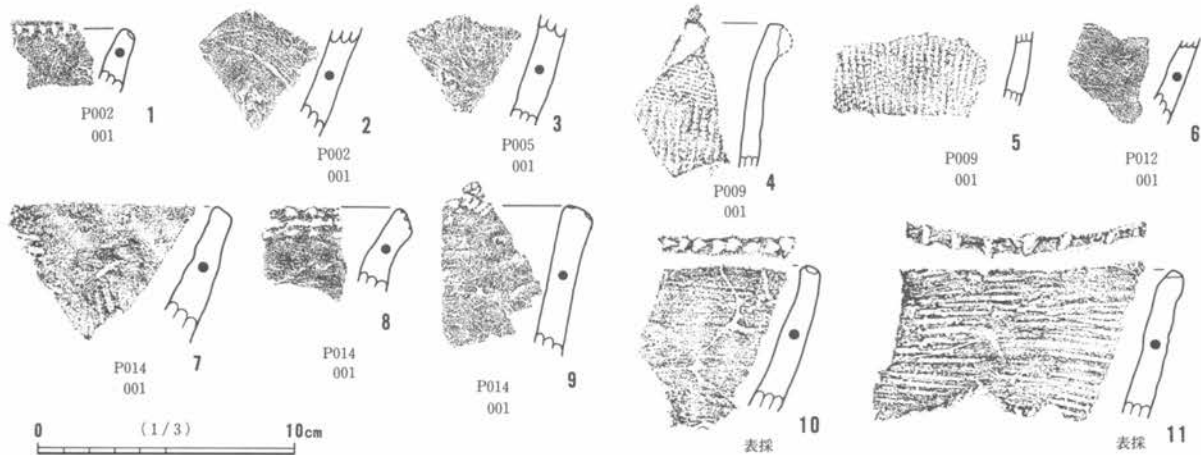
礫は17点（781.4g）出土した。このうち9点は完形である。また、これらの礫は全て赤化している。石材は、砂岩（9点）、凝灰岩（4点）、チャート（2点）、流紋岩（1点）、安山岩（1点）である。



第23图 炉穴(1)·陷穴



第24図 炉穴 (2)



第25図 遺構内出土遺物

第5章 志保知遺跡

第1節 概要 (第26・27図)

志保知遺跡は、市原市深城字志保知577-3ほかに所在する。遺跡は、椎津川に注ぐ支谷の奥部、標高約70mの台地上に展開する。今回の調査区は台地の先端部で、中央に谷が入り二股に分かれる部分である。

確認調査の結果、遺構及び遺物の分布が見られた上層2,875㎡、下層100㎡について本調査範囲とした。いずれも、調査区の東半部分に位置するものである。そして、本調査の結果、旧石器時代の遺物集中地点1か所、縄文時代後期の陥穴12基、土坑1基を検出した。

第2節 旧石器時代 (第28~30図, 第3~5表, 図版14・39)

1 概要

本遺跡において、2m×2mのグリッド41か所164㎡において確認調査を行なったところ、6C-01, 6G-01, 3F-59, 4F-25の4か所で旧石器時代の遺物が出土し、各4mの拡張を行った。4F-25を除く3か所からは、遺物の広がり認められなかった。4F-25周辺からは、砂岩・凝灰岩等の礫、黒曜石・頁岩等の石器の広がり確認され、本地点周辺100㎡において、旧石器時代の本調査を実施し、ブロック1か所と、礫群1か所を検出した。

2 検出した遺構と遺物

礫群とブロックは近接して検出され、1号礫群が第1ブロックを包み込むような形で広がっている。

(1) 第1ブロック (第28・29図, 第3表, 図版39)

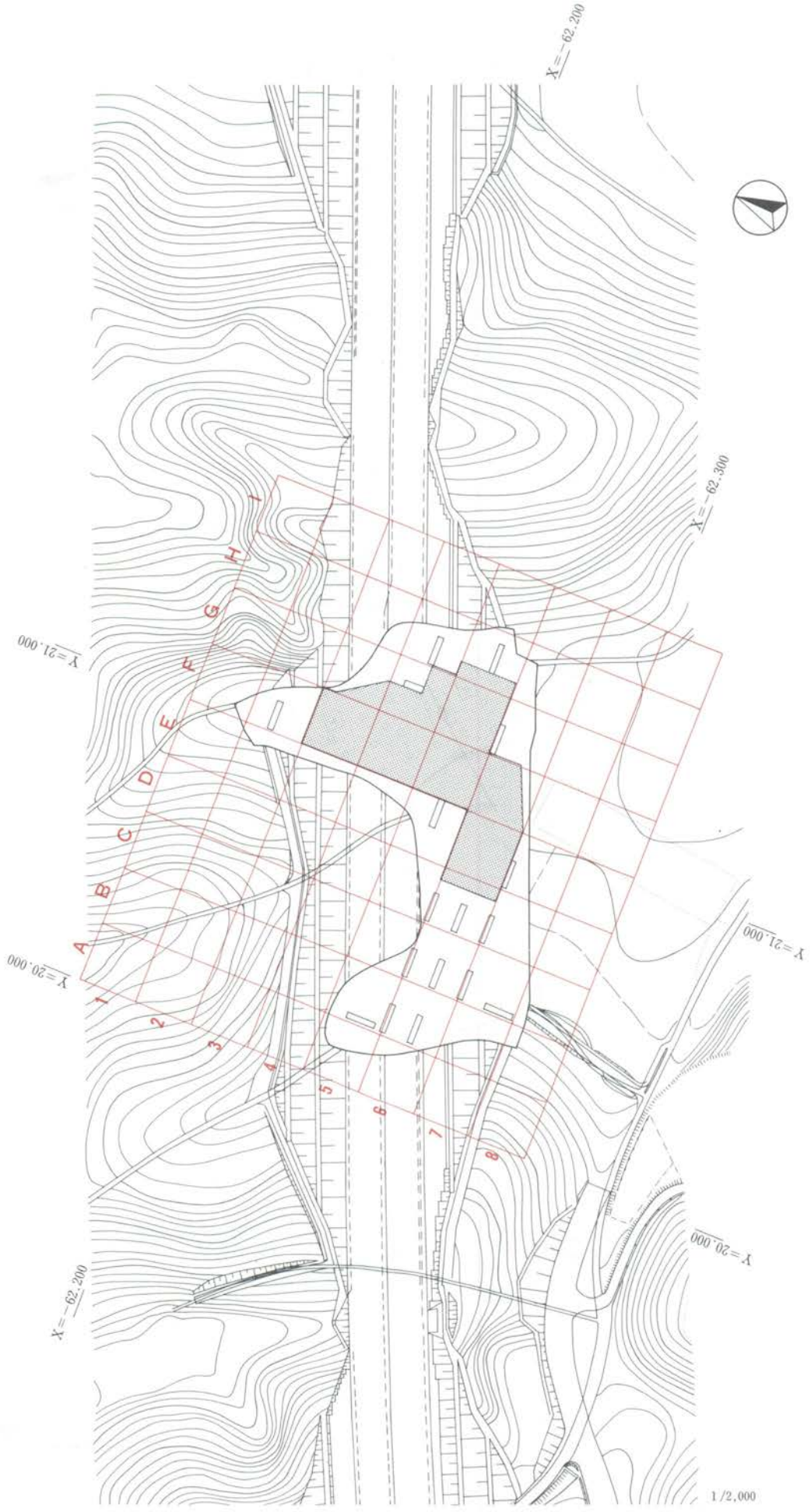
本ブロックは、4F-15, 4F-24~26, 4F-35グリッドに位置し、南北約7m, 東西約8mの範囲に、ナイフ形石器1点, 加工痕を有する剥片1点(2点の接合), 敲石1点(4点の接合), 剥片16点が散漫に分布している。垂直分布は、標高67.826m~68.225mの約0.4m, IV~VI層の間に認められた。

石器の石材は、黒曜石が9点, 珪質頁岩が8点で、本ブロックの大半はこれらの石材が占めている。他に砂岩の4点, 安山岩の1点がある。この内砂岩4点(接合1)と、黒曜石2点(接合2)に接合関係が認められた。

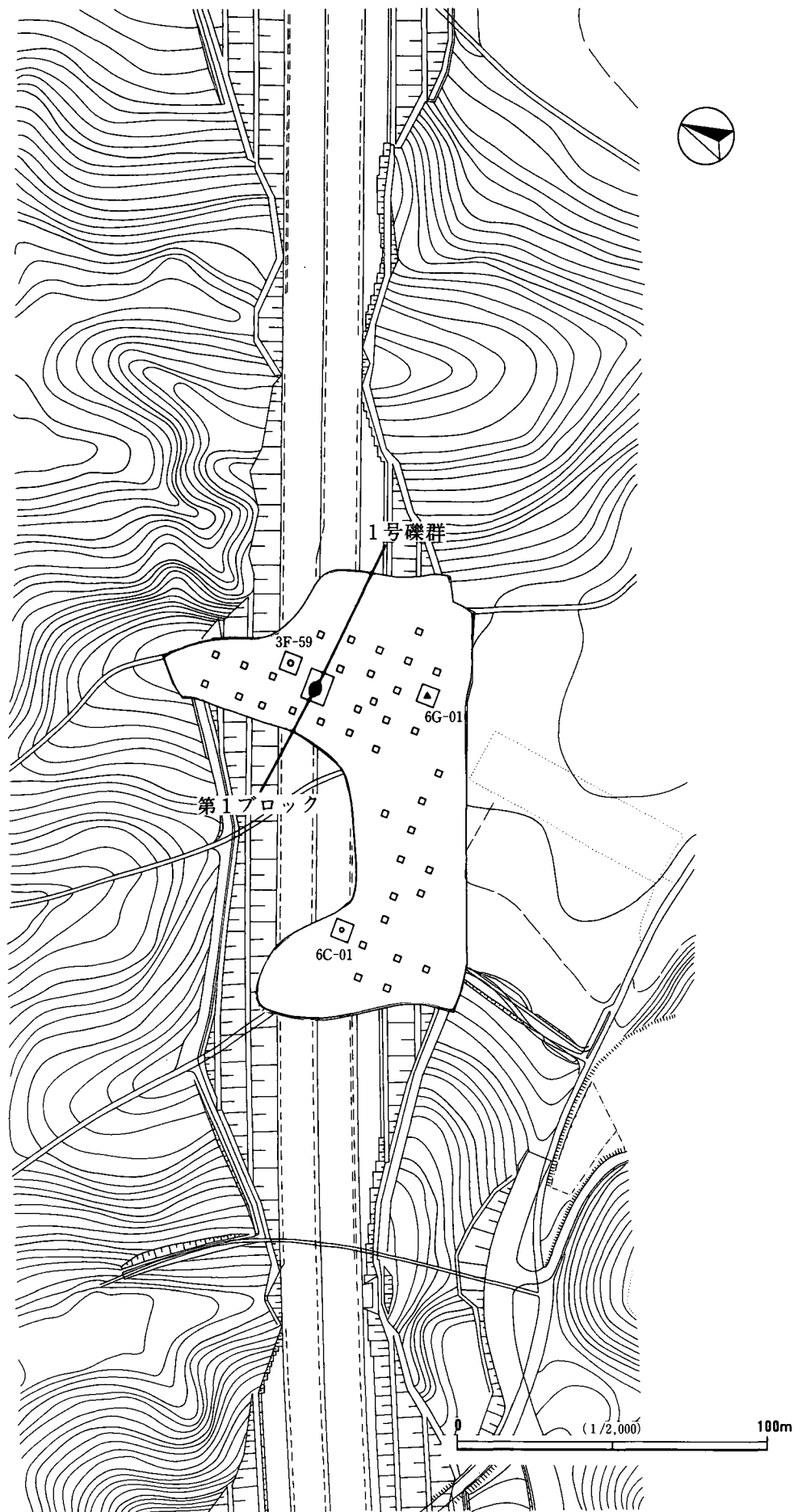
1は、珪質頁岩のナイフ形石器である。一部に自然面を残す厚手の縦長剥片を素材として、打点周辺から片側の側縁にかけてと末端部周辺にブランディングが施されている。側縁のブランディングには、稜線からの調整も加えられている。2は、黒曜石の加工痕を有する剥片である。打面は欠失しているが、幅の広い剥片の左側縁に荒い調整が施されている。3は、砂岩の叩き石である。梅の実大の円礫で、一端に敲打痕が認められる。4~6は珪質頁岩の剥片である。7~8は黒曜石の剥片で同一母岩である。珪質頁岩はナイフ形石器以外全て同一母岩である。

(2) 1号礫群 (第28図, 第5表)

本礫群は、4F-15~16, 4F-26~27, 4F-35~37グリッドに位置し、南北10m, 東西11mの範囲に、第1ブロックを東から飲み込むような形で分布している。垂直分布は標高67.784m~68.336mの約0.6m, III~VI層の間に認められた。



第26図 グリッド設定, 上層本調査区及び確認トレンチ配置



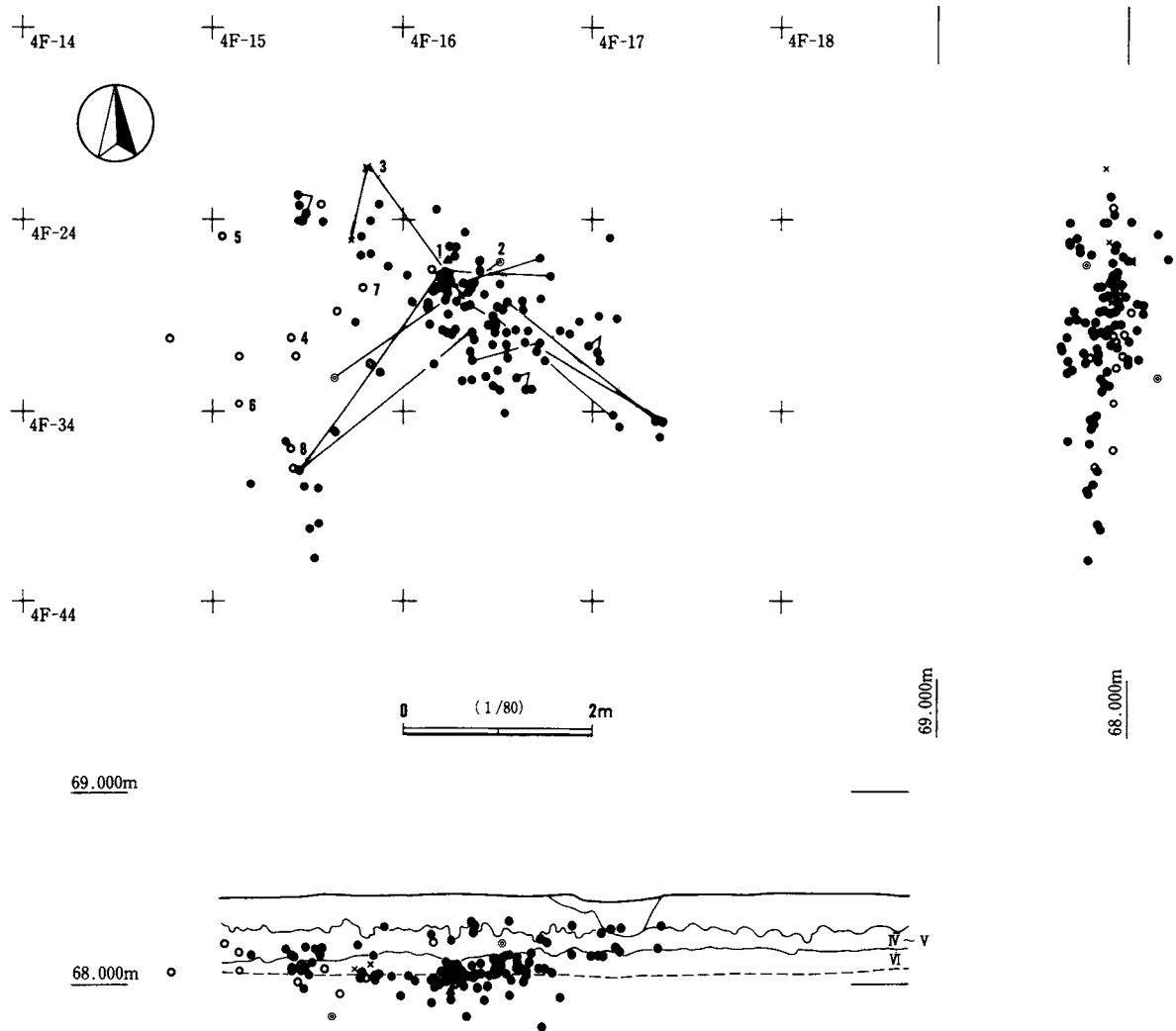
第27図 下層本調査区及び確認トレンチ配置

石材は、砂岩43点、チャート42点が際立って多く、次いで斑岩21点、凝灰岩6点、頁岩4点、安山岩1点である。完形のもの全体の6%程で、大多数のものが破損している。また表面に、被熱によると思われる赤化が認められるものは、全体の17%程である。

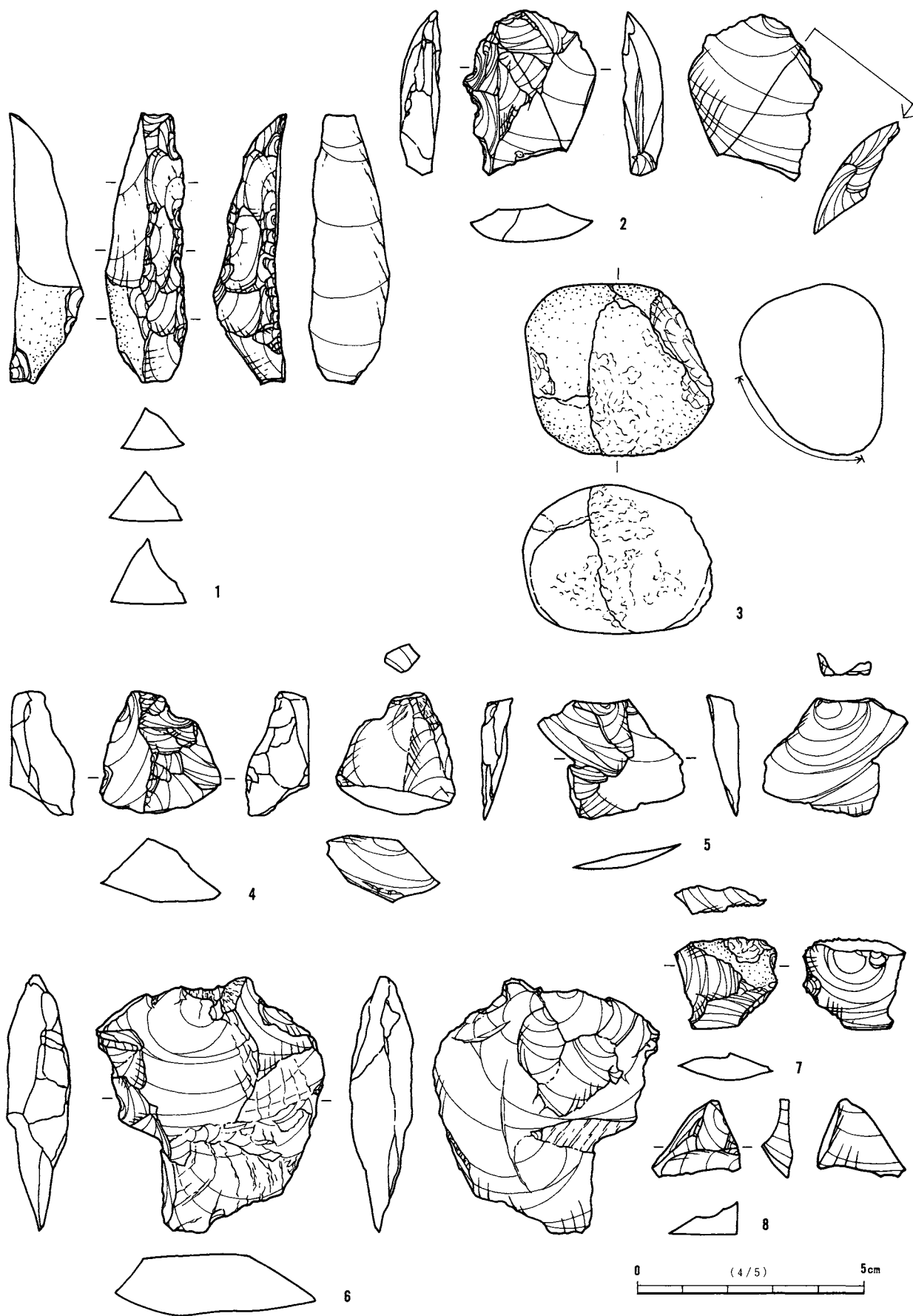
(3) ブロック外出土遺物 (第30図, 第4表, 図版39)

9は、6G-01グリッドVII層下部から出土した頁岩のナイフ形石器である。薄手の剥片を素材として、左側側縁全面と、打面から右側縁の一部にかけて細かいブランディングが施されている。

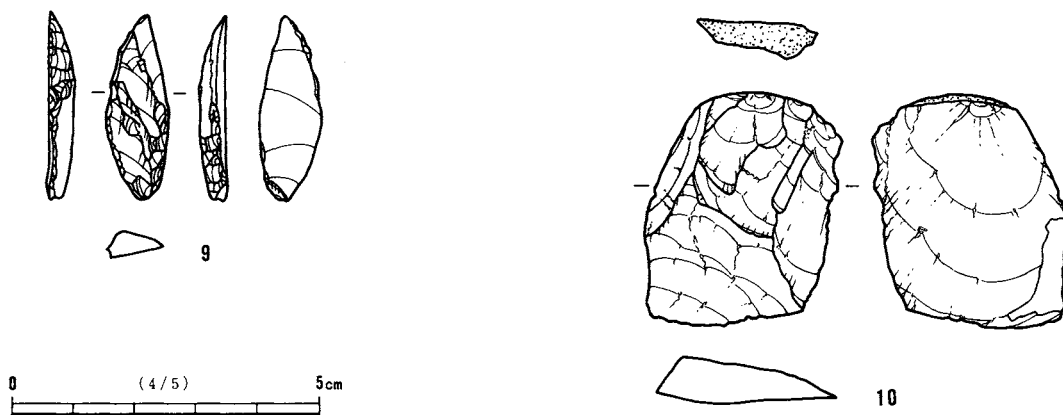
10は、6C-01グリッドIX層中から出土した安山岩の剥片である。自然面を打面として剥離されている。3F-59から検出した遺物は珪質頁岩の礫で、節理に沿って割れている。



第28図 第1ブロック, 1号礫群



第29図 第1ブロック出土石器



第30図 単独出土石器

第3表 第1ブロック石器属性

図 No.	グリッド	遺物No.	接合	層位	標高	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
3	4F-15	001	接合1	III	68.108	敲石	砂岩	24.2	37.3	41.3	32.1
	4F-15	002		III	68.082	剥片	黒曜石	0.3	9.2	14.3	3.0
	4F-24	001		III	68.060	剥片	珪質頁岩	1.9	17.0	28.5	7.6
5	4F-25	001		III	68.225	剥片	珪質頁岩	2.1	25.8	32.3	3.4
	4F-25	002		III	68.108	石核	黒曜石	4.8	13.5	20.2	19.7
	4F-25	009		III	68.178	剥片	黒曜石	3.3	13.0	35.1	10.0
4	4F-25	010		III	68.074	剥片	珪質頁岩	7.6	26.8	26.8	14.1
6	4F-25	014		III	68.113	剥片	頁岩	30.6	56.0	47.3	13.1
3	4F-25	016	接合1	III	68.082	敲石	砂岩	21.5	-	-	-
	4F-25	019		VI-V	68.054	剥片	珪質頁岩	1.0	24.8	19.2	4.0
7	4F-25	023		VI-V	68.043	剥片	黒曜石	2.2	19.6	22.2	5.5
	4F-25	024		VI-V	67.966	剥片	黒曜石	0.1	12.7	7.6	1.8
	4F-25	025		VI-V	68.024	剥片	珪質頁岩	2.7	15.4	28.1	5.7
2	4F-25	027	接合2	VI-V	67.826	剥片	黒曜石	7.1	31.8	29.9	8.3
3	4F-26	029	接合1	VI-V	68.080	敲石	砂岩	23.6	-	-	-
	4F-26	033		III	68.222	剥片	安山岩	34.7	41.0	40.3	21.5
	4F-26	075		VI-V	68.012	剥片	珪質頁岩	1.1	19.4	18.9	5.2
2	4F-26	082	接合2	VI-V	67.924	剥片	黒曜石	7.1	-	-	-
	4F-26	084		VI-V	67.984	ナイフ形石器	珪質頁岩	11.3	58.5	16.3	13.1
	4F-35	003		III	68.153	剥片	黒曜石	0.5	12.7	16.5	3.0
8	4F-35	009		III	68.086	剥片	黒曜石	1.0	15.6	18.6	6.2

第4表 ブロック外石器属性

図 No.	グリッド	遺物No.	接合	層位	標高	器種	石材	重量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
9	6G-01	001		IX層上部	67.946	ナイフ形石器	頁岩	1.1	37.4	10.1	4.2
10	6A-06	001		IXc	64.435	剥片	安山岩	9.9	38.4	31.3	7.4
	6D-55	001			69.749	礫		5.2			

第5表 1号礫群属性

グリッド	遺物No.	接合	標高	石材	質量(g)	完破	赤化
4F-15	003	接合1	68,082	砂岩	8.9	破損	
4F-15	004		68,092	チャート	5.7	破損	赤化
4F-15	005	接合1	68,057	斑岩	25.4	破損	赤化
4F-15	006		68,050	砂岩	16.3	破損	
4F-16	001		68,001	チャート	32.1	破損	赤化
4F-25	006		68,272	砂岩	26.8	破損	
4F-25	007		68,070	チャート	23.9	破損	赤化
4F-25	008		68,034	チャート	1.3	破損	
4F-25	012		68,219	チャート	11.4	破損	
4F-25	013		68,302	凝灰岩	9.2	破損	
4F-25	017		68,167	砂岩	0.8	破損	
4F-25	020		67,989	チャート	27.1	破損	
4F-25	022		68,045	砂岩	71.0	破損	
4F-25	026		67,957	チャート	27.8	破損	
4F-26	001		68,244	チャート	2.4	破損	
4F-26	001		67,244	チャート	1.1	破損	
4F-26	001		68,244	チャート	0.8	破損	
4F-26	002	接合2	68,070	砂岩	177.8	破損	赤化
4F-26	003		68,084	チャート	6.1	破損	
4F-26	004		68,130	砂岩	2.5	破損	
4F-26	005		68,152	凝灰岩	49.8	破損	
4F-26	006		68,082	砂岩	68.0	完形	
4F-26	008		68,148	チャート	29.3	破損	
4F-26	009		68,167	砂岩	23.2	破損	
4F-26	010		68,067	砂岩	20.2	破損	
4F-26	011	接合2	68,106	砂岩	7.1	破損	赤化
4F-26	012		68,336	砂岩	14.4	破損	
4F-26	013		68,335	頁岩	29.9	破損	赤化
4F-26	014		68,173	頁岩	8.4	破損	
4F-26	015		68,240	砂岩	61.4	破損	赤化
4F-26	016		68,222	凝灰岩	16.0	破損	
4F-26	017	接合3	68,137	斑岩	14.9	破損	
4F-26	018		68,112	砂岩	45.3	破損	赤化
4F-26	019		68,093	凝灰岩	4.7	破損	赤化
4F-26	020		68,112	斑岩	41.6	破損	
4F-26	021	接合3	68,122	斑岩	42.7	破損	
4F-26	022		68,279	チャート	6.1	破損	赤化
4F-26	023		68,117	砂岩	26.5	破損	赤化
4F-26	025		68,277	チャート	17.9	破損	赤化
4F-26	027		68,120	チャート	25.0	破損	赤化
4F-26	030		68,072	砂岩	68.9	完形	
4F-26	031	接合4	68,082	頁岩	9.8	破損	
4F-26	032	接合5	68,307	砂岩	58.0	破損	
4F-26	034	接合6	68,056	斑岩	33.8	破損	
4F-26	035		68,118	砂岩	25.3	破損	
4F-26	036		68,152	チャート	21.7	破損	赤化
4F-26	037		68,090	凝灰岩	8.3	破損	赤化
4F-26	037		68,090	砂岩	4.5	破損	
4F-26	038	接合5	68,086	砂岩	2.6	破損	
4F-26	040		68,310	凝灰岩	10.0	破損	
4F-26	041		68,167	チャート	15.4	破損	
4F-26	042	接合7	68,150	砂岩	46.0	破損	
4F-26	043		68,078	チャート	1.8	破損	
4F-26	044	接合8	68,133	砂岩	31.2	破損	
4F-26	045			チャート	110.6	破損	
4F-26	045			チャート	66.4	破損	
4F-26	046		68,057	チャート	26.3	破損	
4F-26	047		68,025	砂岩	9.5	破損	
4F-26	048	接合4	68,028	頁岩	3.8	破損	

グリッド	遺物No.	接合	標高	石材	質量(g)	完破	赤化
4F-26	049		68,067	砂岩	6.4	破損	
4F-26	050		67,985	砂岩	4.5	破損	
4F-26	051		68,068	チャート	1.5	破損	
4F-26	052		68,052	チャート	7.5	破損	
4F-26	053		68,031	砂岩	5.2	破損	
4F-26	054		68,068	斑岩	8.5	破損	
4F-26	055		68,056	チャート	5.6	破損	
4F-26	056	接合9	68,067	斑岩	20.4	破損	
4F-26	057		68,055	斑岩	38.0	完形	
4F-26	058		68,088	チャート	2.1	破損	
4F-26	059		68,051	砂岩	39.2	破損	
4F-26	060		68,051	安山岩	93.6	完形	
4F-26	061		68,068	砂岩	54.8	破損	
4F-26	062	接合8	68,048	砂岩	19.2	破損	
4F-26	063		67,993	チャート	11.0	破損	
4F-26	064		68,066	チャート	88.6	完形	
4F-26	065		68,024	砂岩	2.0	破損	
4F-26	066		68,065	チャート	20.9	破損	
4F-26	067	接合10	68,050	チャート	11.9	破損	
4F-26	068		68,025	チャート	1.3	破損	
4F-26	069		68,022	砂岩	17.5	破損	
4F-26	070		68,052	砂岩	57.8	破損	
4F-26	071		68,056	斑岩	13.1	破損	
4F-26	072		68,034	斑岩	131.6	破損	
4F-26	073	接合11	68,039	斑岩	3.2	破損	
4F-26	074		67,987	チャート	4.7	破損	
4F-26	076		67,926	チャート	1.3	破損	
4F-26	077		67,996	チャート	3.8	破損	
4F-26	078		67,952	チャート	4.4	破損	
4F-26	079		68,027	砂岩	3.7	破損	
4F-26	081		67,948	砂岩	7.9	破損	
4F-26	083		67,921	砂岩	1.6	破損	
4F-26	085		68,034	チャート	36.4	破損	
4F-26	086		68,020	斑岩	66.9	破損	
4F-26	087		67,911	砂岩	5.4	破損	
4F-26	089		67,835	チャート	3.0	破損	
4F-26	090	接合10	67,784	チャート	8.8	破損	
4F-27	001		68,292	チャート	23.0	完形	
4F-27	001		68,292	砂岩	7.5	破損	
4F-27	002		68,278	斑岩	10.2	破損	
4F-27	003		68,297	チャート	13.1	破損	
4F-27	004	接合7	68,157	砂岩	44.1	破損	
4F-27	005		68,145	砂岩	25.8	破損	
4F-35	001		68,168	斑岩	40.9	破損	赤化
4F-35	002		68,198	斑岩	72.3	破損	赤化
4F-35	003	接合2	68,153	砂岩	86.4	破損	赤化
4F-35	004		68,202	チャート	5.7	破損	
4F-35	005		68,195	チャート	21.3	破損	
4F-35	006		68,163	斑岩	17.3	破損	
4F-35	007		68,199	砂岩	54.1	完形	
4F-35	010		68,125	砂岩	5.5	破損	
4F-36	001		68,160	斑岩	54.9	破損	
4F-36	001		68,160	斑岩	19.7	破損	
4F-37	001	接合6	68,190	斑岩	54.8	破損	
4F-37	002	接合9	68,187	斑岩	47.8	破損	
4F-37	002	接合11	68,187	斑岩	1.2	破損	
4F-37	003		68,178	チャート	16.8	破損	
4F-37	004		68,303	砂岩	24.8	破損	赤化

第3節 縄文時代（第31～34図，図版12・13・39）

縄文時代の遺構は，陥穴12基，土坑1基が検出された（第31図）。これらの遺構は，全てⅢ層（ソフトローム）上面において検出したものである。また，調査区全体から，若干の土器及び礫が出土した。

1 陥穴（第32・33図，図版12・13）

検出した陥穴12基からは，いずれも遺物が検出されなかった。従って，構築時期については，不明確である。だが，後述する遺構外出土土器を見ると，後期前半のものに限られていることから，おおむねこの時期と大差ないものと考えたい。また，平面形態は，いずれも長楕円形を基本とする細長いものである。

P 001

6E-52グリッド付近に位置する。長軸方向はN-22°-Wである。規模は，長軸が2.3m，短軸が1.3m，確認面からの深さが2.0mほどである。短軸は底面に向かって狭まり，断面形が逆V字状になる。また，長軸北側壁面は，下半で16cmほど外側へ抉れている。

P 002

5G-04グリッド付近に位置する。長軸方向はN-36°-Wである。規模は，長軸が3.9m，短軸が0.9m，確認面からの深さが1.0mほどである。短軸の断面は，逆台形状になる。また，長軸方向の北側壁面は，30cmほど外側へ抉れている。

P 003

4G-96グリッド付近に位置する。長軸方向はN-63°-Wである。規模は，長軸が3.1m，短軸が0.7m，確認面からの深さが0.9mほどである。短軸の断面は，上半で大きく開くY字形状になる。

P 004

5G-49グリッド付近に位置する。長軸方向はN-4°-Wである。規模は，長軸が3.8m，短軸が1.7m，確認面からの深さが0.6mほどである。短軸断面は半円形状をなし，底面は凹凸が激しい。

P 005

4G-62グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形，長軸方向は，ほぼ真北である。規模は，長軸が3.4m，短軸が0.9m，確認面からの深さが1.3mほどである。短軸断面は，上半でやや開くY字形状になる。長軸の両端は，ほぼ垂直の壁面である。

P 006

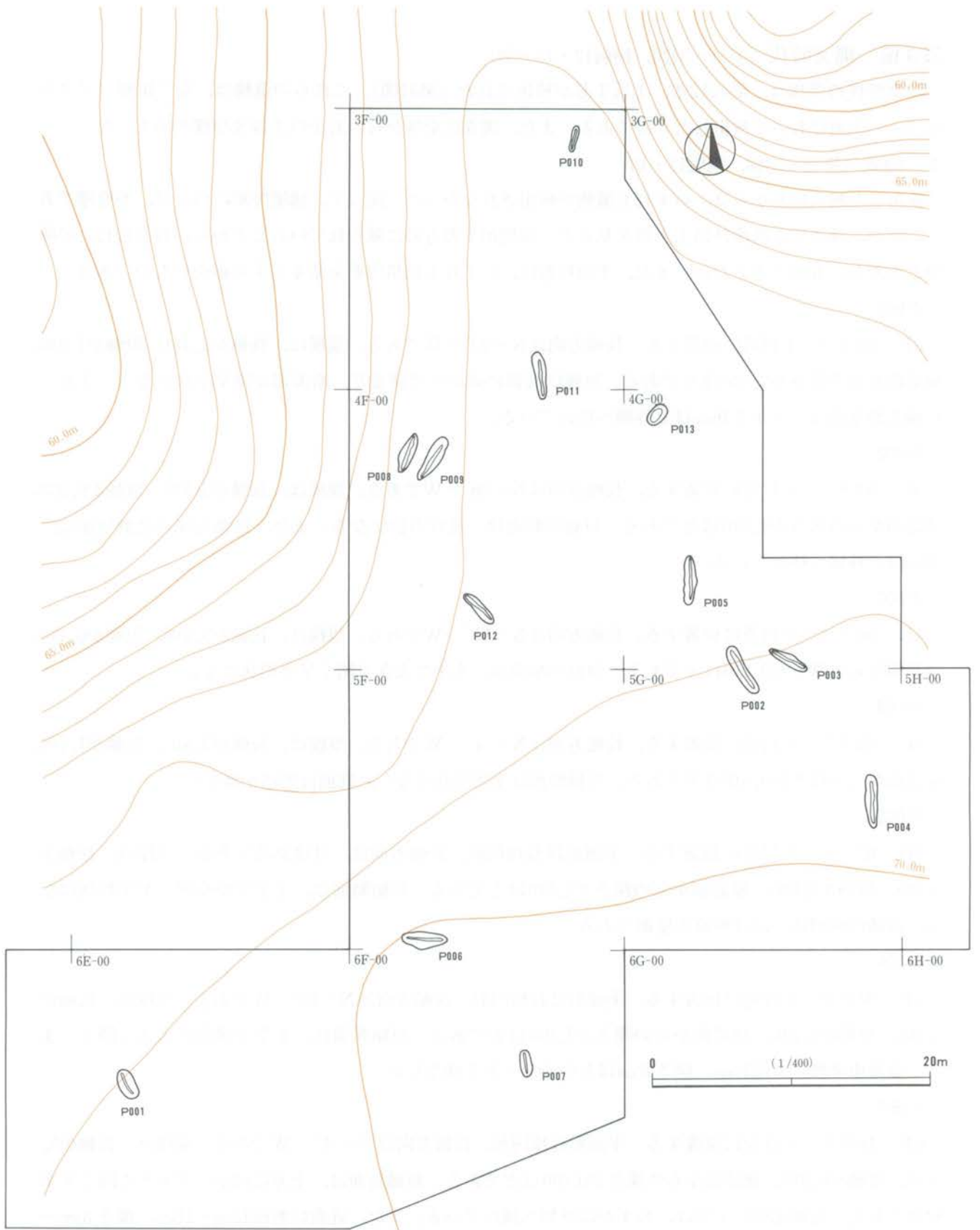
5F-92グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形，長軸方向はN-86°-Wである。規模は，長軸が3.3m，短軸が1.2m，確認面からの深さが1.0mほどである。短軸断面は，上半で皿状に大きく開く。また，底面中央部に直径12cm，深さ8cmほどの小ピットを検出した。

P 007

6F-46グリッド付近に位置する。平面形は楕円形，長軸方向はN-4°-Wである。規模は，長軸が1.9m，短軸が0.9m，確認面からの深さが0.9mほどである。短軸断面は，上方に向かって大きく開くV字形状である。長軸北壁の下半は，わずかに外側へ抉れている。また，底面に直径12cm～16cm，深さ3cm～5cmほどの小ピットを4基，隣接した状態で検出した。

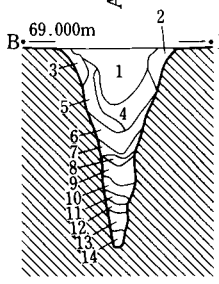
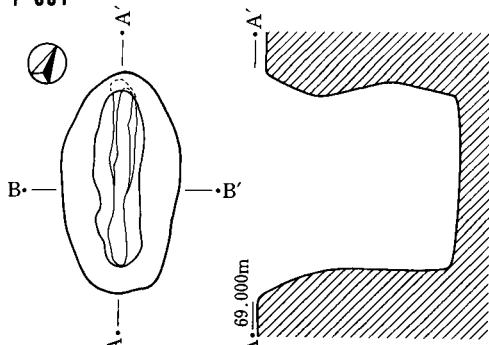
P 008

4F-22グリッド付近に位置する。長軸方向はN-20°-Eである。規模は，長軸が3.0m，短軸が1.0m，確認面からの深さが1.0mほどである。短軸の断面は，おおむねY字形状であるが，西側上半で大きく開



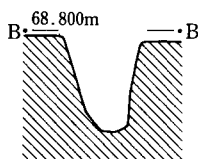
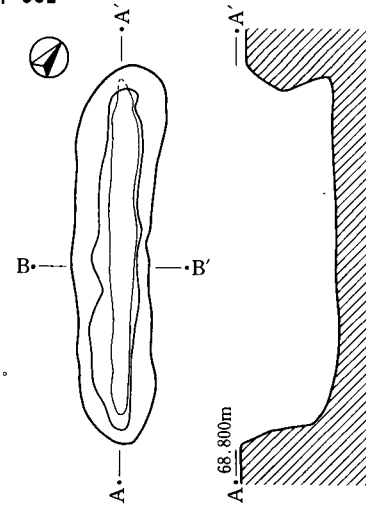
第31図 縄文時代遺構配置

P001

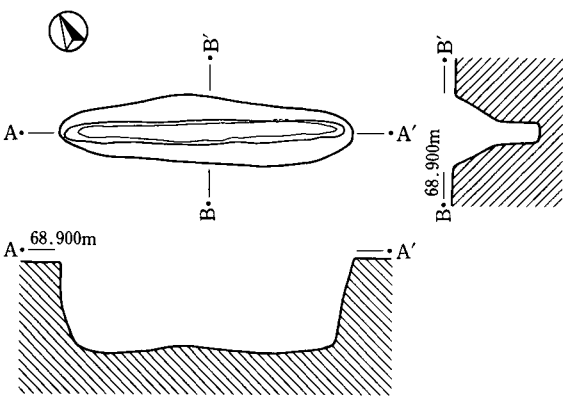


- | | |
|----------|--------------------|
| 1. 黒褐色土 | ローム粒をわずかに含む。しまり欠く。 |
| 2. 暗褐色土 | 黄褐色土を含む。 |
| 3. 黄褐色土 | 暗褐色土を含む。しまり欠く。 |
| 4. 暗褐色土 | しまり欠く。 |
| 5. 暗褐色土 | ローム粒を含む。しまり欠く。 |
| 6. 暗褐色土 | ローム粒を含む。 |
| 7. 黄褐色土 | ハードロームブロック主体。 |
| 8. 黒褐色土 | しまり欠く。 |
| 9. 暗黄褐色土 | ローム粒主体。 |
| 10. 暗褐色土 | ローム粒を若干含む。 |
| 11. 黄褐色土 | ハードロームブロックを含む。 |
| 12. 黒褐色土 | ローム粒を含む。しまり欠く。 |
| 13. 黄褐色土 | 密でしまりよし。 |
| 14. 暗褐色土 | しまりややよし。 |

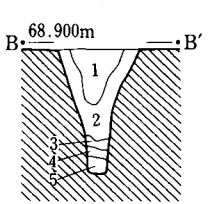
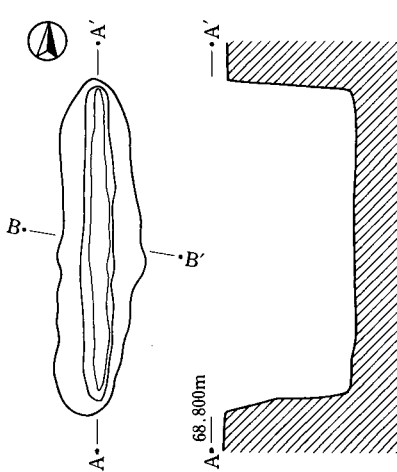
P002



P003

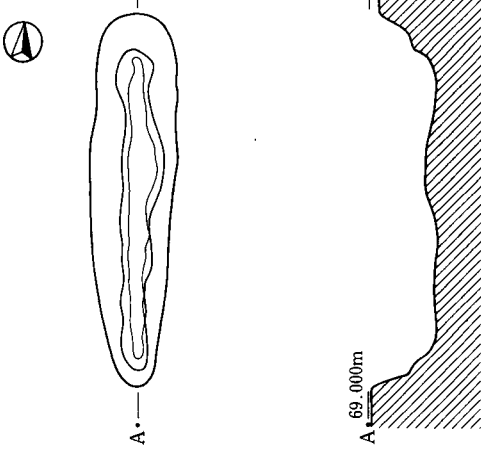


P005

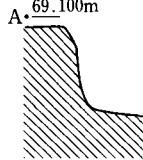
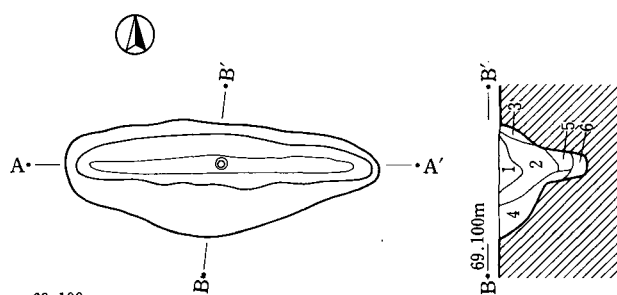


- | | |
|---------|-----------------|
| 1. 暗褐色土 | ローム粒を含む。 |
| 2. 黄褐色土 | ソフトローム主体。 |
| 3. 暗褐色土 | ローム粒を含む。しまり欠く。 |
| 4. 黄褐色土 | ソフトローム主体。しまり欠く。 |
| 5. 黒褐色土 | しまり欠く。 |

P004

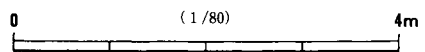


P006



- | | |
|----------|------------|
| 1. 暗褐色土 | ローム粒を若干含む。 |
| 2. 暗黄褐色土 | 暗褐色土を含む。 |
| 3. 黄褐色土 | しまりよし。 |
| 4. 黄褐色土 | 暗褐色土を少量含む。 |
| 5. 暗黄褐色土 | しまりよし。 |
| 6. 黒褐色土 | ローム粒を含む。 |

第32図 陥穴 (1)



く部分がある。また、底面北半に3基の小ピットを検出した。ピットは、直径、深さとも5cmほどで、間隔を開けて配置されている。

P009

4F-23グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形、長軸方向はN-33°-Eである。規模は、長軸が3.6m、短軸が1.1m、確認面からの深さが1.4mほどである。短軸断面は、確認面近くで大きく開くY字形状である。また、底面中央部付近に2基の小ピットを検出した。ピットは、直径8cm及び12cm、深さ4cmほどであり、間隔を開けて配置されている。

P010

3F-18グリッド付近に位置する。平面形は隅丸長方形、長軸方向はN-12°-Eである。規模は、長軸が1.8m、短軸が0.5m、確認面からの深さが0.8mほどである。短軸断面は、逆台形状である。

P011

3F-97グリッド付近に位置する。長軸方向はN-6°-Wである。規模は、長軸が3.4m、短軸が0.9m、確認面からの深さが0.6mほどである。短軸断面は、V字状である。長軸北壁は段を持ちながら緩く立ち上がっている。また、底面中央部に直径12cm、深さ10cmほどの小ピットを検出した。

P012

4F-85グリッド付近に位置する。長軸方向はN-49°-Wである。規模は、長軸が3.0m、短軸が0.8m、確認面からの深さが1.2mほどである。短軸断面は、おおむね逆台形状である。また、底面北半部に小ピットを4基検出した。ピットは、直径8cm~16cm、深さ5cm~18cmほどである。長軸北壁に接するものが、最も深く、他の3基と間隔を開けて配置されている。

2. 土坑 (第33図)

P013

4G-11グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-47°-Eである。規模は、長軸が1.7m、短軸が1.1m、確認面からの深さが0.3mほどである。断面形は、皿状である。

遺物は、2次加工を有する剝片1点(1.38g)(第34図4)、礫片4点(9.00g)を検出した。4は良質の黒曜石を用い、右側縁及び左側縁下半部に2次加工を施している。形状から、石鏃の未製品の可能性もある。礫片はいずれも小片で、赤化している。石材は、砂岩及びチャートである。このうちチャートのもの1点は、薄く、剝片状であるが、被熱の際、摂理面にそって割れたものと考えられる。

3. 遺構外出土遺物 (第34図, 図版39)

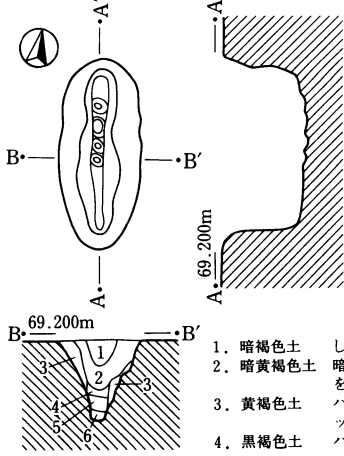
遺構外から出土した遺物は、縄文時代及び古墳時代のものが認められる。

縄文時代の遺物は、後期堀之内式~加曽利B式土器片11点(200.7g)、磨石1点(595.9g)、礫25点(390.3g)である。磨石は被熱し、大半を欠損するが、片面に磨面が認められる。礫の内訳は、完形で赤化2点(145.3g)、完形で非赤化15点(128.3g)、破損で赤化3点(45.6g)、破損で非赤化5点(71.1g)である。

古墳時代の遺物は、土師器片2点(13.4g)出土した。いずれも高杯の杯部破片で、前期の所産である。このうち1点は、内外面に赤彩が施されている。

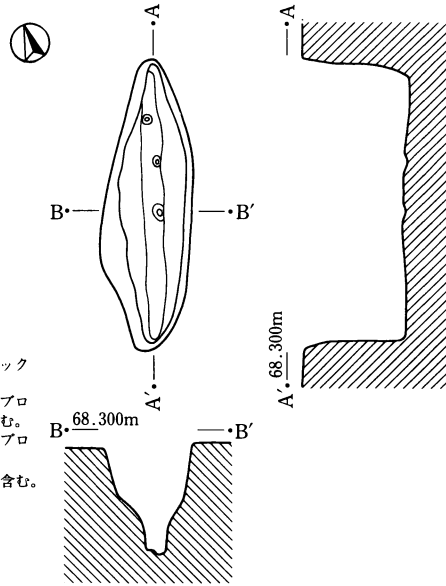
本報告では、縄文土器3点を図示した(第34図1~3)。1は、口縁部付近でやや内傾し、緩い波状口縁になる小型土器である。口縁部には、刺突の加わる断面三角形の細隆線が巡る。器壁は薄く、器面には

P007

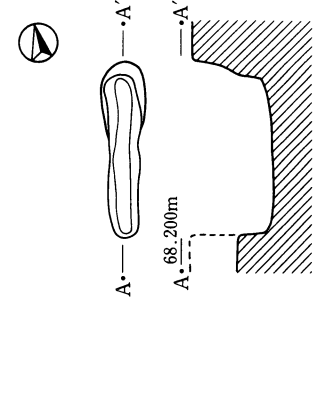


1. 暗褐色土 しまり良し。
2. 暗黄褐色土 暗褐色土ブロックを含む。
3. 黄褐色土 ハードロームブロックを多く含む。
4. 黒褐色土 ハードロームブロックを含む。
5. 暗褐色土 ロームを少し含む。
6. 暗褐色土 しまり良し。

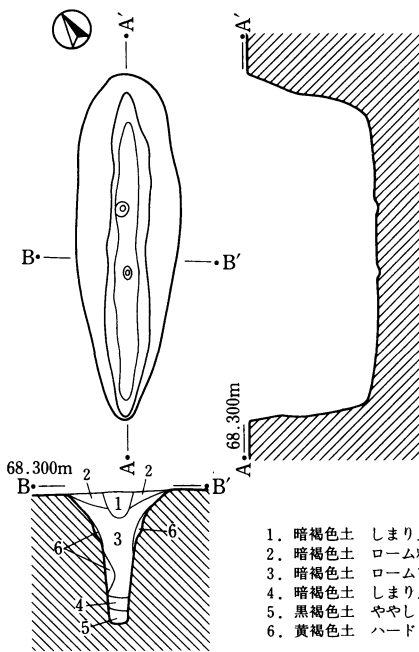
P008



P010

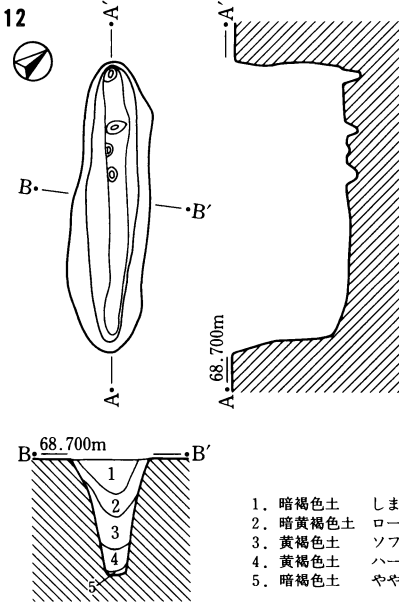


P009



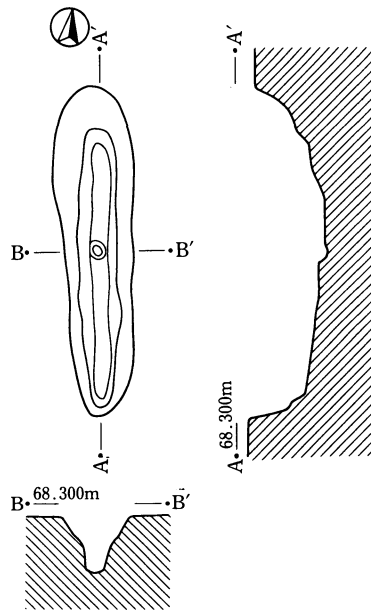
1. 暗褐色土 しまり良し。
2. 暗褐色土 ローム粒を含む。
3. 暗褐色土 ロームブロックを含む。
4. 暗褐色土 しまり良し。
5. 黒褐色土 ややしまりを欠く。
6. 黄褐色土 ハードロームブロックを含む。崩落土。

P012

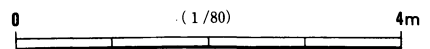
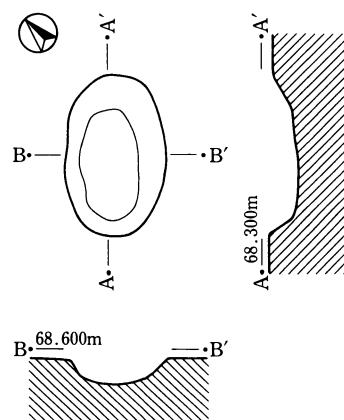


1. 暗褐色土 しまり良し。
2. 暗黄褐色土 ローム粒を含む。
3. 黄褐色土 ソフトローム主体。
4. 黄褐色土 ハードローム粒を含む。
5. 暗褐色土 ややしまりを欠く。

P011

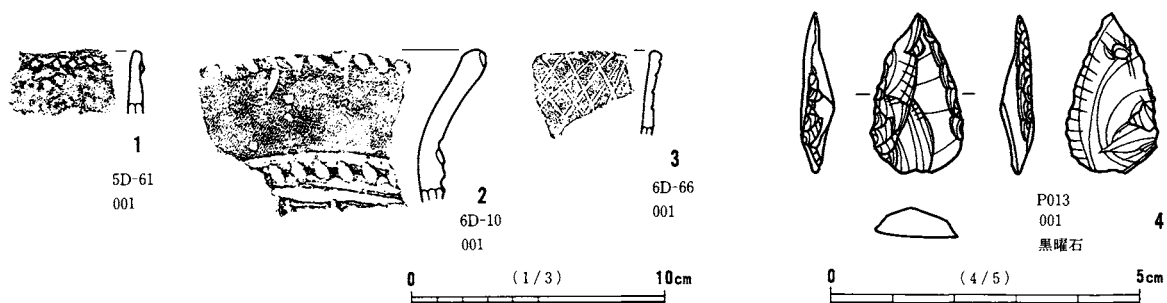


P013



第33図 陥穴(2)・土坑

成形時の指頭圧痕を顕著に残す。色調は赤褐色である。2は、口縁部が大きく外反し、口唇部外端には刻みが施される。屈曲部には、2条ないし3条の沈線を巡らし、沈線間に刺突文を施す。器面調整は、内外面とも丁寧なミガキである。焼成は良好で、色調は明褐色を呈する。3は、口縁部付近でやや外反する小型土器である。細沈線により、格子目状文が施されている。



第34図 出土遺物

第6章 ヤジ山遺跡

第1節 概要 (第35～37図, 図版15)

ヤジ山遺跡は市原市深城字ヤジ山282-1ほかに所在する。遺跡は、南側が椎津川の支流である深城川に、北側は立野川左岸に注ぐ支谷に面する、標高約67mの台地(丘陵)上に展開する。今回の調査区は、こうした台地の南側先端部にあたる。なお、調査区中央部のやや西よりの部分は、深城川に注ぐ小支谷によって、大きく挟られているような形になっている。

第1章で記したように、遺跡を分割する形で、調査は3か年にわたって行われた(第35図)。各年度の確認調査の結果、遺構及び遺物の分布が見られた上層5,690㎡、下層1,880㎡を本調査範囲とした(第36・37図)。なお、上層本調査区は、5か所に分かれるため、それぞれの地区に①～⑤の枝番を付し、本調査区①①というように呼称する(第36図)。そして、本調査の結果、旧石器時代遺物集中地点7か所、縄文時代の竪穴住居跡1軒、炉穴37基、陥穴14基、土坑22基、溝状遺構2条を検出した。

なお、今回調査範囲の北側、有秋台団地へ通ずる道路の拡幅部分を(財)市原市文化財センターが、不入斗元居原遺跡¹⁾として、平成4年度に確認調査を実施している。その調査結果では、土師器及び礫が数点出土したのみであり、遺構等は検出されなかった²⁾。

第2節 旧石器時代 (第37～92図, 第6～17表, 図版27～29・40～47)

1 概要 (第37図)

本遺跡において、2m×2mのグリッド181か所724㎡において確認調査を行ったところ、7か所で旧石器時代の遺物の広がり確認され、各地点周辺1,880㎡において、旧石器時代の本調査を実施し、ブロック10か所を検出した(第37図)。

検出した10か所のブロックは、出土層位等によって5文化層に分けられた。

2 第1文化層

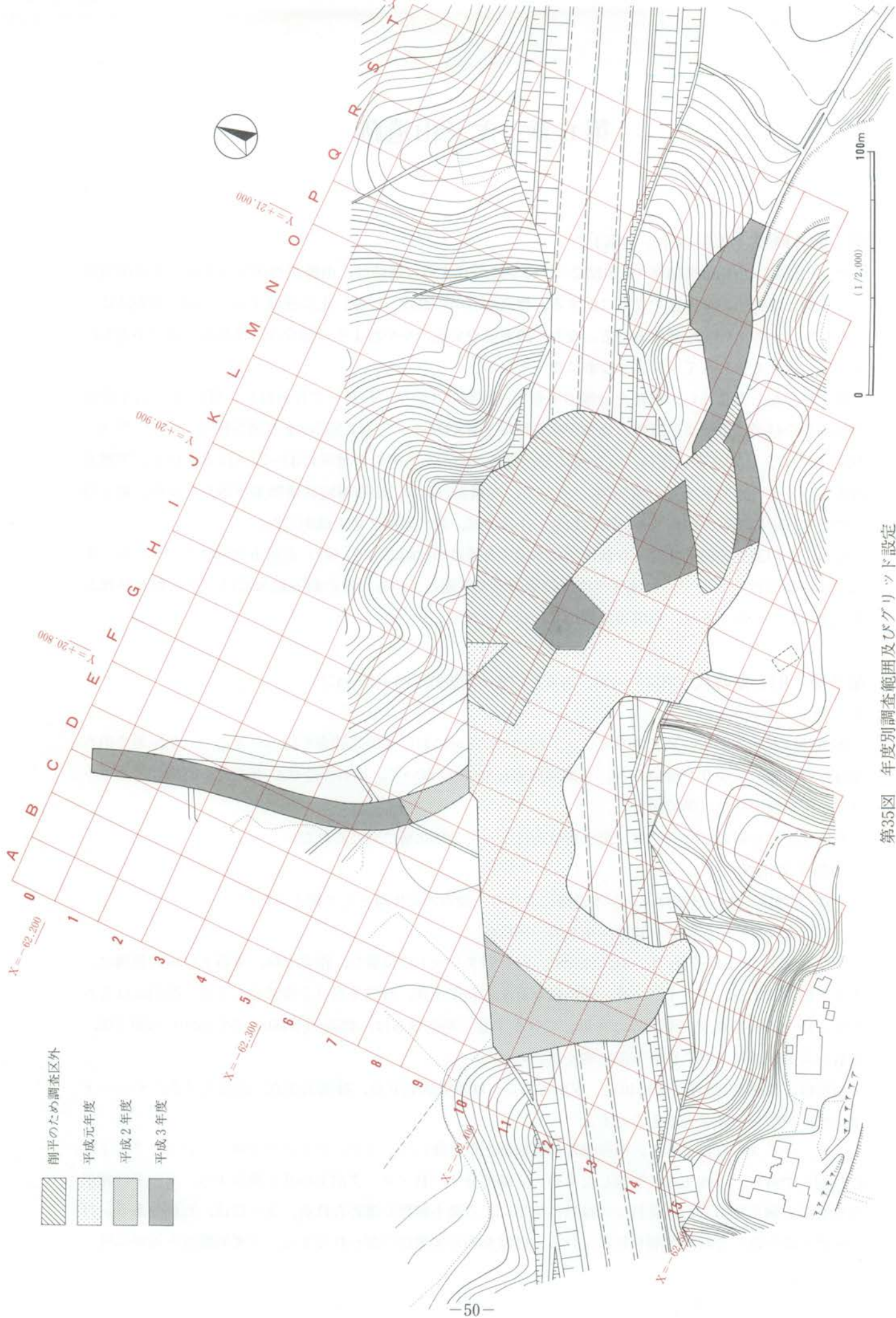
9G-27地区のA・Bブロックが本遺跡における、最古の文化層として捉えられた。

(1) Aブロック (第38～43図, 第6表, 図版40)

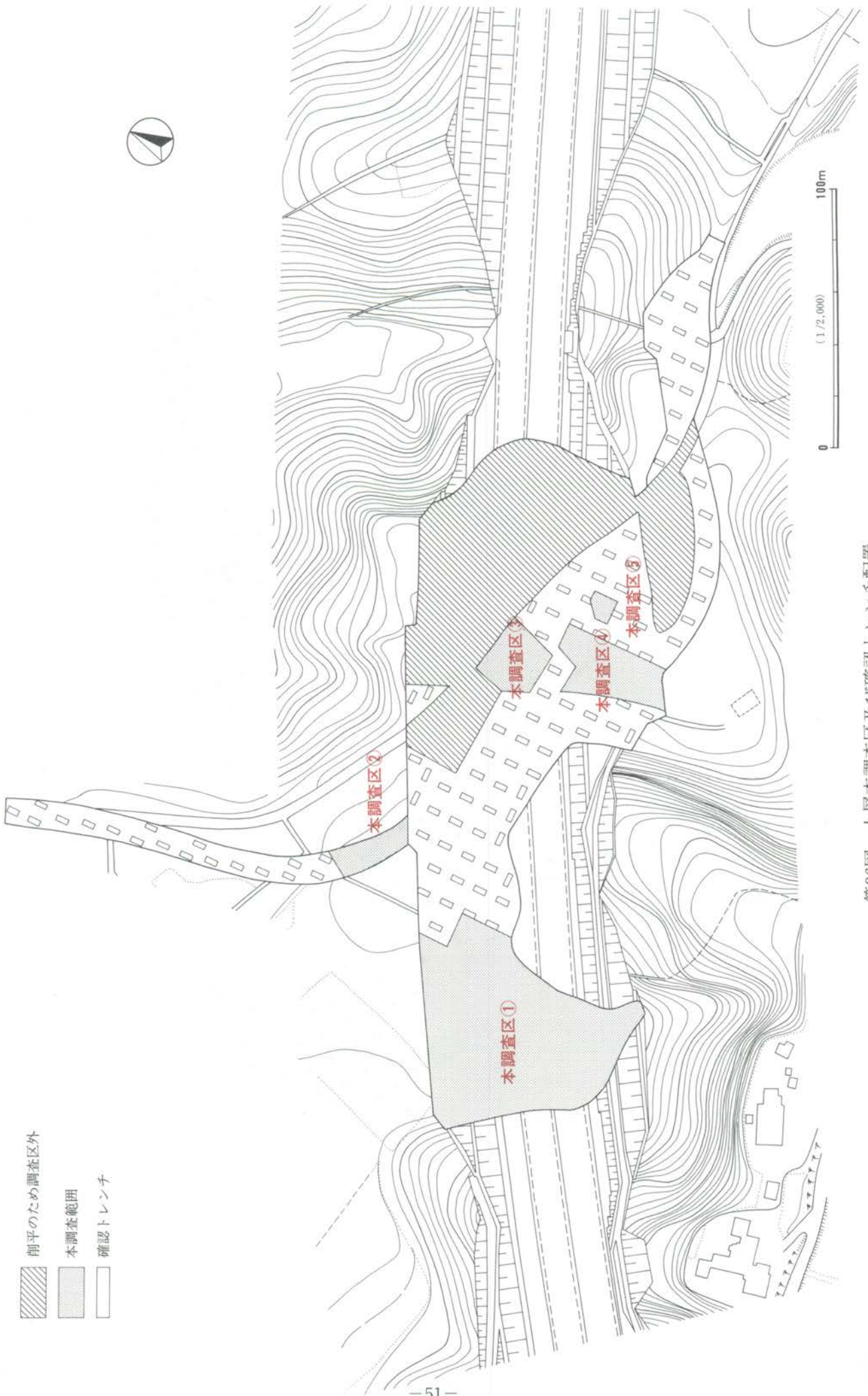
本ブロックは、8G-73～76, 8G-82～85, 8G-94グリッドに位置し、南北5m, 東西8m程の範囲に、ナイフ形石器1点、ブレイド3点、使用痕を有する剥片3点、石核4点(1点接合しており数的には5点となる)、剥片173点が、中央部に密集して分布する。垂直分布は、標高65.845m～66.550mの約0.7m、Ⅶ層からⅩ層の間、特にⅨ層下部に濃く認められた。

石材は、黒曜石157点、頁岩10点、安山岩7点、珪質凝灰岩6点、凝灰岩2点、流紋岩2点、チャート1点で、黒曜石がほぼ大半を占める。

1は、ナイフ形石器である。横長剥片の打面部を取り除いて、ブランディングを施している。2～4は、縦長剥片である。4は2点に分割したものの先端部分で、Bブロック出土の9と接合する。5～7は使用痕を有する剥片である。縦長剥片の縁辺に使用による微小剥離が認められる。8～11は、石核である。打面転移を繰り返して剥片剥離を行っている。ほぼ全面が剥離痕に覆われる8と、主要剥離面を器面に残し、



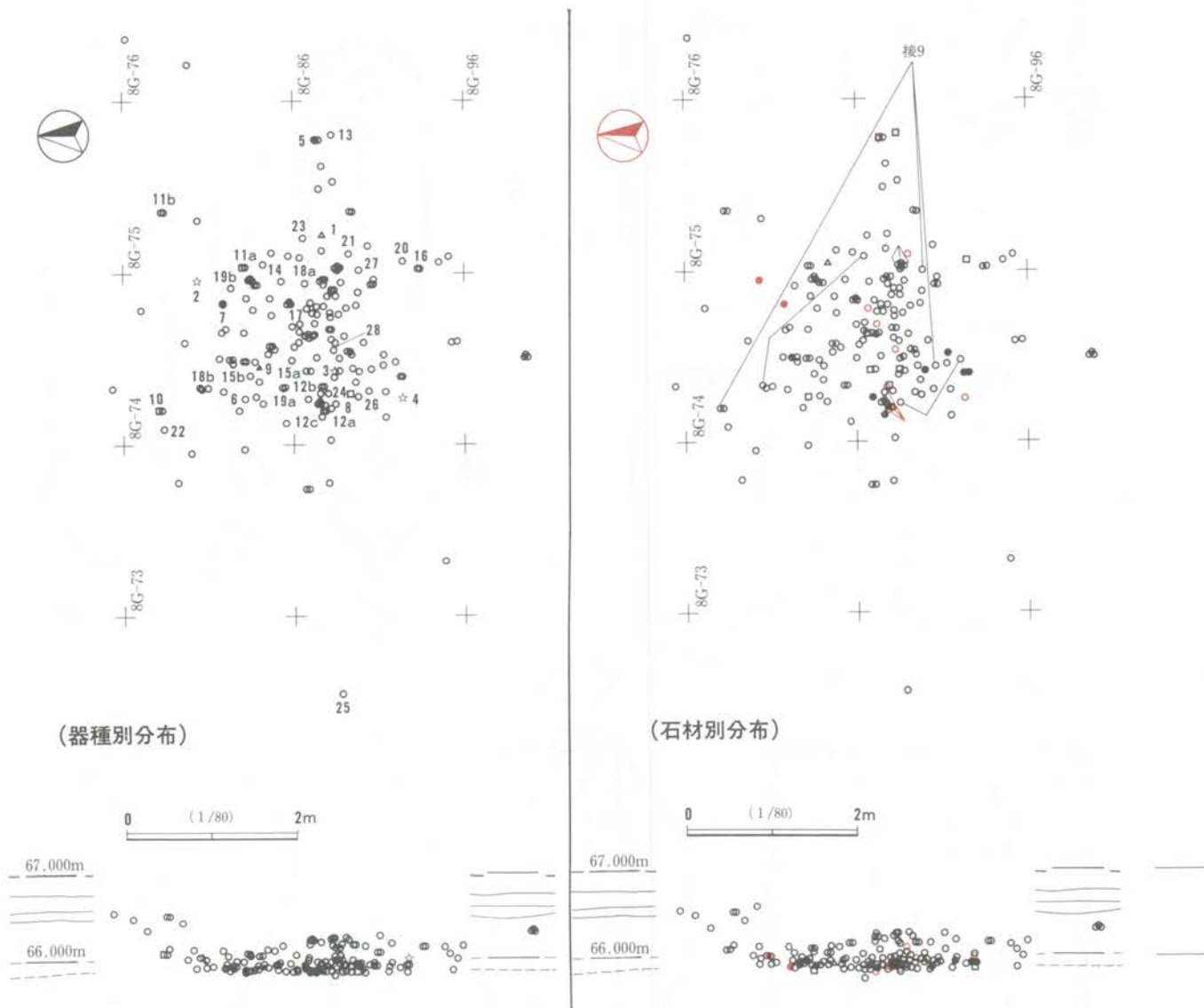
第35図 年度別調査範囲及びグリッド設定



第36図 上層本調査区及び確認トレンチ配置

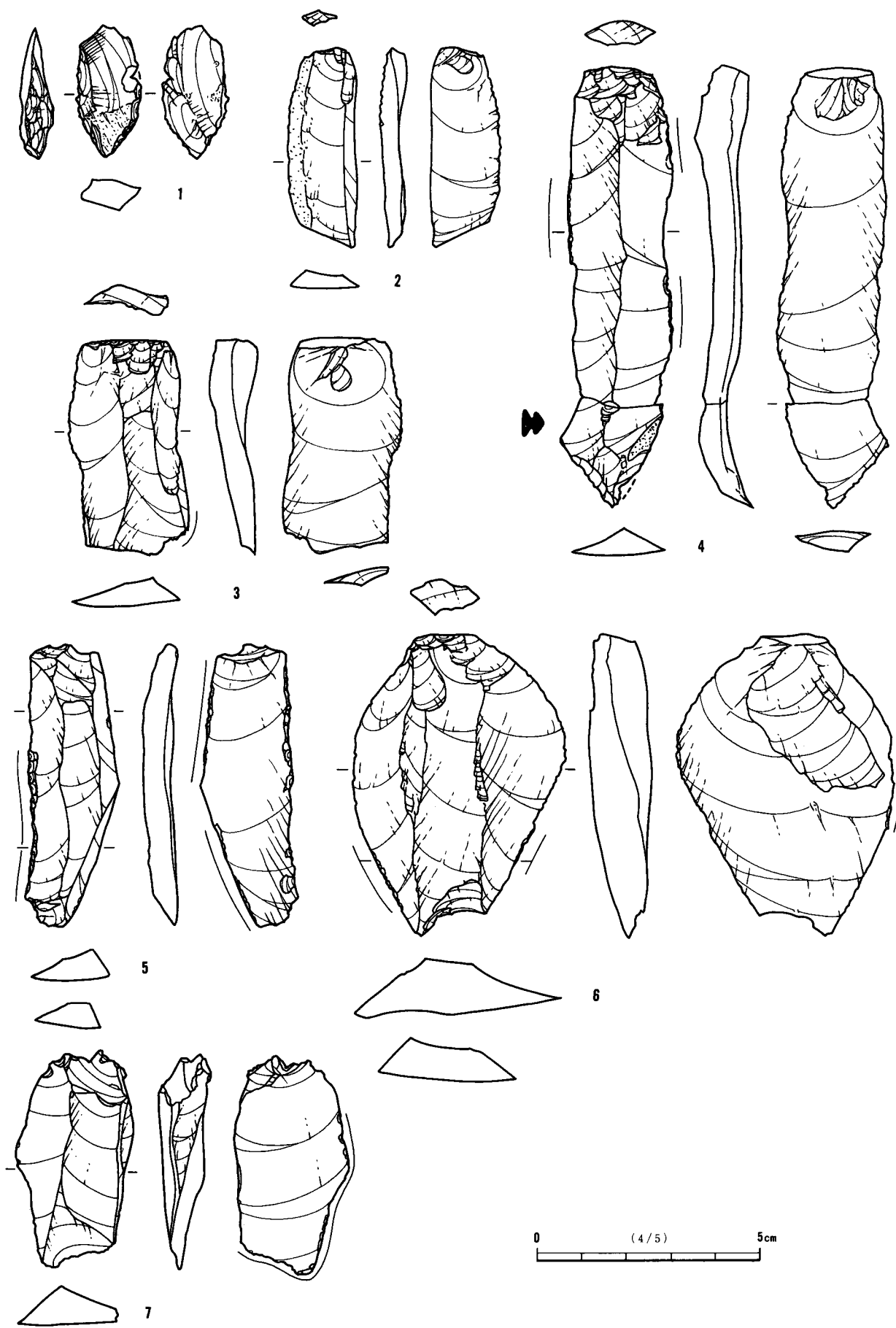


第37図 下層本調査区及び確認トレンチ配置

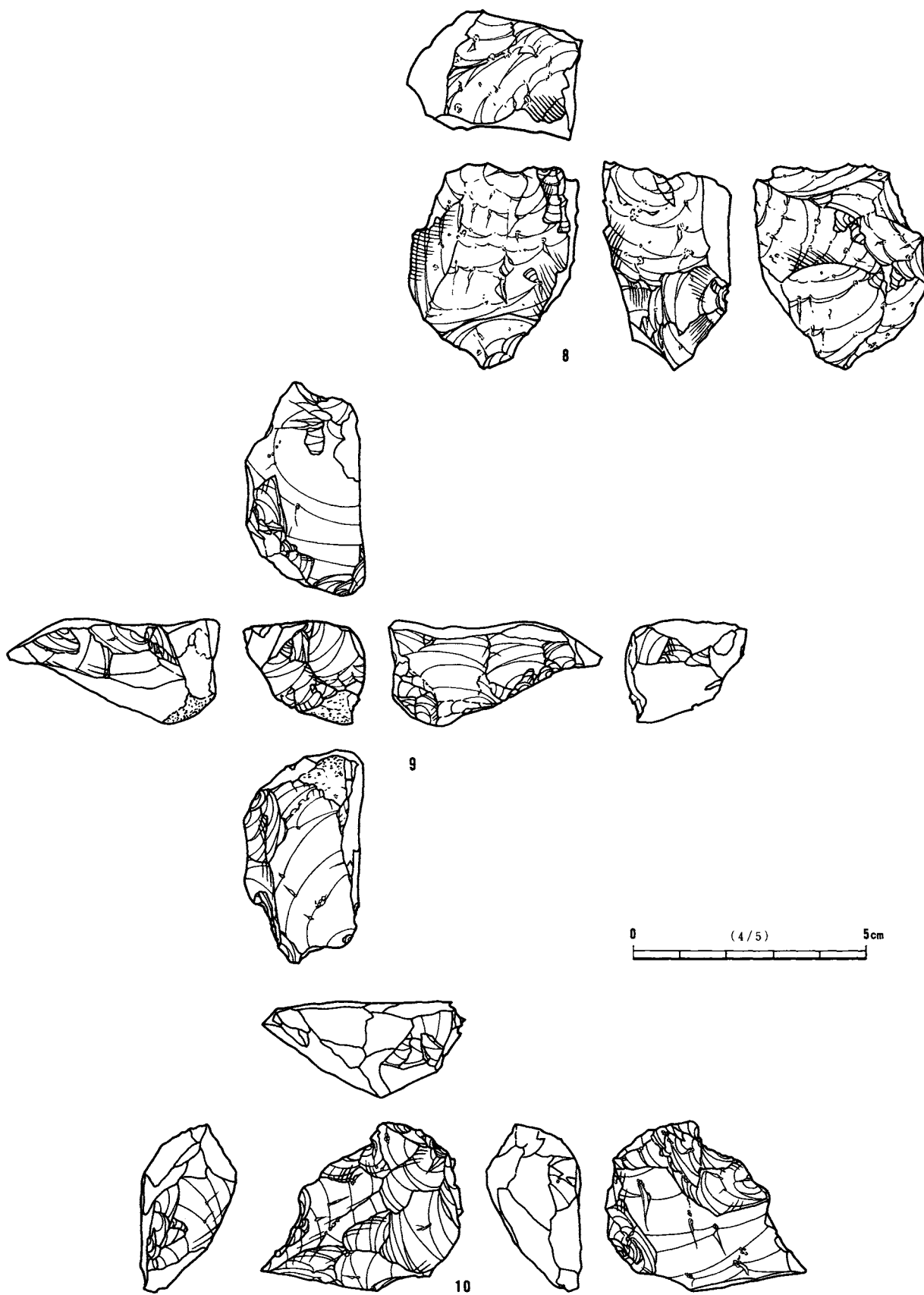


第38図 Aブロック出土状況

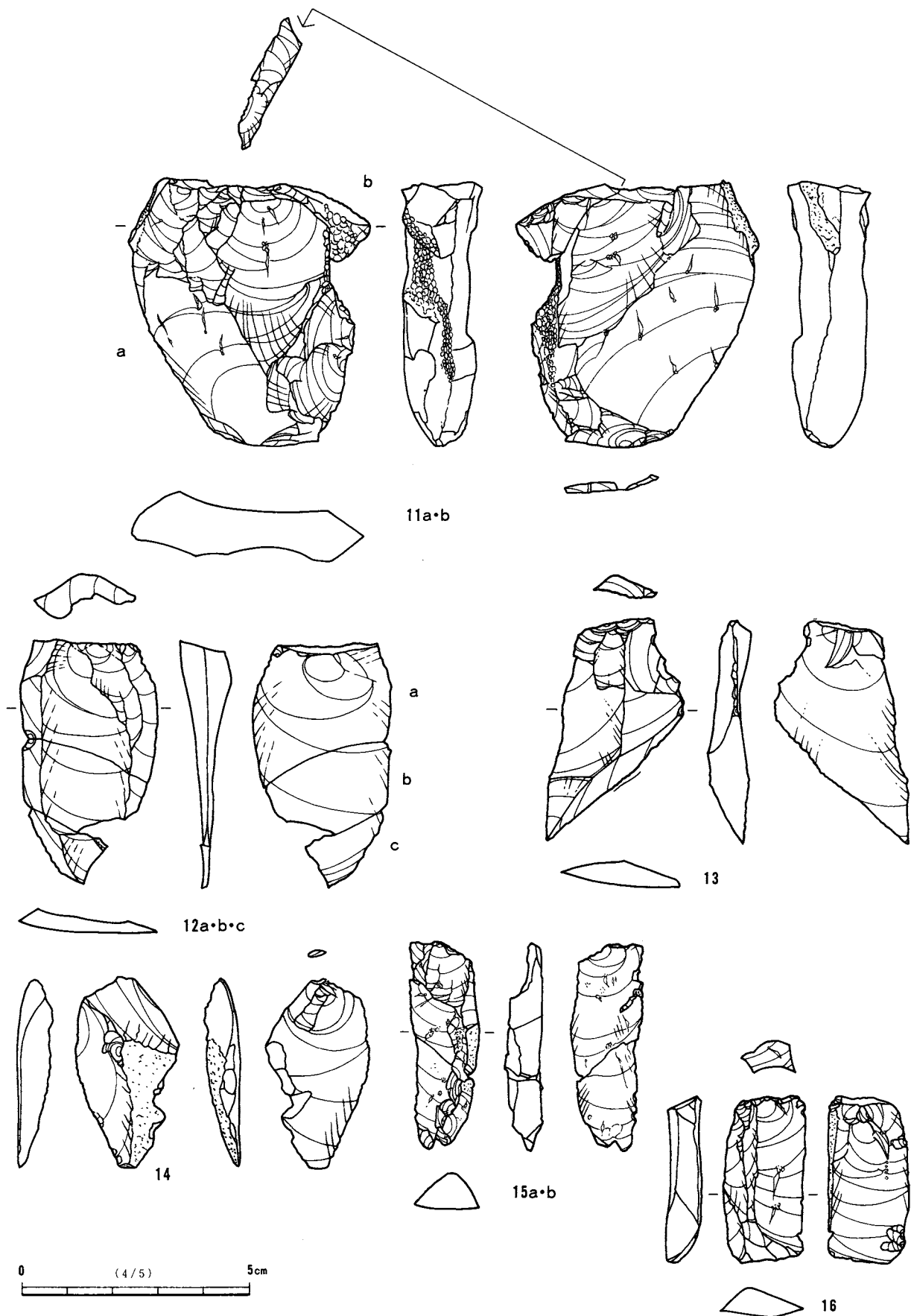
剥片を素材とした石核（9～11）の2種類が存在する。12～28は、剥片である。利器の素材となりそうな縦長剥片（12～16）と、石核となりそうな厚手の剥片（17～19）、石核や利器の調整剥片と思われるもの（23～28）がある。このうち19については、不純物を多く含み、これによって最終的な剥離がなされている。また、20～22は、縦長剥片が上下に分割したものと考えられる。



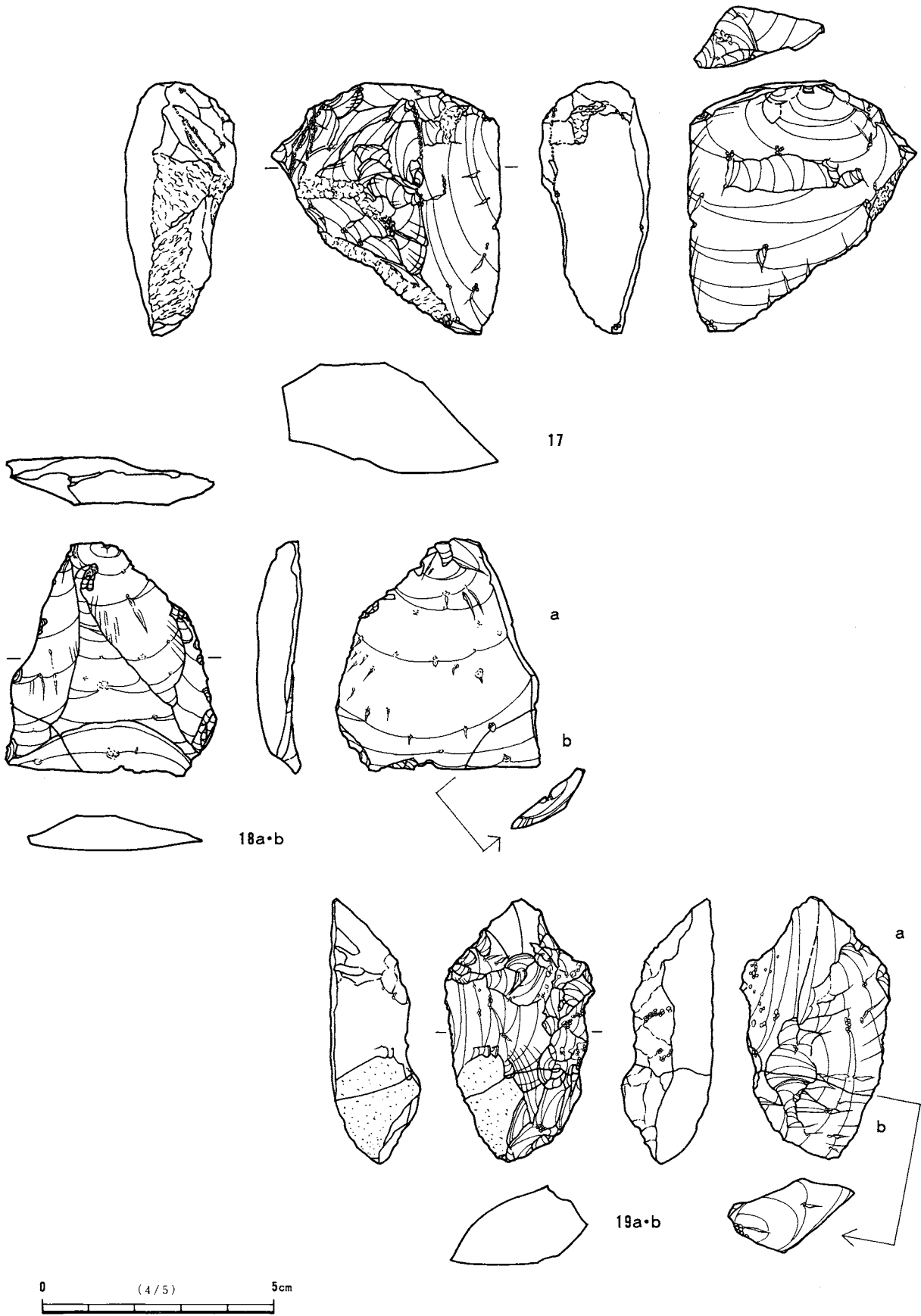
第39図 Aブロック出土石器(1)



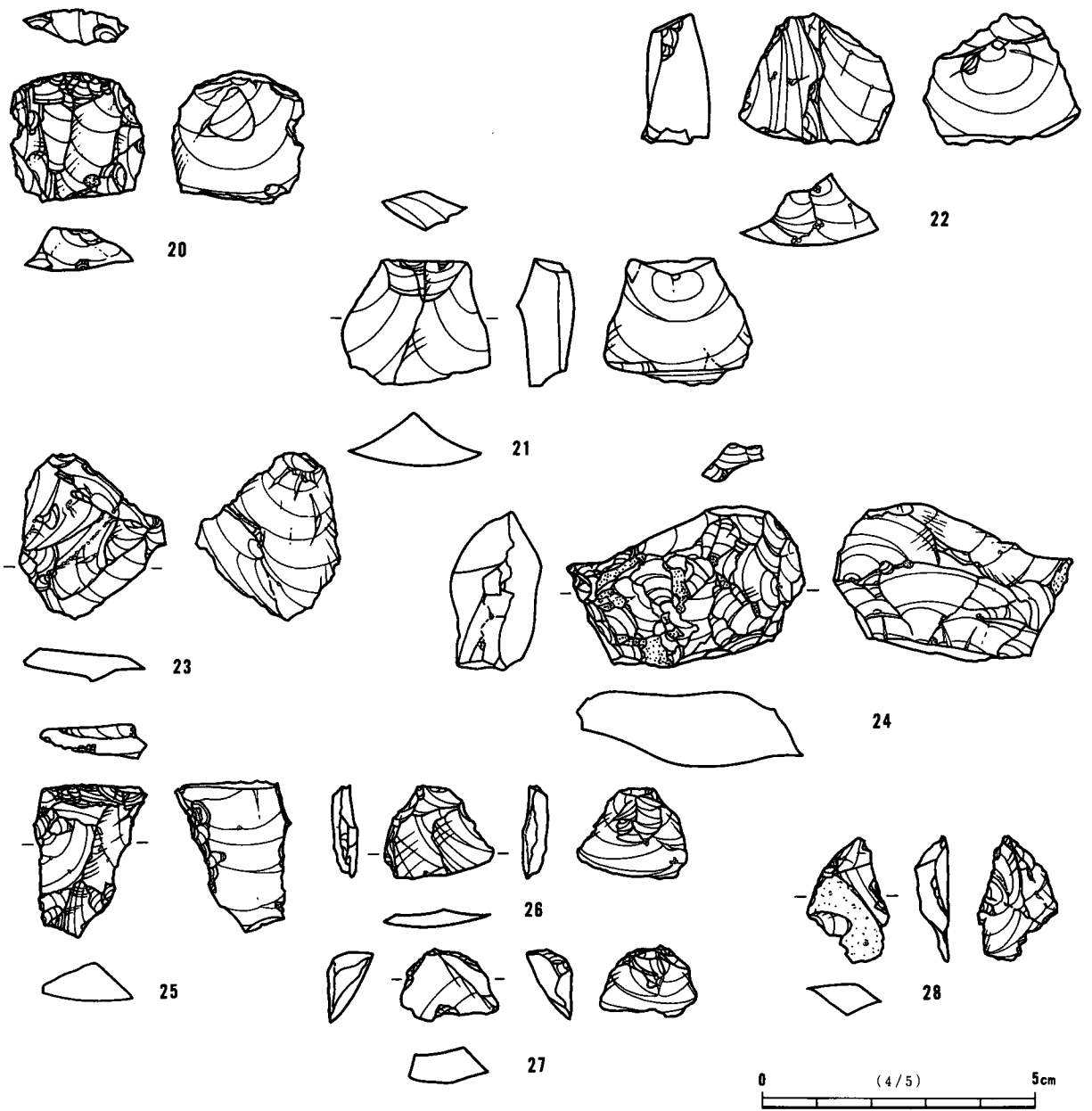
第40図 Aブロック出土石器(2)



第41図 Aブロック出土石器(3)



第42図 Aブロック出土石器(4)



第43図 Aブロック出土石器(5)

第6表 Aブロック遺物属性

図 No	遺物 No	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	9G-27-114		66.120	剥片	黒曜石	2	1.2	1.6	1.2	0.6
	9G-27-115		66.495	剥片	黒曜石	3	3.2	2.6	1.5	0.7
11 b	9G-27-116	接合4	66.530	石核	黒曜石	1	2.6	2.4	1.2	1.2
	9G-27-116		66.530	砕片	黒曜石	2	0.3	1.4	0.9	0.3
	9G-27-118		66.330	剥片	黒曜石	2	1.6	2.0	1.0	0.6
	9G-27-118		66.330	砕片	黒曜石	3	0.4	1.3	1.3	0.2
	9G-27-118		66.330	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-119		66.410	砕片	黒曜石	17	—	—	—	—
16	9G-27-120		66.173	剥片	黒曜石	2	5.3	3.6	1.7	0.7
	9G-27-120		66.173	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-121		66.180	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-122		66.266	砕片	黒曜石	2	0.2	1.3	0.7	0.2
27	9G-27-123	接合9	66.158	砕片	黒曜石	2	1.0	1.5	1.7	0.6
21	9G-27-124		65.995	剥片	頁岩	5	4.7	2.2	2.6	1.0
23	9G-27-125		66.000	剥片	黒曜石	2	4.5	2.5	2.6	0.8
	9G-27-126		66.240	砕片	黒曜石	6	0.2	0.8	1.1	0.2
	9G-27-126		66.240	砕片	黒曜石	3	—	—	—	—
	9G-27-127		66.187	剥片	黒曜石	2	1.2	2.0	1.1	0.6
	9G-27-128		66.162	剥片	黒曜石	2	1.3	1.6	1.3	0.7
17	9G-27-129		65.970	剥片	黒曜石	8	52.1	5.9	4.4	2.2
	9G-27-130		66.253	砕片	黒曜石	3	0.1	0.8	1.0	0.2
	9G-27-130		66.253	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-130		66.253	砕片	黒曜石	3	—	—	—	—
	9G-27-131		65.997	砕片	黒曜石	2	1.8	2.2	1.6	0.7
	9G-27-131		65.997	砕片	黒曜石	3	0.1	0.9	0.7	0.2
	9G-27-132		66.178	剥片	黒曜石	2	3.5	2.6	2.1	0.7
	9G-27-132		66.178	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-133		66.020	砕片	黒曜石	3	—	—	—	—
	9G-27-134		66.262	剥片	黒曜石	2	1.0	2.4	0.9	0.3
	9G-27-135		66.200	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
4	9G-27-136	接合14	66.023	縦長剥片	頁岩	1	2.9	2.6	1.9	0.6
	9G-27-137		65.988	砕片	黒曜石	3	0.5	1.4	1.2	0.4
	9G-27-138		65.960	砕片	黒曜石	2	0.4	1.3	1.1	0.4
	9G-27-138		65.960	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-139		65.957	砕片	安山岩	2	0.3	1.5	1.1	0.3
	9G-27-140		66.055	砕片	黒曜石	2	0.5	1.2	1.1	0.6
	9G-279-140		66.055	砕片	黒曜石	3	0.1	0.6	0.4	0.3
	G-27-141		65.954	砕片	黒曜石	2	0.9	1.4	1.2	0.5
19 a	9G-27-142	接合11	66.155	剥片	黒曜石	2	18.5	4.2	3.3	1.5
	9G-27-143		66.035	剥片	黒曜石	2	2.7	2.5	1.6	0.5
	9G-27-144		66.112	剥片	黒曜石	3	0.9	2.1	1.4	0.4
	9G-27-145		66.115	砕片	黒曜石	6	0.2	0.9	1.1	0.4
	9G-27-146		66.065	砕片	黒曜石	3	—	—	—	—
	9G-27-147		65.995	砕片	黒曜石	3	0.4	1.9	0.8	0.5
	9G-27-148		66.035	砕片	黒曜石	2	0.1	1.1	1.1	0.3
	9G-27-149		66.077	砕片	黒曜石	2	0.2	1.5	1.1	0.2
	9G-27-149		66.077	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-150		66.113	砕片	黒曜石	2	0.2	1.3	0.5	0.3
	9G-27-151		66.046	砕片	黒曜石	2	0.4	0.9	1.0	0.4
	9G-27-151		66.046	砕片	黒曜石	2	0.1	1.0	0.5	0.2
2	9G-27-152		66.012	縦長剥片	流紋岩	1	4.3	4.2	1.5	0.4
	9G-27-153		66.362	砕片	黒曜石	3	2.0	2.3	1.2	0.9
	9G-27-154		66.015	砕片	黒曜石	2	0.9	1.6	1.3	0.4
18 b	9G-27-155	接合16	66.000	砕片	黒曜石	3	0.7	1.2	1.9	0.4
10	9G-27-156	接合9	66.097	石核	黒曜石	2	22.0	4.5	2.9	1.6
	9G-27-156		66.097	砕片	黒曜石	2	0.4	1.2	0.9	0.4
22	9G-27-157		66.127	剥片	黒曜石	6	6.8	2.0	2.6	1.0

(第6表 続き)

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	9G-27-158		66.425	砕片	黒曜石	2	2.1	1.2	3.4	0.7
	9G-27-159		66.550	砕片	黒曜石	2	0.3	1.4	0.7	0.5
	9G-27-224		66.010	砕片	黒曜石	2	0.4	1.3	0.9	0.3
	9G-27-225		66.229	砕片	黒曜石	3	0.1	0.6	0.7	0.2
	9G-27-233		66.084	砕片	黒曜石	2	0.5	1.4	0.9	0.5
	9G-27-233		66.084	砕片	黒曜石	15	—	—	—	—
	9G-27-234		66.141	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-235		66.139	砕片	黒曜石	2	0.2	1.0	0.6	0.4
	9G-27-236		66.201	砕片	黒曜石	2	0.4	1.6	1.3	0.2
	9G-27-237		66.150	砕片	頁岩	2	0.2	0.9	0.9	0.2
	9G-27-238		66.180	砕片	黒曜石	2	0.1	0.8	0.5	0.4
	9G-27-239		65.968	砕片	黒曜石	3	—	—	—	—
	9G-27-240		65.955	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-241		65.988	砕片	黒曜石	3	0.3	1.5	1.0	0.5
	9G-27-243		65.985	砕片	黒曜石	2	0.3	0.9	0.8	0.4
	9G-27-243		65.985	砕片	黒曜石	2	0.1	0.8	0.4	0.3
	9G-27-245		66.035	砕片	黒曜石	2	0.2	1.0	0.6	0.5
	9G-27-246		66.035	砕片	黒曜石	2	0.2	0.7	1.0	0.3
28	9G-27-248	接合13	65.988	砕片	黒曜石	3	1.0	2.2	1.5	0.5
	9G-27-249		65.980	砕片	黒曜石	2	0.3	0.9	1.4	0.4
	9G-27-253		65.957	砕片	黒曜石	2	0.2	1.3	1.0	0.3
	9G-27-254		65.943	砕片	黒曜石	2	0.4	1.5	0.9	0.4
	9G-27-255		65.961	砕片	黒曜石	3	0.9	1.9	1.1	0.5
	9G-27-256		65.963	砕片	黒曜石	3	0.5	1.2	1.5	0.3
	9G-27-259		65.988	砕片	黒曜石	3	—	—	—	—
	9G-27-286		65.935	砕片	安山岩	2	0.2	0.9	1.5	0.2
	9G-27-286		65.935	砕片	安山岩	2	—	—	—	—
	9G-27-287		65.941	砕片	頁岩	1	0.3	0.5	1.5	0.4
	9G-27-311		65.928	砕片	安山岩	4	0.5	1.5	1.5	0.3
26	9G-27-312	接合9	65.935	剥片	黒曜石	2	1.1	1.6	2.0	0.4
	9G-27-313		65.917	砕片	黒曜石	3	0.3	1.7	0.9	0.4
3	9G-27-314		65.933	縦長剥片	珪質凝灰岩	2	9.7	4.8	2.4	0.8
	9G-27-316		65.940	砕片	黒曜石	2	0.3	1.3	1.6	0.6
	9G-27-318		65.934	砕片	黒曜石	2	0.2	1.4	0.4	0.3
	9G-27-319		65.954	砕片	黒曜石	2	0.3	1.4	0.8	0.4
	9G-27-320		65.943	砕片	黒曜石	2	0.2	1.2	0.7	0.2
	9G-27-320		65.943	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-321		65.938	剥片	黒曜石	2	3.3	2.9	1.9	0.8
	9G-27-322		65.951	砕片	黒曜石	2	0.8	1.0	1.7	0.6
	9G-27-323		65.942	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-324		65.944	砕片	頁岩	2	0.2	1.2	0.8	0.3
	9G-27-325		65.938	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-326		65.939	砕片	黒曜石	3	0.1	0.9	0.9	0.2
	9G-27-327		65.929	砕片	黒曜石	3	0.2	1.2	0.9	0.2
	9G-27-328		65.968	剥片	黒曜石	3	2.5	2.5	1.5	0.7
1	9G-27-329		65.970	ナイフ形石器	黒曜石	3	2.3	2.8	1.3	0.7
	9G-27-330		65.958	砕片	黒曜石	3	0.1	1.1	0.6	0.2
	9G-27-330		65.958	砕片	黒曜石	1	0.1	0.8	0.9	0.2
	9G-27-331		65.986	剥片	黒曜石	2	1.2	2.2	1.3	0.4
	9G-27-339		66.005	砕片	黒曜石	2	0.3	1.5	0.8	0.4
13	9G-27-398		65.954	剥片	凝灰岩	2	6.5	4.4	3.6	0.8
	9G-27-399		65.910	砕片	黒曜石	2	0.1	0.3	0.9	0.3
	9G-27-400		65.916	砕片	黒曜石	3	0.1	0.9	0.7	0.3
20	9G-27-401		65.893	剥片	凝灰岩	3	6.2	2.4	2.4	0.9
	9G-27-402	接合17	65.938	剥片	黒曜石	6	3.9	1.4	2.5	1.1
	9G-27-402	接合17	65.938	剥片	黒曜石	6	2.9	1.7	1.6	0.8
	9G-27-402	接合17	65.938	砕片	黒曜石	6	1.3	1.2	1.1	0.9
	9G-27-402		65.938	砕片	黒曜石	8	0.5	0.6	1.4	0.4

(第6表 続き)

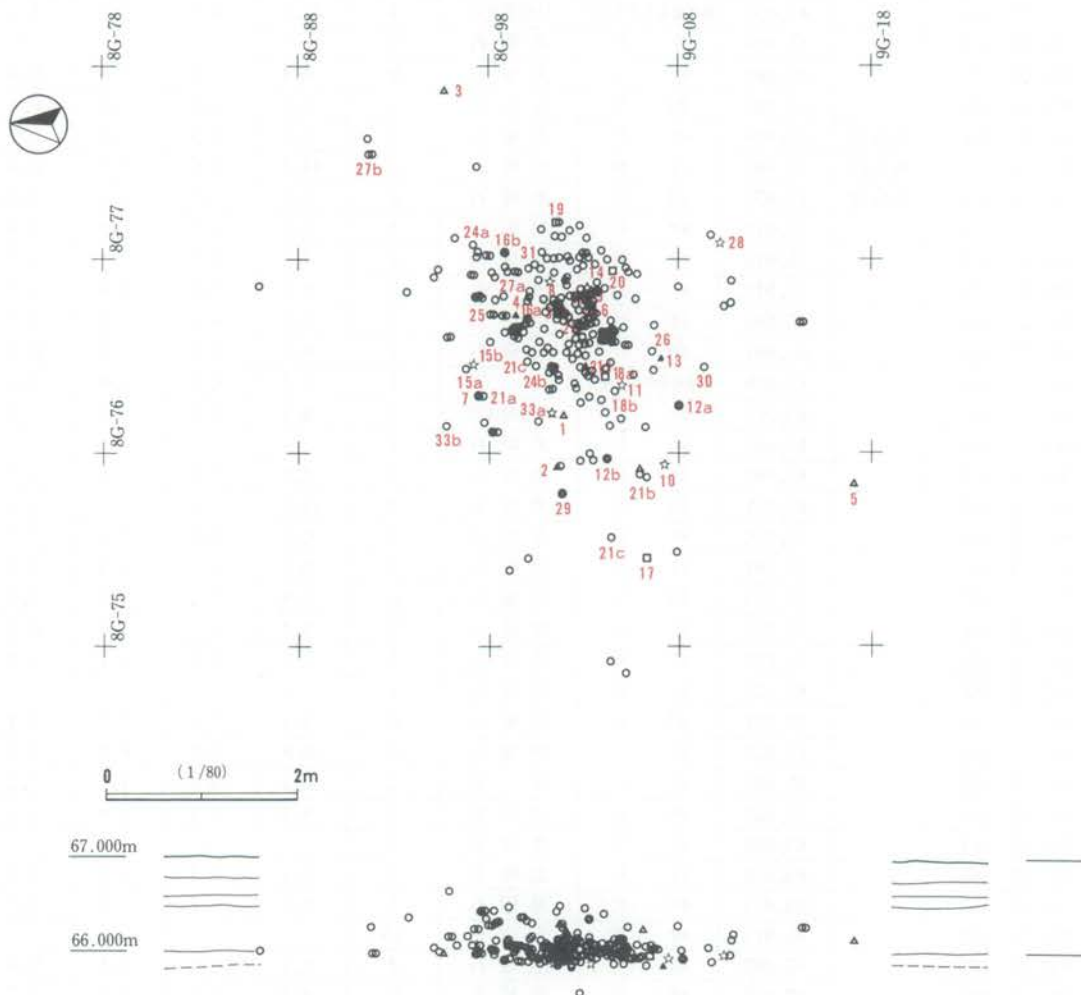
図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	9G-27-402		65.938	砕片	黒曜石	2	0.2	0.7	0.7	0.5
	9G-27-403		65.890	砕片	黒曜石	2	0.2	1.1	0.6	0.2
	9G-27-404		65.915	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-405		65.910	砕片	黒曜石	3	0.1	1.7	1.4	0.4
18 a	9G-27-406	接合16	65.908	剥片	黒曜石	3	15.6	4.9	4.4	0.8
	9G-27-407		65.890	砕片	黒曜石	6	0.2	0.9	1.0	0.5
14	9G-27-408		65.924	剥片	チャート	6	5.1	2.3	4.2	0.7
11 a	9G-27-409	接合4	65.872	石核	黒曜石	1	44.3	5.7	4.6	1.7
	9G-27-409		65.872	砕片	黒曜石	2	0.2	0.7	0.9	0.3
19 b	9G-27-410	接合11	65.897	剥片	黒曜石	2	5.0	2.7	1.8	1.5
	9G-27-410		65.897	砕片	黒曜石	2	0.2	0.6	1.2	0.3
	9G-27-410		65.897	砕片	黒曜石	8	—	—	—	—
	9G-27-411		65.924	砕片	黒曜石	3	0.3	0.8	1.1	0.4
	9G-27-412		65.895	砕片	黒曜石	3	0.2	1.3	1.0	0.3
	9G-27-413		65.885	剥片	珪質凝灰岩	2	2.4	2.4	2.9	0.6
	9G-27-414		65.928	砕片	黒曜石	2	0.7	1.1	1.4	0.6
7	9G-27-415		65.908	使用痕を有する剥片	流紋岩	2	9.9	5.0	2.7	1.0
	9G-27-416		65.894	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-417		65.941	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
9	9G-27-418	接合2	65.944	石核	黒曜石	1	22.0	4.6	2.5	2.2
15 b	9G-27-419	接合12	65.894	剥片	黒曜石	3	1.4	2.3	1.3	0.7
	9G-27-420		65.923	砕片	安山岩	2	—	—	—	—
	9G-27-421		65.920	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
6	9G-27-422		65.858	使用痕を有する剥片	珪質凝灰岩	4	37.0	6.7	4.8	1.3
	9G-27-423		65.908	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-424		65.882	砕片	黒曜石	2	0.4	1.8	0.8	0.6
	9G-27-425		65.884	剥片	安山岩	2	2.0	1.8	2.6	0.4
	9G-27-426	接合18	65.920	砕片	黒曜石	2	1.3	1.5	1.5	0.7
8	9G-27-427	接合13	65.891	石核	黒曜石	3	44.3	4.6	3.9	3.3
	9G-27-428	接合18	65.925	剥片	黒曜石	2	1.2	1.9	1.3	0.6
	9G-27-429		65.915	砕片	黒曜石	3	0.2	1.1	0.9	0.4
	9G-27-429		65.915	砕片	黒曜石	2	0.2	0.7	0.8	0.2
	9G-27-429		65.915	砕片	黒曜石	2	0.1	0.5	0.8	0.3
	9G-27-430		65.885	砕片	黒曜石	2	0.1	0.7	0.6	0.3
	9G-27-431		65.897	砕片	黒曜石	2	0.3	0.9	1.1	0.4
5	9G-27-432		65.908	使用痕を有する剥片	頁岩	1	8.2	6.3	2.0	0.6
	9G-27-432		65.908	砕片	珪質凝灰岩	2	0.3	1.1	0.8	0.4
	9G-27-439		65.865	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-442		65.862	剥片	黒曜石	3	2.0	2.4	2.0	0.7
24	9G-27-445		65.874	剥片	黒曜石	3	19.0	3.9	2.7	1.5
	9G-27-446		65.870	砕片	安山岩	2	0.3	0.7	1.5	0.3
	9G-27-447		65.884	砕片	黒曜石	2	0.2	0.7	1.4	0.3
	9G-27-453		65.855	剥片	黒曜石	6	0.8	1.1	1.7	0.4
	9G-27-456		65.877	砕片	黒曜石	2	0.2	1.1	1.0	0.3
	9G-27-456		65.877	砕片	黒曜石	1	0.1	0.7	0.7	0.2
	9G-27-456		65.877	砕片	黒曜石	1	—	—	—	—
	9G-27-457		65.851	剥片	黒曜石	6	0.9	1.4	1.9	0.4
	9G-27-458		65.857	砕片	黒曜石	6	0.8	1.6	0.9	0.3
	9G-27-459		65.864	砕片	頁岩	2	0.1	0.8	1.2	0.2
	9G-27-460		65.869	砕片	黒曜石	2	0.5	1.1	0.8	0.5
	9G-27-461		65.888	砕片	黒曜石	3	—	—	—	—
	9G-27-462		65.869	砕片	黒曜石	2	0.4	1.2	1.3	0.4
	9G-27-463		65.875	砕片	黒曜石	3	0.1	0.7	1.1	0.1
	9G-27-464		65.875	砕片	黒曜石	15	—	—	—	—
	9G-27-465		65.882	砕片	黒曜石	2	0.1	0.6	1.1	0.3
	9G-27-466		65.855	砕片	黒曜石	2	0.2	1.0	0.8	0.3
	9G-27-476		65.875	砕片	黒曜石	3	—	—	—	—
12 b	9G-27-476	接合15	65.870	剥片	頁岩	2	2.0	1.8	2.8	0.4

(第6表 続き)

図 No	遺物 No	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	9G-27-476		65.870	破片	珪質凝灰岩	2	—	—	—	—
12 a	9G-27-480	接合15	65.870	剥片	頁岩	2	6.0	3.0	3.0	0.7
15 a	9G-27-481	接合12	65.871	剥片	黒曜石	3	2.5	3.0	1.4	0.7
12 c	9G-27-482	接合15	65.866	破片	頁岩	2	0.4	1.1	1.8	0.2
	9G-27-482		65.866	破片	黒曜石	3	0.3	1.2	1.4	0.3
	9G-27-484		65.871	破片	珪質凝灰岩	2	1.2	1.7	1.5	0.6
	9G-27-485		65.860	破片	黒曜石	2	0.3	0.9	1.2	0.4
	9G-27-487		65.855	破片	黒曜石	3	0.2	1.1	0.8	0.2
	9G-27-490		65.880	破片	黒曜石	3	—	—	—	—
	9G-27-491		65.845	破片	黒曜石	3	0.1	0.7	0.7	0.2
	9G-27-508		66.080	剥片	黒曜石	2	1.5	1.5	2.2	0.6
25	9G-27-509		66.230	剥片	黒曜石	2	3.3	2.8	2.0	0.8

(2) Bブロック (第44~57図, 第7表, 図版41・42)

本ブロックは, 8G-76, 8G-86~87, 8G-94~97, 9G-05~07グリッドにかけて位置し, 南北6m, 東西6mの範囲に, ナイフ形石器4点, 加工痕を有する剥片3点, 使用痕を有する剥片9点 (うち3点が接合によるもので, 数的には12点), 石核5点 (内2点が接合によるもので, 数的には10点), 剥片・破片

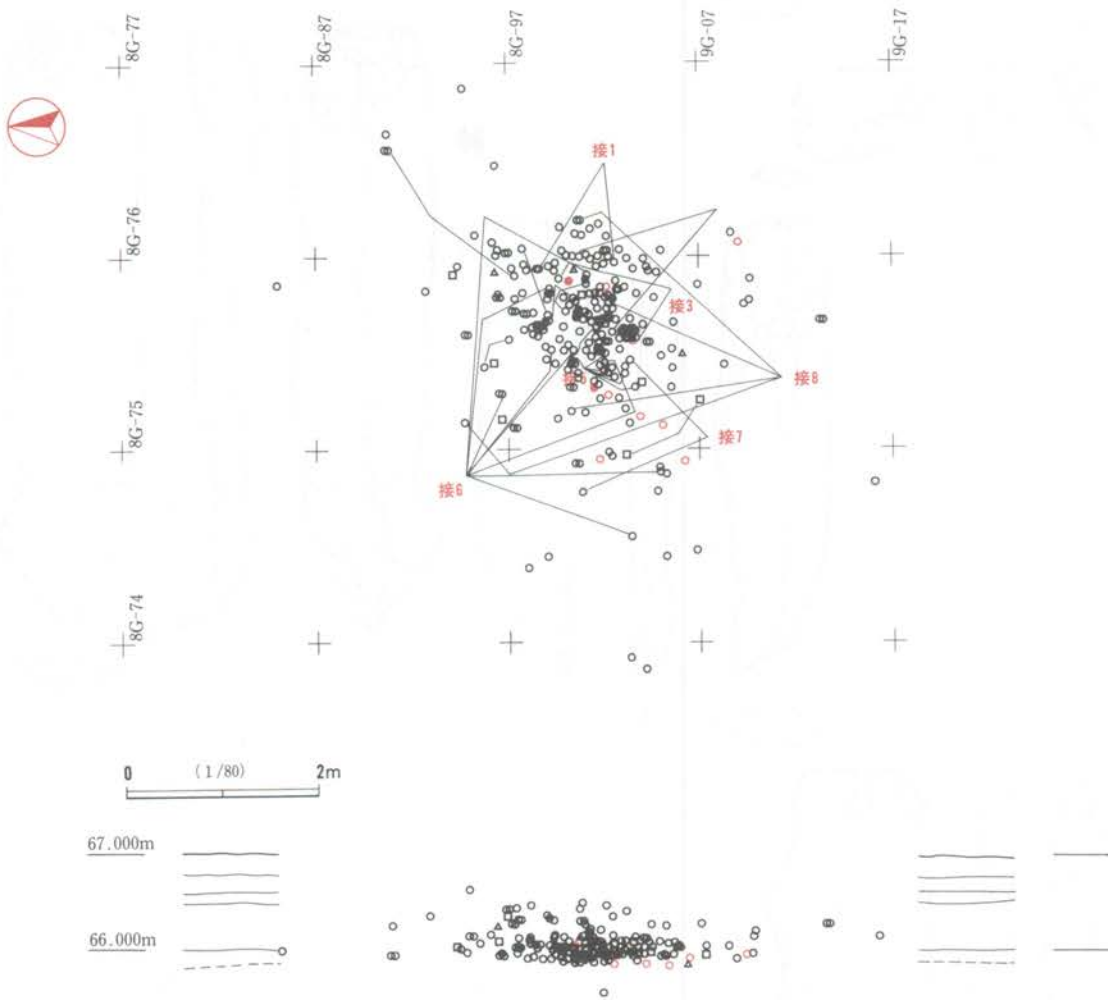


第44図 Bブロック器種別分布

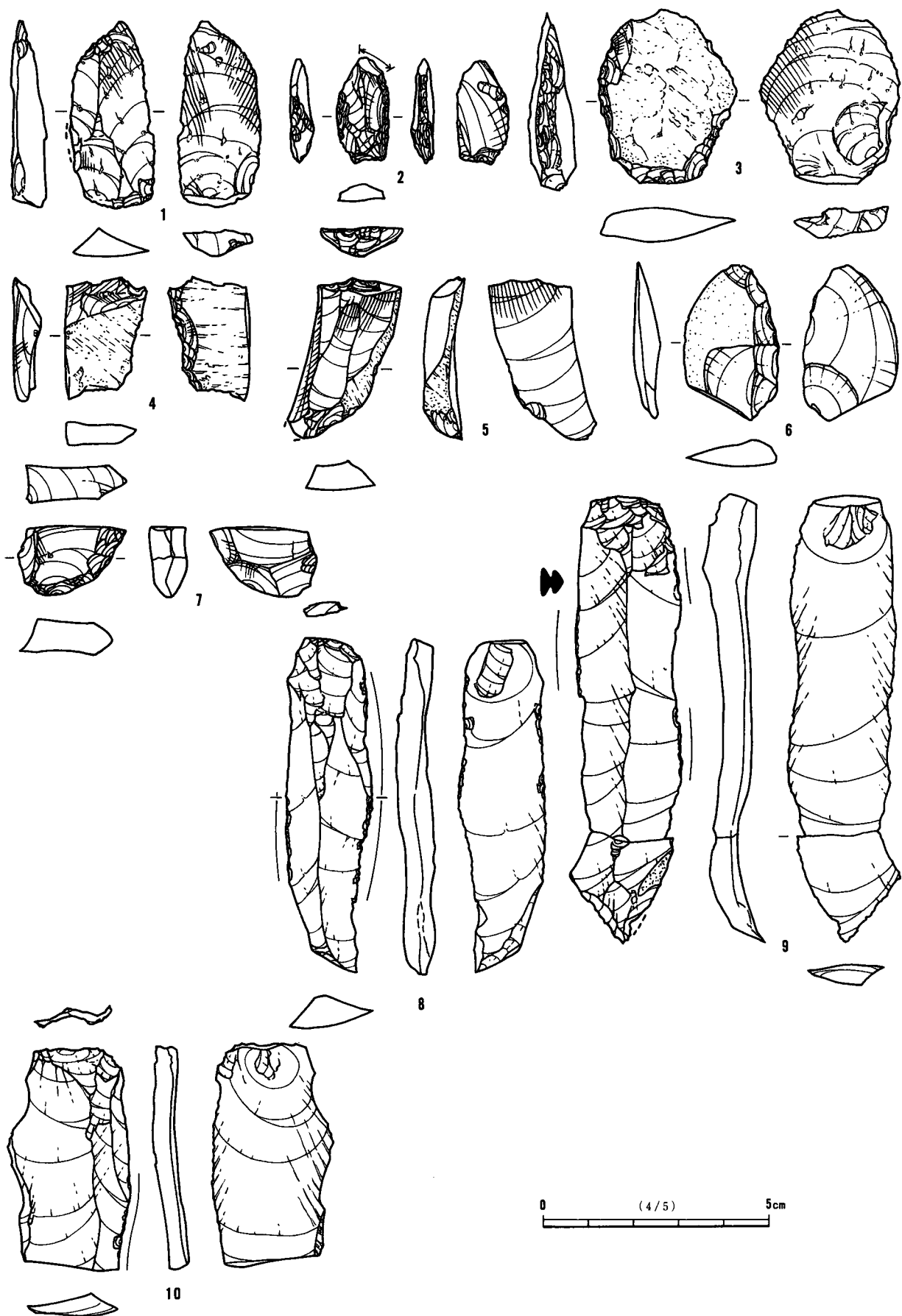
232点が、中央部に密集して分布する。垂直分布は、65.579m～66.638mの約1m、Ⅶ層～Ⅹ層の間、特にⅨ層下部に濃く分布する。

石材は、黒曜石239点、珪質凝灰岩9点、頁岩8点、チャート3点、流紋岩2点、安山岩1点で、黒曜石が、ほぼ大半を占める。

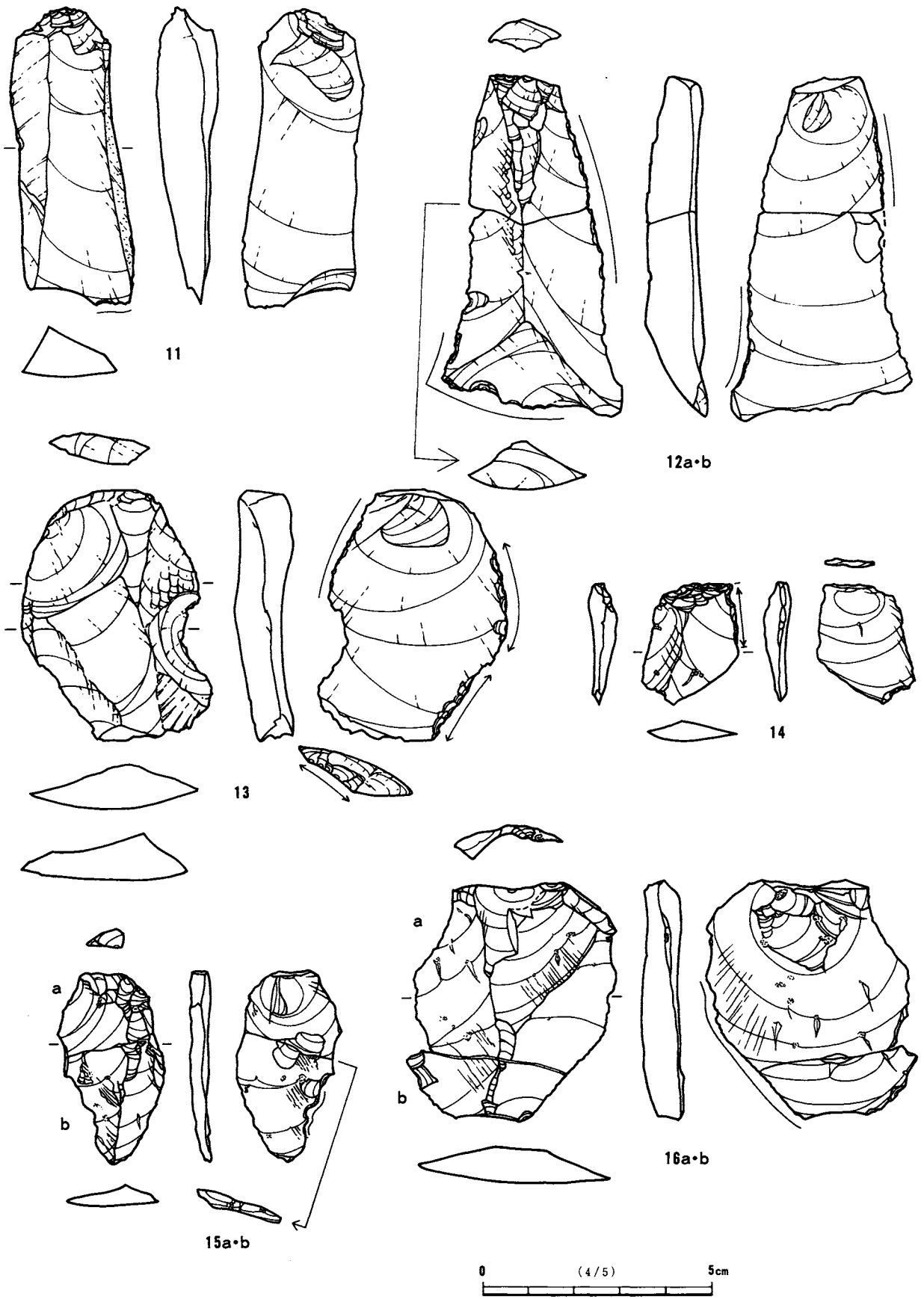
1～4は、ナイフ形石器である。両側縁にプランティングや、折断が施されている。5～7は加工痕を有する剥片である。8～16は、使用痕を有する剥片である。ブレイド状の剥片の両側縁に、使用による微小剥離が認められる(8～12)。9は2点に分割したものの打面部側部分で、Aブロック出土の4と接合する。17～21は、石核である。器面に主要剥離面を残し、厚手の剥片を素材として剥片剥離を行っている。22～83は、剥片である。22～27は、厚手の大形剥片で、形状的には、先に挙げた石核と遜色無い。石核の素材の可能性を指摘できよう。28～48は、縦長剥片である。28はブレイド状を呈する。49～59は横長剥片、75～83は調整剥片である。



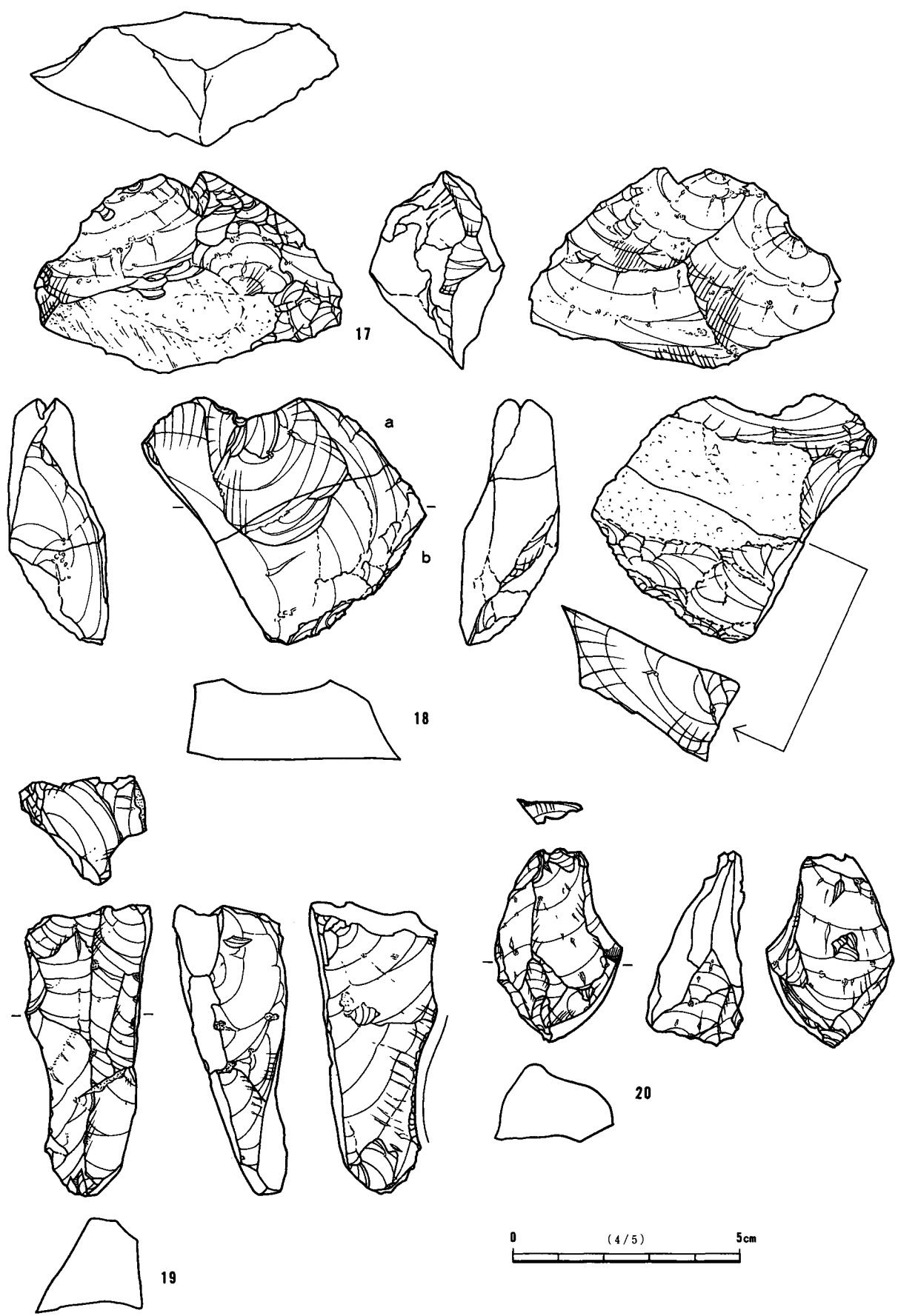
第45図 Bブロック石材別分布



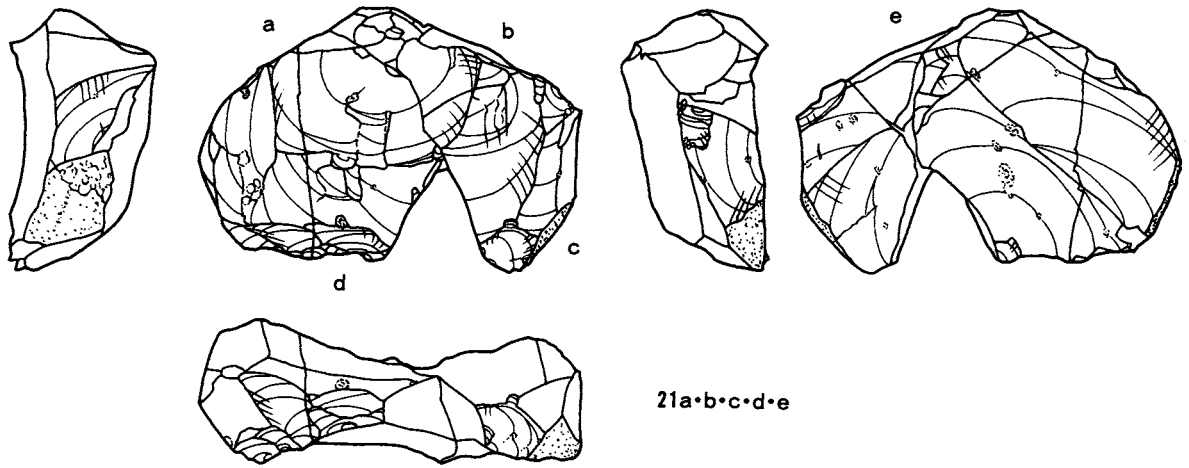
第46図 Bブロック出土石器(1)



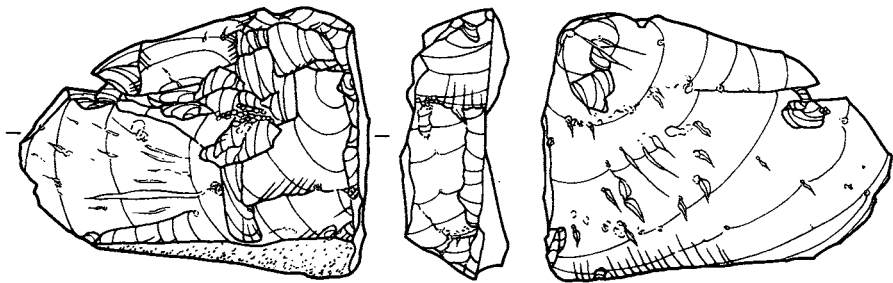
第47図 Bブロック出土石器(2)



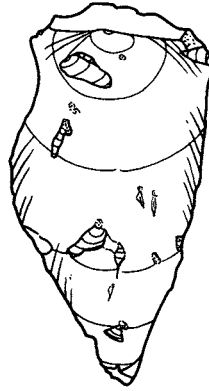
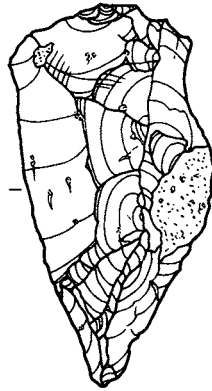
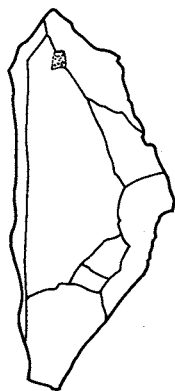
第48図 Bブロック出土石器 (3)



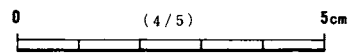
21a•b•c•d•e



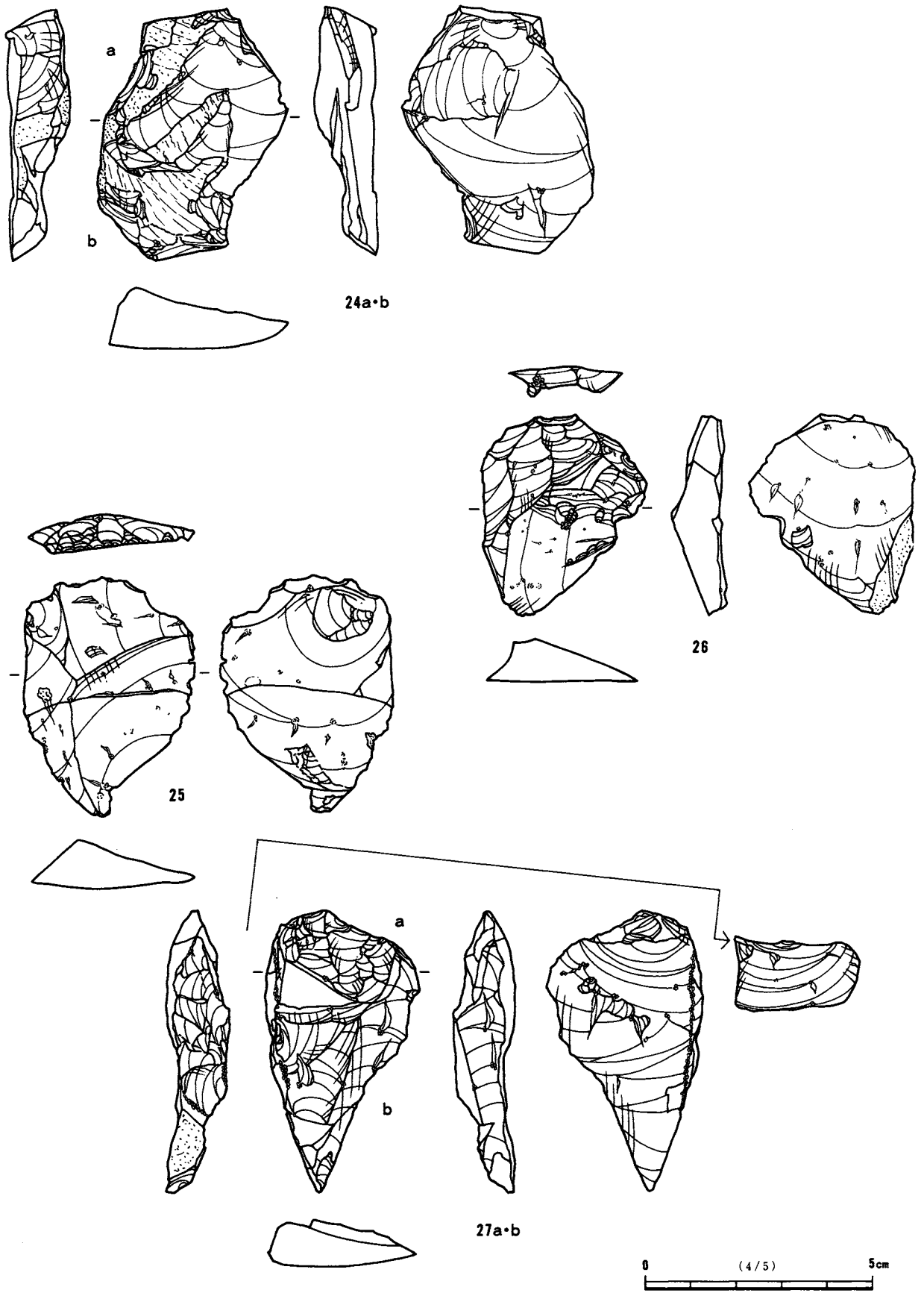
22



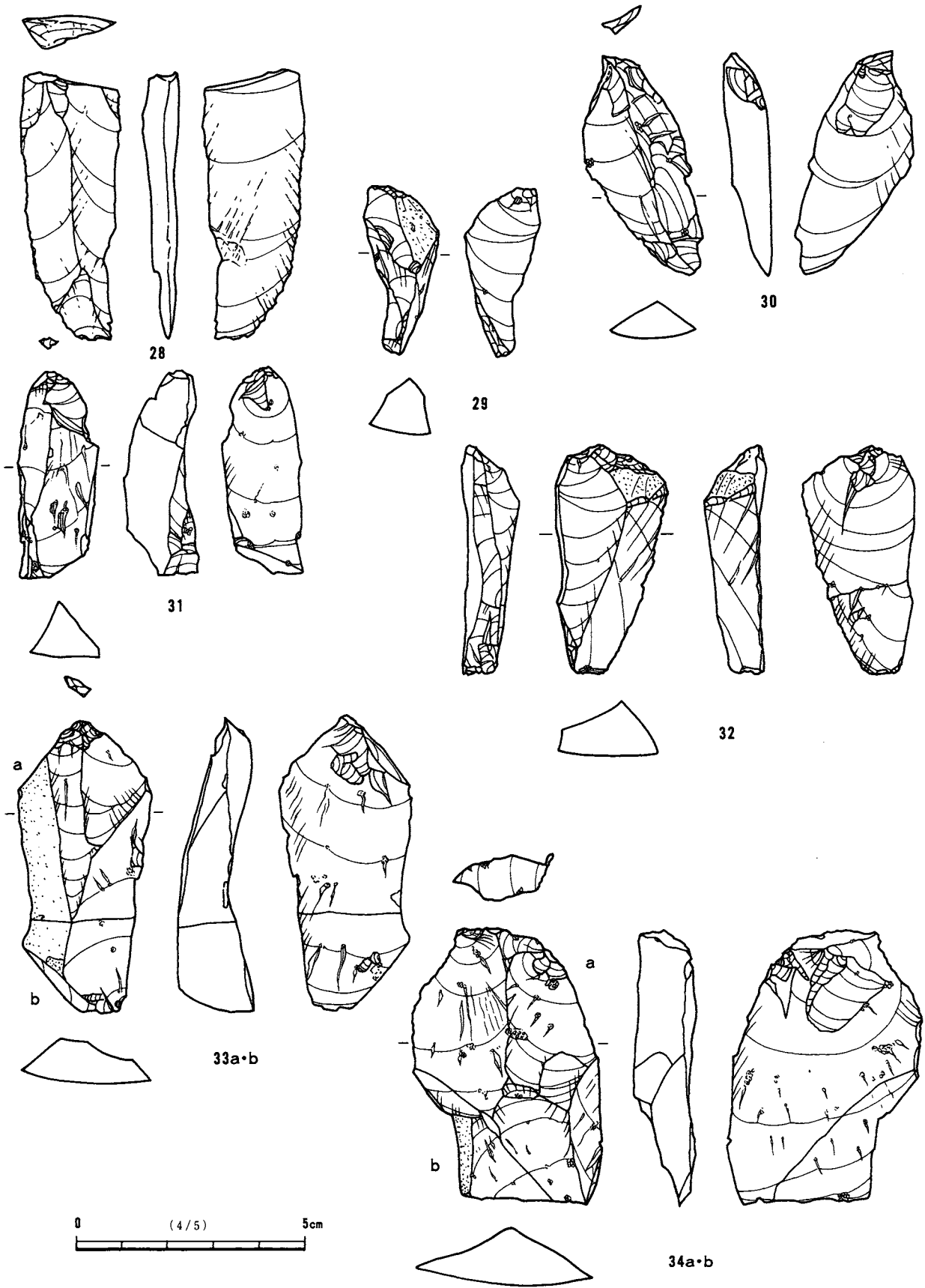
23



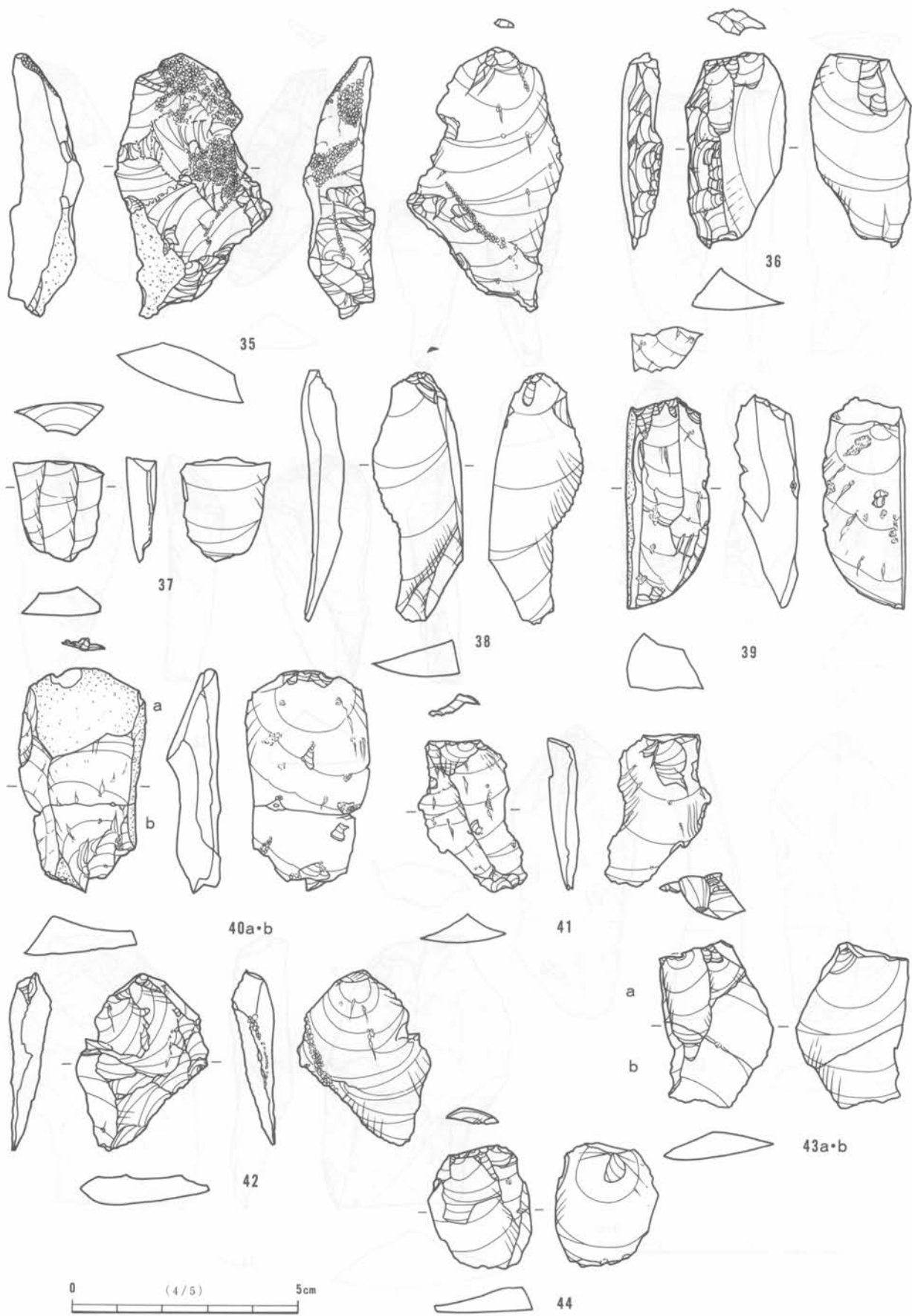
第49図 Bブロック出土石器(4)



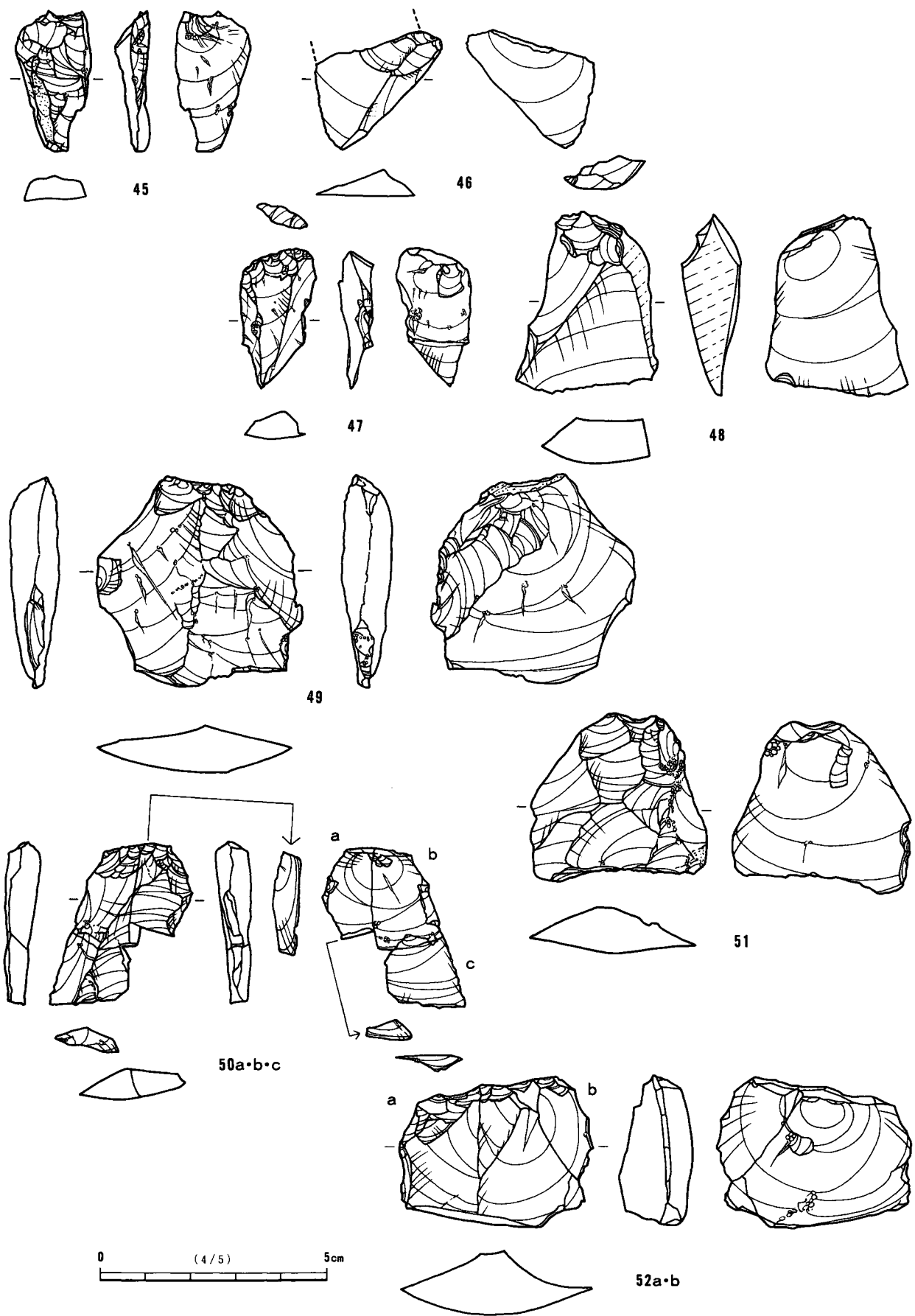
第50図 Bブロック出土石器(5)



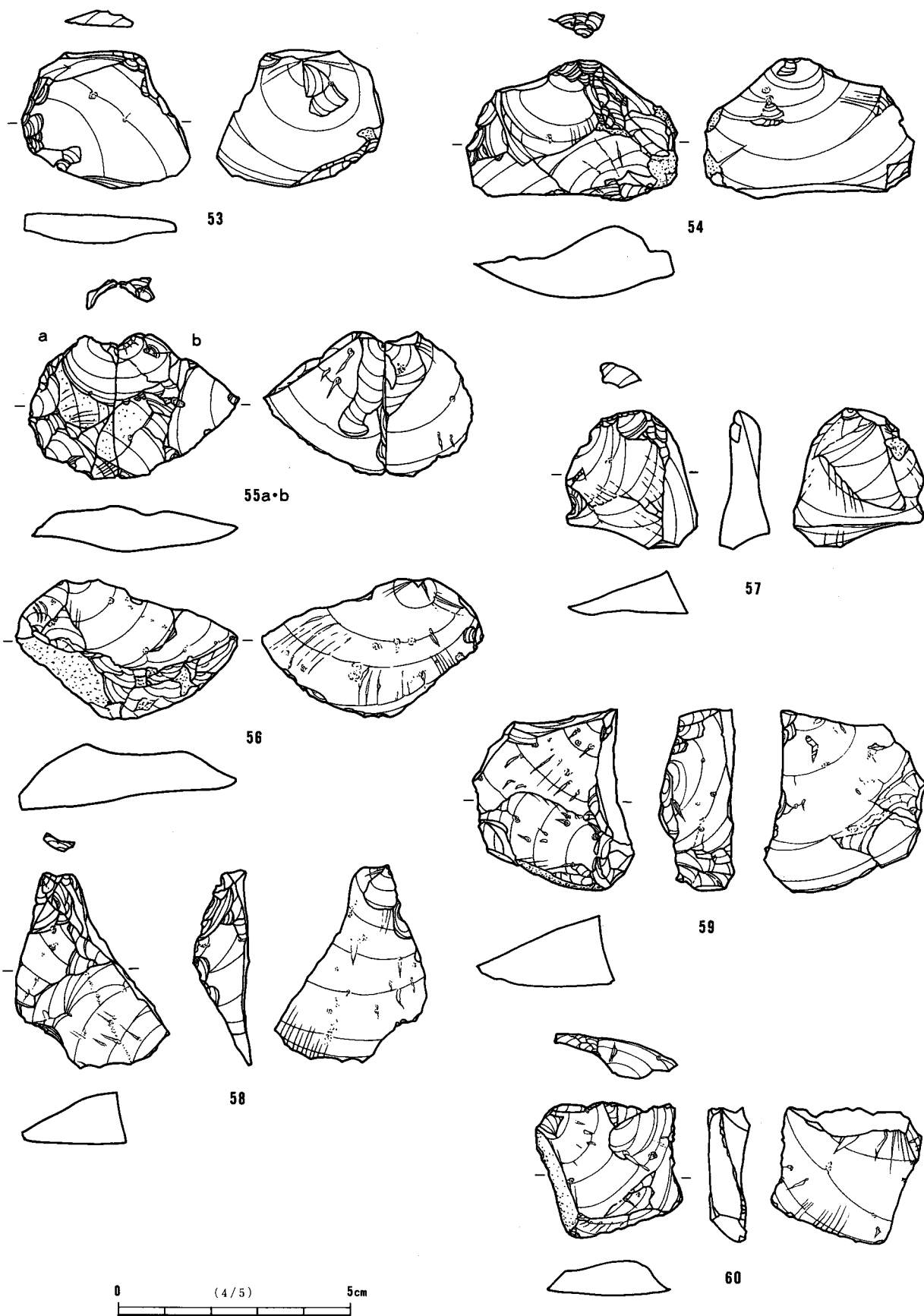
第51図 Bブロック出土石器 (6)



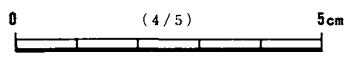
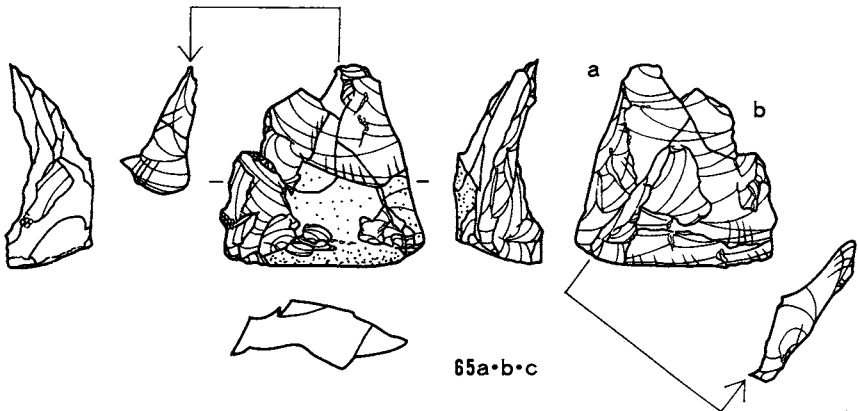
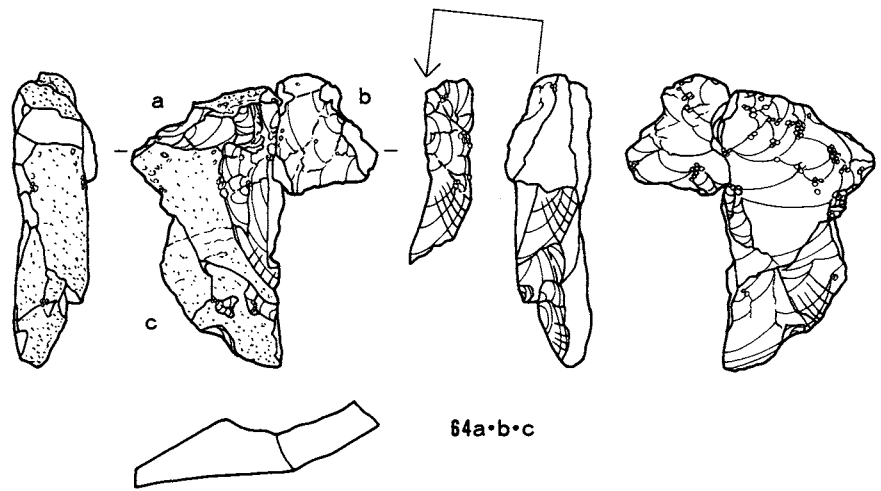
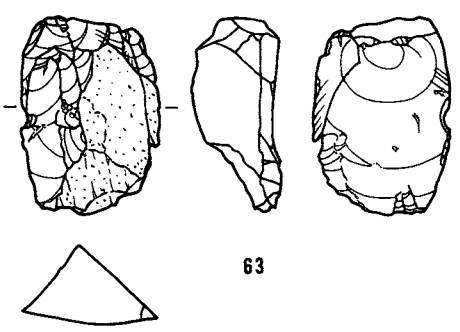
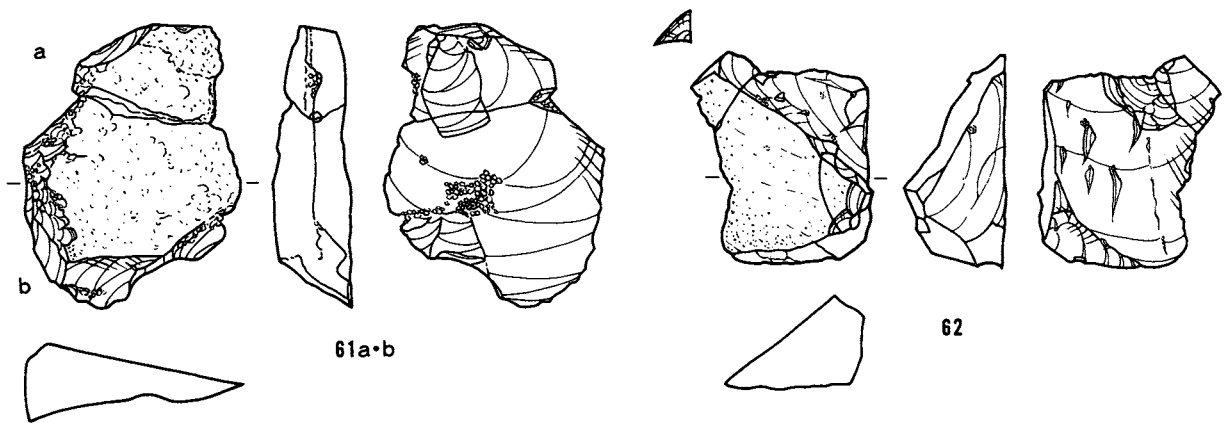
第52図 Bブロック出土石器(7)



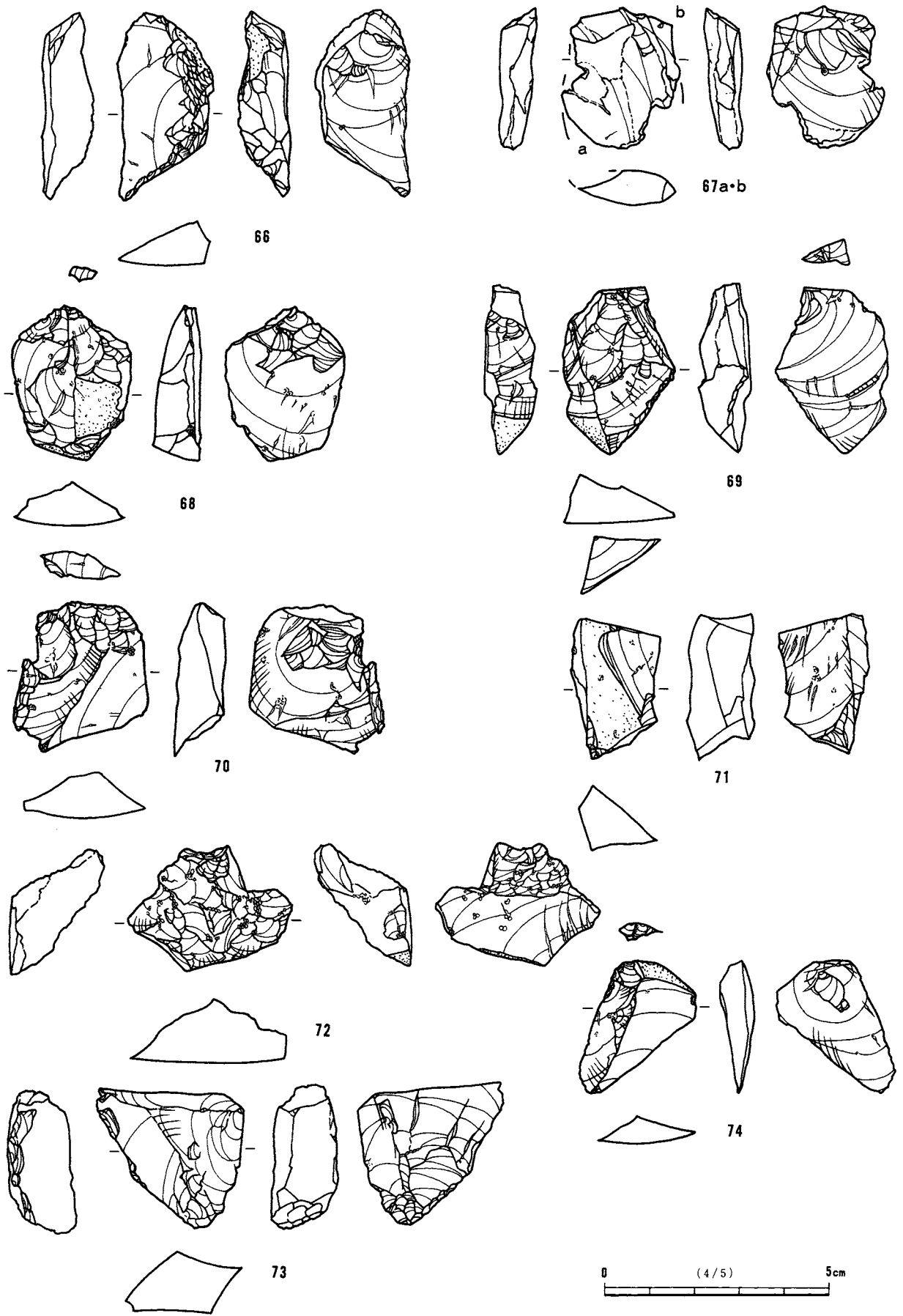
第53図 Bブロック出土石器(8)



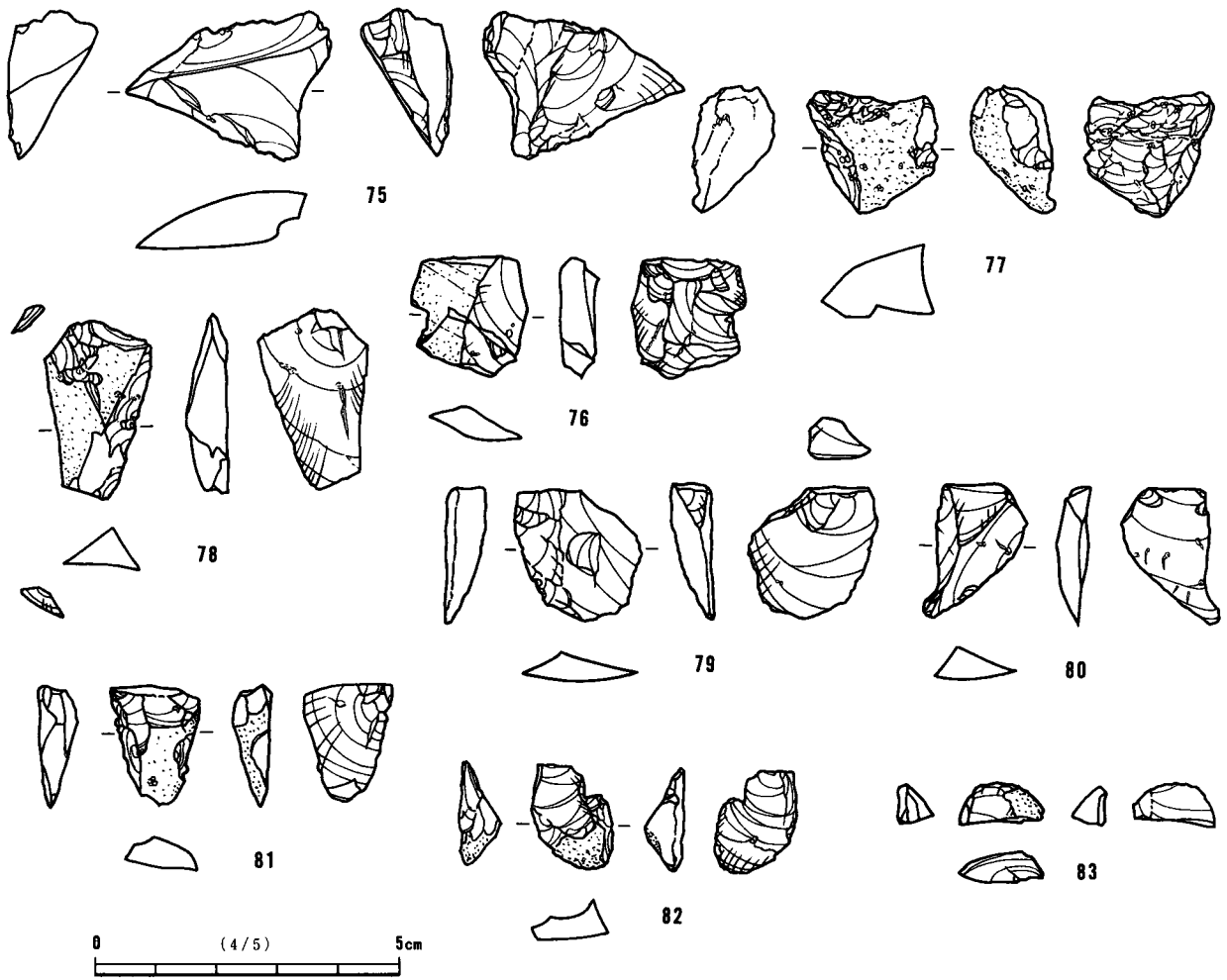
第54図 Bブロック出土石器 (9)



第55図 Bブロック出土石器 (10)



第56図 Bブロック出土石器 (11)



第57図 Bブロック出土石器 (12)

第7表 Bブロック石器属性

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	9G-27-062		66.236	剥片	黒曜石	2	1.6	1.0	0.4	0.4
	9G-27-062		66.236	碎片	黒曜石	2	—	—	—	—
5	9G-27-064		66.155	加工痕を有する剥片	黒曜石	17	3.7	1.8	0.7	5.8
50c	9G-27-073	接合4	66.150	剥片	黒曜石	1	1.5	1.5	0.4	1.1
80	9G-27-074	接合10	66.230	剥片	黒曜石	2	2.2	1.4	0.4	1.2
	9G-27-076		66.110	碎片	黒曜石	1	0.9	0.8	0.4	0.3
78	9G-27-077	接合8	66.370	剥片	黒曜石	2	2.9	1.7	0.7	2.2
65a	9G-27-078	接合10	66.144	剥片	黒曜石	2	3.2	1.3	0.7	1.5
	9G-27-079	接合25	66.150	剥片	黒曜石	2	3.1	2.8	1.0	8.8
	9G-27-079		66.150	碎片	黒曜石	2	0.7	2.7	0.3	0.1
	9G-27-079		66.150	碎片	黒曜石	2	0.7	0.5	0.4	0.1
	9G-27-079		66.150	碎片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-079		66.150	碎片	黒曜石	14	—	—	—	—
50b	9G-27-080	接合4	66.212	碎片	黒曜石	1	2.4	1.4	0.8	2.1
	9G-27-081		66.485	碎片	黒曜石	2	—	—	—	—
64c	9G-27-082	接合11	66.417	碎片	黒曜石	2	1.7	0.9	0.4	0.5
	9G-27-083		66.270	碎片	黒曜石	2	1.5	0.7	0.3	0.4
71	9G-27-084	接合10	66.475	剥片	黒曜石	2	2.8	2.1	1.3	6.9
81	9G-27-085	接合11	66.425	剥片	黒曜石	2	1.9	1.4	0.6	1.5
76	9G-27-086	接合10	66.285	剥片	黒曜石	2	1.9	2.0	0.7	1.8

(第7表 続き)

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	9G-27-086		66.285	剝片	黒曜石	2	1.9	1.3	0.3	0.9
38	9G-27-087		66.255	剝片	チャート	7	5.4	2.0	0.7	5.7
	9G-27-087		66.255	砕片	黒曜石	2	1.7	1.1	0.2	0.5
44	9G-27-088		66.080	剝片	黒曜石	1	2.7	2.2	0.4	3.0
35	9G-27-089		66.070	剝片	黒曜石	8	5.7	3.0	1.2	1.8
	9G-27-090		66.365	砕片	黒曜石	6	1.9	1.2	0.4	0.8
	9G-27-090		66.365	砕片	黒曜石	3	1.2	0.7	0.3	0.3
68	9G-27-091	接合10	66.095	剝片	黒曜石	2	3.4	2.6	1.0	7.4
53	9G-27-092		66.125	剝片	黒曜石	1	3.7	2.8	0.7	6.2
62	9G-27-093	接合10	66.150	剝片	黒曜石	2	3.4	2.9	1.4	10.3
	9G-27-094		66.400	砕片	黒曜石	2	1.0	1.0	0.4	0.5
	9G-27-095		66.470	砕片	黒曜石	1	1.9	1.0	0.3	0.4
1	9G-27-096		66.217	ナイフ形石器	黒曜石	3	4.1	1.8	0.7	5.1
33 a	9G-27-097	接合 8	66.098	剝片	黒曜石	2	4.3	2.9	1.0	12.6
39	9G-27-098	接合10	66.260	剝片	黒曜石	2	4.2	2.9	1.1	9.8
12 b	9G-27-099	接合19	66.087	使用痕を有する剝片	珪質凝灰岩	3	4.3	3.7	1.2	16.5
	9G-27-100		66.085	砕片	黒曜石	2	1.0	1.1	0.3	0.3
2	9G-27-101		66.307	ナイフ形石器	黒曜石	10	2.3	1.1	0.5	1.2
	9G-27-101		66.307	剝片	黒曜石	1	1.0	1.6	0.8	1.0
29	9G-27-102	接合 7	66.190	剝片	黒曜石	2	3.6	1.3	1.2	4.5
	9G-27-103		66.286	砕片	黒曜石	1	1.4	0.9	0.3	0.3
21 c	9G-27-104	接合 6	66.070	石核	黒曜石	1	3.6	2.5	1.2	10.5
	9G-27-105		66.307	砕片	黒曜石	1	1.6	1.2	0.2	0.5
	9G-27-106		66.262	砕片	黒曜石	3	1.5	0.4	0.4	0.3
40 b	9G-27-107	接合10	66.360	剝片	黒曜石	2	2.0	2.3	0.8	3.3
	9G-27-108		66.147	砕片	黒曜石	2	1.3	0.5	0.5	0.4
	9G-27-108		66.147	砕片	黒曜石	2	0.9	0.6	0.3	0.1
15 a	9G-27-109	接合20	66.167	使用痕を有する剝片	黒曜石	2	1.8	1.9	0.5	1.8
7	9G-27-110		66.445	加工痕を有する剝片	黒曜石	17	1.5	2.4	0.8	2.9
21 a	9G-27-110	接合 6	66.445	石核	黒曜石	1	3.7	1.7	1.3	10.4
	9G-27-111		66.342	剝片	黒曜石	1	2.1	1.9	0.8	2.9
	9G-27-111		66.342	砕片	黒曜石	1	1.1	1.1	0.5	0.4
	9G-27-112		66.355	剝片	珪質凝灰岩	1	2.6	1.1	0.8	1.6
33 b	9G-27-113	接合 8	66.638	剝片	黒曜石	2	2.1	2.3	1.3	5.7
	9G-27-117		66.273	剝片	黒曜石	6	1.4	1.6	0.7	1.4
	9G-27-165		66.111	砕片	黒曜石	1	0.7	0.5	0.3	0.2
	9G-27-165		66.111	砕片	黒曜石	—	0.6	0.5	0.2	0.1
	9G-27-166		66.065	砕片	黒曜石	3	0.8	0.6	0.1	0.1
	9G-27-167		66.258	砕片	黒曜石	2	0.6	1.0	0.1	0.1
37	9G-27-168		66.085	剝片	珪質凝灰岩	1	2.1	1.9	0.6	2.7
27 a	9G-27-169	接合22	66.125	剝片	黒曜石	8	1.6	2.8	0.6	2.2
24 a	9G-27-170	接合11	66.070	砕片	黒曜石	2	1.3	0.7	0.5	0.7
	9G-27-221		66.124	砕片	黒曜石	2	0.9	0.9	0.3	0.2
	9G-27-222		66.317	砕片	黒曜石	1	1.5	0.8	0.5	0.6
	9G-27-223		66.213	砕片	黒曜石	3	1.8	1.7	0.5	1.2
	9G-27-226		66.135	砕片	黒曜石	3	1.4	0.7	0.1	0.1
63	9G-27-227	接合 6	66.120	剝片	黒曜石	1	3.0	2.2	1.3	7.7
36	9G-27-228		66.135	剝片	チャート	8	3.9	2.2	0.8	6.7
52 b	9G-27-229	接合 6	66.165	剝片	黒曜石	1	1.2	2.4	0.5	1.6
43 b	9G-27-230	接合23	66.169	砕片	黒曜石	1	2.3	1.6	0.4	0.9
51	9G-27-231	接合 3	66.118	剝片	黒曜石	1	3.3	3.8	1.0	12.0
46	9G-27-232		66.138	剝片	流紋石	3	3.3	1.8	0.5	2.2
	9G-27-242		66.135	砕片	黒曜石	2	1.1	1.2	0.1	0.2
	9G-27-244		66.090	剝片	黒曜石	1	1.7	2.9	0.8	3.7
50 a	9G-27-247	接合 4	66.084	剝片	黒曜石	1	1.1	2.0	0.6	1.5
58	9G-27-251		66.070	剝片	黒曜石	3	4.4	2.6	1.0	8.4
	9G-27-251		66.070	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
69	9G-27-252	接合11	66.063	剝片	黒曜石	2	3.7	3.5	1.1	7.3
	9G-27-257		66.056	砕片	黒曜石	1	1.2	0.7	0.3	0.3
	9G-27-257		66.056	砕片	黒曜石	1	0.7	0.5	0.4	0.2

(第7表 続き)

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	9G-27-258		66.092	砕片	黒曜石	1	0.9	0.4	0.3	0.2
	9G-27-260		66.095	砕片	黒曜石	1	1.2	1.4	0.6	0.6
	9G-27-261		66.064	砕片	黒曜石	2	1.2	1.8	0.3	0.6
	9G-27-262		66.082	砕片	黒曜石	1	—	—	—	—
	9G-27-262		66.082	剥片	黒曜石	1	—	—	—	—
	9G-27-262		66.082	砕片	黒曜石	1	—	—	—	—
	9G-27-263		66.094	砕片	黒曜石	2	1.2	1.1	0.2	0.2
	9G-27-264	接合26	66.075	砕片	黒曜石	2	1.0	1.7	0.3	0.5
	9G-27-265		66.060	砕片	黒曜石	3	1.2	1.2	0.2	0.3
	9G-27-266		66.069	砕片	珪質凝灰岩	2	0.7	0.6	0.2	0.1
	9G-27-267		66.085	砕片	黒曜石	6	1.4	1.2	0.5	0.8
	9G-27-268		66.055	砕片	黒曜石	2	0.8	1.1	0.3	0.3
	9G-27-268		66.055	剥片	黒曜石	3	—	—	—	—
	9G-27-269		66.063	砕片	黒曜石	2	1.2	0.6	0.4	0.2
47	9G-27-270	接合10	66.040	砕片	黒曜石	2	2.8	1.7	0.7	2.6
41	9G-27-271	接合10	66.027	砕片	黒曜石	2	3.3	2.0	0.6	3.2
	9G-27-272	接合26	66.039	剥片	黒曜石	2	1.4	2.4	0.4	1.1
	9G-27-273		66.019	剥片	黒曜石	2	0.7	0.8	0.3	0.1
31	9G-27-274	接合10	66.019	剥片	黒曜石	2	4.5	1.7	1.2	9.2
	9G-27-275	接合25	66.042	砕片	黒曜石	2	1.1	1.8	0.5	0.8
	9G-27-276		66.048	剥片	黒曜石	2	1.3	1.9	0.7	1.1
	9G-27-276		66.048	剥片	黒曜石	2	0.5	0.9	0.4	0.1
16 a	9G-27-277	接合21	66.021	剥片	黒曜石	3	3.9	4.4	0.7	14.2
4	9G-27-278	接合11	66.039	砕片	黒曜石	2	1.8	2.7	0.6	3.1
25	9G-27-279		66.021	使用痕を有する剥片	黒曜石	3	5.0	3.8	1.0	13.9
	9G-27-279		66.021	台形様石器	黒曜石	1	2.8	2.1	0.8	3.5
15 b	9G-27-280	接合20	66.029	剥片	黒曜石	2	2.5	2.1	0.4	1.6
	9G-27-281		66.012	剥片	黒曜石	2	1.2	1.9	0.5	0.9
	9G-27-282		66.044	使用痕を有する剥片	黒曜石	3	0.5	1.1	0.3	0.1
21 e	9G-27-283	接合6	66.044	剥片	黒曜石	1	1.3	2.6	0.9	2.5
57	9G-27-284		66.039	砕片	珪質凝灰岩	1	2.9	2.8	1.0	7.2
	9G-27-285		66.026	石核	黒曜石	1	—	—	—	—
	9G-27-285		66.026	剥片	黒曜石	1	1.0	0.9	0.6	0.5
56	9G-27-294		66.001	砕片	黒曜石	3	4.7	2.7	1.7	15.7
	9G-27-295		66.088	砕片	黒曜石	2	1.2	0.8	0.4	0.2
18 a	9G-27-296	接合5	65.984	石核	黒曜石	1	3.2	4.5	1.8	22.5
48	9G-27-297		65.990	剥片	頁岩	2	3.9	3.1	1.2	10.9
	9G-27-298		66.004	砕片	黒曜石	2	0.9	0.8	0.4	0.2
	9G-27-299		65.999	砕片	珪質凝灰岩	2	1.1	0.6	0.2	0.1
	9G-27-299		65.999	砕片	黒曜石	1	0.9	0.5	0.3	0.2
	9G-27-299		65.999	砕片	黒曜石	1	—	—	—	—
	9G-27-300		65.995	剥片	黒曜石	2	2.5	2.3	0.4	2.3
	9G-27-301		66.001	剥片	黒曜石	1	1.7	2.0	0.9	2.0
	9G-27-302		66.010	剥片	黒曜石	2	3.1	1.6	0.6	2.5
52 a	9G-27-303	接合6	66.010	剥片	黒曜石	1	3.0	3.9	1.6	26.9
	9G-27-304		66.063	砕片	黒曜石	3	1.0	1.1	0.2	0.1
	9G-27-305		66.037	砕片	珪質凝灰岩	2	1.7	1.5	0.3	0.5
43 a	9G-27-306	接合23	66.020	剥片	黒曜石	1	2.9	2.2	0.9	4.1
	9G-27-307		66.018	砕片	黒曜石	2	1.7	1.3	0.4	0.7
60	9G-27-308	接合10	66.026	剥片	黒曜石	2	3.4	3.5	0.8	6.7
	9G-27-309		66.026	砕片	黒曜石	2	1.4	0.9	0.2	0.2
	9G-27-310		66.025	砕片	黒曜石	15	—	—	—	—
	9G-27-315		66.002	砕片	黒曜石	2	1.9	1.5	0.2	0.4
	9G-27-317		66.006	砕片	黒曜石	2	1.0	1.2	0.2	0.2
30	9G-27-332		66.037	剥片	黒曜石	2	5.1	2.2	0.9	6.5
82	9G-27-333	接合2	66.034	砕片	黒曜石	1	2.0	1.2	0.5	0.9
64 b	9G-27-334	接合11	66.055	剥片	黒曜石	2	2.0	1.9	0.8	2.1
64 a	9G-27-335	接合11	66.082	剥片	黒曜石	2	2.6	3.5	1.1	7.6
	9G-27-336		66.030	砕片	黒曜石	2	0.6	1.0	0.3	0.1
	9G-27-336		66.030	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—

(第7表 続き)

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
20	9G-27-337	接合10	66.015	石核	黒曜石	2	4.1	2.9	1.9	17.6
	9G-27-338		66.033	剥片	黒曜石	1	1.5	3.1	0.6	1.6
17	9G-27-344	接合12	65.966	石核	黒曜石	3	4.3	6.7	2.7	52.5
21 b	9G-27-345	接合 6	65.993	石核	黒曜石	1	1.7	2.0	1.5	3.6
10	9G-27-346		65.938	使用痕を有する剥片	頁岩	1	4.9	2.7	0.5	7.4
12 a	9G-27-347	接合19	65.945	使用痕を有する剥片	珪質凝灰岩	3	3.0	2.7	1.0	8.4
	9G-27-348		65.981	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-349		65.965	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
54	9G-27-350		65.980	剥片	黒曜石	1	2.9	4.5	1.3	13.9
18 b	9G-27-351	接合 5	65.966	石核	黒曜石	1	4.7	3.4	2.0	25.7
11	9G-27-352		65.980	使用痕を有する剥片	珪質凝灰岩	1	6.4	2.1	1.3	19.0
	9G-27-353		65.959	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
26	9G-27-354	接合10	66.009	剥片	黒曜石	2	4.4	3.5	0.9	12.7
	9G-27-355		66.010	剥片	黒曜石	2	2.2	0.7	0.3	0.5
	9G-27-356		65.957	砕片	黒曜石	6	1.3	1.2	0.1	0.2
	9G-27-357		65.965	砕片	黒曜石	1	1.2	1.5	0.5	0.6
	9G-27-357		65.965	砕片	頁岩	1	0.9	0.8	0.2	0.1
	9G-27-358		65.945	砕片	黒曜石	1	1.2	1.5	0.4	0.6
	9G-27-358		65.945	砕片	黒曜石	3	—	—	—	—
	9G-27-359		65.959	砕片	黒曜石	1	1.0	1.6	0.7	0.7
45	9G-27-360	接合10	65.989	剥片	黒曜石	2	3.1	1.6	0.6	2.3
	9G-27-361		65.946	砕片	黒曜石	1	0.9	0.8	0.4	0.2
	9G-27-361		65.946	砕片	黒曜石	1	0.7	0.6	0.5	0.1
73	9G-27-362	接合 5	65.954	剥片	黒曜石	1	3.1	3.3	1.4	11.4
	9G-27-362		65.954	剥片	黒曜石	2	0.9	2.2	0.8	1.7
	9G-27-362		65.954	砕片	黒曜石	1	—	—	—	—
24 b	9G-27-363	接合11	65.943	剥片	黒曜石	2	5.2	4.4	1.3	22.6
	9G-27-364		65.978	砕片	黒曜石	1	—	—	—	—
23	9G-27-365		65.936	剥片	黒曜石	3	6.1	3.1	2.7	35.6
	9G-27-366		65.941	砕片	黒曜石	1	0.8	0.6	0.4	0.1
	9G-27-367		65.910	砕片	黒曜石	1	—	—	—	—
	9G-27-368		65.911	剥片	黒曜石	2	0.8	2.0	0.6	1.1
	9G-27-369		65.962	砕片	黒曜石	17	1.2	0.4	0.3	0.1
	9G-27-369		65.962	剥片	黒曜石	2	2.0	0.7	0.2	0.3
	9G-27-370		65.965	剥片	黒曜石	3	1.3	1.9	0.3	0.5
49	9G-27-371		65.980	剥片	黒曜石	9	4.6	4.7	1.1	19.9
	9G-27-371		65.980	砕片	黒曜石	14	1.4	1.0	0.1	0.2
	9G-27-371		65.980	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-372		66.010	砕片	黒曜石	1	1.6	1.0	0.6	0.7
40 a	9G-27-373	接合10	65.975	剥片	黒曜石	2	3.1	2.7	1.1	8.7
	9G-27-374		65.988	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-375		65.976	砕片	黒曜石	2	1.8	1.2	0.2	0.4
	9G-27-376		65.977	砕片	黒曜石	2	1.3	0.8	0.4	0.3
	9G-27-377		66.007	砕片	黒曜石	2	1.5	1.3	0.3	0.6
14	9G-27-378	接合 1	66.015	使用痕を有する剥片	黒曜石	1	2.6	2.0	0.5	2.0
	9G-27-379		65.967	剥片	黒曜石	2	1.5	1.7	0.5	1.3
83	9G-27-380	接合 4	65.579	砕片	黒曜石	1	0.6	1.4	0.6	0.3
61 b	9G-27-381	接合 3	65.987	剥片	黒曜石	1	3.4	3.6	1.2	12.1
	9G-27-381		65.987	砕片	黒曜石	1	0.8	1.6	0.4	0.3
22	9G-27-382	接合12	65.964	剥片	黒曜石	3	5.2	5.6	1.6	33.1
	9G-27-382		65.964	砕片	黒曜石	3	1.4	0.6	0.2	0.1
	9G-27-382		65.964	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
6	9G-27-383		65.960	加工痕を有する剥片	安山岩	2	2.1	3.3	0.5	3.5
	9G-27-384		65.980	砕片	黒曜石	2	1.2	0.6	0.2	0.2
77	9G-27-385	接合11	66.000	剥片	黒曜石	2	2.0	2.2	1.3	4.1
	9G-27-386		65.999	剥片	黒曜石	2	1.1	1.9	0.3	0.5
	9G-27-387		66.000	砕片	黒曜石	1	0.5	0.9	0.3	0.1
	9G-27-388		65.967	砕片	黒曜石	3	—	—	—	—
	9G-27-389		65.958	砕片	黒曜石	6	—	—	—	—
	9G-27-390		66.015	砕片	黒曜石	3	0.5	1.2	0.2	0.1

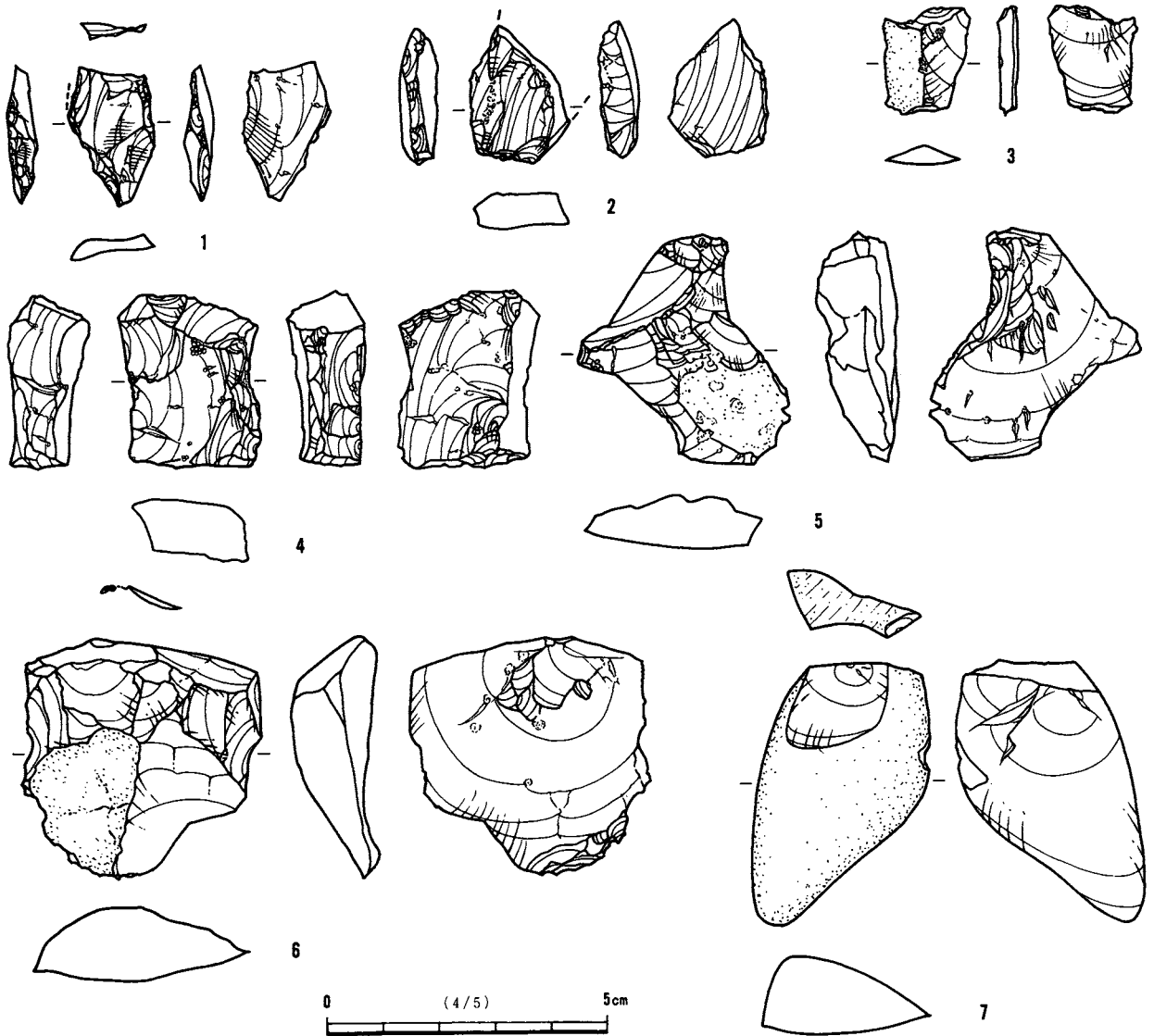
(第7表 続き)

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	9G-27-391		65.965	剥片	黒曜石	2	2.1	2.0	0.5	1.2
28	9G-27-392		65.980	縦長剥片	頁岩	2	5.6	2.2	0.8	7.3
70	9G-27-393	接合10	65.989	剥片	黒曜石	2	3.1	2.9	1.1	9.1
3	9G-27-394		65.990	ナイフ形石器	黒曜石	3	3.9	3.0	0.9	9.5
27 b	9G-27-395	接合22	65.974	剥片	黒曜石	8	5.5	3.4	1.4	17.7
	9G-27-395		65.974	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-396		65.991	砕片	黒曜石	8	0.9	0.7	0.4	0.3
59	9G-27-397	接合12	65.947	剥片	黒曜石	3	3.9	3.5	1.5	18.2
72	9G-27-433	接合11	65.895	剥片	黒曜石	2	3.3	3.7	1.5	10.7
34 a	9G-27-434	接合12	65.954	剥片	黒曜石	2	5.6	4.3	1.3	23.2
55 a	9G-27-435	接合24	65.943	剥片	黒曜石	2	3.0	2.1	0.9	4.6
	9G-27-436		65.967	砕片	黒曜石	2	0.7	1.2	0.2	0.2
	9G-27-437		65.932	砕片	頁岩	1	0.6	1.4	0.2	0.2
19	9G-27-438		65.966	石核	黒曜石	3	6.4	3.0	2.2	32.9
74	9G-27-438	接合 8	65.966	剥片	黒曜石	2	3.0	2.6	0.7	2.7
	9G-27-440		65.954	砕片	黒曜石	3	1.2	0.8	0.2	0.1
	9G-27-441		65.933	砕片	黒曜石	1	1.0	1.1	0.6	0.7
	9G-27-443		65.935	剥片	黒曜石	3	1.4	0.8	0.2	0.2
	9G-27-444		65.944	砕片	黒曜石	2	0.9	0.9	0.3	0.3
	9G-27-444		65.944	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-448		65.964	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
21 d	9G-27-449	接合 6	65.972	石核	黒曜石	1	3.9	2.9	1.6	15.7
67 a	9G-27-450	接合 5	65.978	剥片	黒曜石	1	3.0	2.5	0.8	5.2
	9G-27-451		65.918	砕片	黒曜石	1	1.3	1.4	0.4	0.8
	9G-27-452		65.865	剥片	頁岩	3	1.8	2.5	0.6	1.8
	9G-27-454		65.976	砕片	黒曜石	3	0.9	1.1	0.3	0.2
	9G-27-454		65.976	砕片	黒曜石	3	—	—	—	—
	9G-27-455		65.978	砕片	黒曜石	2	0.7	1.0	0.4	0.3
13	9G-27-468		65.851	使用痕を有する剥片	チャート	4	5.4	4.0	1.1	22.9
67 b	9G-27-469	接合 5	65.950	砕片	黒曜石	1	1.6	0.5	0.5	0.2
	9G-27-470		65.940	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
75	9G-27-471	接合 5	65.900	剥片	黒曜石	1	3.1	2.9	1.1	4.6
61 a	9G-27-472	接合 3	65.966	剥片	黒曜石	1	1.5	2.4	0.9	3.2
	9G-27-473		65.980	剥片	黒曜石	2	1.7	1.7	0.4	0.9
	9G-27-473		65.980	砕片	黒曜石	6	0.8	0.8	0.3	0.2
	9G-27-475		65.969	砕片	黒曜石	2	0.8	0.6	0.1	0.1
	9G-27-477		65.936	砕片	黒曜石	1	1.8	1.0	0.3	0.4
66	9G-27-478	接合 4	65.957	剥片	黒曜石	1	4.2	2.1	1.0	7.2
	9G-27-479		65.938	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-483		65.945	砕片	黒曜石	15	—	—	—	—
	9G-27-486		65.935	砕片	黒曜石	3	2.4	1.1	1.0	2.0
42	9G-27-488	接合 4	65.948	剥片	黒曜石	1	3.9	3.7	0.8	5.8
	9G-27-489		65.890	剥片	頁岩	4	2.7	2.1	0.6	2.9
	9G-27-492		65.895	砕片	黒曜石	2	—	—	—	—
	9G-27-493		65.890	砕片	黒曜石	1	—	—	—	—
34 b	9G-27-494	接合10	65.906	剥片	黒曜石	2	2.2	3.6	2.7	2.6
	9G-27-495		65.886	剥片	黒曜石	2	2.4	1.5	0.7	2.3
32	9G-27-496	接合 7	65.890	剥片	黒曜石	2	4.9	2.4	1.2	11.0
65 c	9G-27-497	接合10	65.890	剥片	黒曜石	2	2.4	3.2	1.7	6.9
	9G-27-498		65.914	砕片	黒曜石	3	0.6	0.7	0.2	0.1
55 b	9G-27-499	接合24	65.890	剥片	黒曜石	2	2.8	3.0	0.9	5.9
79	9G-27-500	接合 1	65.902	剥片	黒曜石	1	2.4	1.9	0.7	2.1
	9G-27-500		65.902	砕片	黒曜石	1	0.7	1.0	0.2	0.1
	9G-27-501		65.900	砕片	黒曜石	2	0.6	0.5	0.3	0.1
65 b	9G-27-502	接合10	65.900	砕片	黒曜石	2	1.4	1.4	1.5	0.7
	9G-27-502		65.900	砕片	黒曜石	8	—	—	—	—
16 b	9G-27-503	接合21	65.908	使用痕を有する剥片	黒曜石	3	1.3	3.4	0.7	2.7
	9G-27-504		65.880	砕片	黒曜石	1	0.7	0.8	0.3	0.2
9	9G-27-505	接合14	65.890	使用痕を有する剥片	頁岩	1	7.5	2.3	1.1	14.1
8	9G-27-506		65.888	使用痕を有する剥片	流紋岩	1	7.3	2.0	0.7	9.6

(3) ブロック外 (第58図, 第8表, 図版44)

Aブロックの南約4m~12m程離れた地点に, 層位的にA・Bブロックと同一文化層と捉えられる石器が点々と出土している。

1・2は, ナイフ形石器である。刃部を欠損しているが, 横長剥片を素材として, 打面(1)と先端(1・2)にブランディングを施している。4は, 加工痕を有する剥片である。3・5~7は, 剥片である。



第58図 第1文化層ブロック外出土石器

第8表 第1文化層ブロック外石器属性

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
2	9G-27-065		66.550	ナイフ形石器	黒曜石	3	2.9	2.5	1.8	0.6
7	9G-27-066		66.535	剥片	安山岩	3	20.0	5.1	2.9	1.3
3	9G-27-066	接合10	66.535	剥片	黒曜石	2	0.9	1.8	1.5	0.3
1	9G-27-067		66.087	ナイフ形石器	黒曜石	3	1.7	2.2	1.6	0.2
	9G-27-067		66.087	砕片	黒曜石	2	0.4	0.9	1.3	0.4
6	9G-27-071	接合2	65.960	剥片	黒曜石	1	18.8	4.2	4.1	1.5
4	9G-27-218		66.019	加工痕を有する剥片	黒曜石	3	11.1	2.3	2.9	1.1
5	9G-27-219	接合13	65.986	剥片	黒曜石	3	11.0	4.0	3.7	1.1

(4) 接合資料 (第59～66図, 図版46・47)

第1文化層において接合関係の認められたものは、凝灰岩1例、頁岩2例、黒曜石23例の計26例を数え、ブロック内はもちろん、ブロック間、ブロックとブロック外との間にも認められ、広範囲の移動が繰り返されている(第59図)。このうち凝灰岩の1例、頁岩の2例、黒曜石の6例は、剥片剥離後の折れによるものと考え、各ブロックの出土石器において接合状態を提示した。それ以外の17例のうち、本文化層における剥片剥離技術を示すものとして13例を図示した。

石材については、全て黒曜石であり、母岩別分類によって、接合資料1～6・接合資料7～11・接合資料12・13がそれぞれ同一母岩として捉えられた。

接合資料1 (第60図, 図版46)

Bブロックにおける、剥片2点において認められた接合である。石核の同一打面からB-79・B-14の順に、連続して剥離されたものである。

接合資料2 (第60図, 図版46)

Aブロックにおける石核1点と、Bブロックにおける剥片1点、ブロック外における剥片1点において認められた接合である。石核から外-6を剥離後、打面調整を行った後A-9を剥離し、これを石核としてB-82等の剥片を剥離している。最終的にA-9が残核となった。

接合資料3 (第60図, 図版46)

Bブロックにおける、剥片2点において認められた接合である。石核からB-61を剥離後、打面を転移して剥片剥離を行い、その剥離面を打面としてB-51を剥離している。

接合資料4 (第60図, 図版46)

Aブロックにおける石核1点と、Bブロックにおける剥片4点において認められた接合である。石核からB-50を剥離後、打面を転移してB-66を剥離し、更に打面を転移してA-11を剥離した。その後A-11を石核として、その主要剥離面を作業面としてB-42を剥離した。B-83については、B-66剥離時以降に剥離している。最終的にA-11が残核となった。

接合資料5 (第61図, 図版46)

Bブロックにおける、石核1点と剥片3点において認められた接合である。4点が接合した状態の剥片が石核から剥離され、これを石核として、その主要剥離面を作業面としてB-67の剥離とB-73とB-75の剥離が行われた。最終的にB-18が残核となった。

接合資料6 (第61図, 図版46)

Bブロックにおける、石核1点と剥片2点において認められた接合である。石核からB-52を剥離した後その剥離面を打面としてB-63等の剥片剥離を行い、その後反対側の面を剥離するなど打面転移を繰り返し、最終的にB-21が残核となった。

接合資料7 (第62図, 図版46)

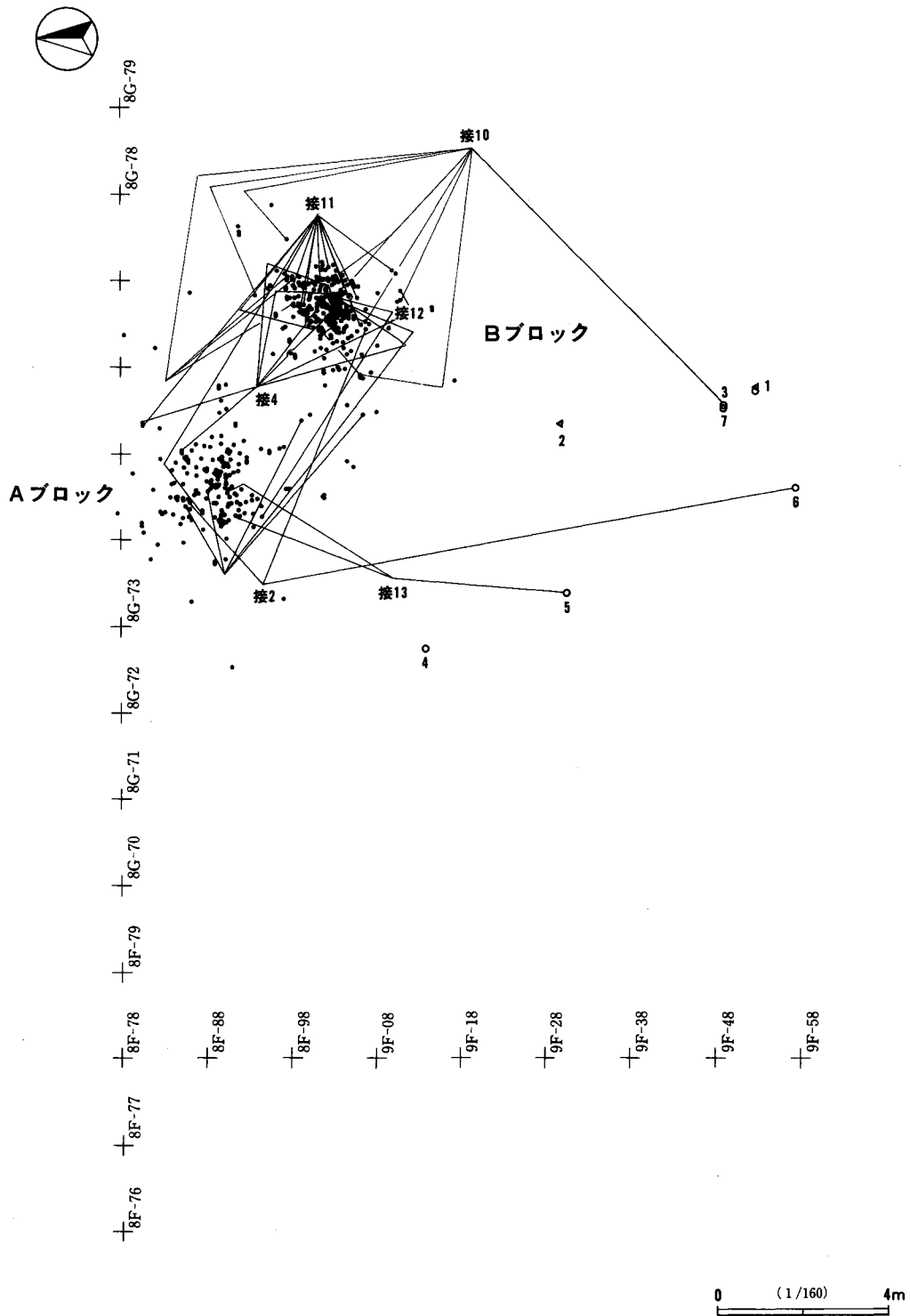
Bブロックにおける、剥片2点において認められた接合である。石核からB-29を剥離した後、同一打面からB-32を剥離している。

接合資料8 (第62図, 図版46)

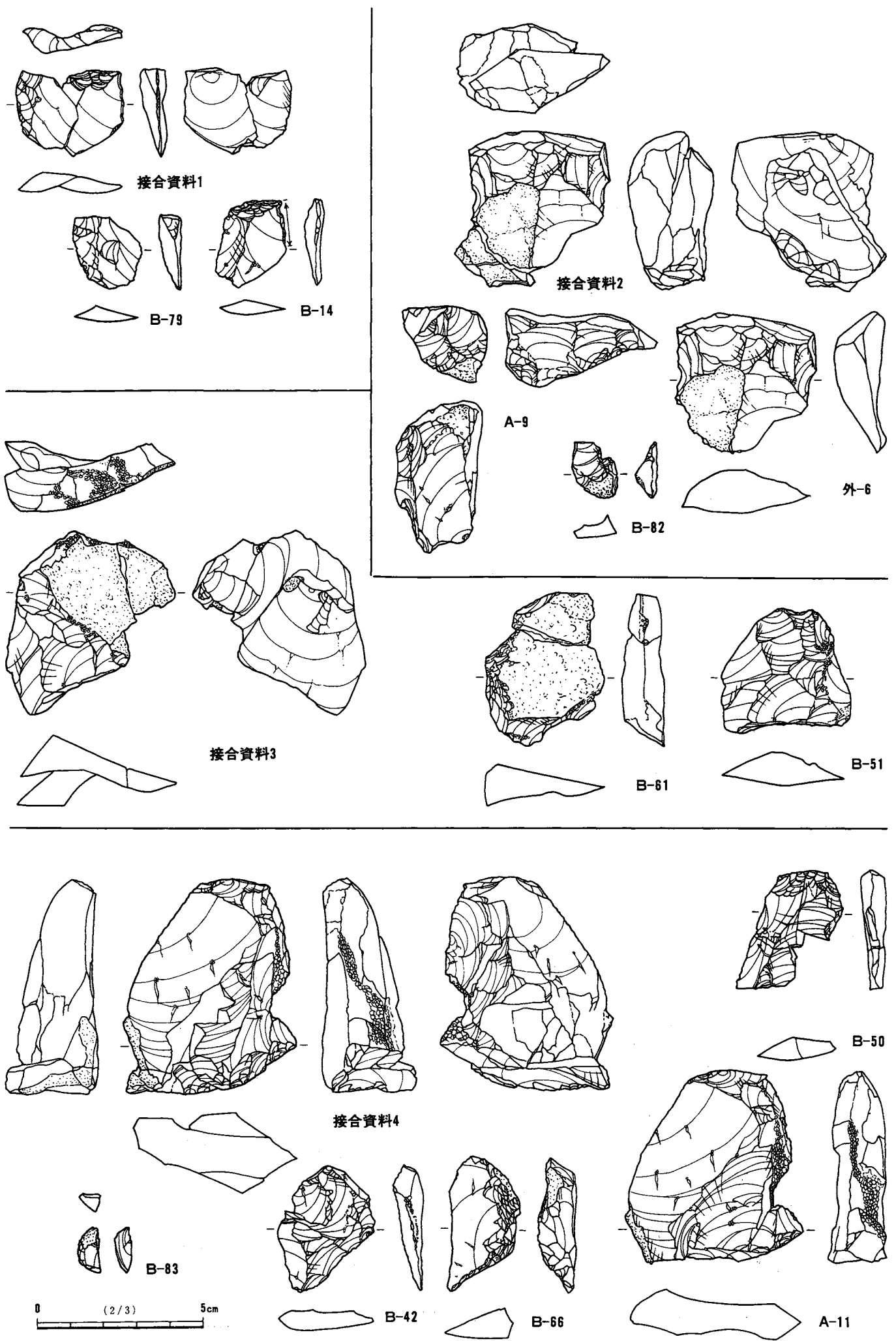
Bブロックにおける、剥片3点において認められた接合である。石核からB-78を剥離後、B-74・B-33の順で、同一打面から連続して剥離している。

接合資料 9 (第62図, 図版46)

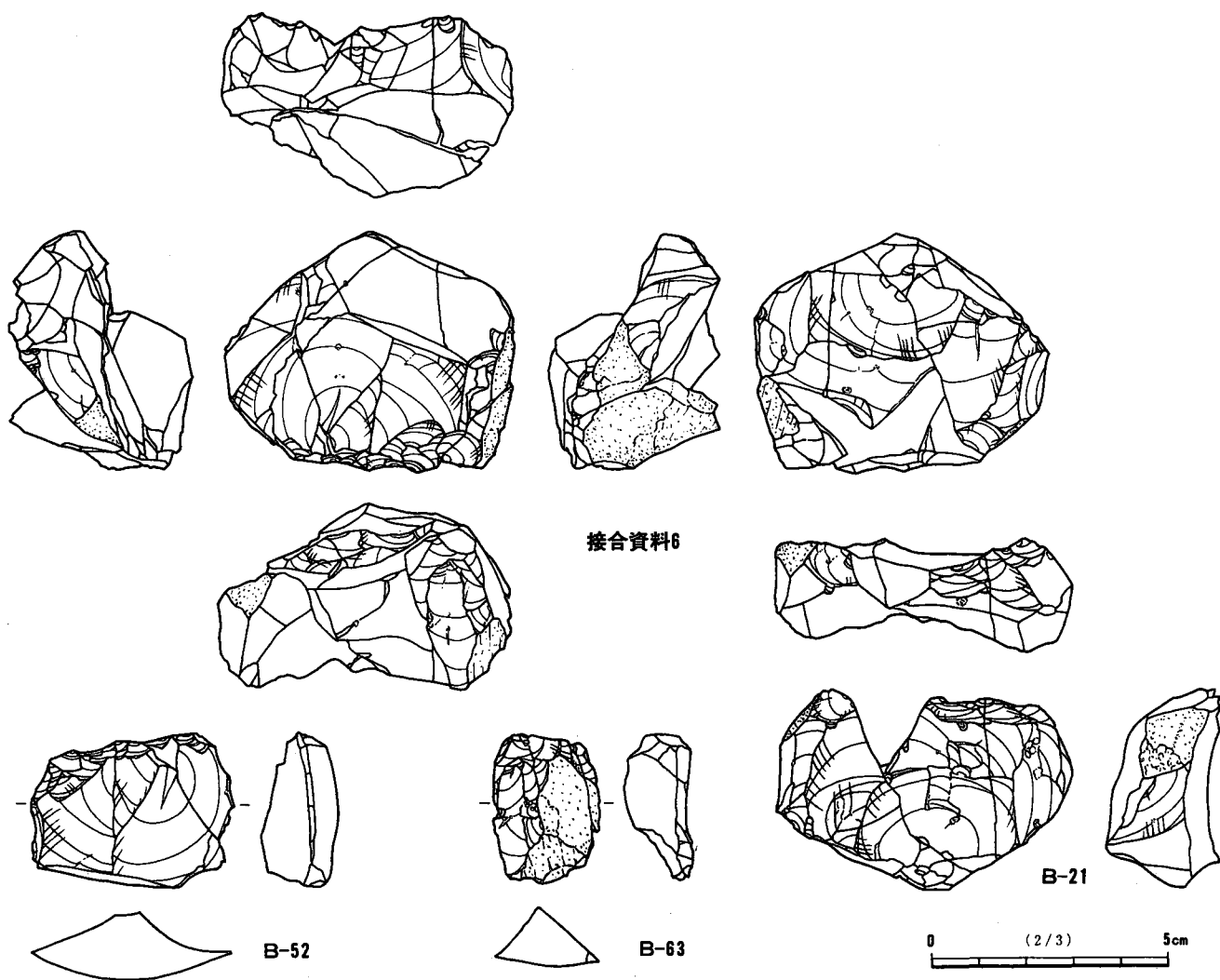
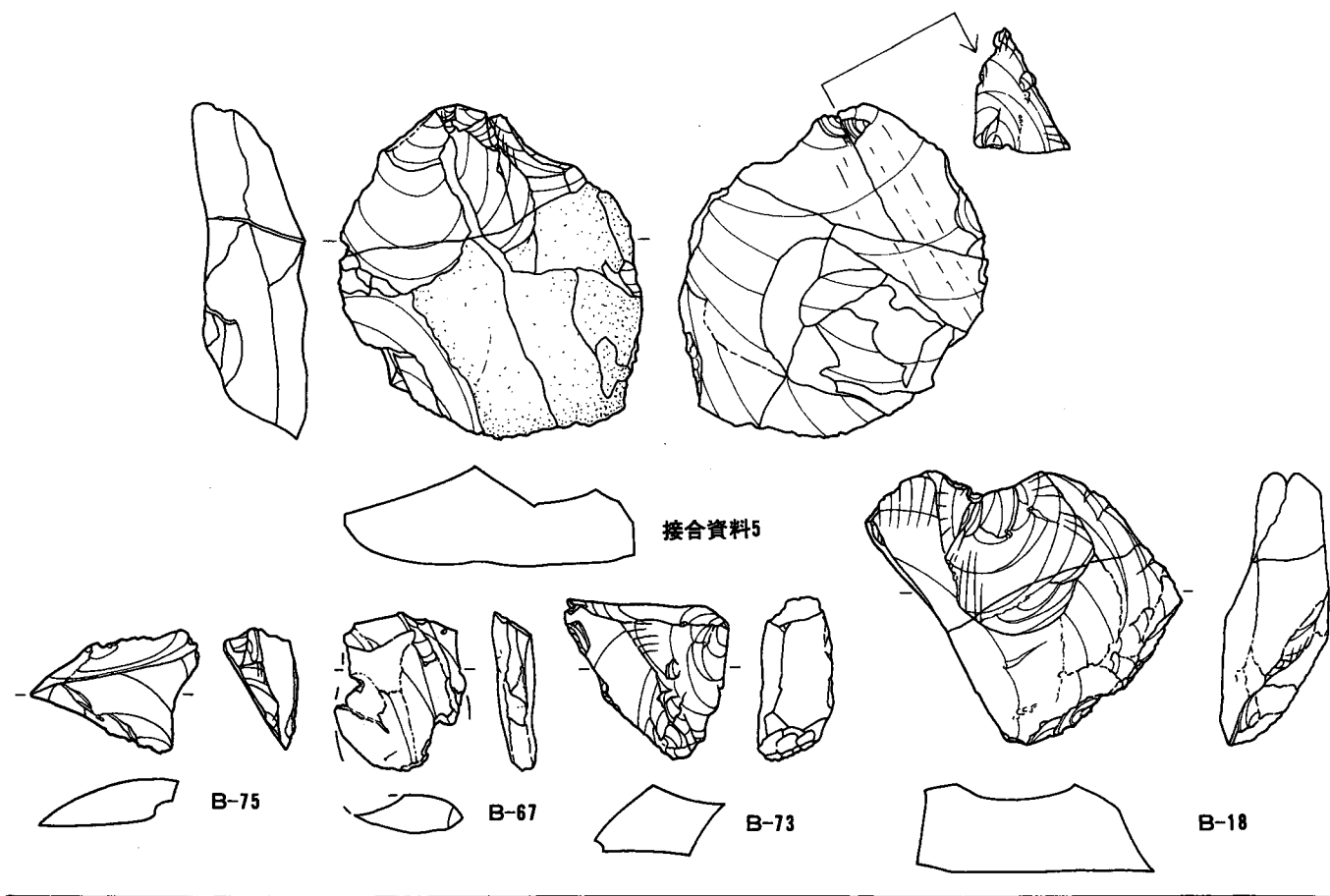
Aブロックにおける, 石核1点とフレイク2点において認められた接合である。石核から剥離された剥片の主要剥離面を作業面とする石核から, A-26・A-27を剥離している。両者の前後関係は不明だが, A-26と同一打面から3回以上の剥片剥離が行われている。最終的にA-10が残核となった。



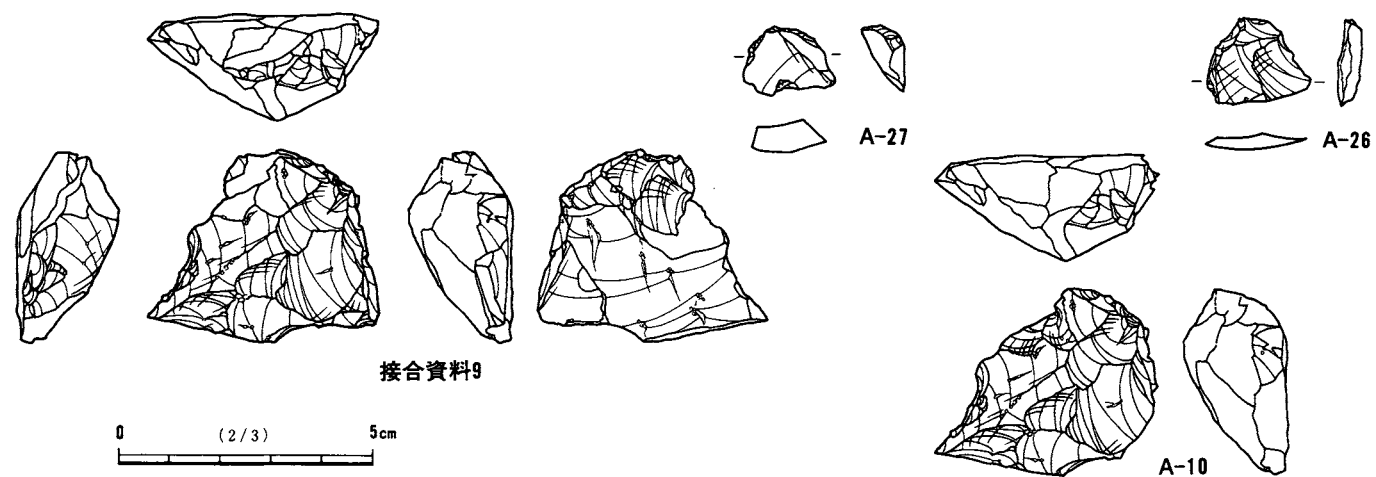
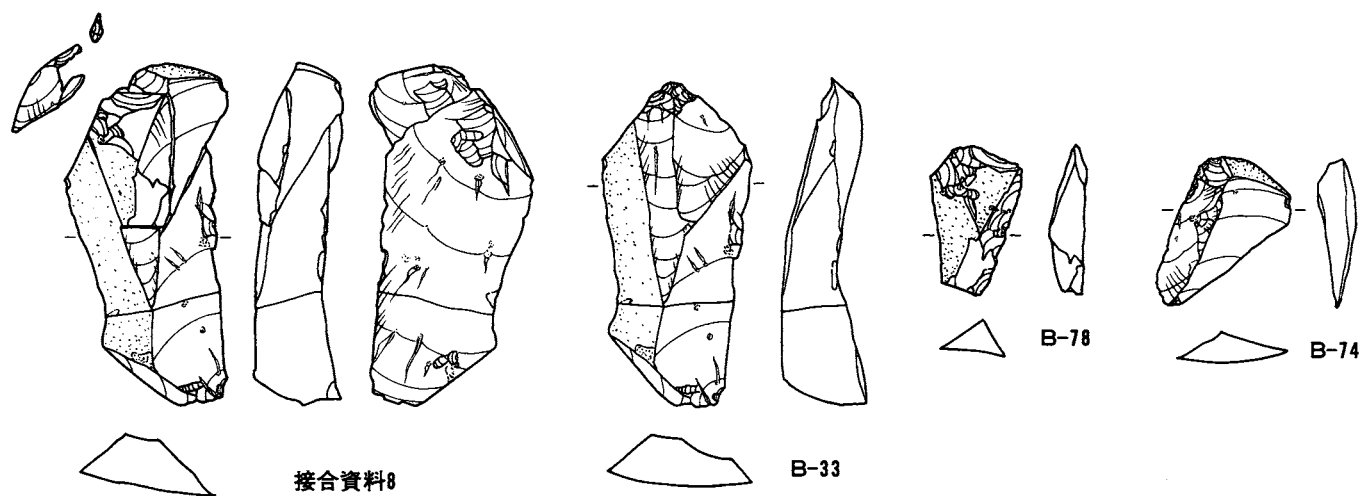
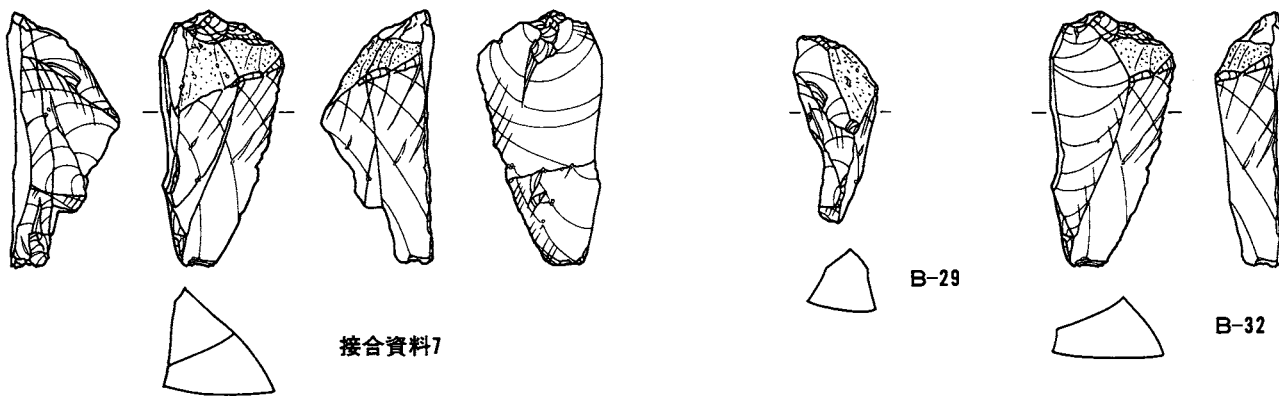
第59図 第1文化層接合関係



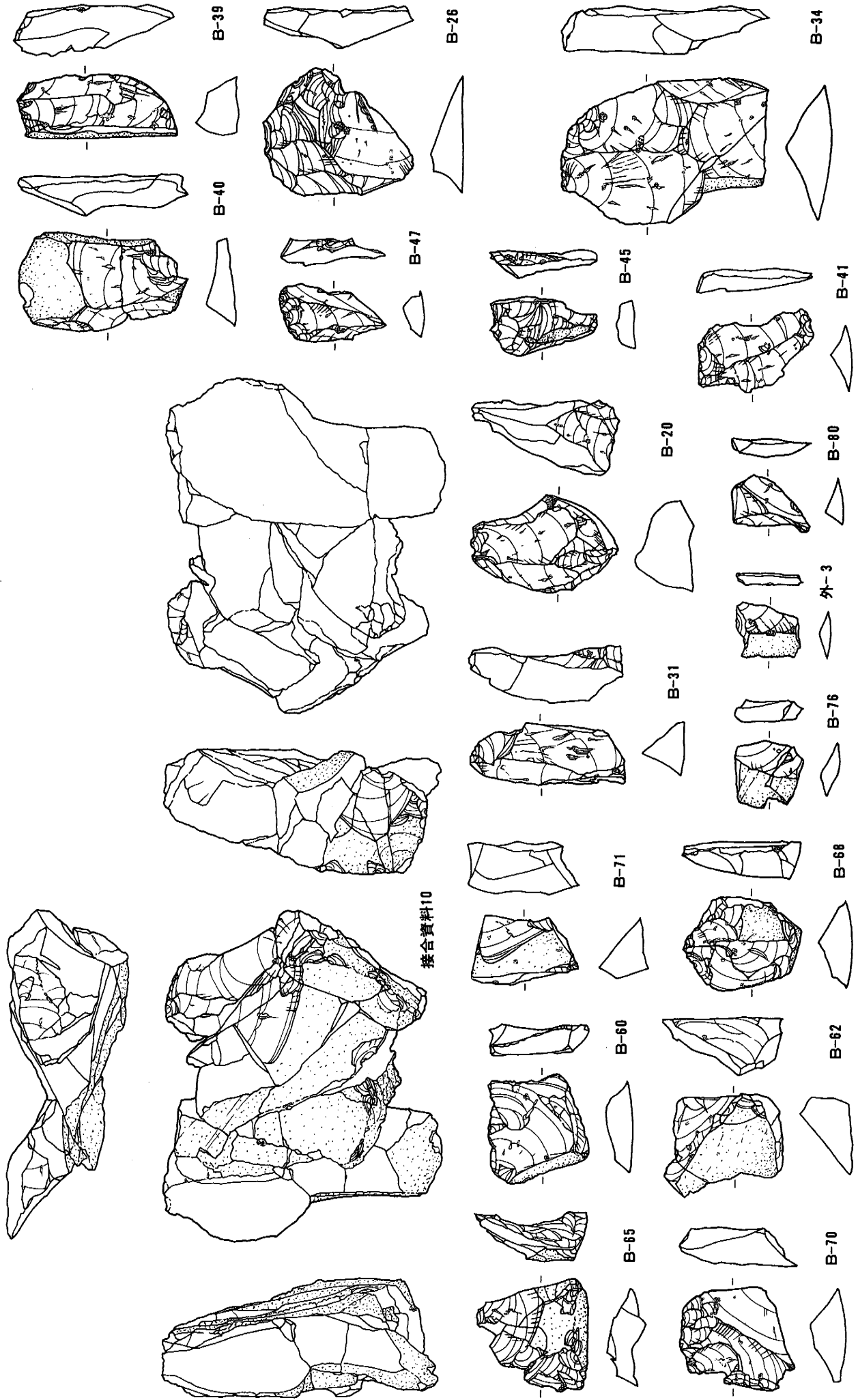
第60図 第1文化層接合資料(1)



第61図 第1文化層接合資料(2)



第62図 第1文化層接合資料(3)

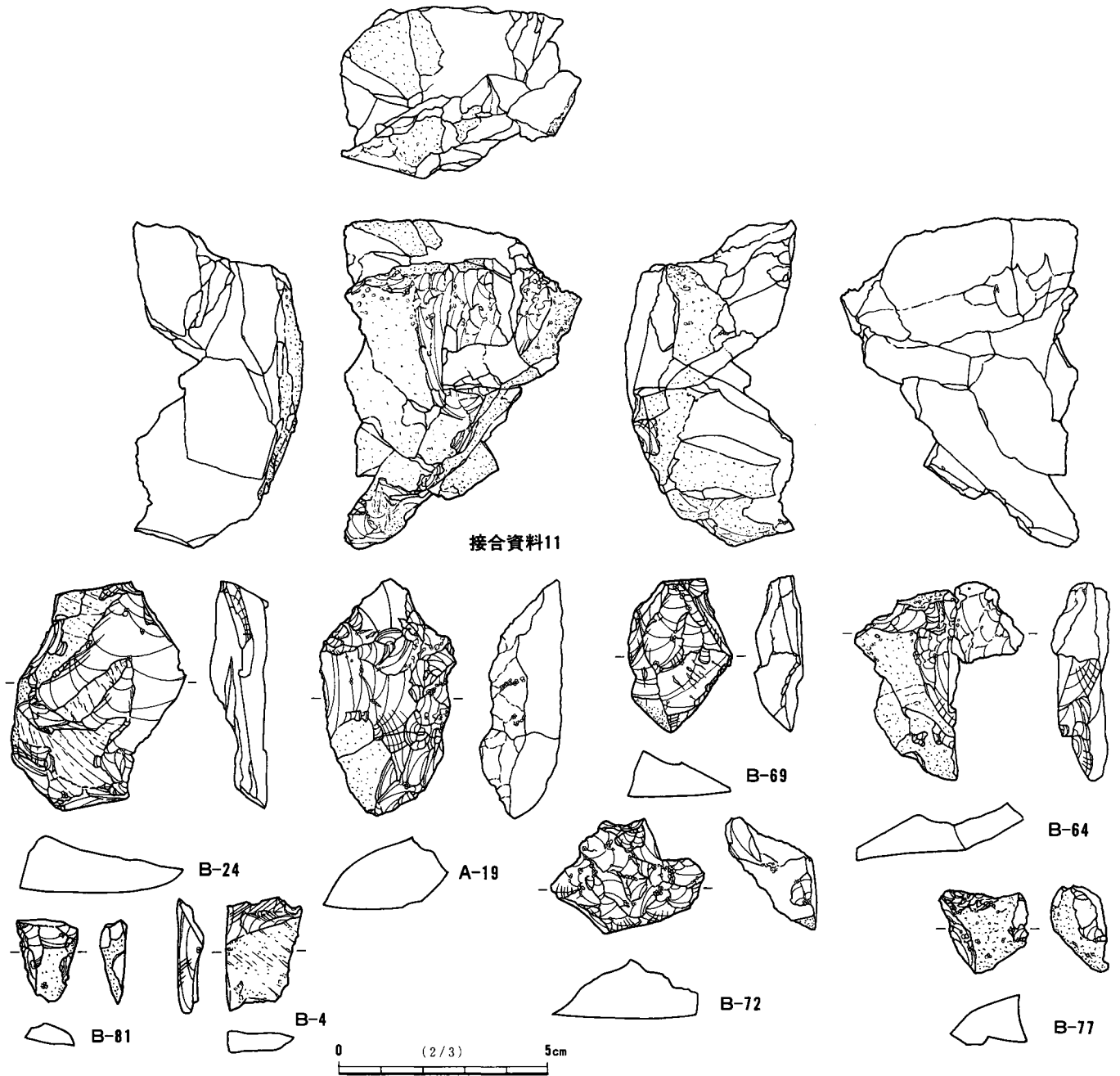


接合資料10

第63図 第1文化層接合資料(4)

接合資料10 (第63図, 図版46)

Bブロックにおける石核1点と剥片16点, ブロック外の剥片1点の間において認められた接合である。石核からB-65・70・62・60・71・68・31・20・80・41・47・26・39等が分割する以前の状態を呈した剥片(1号剥片とする)が剥離され, 更に同一打面からB-76・外-3が分割する以前の状態を呈した剥片, B-45等が剥離された。その後打面を180度転移してB-40が剥離され, 更にまた打面を180度転移して最初と同じ打面から, B-34が剥離された。剥離された1号剥片は, 石核として, その主要剥離面を打面とし, B-60・65・68が分割する以前の状態を呈した剥片(2号剥片とする)が剥離され, その剥離面を打面とし, 1号剥片の主要剥離面を作業面として, B-62・70が分割する以前の状態を呈した剥片, B-39,



第64図 第1文化層接合資料(5)

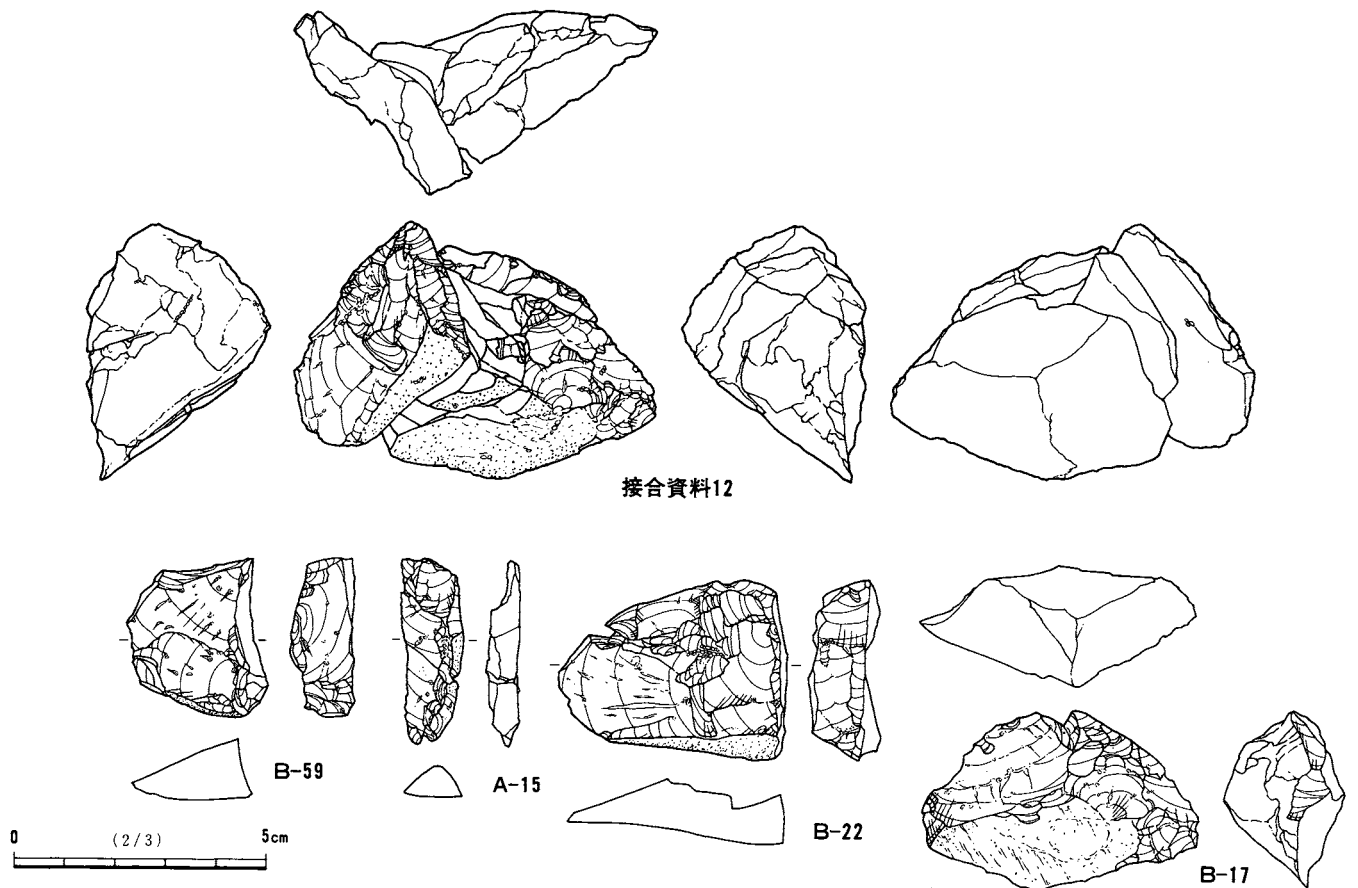
B-47・80の分割する以前の状態を呈した剥片，折断以前のB-26，の順で連続して剥離された。その後，打面を180度転移して，折断以前のB-71，B-31等の剥片を剥離し，再度打面を180度転移して，B-41を剥離した。最終的に，B-21が残核となった。2号剥片は，1号剥片からの剥離時に加えられた打撃の影響で，B-68・B-60の順でB-65から剥離している。

接合資料11（第64図，図版47）

Aブロックにおける剥片1点と，Bブロックにおけるナイフ形石器1点と剥片6点において認められた接合である。石核からB-77・B-64の順で同一打面から，連続して剥離され，次いで打面を転移してA-19とB-72が分割する前の剥片（剥片甲）が剥離された。A-19とB-72は，その後不純物の影響で分割している。残った石核から，剥片甲の剥離痕を打面としてB-84・B-4（加工以前のもの）が剥離され，次いでB-24，更にB-69等が同一打面から剥離された。

接合資料12（第65図，図版47）

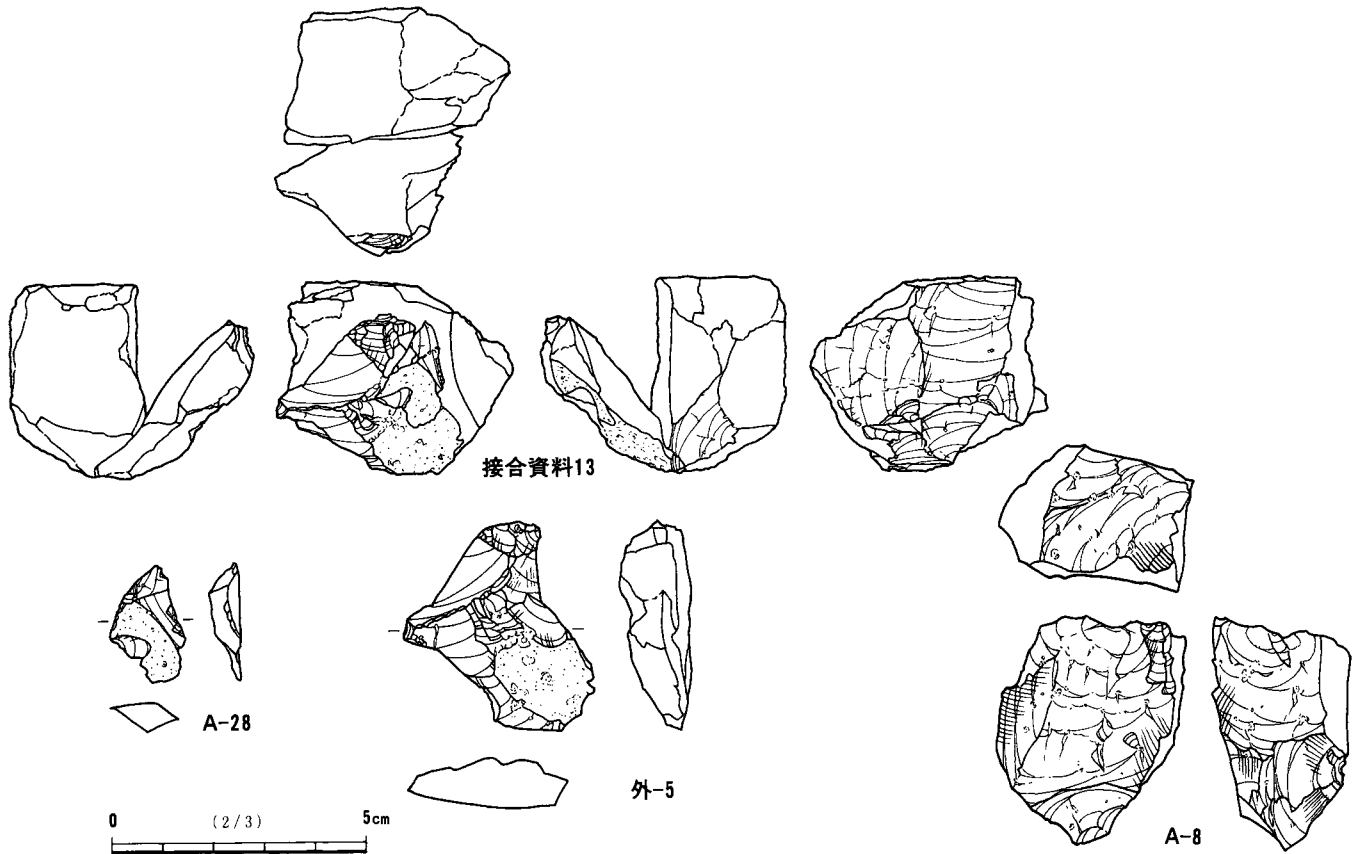
Aブロックにおける剥片1点と，Bブロックにおける石核1点，剥片2点において認められた接合である。石核からB-22等が剥離され，この剥離痕を打面としてA-15等が剥離され，更に打面を転移してB-17・59等が分割する以前の状態の剥片（剥片α）が剥離された。この剥片αを石核として，その主要剥離面を打面としてB-59が剥離された。B-59の剥離痕を打面として，剥片αの主要剥離面を作業面とした剥片剥離が行われた。最終的にB-17が，残核となった。



第65図 第1文化層接合資料（6）

接合資料13 (第66図, 図版47)

Aブロックにおける石核・剥片各1点と、ブロック外の剥片1点において認められた接合である。石核からA-28・外-5が連続して同一打面から剥離され、その後打面転移を繰り返して剥片剥離が行われ、最終的にA-8が残核となった。



第66図 第1文化層接合資料(7)

3 第2文化層

9G-27地区のC・D・Eブロックと、8F地区の9Fブロックが、同一文化層として、第1文化層に次ぐ第2文化層として捉えられた。

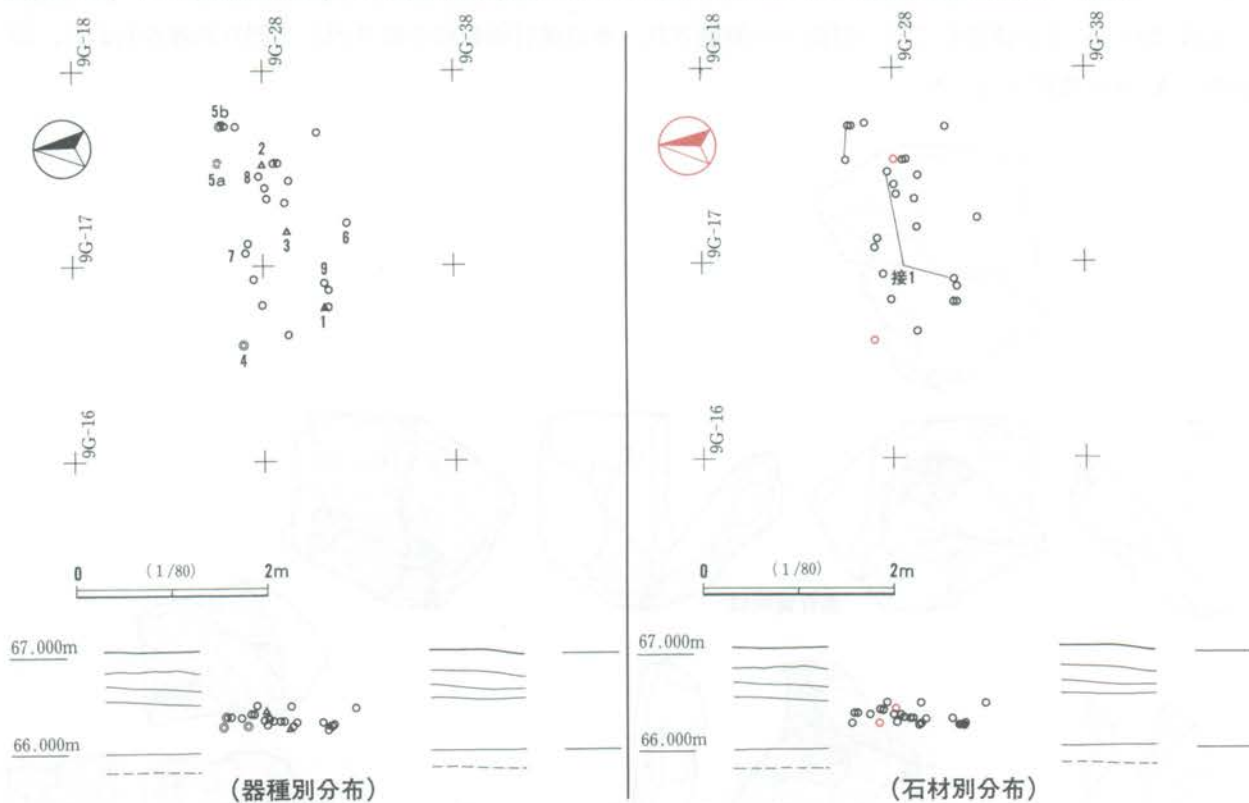
(1) Cブロック (第67・68図, 図版43, 第9表)

本ブロックは、9G-16・17, 9G-26・27グリッドに位置し、南北1.5m, 東西2.4mの範囲に、ナイフ形石器3点, 加工痕を有する剥片2点, (1点は接合しており, 数的には3点), 剥片・碎片19点が, 中央に集中する。垂直分布は、66.270m~66.480mの約0.2mで、VII~IX層, 特にIX層上部に濃く分布する。

石材は、黒曜石23点, 珪質頁岩2点で、ほぼ全てが黒曜石で占められる。

1~3は、ナイフ形石器である。縦長剥片を素材とするもの(1・2)と、横長剥片を素材とするもの(3)がある。1は、両側縁の一部, 打面部寄りにブランディングを施し, 右側縁に使用痕と思われる微小剥離が認められる。2は、左側縁の一部, 打面部寄りから, 打面, 右側縁全面にブランディングを施す。特に左側縁と, 右側縁の一部, 打面寄りの調整は, 背・腹両面に施される。3は、打面から右側縁, 先端部にかけてブランディングが施され, 左側縁を刃部としている。4・5は、加工痕を有する剥片である。4は、打面を折断し, 左側縁に調整を施す。右側縁には, 使用による微小剥離が認められる。5は右側縁

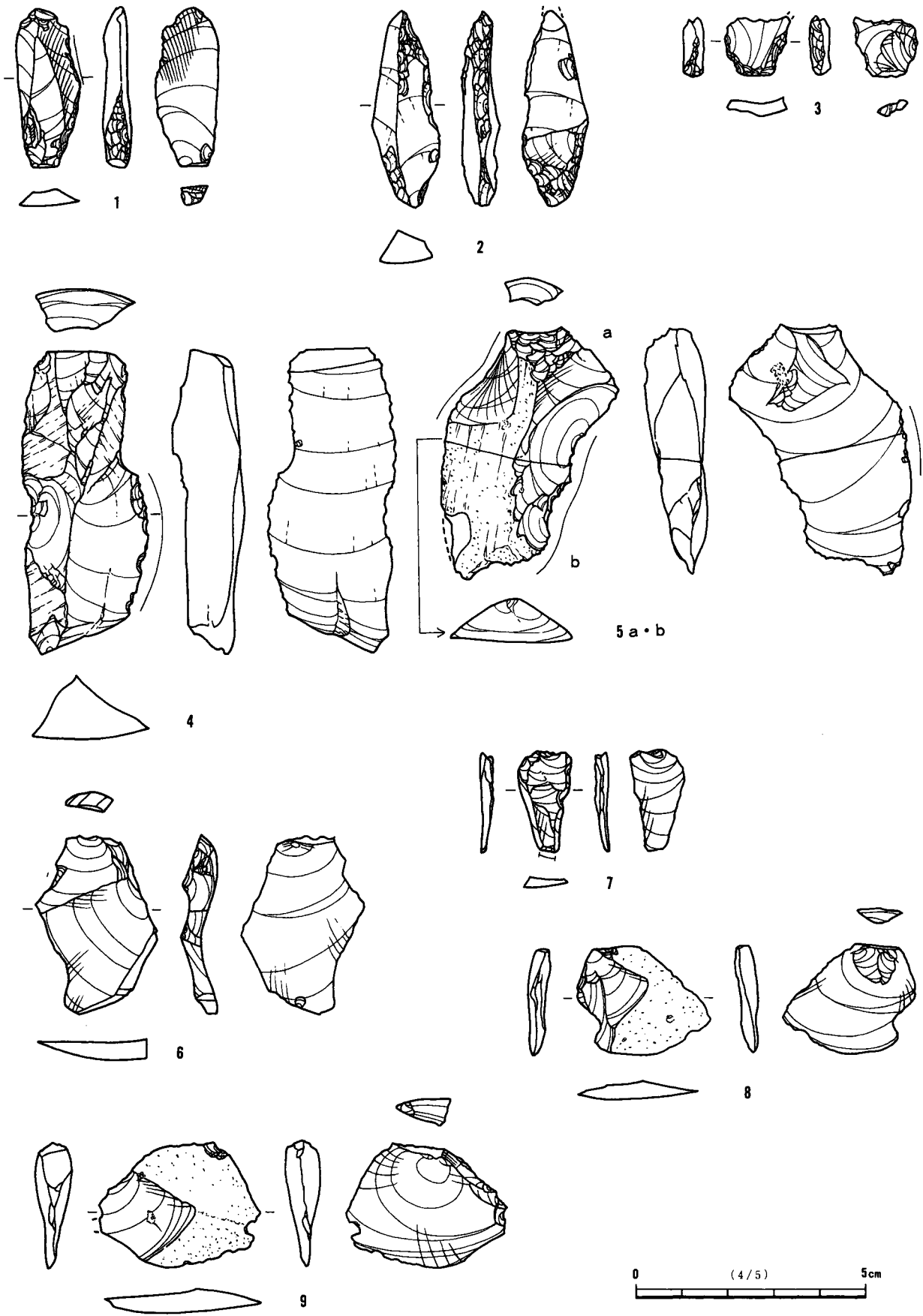
に調整を施し、その部分と左側縁の一部に、使用による微小剥離が認められる。6～9は、剥片。6の右側面には、この剥離以前に、この剥片の背面となった部分を打面とした剥片剥離の痕跡が残る。



第67図 Cブロック出土状況

第9表 Cブロック石器属性

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	9G-27-043		66,305	剥片	黒曜石	4	0.8	1.6	1.2	0.5
8	9G-27-044	接合1	66,345	剥片	黒曜石	5	1.8	2.9	2.2	0.3
2	9G-27-045		66,417	ナイフ形石器	珪質頁岩	2	4.7	4.2	1.2	1.1
5 b	9G-27-046	接合7	66,397	加工痕を有する剥片	黒曜石	7	6.5	2.8	2.8	0.9
	9G-27-046		66,397	砕片	黒曜石	5	0.2	1.1	1.0	0.2
	9G-27-047		66,367	砕片	黒曜石	4	—	—	—	—
5 a	9G-27-048	接合7	66,378	加工痕を有する剥片	黒曜石	7	10.4	3.0	3.2	1.2
	9G-27-049		66,362	剥片	黒曜石	4	0.4	1.6	1.0	0.2
	9G-27-050		66,337	砕片	黒曜石	7	0.1	0.8	0.8	0.1
3	9G-27-051		66,245	ナイフ形石器	黒曜石	5	0.6	1.2	1.6	0.3
6	9G-27-052		66,467	剥片	黒曜石	7	4.2	3.7	2.6	0.7
9	9G-27-053	接合1	66,260	剥片	黒曜石	5	4.5	2.6	3.3	0.7
	9G-27-054		66,270	砕片	黒曜石	4	0.2	0.7	1.0	0.2
1	9G-27-055		66,272	ナイフ形石器	黒曜石	4	2.8	3.4	1.3	0.6
	9G-27-055		66,272	剥片	黒曜石	13	0.3	1.4	1.0	0.3
4	9G-27-056		66,275	加工痕を有する剥片	珪質頁岩	1	23.2	6.3	2.6	1.4
	9G-27-057		66,287	砕片	黒曜石	4	0.3	1.2	0.9	0.2
	9G-27-058		66,492	剥片	黒曜石	7	0.9	2.1	2.4	0.5
7	9G-27-059		66,411	剥片	黒曜石	4	0.5	2.1	1.2	0.2
	9G-27-060		66,412	砕片	黒曜石	7	0.5	1.1	1.2	0.4
	9G-27-061		66,480	砕片	黒曜石	4	0.1	1.1	0.7	0.2
	9G-27-068		66,270	剥片	黒曜石	7	1.2	1.5	2.6	0.4
	9G-27-069		66,310	砕片	黒曜石	4	0.2	0.8	0.5	0.3
	9G-27-070		66,320	砕片	黒曜石	7	0.3	1.2	1.8	0.2
	9G-27-070		66,320	砕片	黒曜石	7	—	—	—	—



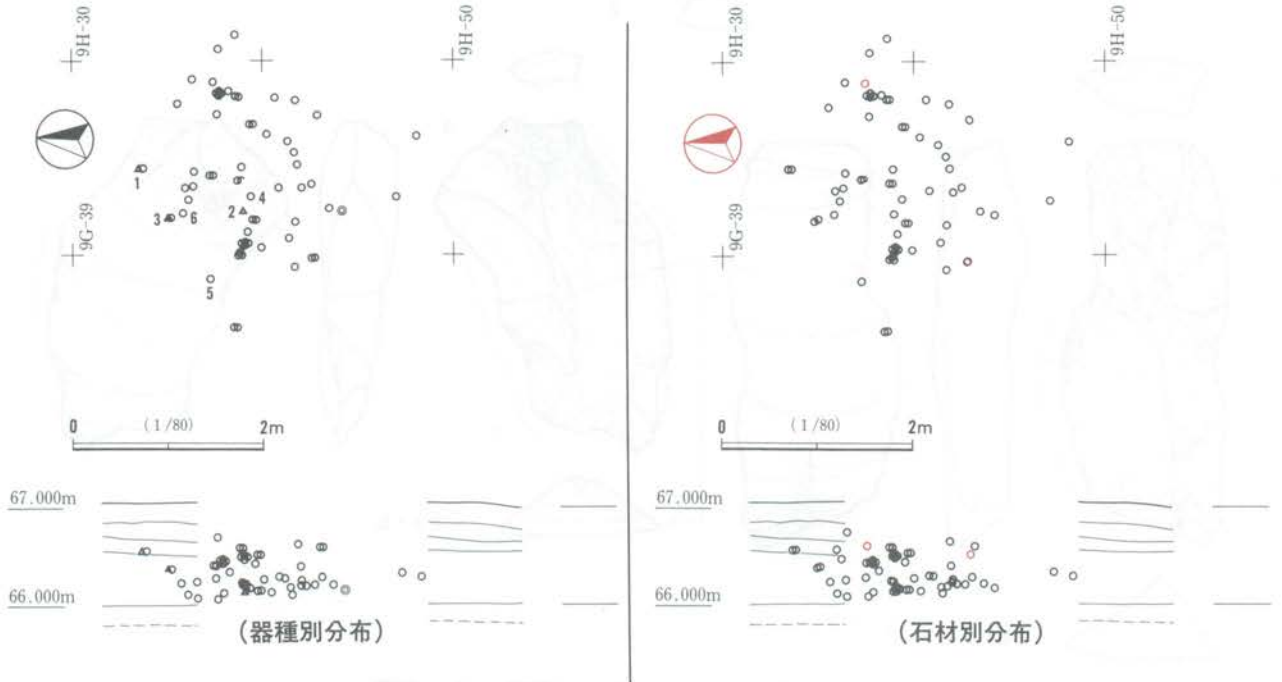
第68図 Cブロック出土石器

(2) Dブロック (第69・70図, 図版43, 第10表)

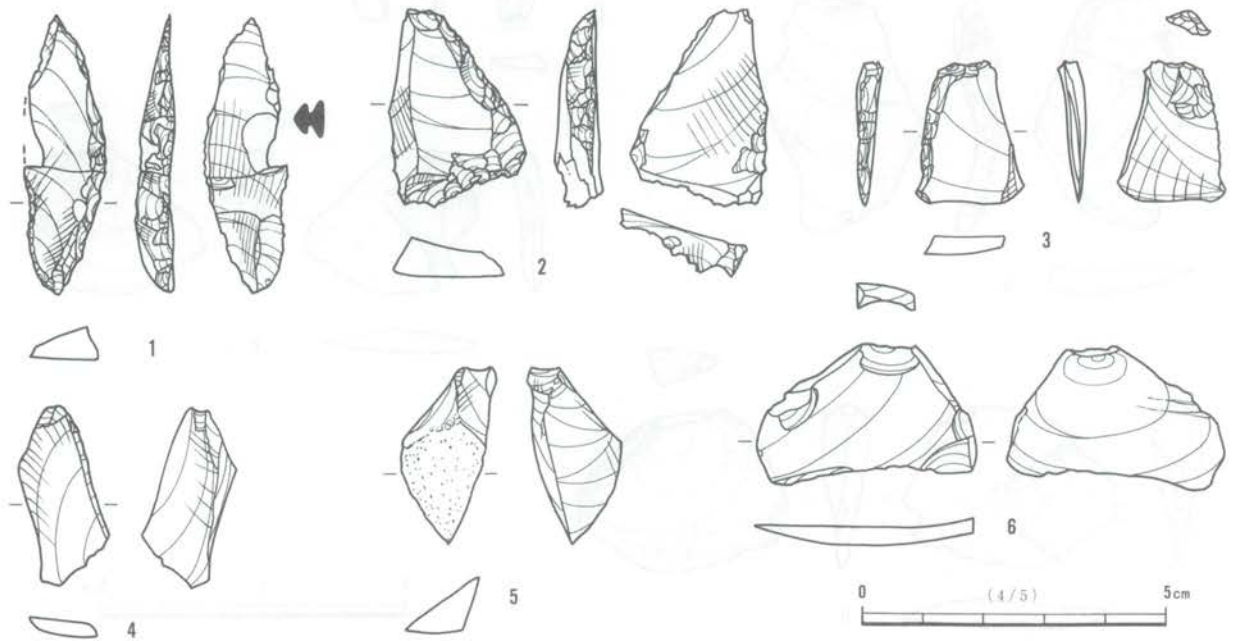
本ブロックは、9G-38~9H-30・9G-48~49グリッドに位置し、南北3m、東西3mの範囲に、ナイフ形石器2点、削器1点、剥片・碎片60点が分布している。垂直分布は、66.065m~66.723mの約0.5m、VI~IX層の間、特にIX層上部に濃く分布する。

石材は、黒曜石61点、珪質頁岩2点で、ほぼ全てが黒曜石である。

1・2は、ナイフ形石器である。1は、縦長剥片を素材とし、左側縁の打面寄りの一部から打面部・右



第69図 Dブロック出土状況



第70図 Dブロック出土石器

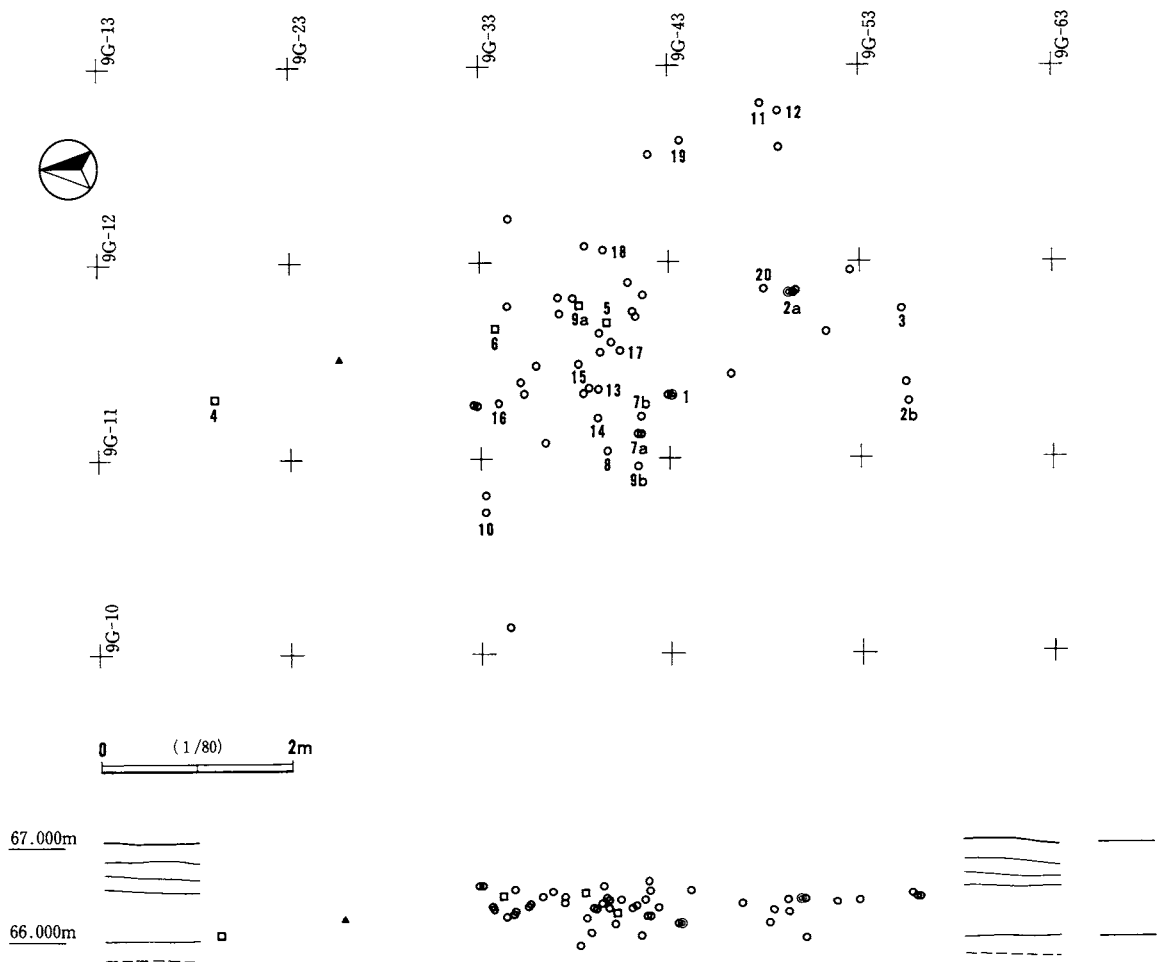
側縁全体にブランディングを施している。ほぼ中央から上下に折断しており、本ブロックからは、上半部だけが検出された。2は、剥片を上下に折断したものの、打面を除去しそこにブランディングを施し、折断面からも背面側に調整を施している。3は、削器である。左側縁に刃部を作り出しているが、右側縁側は折断されている。4～6は、剥片である。本ブロックから検出された61点の剥片・碎片の大きさは、その44% (27点) が、0.1g以下である。このうち18点については計量不可能であったため便宜的に0.1gとしたもので、長・幅・厚については計測していない。

第10表 Dブロック石器属性

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	9G-27-001		66.589	剥片	黒曜石	5	0.4	0.8	1.6	0.3
	9G-27-001		66.589	碎片	黒曜石	4	0.1	0.7	0.5	0.2
5	9G-27-002		66.289	剥片	黒曜石	4	2.7	2.9	1.6	0.9
	9G-27-003		66.639	碎片	黒曜石	7	0.1	—	—	—
	9G-27-004		66.589	碎片	珪質頁岩	2	0.1	1.0	0.7	0.1
	9G-27-004		66.589	碎片	黒曜石	7	0.2	1.1	0.5	0.3
	9G-27-005		66.328	碎片	黒曜石	7	0.2	0.8	1.0	0.2
	9G-27-006		66.288	碎片	黒曜石	7	0.9	1.3	1.6	0.5
	9G-27-007		66.165	剥片	黒曜石	5	0.4	1.6	0.8	0.4
	9G-27-008		66.210	碎片	黒曜石	4	0.1	—	—	—
	9G-27-009		66.239	碎片	黒曜石	7	0.1	—	—	—
	9G-27-010		66.201	碎片	黒曜石	7	0.4	1.5	0.9	0.5
	9G-27-011		66.205	碎片	黒曜石	7	0.3	1.4	1.1	0.3
	9G-27-012		66.256	碎片	黒曜石	7	0.1	—	—	—
	9G-27-013		66.275	碎片	黒曜石	4	0.1	—	—	—
	9G-27-014		66.197	碎片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9G-27-015		66.180	碎片	黒曜石	4	0.2	1.3	1.1	0.2
	9G-27-016		66.143	碎片	黒曜石	7	0.2	1.6	0.5	0.6
	9G-27-017		66.163	剥片	黒曜石	4	1.6	1.7	1.6	0.3
	9G-27-017		66.163	碎片	黒曜石	7	0.1	—	—	—
	9G-27-018		66.265	碎片	黒曜石	4	0.1	—	—	—
	9G-27-019		66.212	碎片	黒曜石	7	0.1	1.0	0.5	0.1
	9G-27-019		66.212	碎片	黒曜石	7	0.1	—	—	—
	9G-27-019		66.212	碎片	黒曜石	7	0.1	—	—	—
	9G-27-020		66.478	碎片	黒曜石	7	0.2	1.1	1.2	0.2
	9G-27-020		66.478	碎片	黒曜石	4	0.2	0.6	1.3	0.3
	9G-27-020		66.478	碎片	黒曜石	7	0.1	1.1	0.6	0.2
	9G-27-020		66.478	碎片	黒曜石	4	0.1	0.8	0.6	0.2
	9G-27-021		66.511	碎片	黒曜石	11	0.8	2.1	1.2	0.3
	9G-27-021		66.511	碎片	黒曜石	7	0.2	0.9	1.1	0.3
4	9G-27-022		66.426	剥片	黒曜石	4	1.4	2.3	1.1	0.7
	9G-27-023		66.180	碎片	黒曜石	7	0.2	1.4	0.5	0.2
	9G-27-024		66.410	碎片	黒曜石	7	0.2	1.2	0.4	0.4
	9G-27-024		66.410	碎片	黒曜石	7	0.1	0.7	0.7	0.2
	9G-27-025		66.723	碎片	黒曜石	7	0.3	0.9	1.6	0.4
6	9G-27-026		66.560	剥片	黒曜石	7	3.5	1.9	3.5	0.5
1	9G-27-027	接合8	66.597	ナイフ石器	黒曜石	5	1.3	2.6	1.1	0.5
	9G-27-027		66.597	碎片	黒曜石	16	0.1	—	—	—
	9G-27-028		66.429	碎片	黒曜石	5	0.2	1.6	0.7	0.2
	9G-27-028		66.429	碎片	黒曜石	7	0.2	1.4	0.7	0.4
	9G-27-028		66.429	碎片	黒曜石	4	0.2	1.2	0.6	0.4
	9G-27-028		66.429	碎片	黒曜石	7	0.1	1.3	0.4	0.2
	9G-27-030		66.225	碎片	黒曜石	4	0.3	1.7	0.6	0.4
	9G-27-031		66.251	碎片	黒曜石	4	0.1	0.7	0.9	0.2
	9G-27-032		66.686	剥片	珪質頁岩	2	1.0	1.2	2.1	0.5

(第10表 続き)

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	9G-27-033		66.328	碎片	黒曜石	4	0.1	—	—	—
	9G-27-034		66.245	碎片	黒曜石	7	0.4	0.7	2.1	0.2
	9G-27-034		66.245	碎片	黒曜石	4	0.1	—	—	—
	9G-27-035		66.127	碎片	黒曜石	5	0.2	1.6	0.8	0.2
	9G-27-036		66.245	碎片	黒曜石	7	0.3	1.4	1.5	0.2
	9G-27-037		66.295	碎片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9G-27-038		66.400	碎片	黒曜石	4	0.1	—	—	—
	9G-27-039		66.282	碎片	黒曜石	11	0.4	2.0	1.2	0.2
	9G-27-075		66.110	碎片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9G-27-340		66.110	碎片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
2	9G-27-341		66.120	ナイフ形石器	黒曜石	4	4.6	3.2	2.2	0.6
	9G-27-342		66.082	碎片	黒曜石	7	0.4	1.1	1.1	0.4
	9G-27-343		66.065	碎片	黒曜石	7	0.1	1.2	1.1	0.2
	9G-27-510		66.150	剥片	黒曜石	5	0.2	1.1	0.7	0.3
	9G-27-511		66.185	碎片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
3	9G-27-512		66.370	削器	黒曜石	5	1.0	2.3	1.7	0.3
	9G-27-513		66.385	碎片	黒曜石	5	0.6	2.3	0.8	0.2
	9G-27-514		66.457	碎片	黒曜石	5	0.2	1.6	1.3	0.1



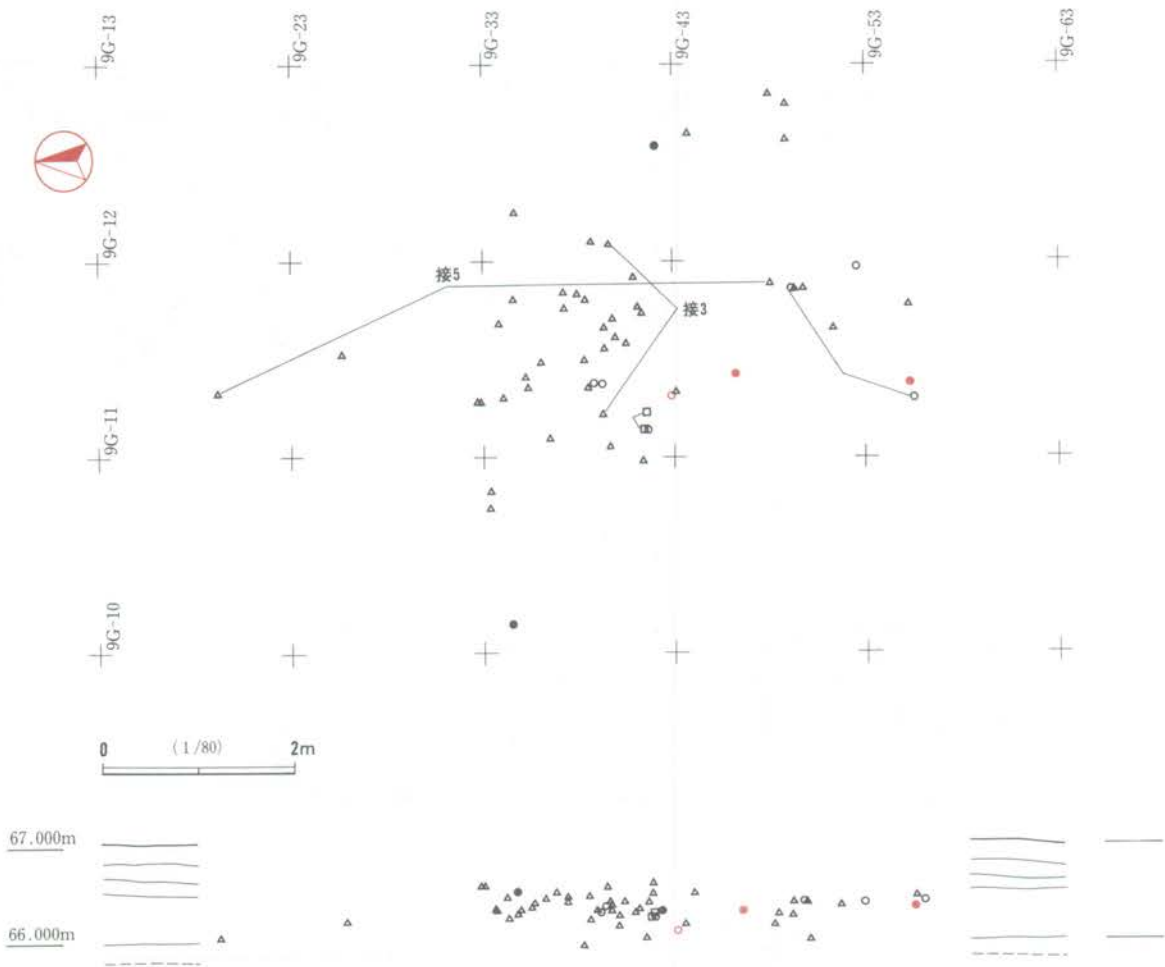
第71図 Eブロック器種別分布

(3) Eブロック (第71~75図, 第11表, 図版43)

本ブロックは, 9G-11, 9G-21, 9G-30~32, 9G-41~42, 9G-51グリッドに位置し, 南北8m, 東西6mの範囲に, 加工痕を有する剥片3点, 石核3点, 剥片・碎片51点が, 中央部に集中して分布する。垂直分布は, 65.936m~66.602mの約0.6m, VII~IX層の間, 特にIX層上部に濃く分布する。

石材は, チャート44点, 黒曜石6点, 流紋岩2点, 安山岩2点, 凝灰岩2点, 珩質頁岩1点で, チャートが全体の2/3以上を占めている。

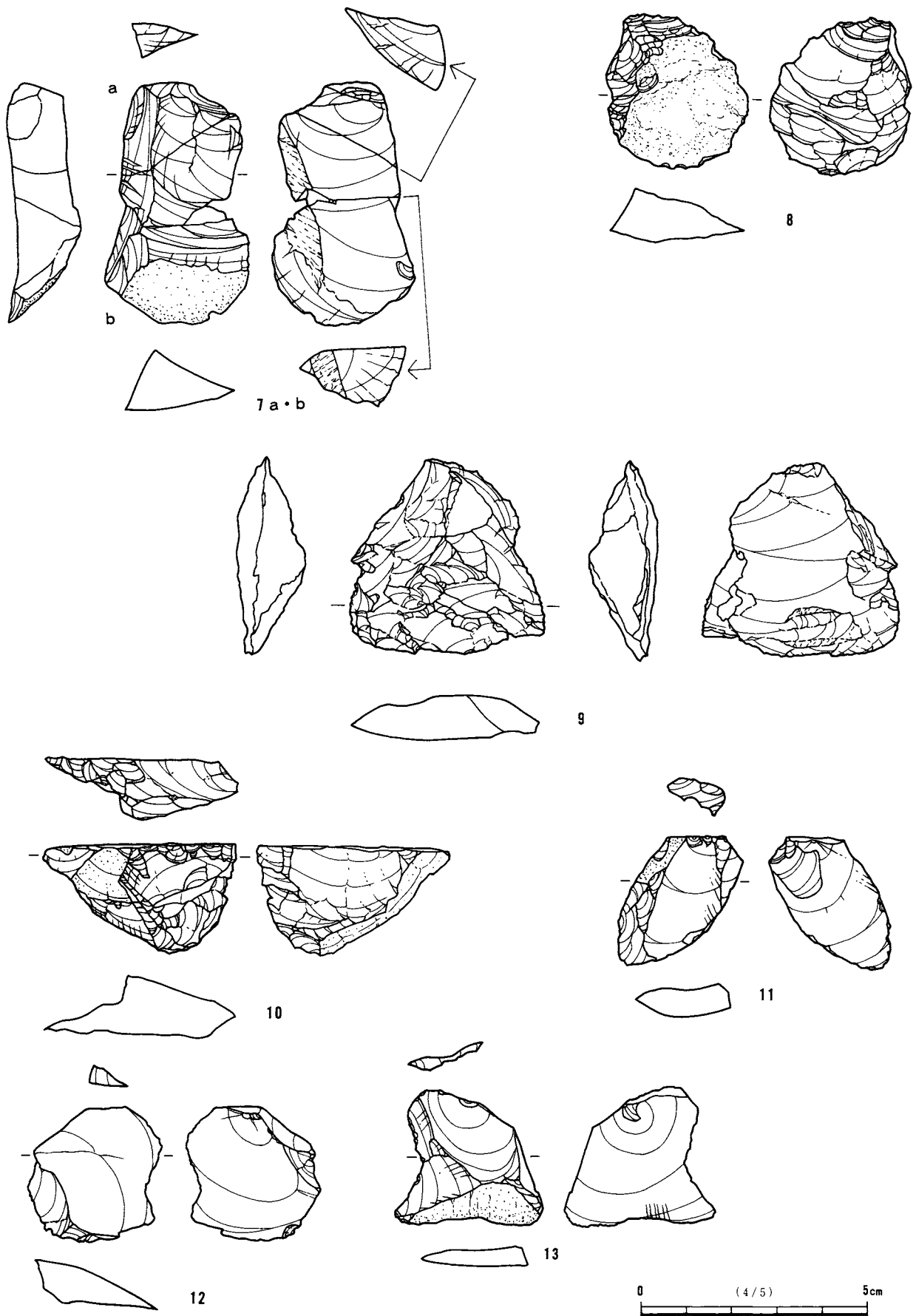
1~3は, 加工痕を有する剥片である。1は, 縦長剥片の左側縁先端部寄りの一部に加工が施されている。2は, 右側縁側を折断されL字状を呈する剥片の, 折断面の一部に背・腹両面から調整が施されている。3は, 厚手の縦長剥片の先端部に, 腹面側から調整が施されている。搔器の未成品の可能性が高い。4~6は, 石核である。4は一部に自然面を残す以外は全面を剥離痕に覆われるのに対して, 5・6は, 裏面に主要剥離痕を残す, 剥片素材の石核である。7~20は, 剥片である。7のような, 整った縦長剥片は少なく, 比較的幅広な剥片が目立つ。17~20は, 調整剥片である。



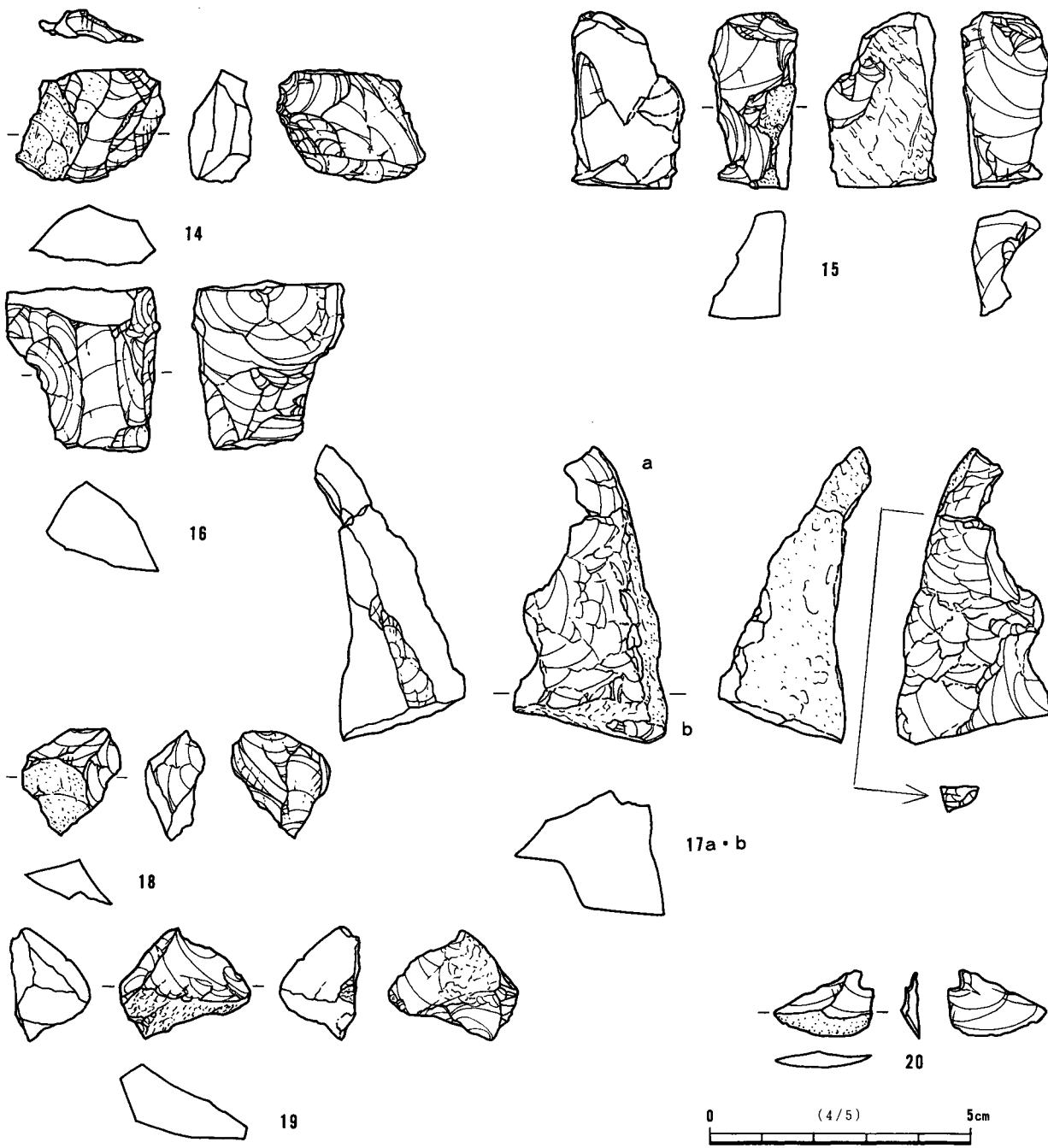
第72図 Eブロック石材別分布



第73図 Eブロック出土石器(1)



第74図 Eブロック出土石器(2)



第75図 Eブロック出土石器(3)

第11表 Eブロック石器属性

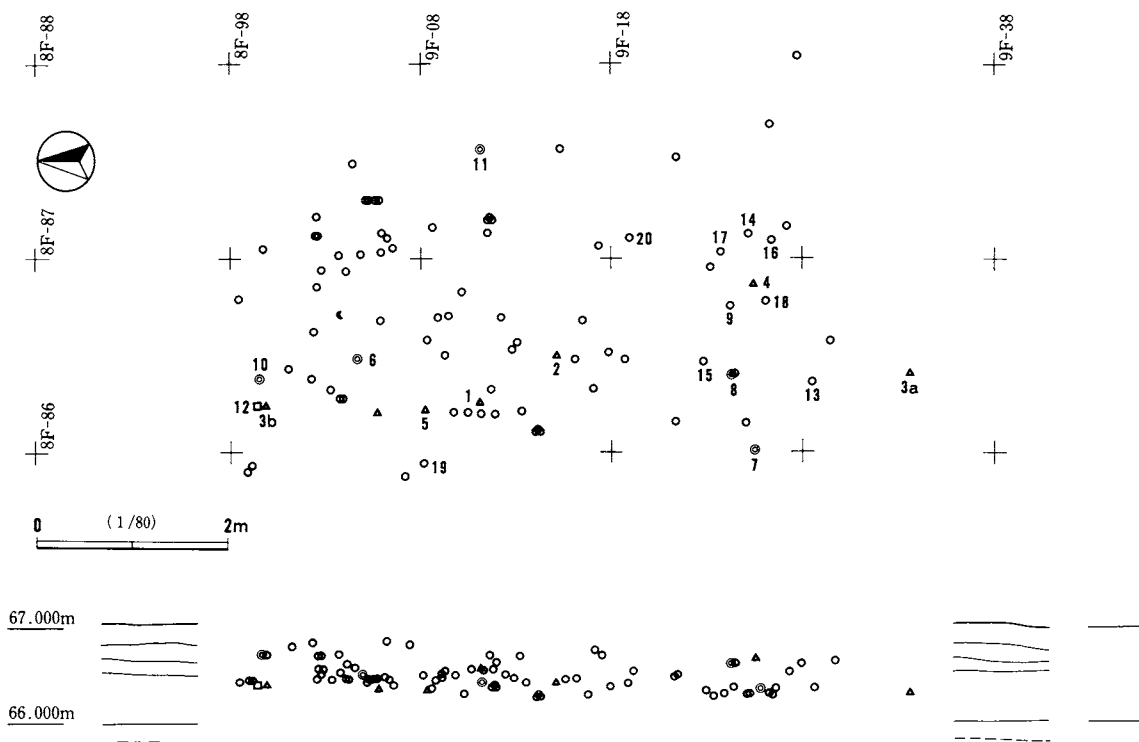
図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
11	9G-27-171		66.191	剥片	チャート	2	6.1	3.5	1.9	0.7
12	9G-27-172		66.286	剥片	チャート	2	5.5	3.3	3.1	0.7
	9G-27-173		66.407	砕片	チャート	2	0.3	1.3	0.9	0.2
19	9G-27-174	接合4	66.505	剥片	チャート	2	4.3	2.3	2.0	1.4
	9G-27-175		66.325	砕片	安山岩	1	0.4	0.8	1.1	0.5
	9G-27-176		66.305	砕片	チャート	1	0.7	1.3	1.9	0.4
	9G-27-177		66.336	砕片	チャート	1	2.8	2.0	1.2	0.9
18	9G-27-178	接合3	66.306	砕片	チャート	1	3.0	1.9	1.8	1.0
	9G-27-179		66.363	剥片	チャート	1	1.0	2.0	1.2	0.4
	9G-27-180		66.514	剥片	チャート	2	3.1	2.2	2.2	0.7
	9G-27-181		66.408	砕片	チャート	3	0.3	1.4	1.0	0.3
5	9G-27-182	接合6	66.299	石核	チャート	1	45.8	4.9	3.1	2.4
9 a	9G-27-183	接合6	66.487	剥片	チャート	1	14.9	4.2	3.5	1.2
	9G-27-184		66.429	砕片	チャート	1	1.0	1.0	2.4	0.5
	9G-27-185		66.455	砕片	チャート	1	0.6	1.8	1.3	0.3
	9G-27-186		66.299	砕片	チャート	2	0.4	0.7	0.9	0.5
6	9G-27-187	接合6	66.474	石核	チャート	1	33.5	2.3	3.9	2.5
	9G-27-188		66.591	剥片	チャート	1	2.0	1.9	1.6	0.8
	9G-27-188		66.591	砕片	チャート	1	0.3	0.8	1.1	0.4
16	9G-27-189		66.239	剥片	チャート	1	15.1	2.9	2.9	1.7
17 a	9G-27-190	接合6	66.395	砕片	チャート	1	1.0	1.5	1.0	0.6
	9G-27-191		66.355	剥片	チャート	1	5.4	2.6	2.6	0.7
	9G-27-192		66.457	剥片	チャート	1	3.4	2.5	2.5	0.6
	9G-27-193		66.505	剥片	チャート	1	3.8	2.6	2.0	0.7
8	9G-27-194		66.163	剥片	チャート	1	10.5	3.6	3.1	1.1
14	9G-27-195	接合3	66.573	剥片	チャート	1	7.1	3.1	2.0	1.2
9 b	9G-27-196	接合6	66.602	剥片	チャート	1	4.3	3.1	2.1	0.8
15	9G-27-197	接合6	66.322	剥片	チャート	1	11.5	3.2	2.3	1.5
	9G-27-198		66.405	砕片	チャート	2	0.9	1.7	1.3	0.4
	9G-27-199		66.437	砕片	チャート	1	0.1	0.8	0.6	0.3
	9G-27-200		66.425	砕片	チャート	1	0.5	1.1	0.6	0.7
17 b	9G-27-201	接合6	66.324	剥片	チャート	1	23.2	4.1	3.2	2.2
	9G-27-202		66.182	砕片	チャート	1	1.0	1.2	1.6	0.5
1	9G-27-202		66.182	加工痕を有する剥片	珪質頁岩	3	3.6	3.8	1.7	0.7
7 b	9G-27-203	接合10	66.277	剥片	凝灰岩	1	14.4	2.9	4.2	1.4
7 a	9G-27-204	接合10	66.248	剥片	凝灰岩	1	3.8	1.5	2.5	1.3
	9G-27-204		66.248	砕片	黒曜石	4	—	—	—	—
	9G-27-205		66.375	剥片	流紋岩	5	0.8	1.8	1.7	0.4
20	9G-27-206	接合5	66.300	砕片	チャート	2	0.5	1.2	1.9	0.3
	9G-27-207		66.450	剥片	チャート	2	1.6	1.8	2.7	0.3
2 a	9G-27-207	接合9	66.450	加工痕を有する剥片	黒曜石	12	4.1	3.5	3.6	1.0
	9G-27-208		66.395	砕片	チャート	2	1.0	1.9	1.2	0.6
	9G-27-209		66.401	剥片	黒曜石	16	0.1	0.7	0.5	0.3
3	9G-27-210		66.485	加工痕を有する剥片	流紋岩	1	0.6	2.0	0.8	0.3
	9G-27-211		66.439	砕片	流紋岩	4	1.3	2.1	2.2	0.4
2 b	9G-27-212	接合9	66.427	砕片	黒曜石	12	0.8	1.7	1.0	0.7
	9G-27-213		66.301	砕片	チャート	1	0.2	1.1	0.8	0.2
10	9G-27-214		66.331	剥片	チャート	1	10.3	2.3	4.3	1.3
	9G-27-215		66.545	剥片	安山岩	1	4.0	3.2	1.9	0.8
	9G-27-216		66.206	剥片	チャート	1	12.6	3.1	2.3	1.6
4	9G-27-217	接合5	66.265	石核	チャート	2	17.1	3.0	2.7	2.2
	9G-27-220		65.936	砕片	チャート	2	0.4	1.3	1.0	0.4
	9G-27-288		66.045	砕片	チャート	2	0.7	1.7	1.3	0.4
13	9G-27-289		66.080	剥片	チャート	2	4.8	3.0	3.3	0.8
	9G-27-291		66.027	剥片	チャート	2	2.0	1.6	2.3	0.6
	9G-27-292		66.384	砕片	黒曜石	16	—	—	—	—
	9G-27-293		66.319	剥片	黒曜石	12	2.8	1.8	2.4	0.6

(4) 9 Fブロック (第76~79図, 第12表, 図版44)

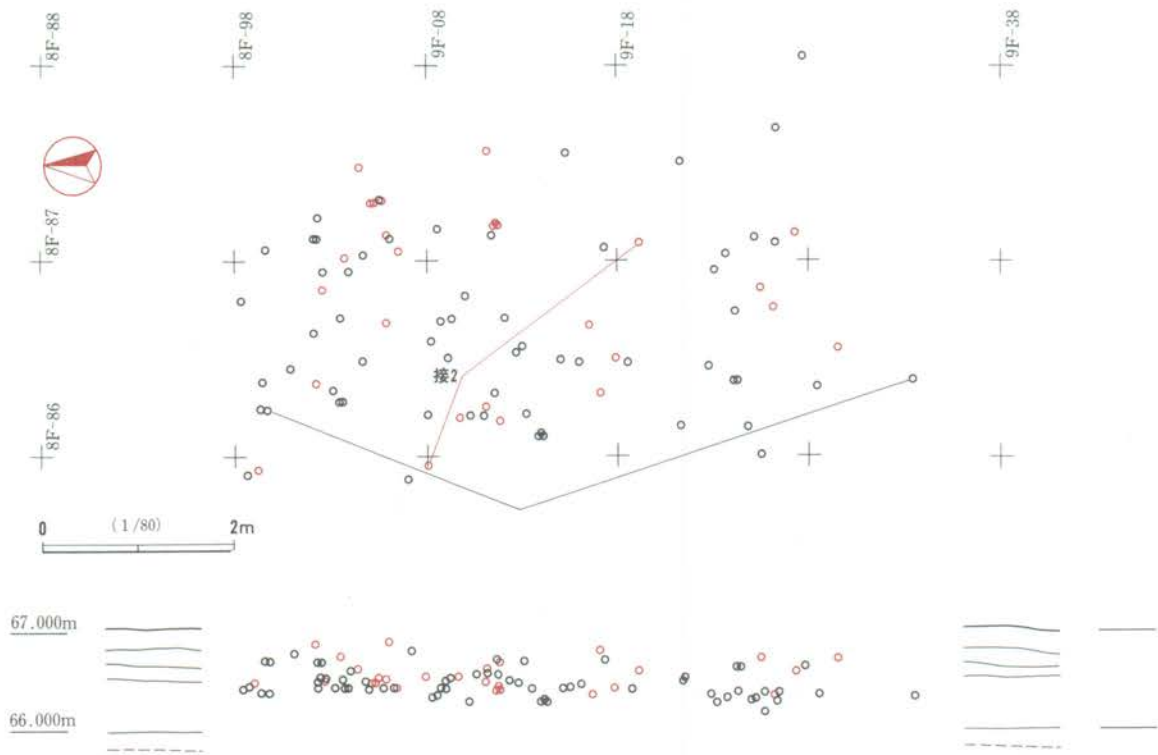
本ブロックは, 8F-95~97, 9F-05~07, 9F-16~17, 9F-26グリッドに位置し, 南北7m, 4.5mの範囲に, ナイフ形石器5点(1点は接合しており, 数的には6点), 加工痕を有する剥片3点, 使用痕を有する剥片3点, 剥片・碎片75点が, 棒状に分布する。垂直分布は, 66.268m~66.841mの約0.6m, VI~IX層の間, 特にIX層上部に濃く分布する。

石材は, 黒曜石61点, 珪質頁岩27点で, 2/3近くが黒曜石によって占められている。

1~5は, ナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし, 左側縁全体と右側縁の一部にブランディングを施したもの(1)と, 左側縁だけにブランディングを施したもの(2・3)がある。下半部を欠失したもの(4)と, 上半部を欠失したもの(5)については, 後者に属すると考えられる。6~8は, 加工痕を有する剥片である。6は縦長剥片の左側縁に調整を施し, 7・8は左側縁から先端部にかけて調整を施している。9~11は, 使用痕を有する剥片である。縦長剥片の側縁の一部に, 使用による微小剥離が認められる。12は, 石核である。打面には3回以上の打面調整が施され, 同一方向の打面から剥片剥離を行っている。13~20は, 剥片である。縦長剥片(13~17)と横長剥片(18)があるが, 整った石刃状の剥片(13・14)も少数例ながら認められる。本ブロックから検出された75点の剥片・碎片の大きさは, その37%(28点)が, 0.1g以下である。このうち25点については計量不可能であったため便宜的に0.1gとしたもので, 長・幅・厚については計測していない。



第76図 9 Fブロック器種別分布



第77図 9Fブロック石材別分布

第12表 9Fブロック石器属性

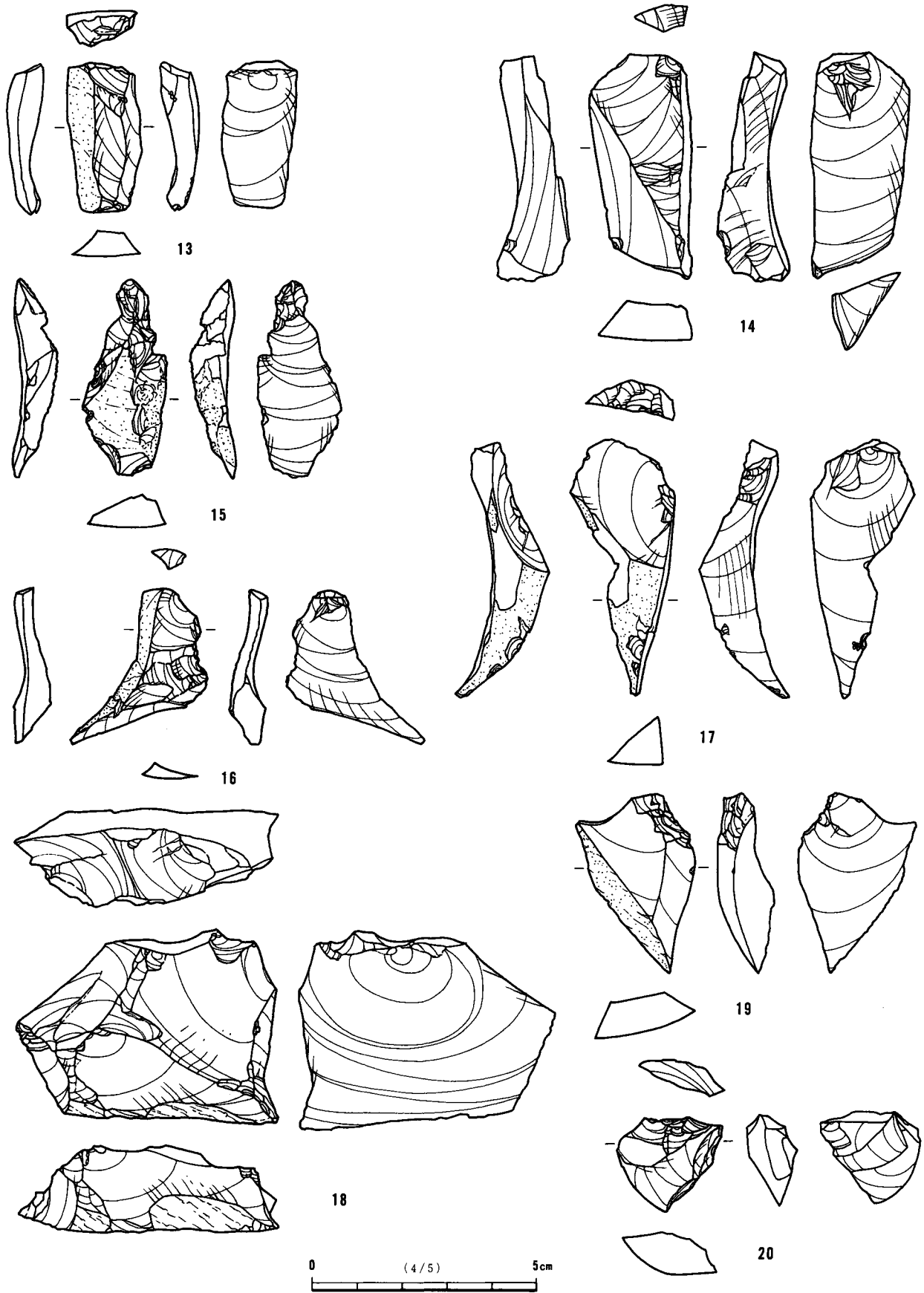
図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	9F-27-001		66.572	剥片	珪質頁岩	4	0.3	1.8	1.2	0.2
	9F-27-002		66.572	剥片	黒曜石	18	0.4	1.5	1.9	0.5
	9F-27-003		66.674	砕片	黒曜石	5	0.3	2.3	0.5	0.4
	9F-27-003		66.674	砕片	黒曜石	18	0.1	—	—	—
	9F-27-004		66.701	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9F-27-005		66.560	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9F-27-006		66.537	剥片	珪質頁岩	4	1.6	2.0	2.8	0.4
	9F-27-007		66.694	剥片	珪質頁岩	4	0.6	2.0	1.1	0.4
	9F-27-008		66.605	砕片	黒曜石	5	0.2	1.4	0.9	0.4
	9F-27-009		66.564	剥片	黒曜石	5	1.2	1.4	2.1	0.6
10	9F-27-010		66.727	使用痕を有する剥片	黒曜石	5	0.9	2.9	1.4	0.3
	9F-27-011		66.814	剥片	黒曜石	5	1.6	2.2	1.7	0.5
	9F-27-012		66.837	剥片	珪質頁岩	4	1.5	2.1	1.4	0.5
6	9F-27-013		66.518	加工痕を有する剥片	黒曜石	18	0.7	2.1	1.3	0.4
	9F-27-014		66.841	剥片	珪質頁岩	4	0.3	1.6	1.1	0.3
	9F-27-015		66.565	砕片	黒曜石	18	0.1	—	—	—
	9F-27-016		66.573	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9F-27-018		66.810	剥片	黒曜石	5	0.4	1.1	2.1	0.3
	9F-27-019		66.500	剥片	珪質頁岩	4	0.3	1.5	1.1	0.2
	9F-27-020		66.572	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9F-27-021		66.592	剥片	黒曜石	5	0.7	1.9	1.6	0.5
1	9F-27-022		66.599	ナイフ形石器	珪質頁岩	4	1.9	3.1	1.4	0.5
	9F-27-023		66.723	剥片	黒曜石	18	0.4	1.8	1.0	0.3
	9F-27-024		66.637	剥片	珪質頁岩	4	0.5	2.6	1.2	0.2
	9F-27-025		66.517	剥片	黒曜石	5	0.6	2.9	1.2	0.3
	9F-27-026		66.680	砕片	黒曜石	5	0.1	1.1	0.8	0.2
	9F-27-027		66.752	剥片	珪質頁岩	4	0.4	2.4	1.1	0.3
	9F-27-028		66.700	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
20	9F-27-029	接合 2	66.545	剥片	珪質頁岩	4	3.0	2.0	2.4	0.8
	9F-27-030		66.462	剥片	黒曜石	5	1.0	2.3	1.0	0.8

(第12表 続き)

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
4	9F-27-031		66.530	剥片	珪質頁岩	4	4.5	3.0	3.1	0.7
	9F-27-032		66.674	ナイフ形石器	珪質頁岩	4	4.5	3.2	1.7	0.8
	9F-27-033		66.648	砕片	珪質頁岩	4	0.8	1.0	0.9	0.7
8	9F-27-034		66.625	加工痕を有する剥片	黒曜石	5	3.0	2.6	3.0	0.6
	9F-27-034		66.625	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9F-27-035		66.476	剥片	黒曜石	48	1.0	2.0	1.4	0.5
	9F-27-036		66.615	砕片	黒曜石	5	0.1	1.0	0.7	0.4
	9F-27-037		66.422	剥片	黒曜石	5	0.8	1.6	1.4	0.6
3 b	9F-27-038	接合11	66.400	ナイフ形石器	黒曜石	19	0.7	1.1	1.3	0.6
12	9F-27-039		66.402	石核	黒曜石	5	8.6	2.8	2.4	2.0
	9F-27-040		66.436	砕片	珪質頁岩	4	0.1	—	—	—
	9F-27-041		66.437	砕片	黒曜石	18	0.1	—	—	—
	9F-27-042		66.458	剥片	黒曜石	18	1.1	1.6	1.5	0.6
	9F-27-042		66.458	砕片	黒曜石	18	0.1	—	—	—
	9F-27-043		66.438	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9F-27-044		66.453	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9F-27-045		66.454	砕片	珪質頁岩	4	0.2	1.4	0.9	0.3
	9F-27-046		66.421	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9F-27-047		66.430	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9F-27-048		66.445	剥片	珪質頁岩	4	1.9	2.2	2.5	0.6
	9F-27-048		66.445	砕片	黒曜石	18	0.1	—	—	—
	9F-27-049		66.407	剥片	珪質頁岩	4	1.5	3.4	1.3	0.6
	9F-27-050		66.437	砕片	黒曜石	19	0.1	—	—	—
	9F-27-051		66.445	砕片	黒曜石	18	0.1	—	—	—
	9F-27-052		66.390	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	9F-27-053		66.480	砕片	黒曜石	5	0.6	2.0	1.0	0.5
5	9F-27-054		66.354	ナイフ形石器	黒曜石	18	2.5	2.1	1.7	0.6
19	9F-27-056	接合2	66.477	剥片	珪質頁岩	4	4.8	3.8	2.4	0.8
	9F-27-057		66.435	剥片	黒曜石	5	0.3	1.2	1.1	0.3
	9F-27-058		66.452	剥片	黒曜石	5	0.2	1.1	1.1	0.2
2	9F-27-059		66.417	ナイフ形石器	黒曜石	5	1.0	2.6	1.6	0.4
	9F-27-060		66.450	砕片	黒曜石	5	0.1	1.9	1.3	0.2
	9F-27-061		66.390	剥片	珪質頁岩	4	0.3	1.5	2.8	0.3
	9F-27-062		66.402	剥片	黒曜石	18	0.3	1.5	1.3	0.3
	9F-27-063		66.360	砕片	珪質頁岩	4	0.1	—	—	—
	9F-27-063		66.360	砕片	珪質頁岩	4	0.1	—	—	—
	9F-27-063		66.360	砕片	珪質頁岩	4	0.1	—	—	—
11	9F-27-064		66.430	使用痕を有する剥片	珪質頁岩	4	0.8	1.9	1.4	0.4
	9F-27-065		66.438	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
17	9F-27-066		66.332	剥片	黒曜石	5	7.5	5.7	2.3	1.3
14	9F-27-067		66.317	剥片	黒曜石	5	12.0	4.7	2.5	1.3
	9F-27-068		66.372	剥片	黒曜石	5	1.3	2.4	2.3	0.3
9	9F-27-069		66.400	使用痕を有する剥片	黒曜石	5	3.3	3.9	2.2	0.7
18	9F-27-070		66.308	剥片	珪質頁岩	4	44.1	4.3	5.7	2.0
15	9F-27-071		66.342	剥片	黒曜石	5	4.2	4.2	1.8	0.8
	9F-27-072		66.325	剥片	黒曜石	5	3.3	3.2	1.8	0.9
7	9F-27-073		66.363	加工痕を有する剥片	黒曜石	5	9.4	4.1	2.8	1.3
	9F-27-074		66.385	剥片	黒曜石	5	3.4	3.3	1.6	0.8
3 a	9F-27-075	接合11	66.320	ナイフ形石器	黒曜石	19	3.1	3.2	1.5	0.6
	9F-27-076		66.435	剥片	珪質頁岩	4	2.3	3.0	1.8	0.4
	9F-27-076		66.435	砕片	珪質頁岩	4	0.3	1.7	0.8	0.4
	9F-27-077		66.290	剥片	黒曜石	18	0.3	1.5	1.3	0.3
	9F-27-078		66.291	剥片	黒曜石	18	0.8	—	—	—
	9F-27-078		66.291	砕片	黒曜石	18	0.1	—	—	—
	9F-27-078		66.291	砕片	黒曜石	5	0.1	2.2	2.0	0.3
	9F-27-079		66.307	剥片	珪質頁岩	4	2.7	2.9	2.0	0.5
	9F-27-080		66.268	剥片	黒曜石	5	0.6	1.7	1.4	0.4
16	9F-27-081		66.278	剥片	黒曜石	5	2.6	3.3	3.1	0.8



第78図 9 Fブロック出土石器 (1)



第79図 9 Fブロック出土石器(2)

(5) ブロック外 (第80図, 第13表, 図版44)

C・Dブロックの間とD・Eブロックの間に、層位的にC・D・E・9Fブロックと同一文化層と捉えられる石器が点々と出土している。

1・2は、ナイフ形石器である。1は、左側縁の先端部と打面部寄りにブランディングが施され、それ以外の部分には、平面に対して垂直に立ち上がる節理面が認められる。右側縁の一部、打面部側にも、ブランディングが施される。2は、Dブロックの1に接合するナイフ形石器の下半部である。3は、石核である。頻繁に打面転移を繰り返して、剥片を剥離している。4は、敲石である。扁平礫の長軸両端部に敲打痕が認められる。5・6は剥片である。5は自然面を打面とした縦長剥片で、6は横長剥片である。

第13表 第2文化層ブロック外石器属性

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
1	9G-27-029		66.666	ナイフ形石器	珪質頁岩	2	1.8	3.5	1.2	0.4
5	9G-27-040		66.348	剥片	チャート	5	6.5	4.2	2.4	0.7
	9G-27-041		66.341	砕片	黒曜石	4	0.3	1.0	1.2	0.3
	9G-27-041		66.341	砕片	黒曜石	4	0.1	—	—	—
2	9G-27-042	接合8	66.582	ナイフ形石器	黒曜石	5	1.5	1.9	1.3	0.6
6	9G-27-072	接合6	66.315	剥片	チャート	1	33.2	5.9	3.7	2.0
4	9G-27-160		66.447	敲石	砂石	1	133.7	7.6	5.1	2.4
3	9G-27-164	接合4	66.160	石核	チャート	2	17.1	3.1	3.5	1.8

(6) 接合資料 (第81~83図, 図版47)

第2文化層において接合関係の認められたものは、凝灰岩1例、珪質頁岩1例、チャート4例、黒曜石5例、計11例を数え、ブロック内、ブロックとブロック外との間に認められたが、ブロック間におけるものは認められなかつた。このうち黒曜石の4例・凝灰岩の1例は、剥片剥離後の折れによるものと考え、各ブロックの出土石器において接合状態を提示した。それ以外の6例を、本文化層における剥片剥離技術を示すものとして図示した。

石材は、接合資料1が黒曜石、2が珪質頁岩、3~6がチャートである。

接合資料1

Cブロックにおける、剥片2点において認められた接合である。石核からC-8を剥離後、同一打面において打点をずらしてC-9を剥離している。

接合資料2

9Fブロックにおける、剥片2点において認められた接合である。石核から9F-19を剥離後、同一打面において打点をずらして9F-20を剥離している。

接合資料3

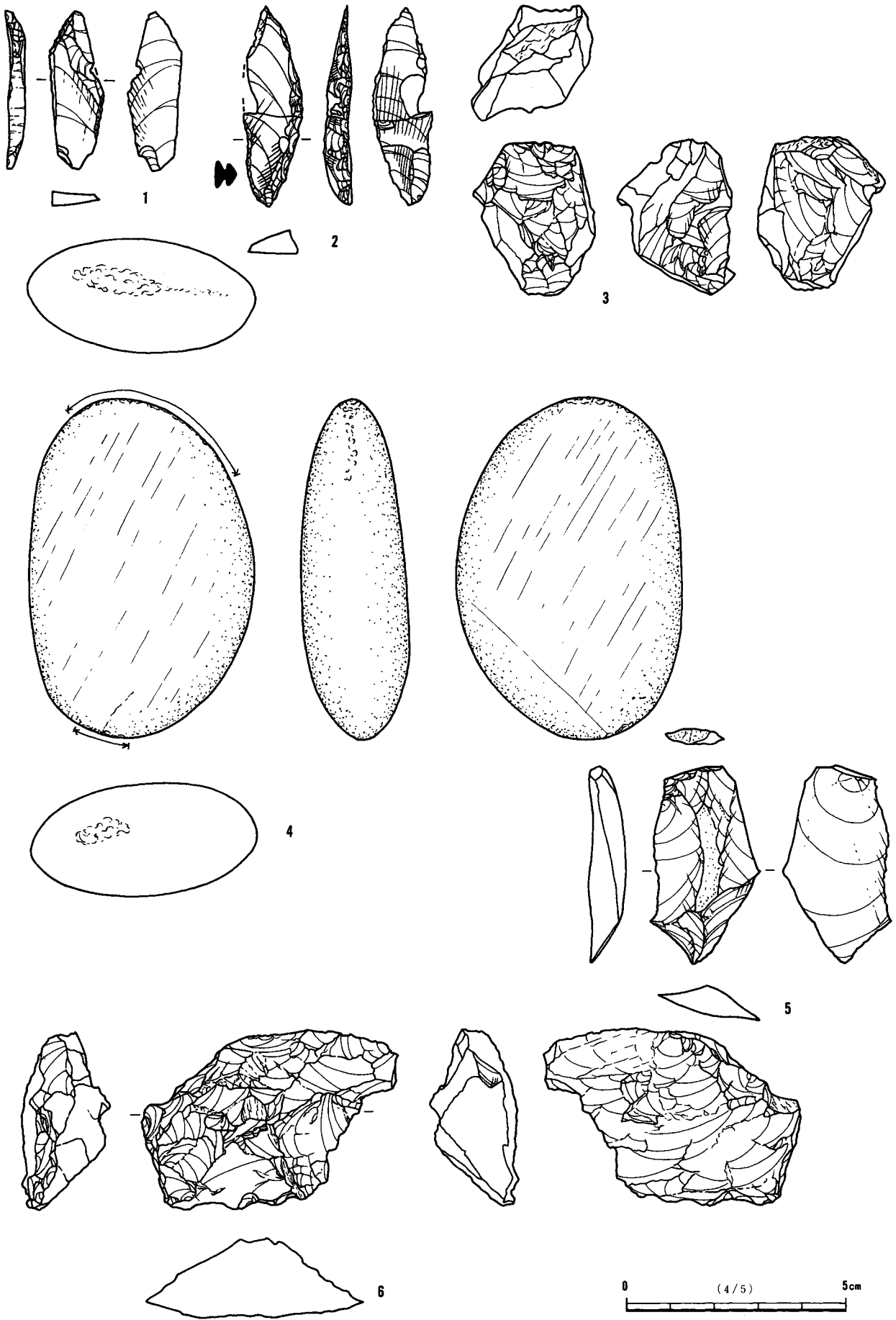
Eブロックにおける、剥片2点において認められた接合である。石核からE-14・E-18が接合した状態の剥片が剥離され、その後上下に分割された。

接合資料4

Eブロックにおける剥片1点と、ブロック外の石核1点において認められた接合である。石核調整のためにE-19を剥離している。最終的に外-3が残核となった。

接合資料5

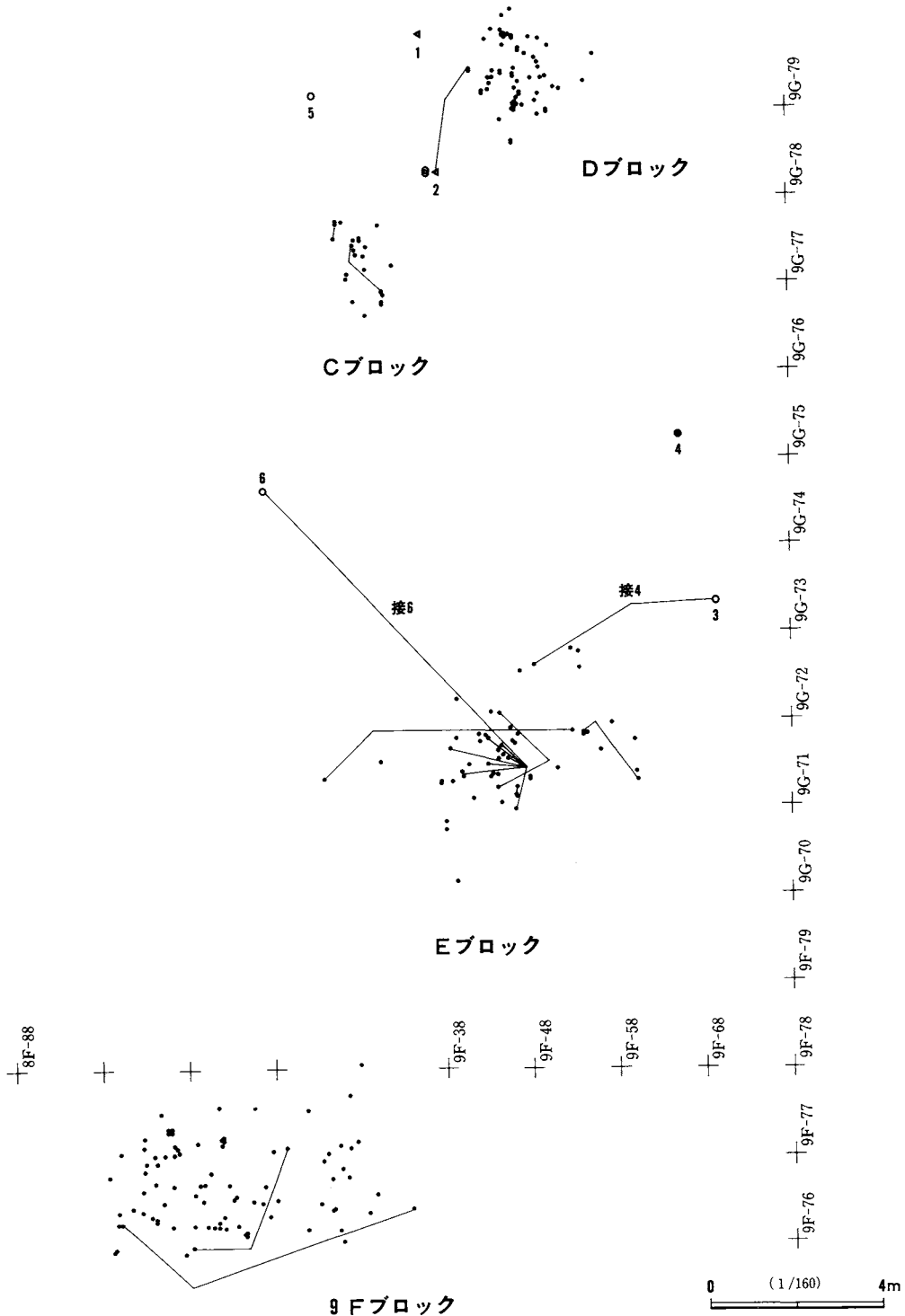
Eブロックにおける、剥片1点と石核1点において認められた接合である。石核から、E-20を剥離した後、同一作業面において、打面を90度転移して剥片剥離を行っている。最終的にE-4が残核となった。



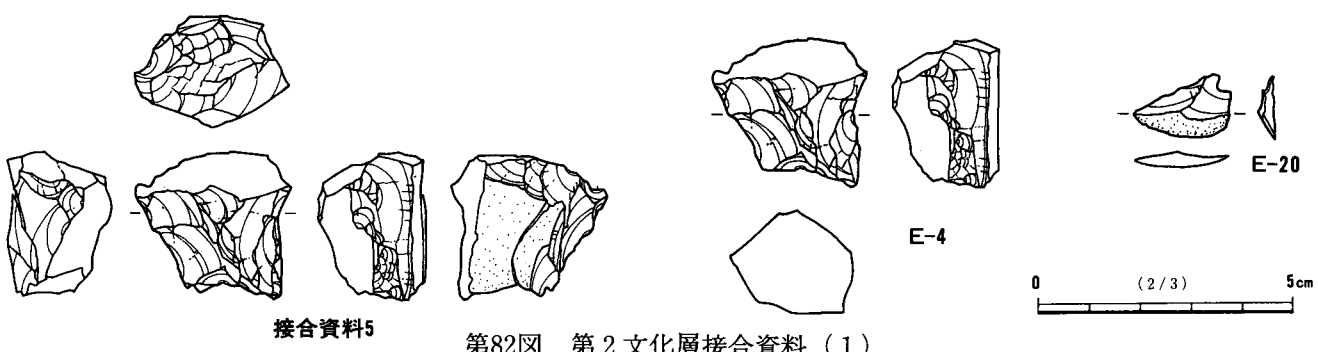
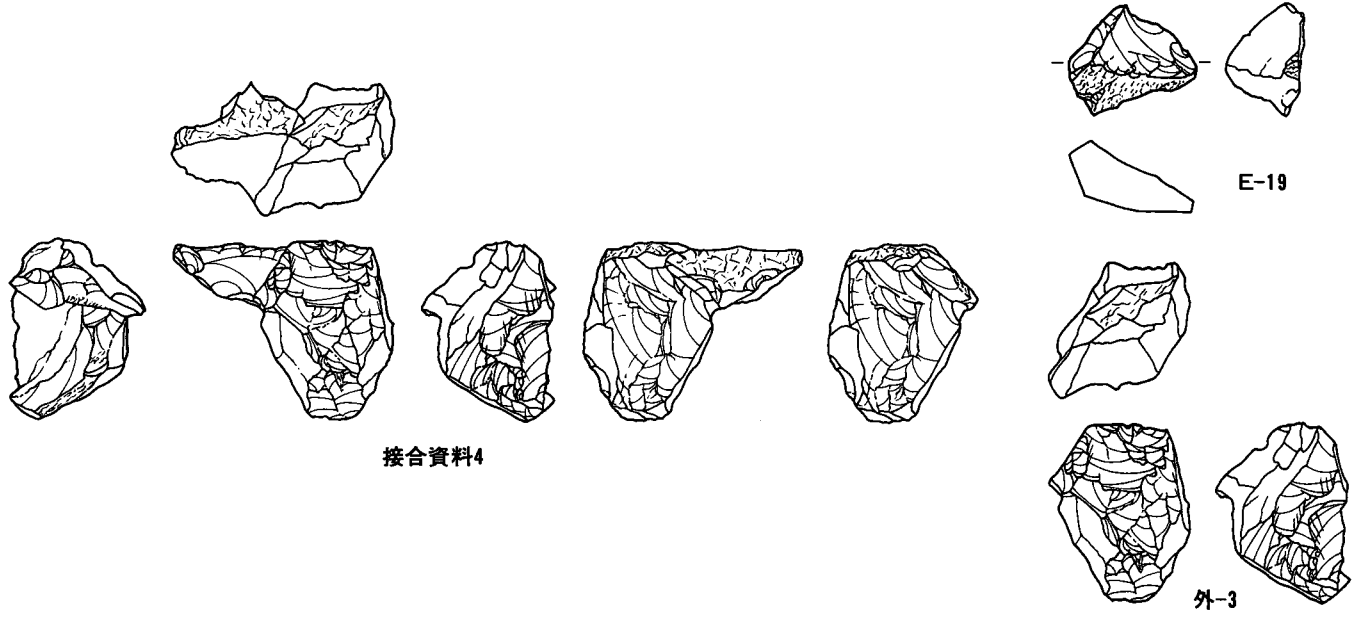
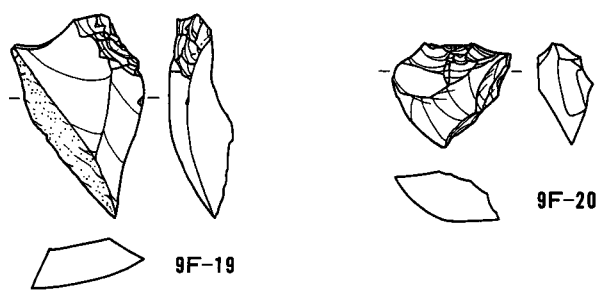
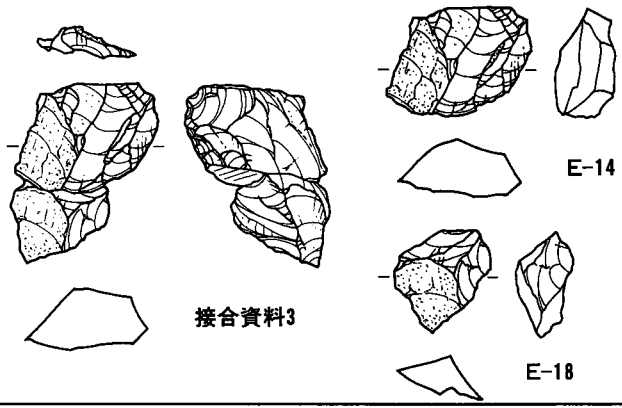
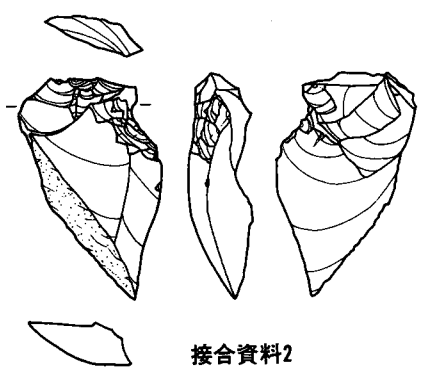
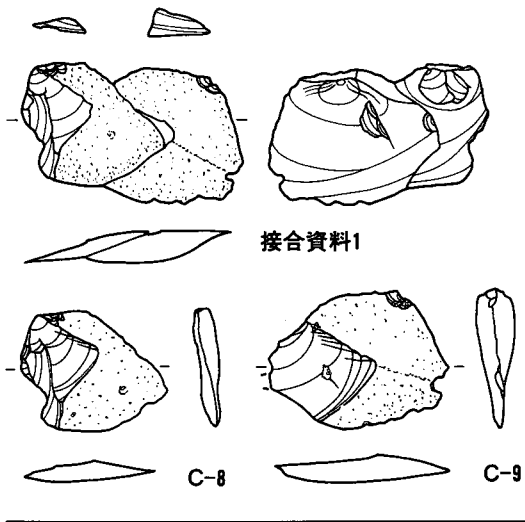
第80図 第2文化層ブロック外出土石器

接合資料6

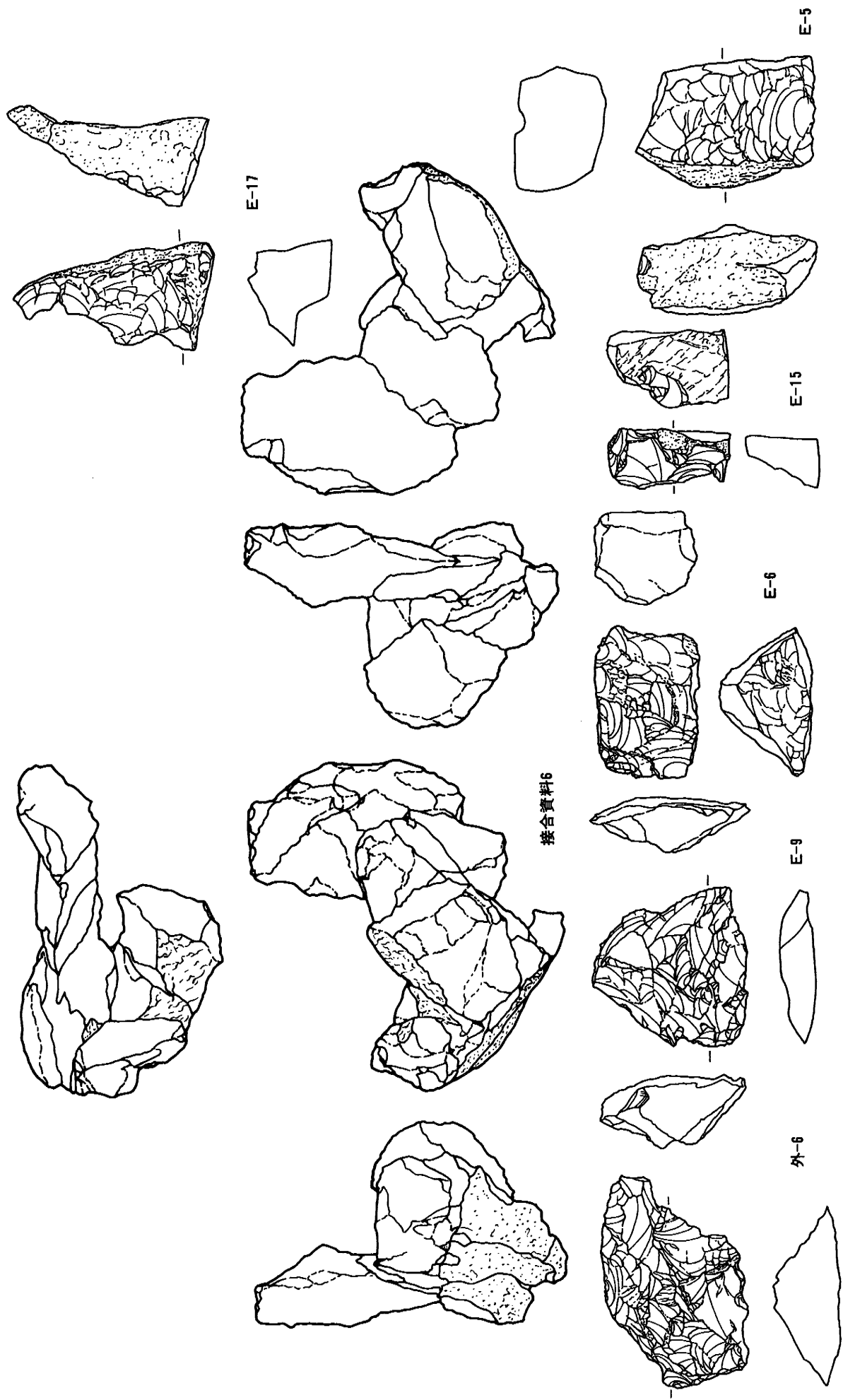
Eブロックにおける石核2点・剥片3点と、ブロック外の剥片1点において認められた接合である。石材に、節理が多く剥片剥離の状況がつかみづらいが、およそ以下のような順で剥離がなされたと考えられる。石核からE-6が剥離された後、E-5・9・15・17が接合した状態の剥片が剥離され（1号剥片とする）、その後同一方向の打面から外-6が剥離された。1号剥片を石核として、E-15が節理によって分割し、E-17・9等の剥片剥離が行われ、最終的にE-15が残核となった。また、E-6も、剥離後石核とされた。



9 Fブロック
第81図 第2文化層接合関係



第82図 第2文化層接合資料(1)



第83図 第2文化層接合資料(2)

4 第3文化層 (第84・85図, 第14表)

9 Lブロックが相当する。

本ブロックは、9L-45, 9L-19グリッドに位置する、南北8m, 東西6mの範囲に、ナイフ形石器1点、剥片1点が点在する。垂直分布は、66.464m～66.810mの約0.4m, V～IX a層の間に分布する。

石材は、メノウと安山岩各1点である。

1は、ナイフ形石器である。縦長剥片の打面部から右側縁の一部にかけて、打面を取り除くように背面側からブランディングを施している。2は、幅広の縦長剥片である。

5 第4文化層

距離的には130mほど離れているが、出土層位等から同一文化層として、10Mブロックと8Fブロックの2ブロックを捉えた。

(1) 8Fブロック (第84図, 第14表)

本ブロックは、8F-76・77グリッドに位置し、南北2m, 東西1mの範囲に剥片2点が点在する。垂直分布は、66.234m～66.522mの約0.3m, V～VII層の間に分布する。

石材は黒曜石と頁岩各1点である。

3・4は剥片である。厚みのある縦長剥片で、左側縁に自然面(3)や節理面(4)を残す。

(2) 10Mブロック (第84図, 第14表)

本ブロックは、10M-93グリッドの標高66.440mにおいて、黒曜石の楔形石器1点が検出された。

5は、楔形石器である。腹面を節理に覆われた剥片の長軸両端の両面に剝離が認められる。

第14表 9L・8F・10Mブロック石器属性

図 No.	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
2	9L-19	001		66.810	剥片	メノウ	15.3	3.7	3.2	1.5
1	9L-45	001		66.464	ナイフ形石器	安山岩	5.7	3.7	1.7	0.9
5	10M-93	001		66.440	楔形石器	黒曜石	2.1	2.2	1.5	0.8
3	8F-77	004		66.234	剥片	黒曜石	13.9	49.2	19.4	17.2
4	8F-77	005		66.522	剥片	頁岩	6.1	34.1	20.7	8.1

6 第5文化層

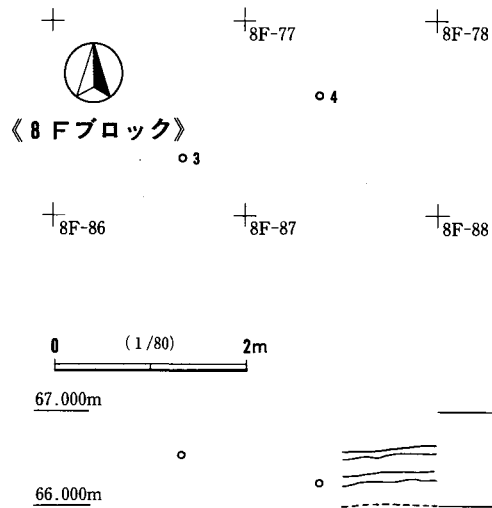
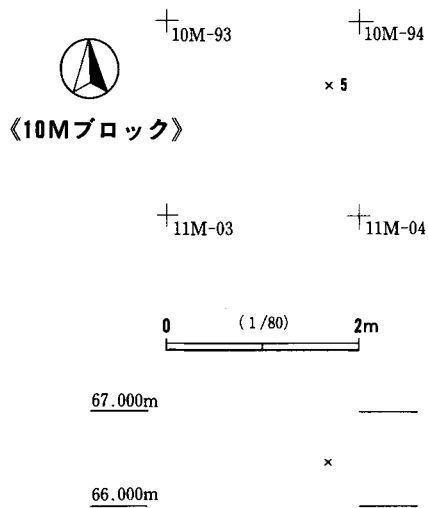
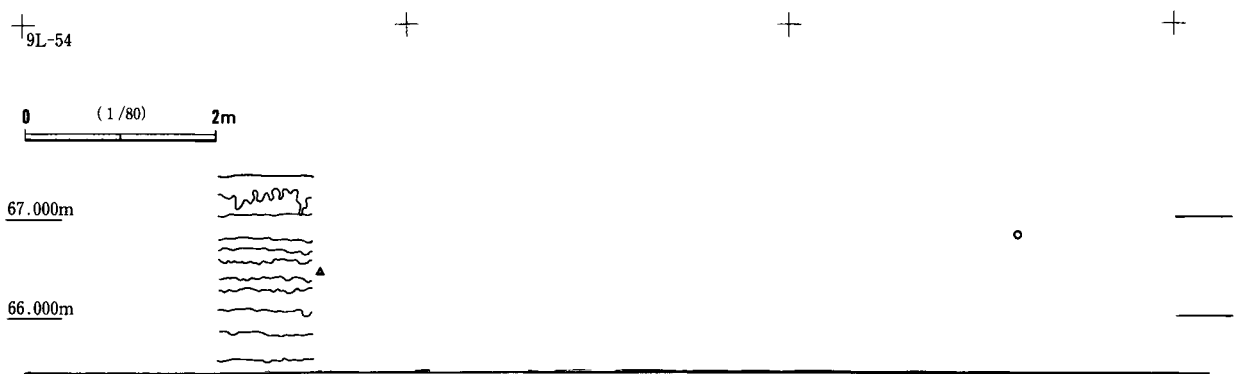
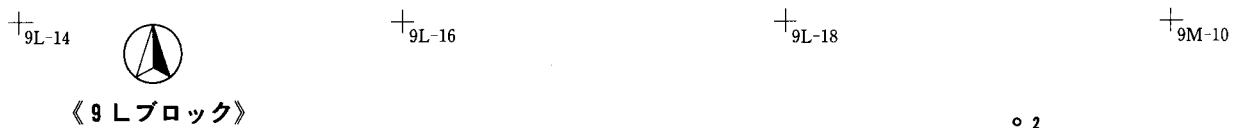
8Mブロック・8Lブロックが相当する。

(1) 8Mブロック (第86～89図, 第15表, 図版45)

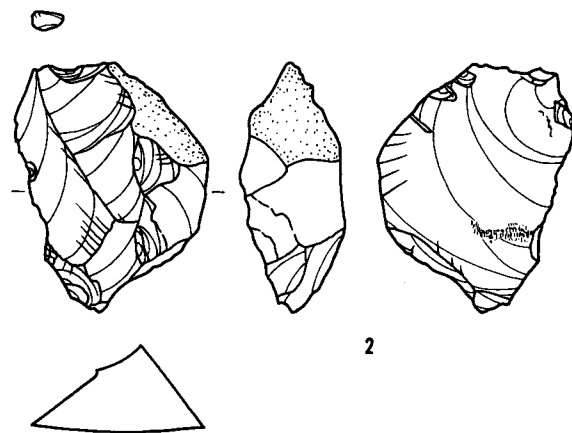
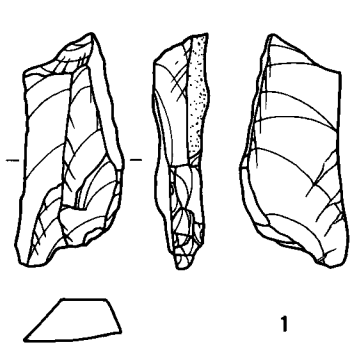
本ブロックは、8M-93, 9M-03, 9M-12～15, 9M-23グリッドに位置する、南北2m, 東西6mの範囲に、搔器2点、加工痕を有する剥片3点、使用痕を有する剥片2点、剥片・碎片42点、礫1点が、棒状に分布する。垂直分布は、66.415m～67.030mの約0.6m, IV～VI層間、特にV層上部に濃く分布する。

石材は、メノウ26点、安山岩9点、黒曜石8点、チャート4点、流紋岩2点で、メノウが半数近くを占める。

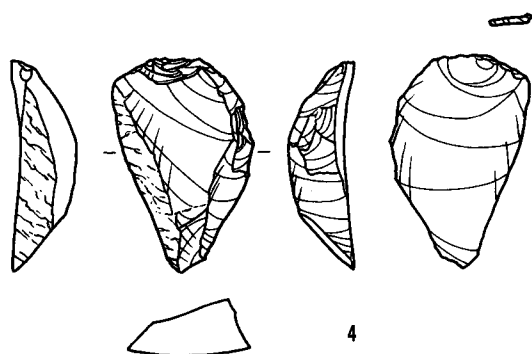
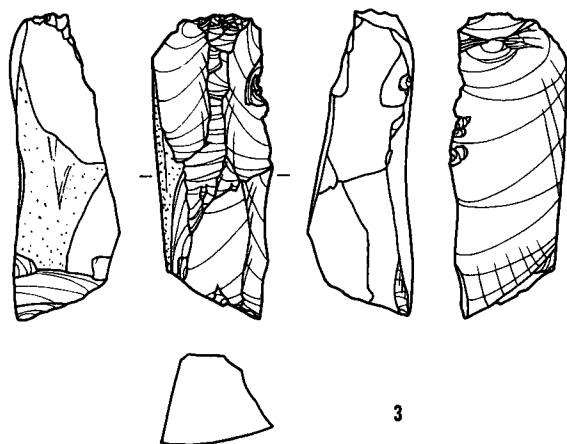
1～2は、搔器である。1は縦長剥片の先端部に刃部を作り出したものである。2は、横長剥片の両側縁に刃部を作り出したもので、左右で刃部の形状が異なる。3～5は、加工痕を有する剥片である。3・4は、縦長剥片の右側縁に加工を施したものである。5は、円礫を輪切り状にした剥片の打面部周辺に調整が施されている。6・7は、使用痕を有する剥片である。右側縁の一部に使用による微小剝離が認められる。8～15は、剥片である。



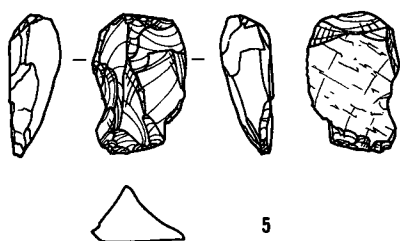
第84図 9L・8F・10Mブロック器種別分布



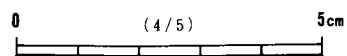
9Lブロック



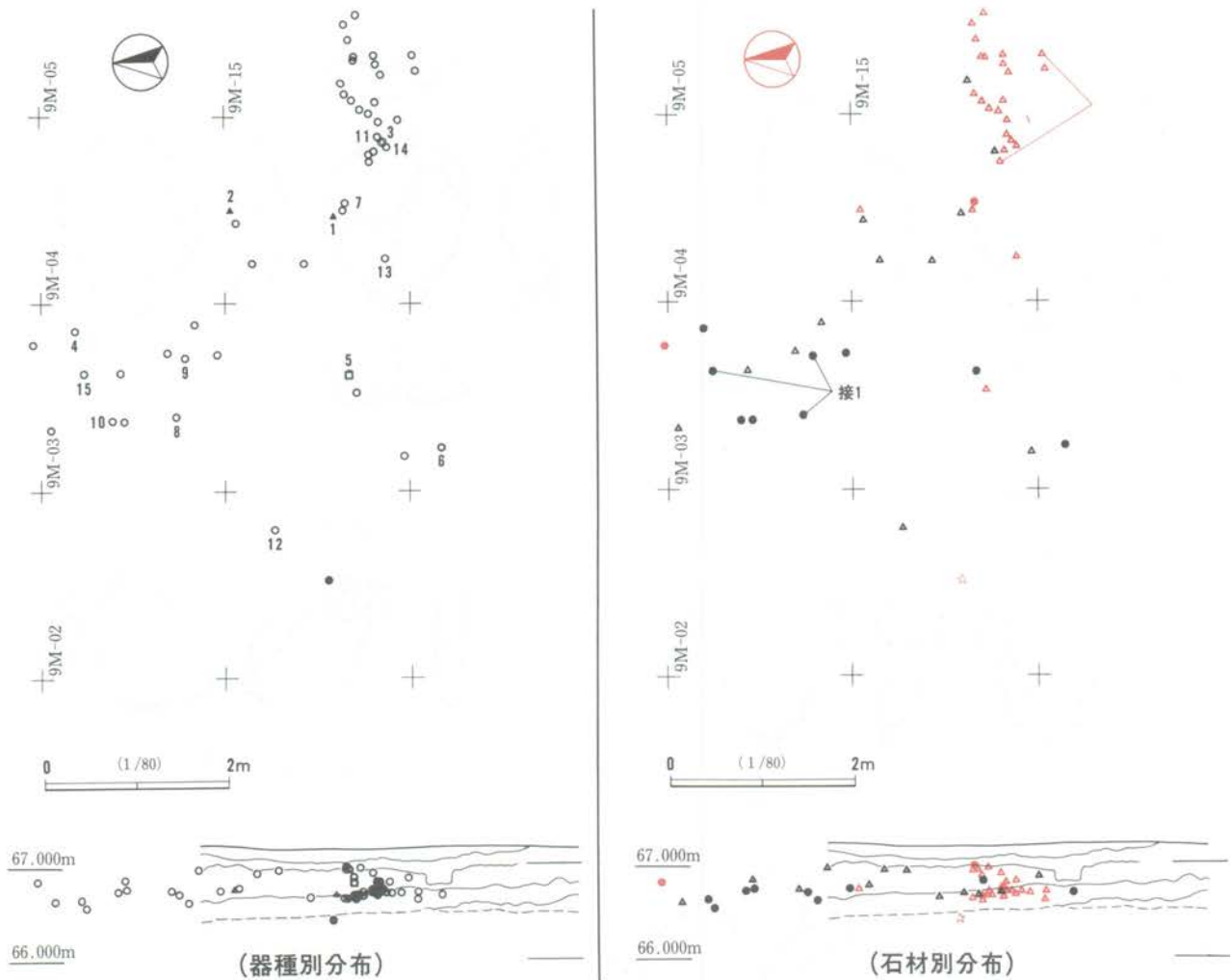
8Fブロック



10Mブロック



第85図 9L・8F・10Mブロック出土石器



第86図 8Mブロック出土状況

接合資料 I

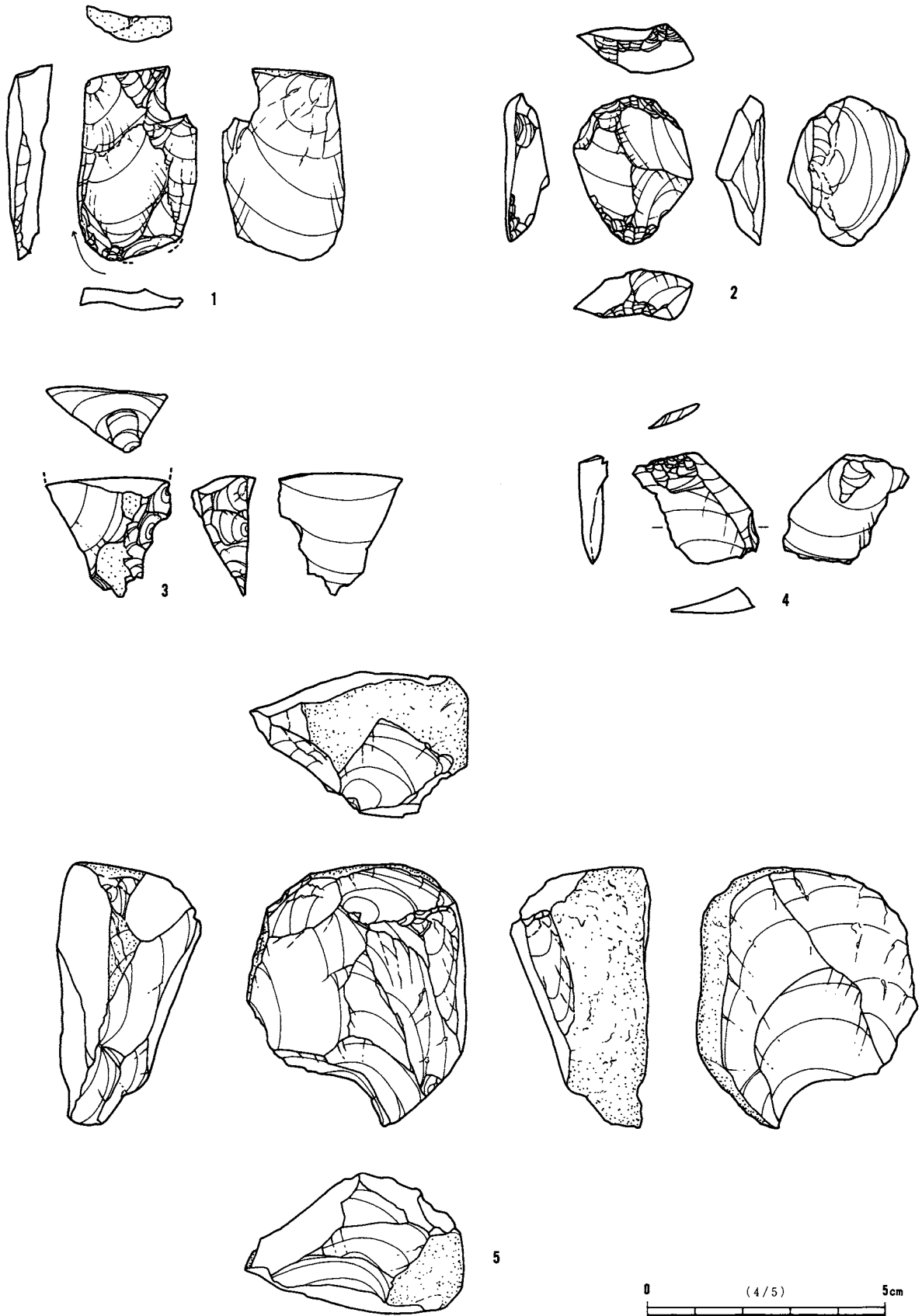
本ブロックにおける、剥片3点において接合関係が認められた。円礫の一部に自然面を剥ぎ取るような剥離を施し、その剥離痕を打面として9を剥離した後、打面を転移して8を剥離し、同じ打面から15を剥離している。

(2) 8Lブロック (第90~92図, 第16表, 図版45)

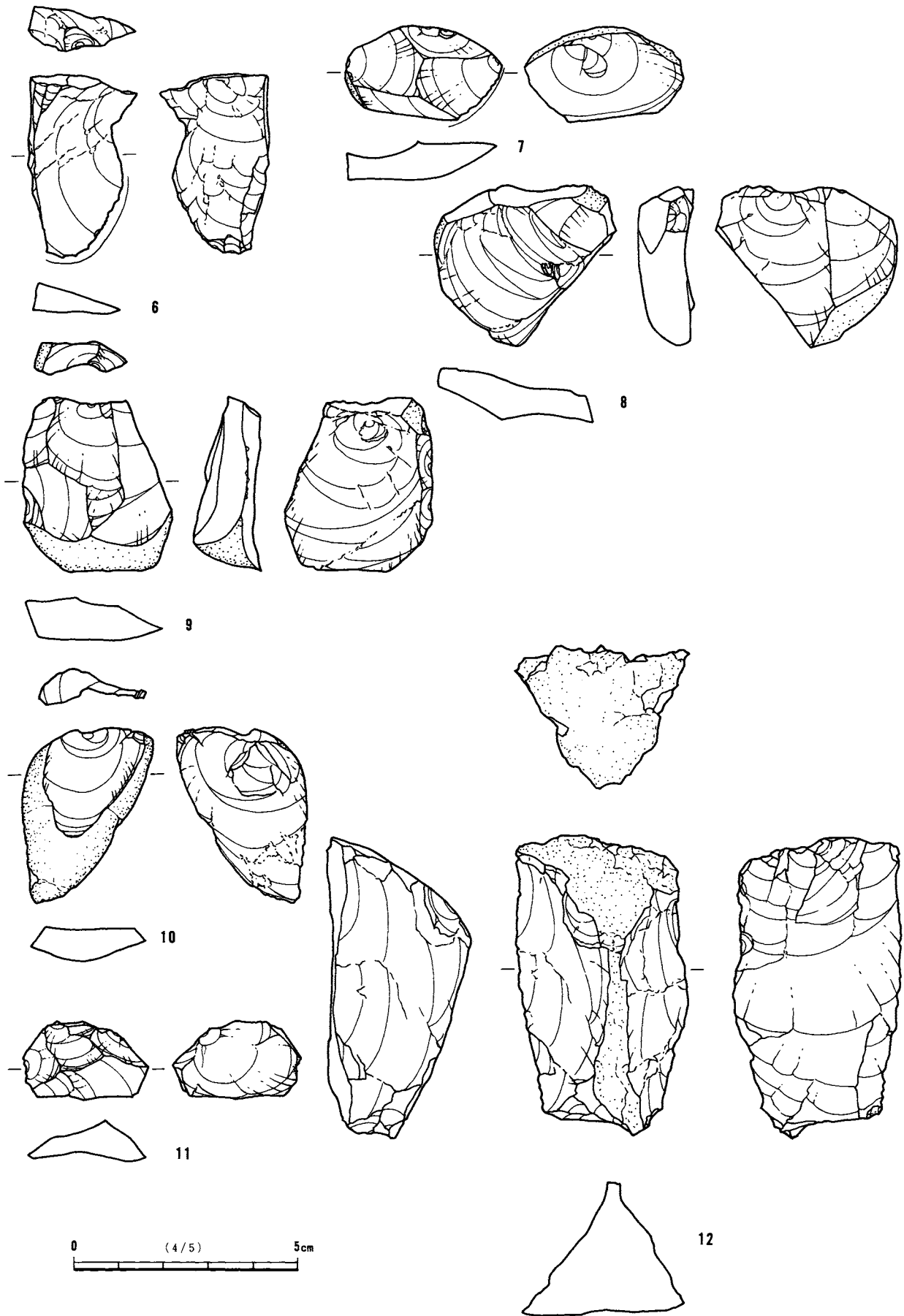
本ブロックは8L-51~53, 8L-61~63, 8L-71~73グリッドに位置し、南北4.5m、東西4mの範囲に、ナイフ形石器4点、搔器2点、使用痕を有する剥片2点、石核1点、磨石1点、剥片・碎片67点が、中心部に密集して分布する。垂直分布は、66.596m~67.288mの約0.7m、IV~VI層の間、特にV層上部に濃く分布する。

石材は、メノウ59点、黒曜石13点、珪質頁岩3点、安山岩1点、砂岩1点で、メノウが大半を占める。

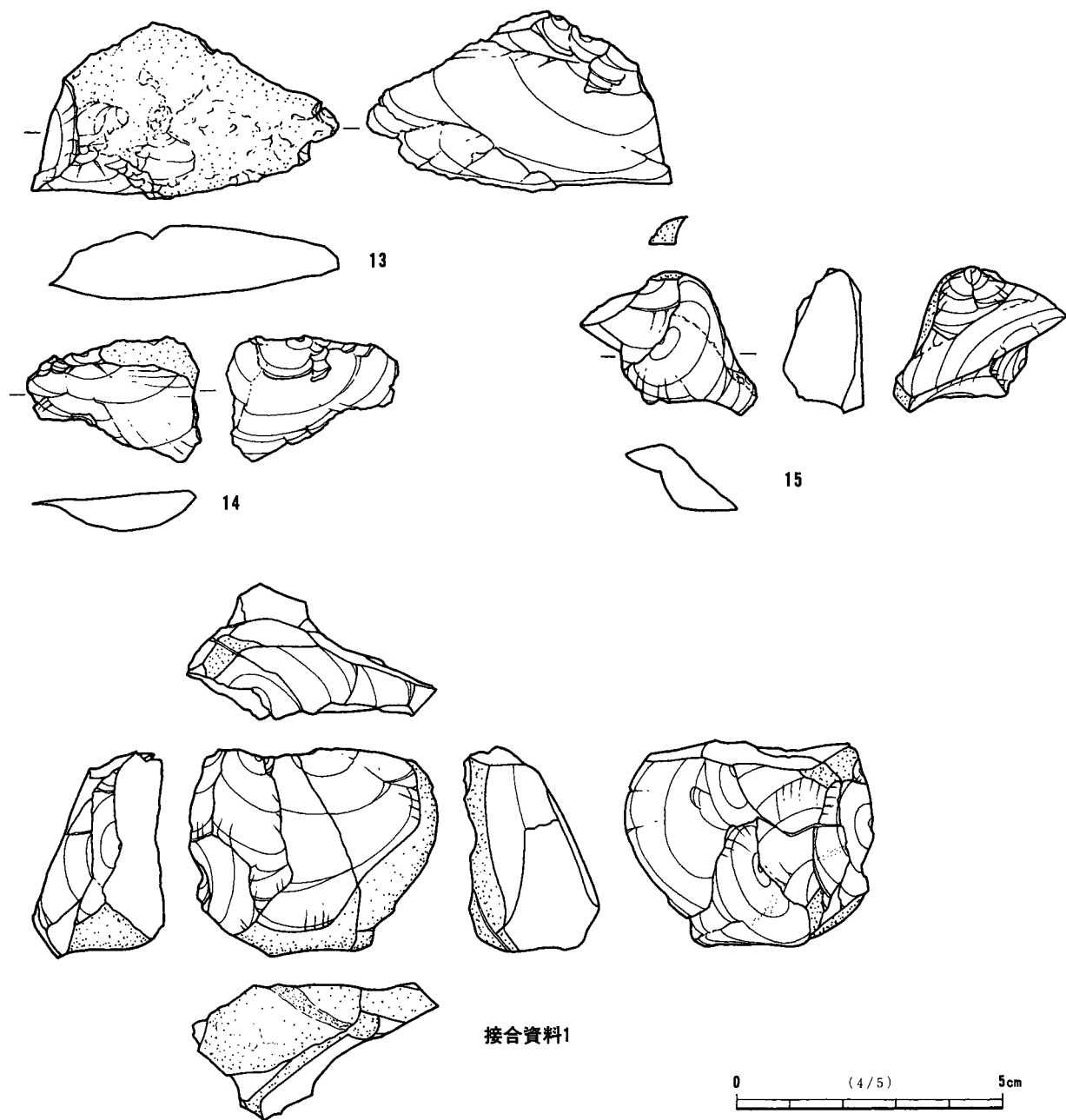
1~4は、ナイフ形石器である。縦長剥片を素材にして、打面部周辺と片側側縁にブランディングを施している(1・2)。1の側縁に施されたブランディングは、先端部の一部であるが、残りの部分は節理によって平面に対して鈍角をなしている。3・4は、欠損品でブランディング部分のみが残存する。5・6は、搔器である。5は上半を欠損するが、縁辺にやや荒い刃部を作り出している。6は、背面に自然面を大きく残す横長剥片を素材として、先端部に丸みを持った刃部を作り出している。7・8は、使用痕を



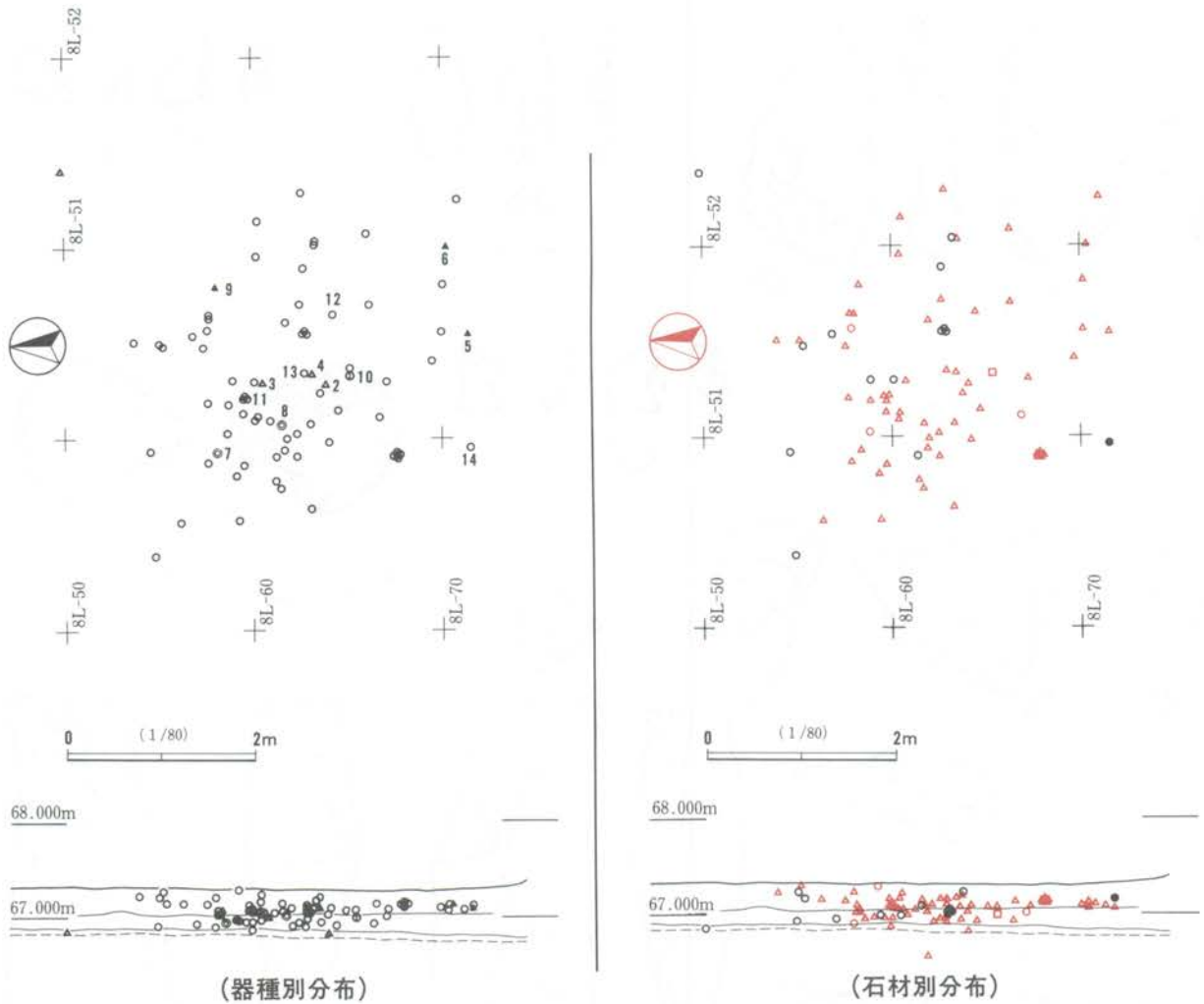
第87図 8Mブロック出土石器(1)



第88図 8Mブロック出土石器(2)



第89図 8 Mブロック出土石器 (3)



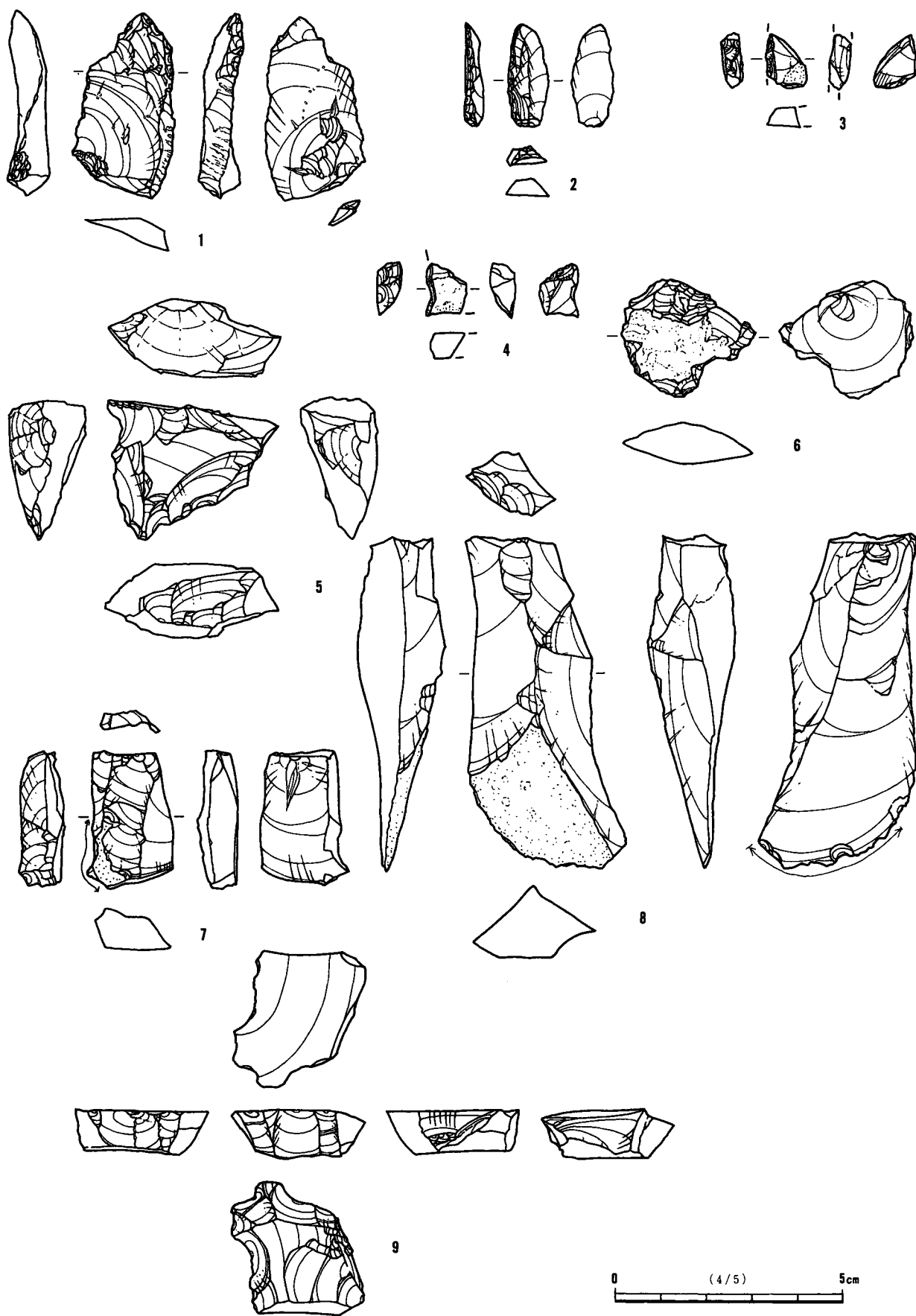
第90図 8Lブロック出土状況

有する剥片である。7は折断面に、8は先端部に、使用による微小剥離が認められる。9は、石核である。やや厚手の剥片を素材として、その厚み分の長さの剥片を剥離している。削器の可能性もある。10は、磨石である。平面が平滑で、一部に敲打痕が認められる。破損後、礫器として使用した可能性もある。11～14は剥片である。長さの短い剥片(11)や長い剥片(12・13)、礫を輪切りにしたような剥片(14)がある。本ブロックから検出された67点の剥片・碎片の大きさは、その28%(19点)が、0.1g以下である。このうち10点については計量不可能であったため便宜的に0.1gとしたもので、長・幅・厚については計測していない。

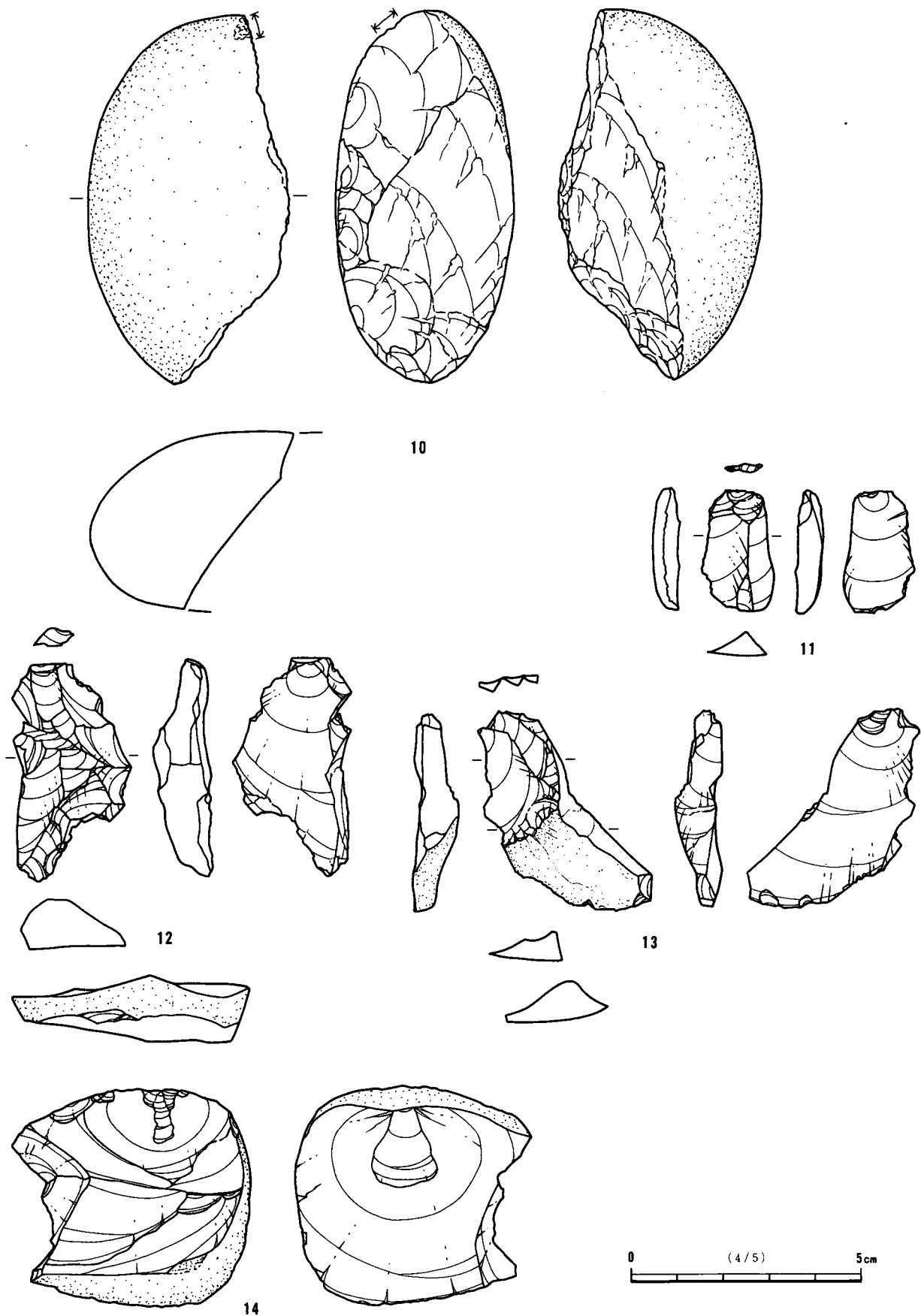
7 母岩別分類(第17表)

本遺跡における第1, 第2文化層において、母岩別分類を行った。これは、当初、両文化層が同一文化層と考えて行い、結果としてA・Bブロックと、C・D・E・9Fブロックの間には、接触点が無く、異なる文化層と確認できた。

また、各ブロックにおける、同一母岩の器種分類を見ると、ナイフ形石器等と剥片・碎片との共通性が高い傾向にあることが読み取れる。



第91図 8 Lブロック出土石器 (1)



第92図 8 Lブロック出土石器 (2)

第15表 8Mブロック石器属性

図 No.	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
10	8M-93	001		66.810	剥片	流紋岩	1	2.5	2.5	2.1	0.6
	9M-03	001		66.750	剥片	安山岩	1	9.7	3.7	3.2	0.8
	9M-03	002		66.775	剥片	安山岩	1	0.7	1.8	1.4	0.3
4	9M-03	003		66.635	剥片	チャート	4	1.1	1.6	0.9	0.5
	9M-03	004		66.650	加工痕を有する剥片	安山岩	2	2.2	2.3	2.2	0.6
15	9M-03	005	接合1	66.570	剥片	安山岩	1	8.2	3.5	2.6	1.3
	9M-03	006		66.818	砕片	黒曜石	1	0.1	-	-	-
8	9M-03	007	接合1	66.682	剥片	安山岩	1	15.5	3.4	4.2	1.4
	9M-03	008		66.770	剥片	黒曜石	1	2.5	1.6	2.6	0.6
9	9M-03	009	接合1	66.610	剥片	安山岩	1	18.0	3.7	3.3	1.5
	9M-03	010		66.766	剥片	安山岩	1	0.9	1.5	1.5	0.3
	9M-03	011		66.975	剥片	黒曜石	1	0.5	1.1	1.1	0.5
	9M-12	001		66.415	礫	砂岩		335.5	8.0	6.5	5.0
12	9M-12	002		66.960	剥片	チャート	1	72.4	6.3	3.6	3.3
5	9M-13	002		66.832	加工痕を有する剥片	安山岩	4	71.8	5.0	4.9	2.9
	9M-13	003		66.740	剥片	メノウ	1	2.9	1.0	2.7	1.0
	9M-13	004		66.860	剥片	チャート	2	15.1	3.2	3.0	2.0
2	9M-14	002		66.920	砕片	黒曜石	1	0.2	1.6	0.8	0.3
	9M-14	004		66.775	搔器	メノウ	3	6.1	3.1	2.3	0.9
	9M-14	005		66.780	砕片	黒曜石	1	0.5	1.4	0.9	0.6
	9M-14	006		66.660	剥片	黒曜石	1	0.9	1.8	1.5	0.5
1	9M-14	007		66.735	搔器	チャート	3	9.2	4.0	2.5	0.9
7	9M-14	008		67.030	使用痕を有する剥片	流紋岩	2	6.3	2.0	3.5	0.9
	9M-14	010		66.930	剥片	メノウ	2	5.9	1.9	3.5	1.6
14	9M-14	011		66.760	剥片	メノウ	1	3.9	2.2	3.4	0.7
	9M-14	012		66.695	砕片	メノウ	2	1.2	1.9	1.0	0.8
	9M-14	013		66.810	砕片	メノウ	2	0.3	1.1	0.9	0.4
13	9M-14	014		66.810	剥片	メノウ	2	21.6	3.4	6.0	1.3
11	9M-14	015		66.700	剥片	メノウ	1	3.1	2.8	1.7	1.0
3	9M-14	016		66.714	加工痕を有する剥片	メノウ	2	4.8	2.5	2.6	1.2
	9M-14	017		66.722	砕片	メノウ	1	0.1	-	-	-
	9M-14	018		66.998	砕片	メノウ	1	0.1	-	-	-
	9M-14	019		66.660	砕片	黒曜石	1	0.1	-	-	-
	9M-15	001		66.808	砕片	メノウ	1	1.6	2.2	2.0	0.7
	9M-15	002		66.674	砕片	メノウ	1	0.5	0.8	1.5	0.4
	9M-15	003		66.650	剥片	メノウ	1	0.3	1.4	1.5	0.2
	9M-15	004		66.640	砕片	メノウ	1	0.4	1.5	0.6	0.5
	9M-15	005		66.640	砕片	黒曜石	1	0.2	1.3	0.8	0.3
	9M-15	006		66.638	砕片	メノウ	1	0.6	1.0	1.7	0.5
	9M-15	008		66.682	砕片	メノウ	1	0.3	0.8	1.1	0.4
	9M-15	008		66.682	砕片	メノウ	1	0.1	-	-	-
	9M-15	009		66.890	砕片	メノウ	1	2.1	1.2	2.4	0.8
	9M-15	010		66.970	砕片	メノウ	1	1.8	1.1	2.0	1.3
	9M-15	011		66.990	砕片	メノウ	1	0.3	1.6	1.9	0.1
	9M-15	012		66.700	砕片	メノウ	2	0.7	1.0	1.5	0.6
	9M-15	013		66.734	剥片	メノウ	1	4.7	2.6	2.3	1.4
	9M-15	015		66.600	砕片	メノウ	1	0.6	2.6	0.7	0.5
6	9M-23	001		66.705	使用痕を有する剥片	安山岩	3	7.1	4.0	2.4	0.9
	9M-25	001		66.620	剥片	メノウ	2	9.8	1.9	3.3	1.7
	9M-25	002		66.755	砕片	メノウ	1	0.8	0.8	2.1	0.5

第16表 8Lブロック石器属性表

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	8L-72-001		67.218	砕片	黒曜石	3	0.2	1.0	1.3	0.3
	8L-72-002		67.186	砕片	メノウ	1	0.3	0.8	1.6	0.2
	8L-72-003		67.149	砕片	メノウ	1	0.8	1.1	2.2	0.5
	8L-72-004		67.172	砕片	メノウ	2	0.3	1.1	1.6	0.2
	8L-72-005		67.170	砕片	メノウ	1	0.3	1.4	1.0	0.2
	8L-72-006		66.940	砕片	メノウ	1	0.5	1.3	1.0	0.4
	8L-72-007		67.211	剥片	メノウ	1	0.9	1.4	2.0	0.4
	8L-72-008		66.903	砕片	黒曜石	3	0.1	0.5	0.6	0.3
	8L-72-009		67.288	剥片	珪質頁岩	1	1.6	2.3	2.2	0.5
	8L-72-010		67.060	剥片	黒曜石	1	0.7	1.9	1.1	0.5
	8L-72-011		67.149	剥片	メノウ	1	0.9	1.4	1.2	0.2
	8L-72-012		66.920	砕片	メノウ	2	0.2	0.8	1.4	0.2
	8L-72-013		67.177	砕片	メノウ	2	0.1	0.8	0.7	0.2
	8L-72-013		67.177	砕片	メノウ	2	0.1	0.5	1.0	0.3
	8L-72-013		67.177	砕片	メノウ	2	0.1	0.5	0.9	0.3
	8L-72-013		67.177	砕片	メノウ	2	0.1	—	—	—
	8L-72-013		67.177	砕片	メノウ	1	0.1	—	—	—
14	8L-72-014		67.138	剥片	安山岩	1	30.0	4.7	5.1	1.3
	8L-72-015		67.021	砕片	珪質頁岩	1	0.1	0.9	0.8	0.3
	8L-72-016		67.110	砕片	メノウ	1	0.1	1.1	1.2	0.1
	8L-72-017		67.001	剥片	メノウ	1	1.2	1.3	2.2	0.5
	8L-72-018		66.974	砕片	メノウ	1	0.1	0.9	0.9	0.2
	8L-72-019		66.963	剥片	メノウ	2	0.3	0.9	1.2	0.3
8	8L-72-020		67.005	使用痕を有する剥片	メノウ	3	29.0	7.3	3.5	1.9
	8L-72-021		67.049	砕片	メノウ	2	0.1	—	—	—
	8L-72-022		67.063	砕片	メノウ	1	0.2	0.9	1.4	0.4
	8L-72-023		67.090	剥片	メノウ	4	1.0	1.4	2.0	0.5
	8L-72-024		67.061	剥片	メノウ	2	1.4	2.2	2.0	0.5
	8L-72-025		67.000	砕片	メノウ	2	0.2	1.2	1.0	0.2
	8L-72-026		67.075	砕片	メノウ	1	1.1	0.6	1.2	0.2
	8L-72-027		66.971	剥片	黒曜石	1	0.6	1.2	1.9	0.5
	8L-72-028		66.980	砕片	黒曜石	1	0.3	1.3	0.8	0.4
3	8L-72-029		67.001	ナイフ形石器	メノウ	1	0.5	0.7	1.3	0.4
13	8L-72-030		67.119	剥片	メノウ	4	7.3	4.5	3.4	0.8
4	8L-72-031		67.085	ナイフ形石器	メノウ	1	0.5	1.0	1.2	0.6
10	8L-72-032		67.005	磨石	砂岩	1	143.1	5.0	8.0	3.7
	8L-72-033		67.135	砕片	メノウ	4	1.2	1.6	1.8	0.7
	8L-72-034		67.090	砕片	メノウ	3	0.2	1.1	1.1	0.3
	8L-72-035		67.100	剥片	メノウ	2	0.2	1.5	1.7	0.5
5	8L-72-036		67.111	搔器	メノウ	2	14.9	3.2	3.9	1.6
	8L-72-037		67.146	砕片	メノウ	1	0.1	—	—	—
	8L-72-039		67.092	剥片	メノウ	3	0.6	2.0	1.7	0.3
6	8L-72-040		67.126	搔器	メノウ	7	5.3	2.3	2.9	0.9
	8L-72-041		67.060	剥片	メノウ	1	0.8	1.6	1.6	0.4
	8L-72-042		67.135	剥片	メノウ	6	4.3	4.6	1.2	1.1
12	8L-72-043		67.120	剥片	メノウ	5	10.5	4.7	2.5	1.2
	8L-72-044		67.005	剥片	黒曜石	1	1.8	1.7	1.7	1.2
	8L-72-044		67.005	砕片	黒曜石	1	0.1	—	—	—
	8L-72-044		67.005	砕片	黒曜石	2	0.1	—	—	—
	8L-72-045		67.062	砕片	メノウ	1	0.4	2.4	1.1	0.2
	8L-72-046		67.134	剥片	メノウ	3	0.6	1.5	1.6	0.5
	8L-72-047		66.975	剥片	黒曜石	2	0.3	1.7	0.9	0.4
	8L-72-048		67.202	砕片	メノウ	1	0.1	0.6	1.0	0.3
	8L-72-048		67.202	砕片	黒曜石	5	0.1	—	—	—
	8L-72-049		67.239	剥片	メノウ	3	0.6	1.6	1.4	0.4
	8L-72-050		67.190	剥片	メノウ	9	4.9	2.8	1.4	1.5
9	8L-72-051		67.085	石核	メノウ	1	9.2	3.2	2.5	1.0

(第16表 続き)

図 No.	遺物 No.	接合	標高 (m)	器種	石材	母岩	質量 (g)	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
	8L-72-052		67.040	砕片	メノウ	1	0.5	0.9	1.5	0.7
	8L-72-052		67.040	砕片	メノウ	5	0.1	—	—	—
	8L-72-053		67.149	剥片	メノウ	2	0.5	1.7	1.3	0.3
	8L-72-054		67.259	砕片	メノウ	2	0.3	1.1	1.6	0.2
	8L-72-055		67.238	剥片	メノウ	1	0.8	1.6	1.9	0.5
	8L-72-056		66.928	剥片	黒曜石	1	0.5	1.4	1.4	0.4
	8L-72-057		66.933	砕片	メノウ	6	0.4	1.2	1.7	0.5
	8L-72-058		67.070	剥片	メノウ	1	1.3	1.5	2.6	0.5
	8L-72-059		66.936	剥片	メノウ	1	0.9	1.3	1.6	0.6
7	8L-72-060		66.960	使用痕を有する剥片	メノウ	1	6.0	2.9	2.0	0.9
	8L-72-061		66.596	砕片	メノウ	1	0.1	—	—	—
	8L-72-062		66.936	砕片	メノウ	2	0.1	0.8	0.7	0.4
	8L-72-063		67.060	砕片	メノウ	1	0.1	—	—	—
	8L-72-064		67.085	砕片	メノウ	2	0.2	0.7	1.9	0.3
	8L-72-065		67.171	砕片	黒曜石	3	0.3	1.4	1.2	0.4
	8L-72-066		66.880	剥片	珪質頁岩	2	0.9	2.3	1.7	0.3
	8L-72-067		66.882	砕片	メノウ	5	0.5	0.9	1.0	0.6
1	8L-72-068		66.862	ナイフ形石器	黒曜石	4	4.6	3.8	2.1	0.7
11	8L-72-069		66.872	剥片	メノウ	1	2.0	2.6	1.6	0.6
2	8L-72-070		66.806	ナイフ形石器	メノウ	8	0.7	2.2	0.9	0.4

第17表 第1・2文化層における母岩別分類

石材	Aゾナック Bゾナック Cゾナック Dゾナック Eゾナック 9Fゾナック 合計						ナイフ形石器 削器 石核 UF RF 縦長剥片 剥片 砕片 合計										
チャート1					28	28											
チャート2					15	15											
チャート3					1	1											
チャート4		1				1											
チャート6	1					1											
チャート7			1			1											
チャート8			1			1											
安山岩1					2	2											
安山岩2	6	1				7			1								
安山岩4	1					1											
凝灰岩1					2	2											
凝灰岩2	1					1											
凝灰岩3	1					1											
珪質凝灰岩1		4				4											
珪質凝灰岩2	5	3				8											
珪質凝灰岩3		2				2											
珪質凝灰岩4	1					1											
黒曜石1	6	75				81											
黒曜石2	91	111				202											
黒曜石3	45	32				77											
黒曜石4				9	17	1											
黒曜石5				4	14		42										
黒曜石6	10	6				16											
黒曜石7				9	27		36										
黒曜石8	3	5				8				2							
黒曜石9		1				1											
黒曜石10		1				1											
黒曜石11				2		2											
黒曜石12					3	3											
黒曜石13			1			1											
黒曜石14		2				2											
黒曜石15	2	2				4											
黒曜石16				1	2	3											
黒曜石17	1	3				4											
黒曜石18					16	16				2							
黒曜石19					3	3											
頁岩1	3	4				7											
頁岩2	6	2				8											
頁岩3		1				1											
頁岩4		1				1											
頁岩5	1					1											
流紋岩1	1	1				2											
流紋岩2						0											
流紋岩3		1				1											
流紋岩4				1		1											
流紋岩5				1		1											
珪質頁岩1			1			1											
珪質頁岩2			1	2		3											
珪質頁岩3					1	1											
珪質頁岩4					27	27											
合計	185	261	25	63	57	88	279										
								16	1	19	18	12	4	224	385	679	

第3節 縄文時代（第93図～140図，第18～21表，図版16～26・48～72）

前述したとおり，縄文時代の遺構は，竪穴住居跡1軒，炉穴37基，陥穴14基，土坑22基を検出した（第93・94図）。これらの遺構は，全てⅢ層（ソフトローム）上面において検出したものである。また，本調査区①を中心に，早期中葉（田戸上層式終末～子母口式）の良好な遺物包含層を検出した。なお，本遺跡出土縄文土器の分類は，「7. 遺構外出土遺物」に記した。

1. 竪穴住居跡（第95図，第18表，図版16・48）

033号跡

10E-43グリッド付近に位置する。平面形は，基本的に直径約4.8mの円形だが，南東側が張り出しているため，歪んだ形となっている。確認面からの掘込みは浅く，5cm～10cm程度である。遺物は若干高い位置から検出されているため，実際はⅡ層中下部から構築されていたものと考えられる。床面は，木根などで攪乱され，判然としない部分が多い。そのため，柱穴については，東側に3基検出したにすぎなかった。いずれも床面からの深さは，約10cmである。遺物は，早期中葉の土器（第Ⅲ群第2類a種）1個体分（1）と石器1点（2）を検出した。

1は，遺構の西側部分にまとまって分布していた。底部以外は完形に復元することができ，口径約29cm，現存高は約22cmである。器形は，口縁部に向かって開いていく，単純な深鉢形である。文様は認められず，主に横方向の擦痕による器面調整が施されているにすぎない。口唇部から口縁部内面にかけては，やや丁寧なナデ調整が加えられる。胎土には砂粒，繊維が多く含まれている。焼成はおおむね良好であるが，胴部以下は2次焼成が激しく，器面が荒れている部分が多い。色調は，内外面共に暗灰褐色～暗黄灰褐色である。2は，黒曜石製の搔器（End Scraiper）である。覆土中から検出された。中央部に節理が走り，腹面は複雑な剝離となっている。頭部及び右側縁を切断後，背面側に各方向から，調整剝離を行う。しかし，節理によってその多くが蝶番状剝離（Hinge fracture）となり，中央部分は除去されずに残っている。末端部に刃部を形成し，使用の結果と思われる微細剝離痕が観察される。

2. 炉穴（遺構：第96～98図・図版17～21，遺物：第99図・第18表・図版49）

炉穴は，重複分を含めて37基が検出された。本調査区①の台地先端部を中心として分布する。遺物が検出されているものについて，その時期を見ると，011号跡が第Ⅱ群土器（田戸下層式）に，それ以外のものが第Ⅲ群土器（田戸上層式終末～子母口式）に伴うものである。

001号跡

9D-85グリッド付近に位置する。北側の一部は攪乱を受けている。平面形は楕円形，長軸方向はN-31°-Wである。規模は長軸0.9m，短軸0.6mほどである。燃焼部は南側に位置する。なお，遺物は検出されなかった。

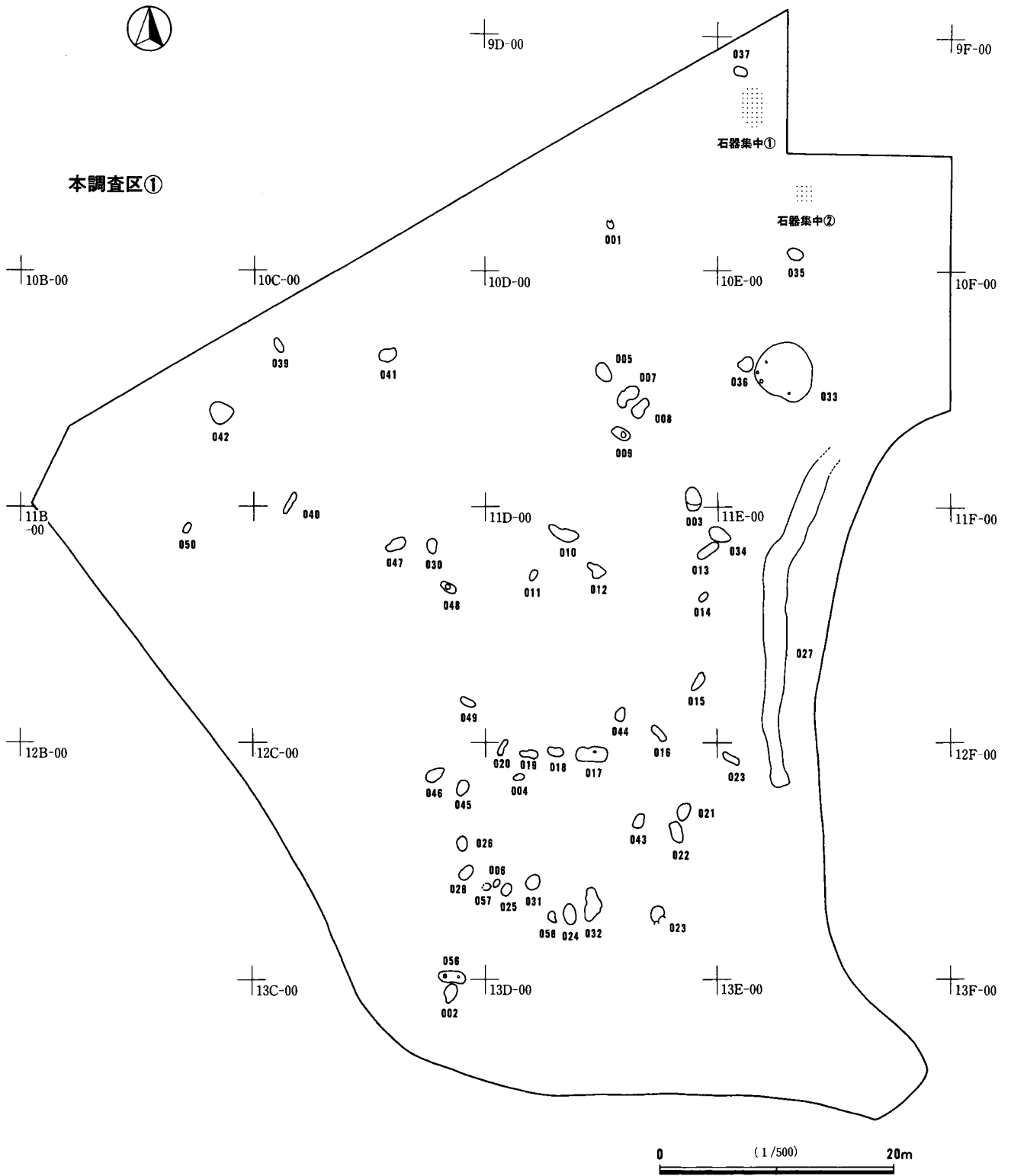
002号跡

13C-08グリッド付近に位置する。平面形は不整形，長軸方向はN-16°-Eである。規模は長軸1.7m，短軸1.1mほどである。燃焼部は，中央部やや北東よりに位置する。

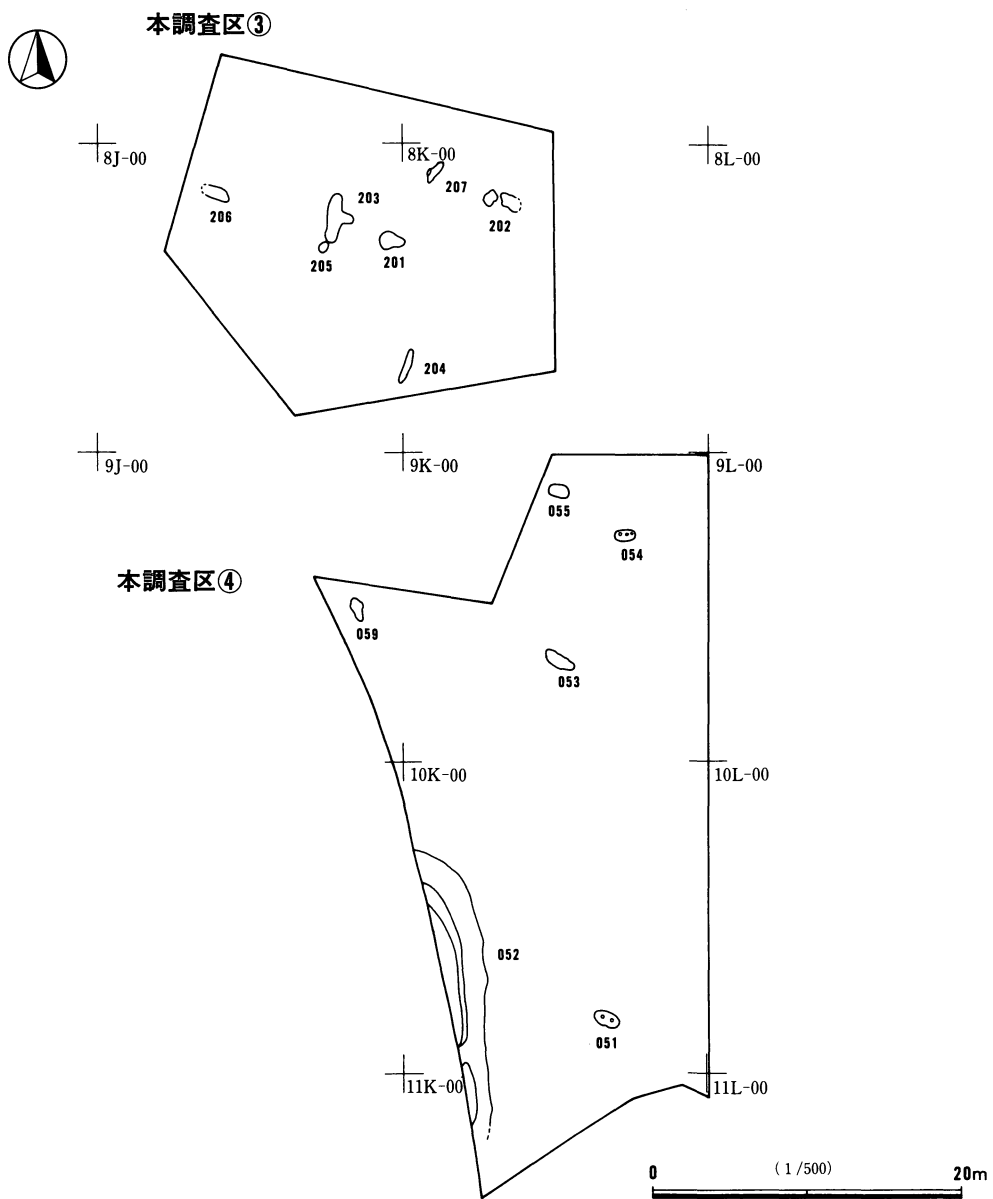
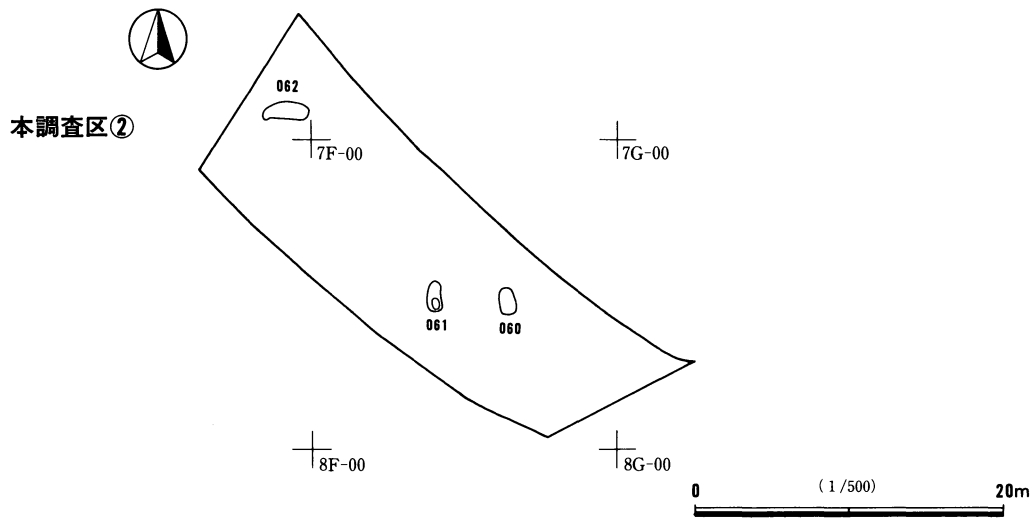
遺物は，黒曜石製剝片2点（0.07g）が検出された（第18表）。非常に薄く，石鏃等の調整時に押圧剝離されたものと考えられる。黒曜石は，透明度が高い良質のものである。

004号跡

12D-21グリッド付近に位置する。平面形は楕円形，長軸方向はN-74°-Eである。規模は長軸1.0m，

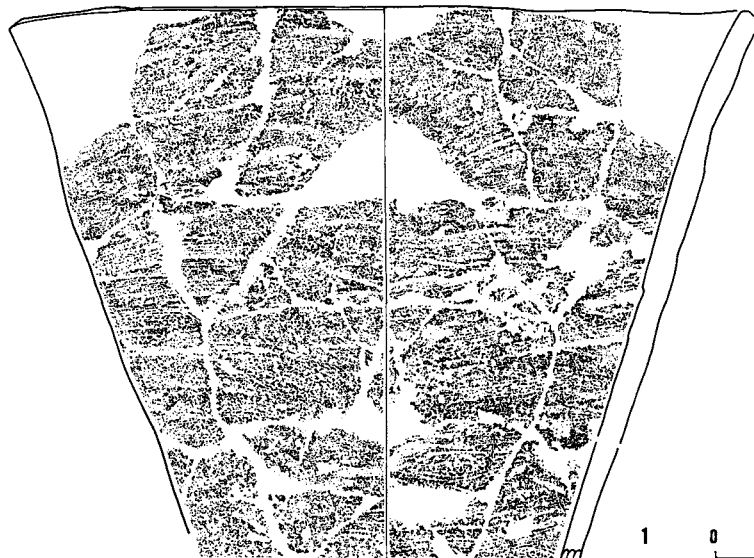
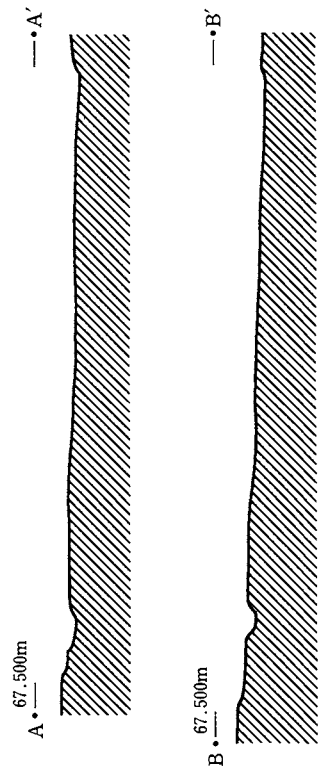
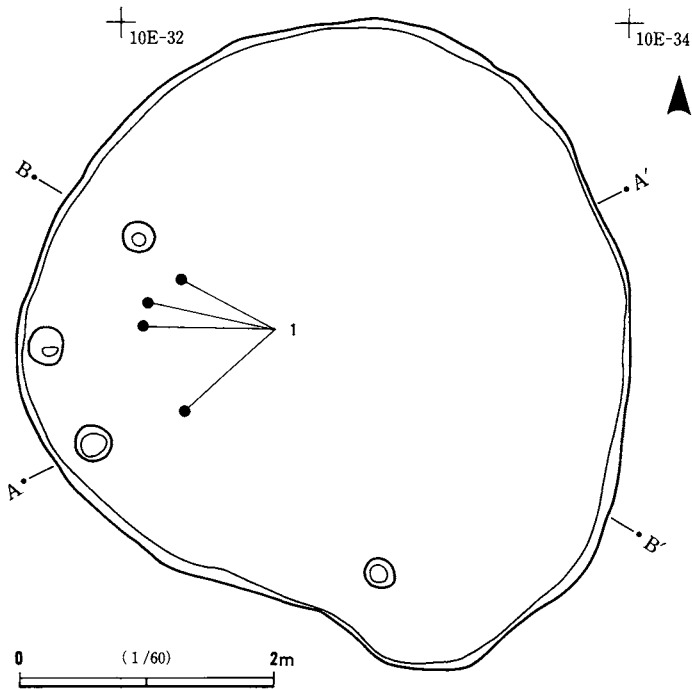


第93図 上層遺構配置図(1)

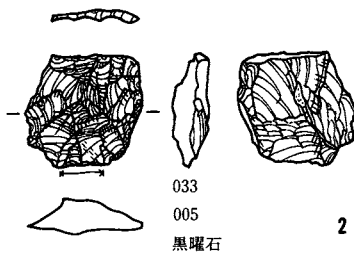


第94図 上層遺構配置図(2)

033



033
001, 002, 003, 004



033
005
黒曜石

2

第95図 竪穴住居跡及び出土遺物

短軸0.6mほどである。燃焼部は東側に位置する。

遺物は、第Ⅲ群2類土器が3点(11.3g)及び黒曜石製碎片1点(0.36g)が検出された。本報告では、土器1点を図示した。第99図1は外面に条痕が施され、胎土は繊維を多く含む。第3群第2類b種に相当する。なお、他の2点は小片のため、詳細は不明であるが、第Ⅲ群第2類a種に分類されるものである。碎片は、不純物を含み、やや灰色を帯びる黒曜石製である。

005号跡

10D-45グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-30°-Wである。規模は長軸1.8m、短軸1.1mほどである。燃焼部は中央部に位置する。

遺物は、第3群2類a種土器が5点(103.7g)検出された。本報告では、4点を図示した(第99図2~5)。2・4は繊維を多く含むが、3・5は比較的少量で、堅致な焼成である。さらに後者は、器面調整も丁寧な擦痕であり、器表面は平滑である。

006号跡

12D-60グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-35°-Eである。規模は長軸0.9m、短軸0.5mほどである。燃焼部は、中央部やや北よりに位置する。なお、遺物は検出されなかった。

007号跡

10D-56グリッド付近に位置する。平面形は中央部にくびれのある楕円形、長軸方向はN-45°-Eである。規模は長軸2.3m、短軸0.8m~1.1mほどである。燃焼部は、北東側に位置する。

遺物は、第Ⅲ群2類a種土器が5点(63.9g)検出された。本報告では3点を図示した(第99図6~8)。6は口縁部破片で、器面には製作時の指頭圧痕を顕著に残す。7・8は同一個体である。色調は明褐色~褐色で、堅致な焼成である。

008号跡

10D-56グリッド付近に位置する。平面形は中央部にくびれのある楕円形、長軸方向はN-40°-Eである。規模は長軸1.8m、短軸0.7m~1.0mほどである。燃焼部は北東側に位置する。

遺物は、第Ⅲ群2類a種土器が5点(71.6g)検出された。本報告では3点を図示した(第99図9~11)。9の内面には、ススの付着が見られる。外面には、擦痕の後に丁寧なナデが施され、器表面は平滑である。10・11は同一個体である。胎土中の繊維量は多いが、比較的堅致な焼成である。

011号跡

11D-32グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-35°-Eである。規模は長軸1.0m、短軸0.7mほどである。燃焼部は北東側に位置する。

遺物は、第Ⅱ群土器1点(8.9g)、黒曜石製剥片1点(0.21g)及び碎片1点(0.13g)が検出された。本報告では土器1点を図示した(第99図12)。12は丸みを帯びる口唇部であり、横位の太沈線文が施される。胎土は砂粒を多く含む。二次焼成を強く受けているため、色調は明褐色であり、器表面は荒れている。

012a・b号跡

11D-25グリッド付近に位置し、2基が重複している。西側のものを012a、東側のものを012bと呼称する。012aは、平面形が楕円形、長軸方向はN-64°-Wである。推定規模は長軸1.1m、短軸0.5mほどである。燃焼部は、西側に位置する。012bは、推定規模及び平面形が、一辺1.1mほどの隅丸三角形である。燃焼部は北側に位置する。なお、2基の新旧関係は不明である。

遺物は、第Ⅲ群2類a種土器が12点(170.1g)検出された。本報告では4点を図示した(第99図13~16)。13の外表面は、横位の条痕を施した後に、擦痕を加えている。角状の口唇部には、指頭による押圧を加えている。14は、内外面とも、条痕の後に擦痕を加える。15は底部近くの破片である。繊維の他に、細砂粒を多く含み、器表面はざらつく。16は擦痕地上をナデ調整し、器表面は平滑である。

014号跡

11D-94グリッド付近に位置する。平面形は隅丸長方形、長軸方向はN-40°-Eである。規模は長軸1.0m、短軸0.6mほどである。燃焼部は、中央部やや北東よりに位置する。なお、遺物は検出されなかった。

015号跡

11D-79グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある長楕円形、長軸方向はN-36°-Eである。規模は長軸1.9m、短軸0.8mほどである。燃焼部は北東側に位置する。

遺物は、第Ⅲ群土器土器が3点(56.9g)検出された。本報告では2点を図示した(第99図17・18)。17は1類に分類されるものである。口唇部に斜位の絡条体圧痕紋が施文され、図右側よりの部分で方向を違えている。子母口式に比定される。18は2類a種に分類される無文の胴部片である。外面には大きな黒斑が付き、内面は激しく荒れている。

016号跡

11D-98グリッド付近に位置する。平面形は隅丸長方形、長軸方向はN-42°-Wである。規模は長軸1.1m、短軸0.7mほどである。燃焼部は北西側に位置する。

遺物は、第Ⅲ群2類a種土器が3点(25.1g)及び黒曜石製剥片が2点(1.55g)検出された。本報告では土器2点を図示した(第99図19・20)。19・20は同一個体である。二次焼成を受けているためか、色調は割れ口を含めて褐色である。

019号跡

12D-01グリッド付近に位置する。平面形はくびれのある楕円形、長軸方向はN-88°-Wである。規模は長軸1.6m、短軸0.5m~0.7mほどである。燃焼部は、西側に位置する。

遺物は、第Ⅲ群2類a種土器が19点(214.9g)及び黒曜石製剥片が1点(0.66g)検出された。ここでは、土器3点を図示した(第99図22~24)。22~24は同一個体である。剥片は、やや不純物の混じる灰色がかった黒曜石を用いている。なお、使用の痕跡などは認められない。

021号跡

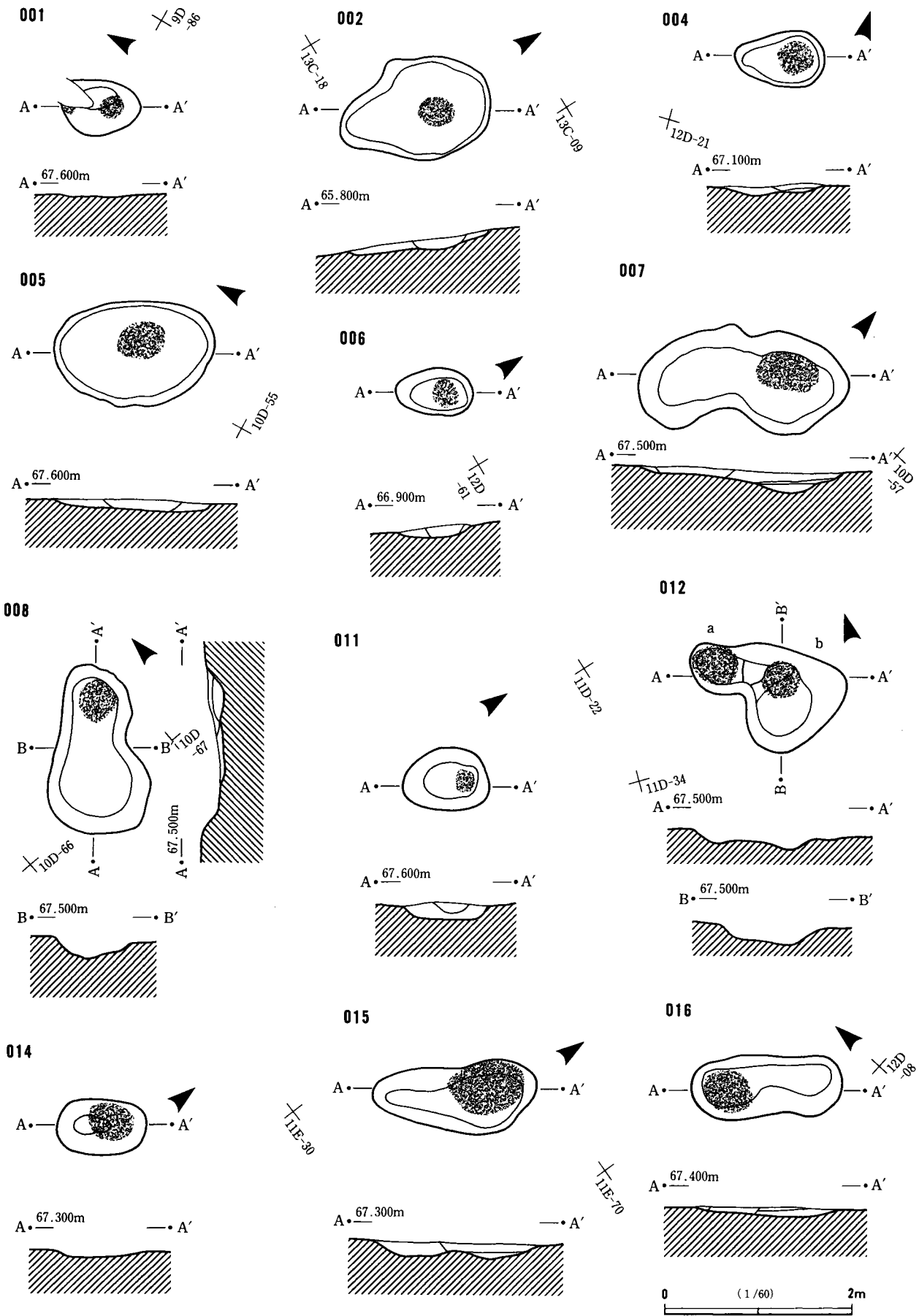
12D-38グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-21°-Eである。規模は長軸1.6m、短軸1.1mほどである。燃焼部は、北東側に位置する。

遺物は、第Ⅲ群2類a種土器が2点(16.4g)出土した。本報告では1点を図示した(第99図25)。25は内外面に擦痕が施され、胎土に繊維を多く含む。

022号跡

12D-38グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある隅丸長方形、長軸方向はN-33°-Wである。規模は長軸1.9m、短軸1.0mほどである。燃焼部は、中央部やや北よりに位置する。なお、遺物は検出されなかった。

023号跡



第96图 炉穴 (1)

12D-77グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-31°-Eである。規模は長軸1.5m、短軸1.1mほどである。燃焼部は、中央部やや北よりに位置する。

遺物は、黒曜石製剥片1点及び同U・R-fl1点が検出された。第107図1はU・R-flである。平面形、横断面形共に三角形になる剥片を用い、背面右側縁及び先端部付近の各縁辺部に2次加工痕及び使用痕と思われる微細剥離痕が認められる。

024号跡

12D-73グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-11°-Wである。規模は長軸1.8m、短軸1.1mほどである。燃焼部は、中央部やや北よりに位置する。

遺物は第Ⅲ群1類土器が1点検出された(第99図21)。21は、口唇部に棒状工具による刺突を施す。器面調整は内外面共に条痕を施している。

025号跡

12D-61グリッド付近に位置する。平面形は円形に近い楕円形、長軸方向はN-35°-Eである。規模は長軸1.2m、短軸0.9mほどである。燃焼部は北東側に位置する。なお、遺物は検出されなかった。

029号跡

12E-00グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある楕円形、長軸方向はN-61°-Wである。規模は長軸1.6m、短軸0.6mほどである。燃焼部は北西側に位置する。

遺物は、第Ⅲ群2類a種土器が3点(145.1g)検出された(第99図26・27)。26・27ともに擦痕による調整が行われ、胎土は繊維を多く含んでいる。

031号跡

12D-62グリッド付近に位置する。燃焼部の数から、2基の重複と考えられる。平面形は円形に近い不整形であるが、歪みのある隅丸長方形、長軸方向はN-29°-Eである。規模は長軸1.9m、短軸1.0mほどである。燃焼部は、中央部やや北よりに位置する。

遺物は、第Ⅲ群2類土器6点(109.8g)及び石器が2点(0.18g)検出された。本報告では土器3点を図示した(第99図28~30)。なお、土器の内訳は、a種土器が5点で、b種土器が1点である。28の外表面は、縦方向の擦痕の後、口縁部付近にナデを加える。内面はナデ調整の痕跡をうかがうが、荒れが激しく判然としない。29はb種に分類されるものであり、内外面に条痕が見られる。30は条痕地上に擦痕を施すものである。擦痕は荒く、条痕の痕跡が顕著に残る。石器の内訳は、良質な黒曜石製の剥片1点及び碎片1点である。剥片は薄く、押圧剥離されたものであり、石鏃等の調整剥片と考えられる。

032 a・b号跡

12D-64グリッド付近に位置し、2基の重複である。新旧関係は不明確であるが、燃焼部が北側にあるものを032 a、南側にあるものを032 bと呼称する。032 aは平面形が不整形に近い楕円形、長軸方向はN-14°-Wである。規模は長軸1.6m、短軸0.8m~1.1mほどである。燃焼部は、北側に位置する。032 bは平面形が不整形、長軸方向はN-21°-Eである。規模は長軸2.1m(推定)、短軸1.3mほどである。燃焼部は中央部付近に位置する。

遺物は、第Ⅲ群2類a種土器が3点(38.2g)及び黒曜石製剥片が3点(3.61g)検出された。本報告では、土器1点を図示した(第99図31)。31は割れ口を含めて、黄褐色であることから二次焼成を受けているものと思われる。胎土中の繊維は少量であり、堅致な焼成である。石器類は、いずれも良質な黒曜石

を用いている。なお、二次加工痕や使用痕は認められない。

043号跡

12D-36グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-31°-Eである。規模は長軸1.4m、短軸0.8m~0.9mほどである。燃焼部は北東側に位置する。

遺物は、黒曜石製剥片が1点(3.56g)検出された。やや不純物のはいる漆黒の黒曜石を用い、縦長で背面に稜線を有するものである。二次加工痕や使用痕は認められない。

057号跡

12D-60グリッド付近に位置する。平面形は円形に近い楕円形、長軸方向はN-60°-Eである。掘込みは浅く、特に南西側は不明瞭である。規模は長軸0.7m、短軸0.6mほどである。燃焼部は北東側に位置する。なお、遺物は検出されなかった。

058号跡

12D-73グリッド付近に位置する。平面形は不整形、長軸方向はN-22°-Wである。規模は長軸0.9m~1.0mほどである。燃焼部は、北西側に位置する。なお、遺物は検出されなかった。

201a号跡

8J-39グリッド付近に位置する。東側が円形土坑(201b号跡)と重複しているが、土層断面から炉穴の方が新しく、平面形が楕円形であることが読みとれる。復元された長軸方向はN-80°-Wで、規模は長軸1.3m、短軸0.6mほどである。燃焼部は東側に位置する。

遺物は、第Ⅲ群1類及び2類a種土器が17点(403.8g)検出された。いずれも、器表面には擦痕が顕著であり、胎土には繊維を多く含む。胎土や焼成はいずれも類似するが、同一個体であるかどうかは判然としない。本報告では5点を図示した(第99図32~36)。32・33の口唇部には、半截竹管による斜め方向からの刺突が施される。32の口縁部には、間隔を開けた円形刺突文が施される。裏面に突瘤は形成されていないが、図中央の刺突は貫通している。33の口縁部にも刺突文が認められる。口唇部刺突と同じ工具を用いているが、こちらは垂直方向からの刺突である。34・35は、無文の胴部片である。内外面とも擦痕が顕著であるが、内面は荒れが激しい。

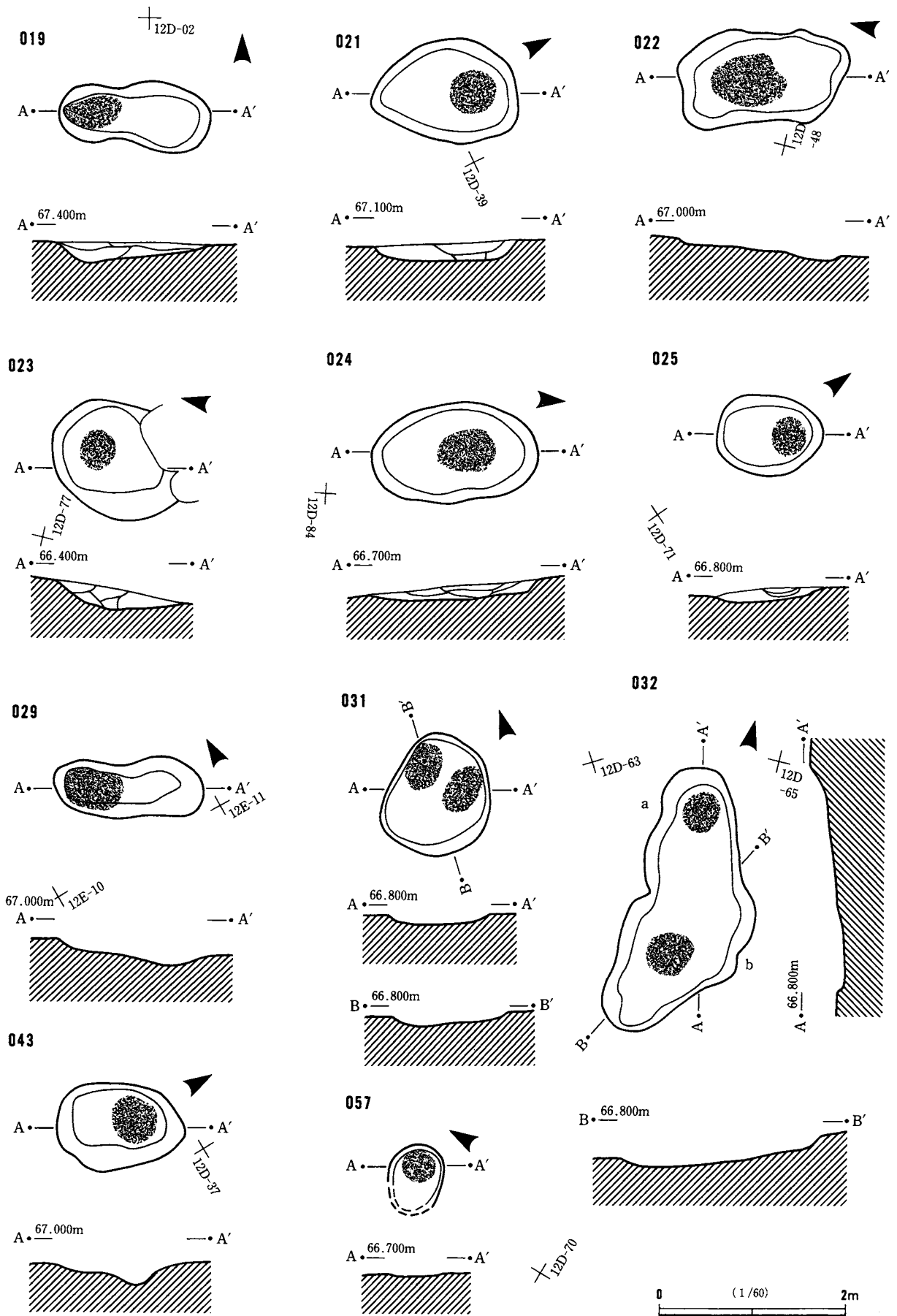
3. 土坑(遺構:第100~101図・図版24~26, 遺物:第102図・図版50)

土坑は、本調査区①及び②から22基が検出された。数基ずつ固まるようにして、台地上の平坦部に分布する傾向がある。遺物を包含しないものもあり、その帰属時期については不明確なものが多い。しかし、遺構外出土土器も含めた上で考えると、大半は第Ⅲ群期のものとして捉えることが可能であろう。

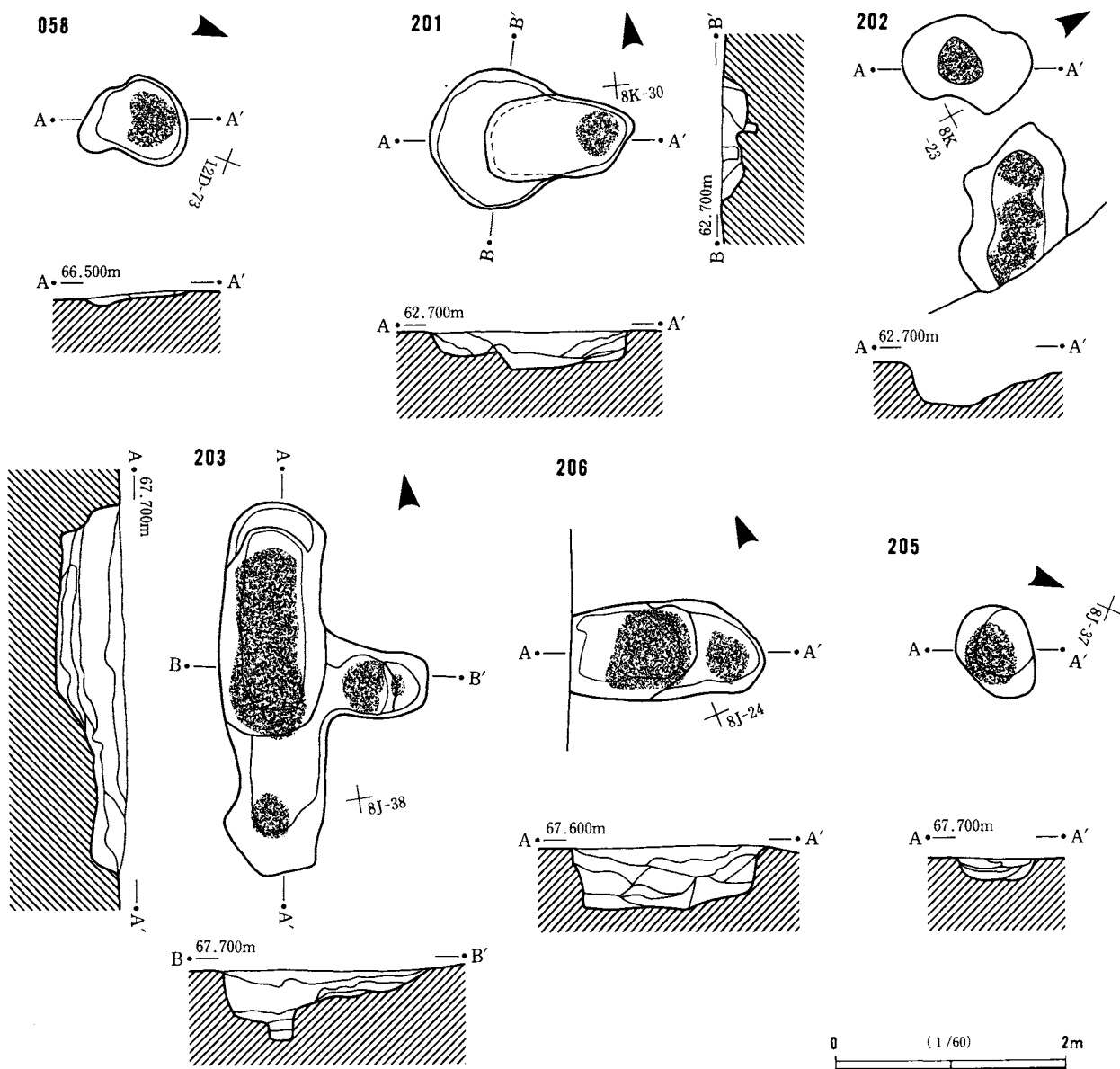
003号跡

9D-98グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-9°-Wである。南側に段を有することから、楕円形の土坑と円形の土坑の重複とも考えられるが、掘込みが浅いため明確でない。規模は、長軸2.2m、短軸1.4mほどである。

遺物は、第Ⅲ群1類が1点及び2類a種土器が5点の計6点(64.2g)及び磨石片(37.7g)検出された。本報告では、土器2点を図示した(第102図1・2)。1の口縁部には、棒状工具をかなり寝かせた格好で施した、浅い刺突が認められる。2段にわたって施文されているが、図右側は空白となっており、周回するものかどうかは不明である。2は断面三角形の横位隆帯が巡る胴部片である。隆帯上には、細棒状工具による浅い刺突が施される。図下部には斜方向の沈線も認められる。磨石片は、側面部の一部のみの



第97图 炉穴 (2)



第98図 炉穴 (3)

残存で、赤化している。石材は、砂岩である。

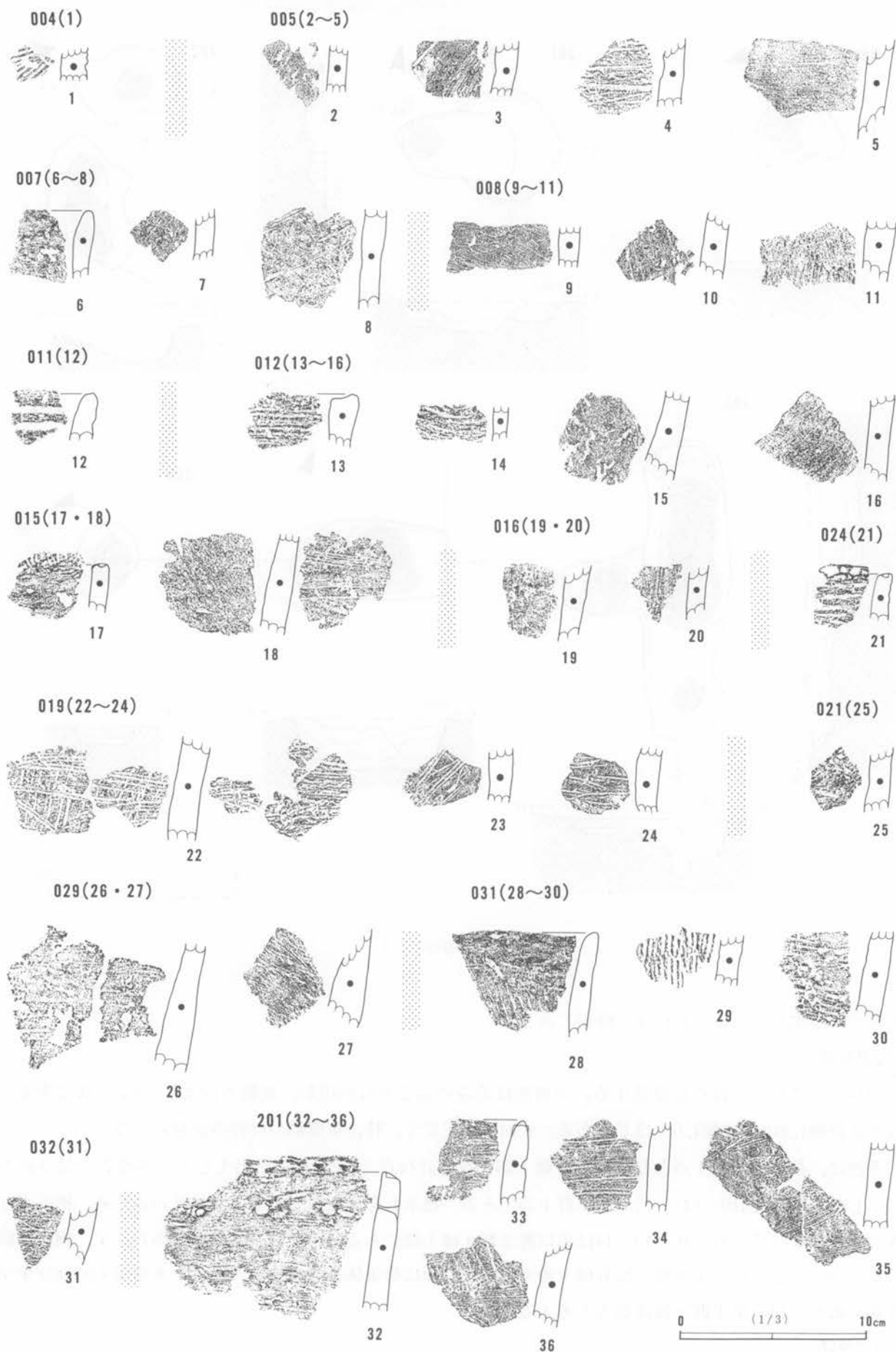
009号跡

10D-76グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある平行四辺形、長軸方向はN-85°-Wである。規模は長軸1.8m、短軸1.0mほどである。底面は不安定で、特に東側部分に窪みが見られる。

遺物は、第I群土器1点及び第III群2類土器13点の計14点(162.6g)が出土した。本報告では5点を図示した(第102図10~14)。12は第I群土器である。撚糸Lを施文後、ナデを加えているため、撚糸文は浅いものになっている。10・13・14は第III群2類a種土器である。いずれも文様は認められず、擦痕が顕著なものである。11は第III群2類b種土器である。外面に絡条体条痕を施す。なお、本遺構の時期は第III群期であり、12の第I群土器は混入と考える。

017号跡

12D-04グリッド付近に位置する。平面形は長方形に近い不整形、長軸方向はN-84°-Wである。規



第99图 炉穴出土土器

模は長軸2.6m、短軸1.0m～1.2mほどである。底面には、浅いピット状の落込みが認められる。

遺物は、土器で第Ⅰ群が1点、第Ⅲ群が8点の計9点(13.5g)、黒曜石製剥片1点(1.68g)及び敲石(53.82g)が検出された。本報告では土器7点及び敲石を図示した(第102図3～9・第107図3)。第102図8は第Ⅰ群土器である。擦糸Rが乱雑に施されている。内面は、横方向のナデにより丁寧に調整され、平滑である。3は第Ⅲ群1類土器であり、外削ぎ状の口唇部に斜位の細沈線が施文される。4～7・9は、いずれも文様はなく、4・9は第Ⅲ群2類a種土器に、5～7は同b種土器に相当する。7のみ、内面にも条痕が施される。なお、図示しなかった2点は、同a種土器の小片である。第107図3は敲石である。チャートの小礫を素材とし、上下に敲打痕が認められる。敲打面も赤化していることから、使用後に被熱したものと思われる。

018号跡

12D-77グリッド付近に位置する。平面形は楕円形に近い不整形、長軸方向はN-89°-Eである。規模は長軸1.4m、短軸0.8mほどである。底面は皿状である。

遺物は、第Ⅰ群、第Ⅱ群、第Ⅲ群の各土器が1点ずつの計3点(49.9g)及び磨石片1点(78.4g)検出された。本報告では2点を図示した(第102図15・16)。15は第Ⅱ群土器である。横位の集合沈線が施紋される。内面は、縦方向の丁寧なナデが施され、平滑である。16は第Ⅰ群土器である。器表面の荒れが激しく、判然としないが、縦方向でまばらな擦糸Rが施文されている。図示しなかった1点は、小片であるが、胎土に繊維を含むことから、第Ⅲ群土器に比定できるものである。磨石片は、側面と磨面の一部が残存するのみで、赤化した後に破損している。石材は流紋岩である。

030号跡

11C-17グリッド付近に位置する。平面形は東側にくびれを持つ楕円形、長軸方向はN-13°-Wである。規模は長軸1.3m、短軸0.7m～0.8mほどである。底面は、やや傾いているが、ほぼ平坦である。

遺物は、第Ⅲ群2類土器が4点(219.8g)検出された。本報告では3点を図示する(第102図17～19)。17・18は外面に浅い条痕が施されるもので、b種に分類される。内面調整は、17が丁寧なナデ、18が条痕の後に軽いナデを加えている。19は内外面共に、擦痕の後にナデが加えられており、a種に分類される。なお、図示しなかった1点はb種の小片である。

034号跡

10E-10グリッド付近に位置する。平面形は楕円形に近い不整形、長軸方向はN-65°-Wである。規模は長軸2.0m、短軸1.2mほどである。底面は、ゆるい段のつく皿状である。

遺物は、第Ⅲ群2類土器が5点(71.7g)検出された。本報告では、2点を図示した(第102図20・21)。20は、外面に擦痕の後にナデ、内面に縦方向の擦痕が施される。21は、内外面にまばらな条痕が施される。

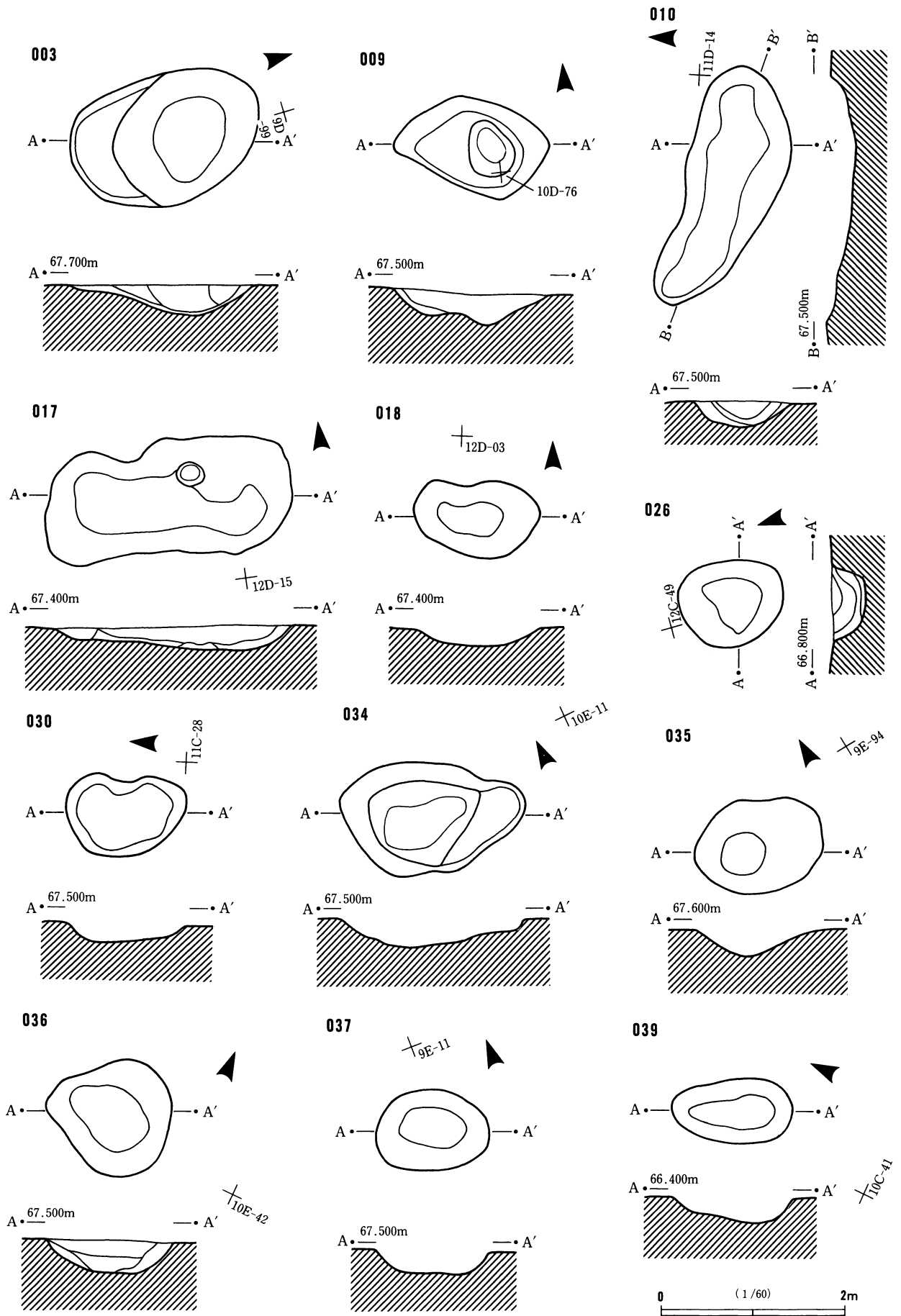
035号跡

9E-93グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある楕円形、長軸方向はN-63°-Wである。規模は長軸1.4m、短軸1.0mほどである。底面は皿状である。なお、遺物は検出されなかった。

036号跡

10E-41グリッド付近に位置する。平面形は不整形である。規模は長軸1.4mほどで、底面は皿状である。なお、遺物は検出されなかった。

037号跡



第100图 土坑 (1)

9E-11グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-69°-Wである。規模は長軸1.3m、短軸0.9mほどで、底面は平坦である。なお、遺物は検出されなかった。

039号跡

10C-31グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある楕円形、長軸方向はN-27°-Wである。規模は長軸1.3m、短軸0.7mほどである。底面は皿状である。なお、遺物は検出されなかった。

041号跡

10C-36グリッド付近に位置する。平面形は不整形、長軸方向はN-80°-Eである。規模は長軸1.6m、短軸1.0mほどである。底面は平坦である。なお、遺物は検出されなかった。

042号跡

10B-58グリッド付近に位置する。平面形は隅丸三角形状である。規模は最大長2.0mほどである。底面は掘り鉢状である。なお、遺物は検出されなかった。

044号跡

11D-86グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-23°-Eである。規模は長軸1.3m、短軸0.9mほどである。底面はほぼ平坦である。なお、遺物は検出されなかった。

045号跡

12C-19グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある楕円形、長軸方向はN-18°-Eである。規模は長軸1.3m、短軸0.9mほどである。底面はほぼ平坦である。

遺物は第Ⅲ群2類b種土器が1点(18.3g)検出された(第102図22)。22は内外面に条痕を施し、胎土に繊維及び砂粒を多く含む。

047号跡

11C-16グリッド付近に位置する。平面形は歪みの激しい楕円形、長軸方向はN-56°-Eである。規模は長軸1.9m、短軸0.9mほどである。底面にはゆるい凹凸がある。なお、遺物は検出されなかった。

048号跡

11C-38グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-67°-Wである。規模は長軸1.5m、短軸0.8mほどである。底面中央部には、ピット状の落込みがある。

遺物は、第Ⅰ群土器1点と第Ⅲ群2類a種土器1点の計2点(55.7g)が検出された(第102図23・24)。24は第Ⅰ群土器である。まばらな縦位の捺糸Lが施紋される。23は第Ⅲ群2類a種土器である。内外面に擦痕が顕著である。胎土は繊維を多く含むが、堅致な焼成である。

049号跡

11C-89グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-66°-Wである。規模は長軸1.4m、短軸0.7mほどである。底面はほぼ平坦である。

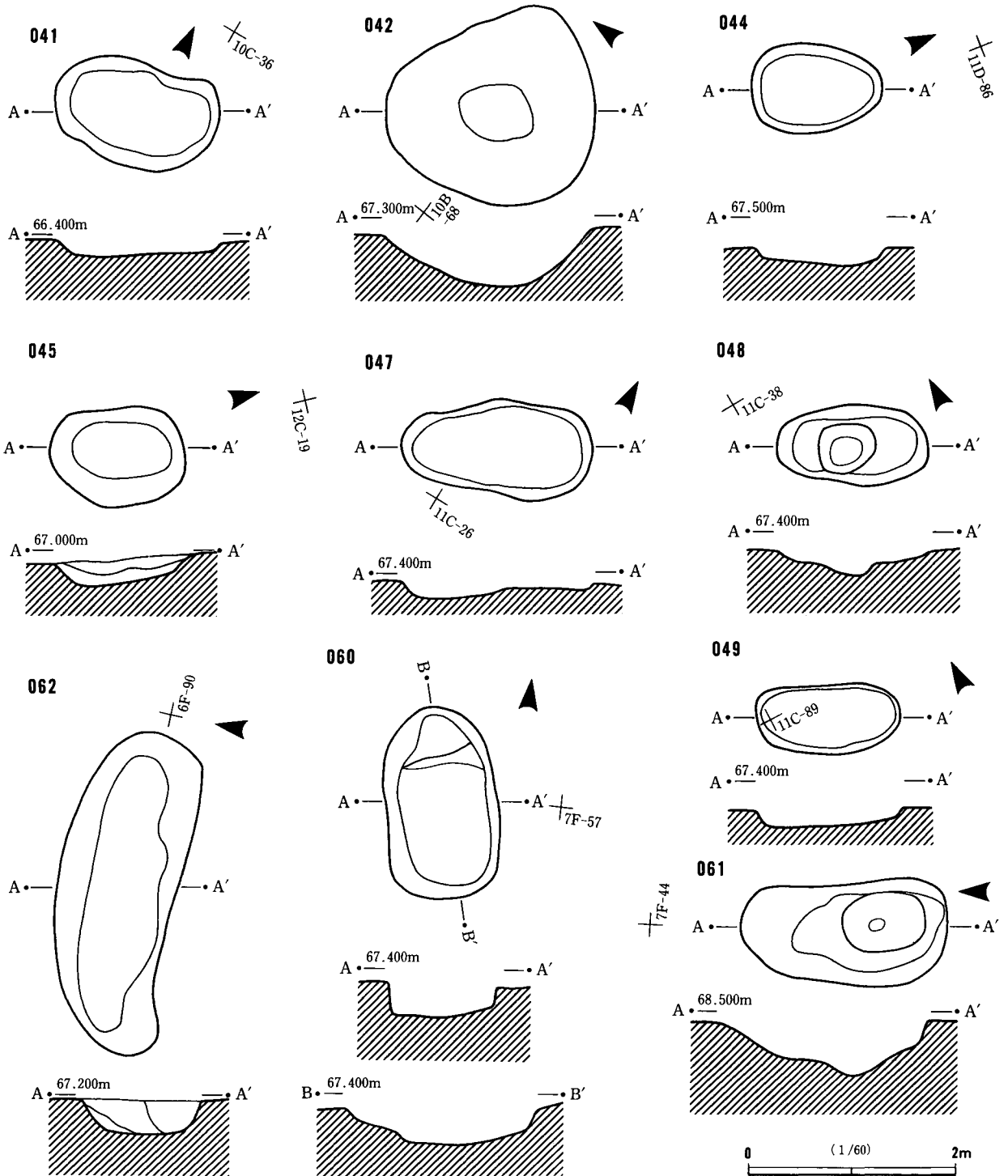
遺物は、黒曜石製の剥片及びU・R-flの計2点(6.24g)が検出された。剥片は、背面に稜を有する縦長のものであるが、上下の両側が切断されている。なお、使用等の痕跡は認められない。U・R-flは図示した(第107図2)。不純物を多く含む黒曜石の縦長剥片を素材として、左側縁部と上端部に二次加工痕が認められる。使用に伴う微細剥離は明確でないが、上端部を刃部として削器(End scraipaer)として用いたと考えられる。

060号跡

7F-56グリッド付近に位置する。平面形は楕円形に近い隅丸長方形，長軸方向はN-15°-Wである。規模は長軸1.9m，短軸1.1mほどである。底面は北側に段を有するが，ほぼ平坦である。なお，遺物は検出されなかった。

061号跡

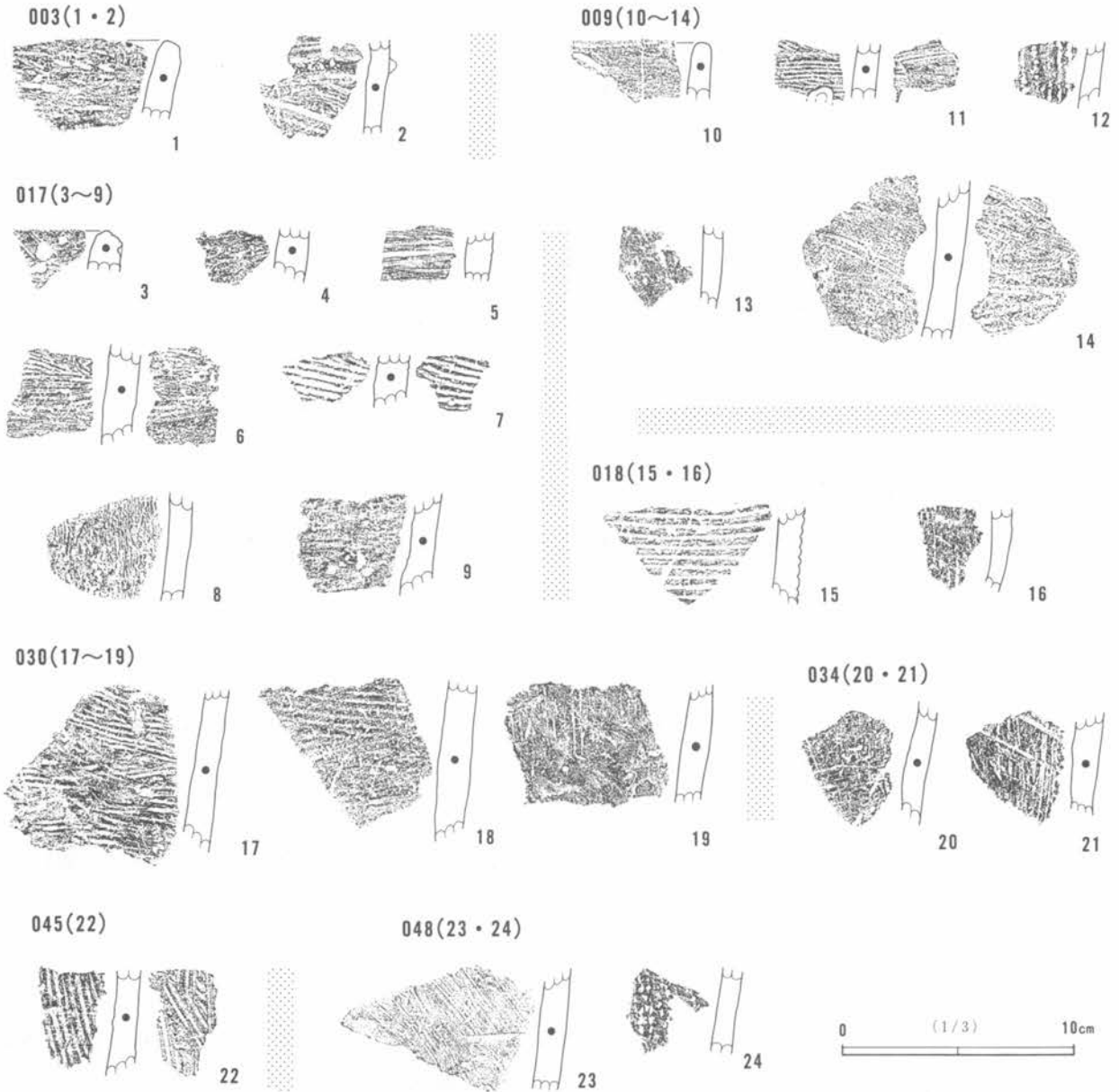
7F-44グリッド付近に位置する。平面形は隅丸長方形，長軸方向はN-12°-Eである。規模は長軸2.0m，短軸1.0mほどである。底面は段を有する播鉢状である。なお，遺物は検出されなかった。



第101図 土坑(2)

062号跡

6E-99グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある楕円形、長軸方向はN-15°-Wである。規模は長軸1.8m、短軸1.1mほどである。底面はほぼ平坦である。なお、遺物は検出されなかった。



第102図 土坑出土土器

4. 陥穴（遺構：第103～104図・図版22～24，遺物：第106図・図版50）

本調査区①，③及び④から14基が検出された。その分布は、炉穴及び土坑と異にし、台地上の斜面に面する台地の肩部や先端部に、間隔を開けながら配置されている。遺物は包含していないものが大半を占め、検出されているものもごく少量であることから、帰属時期に関しては不明確といわざるを得ない。しかし、土坑と同様に遺構外出土土器の量的傾向から、その多くを第Ⅲ群期として考えたい。比較的時期のはっきりとしている炉穴と重複しているものがないことも、その考えを補強するであろう。

013号跡

11D-86グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形、長軸方向はN-52°-Eである。規模は長軸2.2m、短軸0.8mほどである。横断面は逆台形状、底面はほぼ平坦である。なお、遺物は検出されなかった。

020号跡

12D-00グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形に近い不整形、長軸方向はN-31°-Eである。規模は長軸1.5m、短軸0.5m~0.6mほどである。縦断面は逆台形状、底面はほぼ平坦であるが、中央部に小ピットが検出された。小ピットの規模は、径8cm、深さ10cmほどである。

遺物は、第Ⅲ群第2類b種土器を1点(6.1g)検出した(第106図1)。

028号跡

12C-68グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-41°-Eである。規模は長軸1.4m、短軸1.0mほどである。縦断面は逆台形状をなすが、横断面を見ると、中央部が一段深くなっている。

遺物は、第Ⅰ群土器1点、第Ⅲ群第2類a種土器2点の計3点(46.2g)が検出された。本報告では2点を図示した(第106図3・4)。3は第Ⅰ群土器である。単節縄文LRが施文される。4は第Ⅲ群第2類a種土器である。外面には深い擦痕が、内面は丁寧なナデが施される。胎土には繊維を多く含む。

040号跡

10C-91グリッド付近に位置する。平面形は隅丸長方形、長軸方向はN-30°-Eである。規模は長軸2.0m、短軸0.5mほどである。縦・横断面とも逆台形状であり、底面は長軸両端がやや低くなる。なお、遺物は検出されなかった。

046号跡

12C-17グリッド付近に位置する。平面形は歪みの激しい楕円形、長軸方向はN-58°-Eである。規模は長軸1.7m、短軸0.8m~1.1mほどである。縦・横断面とも逆台形状であり、底面はほぼ平坦である。なお、遺物は検出されなかった。

050号跡

11B-07グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-35°-Eである。規模は長軸1.1m、短軸0.6mほどである。縦断面を見ると、南側は段を有しながら立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。なお、遺物は検出されなかった。

051号跡

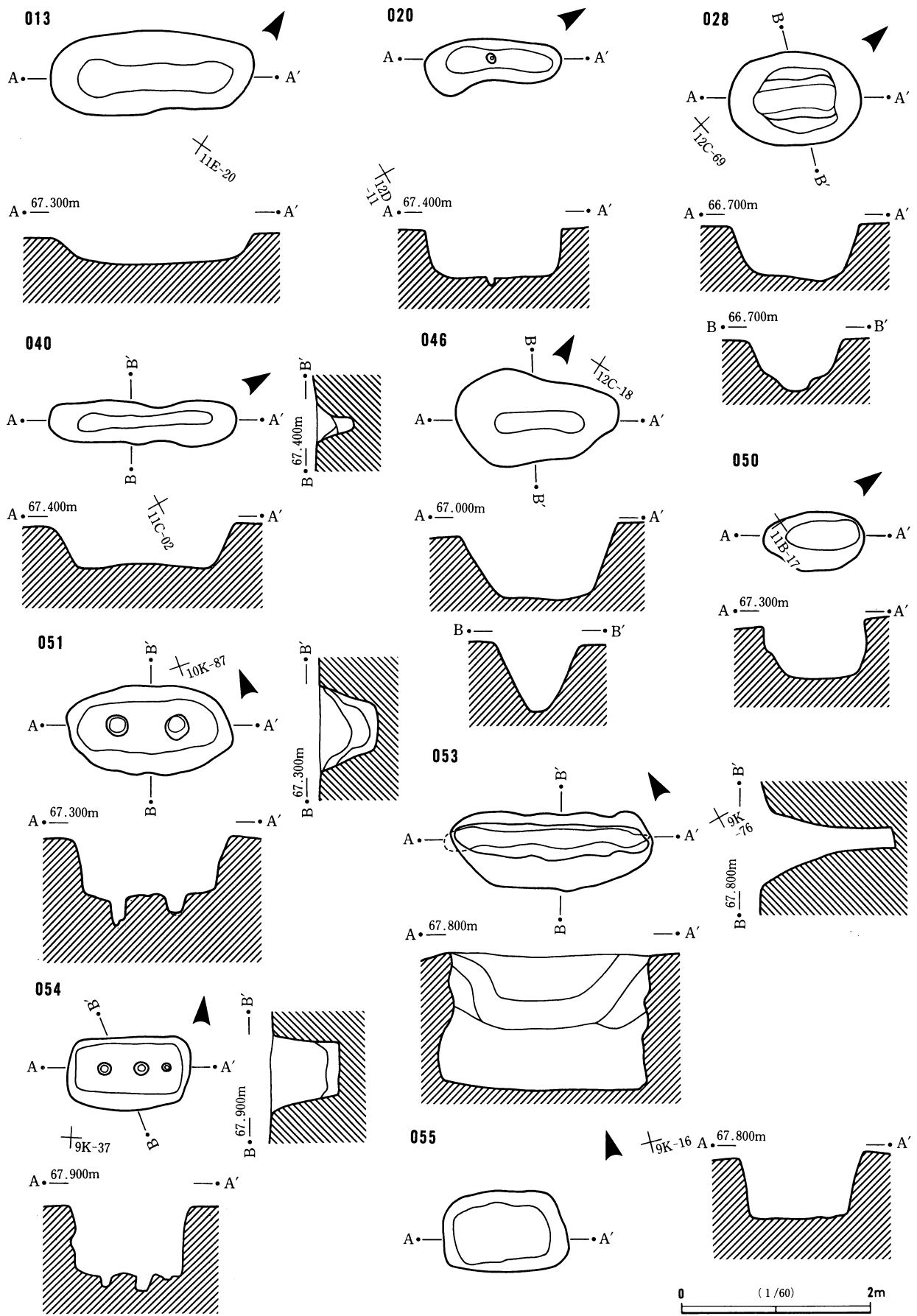
10K-86グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-70°-Wである。規模は長軸1.8m、短軸1.0mほどである。縦・横断面とも逆台形状をなすが、底面には2基のピットが構築されている。ピットの規模は、径20cm、深さ20cm~30cmほどである。なお、遺物は検出されなかった。

053号跡

9K-65グリッド付近に位置する。平面形は楕円形、長軸方向はN-63°-Wである。規模は長軸2.2m、短軸1.8mほどである。横断面はY字状をなし、床面の幅が約20cmと極端に狭くなる。縦断面をみると、両壁は凹凸がありながらもほぼ垂直に立ち上がっていく。なお、遺物は検出されなかった。

054号跡

9K-27グリッド付近に位置する。平面形は長方形、長軸方向はN-86°-Eである。規模は長軸1.3m、短軸0.8mほどである。壁の立上がりはいずれも垂直に近いものである。底面には3基のピットが、長軸方向に沿って配列されている。ピットの規模は、径7cm~15cm、深さ5cm~15cmほどである。なお、遺物



第103图 陷穴 (1)

は検出されなかった。

055号跡

9K-15グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある長方形，長軸方向はN-75°-Wである。規模は長軸1.3m，短軸0.9mほどである。縦断面形は逆台形状であり，底面はほぼ平坦である。なお，遺物は検出されなかった。

056号跡

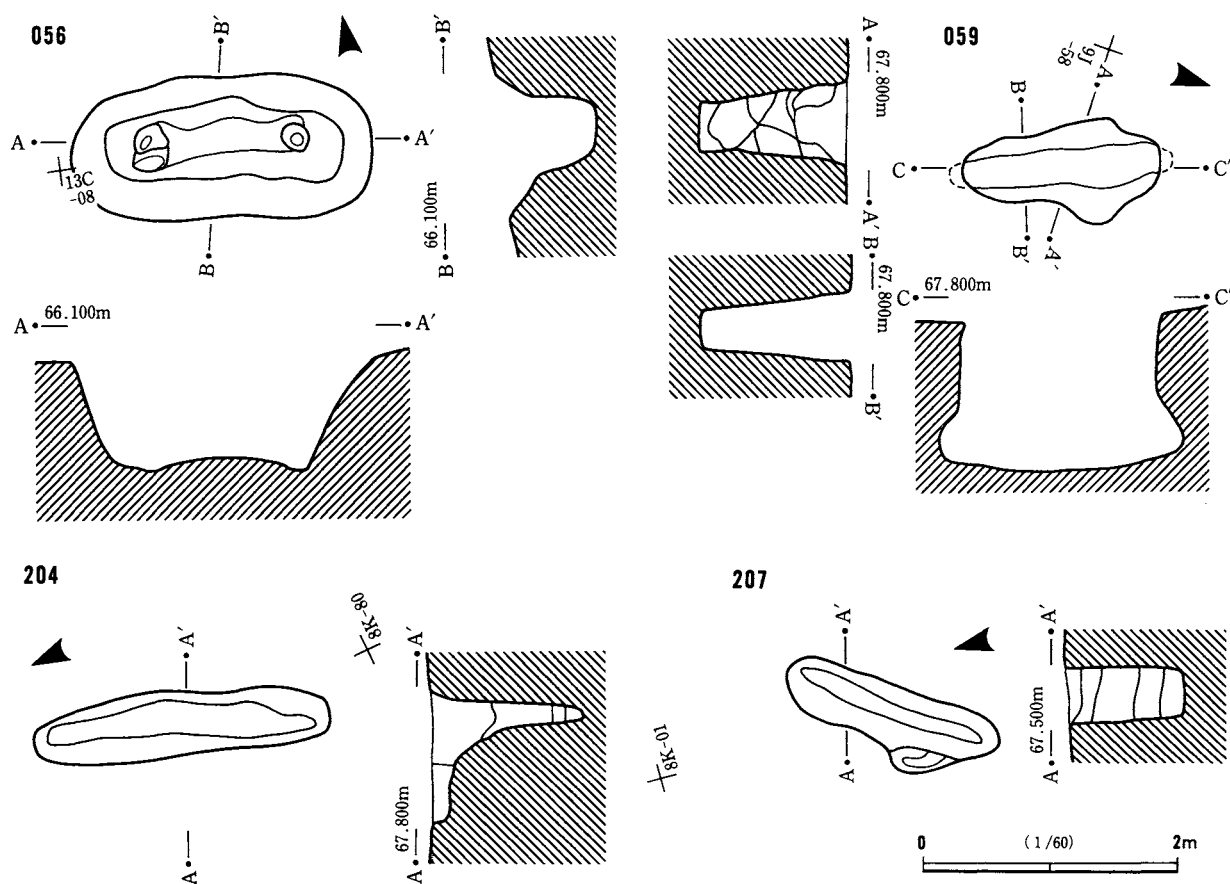
13C-08グリッド付近に位置する。平面形は隅丸長方形，長軸方向はN-78°-Wである。規模は長軸2.4m，短軸1.1mほどである。縦断面形はおおむね逆台形状であるが，底面の両端がピット状に浅く窪む。横断面は，上半から大きく外側へ開いている。なお，遺物は検出されなかった。

059号跡

9J-58グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある長楕円形，長軸方向はN-17°-Wである。規模は長軸1.6m，短軸0.5m~0.8mほどである。縦断面形は，底面付近が外側へ壁を抉っている。底面はほぼ平坦である。なお，遺物は検出されなかった。

204号跡

8K-70グリッド付近に位置する。平面形は隅丸長方形，長軸方向はN-19°-Eである。規模は長軸2.4m，短軸0.5mほどである。壁はいずれもほぼ垂直に立ち上がり，底面の幅は0.2m~0.3mほどである。なお，遺物は検出されなかった。



第104図 陥穴(2)

207号跡

8K-11グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形、長軸方向はN-33°-Eである。規模は長軸1.8m、短軸0.5mほどである。壁はいずれもほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

遺物は、第Ⅲ群2類a種土器が3点(43.9g)検出された。本報告では1点を図示した(第106図2)。2は内外面とも、擦痕の後にナデが施されている。胎土には繊維を多く含むが堅致な焼成である。

5. 溝状遺構(遺構:第105図・図版26, 遺物:第106図・図版50)

溝状遺構は、本調査区①から027号跡が、本調査区④から052号跡がそれぞれ検出された。帰属時期に関しては、遺構自体の性格もあり不明確である。しかし、調査区上層からは、縄文時代の遺構のみが検出されており、遺構外出土遺物も9割以上が縄文時代のものであることから、便宜的に本節で取り扱うこととした。

027号跡

11Eグリッドを中心として、斜面肩部の等高線に沿うように、南北方向にのびる形で検出された。掘込みは浅く、南北両端が途中で途切れてしまっている。

遺物は、第Ⅰ群土器1点、第Ⅲ群土器9点の計10点(229.9g)及び磨石片1点(23.6g)が検出された。本報告では8点を図示した(第106図5~12)。5は第Ⅰ群土器である。細かな撚糸Rが施文される。6・7・10・11は第Ⅲ群1類土器に分類される。6・10は、斜位の刻みを有する横位隆線が貼り付けられる。7は、口縁部に円形刺突文が施文される。刺突は内面で、突瘤状になっているが、いずれも貫通している。11は絡条体による波状条痕文が密に施文される。内面には、丁寧な擦痕が施されている。8・12は第Ⅲ群2類b種に分類され、外面に条痕が施されている。12の条痕は帯状となっている。9及び図示しなかった2点は第Ⅲ群2類a種のものであり、いずれも擦痕による器面調整が施されている。磨石片は、磨面の一部のみが残存し、赤化している。石材は砂岩である。

052号跡

本調査区④の西端部分、10Kグリッドを中心に検出された。西側の部分は、本調査区をはずれているため、その立上がりは確認していない。10K-40グリッド及び10K-92グリッド付近で西側へ曲がり、それぞれ斜面部へと続いている。横断面が段状をなしていることから、斜面肩部における台地整形の痕跡とも考えられる。なお、遺物は検出されなかった。

6. 石器集中地点(第108~110図, 第19表, 図版48)

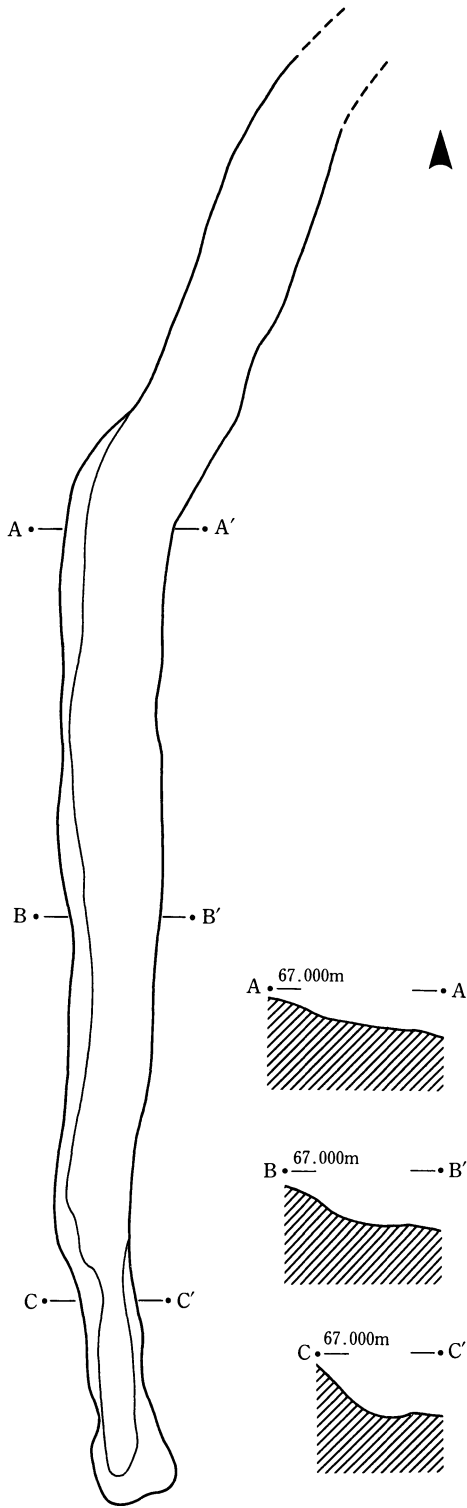
9E-22グリッド及び9E-73グリッド付近に、黒曜石の碎片及び剥片が集中している地点を検出した。遺構と思われる掘込みは、伴っていない。後述するが、12Cグリッドから12Dグリッドにかけても碎片及び剥片がまとまって出土しているところが認められる。しかし、こちらの方がより狭い範囲に、量的にまとまった状態にあることから、縄文時代の「石器集中地点」として、遺構と同様に扱うこととした。

石器集中地点①

9E-21グリッドから9E-32グリッドにかけて、直径約4mの範囲内を中心として検出された。石器類は全て黒曜石であり、剥片18点、碎片130点、使用痕ないし二次加工痕のある剥片(U・R-fl)3点、石鏃(完成品)1点、石鏃(欠損品・未製品)3点、という組成である。なお、碎片・剥片は、その大半が押圧剥離されたものであることから、石鏃の製作を行っていた痕跡と考える。なお、この周辺からは若干の土器片が検出されているが、その全てが第Ⅲ群に分類されるものである。

027

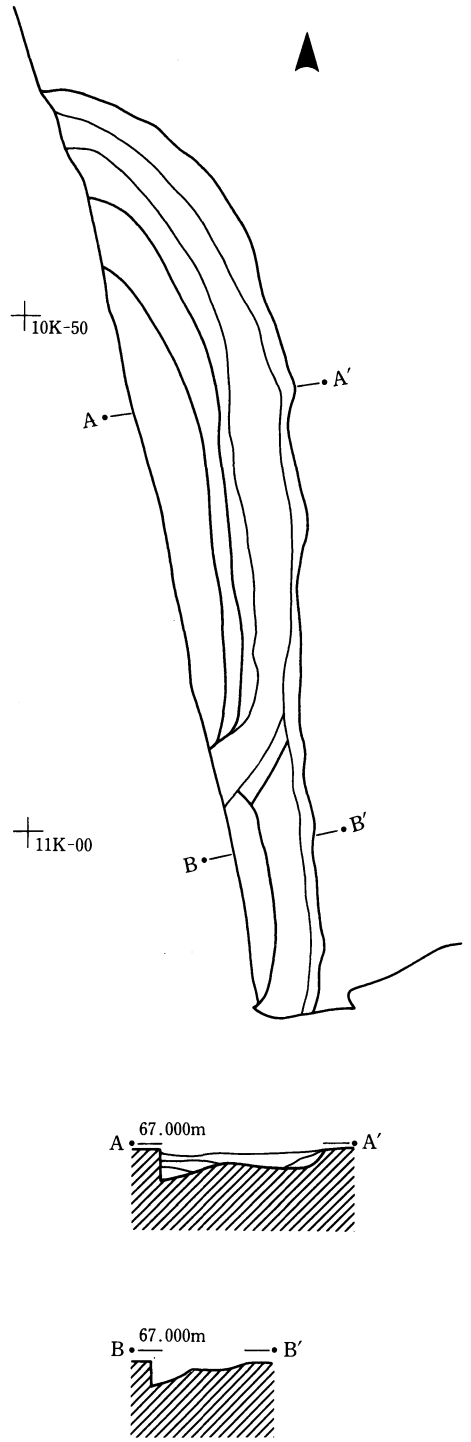
+11E-00



052

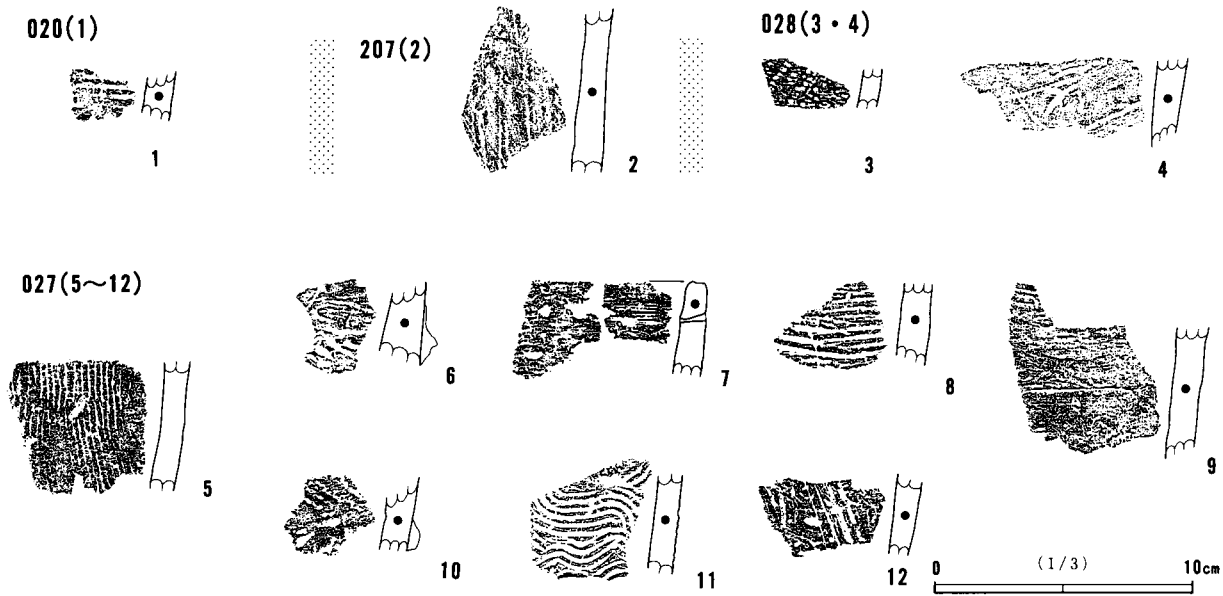
+10K-50

+11K-00

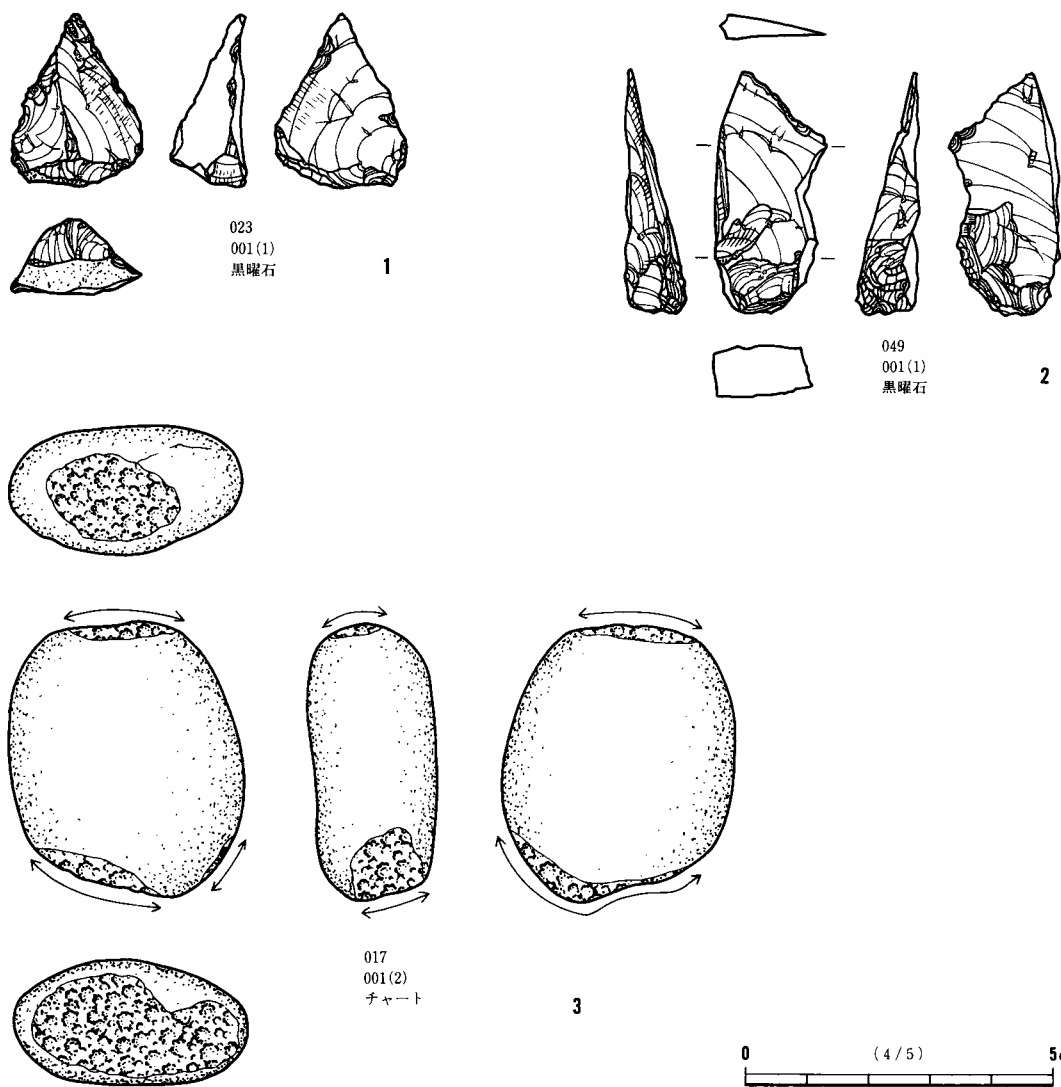


0 (1/150) 5m

第105図 溝状遺構



第106図 陥穴及び溝状遺構出土土器



第107図 炉穴・土坑出土石器

第18表 遺構出土石器

図 No.	遺構名	遺物 No.	器種	石材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	備考
		002	剥片	黒曜石	0.6	0.6	0.1	0.05	
		002	剥片	黒曜石	0.6	0.4	0.1	0.02	
		004	剥片	黒曜石	0.9	1.7	0.3	0.36	
		011	剥片	黒曜石	1.7	0.7	0.2	0.21	
		011	砕片	黒曜石	0.7	0.9	0.2	0.13	
		016	剥片	黒曜石	1.3	2.4	0.4	0.96	
		016	剥片	黒曜石	1.3	1.5	0.5	0.59	
		017	剥片	黒曜石	1.7	1.5	0.5	1.68	
第107図3		017	敲石	チャート	4.5	3.8	2.0	53.82	
		019	剥片	黒曜石	1.6	2.0	0.4	0.66	
		020	剥片	安山岩	2.6	2.2	1.7	9.02	
第107図1		023	U・R-fl	黒曜石	2.8	2.2	1.3	4.43	
		023	剥片	黒曜石	2.3	1.8	0.4	1.16	
		031	砕片	黒曜石	1.0	0.9	0.2	0.15	
		031	砕片	黒曜石	0.8	0.4	0.1	0.03	
		032	剥片	黒曜石	1.5	2.2	1.4	2.07	
		032	剥片	黒曜石	1.9	1.6	0.4	0.83	
		032	剥片	黒曜石	2.0	1.5	0.4	0.71	
		033	削器	黒曜石	2.2	1.8	0.6	2.05	
		043	剥片	黒曜石	4.3	1.4	0.7	3.56	
第107図2		049	U・R-fl	黒曜石	3.9	1.7	0.9	5.62	
		049	剥片	黒曜石	1.0	1.7	0.4	0.62	

本報告では、この周辺から検出された土器5点及び石器類4点を図示した(第110図1～5・10～13)。1～5は第Ⅲ群土器である。1は1類に、2・3・5は2類a種に、4は2類b種にそれぞれ細分される。1は口縁部に、半截竹管を用いた斜め方向からの刺突列が施文されている。器面は、内外面とも擦痕が顕著である。2・3は、擦痕の後に丁寧なナデが施される。4は、外面に丁寧な擦痕が施され、平滑であるのに対し、内面には深い条痕が施されている。5は卵形の底部である。外面には使用による二次焼成の痕跡が観察でき、器表面は荒れている。10～13は黒曜石製の石器である。10は石鏃である。基部の抉りは、弧状をなしてごく浅く、側辺は直線的である。いわゆる平基無茎鏃に分類される。11～13は、使用痕ないし二次加工痕のある剥片(U・R-fl)である。12は、打点を除去した縦長の剥片を素材とする。背面左側縁部に使用の結果と思われる微細な剥離痕が認められる。13は側面で、大きくはじけた剥片を利用し、側縁部に二次加工を施す。

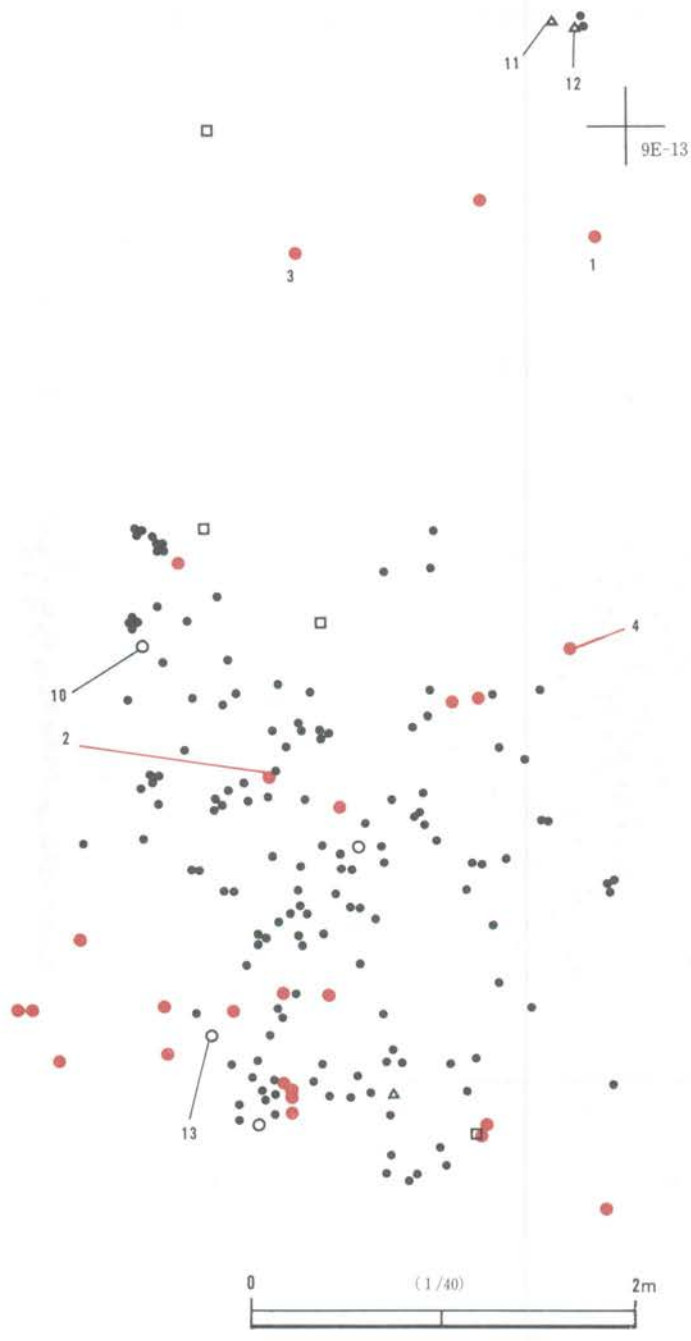
石器集中地点②

9E-63グリッドから9E-64グリッドにかけて、直径約1.5mの範囲内を中心として検出された。石器類は全て黒曜石であり、石鏃未製品1点、剥片9点及び砕片98点が出土した。なお、砕片・剥片は、その大半が押圧剥離されたものである。従って、集中地点①と同様に、石鏃の製作を行った痕跡と考えたい。なお、この周辺からは若干の土器片が検出されているが、その全てが第Ⅲ群に分類されるものである。

本報告では、この周辺から出土した土器4点及び石器類2点を図示した(第110図6～9・14・15)。6～9は第Ⅲ群土器である。7・8は同一個体である。擦痕が施された器面に、縦位沈線が施されている。1類に分類されるが、文様構成は不明である。6・9は擦痕のみで、文様は見られない。2類a種に分類される。9の口縁部はわずかに凹み、横位沈線状になっている。だが、施文後に擦痕調整が行われるため、沈線部の境界線は明確でなく、果たして文様となるものか疑問である。14は石鏃未製品である。不純物が

9E-11

9E-13



9E-41

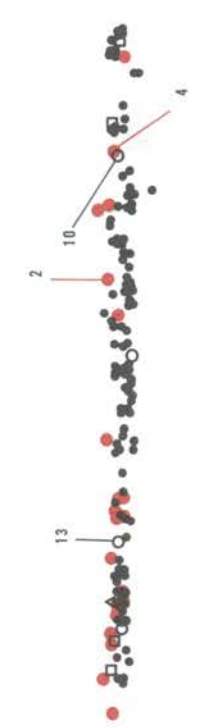
0 (1/40) 2m

● 剥片
○ 石鏃 ▲ U·R-fl □ 碟 ● 土器

9E-11

9E-13

9E-41

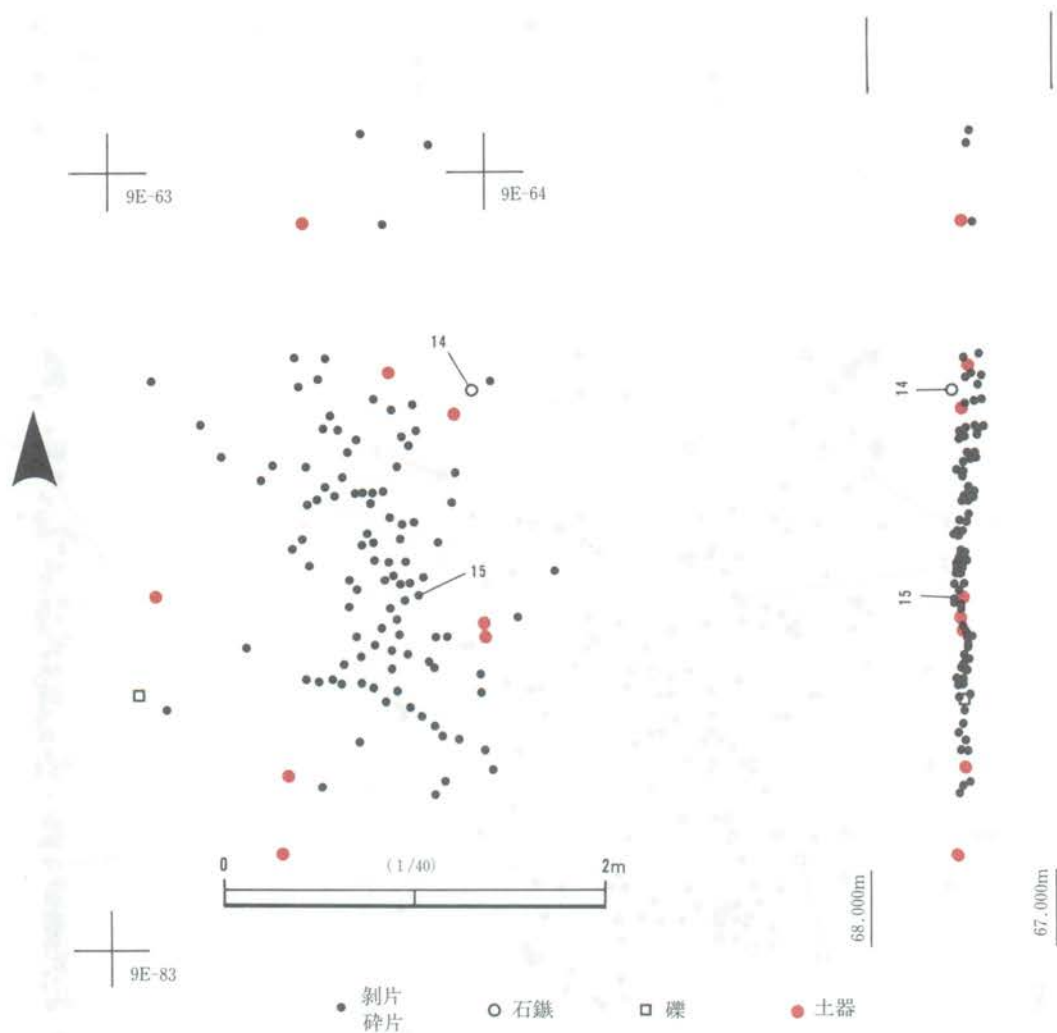


68.000m

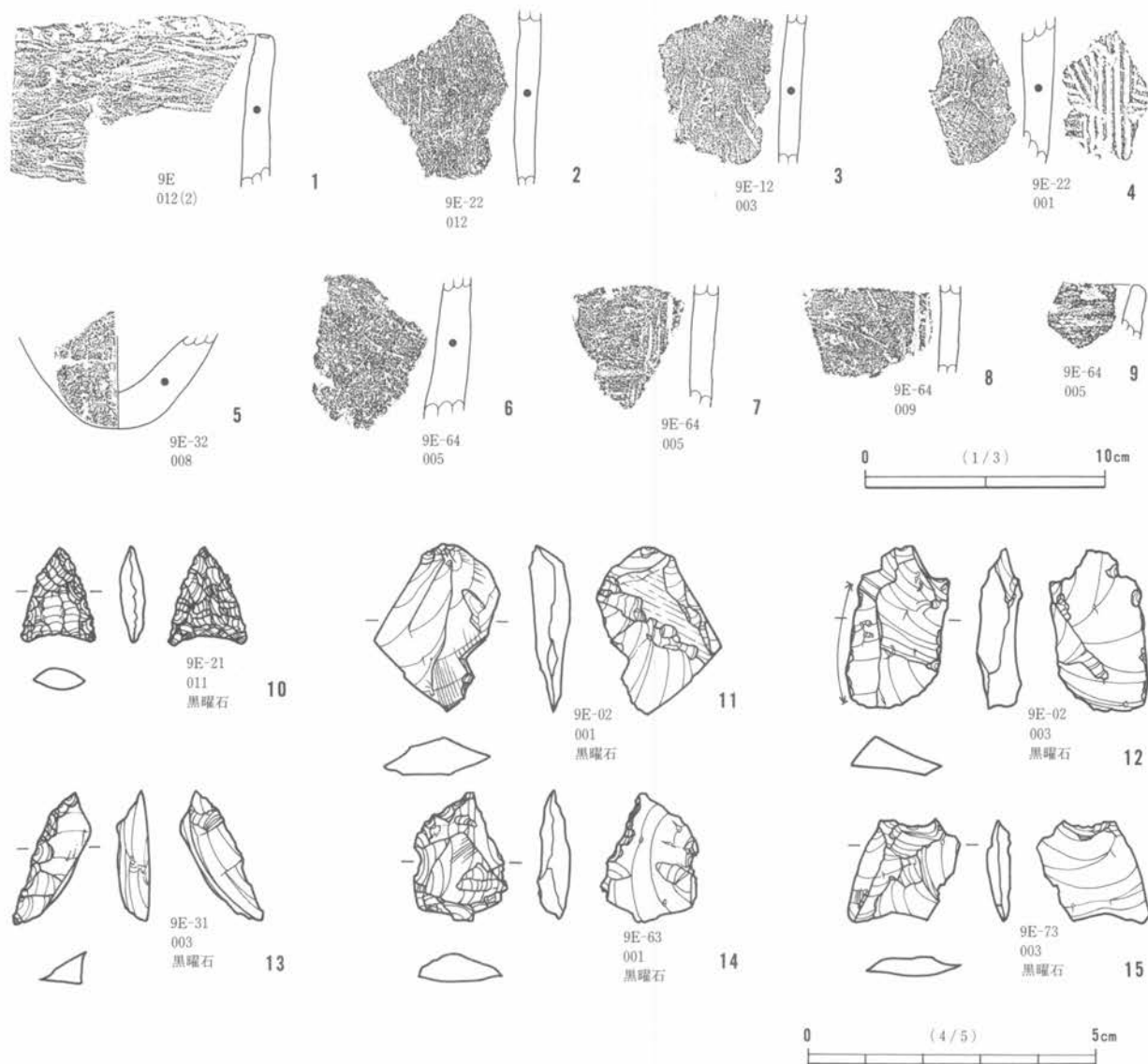
67.000m

第108図 縄文時代石器集中①

少量見られるが、おおむね良質な黒曜石を用いている。横長の剥片を用い、背面左側縁は腹面側から、右側縁は背面側からそれぞれ調整を施し、先端部を尖状に加工している。しかし、背面左側縁下半部の剥離は、激しい蝶番状剥離（Hinge fracture）となり、製作途中で廃棄したものと考えられる。15は剥片である。14と同一母岩の黒曜石と思われる。剥離の際に、打点のはじけてしまっている。周縁部には、二次加工ないし使用痕は認められない。



第109図 縄文時代石器集中②



第110図 縄文時代石器集中出土遺物

第19表 縄文時代石器集中地点出土石器

図 No	遺構名	グリッド	遺物 No.	器種	石材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	折れ	打点	備考
第110図10	石器集中地点①	9E-21	011	石鏃(完形)	黒曜石	1.7	1.3	0.4	0.71	×	-	
	石器集中地点①	9E-22	021	石鏃(碎片)	黒曜石	(0.7)	(0.8)	(0.3)	0.13	○	-	
	石器集中地点①	9E-32	021	石鏃(碎片)	黒曜石	0.5	1.0	0.7	0.15	○	-	
第110図11	石器集中地点①	9E-02	001	U・R-f1	黒曜石	2.5	1.9	0.7	3.27	○	×	
第110図12	石器集中地点①	9E-02	003	U・R-f1	黒曜石	2.8	1.6	1.1	3.15	○	×	
第110図13	石器集中地点①	9E-31	003	U・R-f1	黒曜石	-	-	-	0.96	○	×	
	石器集中地点①	9E-32	018	U・R-f1	黒曜石	0.9	1.8	0.3	0.43	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	048	U・R-f1	黒曜石	1.6	2.0	0.4	0.73	○	×	
石器集中地点①	9E-32	008	剥片	黒曜石	0.9	2.5	0.6	0.48	×	×		
石器集中地点①	9E-32	012	剥片	黒曜石	0.9	2.1	1.0	1.48	×	×		
石器集中地点①	9E-02	017	剥片	黒曜石	1.1	1.7	0.4	0.83	×	×		
石器集中地点①	9E-02	002	剥片	黒曜石	-	-	-	0.05	○	×		
石器集中地点①	9E-21	004	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×		
石器集中地点①	9E-21	001-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.04	×	○		
石器集中地点①	9E-21	001-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×		
石器集中地点①	9E-21	001-3	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	○	×		
石器集中地点①	9E-21	002	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	○		

(第19表 続き)

図 No	遺構名	グリッド	遺物 No	器種	石材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	折れ	打点	備考
	石器集中地点①	9E-21	003-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	×	○	
	石器集中地点①	9E-21	003-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	○	×	
	石器集中地点①	9E-21	003-3	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	003-4	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	005	碎片	黒曜石	-	-	-	×	○	×	
	石器集中地点①	9E-21	007	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点①	9E-21	008	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	○	×	
	石器集中地点①	9E-21	009	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	×	○	
	石器集中地点①	9E-21	010-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	×	○	
	石器集中地点①	9E-21	010-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	○	×	
	石器集中地点①	9E-21	010-3	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	012	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	○	
	石器集中地点①	9E-21	013	碎片	黒曜石	1.1	0.7	0.3	0.18	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	014	碎片	黒曜石	1.2	0.8	0.2	0.19	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	015	碎片	黒曜石	1.1	0.9	0.5	0.36	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	016	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	017	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	018	碎片	黒曜石	-	-	-	0.14	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	019-1	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点①	9E-21	019-2	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	019-3	碎片	黒曜石	-	-	-	×	-	-	
	石器集中地点①	9E-21	020	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	021	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	×	○	
	石器集中地点①	9E-21	022-1	碎片	黒曜石	1.4	0.7	0.2	0.12	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	022-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	023	碎片	黒曜石	-	-	-	0.08	○	×	
	石器集中地点①	9E-21	024	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	025-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	025-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×	
	石器集中地点①	9E-21	025-3	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	×	○	
	石器集中地点①	9E-21	026	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	○	×	
	石器集中地点①	9E-21	027-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	027-2	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	003	碎片	黒曜石	1.0	1.3	0.3	0.26	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	004	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	006	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	008-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.09	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	008-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	009	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	○	○	
	石器集中地点①	9E-22	010	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	011-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	011-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	011-3	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	013	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	014	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	015	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03			
	石器集中地点①	9E-22	016	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	017	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	○	○	
	石器集中地点①	9E-22	018-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	018-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	019	碎片	黒曜石	-	-	-	0.08	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	020	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	022-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.08	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	022-2	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	023	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	024	碎片	黒曜石	-	-	-	×	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	026	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	027-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	027-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	028	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	029-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	029-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	030	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	031-1	碎片	黒曜石	1.3	0.7	0.2	0.12	×	○	

(第19表 続き)

図 No.	遺構名	グリッド	遺物 No.	器種	石材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	折れ	打点	備考
	石器集中地点①	9E-22	031-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	031-3	碎片	黒曜石	-	-	-	0.12	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	031-4	碎片	黒曜石	-	-	-	0.04	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	032-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	033-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.04	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	035-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	036-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	037-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02			
	石器集中地点①	9E-22	038-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02			
	石器集中地点①	9E-22	039	碎片	黒曜石	-	-	-	×			
	石器集中地点①	9E-22	040	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	○	○	
	石器集中地点①	9E-22	041	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	042	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	×	×	
	石器集中地点①	9E-22	043	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	044	碎片	黒曜石	-	-	-	0.09	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	046	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	047	碎片	黒曜石	-	-	-	×	○	×	
	石器集中地点①	9E-22	049	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	×	○	
	石器集中地点①	9E-22	050	碎片	黒曜石	-	-	-	0.09	×	×	
	石器集中地点①	9E-31	005	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点①	9E-31	006	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	○	
	石器集中地点①	9E-31	009	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-31	014	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	×	○	
	石器集中地点①	9E-32	001	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	○	×	
	石器集中地点①	9E-32	001	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	○	○	
	石器集中地点①	9E-32	002	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	003	碎片	黒曜石	-	-	-	0.08	×	○	
	石器集中地点①	9E-32	003	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	004	碎片	黒曜石	-	-	-	0.10	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	005	碎片	黒曜石	-	-	-	0.08	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	005	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	006	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	007	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	○	
	石器集中地点①	9E-32	009	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	○	×	
	石器集中地点①	9E-32	010	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	○	×	
	石器集中地点①	9E-32	011	碎片	黒曜石	1.0	0.5	0.2	0.11	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	014	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	015	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	016	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	019	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	022	碎片	黒曜石	1.5	0.9	0.2	0.13	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	023	碎片	黒曜石	1.0	1.0	0.2	0.17	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	024	碎片	黒曜石	1.2	0.6	0.3	0.21	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	025	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	026	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点①	9E-32	027	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	○	×	
	石器集中地点①	9E-32	032	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	033	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	034	碎片	黒曜石	1.0	1.1	0.2	0.12	×	○	
	石器集中地点①	9E-32	035	碎片	黒曜石	1.0	0.7	0.2	0.08	○	○	
	石器集中地点①	9E-32	036	碎片	黒曜石	1.1	0.7	0.2	0.09	×	○	
	石器集中地点①	9E-32	037	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	038-1	碎片	黒曜石	1.0	1.2	0.5	0.44	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	038-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.08	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	041	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	○	×	
	石器集中地点①	9E-32	042	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	043	碎片	黒曜石	-	-	-	0.08	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	044	碎片	黒曜石	-	-	-	0.04	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	045	碎片	黒曜石	-	-	-	0.04	×	○	
	石器集中地点①	9E-32	046	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	047	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	048-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	048-2	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	049	碎片	黒曜石	-	-	-	0.12	×	○	

(第19表 続き)

図 No	遺構名	グリッド	遺物 No	器種	石材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	折れ	打点	備考
	石器集中地点①	9E-32	050	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	051	碎片	黒曜石	-	-	-	0.08	×	○	
	石器集中地点①	9E-32	052	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点①	9E-32	054	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	×	○	
	石器集中地点①	9E-32	055	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	○	○	
	石器集中地点①	9E-44	001-1	碎片碎片	黒曜石	-	-	-	0.10	×	×	
	石器集中地点①	9E-44	001-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-44	001-3	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	○	×	
	石器集中地点①	9E-52	001-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.09	×	×	
	石器集中地点①	9E-52	001-2	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点①	9E-53	001	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点①	9E-53	002	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	×	
	石器集中地点①	9E-54	001	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	×	×	
	石器集中地点①	9E-11	001	礫								
	石器集中地点①	9E-21	006	礫								
	石器集中地点②	9E-22	005	礫								
	石器集中地点②	9E-31	010	礫								
	石器集中地点②	9E-32	028	礫								
第110図14	石器集中地点②	9E-63	001	石鏃未製品	黒曜石	1.9	2.2	0.5	1.70	×	○	
	石器集中地点②	9E-64	002	剥片	チャート	1.2	1.1	0.7	1.02	×	×	
第110図15	石器集中地点②	9E-73	003	剥片	黒曜石	1.9	1.6	0.4	1.05	○	×	
	石器集中地点②	9E-73	042-1	剥片	チャート	1.8	0.9	0.5	0.92	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	042-2	剥片	チャート	0.9	0.5	0.3	0.13	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	004	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	005	碎片	黒曜石	-	-	-	0.04	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	003	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	007	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	008	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	009	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	010	碎片	黒曜石	-	-	-	0.09	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	011	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	012	碎片	黒曜石	-	-	-	×	○	×	
	石器集中地点②	9E-63	013	碎片	黒曜石	-	-	-	0.09	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	014	碎片	黒曜石	-	-	-	0.09	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	015	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	017	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	019	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	021	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	022	碎片	黒曜石	-	-	-	×	○	×	
	石器集中地点②	9E-63	023	碎片	黒曜石	-	-	-	×	○	×	
	石器集中地点②	9E-63	023	碎片	黒曜石	-	-	-	×	○	×	
	石器集中地点②	9E-63	024	碎片	黒曜石	-	-	-	0.04	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	027	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	028	碎片	黒曜石	-	-	-	0.12	○	×	
	石器集中地点②	9E-63	029	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	030-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	031-2	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	032	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	034	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	035	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	036	碎片	黒曜石	1.2	0.7	0.2	0.12	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	037	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	038	碎片	黒曜石	-	-	-	×	○	×	
	石器集中地点②	9E-63	039	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	040	碎片	黒曜石	-	-	-	0.01	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	041	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	042	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	043	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	044	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	045	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	046	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	047	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	048	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	049	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	○	

(第19表 続き)

図 No	遺構名	グリッド	遺物 No.	器種	石材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	折れ	打点	備考
	石器集中地点②	9E-63	050	碎片	黒曜石	-	-	-	0.14	×	○	
	石器集中地点②	9E-63	051	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	○	×	
	石器集中地点②	9E-63	052	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	053	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×	
	石器集中地点②	9E-63	054	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-64	007	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	○	
	石器集中地点②	9E-64	008	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	001	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	002-1	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	002-2	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	006	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	007	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	008	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	009	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	010	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	011	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	012	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	013	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	014	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	015	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	016	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	017	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	018	碎片	黒曜石	-	-	-	0.11	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	019	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	024	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	028	碎片	黒曜石	0.8	1.1	0.2	0.10	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	029	碎片	黒曜石	-	-	-	0.05	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	030	碎片	黒曜石	-	-	-	×	-	-	
	石器集中地点②	9E-73	031	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	032	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	○	×	
	石器集中地点②	9E-73	033	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	035	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	○	×	
	石器集中地点②	9E-73	037	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	038	碎片	黒曜石	-	-	-	0.09	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	039	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	041	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	043	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	044	碎片	黒曜石	1.1	0.8	0.2	0.16	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	045	碎片	黒曜石	-	-	-	0.03	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	046	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	047	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	048	碎片	黒曜石	-	-	-	0.06	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	049	碎片	黒曜石	0.7	0.8	0.2	0.08	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	051	碎片	黒曜石	1.3	1.1	0.2	0.17	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	052	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	053	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	054	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	055	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	056	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	057	碎片	黒曜石	-	-	-	×	○	×	
	石器集中地点②	9E-73	058	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-73	059	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	060	碎片	黒曜石	-	-	-	×	-	-	
	石器集中地点②	9E-73	061	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-73	062	碎片	黒曜石	-	-	-	×	-	-	
	石器集中地点②	9E-73	063	碎片	黒曜石	-	-	-	0.07	○	○	
	石器集中地点②	9E-73		碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-74	001	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	○	
	石器集中地点②	9E-74	002	碎片	チャート	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-74	003	碎片	チャート	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-74	004	碎片	黒曜石	-	-	-	0.02	○	○	
	石器集中地点②	9E-74	005	碎片	黒曜石	-	-	-	×	×	×	
	石器集中地点②	9E-64	004		礫							
	石器集中地点②	9E-73	025		礫							

7. 遺構外出土遺物

(1) 土器 (第111～124図, 図版51～63)

分類基準

ヤジ山遺跡では、縄文時代早期を中心として、遺構外の調査区から多数の土器が検出された。量的にもまとまり、時期的にも複数期にわたることから、本報告ではその説明を簡略化するために、一定の分類基準を設けることとした。以下に、その基準を示す。

第Ⅰ群 縄文時代早期初頭のいわゆる撚糸文土器を一括した。

第Ⅱ群 縄文時代早期前葉の田戸下層式土器を一括した。

第Ⅲ群 縄文時代早期中葉の田戸上層式(終末期)から子母口式にかけての土器を一括した。本遺跡出土の土器群の主体を占める。特記したものを除き、いずれも胎土は繊維を含んでいる。文様の有無及び要素並びに器面調整の種類によって、以下のように細分を行った。

1類 有文のものを一括した。口唇部の刻みなど、本来は文様とならないものも便宜上ここに含めている。文様要素の種類により、さらに細分した。

a種 隆線文を主体とするもの。

b種 刺突文・沈線文を主体とするもの。

c種 円孔文を主体とするもの。

d種 絡条体圧痕文を主体とするもの。

2類 無文のものを一括した。器面調整の種類により、さらに細分した。

a種 擦痕調整によるもの。

b種 条痕調整によるもの。

第Ⅳ群 縄文時代前期～後期の土器を一括した。

1類 前期の土器。

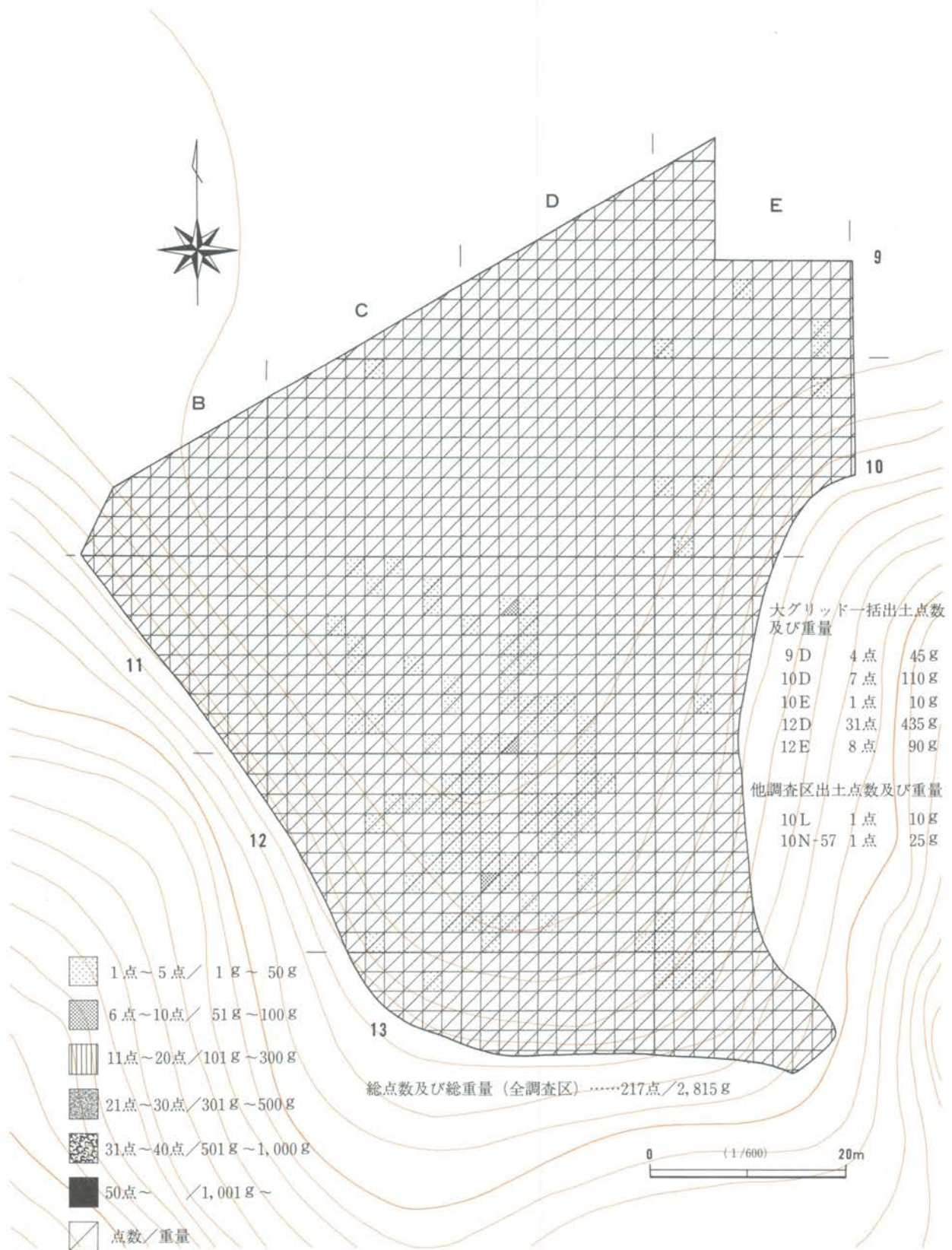
2類 後期の土器。

第Ⅰ群土器 (第111・112図, 図版51)

第Ⅰ群土器は217点(2,815g)検出された。分布は、その大半が本調査区①にあり、台地先端部の11C・11D・12C・12Dの各グリッドに集中する傾向がある(第111図)。本報告では、41点を図示した(第112図)。

1～4は井草2式土器である。1・3は口縁部が肥厚し、口端部及び口縁部の縄文帯の下に、無文帯を形成する。典型的な井草2式の特徴を有する。2は口縁部付近で大きく外反し、口唇部が平坦となり、口縁部以下に明確な無文帯を形成しないものである。4は口縁部が肥厚せず、口縁部に縄文帯を形成し、明確な無文帯を持たないまま胴部にも縄文を施文している。

8～10・15・31は、夏島式土器である。口唇部は、無文で丁寧なナデ調整が施され、口縁部はやや肥厚する。また、口縁部から胴部にかけての施文域は、単一となっている。8～10は、縦位の単節縄文が密に施文される。15は、口縁部にある幅1cmほどの無文域を挟んで、単節縄文が施文される。31はやや薄い器壁で、撚糸文Rが密に施文される。



第111図 第I群(撚糸文)土器出土分布

11～14・16～30・32～36は、稻荷台式土器及び稻荷原式に相当する資料である。11～14は、口唇部は無文で、やや肥厚する口縁部から胴部にかけて、粗大な単節縄文が浅く施文されるものである。11は縄文施文後、ナデが軽く加えられるため、単節縄文が部分的に磨り消されている。16は、わずかに肥厚する口縁部のみに、幅1cmほどの単節縄文が施文される。17は、口縁部に幅1cmほどの単節縄文RLが、胴部に単節縄文LRが施文され、羽状構成となっている。口唇部は丁寧にナデ調整され、口縁部はやや肥厚する。18は、口縁部から粗大な単節縄文が施文された後、口縁部下に幅1cmほどの横位のナデが器面を抉るように加えられ、無文域となる。さらに、胴部の縄文施文域に軽いナデが施されるため、縄文が不鮮明なものとなっている。19・20・22・23は、口縁部から胴部にかけて、ややまばらな撚糸文Rが施文されるものである。いずれも口縁部は肥厚し、口唇部はナデ調整される。なお、20の口唇部は、わずかな凹凸を持ち、平坦面が形成されている。23の撚糸文は、器面に強く押しつけて回転しており、深い施文となっている。21は、口縁部が肥厚する無文の個体である。口唇部は丁寧にナデ調整され、口縁部下には指頭圧痕が顕著である。24～30・32～34は口縁部が肥厚せず、口縁部から撚糸文が施文されるものである。25・27・28は、やや密な撚糸文Rが斜位に施文される。24は、条が細く、まばらな撚糸文Rが施文される。26は撚糸文Rが、単位の間隔を開けて施文される。口縁部には軽いナデが加えられ、撚糸文が部分的に磨り消されている。29・30は、同一個体である。まばらな撚糸文Lが、斜位に施文される。器表面は摩耗が激しく、撚糸文が判然としない部分もある。32は、まばらな撚糸文Rが施文される。口縁部付近の回転は、条が2cm程度になったところで一旦止め、0.8cm程度の間隔を開けて、再び施文を開始している。33は比較的密な撚糸文Rが、縦位ながらやや羽状になるように施文されている。35・36は、節が粗大な撚糸文Rが口縁部から斜方向に施文された後、口縁部下に横位の絡条体圧痕文が施される。器面は、丁寧なナデ調整が施され、平滑である。

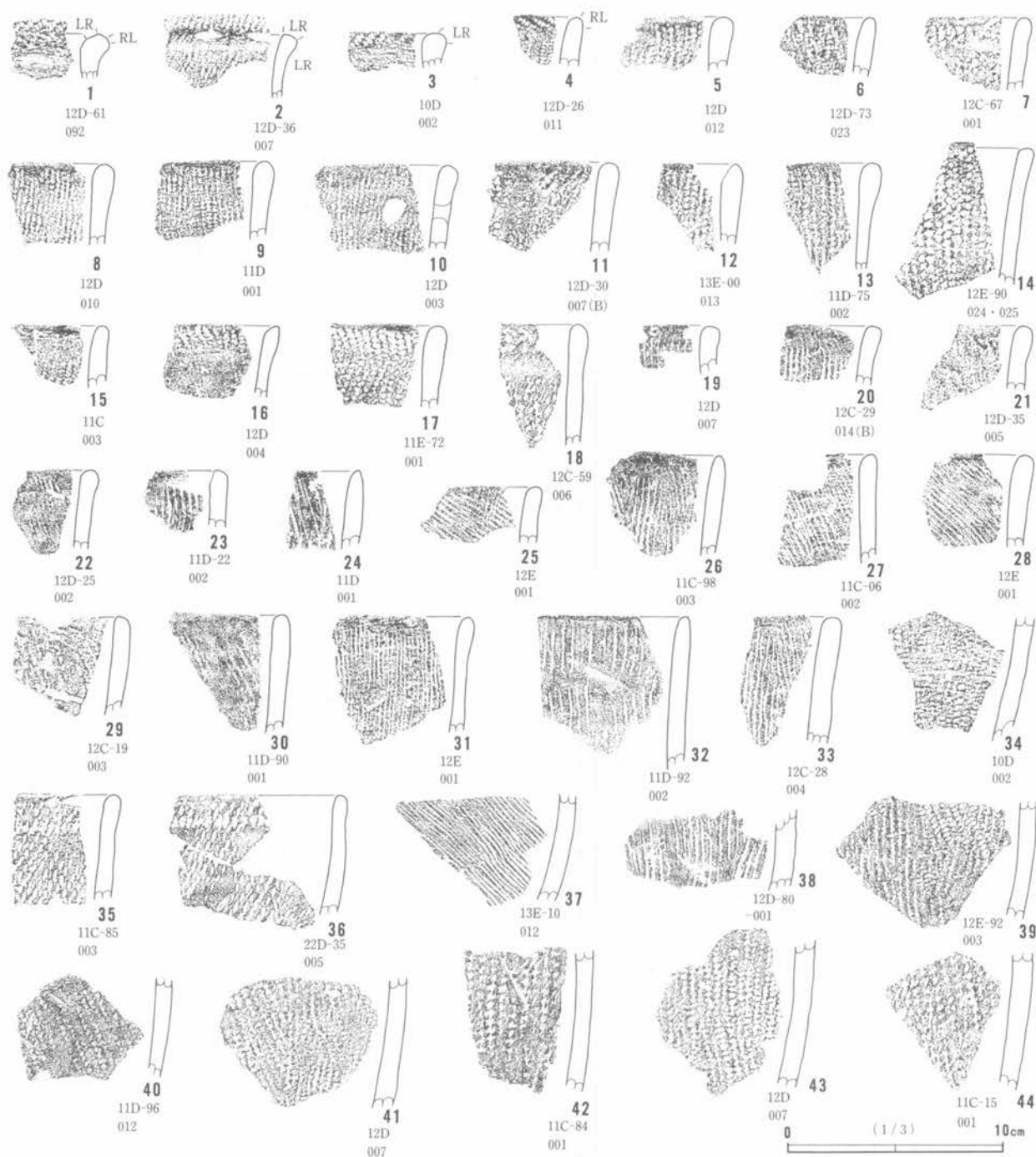
34・37～44は胴部破片である。34・39・41・43は縄文、他は撚糸文が施文されている。37は節の細かで密な撚糸文が、斜位に施文されている。44は、節が粗大な撚糸文である。

第II群土器（第113・114図、図版52）

本群土器は、大部分が本調査区①から検出された。第I群土器よりも数量は減少するが、分布の中心を台地のやや中央部付近へと移している（第113図）。本報告では、32点を図示した（第114図）。

1～3・5～7は細沈線文のみが施文されている。1・2は口縁部に、深い横位沈線が施される。2の口唇部の外面側端部には、丸棒状工具による浅い押圧が施されているようであるが、器表面が荒れているため明確でない。3は口縁部から胴部にかけて、非常に浅い沈線が斜位～横位に施文されている。5・6は同一個体である。残存部位が少なく、器形復元はできないものの、口縁部の湾曲具合から口径10cm前後の小型土器と思われる。丁寧なナデにより、平滑で光沢を持つ器面に、細かな格子目状文が施文される。7の器壁は厚く、大きな格子目状文が施文される。

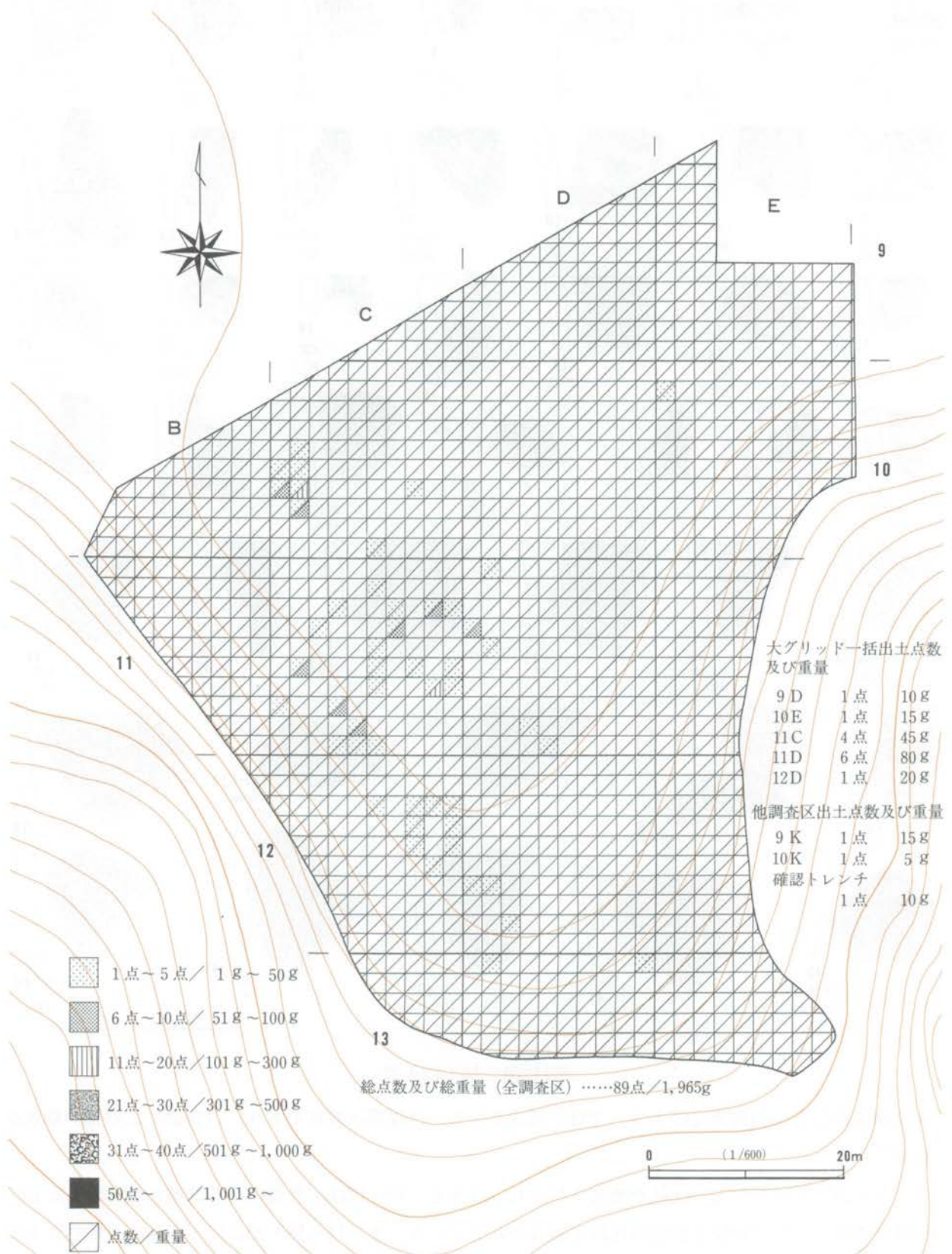
4・27・29～31は細沈線文と貝殻腹縁文により文様が構成されている。いずれも胎土に砂粒を多く含み、特に白色の長石粒が目立つ。4は口唇部に斜位の細沈線が施文される。27は底部近くの破片である。破片上部に粗雑な貝殻腹縁文が施文され、その下に横位多段の集合沈線が見られる。29は2本一組の細沈線で、鋸歯状区画を構成し、空白部に貝殻腹縁文が充填される。破片上部には、横位の細沈線間に円形刺突文も施文されている。横位区画を意図したものと考えられる。30・31は同一個体である。単沈線を鋸歯状に施文後、沈線間に貝殻腹縁文を充填する。



第112図 第I群土器

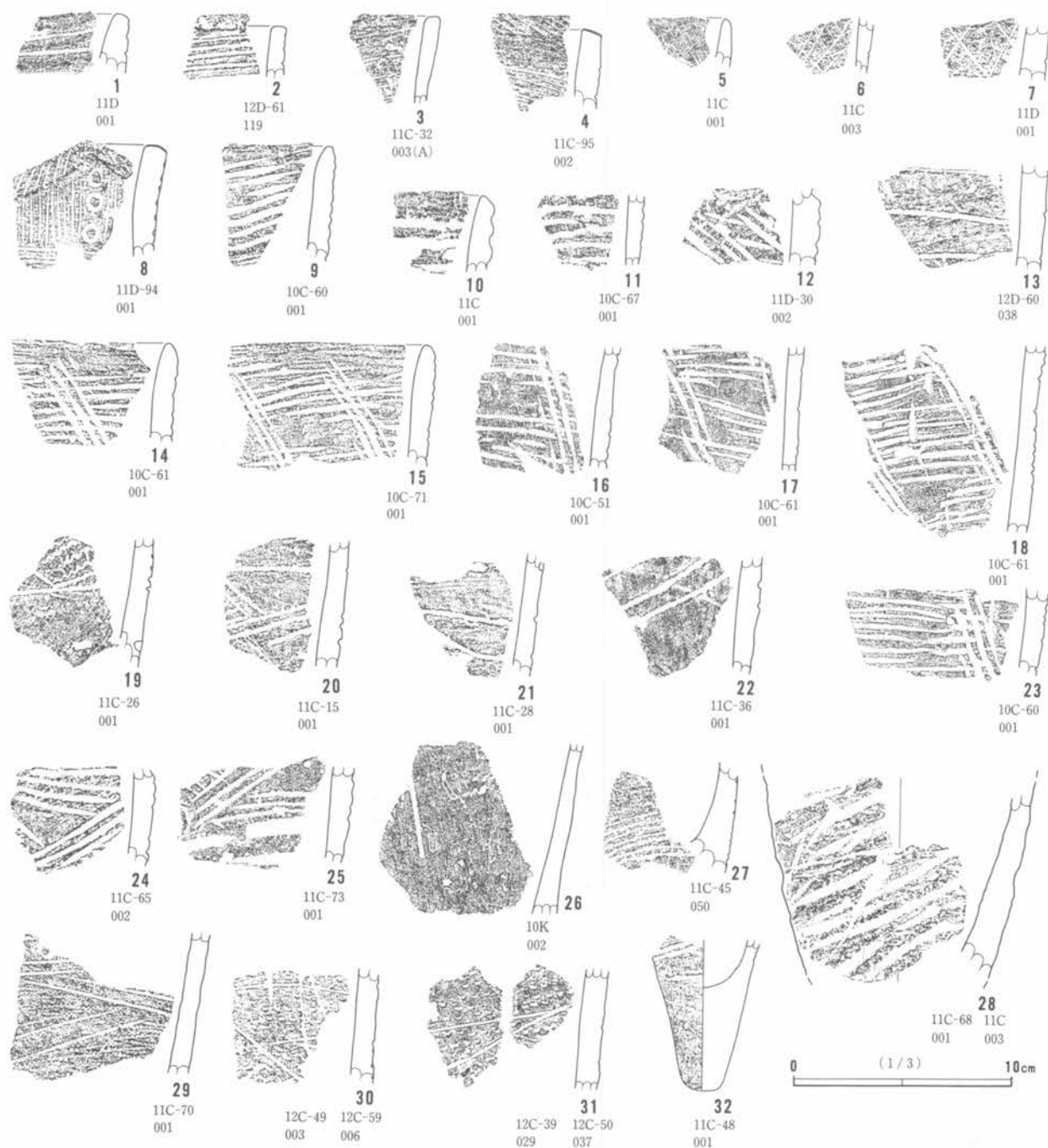
8は細沈線文と円形刺突文により、文様が構成される。口縁部は波状であり、口唇部には斜位の細沈線が施文される。

9～26・28・32はやや太い沈線が施文されるものである。10～12は、竹管による沈線が施される。10・11は横位多段に、12は斜位と横位の沈線を組み合わせている。9・14～18・23は同一個体の可能性がある。横位沈線を集合状に施文後、三本一組の斜位沈線が間隔を開けて施されている。これら沈線の施文は他の個体に比して極めて粗く、間隔があいたり、連続する部分がずれたりしている。胎土には細砂粒を多く含み、器表面はやや粗いナデにより調整されている。19・21・22は同一個体である。幾何学状構成になると思われる沈線を施文後、貝殻腹縁文及び押引文を部分的に加えている。器面調整は粗いナデであり、外面



第113図 第II群 (田戸下層式) 土器出土分布

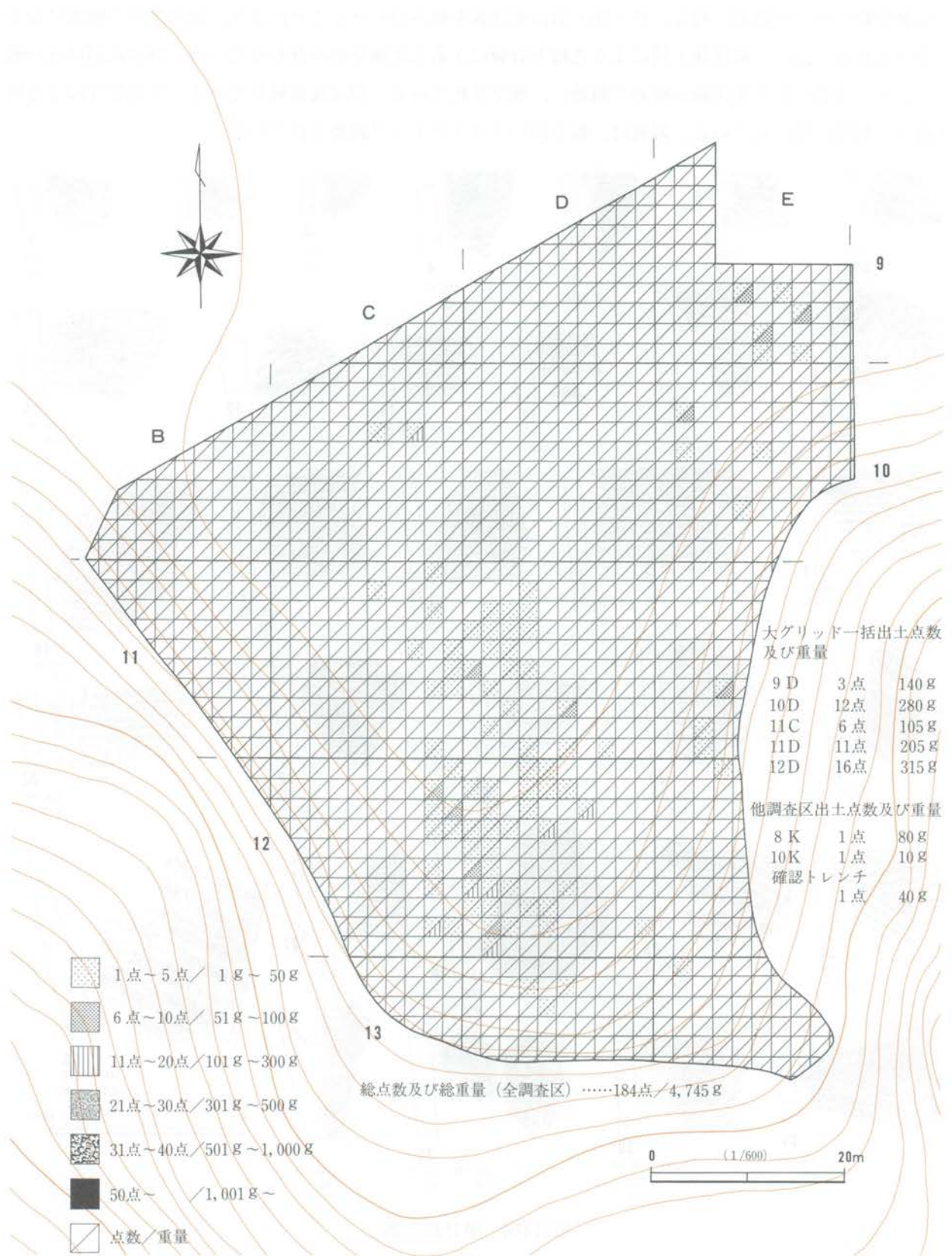
には製作時の凹凸が顕著に残る。13・20・24は単沈線を組み合わせるにより、幾何学状の構成になると考えられる。25は、細棒状工具による沈線と竹管による太沈線を組み合わせている。28は底部に近い破片である。竹管による太沈線が極めて粗雑に、施文されている。32は底部破片である。半截竹管による単沈線が、粗雑に施されている。器面は、縦方向のケズリによって調整されている。



第114図 第II群土器

第III群 I類土器 (第115~118図, 図版53~58)

本調査区①を中心として、184点(4,745g)検出された。分布は、舌状台地の中央部から先端部にかけて、ややまとまりを持つ傾向が読みとれる(第115図)。本報告では、117点を図示した(第116~118図)。



第115図 第三群1類(田戸上層式～子母口式)土器出土分布

a種（第116図3～34）：隆線文を主体とするものである。

3～16・19・23は、刺突又は刻みが施される隆線を主体として文様を構成するものである。隆線上の装飾には、刻みをつけるもの（5・6・13・14）、先端の粗い棒状工具を斜め方向から刺突するもの（3）、同工具を垂直に刺突するもの（4・9・11・19）、角棒状工具を斜め方向から刺突するもの（7・8・12・15・16・23）、同工具を垂直に刺突するもの（10）の5種類に分類できる。4・5・8・13～16は、条痕が施された器面に隆線が貼り付けされるものである。4・5は内外面に、8・13・14は外面に、15・16は内面にそれぞれ条痕が施されている。なお、16の外面は条痕が施された後に、ナデが加えられ、条痕が痕跡程度となっている。3・6・7・9～12・19・23・33・34は、擦痕又はナデ調整された器面に隆線が貼り付けされるものである。3は基本的に平状口縁であり、逆U字状の隆線が貼り付けされる。また、隆線の内側には、竹串状の工具による刺突が施されている。6の内面及び7の外面には、条痕が施されていたようであるが、粗いナデが加えられており、その痕跡は明確ではない。また、7は口縁部の上端より隆線が貼り付けされる。その際、口唇部を平坦に調整せず、継ぎ目部分をそのまま残し、細棒状工具で軽くなぞっているため、一条の沈線が口唇部に施文されている効果を生みだしている。10・12は、二本の隆線が一組となり、曲線状の構成をとるものと思われる。11は隆線の他に、浅い半截竹管による沈線が施文されている。23の内面には、部分的に条痕の痕跡が窺えるが、全面に施していたものかどうかは不明確である。

17・18・20～22・24～32は、刻みなどの装飾を加えない隆線を主体として文様を構成するものである。17・18・20～22・24・28～30・32は、器面が擦痕又はナデ調整されたものである。17は、口縁部付近で内傾する小型土器である。口唇部は尖状であり、口縁部に断面三角形の隆線が、二条巡っている。内面はナデにより調整されているが、製作時の指頭圧痕が顕著に残る。18は口唇部にへら状工具による刻みが施される。また、無文の口縁部を挟んで、断面三角形の横位隆線が施文される。20～22・24・32は、胴部に横位隆線が施文されるものである。20～22の隆線は断面三角形であるが、21は頂部がやや丸みを帯び、比較的高めのものである。24は断面台形状、32は扁平な隆線がそれぞれ貼り付けられている。25～27・31は、器面に条痕が施されるものである。いずれも、隆線の上下はナデ調整され、条痕が磨り消されている。25・26・31は扁平な隆線であり、25・26の隆線上には条痕が施される。26は内面に条痕が施され、外面は擦痕調整されている。隆線上にも、擦痕が施される。27は断面三角形の隆線であり、隆線の頂部下側に浅い沈線が加えられる。

28～30・33・34は、外削ぎで尖状の口縁部形態をなし、口縁部下端がやや突出し、強調されているものである。便宜上、a種に分類したが、これまでのものとは隆線の性格が異なるものであることを付記しておく。28・33・34の口縁部下端の突出は、貼り付けによるものであるが、上下をナデにより調整し、低い盛り上がり状にしている。なお、33・34は同一個体であり、口唇部外側端部～口縁部及び隆線上には、幅4mm程度のへら状工具による刻みが施される。

b種（第116図1・2・35～40、第117図41～83、第118図84～88・93）：沈線文・刺突文を主体とするものである。

1は、外削ぎ状の口縁部形態をなす。口端部内面側には丸棒状工具による刻みが、外面側には横位の貝殻腹縁文が施文される。また、外面側口縁部の下部を指頭でなぞり、器面をやや凹ませることにより、端部の突出を強調させる。胎土は砂粒を多く含むが、繊維の混入はない。2は厚手の製作であり、二本一組

の細沈線が、波状に垂下している。

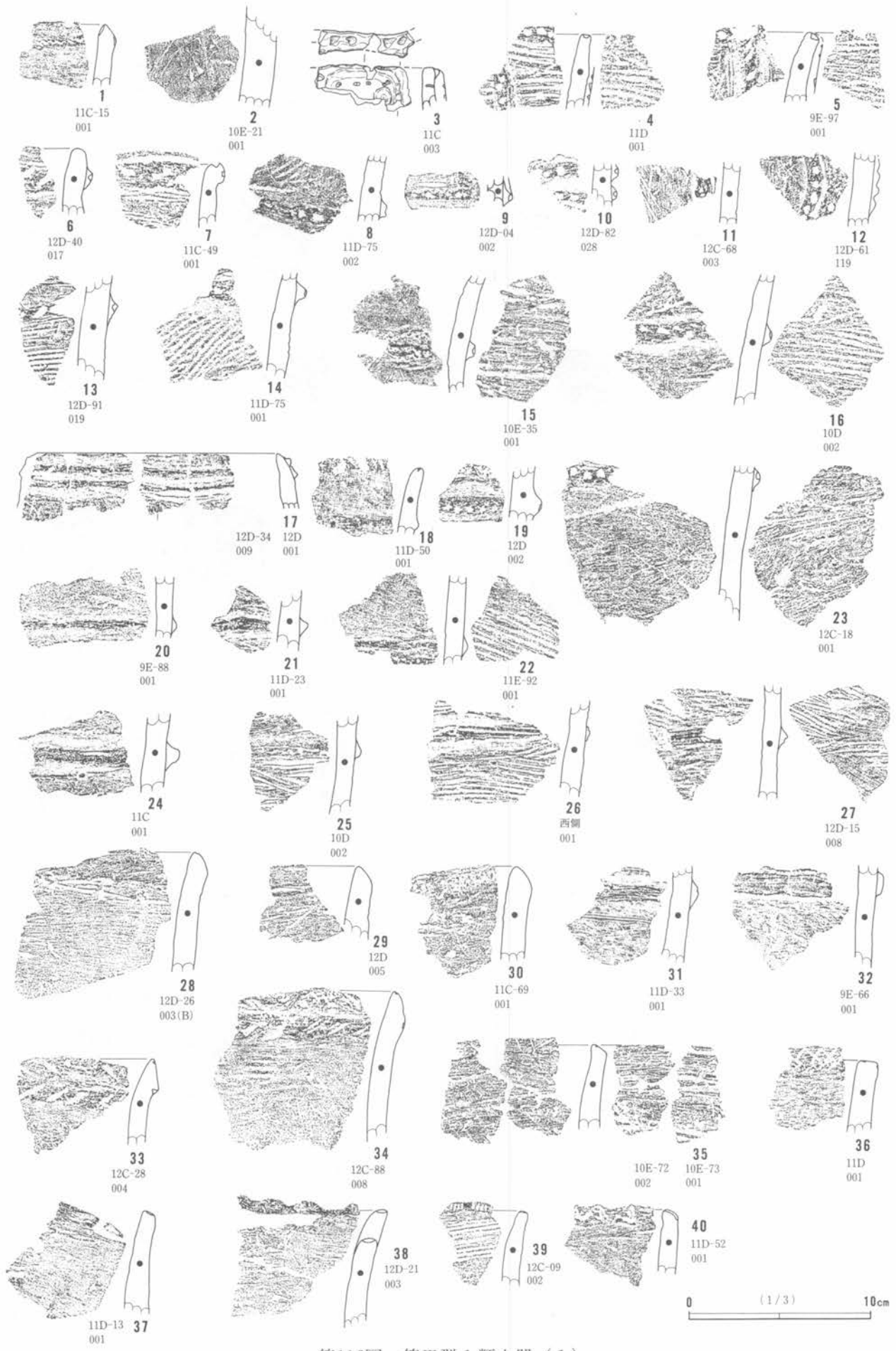
35・36は、口唇部に細沈線文が施される。35は斜位に施文され、途中で方向を違えている。36は格子目状に施文され、外面側口端部にまで及ぶ。

37～39の口唇部には、*Arcidae gen. & sp. indet* (フネガイ科種不明) の殻頂部を利用した、いわゆる「貝殻背圧痕」が施文される。37は波状口縁となり、図右側に貝殻背圧痕が確認される。ちなみに、図左側の凹みは、ヘラ状工具で強くなぞったのものである。38も波状口縁である。貝殻背圧痕は、口唇部をえぐるように強く施文される。39の貝殻背圧痕は、円周方向に対し垂直になるように、浅く施文される。器面には、横位の条痕が外面口縁部付近のみに施されている。

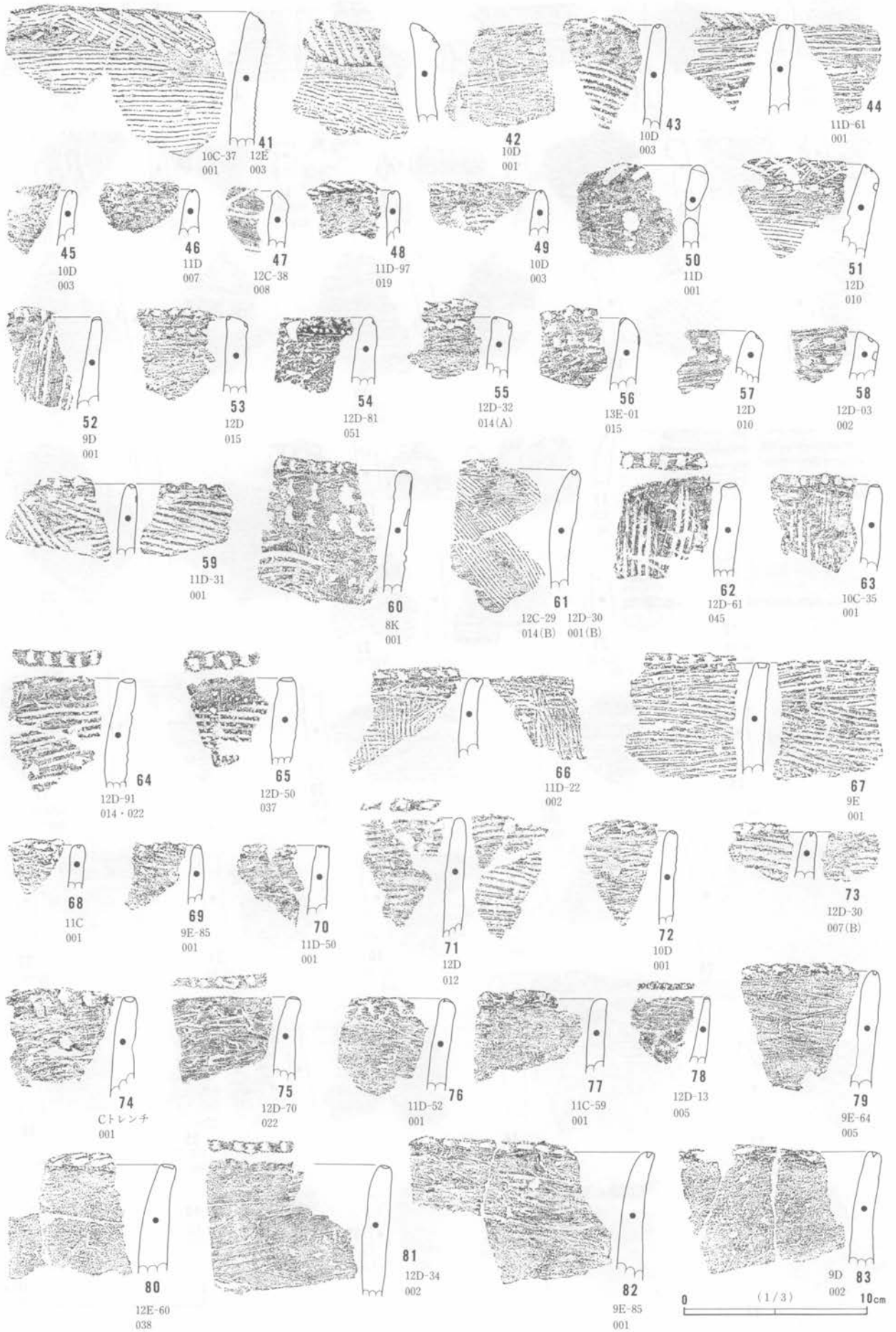
41・42・51は、外削ぎ状の口縁部に文様が施される。41は、整形後内外面に擦痕が施され、外面にナデが加えられる。そして、深い条痕が口縁部には斜位に、胴部には横位に施される。さらに、口縁部には角棒状工具によるやや乱雑な単沈線が、矢羽状を基本として、方向を違えながら施文される。42は、胴部から口縁部にかけてはゆるく開き、口縁部でやや内傾する器形である。口縁部には粘土が貼り付けられ肥厚し、その下端には明瞭な段が形成されている。内外面ともに横位の条痕が施された後、内面はほぼ全面に、外面は口縁部の下に横位のナデが加えられる。さらに、肥厚する口縁部には、斜位の沈線が密に施文される。51は、内外面とも擦痕調整された後に、胴部に横位の浅い条痕を施す。擦痕調整の際、口縁部の下をやや削りとり、低い段を形成している。口縁部には格子目状の細沈線が施文される。さらに、下端の段になる部分に、棒状工具による斜方向からの刺突列が施文される。

43～50は、口唇部又は口縁部に、斜位の沈線又は刻みが施文される。43・44・48の口唇部には、角棒状工具による沈線が施される。43は外面に、44は内外面に条痕が施される。45・46・49の口唇部には、ヘラ状工具による刻みが施される。47は、外削ぎ状の口縁部に、斜位の沈線が施される。また、口縁部の下に一条の横位沈線が施文されている。破片の下端にも、沈線が観察されるが、条痕の可能性もある。50の口唇部の沈線は、太い丸棒状工具によるものである。

40・52～88は、刺突文を主体として文様が構成される。52・61～63は、口唇部に棒状工具による刺突文が施文され、擦痕調整された器面には、縦位を基本とする条痕が施されている。52は、棒状工具を二本一組にしたもので、縦位の条痕が間隔を開けて施される。61は、絡条体条痕が斜位・帯状に施文された後、部分的にナデが加えられている。62・63は、貝殻条痕が縦位に、やや間隔を開けて施される。40・53～60・76は、口唇部及び口縁部周辺に刺突文が施される。40・76は同一個体である。外面側口端部に棒状工具により、間隔のあく刻みが施される。さらに、先端が粗く割れた半截竹管による、斜め方向からの押引状刺突が、口唇部に施される。器面は内外面とも、擦痕を施された後、軽いナデが加えられている。53・55は口唇部両端に、棒状工具による斜め方向からの刺突が、連続的に施文される。54は、口唇先端部に丸棒状工具による押圧が施されいるようであるが、器表面が荒れているため判然としない。外面側口端部には、細い角棒状工具による刺突列が、施文されている。56～59は口唇部及び口縁部上端に刺突文列が施される。いずれも、角棒状工具による斜め方向からの刺突文である。58の口唇部左側の刺突は、斜位の押引文状となっている。60は、半截竹管による斜め方向からの刺突文が、口唇部及び口縁部に施される。口縁部の刺突は、2段にわたって行われ、その下に同じ工具による波状沈線文及び角棒状工具による刺突文列が施される。この胴部文様は連続しておらず、全体構成は不明確である。64～73・75・77～83は口唇部のみに刺突文が施される。工具と施文方法で分類すると、角棒状工具を斜め方向から刺突するもの(64・66・68・



第116図 第Ⅲ群1類土器(1)



第117図 第三群1類土器(2)

70・81・82), 半截竹管を斜め方向から刺突するもの(65・67・72・75・88), 先端の粗い棒状工具を垂直方向から刺突するもの(73・78・79), 同工具を斜め方向から刺突するもの(69・71), その他(77・83)となる。なお、特徴的なものを以下に記す。70は細い棒状工具による刺突を二列にわたって施文している。75の刺突はごく浅いものである。77は、丸棒状工具の腹面を口唇部及び外面側口端部に押圧するが、浅いものであり、判然としない。83は、へら状工具の角部を突き刺し、左右に動かして、三角状刺突文と同様の施文効果を生みだしている。

74・84~88・93は、口縁部に円形刺突文を施すものである。円形刺突文については、先端部のみが貫通するもの(74), 完全に貫通するもの(84~86・88・83), 両者が組み合わさるもの(87)に分類できる。74・87は、口唇部に半截竹管による斜め方向からの刺突文が施される。84の口唇部には、絡条体圧痕文が施文される。85は、口縁部をつまみ上げるように製作された後、内外面とも擦痕調整される。さらに、円形刺突文が施され、外面にはごく浅い条痕が斜位~縦位に、内面には深い条痕が横位に加えられる。最後に、口唇部に沿って、丸棒状工具で口縁部の上端をえぐり取っている。86は外削ぎ気味の丸棒状の口縁部形態をなし、内面側口端部及び口縁部に、角棒状工具による斜め方向からの刺突文列が施される。破片中央の円形刺突文は、二段にわたって施文されているが、全体構成は不明である。なお、上部の刺突文は貫通しているが、下部の刺突文は貫通せず、内面に突瘤が形成される。88の口唇部には、細い棒状工具を垂直方向から刺突し、横に倒すことによって、三角状刺突文と同様の効果を生みだしている。93は口唇部を含め、全面に条痕が施されている。

◦種(第118図94~92・94~117) : 絡条体圧痕文を主体として文様を構成するものである。

89~92・94~96・100は、口唇部のみに絡条体圧痕文が施文される。92を除いて、いずれも細く硬質な棒を原体として用いている。92の絡条体は、太くやや軟質なものと思われる。90・92・94は、内外面に条痕が施されている。94・100は、外削ぎ状の口唇部に絡条体圧痕文が施文される。

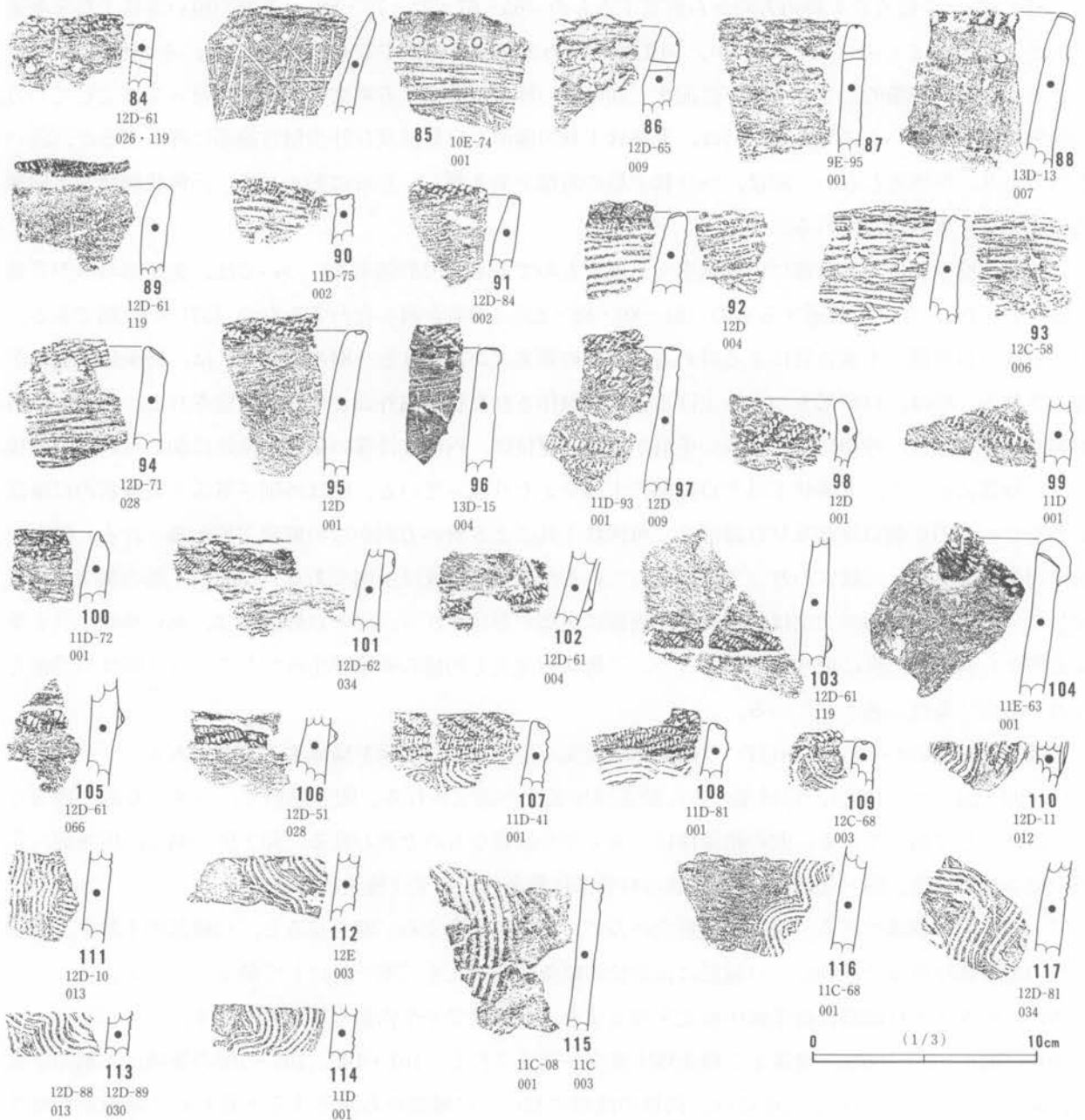
97・98は同一個体である。絡条体圧痕文のみで、文様を構成する。97を見ると、口縁部の下端を、横位二段の絡条体圧痕文で区画し、口縁部には斜位の絡条体圧痕文を二本一組にして施文している。

99は、肥厚する口縁部に絡条体圧痕文を施文する。口縁部でやや内湾する形態をなす。

101~103・105・106は、隆線上に絡条体圧痕文が施文される。101・103・105・106の隆線は、胴部を横位区画するものと思われる。102には、同様の隆線の他に、口縁部から垂下すると思われる隆線が観察されるが、これに絡条体圧痕文は施文されない。

104はゆるい波状口縁となり、波頂部に粘土が瘤状に貼り付けられ、この上及び口唇部に絡条体圧痕文が施文されている。

107~117は口縁部付近に絡条体圧痕文が、胴部に波状の絡条体条痕文がそれぞれ施文される。107は、外面側口端部が丸みを帯び、わずかに肥厚する口縁部形態をなす。絡条体圧痕文が口唇部に施された後、口縁部に横位、斜位の順序で施文される。さらに、その直下から波状に垂下する絡条体条痕文が観察できる。なお、110は胎土及び焼成が酷似し、同一個体と考えられるが、107には見られない、絡条体圧痕文が施される垂下する隆線の下端部が観察される。接合しなかったため、全体の文様構成は不明である。108は口縁部が肥厚する。また、口唇部と口縁部に施文される絡条体圧痕文の方向を違えることで、羽状構成としている。口縁部の下には、横位の波状絡条体条痕文が施文されている。109は、口唇部に絡条体圧痕文が施され、口縁部に横位の波状絡条体条痕文が観察される。111~117は、垂下する波状の絡条体条痕文



第118図 第Ⅲ群1類土器(3)

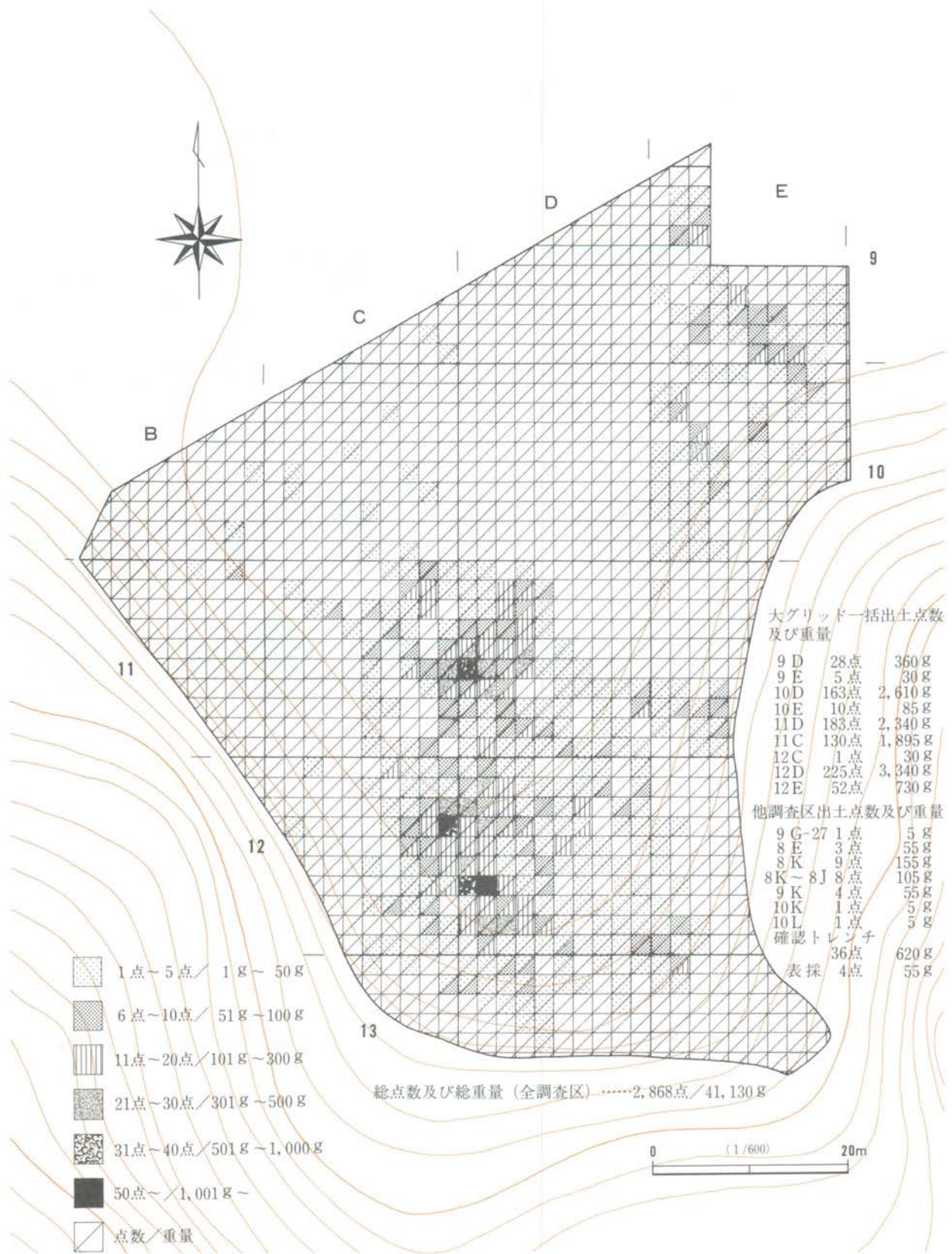
が施される胴部破片である。いずれも、口縁部は107~109のような構成をとるものと思われる。

第Ⅲ群2類土器(第119~122図, 図版59~61)

本遺跡出土土器の主体を占めるものである。無文で、胎土に繊維を含み、器面調整に擦痕又は条痕が施されるものである。正確な帰属は不明確であるが、本遺跡における出土状況(分布)並びに土器自体の器面調整及び胎土などの外面的特徴の類似性から、第Ⅲ群1類土器と伴うことは間違いないものとする。

a種(第119・120図): 擦痕による器面調整が行われるもの

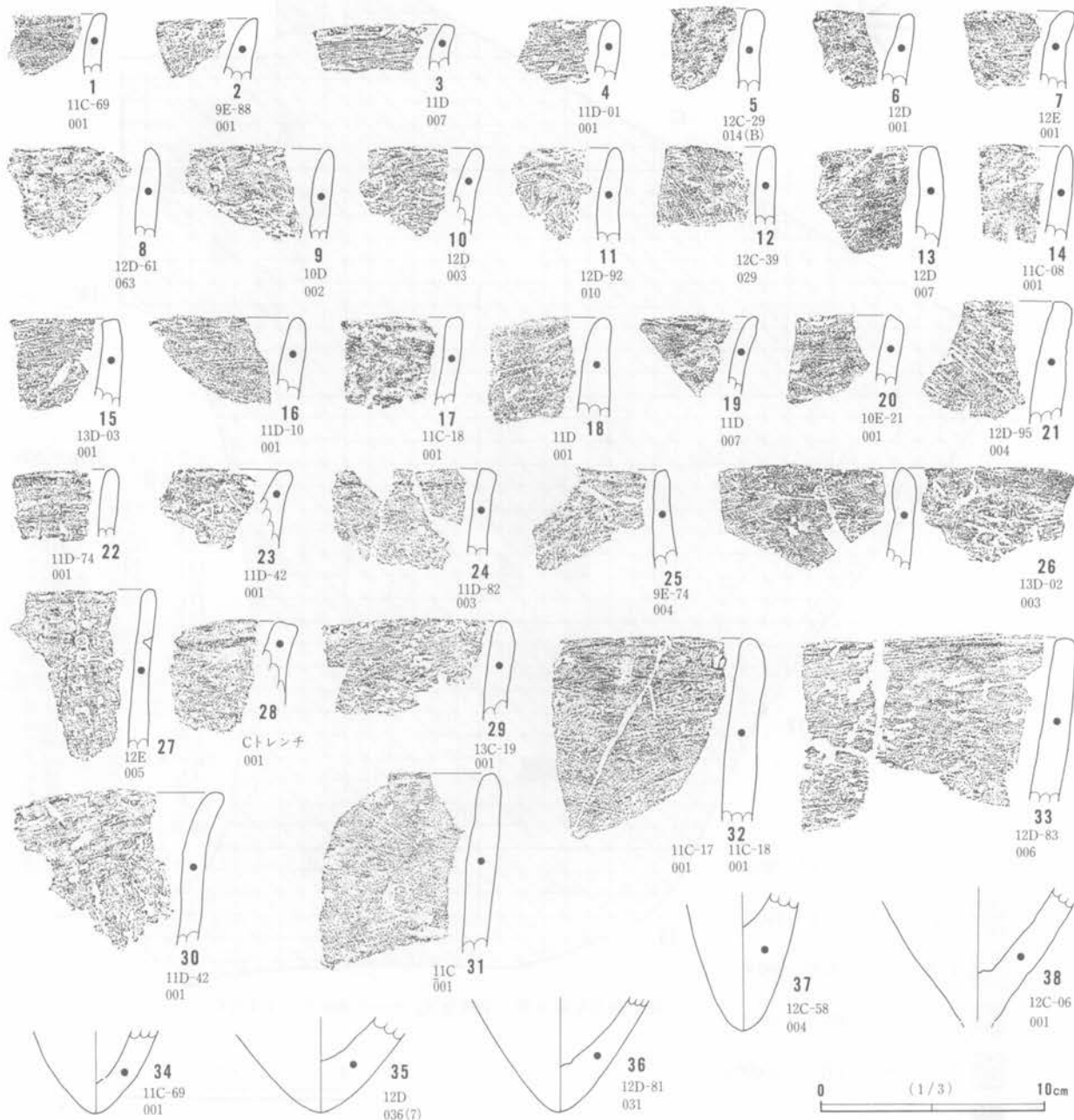
本調査区①を中心として、2,868点(41,130g)検出された。本遺跡最大の出土量である。分布は、舌状台地の中央部から先端部にかけて、ややまとまりを持つ傾向が読みとれ、第Ⅲ群1類土器の分布と類似する(第119図)。本報告では、口縁部破片及び底部のみであるが、38点を図示した(第120図1~38)。



第119図 第Ⅲ群2類a種(擦痕)土器出土分布

1～33は口縁部破片である。1・3は、擦痕の後に丁寧なナデ調整が加えられ、器表面は平滑で光沢を持つ。口縁部の断面形態については、おおむね丸みを持つものが多いが、角状のもの（15・24・28・33）、尖状のもの（8・14）、外削ぎ状のもの（20）等も、若干ながら含まれている。

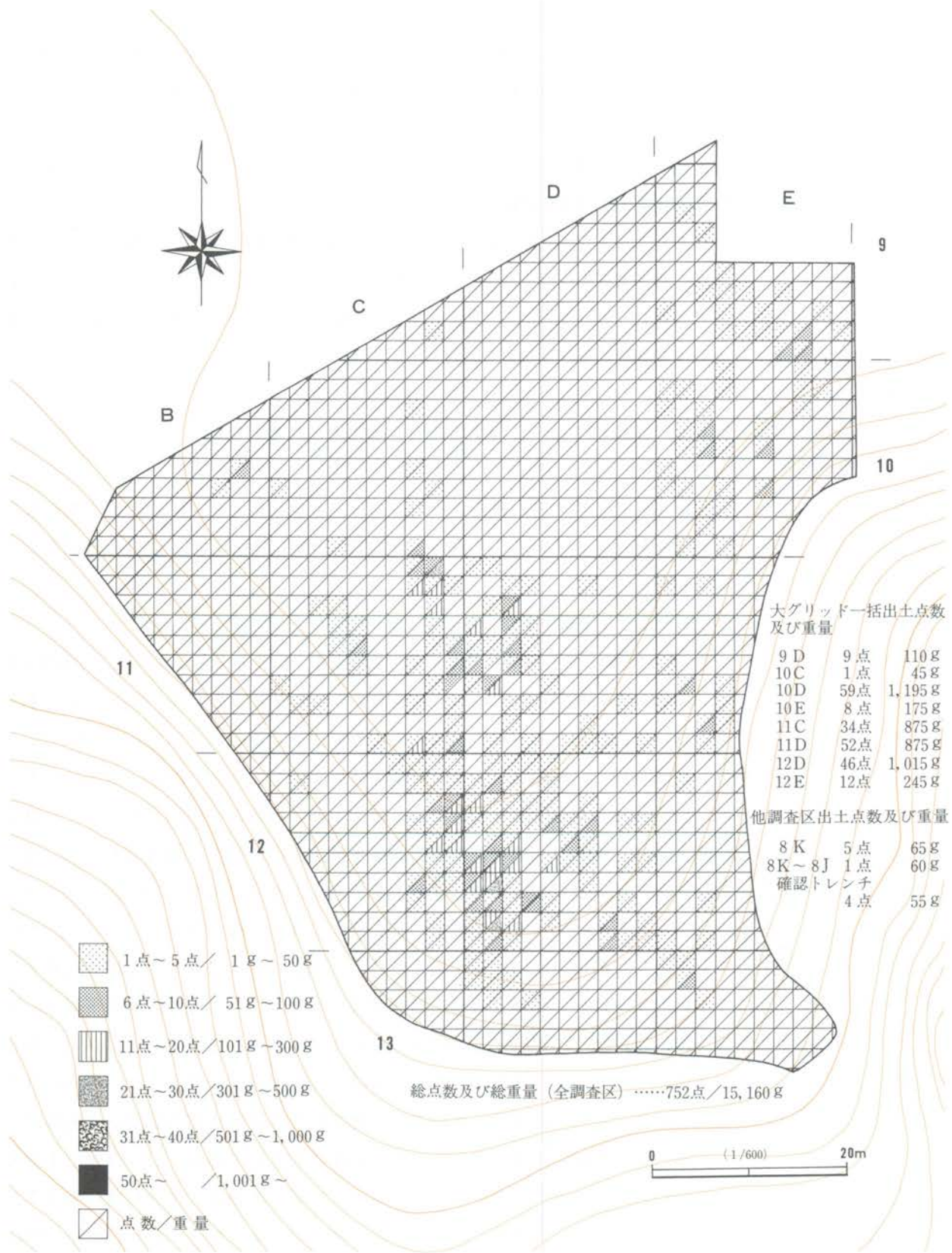
34～38は底部である。いずれも尖底であるが、35はやや丸みを帯び、38は乳房状に近い形態をなすようである。また、37は中実の尖底部であり、二次焼成が激しく、器表面が荒れている。



第120図 第三群2類a種土器

b種（第121・122図）：条痕による器面調整が行われるもの

a種に比べると、圧倒的に数量は減るが、やはり本調査区①を中心として、752点（15,160g）検出された。分布の状況もa種に類似する（第121図）。本報告では、口縁部及び底部破片のみであるが、35点を図示した（第122図）。



第121図 第Ⅲ群2類b種(条痕)土器出土分布

1～33は口縁部破片である。1～5・19・20・24の外縁は条痕が施された後に、ナデ調整が加えられ、条痕は痕跡程度となっている。なお、1～4の内面は、擦痕又はナデ調整であり、条痕は施されていない。また、5の内面は、縦方向のまばらな条痕が施されるが、ナデが加えられ、部分的に磨り消されている。19・20・24の内面は、条痕が施されるが、その後のナデ調整により痕跡程度となっている。6は外面に横方向の粗い条痕、内面に縦方向の条痕が施される。7・8・10・12・13・15・18・21は、内外面に条痕を施すが、内面にはナデ調整が加えられ、条痕は部分的に残る程度となっている。9・17・27は外面のみに条痕が施され、内面は擦痕調整が施される。11・14・16・22・23・25・26・28～32は、内外面に条痕が施される。おおむね、条痕は浅く施されているが、25の内面条痕は、かなり深い形のものである。また、31の内面は、条痕調整の器面に帯状にナデを加えて、条痕を部分的に磨り消している。34・35は底部である。いずれも尖底であり、35はやや中実となっている。

第Ⅳ群土器（第123・124図）

前期・後期の土器を一括した。本遺跡では、この期の遺構等は検出されていない。

第1類（第124図4）：前期の土器

本類に分類される資料は、図示した1点のみが検出された。4は、波状口縁をなし、波頂部先端を欠損している。胴部には波状貝殻文が施文されていることから、浮島式に比定できる。胎土には細砂粒を多く含み、色調は黄灰褐色から明褐色である。

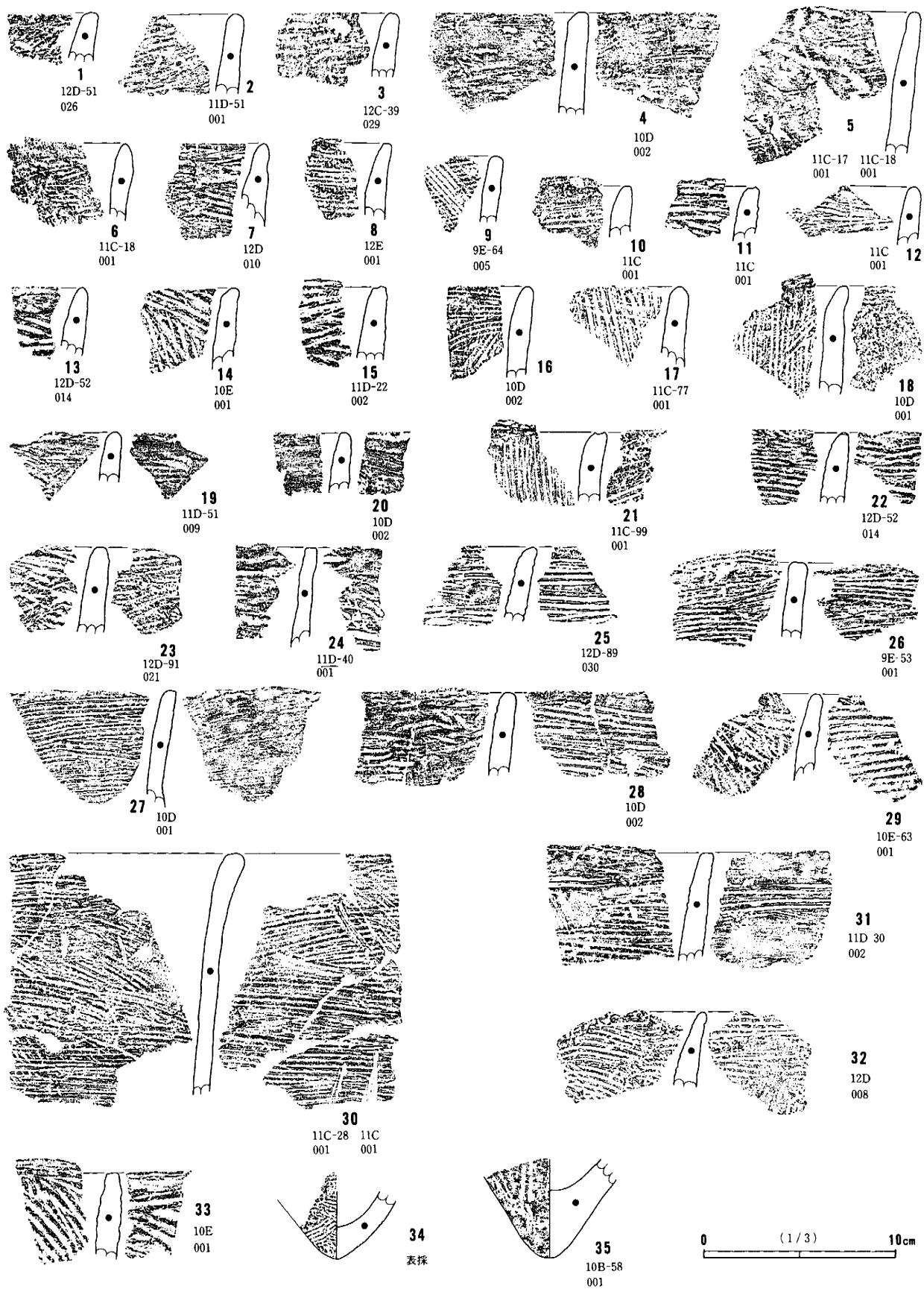
第2類（第124図1～3・5～27）：後期の土器

本調査区①及び②より、散漫な分布状況を示す形で、81点（2,015g）出土した。しかし、本調査区①の分布状況を見ると、11C-30, 11D-89等特定グリッドに集中することが読みとれる（第123図）。本土器群期の遺構は検出されていないが、何らかの行動の痕跡と考えられよう。本報告では、27点を図示した。

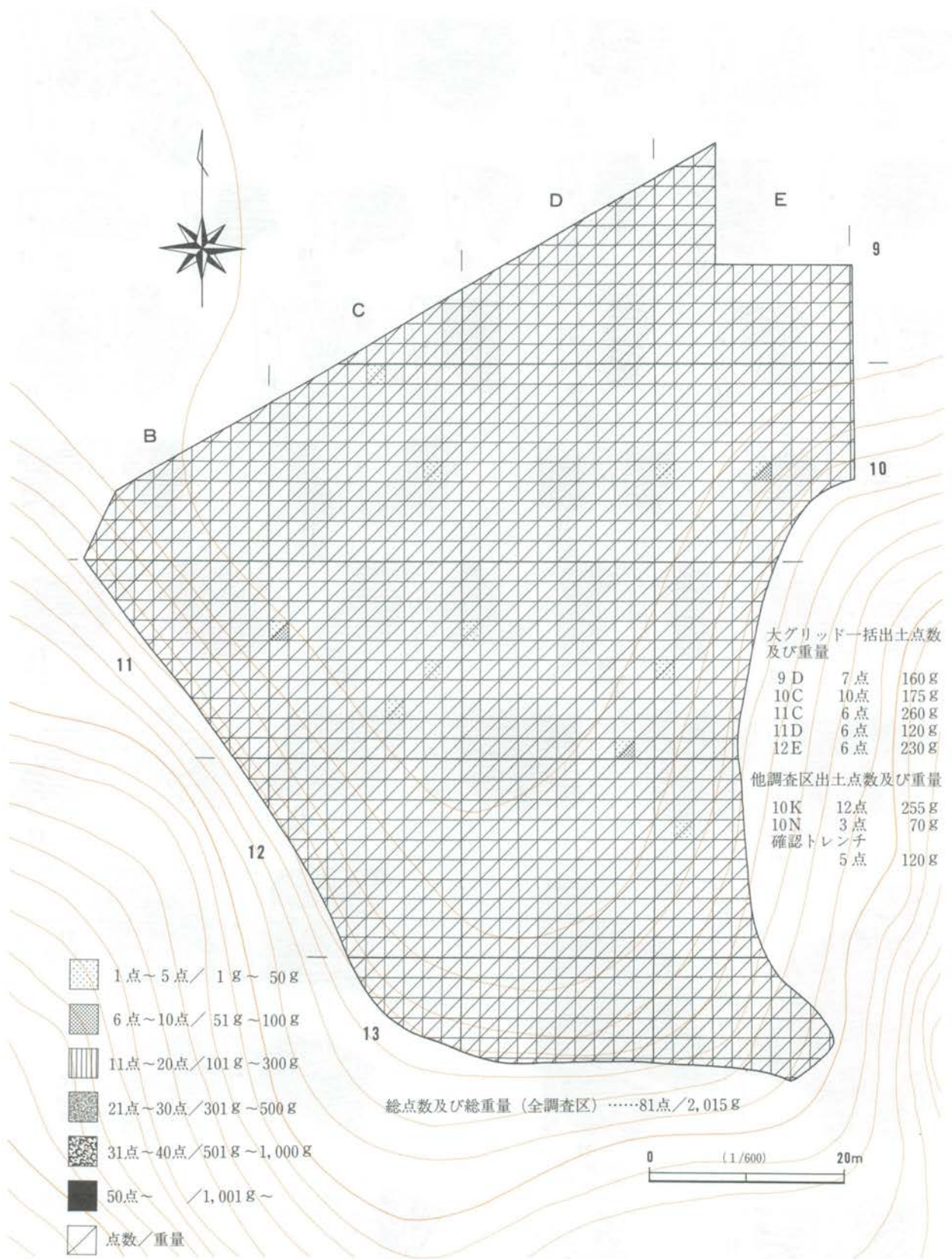
1～3は同一個体である。波状口縁で、朝顔状に大きく開く深鉢形土器である。口縁部と胴部は一条の横位沈線で区画され、胴部に斜位の集合沈線により、綾杉文を施文する。口縁部の内面は肥厚し、明瞭な段を有する。外面口縁部の無文帯は、ケズリが施され、器表面は平滑で光沢を持つ。加曾利B2式に比定できる。5は、口縁部と胴部の境に低い段が形成される鉢形土器である。外面口縁部及び内面には、ケズリ調整が施され、器表面は平滑で光沢を持つ。6は帯縄文の施文後、鎖状の孤線が垂下し、縦位区画が行われる。さらに、交差部を起点として横位方向の孤線が施文される。加曾利B1式終末から加曾利B2式初頭と考えられる。7はやや内傾する器形の深鉢である。口縁部及び胴部上半に、沈線区画の帯縄文が施文される。胴部上半の帯縄文は、幅が広く、連続する半円状の孤線文が施文される。曾谷式に比定できる。8は胴部で屈曲し、口縁部が大きく開く浅鉢形土器である。屈曲部には明瞭な段が形成され、刻みが施される。胴部には弧状の集合沈線が施文される。9は、集合沈線の施された浅鉢形土器の胴部から底部にかけての破片である。10～13・18・19は胴部に集合沈線が施文される深鉢形土器である。11は胴部上半で大きく屈曲する、いわゆる「ソロバン形」の器形をなすものである。12の集合沈線は、格子目状に施文される。14は台付浅鉢の脚部である。下端部に、太沈線で区画された帯縄文が施文される。8～13・18・19はおおむね加曾利B2式と考えられる。

15～17・20～24は加曾利B式に伴う粗製土器である。いずれも地文に撚りの粗い単節縄文が施されている。15・16は口縁部に、17は胴部に紐線文が施文される。15は、口縁部が肥厚し、やや内傾する。

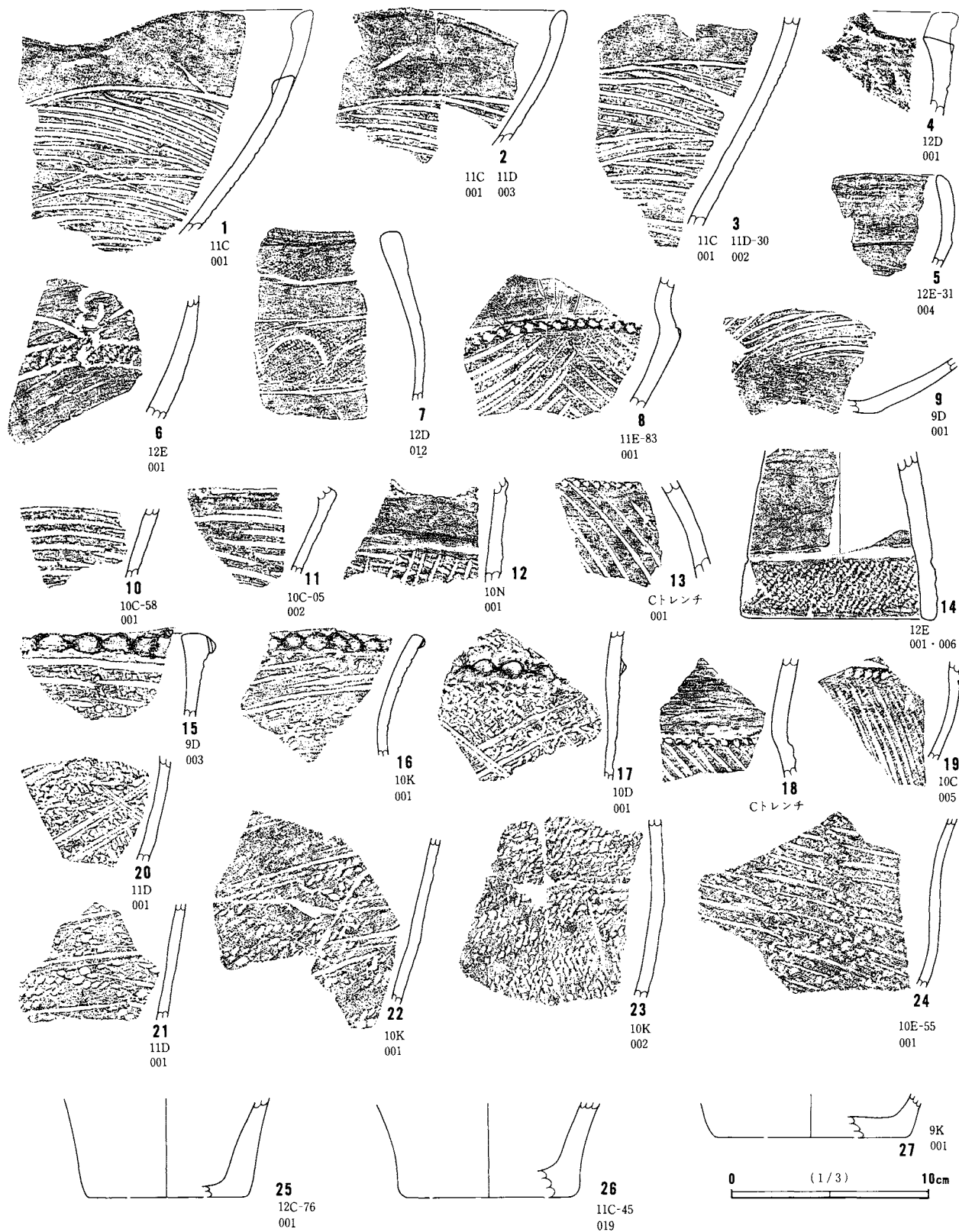
25～27は底部破片である。いずれも平底であり、器面に文様は見られない。



第122図 第Ⅲ群2類b種土器



第123図 第IV群(後期)土器出土分布



第124図 第Ⅳ群土器

(2) 石器(第125~137図, 第20・21表, 図版63~72)

石器は, 本調査区①を中心として出土した。分布は, 台地中央部から舌状の先端部にかけてまとまる傾向が読みとれる(第125・126図)。これは, 第Ⅲ群土器の分布傾向と類似するものであり, 本遺跡から出土した石器の多くが伴うことを示唆していると考えられる。さらに, 本遺跡からは黒曜石を主体とする大量の剥片・碎片が出土している(第125図)。これは, 活発な遺跡形成状況を示すものであり, やはり大量に出土した第Ⅲ群土器との密接な関係を示すものと思われる。しかし, 第127図に示した尖頭器などは, その形状から草創期前半に出現するものと考えられ, 以下に示す石器群の時期認定に, 一考を促すものであることを付け加えておく。

尖頭器(第127図1・2, 図版63)

1は, 凝灰岩製の尖頭器である。先端部を欠損する。入念に両面調整され, 基部側に最大幅を有する。基部は, やや丸みを帯びる形状である。2は, チャート製の尖頭器である。横長の剥片を利用し, 主に片面側からの調整で, 最大幅がほぼ中央にある菱形に近い形状となっている。素材自体に節理が多く, 調整の際, 蝶番状剥離(Hinge fracture)となる部分が多く観察される。基部側は, やや丸みを帯びる。

搔器(第127図3・4, 図版63・64)

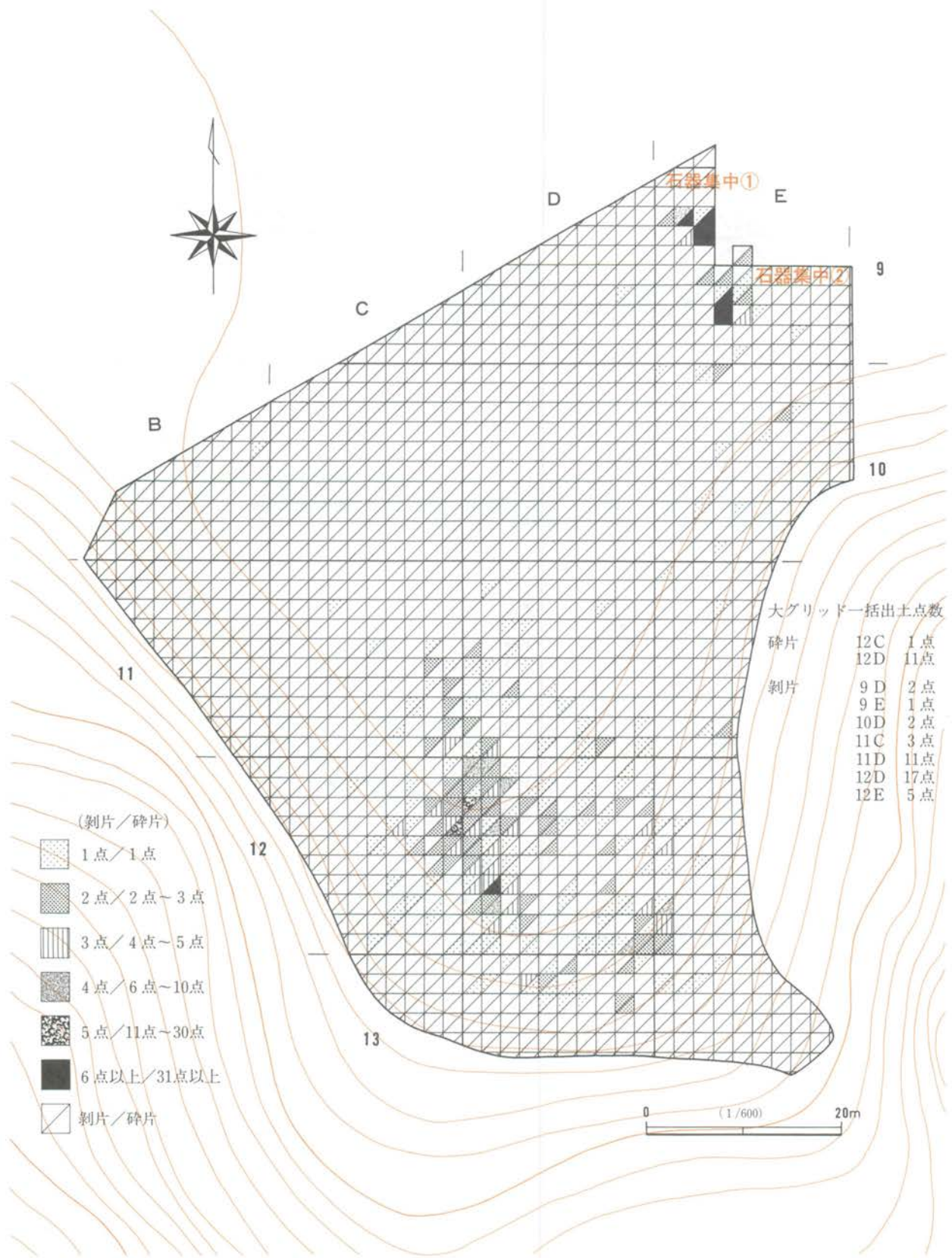
3は, 流紋岩製の搔器である。両面調整され, 全体に丸みを帯びる形状となる。背面左側縁上部には, 小さな剥離が認められるが, 使用によるものかどうかは判然としない。4は, 黒曜石製の搔器である。大形の横長剥片を素材として, ほとんどが片面からの調整で, 木葉形に近い形状としている。調整剥離の多くは, 背面左側縁上部に集中していることから, この部分を刃部としたものと思われる。しかし, 押圧剥離による調整が行われている点及び形状から, 尖頭器の未製品を搔器に転用したものとも考えられる。素材とした黒曜石は, 節理及び不純物が見られるが, おおむね良質な漆黒のものである。なお, 後述するが, 第131図5~10の剥片類と同一母岩と考えられる。

石鏃(第128図, 図版65)

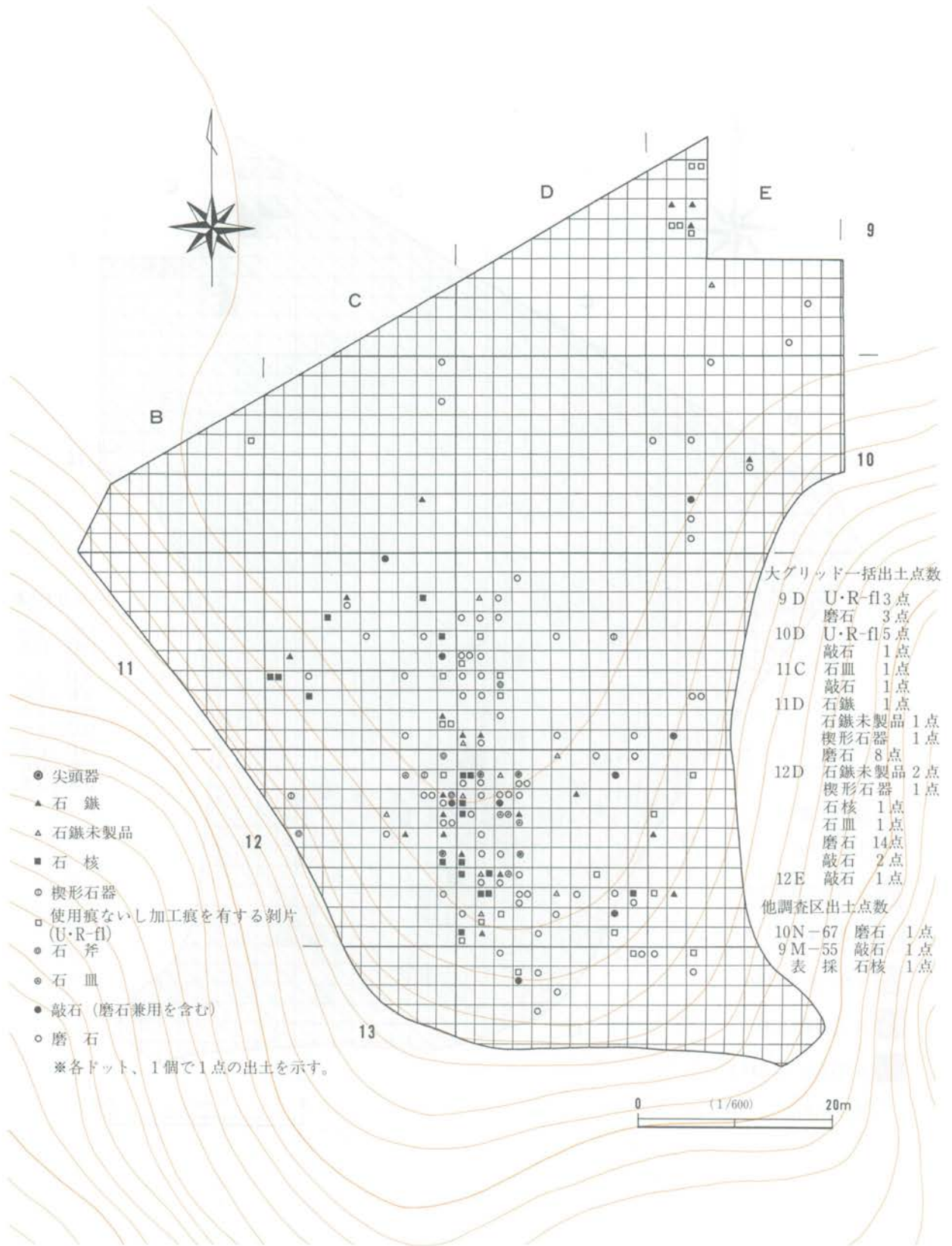
石鏃は, 完成品が17点(図示15点), 未製品が12点(図示8点)検出された。その全てが, 本調査区①から検出されたものである。

1~15は石鏃完成品で, いずれも黒曜石製である。1~5は完形で, いずれも基部の抉りは, ごく浅いものである。側辺については, 1・3が直線的で, 2・4・5は丸みを帯びる。1は, 薄い剥片の周縁を調整したのみであり, 両面に素材面を残す。4は, 片面に素材面が残っている。6~9は, 先端部から中央部を欠損するものである。いずれも基部の抉りは浅い。8・9は先端分のみ欠損で, 長幅比が1に近いものである。10~13は中央部から基部を欠損するものである。12の側縁は丸みを帯びるが, 他のものは直線的な側縁になると思われる。14・15は片側を欠損するものである。14の基部の抉りはわずかなものであるが, 15は明確な抉りを持つ。

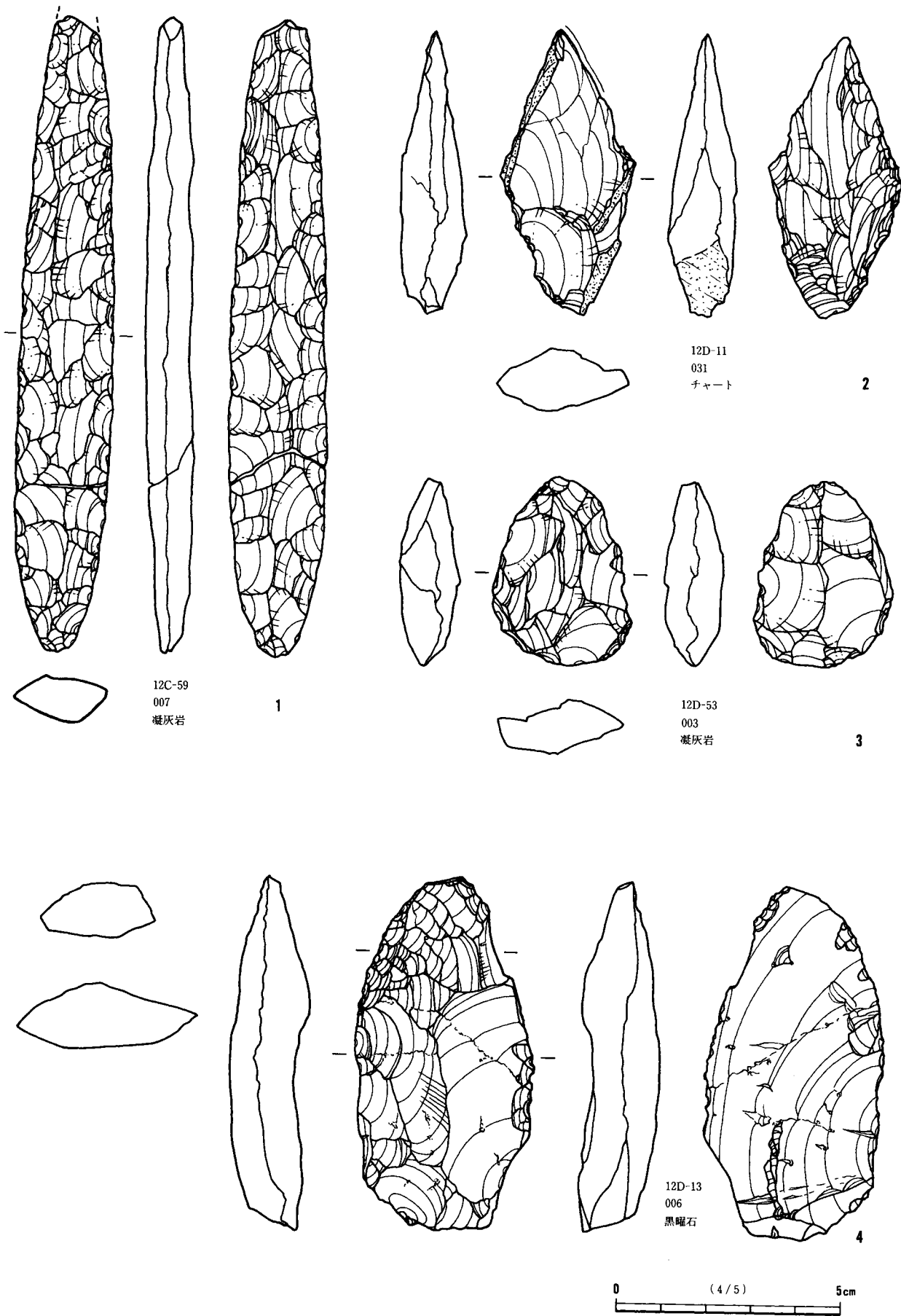
16~25は, 石鏃未製品で, 凝灰岩製である17及びチャート製である18を除き, 黒曜石製である。17・18・21は, まだ周縁調整が粗く, 中央部付近もかなりの厚さを有することから, 未製品と判断した。いずれも, 蝶番状剥離(Hinge fracture)が見られる。中央部の厚い部分を除去できていないことから, 製作を放棄したものと思われる。また, 18・20・25の両面に残る, 素材剥片面の剥離方向からは, 打面転移石核を用いていることが推測される。19・22~24は, 素材剥片の打面又は切断面が残されている。



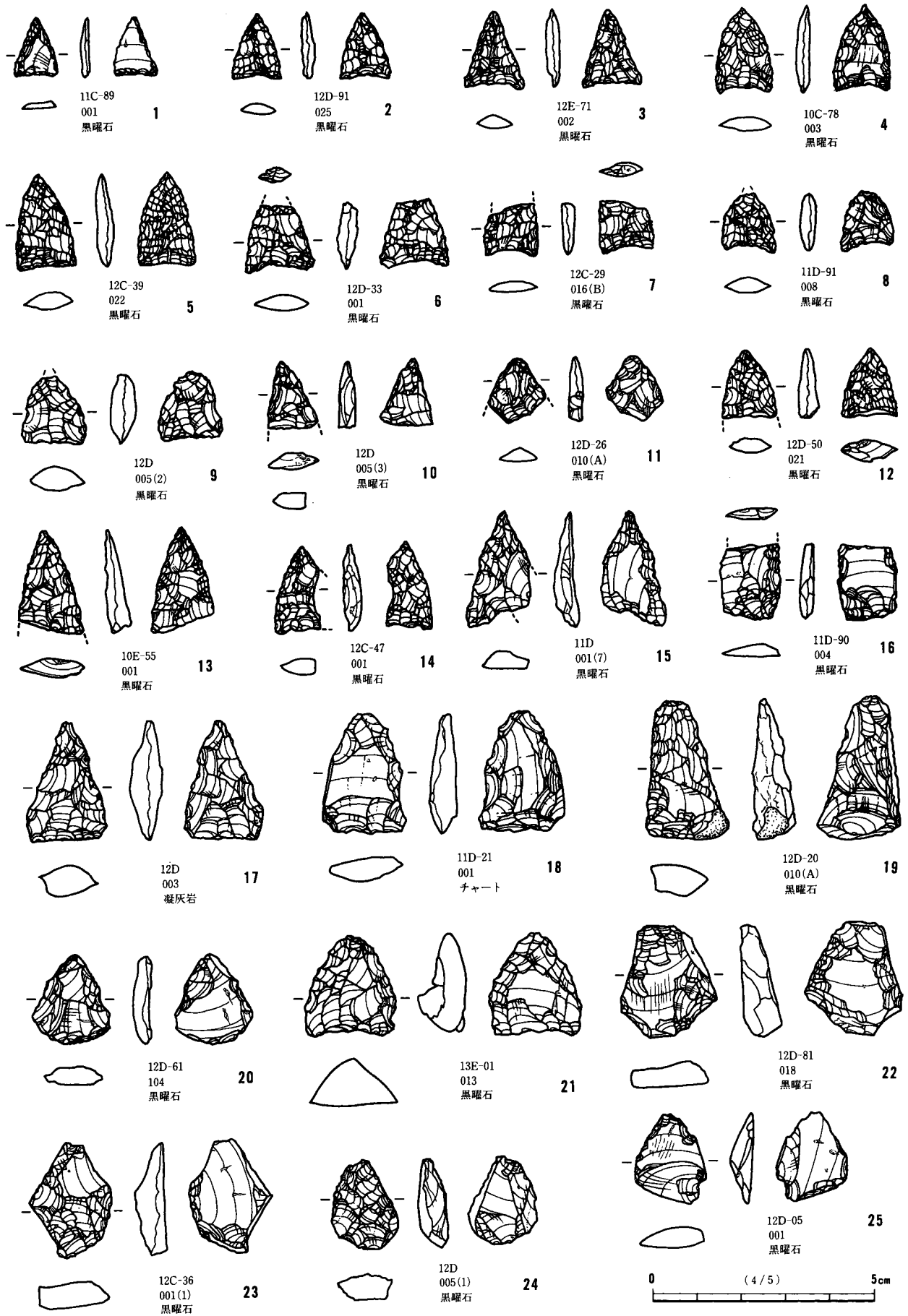
第125図 縄文時代石器出土分布 (1)



第126図 縄文時代石器出土分布 (2)



第127図 縄文時代石器（1）—尖頭器



第128図 縄文時代石器(2) - 石鏃

楔形石器（第129図1～3，図版64）

楔形石器は、黒曜石製のみ8点検出され、本報告では3点を図示した。1は角柱状の形態であり、上下に接地面（打面）及び蝶番状剥離（Hinge fracture）が認められる。2は上下の接地面（打面）方向が、ほぼ直行し、図下部の接地面は激しくつぶれている。また、背面左側縁上部には、二次調整及び微細剥離痕が認められることから、搔器としても使用していたと考えられる。3は、上部に接地面（打面）を残すが、下部は蝶番状剥離（Hinge fracture）のみが認められる。

石核（第129図4～7，第130図1～4，図版66）

石核は、黒曜石製のみ21点検出され、本報告では8点を図示した。いずれも打面転移を繰り返すことにより、不定形な剥片を採取したと思われる。厳密な形態は、個々により異なる。だが、第129図4・第130図2・4については、おおむね角柱状とすることができる。他のものは、末端形状が通常剥離（Feather end）となる部分を有している。また、第130図4のように、打点を平行移動して、おおむね縦長の剥片を採取していたものも認められる。

使用痕あるいは二次加工痕を有する剥片（U・R-fl）（第131図1～4，図版67）

U・R-flは、26点検出され、本報告では4点を図示した。石材は、1点のみチャートで、他は全て黒曜石である。1は縦長剥片を用い、背面左側縁下半に両面から二次加工を行っている。2～4は不定形な剥片に、1cm～1.5cm程度の範囲で微細剥離（使用痕）が認められる。

剥片（第131図5～10・第132図1～6，図版67～69）

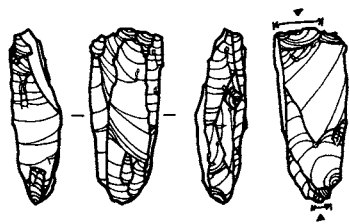
本報告では、長さ及び幅のどちらかが1cmを超えているものを碎片と分別し、剥片に分類した。総点数は、238点である。石材別に見ると、黒曜石199点、チャート16点、安山岩10点、砂岩3点、メノウ3点、ホルンフェルス3点、流紋岩2点、石英岩2点であり、黒曜石が主体を占める。

第131図5は、断面が三角形の、縦長剥片である。6～8は、横長の押圧剥離された剥片である。その形状は、尖頭器調整剥片とも考えられる特徴を有している。9は角錐状の縦長剥片である。下部に二次調整とも考えられる小剥離が認められるが、断片的なものであり、果たして調整を意図したものかは不明である。10は横長の剥片である。背面に三度にわたる押圧剥離の痕跡を認める。以上の剥片、5～10は同一母岩であると考えられる。不純物を含んでいるが、おおむね良質の黒曜石であり、第127図4の搔器とも同一母岩考えられる。接合はしなかったものの、製作工程を考える上で重要な資料と思われる。

第132図1・4は同一母岩で、オリーブ灰色のチャート製である。5は、黒色のチャート小礫を用いている。6はホルンフェルス剥片の接合資料である。やや大きめの礫から、断続的に剥離を行っており、その過程で産出された剥片である。接合面は、極めて凹凸の激しい剥離面である。

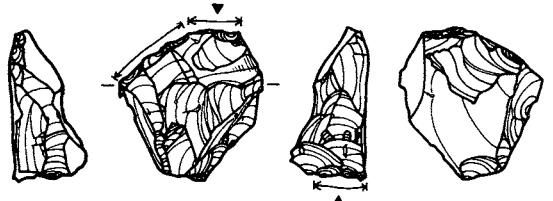
石斧（第133・134図1～9，図版72）

石斧は9点出土した。全て、本調査区①からの出土であり、本報告では全点を図示した。1は扁平な礫（ホルンフェルス）を素材とし、両面に原礫面を残す形で調整剥離が行われる。背面側では、剥離が中央部にまで及んでいるが、使用によって生じたと思われる摩耗により、薄い剥離の部分は痕跡程度となっている。摩耗は、背面側下端においてはかなり進んでおり、平滑で光沢を持つにまで至る。なお、腹面側下端に見られる剥離は、摩耗する面を剥がしており、使用に伴って生じたと考えられる。上面は、平坦な剥離面が形成されているが、意図的に素材礫を分割した痕跡と思われる。2は凝灰岩製であり、大部分の調整が背面側に見られる。主に、刃部側及び背面右側縁側からの剥離で、完全に原礫面を除去する。さらに、



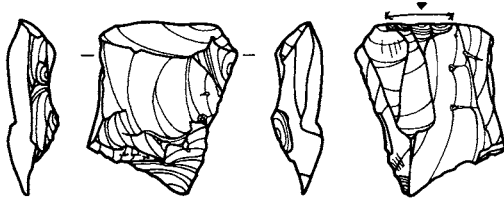
11D-84
004
黑曜石

1



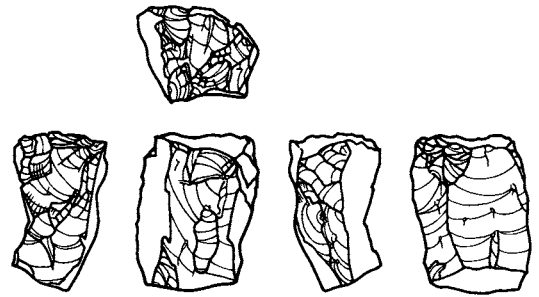
12C-18
003
黑曜石

2



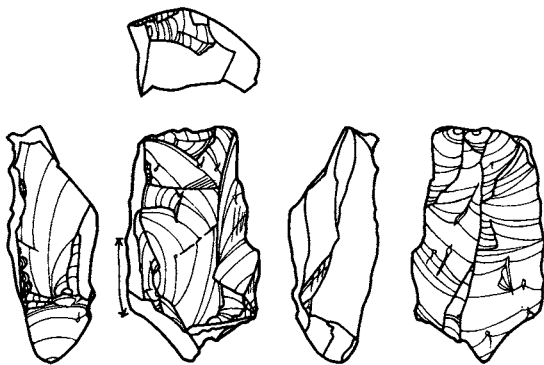
12D
005(7)
黑曜石

3



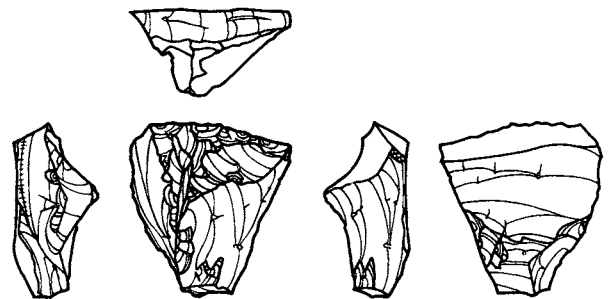
12C-59
008(1)
黑曜石

4



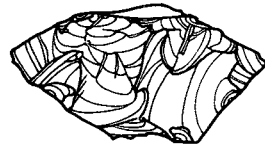
12D-50
004
黑曜石

5



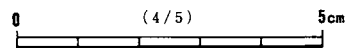
12D-90
007
黑曜石

6

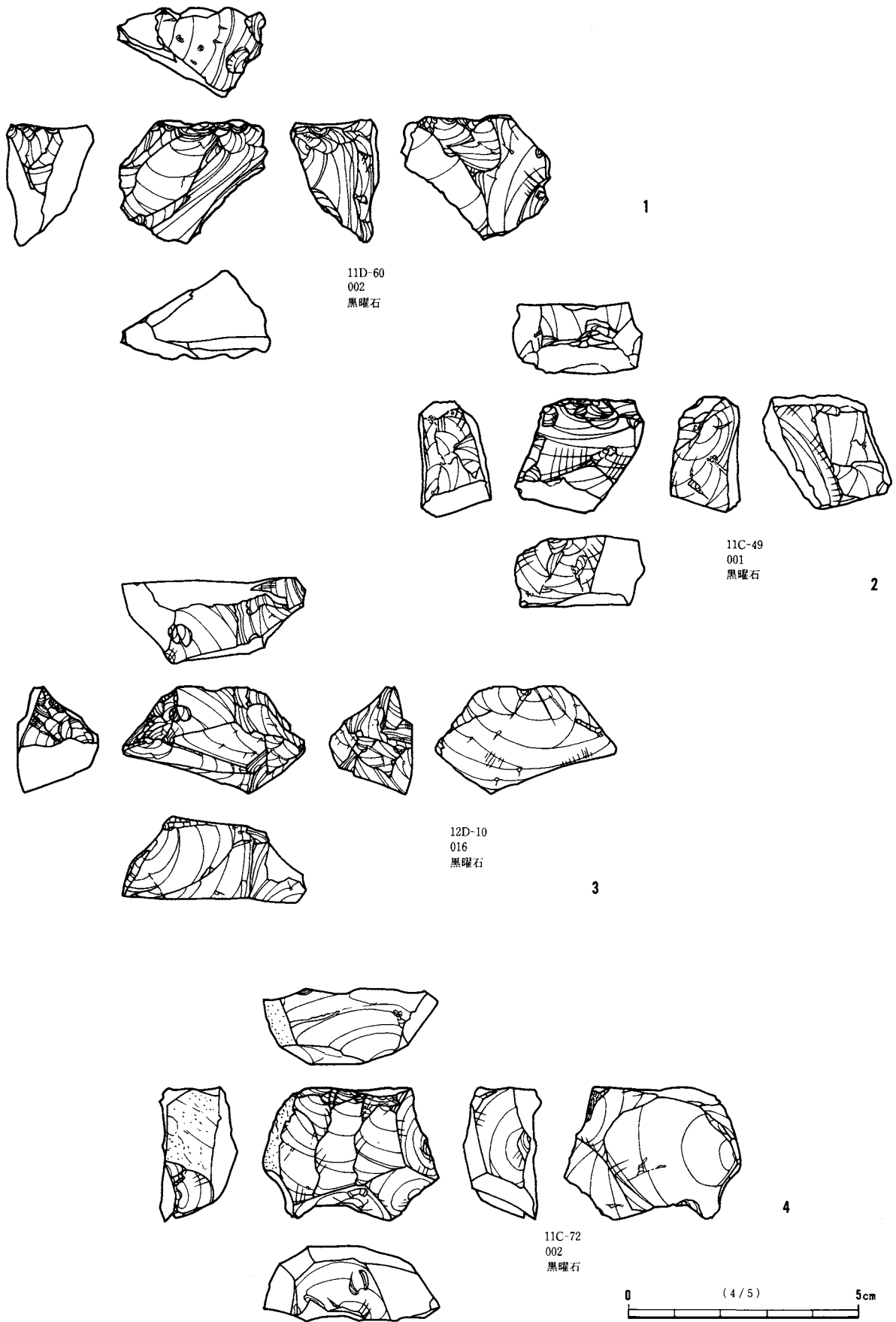


7

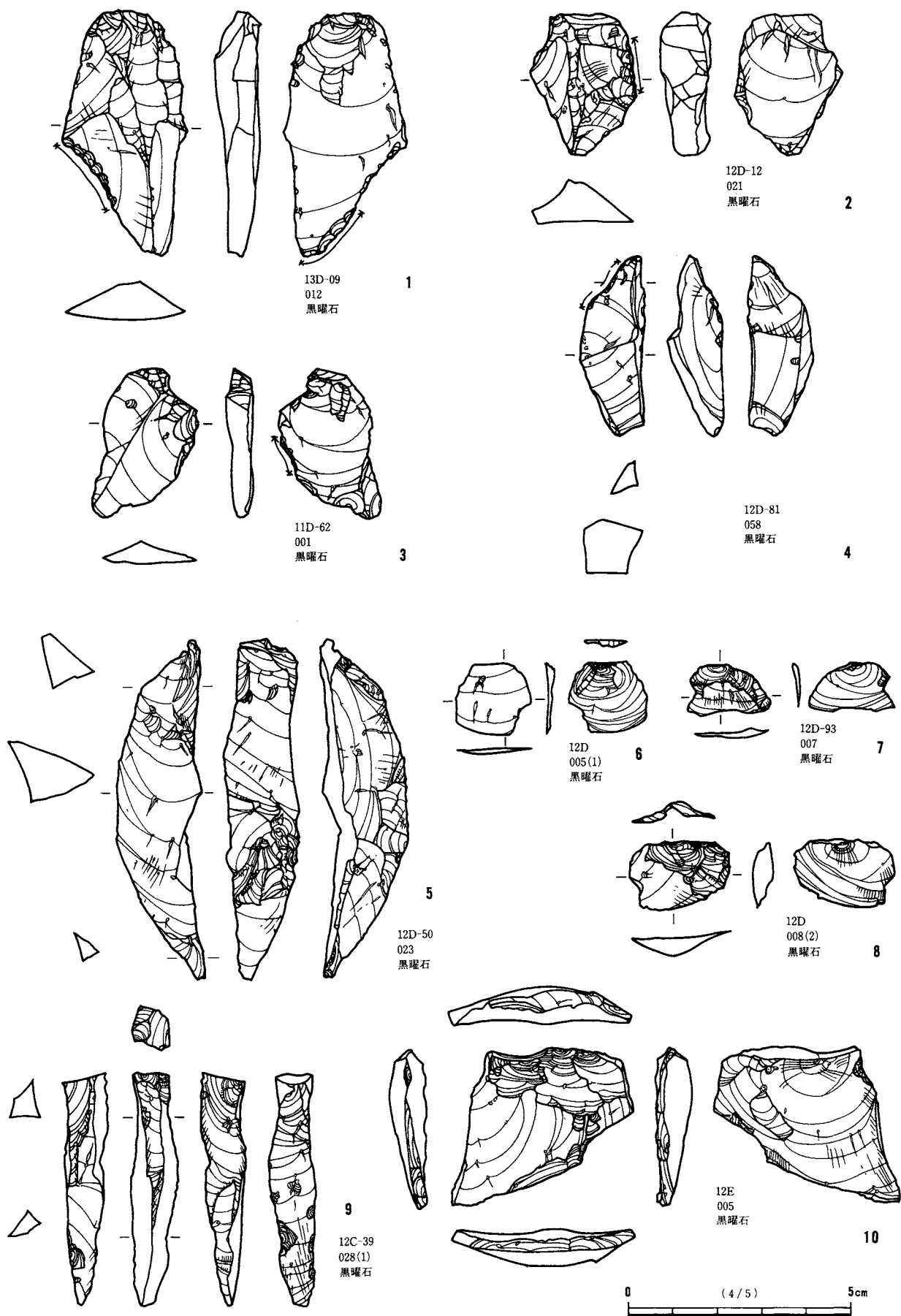
11D-60
001
黑曜石



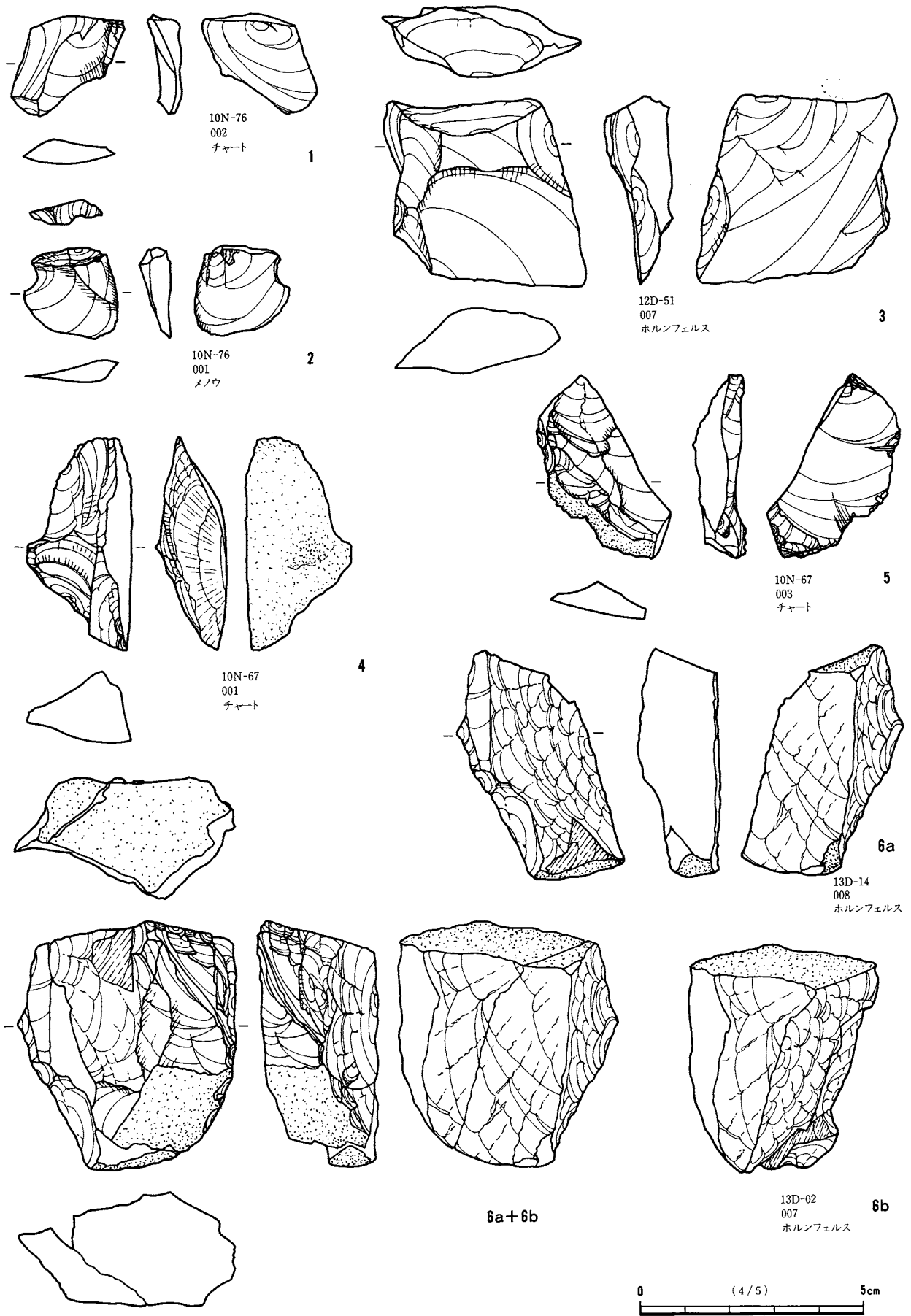
第129図 縄文時代石器(3) - 楔形石器・石核



第130図 縄文時代石器(4) - 石核



第131図 縄文時代石器 (5) -U·R-f 1・剥片



第132図 縄文時代石器（6）－剥片

同じ側に対しては、丁寧な周縁調整が施され、なめらかな曲線を描く平面形態となる。上面は、腹面側に見られる大きな剥離より、大きく抉られた形となる。さらに、打点を除去する剥離が背面側に見られる。1と同様な分割を試みたかどうかは不明であるが、調整剥離の終了後のものであり、使用中における欠損の可能性もある。なお、背面左側側面には、使用に伴うと思われる摩耗が認められる。3は短冊形の扁平礫（砂岩）を素材とした、片面調整の石斧である。刃部から背面右側縁部にかけて、細かな周縁調整が施される。上面の扁平剥離は、周縁調整終了後に行われている。摩耗面は、顕著ものが背面刃部近くに、わずかなものが背面左側面に認められる。刃部を見ると、明らかに摩耗後に剥離が行われており、摩耗した刃部の再調整と考えられる。なお、刃部下端は使用に伴うと思われる欠損面が観察される。いわゆる敲打痕と同じような欠損である。4は刃部周辺のみ、片面調整の石斧である。背面刃部周辺には、使用に伴うと思われる摩耗面が顕著である。摩耗よりも新しい剥離は認められない。5は短冊形で、扁平な礫（砂岩）を背面右側面より分割したものを素材としている。上面には、高さをそろえるような小規模な剥離が観察される。背面刃部側の剥離は、節理に衝撃が加わった結果のものである。6は、器面の風化が著しい、短冊形の扁平礫（ホルンフェルス）を素材としている。刃部は、両面からの比較的粗い剥離によって形成される。また、背面右側面にも、剥離が認められる。7は比較的大形で、不定形なホルンフェルス製の石斧である。刃部、背面右側縁及び腹面左側縁に調整剥離が施されている。背面右側面及び腹面の剥離は極めて粗い上、背面に凸面状の平滑面が認められることから、大形の磨石などの破損品を再加工したと考えられる。8は、楕円形の扁平礫（砂岩）を利用している。全体に風化が激しく、詳細は不明であるが、刃部及び背面右側縁に、粗い剥離の痕跡が認められる。9は大形で、短冊形の礫（ホルンフェルス）を利用している。刃部のみ、片面調整により作出する。上面は研磨により、腹面に対し鋭角となっている。装着に伴う加工とも考えられるが、詳細は不明である。

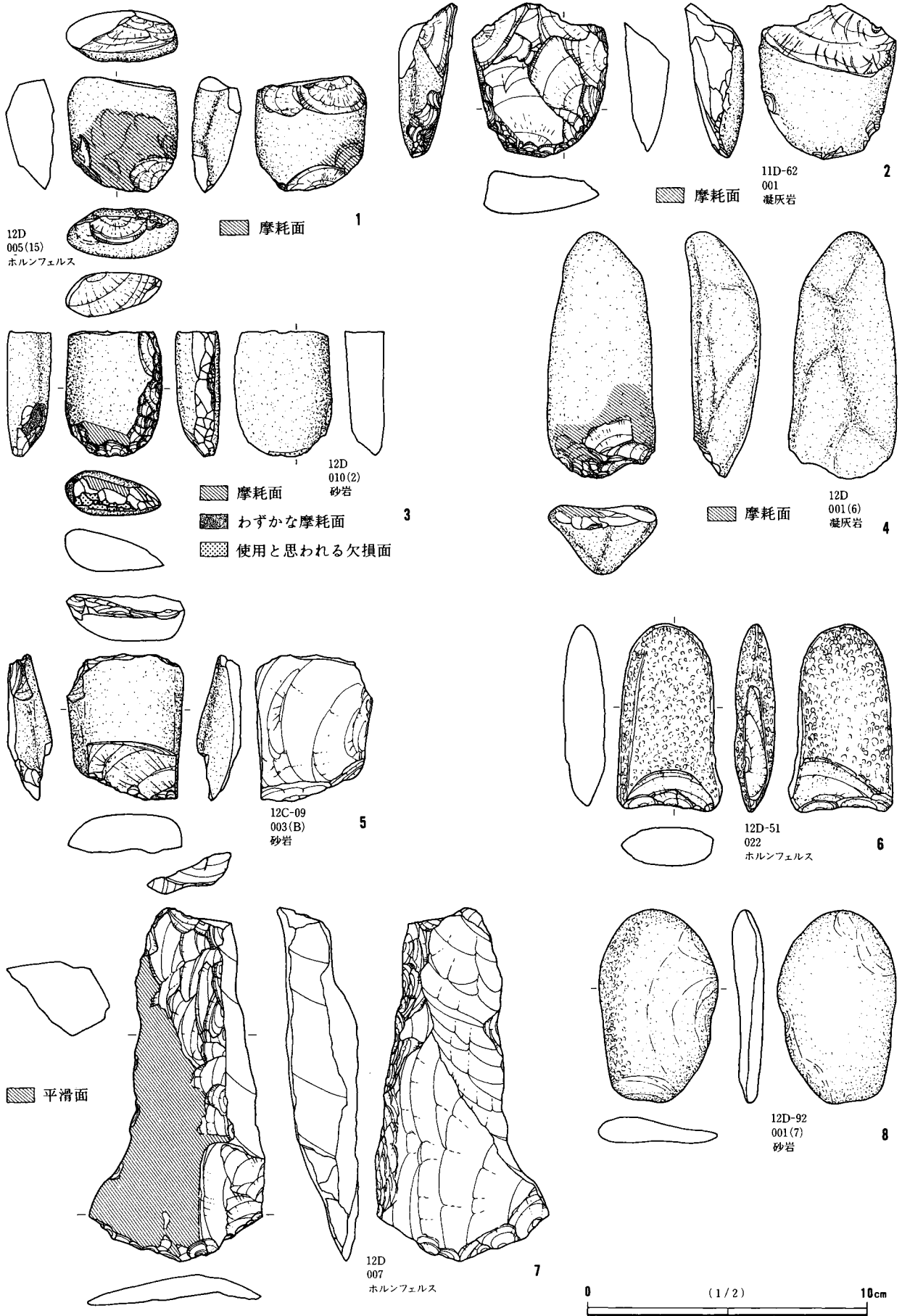
磨石・敲石（第135・136図、図版71）

磨石・敲石は、本調査区①を中心として126点出土した。完形品9点、破損品117点と破損品の割合が非常に高い。なお、磨石と敲石と一緒に分類したのは、後述するように併用しているものが多く、破損品が多い本遺跡では、厳密に分類することは困難と判断したためである。なお、石材は砂岩を主体として、石英斑岩、チャート、流紋岩などが用いられている。

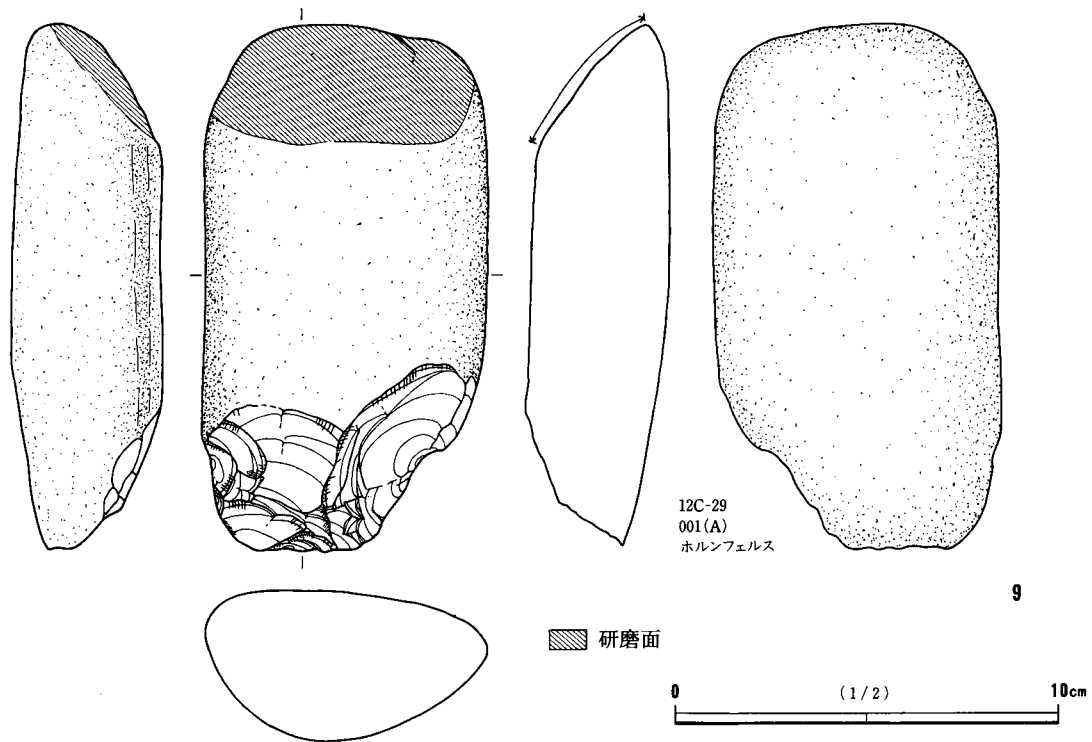
第135図3はほぼ円形の平面形態であり、表裏面ともよく研磨され、側縁には全周にわたって敲打痕が認められる。破損しているが、1・2もほぼ同様の特徴であると考えられる。4は、長楕円形の平面形態であると思われる。3と同様、表裏に研磨面、側縁に敲打痕が認められるが、下端部には顕著な敲打の痕跡が観察される。4・5は、側縁の一部に敲打痕を有する。第136図2～5は、楕円形又は長楕円形の平面形態であり、上下両端に顕著な敲打痕を有するものである。4は強い敲打に伴って、数度の剥離が起きている。3・5は、側面などにも、比較的弱い敲打の痕跡が観察される。1・6も破損品ではあるが、ほぼ同様の特徴であると考えられる。

凹石（第137図1～3、図版71）

凹石は、3点が検出され、全点を図示した。いずれも石英斑岩製である。1～3は、表裏面のほぼ中央部に窪みを有する。凹みの状態は、1が播鉢状である。2・3については、径が小さく、浅いものが重複している。いずれも赤化し、1・3については、凹みの周辺に焦げ跡が認められる。「火起こし」と関連する道具と考えられる。なお、1の側面には、顕著な敲打痕も観察される。



第133図 縄文時代石器(7) - 石斧



第134図 縄文時代石器(8) - 石斧

石皿(第137図4・5, 図版71)

石皿は、破片のみ7点検出された。いずれも安山岩製である。本報告では2点を図示した。4は表裏に磨面が認められ、破損後に赤化している。器面が荒れているため明確ではないが、側面には径1cm程度の凹みも認められる。5は、多孔質の安山岩製である。図表面にわずかながら磨り面が認められる。

(3) 礫(第138~140図)

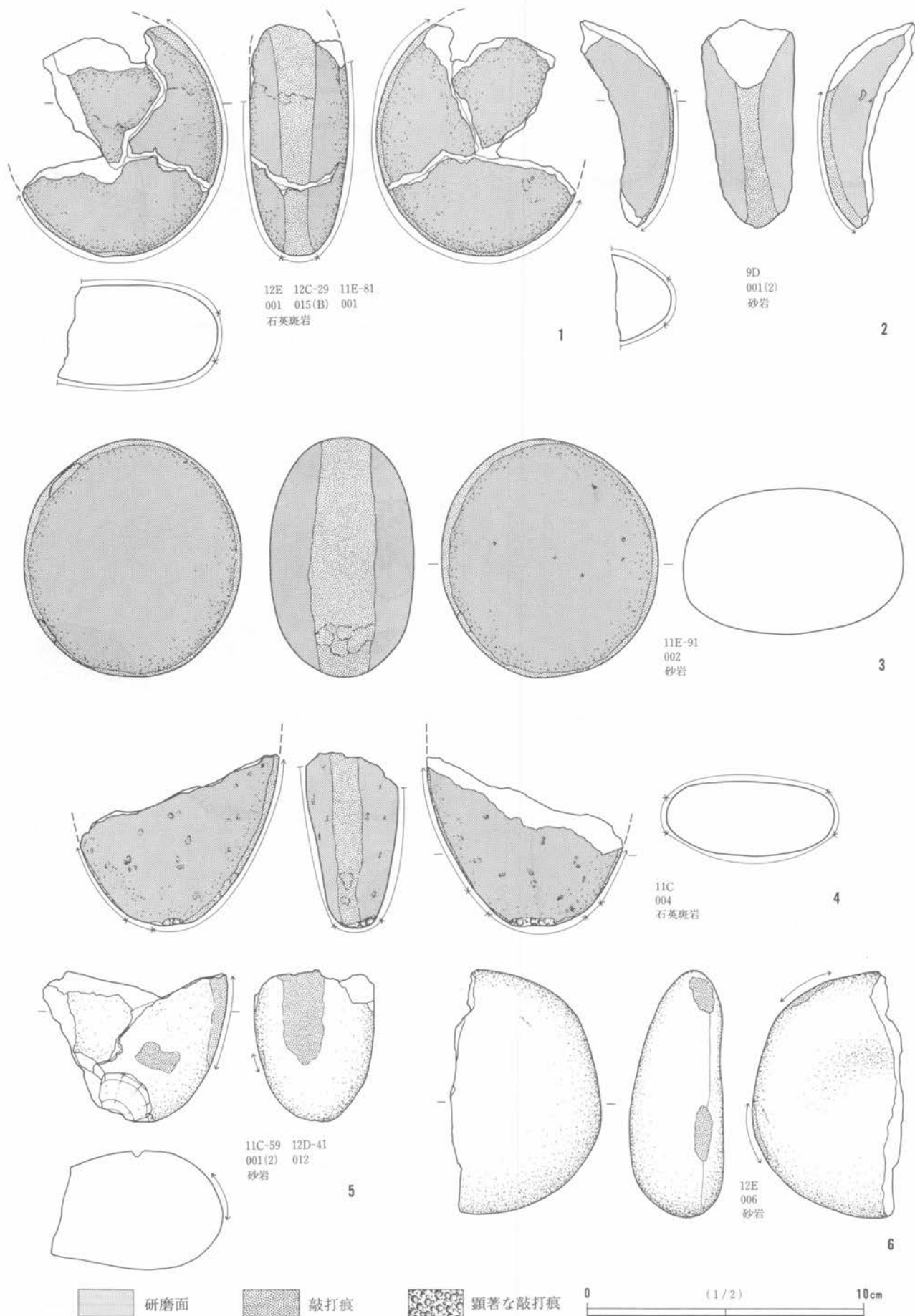
礫は、調査区全体から出土しているが、その9割以上が本調査区①に集中して検出された(第138図)。

分布は、遺構及び第Ⅲ群土器の分布傾向と類似しており、时期的にも共通するものと思われる。しかし、遺構が無く、土器の分布も少ない13Dグリッド北半の台地縁辺部にも、礫は多く分布している。礫のみが、斜面へ流れたという判断も可能であるが、礫のみが必要とされる行動の結果とも考えられる。さらに、礫が集中する12Dグリッド付近の出土状況を詳しく見てみると(第139図)、剥片などの石器類と分布が極めて近似していることがわかる。さらに、これらの分布密度が濃い部分は遺構(炉穴及び土坑)と場所を異にしている。掘込みを持つ遺構とは、違った機能を有する場所であることが想定される。

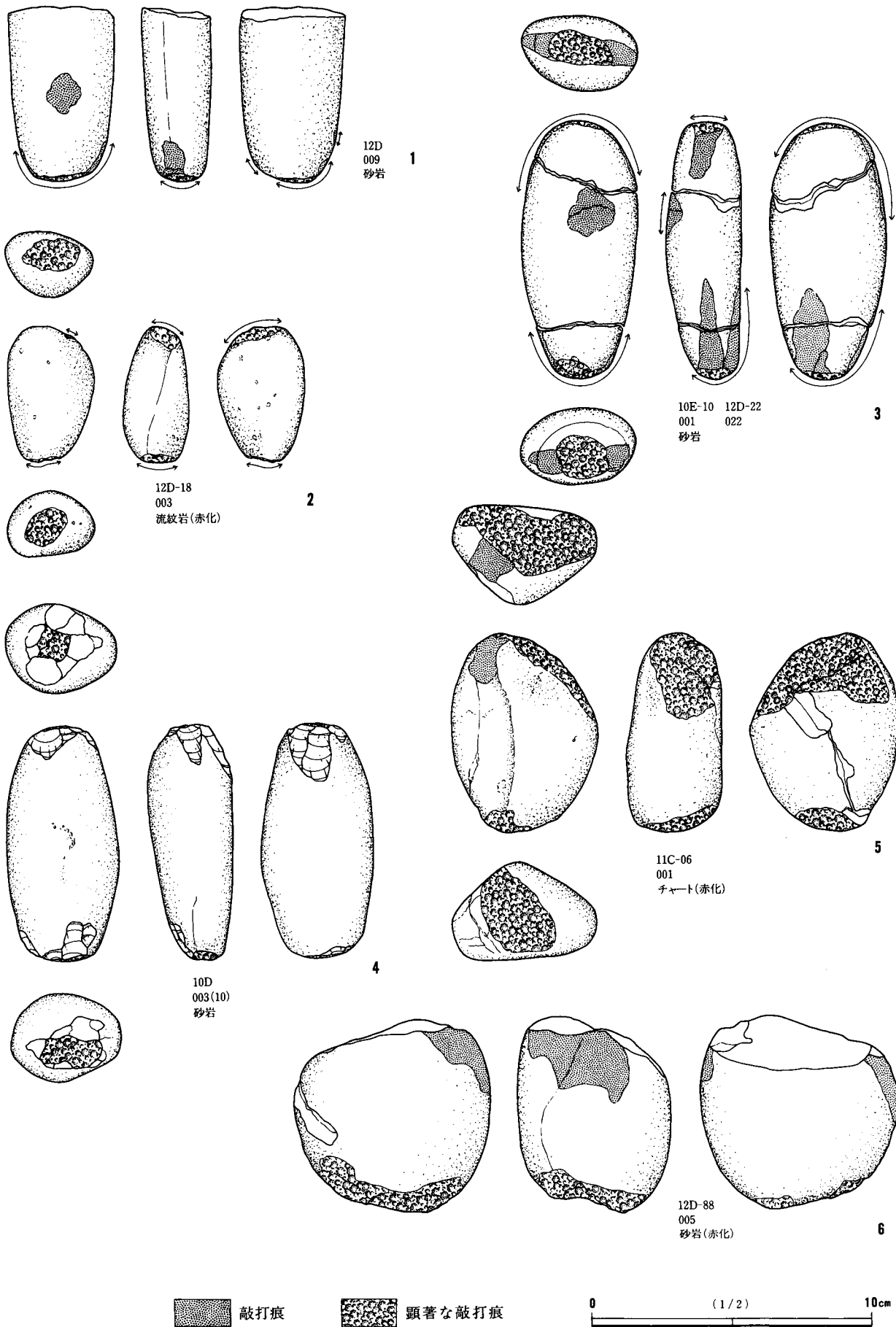
点数は、3,178点(115,688g)にも及んでいるが、その約60%が20g以下の小礫である(第190図)。また、完形率は約58%であるが、この比率は、質量分布と重ねても、ほぼ一定した値を保っている。つまり、小礫を目的として遺跡に持ち込み、多少の大小はありながらも、一定した礫利用を行っていた結果であると考えられる。しかし、11Cグリッドでは、全体に比して平均重量が極端に高い、大形の礫が集中している。この付近は遺構も少なく、場の機能差を示しているものと考えられ、注目すべき出土状況である。もちろん、時期差の可能性もあるが、土器の分布状況を見る限りでは、明確な時期差は読みとることができない。全体の出土量、分布状況を考慮すると、第Ⅲ群土器に伴うものであると判断したい。

注1 千葉県遺跡分布地図では「高木山遺跡」で掲載され、土師器を伴う貝塚となっている。

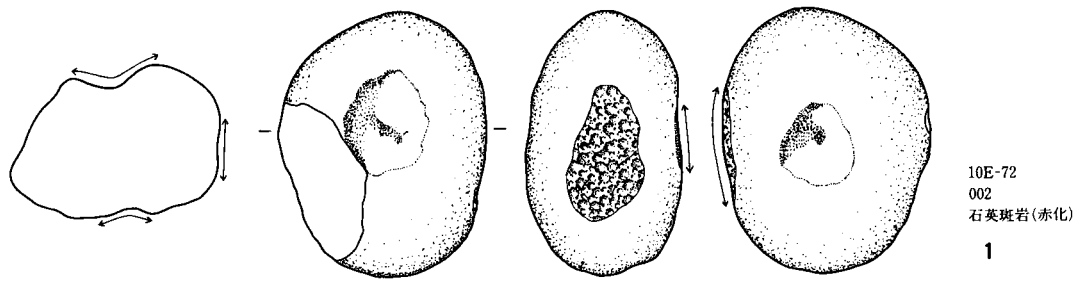
2 米田耕之助 1996 「1.不入斗元居原遺跡」『市原市文化財センター年報 平成4年度』



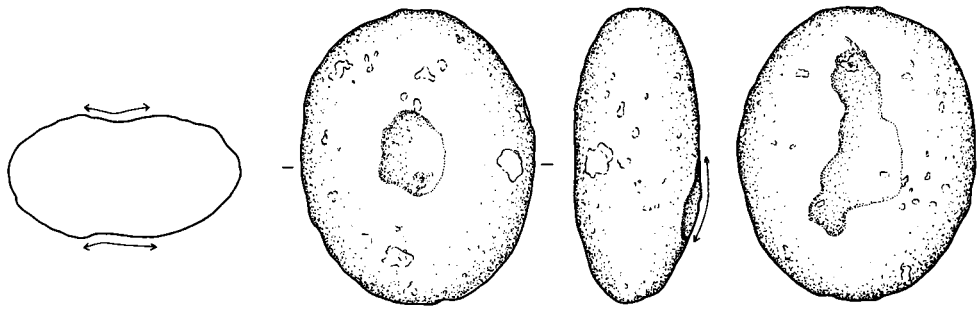
第135図 縄文時代石器(9) - 磨石・敲石



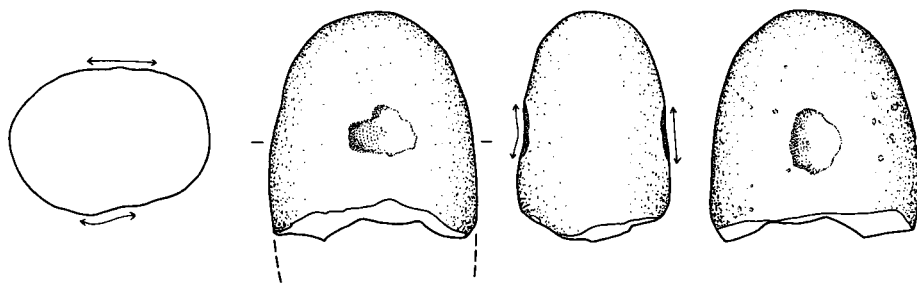
第136図 縄文時代石器(10) - 磨石・敲石



10E-72
002
石英斑岩(赤化)
1

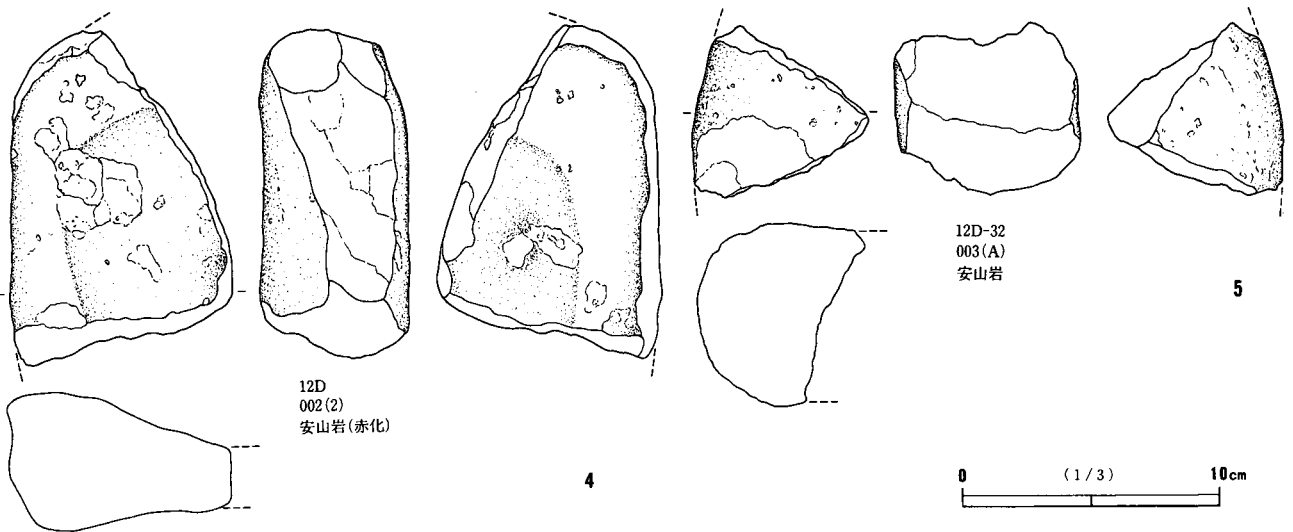


13D-13
009
石英斑岩(赤化)
2



12D
010
石英斑岩(赤化)
3

0 (1/2) 10cm

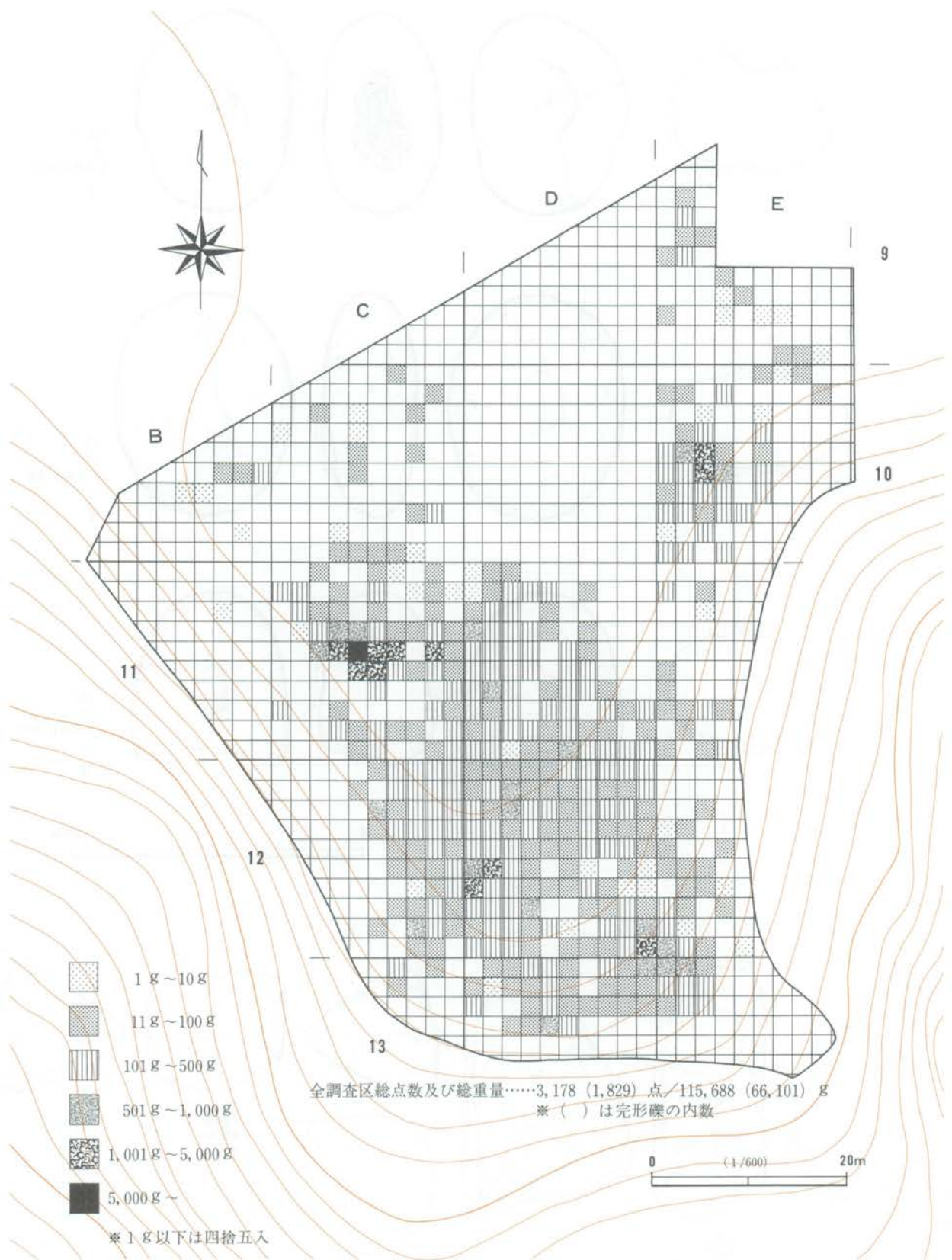


12D
002(2)
安山岩(赤化)

12D-32
003(A)
安山岩

0 (1/3) 10cm

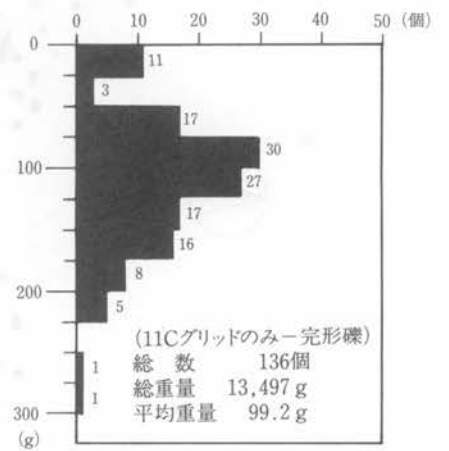
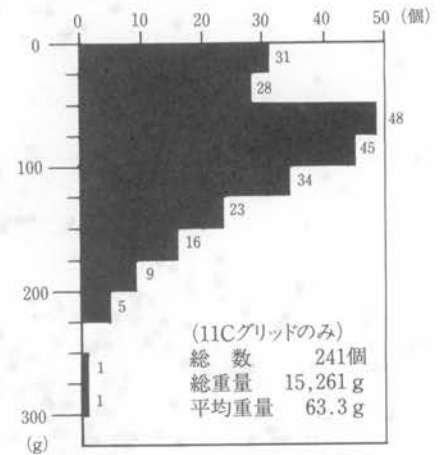
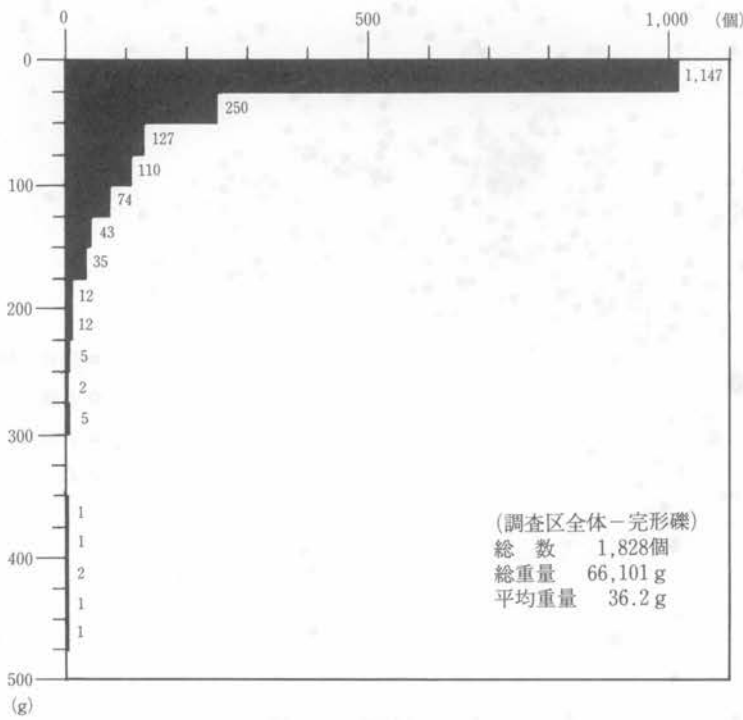
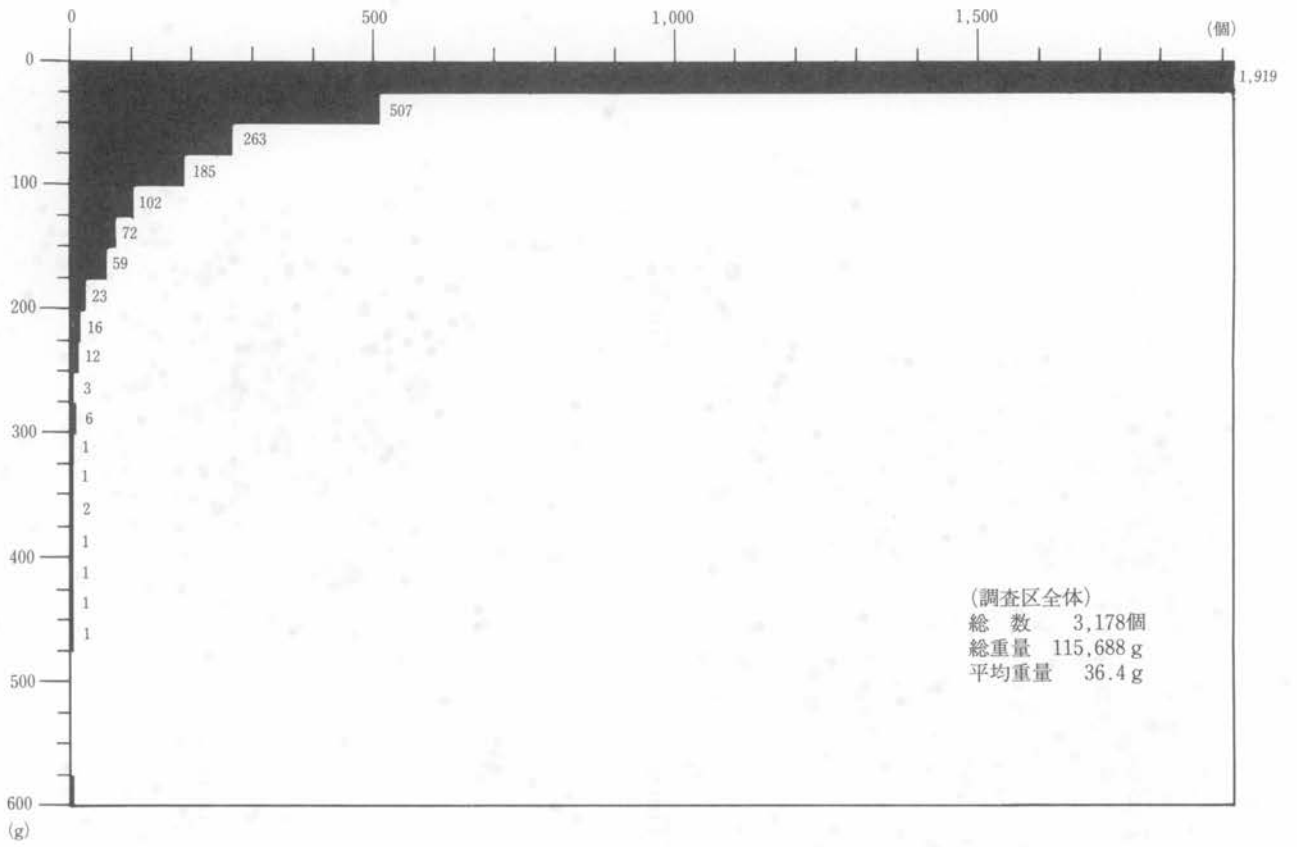
第137图 縄文時代石器(11) - 凹石・石皿



第138図 縄文時代碟重量分布



第139図 12Dグリッド付近石器類出土状況



第140図 縄文時代磔重量別出現頻度

第20表 遺構外出土石器 (実測分)

図 No.	グリッド	遺物 No.	器 種	石 材	全長(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	質量 (g)	備 考
第127図1	12C-59	007	尖 頭 器	凝 灰 岩	141.9	22.4	11.1	36.64	
第127図2	12D-11	031	尖 頭 器	チ ャ ー ト	63.8	30.4	15.4	21.02	
第127図3	12D-13	006	尖 頭 器	黒 曜 石	79.2	40.7	18.3	44.98	
第127図4	12D-53	003	尖 頭 器	凝 灰 岩	42.2	31.0	12.8	13.36	
第128図1	11C-89	001-3	石 鏃	黒 曜 石	13.0	9.9	2.2	0.20	
第128図2	12D-91	025	石 鏃	黒 曜 石	14.9	11.0	3.0	0.40	
第128図3	12E-71	002	石 鏃	黒 曜 石	17.5	13.4	3.0	0.49	
第128図4	10C-78	003	石 鏃	黒 曜 石	19.5	12.8	2.9	0.60	
第128図5	12C-39	022	石 鏃	黒 曜 石	21.1	13.5	3.8	0.96	
第128図6	12D-33	001	石 鏃	黒 曜 石	15.3	15.5	4.7	0.86	
第128図7	12C-29	016-B	石 鏃	黒 曜 石	11.8	12.3	3.2	0.44	
第128図8	11D-91	008	石 鏃	黒 曜 石	13.1	12.0	3.7	0.49	
第128図9	12D	005-2	石 鏃	黒 曜 石	15.3	14.4	6.2	1.05	
第128図10	12D	005-3	石 鏃	黒 曜 石	14.9	11.5	3.9	0.58	
第128図11	12D-26	010-A	石 鏃	黒 曜 石	14.4	13.2	3.7	0.53	
第128図12	12D-50	021	石 鏃	黒 曜 石	15.1	12.4	4.4	0.66	
第128図13	10E-55	001	石 鏃	黒 曜 石	23.6	14.9	5.6	1.07	
第128図14	12C-47	001	石 鏃	黒 曜 石	19.8	10.1	4.0	0.72	
第128図15	11D	001-7	石 鏃	黒 曜 石	25.8	14.7	5.7	1.19	
第128図16	11D-90	004	石鏃未製品	黒 曜 石	17.0	14.0	3.4	0.84	
第128図18	12D	003	石鏃未製品	凝 灰 岩	26.5	17.8	7.7	2.67	
第128図18	11D-21	001	石鏃未製品	チ ャ ー ト	27.0	19.3	6.6	3.19	
第128図19	12D-20	010-A	石鏃未製品	黒 曜 石	31.1	18.8	9.7	4.42	
第128図20	12D-61	104	石鏃未製品	黒 曜 石	20.0	17.5	4.2	1.17	
第128図21	13E-01	013	石鏃未製品	黒 曜 石	22.5	21.0	10.9	3.90	
第128図22	12D-81	018	石鏃未製品	黒 曜 石	25.3	22.0	9.4	4.10	
第128図23	12C-36	001-1	石鏃未製品	黒 曜 石	26.4	18.7	6.9	2.72	
第128図24	12D	005-1	石鏃未製品	黒 曜 石	20.4	15.3	7.2	1.85	
第128図25	12D-05	001	石鏃未製品	黒 曜 石	20.2	15.7	5.5	1.06	
第129図1	11D-84	004	楔形石器	黒 曜 石	28.1	12.4	8.3	3.05	
第129図2	12C-18	003	楔形石器	黒 曜 石	24.5	23.5	12.9	5.17	
第129図3	12D	005-7	楔形石器	黒 曜 石	27.8	24.5	8.4	5.06	
第129図4	12C-59	008-1	石 核	黒 曜 石	25.6	19.7	15.2	8.84	
第129図5	12D-50	004	石 核	黒 曜 石	37.6	21.8	14.5	11.87	
第129図6	12D-90	007	石 核	黒 曜 石	28.0	26.3	14.0	7.78	
第129図7	11D-60	001	石 核	黒 曜 石	22.5	42.2	15.9	11.09	
第130図1	11D-60	002	石 核	黒 曜 石	26.4	32.5	19.0	11.56	
第130図2	11C-49	001	石 核	黒 曜 石	24.0	28.4	15.0	9.61	
第130図3	12D-10	016	石 核	黒 曜 石	23.0	39.6	17.8	12.19	
第130図4	11C-72	002	石 核	黒 曜 石	28.5	38.3	17.1	16.56	
第131図1	13D-09	012	U・R-f1	黒 曜 石	53.5	28.6	10.6	9.74	
第131図2	12D-12	021	U・R-f1	黒 曜 石	31.8	24.0	11.4	5.96	
第131図3	11D-62	001	U・R-f1	黒 曜 石	32.9	23.6	6.3	3.09	
第131図4	12D-81	058	U・R-f1	黒 曜 石	39.6	14.4	13.1	5.58	
第131図5	12D-50	023	剥 片	黒 曜 石	75.3	19.2	16.8	15.89	縦長剥片
第131図6	12D	005-1	剥 片	黒 曜 石	15.7	17.0	2.0	0.44	
第131図7	12D-93	007	剥 片	黒 曜 石	11.0	18.6	1.7	0.33	
第131図8	12D	008-2	剥 片	黒 曜 石	15.0	23.0	4.3	1.12	
第128図9	12C-39	028-1	剥 片	黒 曜 石	52.5	11.0	10.0	4.41	
第131図10	12E	005	剥 片	黒 曜 石	34.4	41.5	8.0	9.98	
第132図1	10N-76	002	剥 片	チ ャ ー ト	22.0	25.6	7.5	2.81	
第132図2	10N-76	001	剥 片	メ ノ ウ	20.3	21.3	6.7	1.92	
第132図3	12D-51	007	剥 片	ホルンフェルス	41.3	45.0	14.9	25.88	
第132図4	10N-67	001	剥 片	チ ャ ー ト	47.0	23.4	16.0	13.37	
第132図5	10N-67	003	剥 片	チ ャ ー ト	40.2	30.1	11.6	8.04	
第132図6	13D-02	007	剥 片	ホルンフェルス	54.8	49.4	26.6	57.84	13D-14 008と接合
第132図6	13D-14	008	剥 片	ホルンフェルス	50.5	37.5	18.2	20.61	13D-02 007と接合 破損
第133図1	12D	005-15	石 斧	ホルンフェルス	40.8	40.0	17.5	37.06	

(第20表 続き)

図 No.	グリッド	遺物 No.	器 種	石 材	全長(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	質量 (g)	備 考
第133図 2	11D-62	001-2	石 斧	凝 灰 岩	54.6	48.9	20.9	50.27	
第133図 3	12D	010-2	石 斧	砂 岩	44.0	35.0	15.7	36.17	
第133図 4	12D	001-6	石 斧	凝 灰 岩	86.6	39.1	26.4	106.40	
第133図 5	12C-09	003-B	石 斧	砂 岩	52.2	42.0	15.8	41.43	
第133図 6	12D-51	022	石 斧	ホルンフェルス	66.3	38.0	4.2	54.09	
第133図 7	12D	007	石 斧	ホルンフェルス	125.3	62.9	29.0	159.92	
第133図 8	12D-92	001-7	石 斧	砂 岩	68.3	42.7	11.4	40.05	
第134図 9	12C-29	001-A	石 斧	ホルンフェルス	135.5	75.2	38.2	563.72	
第135図 1	12C-29	015-5	磨石・敲石	石英斑岩	82.8	73.5	36.0	251.68	11E81-001・12E-001 と接合、破損
第135図 2	9D	001-2	磨石・敲石	砂 岩	73.6	34.5	33.8	51.09	破損
第135図 3	11E-91	002	磨石・敲石	砂 岩	85.6	80.0	52.2	30.75	完形
第135図 4	11C	004	磨石・敲石	石英斑岩	62.6	72.5	34.2	143.36	破損
第135図 5	11C-59	001-2	磨石・敲石	砂 岩	54.5	67.2	43.4	183.61	12D41-012と接合、破損
第135図 6	12E	006	磨石・敲石	砂 岩	88.4	55.2	34.5	229.68	破損
第136図 1	12D	009	敲 石	砂 岩	61.0	38.2	25.0	86.82	破損
第136図 2	12D-18	003	敲 石	流 紋 岩	47.8	31.0	23.3	42.99	破損
第136図 3	12D-22	022	敲 石	砂 岩	91.0	42.3	26.5	137.36	10E-010-1と接合、完形
第136図 4	10D	003-10	敲 石	砂 岩	82.9	40.5	30.4	148.50	完形
第136図 5	11C-06	001	敲 石	チャート	70.6	53.3	34.6	151.34	完形
第136図 6	12D-88	005	敲 石	砂 岩	68.3	71.4	54.2	336.46	破損
第137図 1	10E-72	002	凹 石	石英斑岩	68.1	55.2	40.7	151.66	破損
第137図 2	12D	010	凹 石	石英斑岩	59.2	54.5	39.7	148.69	破損
第137図 3	13D-13	009	凹 石	石英斑岩	75.8	61.5	33.1	143.21	完形
第137図 4	12D-32	003-A	石 皿	安 山 岩	67.0	68.4	71.5	263.10	破損
第137図 5	12D	002-2	石 皿	安 山 岩	127.5	87.6	57.7	590.36	破損

第21表 遺構外出土石器 (未実測分)

図 No.	グリッド	遺物 No.	器 種	石 材	全長(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	質量 (g)	備 考
	11C-24	001	石 鏃	凝 灰 岩	1.8	1.2	0.3	0.5	
	11C-51	001	石 鏃	黒曜石	1.9	1.3	0.3	0.7	
	11D-90	005	石 鏃	黒曜石	1.0	1.2	0.3	0.5	
	12C-49	006	石 鏃	黒曜石	1.1	0.8	0.3	0.2	
	12D-62	028	石 鏃	黒曜石	1.1	0.8	0.4	0.4	
	12E-40	006	石 鏃	黒曜石	1.7	1.3	0.3	0.9	
	11D	007-1	石鏃未製品	黒曜石	2.4	2.6	1.0	6.2	
	12D-12	021	石鏃未製品	黒曜石	1.2	2.0	0.9	1.5	
	12D-76	002	石鏃未製品	黒曜石	1.9	1.6	0.7	2.1	
	11D-32	001	楔形石器	黒曜石	3.3	3.8	1.3	10.7	
	11D	007-6	楔形石器	黒曜石	2.4	1.2	0.7	1.6	
	12D-31	008-A	楔形石器	黒曜石	3.0	1.3	0.9	4.4	
	12D	005-6	楔形石器	黒曜石	2.1	2.4	1.2	6.5	
	12E-70	015	楔形石器	黒曜石	2.1	1.9	0.7	1.7	
	11C-28	001	石 核	黒曜石	2.5	1.6	1.2	5.7	
	11D-33	001-1	石 核	黒曜石	3.4	2.4	1.9	4.7	
	12D-10	003	石 核	黒曜石	1.8	2.4	1.7	7.0	
	12D-20	012-B	石 核	黒曜石	2.6	1.3	1.7	6.0	
	12D-30	002-A	石 核	黒曜石	2.3	2.7	1.1	4.8	
	12D-60	013	石 核	黒曜石	2.4	2.1	1.6	9.7	
	12D-61	060	石 核	黒曜石	3.5	2.7	2.1	16.0	
	12D-71	014	石 核	黒曜石	2.1	1.6	1.3	4.3	
	12D-71	022	石 核	黒曜石	2.8	1.9	0.8	4.1	
	12D-79	010	石 核	黒曜石	1.8	2.8	1.3	6.4	
	12D	005-5	石 核	黒曜石	2.2	2.2	1.7	8.1	
	12D	005-8	石 核	黒曜石	2.4	1.7	1.2	3.8	
	表採		石 核	黒曜石	3.4	5.7	2.3	43.9	
	9D	003-1	U・R-f1	黒曜石	2.7	1.6	0.6	1.7	
	9D	003-3	U・R-f1	黒曜石	1.5	1.0	0.2	0.3	
	9D	003-3	U・R-f1	黒曜石	1.5	1.0	1.2	0.2	
	10B-49	001-2	U・R-f1	黒曜石	1.7	1.1	0.4	0.7	

(第21表 続き)

図 No	グリッド	遺物 No	器 種	石 材	全長(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	備 考
	10D	003-1	U・R-f1	黒曜石	1.4	3.1	0.9	2.5	
	10D	003-2	U・R-f1	黒曜石	2.9	1.6	0.6	1.9	
	10D	003-3	U・R-f1	黒曜石	1.9	2.9	0.5	1.7	
	10D	003-4	U・R-f1	黒曜石	2.2	2.0	1.1	3.0	
	10D	003-5	U・R-f1	黒曜石	1.7	2.4	0.9	2.1	
	11C-69	001-2	U・R-f1	黒曜石	1.0	1.7	0.4	0.8	
	11C-89	001-1	U・R-f1	黒曜石	2.2	3.0	1.8	5.2	
	11C-89	001-2	U・R-f1	黒曜石	1.8	1.8	0.7	3.0	
	11D-41	001	U・R-f1	黒曜石	3.0	2.0	0.9	3.5	
	11D-50	001	U・R-f1	黒曜石	1.8	1.5	0.7	1.5	
	11D-72	001-1	U・R-f1	黒曜石	2.7	1.3	0.5	1.4	
	12C-19	006-2	U・R-f1	黒曜石	1.2	1.6	0.4	0.7	
	12D-67	001	U・R-f1	チャート	2.0	2.5	1.0	5.4	
	12D-82	005	U・R-f1	黒曜石	1.9	2.2	0.7	2.6	
	12D-90	006	U・R-f1	黒曜石	1.9	2.2	0.6	2.1	
	12E-30	003	U・R-f1	黒曜石	1.0	2.1	0.5	0.4	
	13D-13	008	U・R-f1	黒曜石	2.2	2.6	1.2	4.6	
	13E-02	002	U・R-f1	黒曜石	2.8	0.9	1.1	2.8	
	9D-68	001	剥片	黒曜石	1.0	1.6	0.6	0.7	
	9D	003-2	剥片	黒曜石	1.6	1.9	0.2	0.3	
	9D	003-4	剥片	黒曜石	1.0	1.5	0.2	0.3	
	9E-75	001	剥片	チャート	1.4	0.8	0.6	0.9	
	9E-87	002	剥片	安山岩	2.4	2.3	0.8	4.8	
	9E-94	001	剥片	黒曜石	1.7	1.0	0.4	0.6	
	9E	001	剥片	黒曜石	3.3	1.7	1.2	4.9	
	9F-22	001	剥片	黒曜石	2.2	3.1	1.0	4.3	
	9M-55	002	剥片	安山岩	3.0	2.5	2.6	4.2	
	10B-49	001	剥片	黒曜石	1.7	1.7	0.7	1.7	
	10D	003-6	剥片	黒曜石	2.0	1.5	0.5	1.6	
	10D	003-7	剥片	黒曜石	1.3	2.0	0.5	0.9	
	10E-00	001	剥片	黒曜石	1.4	2.5	0.4	1.4	
	10E-02	002-1	剥片	黒曜石	2.6	1.3	0.4	0.9	
	10E-03	001-1	剥片	黒曜石	1.3	3.1	1.1	2.8	
	10E-03	001-2	剥片	黒曜石	1.3	0.8	0.2	0.2	
	10E-27	001	剥片	黒曜石	1.7	0.8	0.7	0.6	
	10E-43	002	剥片	黒曜石	2.4	1.2	0.7	1.7	
	10E-72	002	剥片	黒曜石	2.4	1.2	0.7	1.7	
	10E-74	001	剥片	黒曜石	2.6	1.9	0.5	1.6	
	10E-93	003	剥片	黒曜石	2.4	2.1	0.8	2.2	
	10K-27	001	剥片	安山岩	2.0	1.7	0.6	1.6	
	10N-46	001	剥片	チャート	2.2	2.8	1.1	5.4	
	10N-55	001	剥片	チャート	1.2	0.8	0.6	0.6	
	10N-56	001	剥片	流紋岩	2.3	1.7	0.5	2.3	
	10N-77	002	剥片	メノウ	1.9	1.7	1.0	1.9	
	11C-23	002	剥片	チャート	2.5	1.7	0.7	3.8	
	11C-45	025	剥片	安山岩	4.2	3.7	1.0	12.3	
	11C-48	001	剥片	黒曜石	2.7	1.7	1.3	5.7	
	11C-58	001-1	剥片	黒曜石	1.9	2.8	1.2	4.9	
	11C-58	001-2	剥片	黒曜石	1.2	1.3	0.6	1.0	
	11C-59	001	剥片	黒曜石	2.3	2.2	1.1	3.8	
	11C-68	003	剥片	黒曜石	2.3	1.6	1.1	5.1	
	11C-69	001-1	剥片	黒曜石	1.8	2.4	0.6	1.7	
	11C-69	002	剥片	黒曜石	2.5	2.0	0.9	2.0	
	11C-77	003-1	剥片	黒曜石	1.3	1.8	0.4	1.0	
	11C-79	001-1	剥片	黒曜石	1.9	2.1	0.7	1.6	
	11C-79	001-2	剥片	黒曜石	1.0	1.8	0.2	0.7	
	11C-89	001-4	剥片	黒曜石	1.3	1.3	0.4	0.4	
	11C-89	001-5	剥片	黒曜石	1.5	1.3	0.4	0.6	
	11C-98	004-1	剥片	黒曜石	2.4	2.7	0.5	2.1	
	11C-98	004-2	剥片	黒曜石	1.7	1.9	0.8	2.1	

(第21表 続き)

図 No.	グリッド	遺物 No.	器 種	石 材	全長(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	質量 (g)	備 考
	11C-99	001-1	剥 片	黒 曜 石	3.9	1.6	1.6	7.5	
	11C-99	001-2	剥 片	黒 曜 石	4.3	1.7	0.7	4.0	
	11C-99	001-3	剥 片	黒 曜 石	1.7	1.4	0.5	0.7	
	11C	002-3	剥 片	黒 曜 石	1.4	1.6	0.5	0.7	
	11C	002-1	剥 片	黒 曜 石	3.2	1.8	0.7	2.8	
	11C	002-2	剥 片	黒 曜 石	2.1	2.4	0.3	1.0	
	11D-11	001	剥 片	黒 曜 石	2.0	1.2	0.6	1.1	
	11D-27	001	剥 片	黒 曜 石	1.8	1.4	0.5	0.9	
	11D-33	001-2	剥 片	黒 曜 石	2.9	2.6	1.1	8.6	
	11D-50	002-1	剥 片	黒 曜 石	1.8	2.1	0.4	0.6	
	11D-51	001	剥 片	黒 曜 石	1.5	1.9	0.2	0.5	
	11D-53	001	剥 片	黒 曜 石	1.9	0.9	0.2	0.3	
	11D-61	001-1	剥 片	黒 曜 石	1.6	1.2	0.5	0.8	
	11D-70	001	剥 片	砂 岩	3.0	4.2	0.8	8.3	
	11D-72	001-2	剥 片	黒 曜 石	2.1	1.2	0.2	0.4	
	11D-75	002	剥 片	黒 曜 石	2.1	1.8	1.0	2.9	
	11D-80	002-1	剥 片	黒 曜 石	1.2	1.7	1.1	1.2	
	11D-80	002-2	剥 片	黒 曜 石	1.3	1.7	0.3	0.5	
	11D-86	003	剥 片	黒 曜 石	1.7	0.9	0.3	0.3	
	11D-89	002	剥 片	黒 曜 石	1.1	2.2	1.0	1.3	
	11D-91	010-1	剥 片	黒 曜 石	1.7	1.9	0.8	1.8	
	11D-91	010-2	剥 片	黒 曜 石	2.3	1.8	0.5	1.3	
	11D-94	003	剥 片	黒 曜 石	1.4	1.3	0.4	0.4	
	11D-96	011	剥 片	安 山 岩	4.3	4.1	0.8	8.3	
	11D-97	016	剥 片	安 山 岩	3.6	2.1	1.7	12.5	
	11D-97	018	剥 片	黒 曜 石	2.2	2.0	0.6	3.8	
	11D-99	003	剥 片	黒 曜 石	2.1	2.0	0.4	1.4	
	11D	001-4	剥 片	黒 曜 石	3.2	1.3	1.2	5.2	
	11D	001-2	剥 片	黒 曜 石	2.0	2.1	0.5	1.3	
	11D	001-6	剥 片	黒 曜 石	2.1	1.5	0.4	1.0	
	11D	007-2	剥 片	黒 曜 石	3.1	1.9	1.0	3.2	
	11D	007-3	剥 片	黒 曜 石	1.8	2.9	0.7	2.4	
	11D	007-4	剥 片	黒 曜 石	1.6	2.3	0.6	1.2	
	11D	007-5	剥 片	黒 曜 石	1.2	2.1	0.4	1.1	
	11D	007-7	剥 片	黒 曜 石	1.9	1.2	0.8	1.5	
	11D	007-8	剥 片	黒 曜 石	1.4	1.8	0.8	1.9	
	11D	007-9	剥 片	黒 曜 石	1.0	1.2	0.3	0.5	
	11D	007-10	剥 片	黒 曜 石	1.8	0.8	0.3	0.2	
	11E-23	001	剥 片	黒 曜 石	2.1	2.5	0.7	1.5	
	12C-09	003-A	剥 片	安 山 岩	5.3	4.0	2.1	51.0	
	12C-09	004	剥 片	黒 曜 石	1.3	1.7	0.8	1.3	
	12C-14	001	剥 片	黒 曜 石	1.2	1.6	0.5	0.6	
	12C-17	002	剥 片	安 山 岩	3.9	3.4	2.9	38.1	
	12C-19	006-1	剥 片	黒 曜 石	2.2	1.7	0.9	2.3	
	12C-19	006-3	剥 片	黒 曜 石	1.6	1.2	0.3	0.5	
	12C-27	002	剥 片	黒 曜 石	1.6	2.3	1.7	5.3	
	12C-28	005	剥 片	黒 曜 石	2.0	1.3	0.8	2.1	
	12C-28	006-1	剥 片	黒 曜 石	1.5	1.9	1.0	1.5	
	12C-29	013	剥 片	黒 曜 石	1.2	1.5	0.8	1.2	
	12C-29	015	剥 片	黒 曜 石	1.9	3.8	1.4	9.2	
	12C-36	001-2	剥 片	黒 曜 石	1.0	1.6	0.2	0.5	
	12C-37	010	剥 片	黒 曜 石	11.5	1.6	0.3	0.7	
	12C-39	013	剥 片	黒 曜 石	1.6	1.4	0.6	1.0	
	12C-39	015	剥 片	砂 岩	4.0	4.0	11.0	12.2	
	12C-45	001	剥 片	黒 曜 石	1.7	1.2	0.3	0.3	
	12C-47	002	剥 片	黒 曜 石	2.0	1.5	0.2	0.7	
	12C-49	002-1	剥 片	黒 曜 石	1.9	1.2	0.9	1.9	
	12C-49	004	剥 片	黒 曜 石	1.5	1.0	0.7	0.7	
	12C-59	008-2	剥 片	黒 曜 石	2.0	2.4	0.6	2.2	
	12C-59	008-3	剥 片	黒 曜 石	1.8	1.9	0.5	1.6	

(第21表 続き)

図 No	グリッド	遺物 No.	器 種	石 材	全長(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	質量 (g)	備 考
	12C-66	001	剥 片	チャート	2.5	1.1	1.2	2.6	
	12C-68	002	剥 片	チャート	1.8	1.9	0.6	3.1	
	12C-77	005	剥 片	黒曜石	1.2	1.9	0.5	1.2	
	12C-86	001	剥 片	安山岩	2.3	1.8	0.3	1.6	
	12C-88	003	剥 片	黒曜石	2.0	2.3	0.3	1.5	
	12C-95	002	剥 片	黒曜石	1.2	1.5	0.5	0.4	
	12D-00	007	剥 片	黒曜石	2.1	1.7	1.1	3.4	
	12D-00	010	剥 片	黒曜石	2.6	2.0	0.7	2.9	
	12D-00	011	剥 片	黒曜石	1.7	0.7	0.2	0.2	
	12D-00	011	剥 片	メノウ	1.5	0.9	0.2	0.3	
	12D-01	003-1	剥 片	黒曜石	1.7	0.8	0.3	0.3	
	12D-01	005	剥 片	黒曜石	1.2	1.8	0.1	0.3	
	12D-01	006	剥 片	黒曜石	1.8	1.7	0.9	1.8	
	12D-01	011	剥 片	黒曜石	1.3	1.4	0.3	0.5	
	12D-06	015	剥 片	黒曜石	1.9	3.3	1.6	8.4	
	12D-10	005	剥 片	黒曜石	1.7	1.8	0.8	2.0	
	12D-10	007	剥 片	黒曜石	1.0	1.9	0.8	1.4	
	12D-11	035	剥 片	黒曜石	0.8	1.9	0.4	0.5	
	12D-11	037	剥 片	黒曜石	1.4	1.7	0.8	1.5	
	12D-12	001	剥 片	黒曜石	1.6	2.5	0.9	2.8	
	12D-12	005	剥 片	黒曜石	1.9	1.2	0.6	0.8	
	12D-12	006	剥 片	黒曜石	2.8	2.2	1.0	4.8	
	12D-12	007	剥 片	黒曜石	3.4	1.6	1.1	4.3	
	12D-14	006	剥 片	黒曜石	3.0	2.0	1.1	4.3	
	12D-18	004	剥 片	黒曜石	1.9	1.4	0.5	1.0	
	12D-20	003	剥 片	黒曜石	1.8	1.6	0.5	1.1	
	12D-20	006	剥 片	黒曜石	1.8	1.8	0.7	1.7	
	12D-20	008	剥 片	黒曜石	1.5	2.1	0.7	1.8	
	12D-20	009-A	剥 片	黒曜石	1.6	1.9	0.6	0.7	
	12D-20	009-B	剥 片	黒曜石	1.3	1.6	0.7	1.1	
	12D-21	001	剥 片	黒曜石	1.7	1.1	0.4	0.5	
	12D-21	021	剥 片	黒曜石	1.7	2.0	0.4	0.9	
	12D-23	001	剥 片	黒曜石	1.7	1.4	0.3	0.4	
	12D-23	002	剥 片	チャート	2.8	1.4	0.5	1.6	
	12D-23	015	剥 片	黒曜石	1.3	1.4	0.3	0.3	
	12D-24	012	剥 片	黒曜石	1.4	2.8	0.8	2.9	
	12D-26	009	剥 片	チャート	0.9	0.8	0.2	0.1	
	12D-28	001	剥 片	黒曜石	1.2	2.7	0.8	2.1	
	12D-28	003	剥 片	黒曜石	2.5	2.0	1.0	3.0	
	12D-30	008	剥 片	黒曜石	3.3	2.4	1.1	3.3	
	12D-30	008	剥 片	黒曜石	1.4	2.9	1.2	2.4	
	12D-31	004	剥 片	黒曜石	1.7	1.1	0.2	0.4	
	12D-32	011	剥 片	黒曜石	1.2	1.7	0.5	1.2	
	12D-32	012	剥 片	安山岩	4.7	3.2	0.6	9.7	
	12D-34	002	剥 片	黒曜石	2.0	1.9	1.6	3.1	
	12D-34	004	剥 片	黒曜石	1.7	1.3	0.6	1.5	
	12D-35	004	剥 片	チャート	1.5	0.8	0.3	0.4	
	12D-36	004	剥 片	黒曜石	1.4	2.9	0.5	1.6	
	12D-37	006	剥 片	黒曜石	1.9	1.0	0.9	1.3	
	12D-40	004	剥 片	黒曜石	3.1	2.2	0.8	4.1	
	12D-40	005	剥 片	黒曜石	1.4	1.3	0.3	0.5	
	12D-41	009	剥 片	黒曜石	3.2	1.2	0.6	1.6	
	12D-42	005	剥 片	安山岩	3.5	2.3	0.9	8.4	
	12D-48	001	剥 片	黒曜石	1.3	2.2	0.6	1.5	
	12D-50	011	剥 片	黒曜石	2.8	1.2	1.1	3.3	
	12D-51	012	剥 片	黒曜石	2.0	1.2	1.5	2.7	
	12D-52	006	剥 片	黒曜石	2.0	0.9	0.4	0.6	
	12D-60	004	剥 片	黒曜石	2.1	1.2	0.4	0.9	
	12D-61	008	剥 片	砂岩	4.5	3.3	0.9	14.2	
	12D-61	009	剥 片	黒曜石	1.6	2.2	0.9	2.4	

(第21表 続き)

図 No	グリッド	遺物 No.	器 種	石 材	全長(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	質量 (g)	備 考
	12D-62	004	剥 片	黒 曜 石	1.2	1.9	0.3	0.5	
	12D-71	012	剥 片	黒 曜 石	1.1	1.1	0.8	1.1	
	12D-71	031	剥 片	黒 曜 石	1.9	0.9	0.5	0.8	
	12D-73	018	剥 片	黒 曜 石	1.6	1.4	0.3	0.5	
	12D-75	019	剥 片	黒 曜 石	1.4	1.6	0.4	0.5	
	12D-75	001	剥 片	黒 曜 石	1.3	1.6	1.7	1.0	
	12D-78	006	剥 片	黒 曜 石	1.8	1.4	0.4	0.8	
	12D-83	013	剥 片	黒 曜 石	2.1	2.1	0.7	3.5	
	12D-83	014	剥 片	石 英 岩	1.8	1.1	0.5	0.8	
	12D-87	007	剥 片	黒 曜 石	1.5	1.7	0.6	1.3	
	12D-89	002	剥 片	黒 曜 石	1.6	1.4	0.2	0.4	
	12D-89	020	剥 片	黒 曜 石	1.2	2.8	0.8	3.0	
	12D-91	032	剥 片	チ ャ ー ト	3.7	2.1	1.2	8.1	
	12D-96	001	剥 片	黒 曜 石	1.3	2.1	0.8	1.7	
	12D-97	005	剥 片	石 英 岩	2.5	1.0	0.5	1.2	
	12D-98	002	剥 片	黒 曜 石	1.9	1.9	0.4	0.9	
	12D-98	017	剥 片	黒 曜 石	1.5	1.2	0.3	0.7	
	12D-99	008	剥 片	黒 曜 石	1.8	1.0	0.2	0.4	
	12D-99	011	剥 片	黒 曜 石	2.1	1.8	0.5	1.5	
	12D	001	剥 片	黒 曜 石	1.2	2.6	1.1	1.5	
	12D	004	剥 片	黒 曜 石	1.6	2.2	0.6	2.1	
	12D	005-13	剥 片	黒 曜 石	1.2	1.2	0.3	0.3	
	12D	005-14	剥 片	黒 曜 石	1.7	0.8	0.2	0.2	
	12D	005-9	剥 片	黒 曜 石	1.7	1.4	0.4	1.0	
	12D	005-10	剥 片	黒 曜 石	1.9	1.0	0.3	0.5	
	12D	005-11	剥 片	黒 曜 石	1.6	1.6	0.2	0.4	
	12D	005-12	剥 片	黒 曜 石	1.8	1.0	0.3	0.4	
	12D	006-2	剥 片	黒 曜 石	1.2	1.6	0.8	1.5	
	12D	006-3	剥 片	黒 曜 石	2.1	1.4	0.6	1.1	
	12D	006-4	剥 片	黒 曜 石	1.8	1.8	0.3	0.9	
	12D	006	剥 片	チ ャ ー ト	2.6	2.2	0.7	4.3	
	12D	007	剥 片	安 山 岩	6.8	5.8	1.4	48.0	
	12D	008-1	剥 片	黒 曜 石	1.7	2.3	0.7	2.5	
	12E-30	005	剥 片	黒 曜 石	3.4	1.5	0.5	1.8	
	12E-31	001	剥 片	黒 曜 石	1.9	1.5	0.3	0.5	
	12E-52	004	剥 片	黒 曜 石	2.0	1.6	0.6	1.6	
	12E-70	003	剥 片	黒 曜 石	2.7	1.6	1.0	2.8	
	12E-80	005-1	剥 片	黒 曜 石	1.3	1.7	0.8	1.7	
	12E-80	005-2	剥 片	黒 曜 石	0.9	1.1	0.7	0.7	
	12E-80	006	剥 片	黒 曜 石	2.1	1.4	0.6	1.6	
	12E-90	001	剥 片	黒 曜 石	1.4	1.5	0.7	0.8	
	12E-90	021	剥 片	黒 曜 石	2.3	1.8	1.5	3.9	
	12E	001-1	剥 片	黒 曜 石	1.8	1.4	1.4	3.7	
	12E	001-2	剥 片	黒 曜 石	1.3	1.5	1.3	2.2	
	12E	001-3	剥 片	黒 曜 石	1.9	1.4	0.5	1.0	
	12E	001-4	剥 片	黒 曜 石	1.3	2.5	0.4	0.7	
	13D-09	003	剥 片	黒 曜 石	2.8	1.3	0.7	2.2	
	13D-11	002	剥 片	黒 曜 石	1.4	1.4	0.3	0.8	
	13D-13	006	剥 片	黒 曜 石	1.2	1.6	0.7	1.4	
	13D-13	011-1	剥 片	黒 曜 石	1.9	1.5	0.7	1.9	
	13D-13	011-2	剥 片	黒 曜 石	1.2	1.1	0.3	0.3	
	13D-14	010	剥 片	チ ャ ー ト	1.6	2.2	0.4	1.4	
	13D-14	011	剥 片	黒 曜 石	2.1	1.3	0.6	1.2	
	13D-24	011	剥 片	黒 曜 石	1.3	1.8	0.5	1.0	
	13D-25	003	剥 片	黒 曜 石	0.9	1.9	0.5	0.6	
	13D-26	002	剥 片	黒 曜 石	1.2	1.8	0.3	0.6	
	13D-28	002	剥 片	黒 曜 石	1.7	1.2	0.4	0.5	
	13D-28	003	剥 片	黒 曜 石	2.0	1.6	0.6	1.6	
	13E-03	001	剥 片	黒 曜 石	1.3	1.0	0.7	0.7	
	13E-10	008	剥 片	チ ャ ー ト	2.9	1.7	0.8	3.7	

(第21表 続き)

図 No	グリッド	遺物 No	器種	石材	全長(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	質量 (g)	備 考
	13E-12	004	剥片	流紋岩	3.1	3.2	1.2	10.6	
	Cトレ	001	剥片	黒曜石	1.3	3.1	0.8	3.9	
	表採		剥片	黒曜石	2.2	1.8	0.4	1.7	
	11C	001	石皿	—	—	—	—	57.0	破損
	12C-17	002	石皿	—	—	—	—	38.2	破損
	12D-32	014-A	石皿	—	—	—	—	19.2	破損
	12D-33	006	石皿	—	—	—	—	15.8	破損
	12D-62	010	石皿	—	—	—	—	60.8	破損
	9 D	001-1	磨石	—	—	—	—	315.6	破損
	9 D	001-3	磨石	—	—	—	—	36.6	破損
	9 E-78	002	磨石	—	—	—	—	42.5	破損
	9 E-97	002	磨石	—	—	—	—	156.0	破損
	10C-9	001	磨石	—	—	—	—	313.5	12C59-001・12D81-016・12D91-028と接合、破損
	10C-29	001	磨石	—	—	—	—	325.2	10D-002・11D-001と接合、破損
	10D	001-1	磨石	—	—	—	—	142.4	破損
	10D	001-2	磨石	—	—	—	—	57.9	破損
	10D	002-1	磨石	—	—	—	—	273.2	完形
	10D	002-2	磨石	—	—	—	—	208.6	破損
	10D	002-3	磨石	—	—	—	—	94.2	破損
	10D	002-4	磨石	—	—	—	—	56.1	破損
	10D	002-5	磨石	—	—	—	—	50.7	破損
	10D	002-6	磨石	—	—	—	—	31.7	破損
	10D	003-1	磨石	—	—	—	—	53.0	破損
	10D	003-2	磨石	—	—	—	—	10.1	破損
	10E-03	002	磨石	—	—	—	—	20.8	破損
	10E-40	001	磨石	—	—	—	—	20.5	破損
	10E-42	001	磨石	—	—	—	—	39.7	破損
	10E-55	002	磨石	—	—	—	—	212.9	完形
	10E-82	001	磨石	—	—	—	—	140.7	破損
	10E-92	001	磨石	—	—	—	—	21.4	破損
	10N-67	002	磨石	—	—	—	—	128.9	破損
	11C-24	002	磨石	—	—	—	—	255.0	破損
	11C-45	028	磨石	—	—	—	—	42.6	破損
	11C-48	001	磨石	—	—	—	—	36.1	破損
	11C-62	001	磨石	—	—	—	—	258.6	破損
	11C-67	002	磨石	—	—	—	—	146.3	破損
	11C-97	002	磨石	—	—	—	—	83.3	破損
	11D-13	001	磨石	—	—	—	—	252.8	完形
	11D-22	002	磨石	—	—	—	—	136.8	破損
	11D-30	002	磨石	—	—	—	—	48.1	破損
	11D-31	001	磨石	—	—	—	—	18.3	破損
	11D-32	001	磨石	—	—	—	—	31.1	破損
	11D-45	001	磨石	—	—	—	—	170.8	破損
	11D-50	001-2	磨石	—	—	—	—	99.5	破損
	11D-50	001-3	磨石	—	—	—	—	63.7	破損
	11D-51	001-2	磨石	—	—	—	—	109.0	12D-001と接合、破損
	11D-60	001	磨石	—	—	—	—	22.6	破損
	11D-61	001-4	磨石	—	—	—	—	49.2	破損
	11D-70	001	磨石	—	—	—	—	16.2	破損
	11D-71	001	磨石	—	—	—	—	106.6	破損
	11D-82	003	磨石	—	—	—	—	55.5	破損
	11D-91	002	磨石	—	—	—	—	61.9	破損
	11D-95	011	磨石	—	—	—	—	11.5	破損
	11D-99	001	磨石	—	—	—	—	126.9	12D19-006と接合、破損
	11D	001	磨石	—	—	—	—	24.8	破損
	11D	001	磨石	—	—	—	—	159.2	11E12-002と接合、破損
	11D	001	磨石	—	—	—	—	386.2	9E22-005・11D91-010・11D13-001と接合、破損
	11D	004	磨石	—	—	—	—	95.6	破損

(第21表 続き)

図 No.	グリッド	遺物 No.	器 種	石 材	全長(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	備 考
	11D	005	磨 石	-	-	-	-	98.7	破損
	11D	006-1	磨 石	-	-	-	-	72.9	破損
	11D	006-2	磨 石	-	-	-	-	21.2	破損
	11D	007	磨 石	-	-	-	-	79.9	破損
	11E-72	002-1	磨 石	-	-	-	-	141.7	破損
	11E-72	002-2	磨 石	-	-	-	-	217.3	破損
	12C-28	005	磨 石	-	-	-	-	83.1	破損
	12C-28	009	磨 石	-	-	-	-	353.3	13C07-002と接合、破損
	12C-29	015	磨 石	-	-	-	-	106.2	破損
	12C-39	008	磨 石	-	-	-	-	94.5	破損
	12C-39	020	磨 石	-	-	-	-	177.1	破損
	12C-46	001	磨 石	-	-	-	-	35.5	破損
	12C-79	002	磨 石	-	-	-	-	231.2	10E42-001・12D-005と接合、破損
	12D-07	006	磨 石	-	-	-	-	24.8	破損
	12D-09	009	磨 石	-	-	-	-	107.7	破損
	12D-10	010	磨 石	-	-	-	-	134.1	12D11-005と接合、破損
	12D-11	032	磨 石	-	-	-	-	38.6	破損
	12D-13	001	磨 石	-	-	-	-	30.5	破損
	12D-21	011	磨 石	-	-	-	-	15.3	破損
	12D-22	004	磨 石	-	-	-	-	78.9	破損
	12D-22	008	磨 石	-	-	-	-	36.3	破損
	12D-23	004	磨 石	-	-	-	-	45.6	破損
	12D-30	006	磨 石	-	-	-	-	7.9	破損
	12D-41	003	磨 石	-	-	-	-	80.0	破損
	12D-51	017	磨 石	-	-	-	-	46.2	破損
	12D-52	011	磨 石	-	-	-	-	589.2	12D62-015と接合、破損
	12D-61	003	磨 石	-	-	-	-	118.7	破損
	12D-62	001	磨 石	-	-	-	-	316.7	破損
	12D-63	008	磨 石	-	-	-	-	92.2	破損
	12D-73	002	磨 石	-	-	-	-	38.9	破損
	12D-73	013	磨 石	-	-	-	-	104.8	破損
	12D-73	022	磨 石	-	-	-	-	71.7	破損
	12D-76	004	磨 石	-	-	-	-	71.7	破損
	12D-78	003	磨 石	-	-	-	-	30.3	破損
	12D-79	001	磨 石	-	-	-	-	50.2	破損
	12D-80	010	磨 石	-	-	-	-	33.7	破損
	12D-85	002	磨 石	-	-	-	-	92.9	破損
	12D-94	001	磨 石	-	-	-	-	111.3	破損
	12D	001	磨 石	-	-	-	-	46.6	12D13-009と接合、破損
	12D	001	磨 石	-	-	-	-	110.8	破損
	12D	001	磨 石	-	-	-	-	69.4	12D95-001破損
	12D	001	磨 石	-	-	-	-	102.1	12D-010破損
	12D	002	磨 石	-	-	-	-	342.3	完形
	12D	004	磨 石	-	-	-	-	111.7	破損
	12D	005-4	磨 石	-	-	-	-	75.0	破損
	12D	006-1	磨 石	-	-	-	-	77.2	破損
	12D	006-2	磨 石	-	-	-	-	58.7	破損
	12D	006-3	磨 石	-	-	-	-	30.9	破損
	12D	006-4	磨 石	-	-	-	-	21.3	破損
	12D	009-1	磨 石	-	-	-	-	201.5	破損
	12D	009-2	磨 石	-	-	-	-	80.7	破損
	12D	012	磨 石	-	-	-	-	243.7	破損
	13D-02	002	磨 石	-	-	-	-	21.4	破損
	13D-09	016	磨 石	-	-	-	-	83.6	破損
	13D-14	007	磨 石	-	-	-	-	216.9	破損
	13D-25	002	磨 石	-	-	-	-	40.4	破損
	13D-34	003	磨 石	-	-	-	-	119.0	破損
	13E-00	007	磨 石	-	-	-	-	54.9	破損
	13E-12	003	磨 石	-	-	-	-	54.9	破損
	9M-55	002	敲 石	-	-	-	-	61.3	完形

第7章 細山(1)(2)遺跡

第1節 概要 (第141・142図)

細山(1)遺跡は、市原市椎津字バチ谷2,970-1ほかに所在する。細山(2)遺跡は、市原市天羽田字出崎台1,163-1ほかに所在する。両遺跡とも、北側を深城川左岸に注ぐ支谷により、南側を久保田川右岸に注ぐ支谷により、それぞれ開析された標高約66mの台地上に立地する。なお、両遺跡とも同じ台地上に展開することからも、同一の遺跡であることは明白である。だが、今回の調査区は、谷が入り込む部分で、両調査区が切れてしまうことから、便宜的に北側を(1)、南側を(2)と地点名を付して、別々に調査を行った。

確認調査の結果、細山(1)遺跡では、上層については遺構等が検出されず、本調査は行わないこととした。下層については、遺物の分布が確認された184㎡について本調査範囲とした。細山(2)遺跡では、遺構及び遺物の分布が見られた上層700㎡、下層960㎡について本調査範囲とした。そして、本調査の結果、細山(1)遺跡では、旧石器時代の遺物集中地点2か所を検出した。細山(2)遺跡では、旧石器時代遺物集中地点8か所、縄文時代早期炉穴15基を検出した。

第2節 旧石器時代 (第142~191図, 第22~28表, 図版30・33・34・73~78)

1. 細山(1)遺跡

(1) 概要 (第142図)

本遺跡において、2m×2mのグリッド45か所180㎡において確認調査を行ったところ、2F-12, 5G-97の2か所で旧石器時代の遺物の広がり確認され、両地点周辺184㎡において、旧石器時代の本調査を実施し、礫群1か所、ブロック1か所を検出した。

(2) 検出した遺構と遺物

今回検出した礫群とブロックは、70m程離れた地点において展開しており、層位に違いも有ることから、異なる文化層を構成している。

a. 第1文化層

第1ブロック (第143・144図) 本ブロックは5G-97グリッドに位置し南北0.6m、東西0.5mの範囲に剥片2点が分布している。垂直分布は、62.959m~62.976mの約0.02m、X層中より認められた。

石器の石材は珪質頁岩が1点、凝灰岩が1点である。

1・2は、背面に自然面を大きく残す剥片である。石材は、1がチャートで2が頁岩である。幅広(1)、縦長(2)の違いはあるが、どちらも同様な剥片剥離工程を経ている。

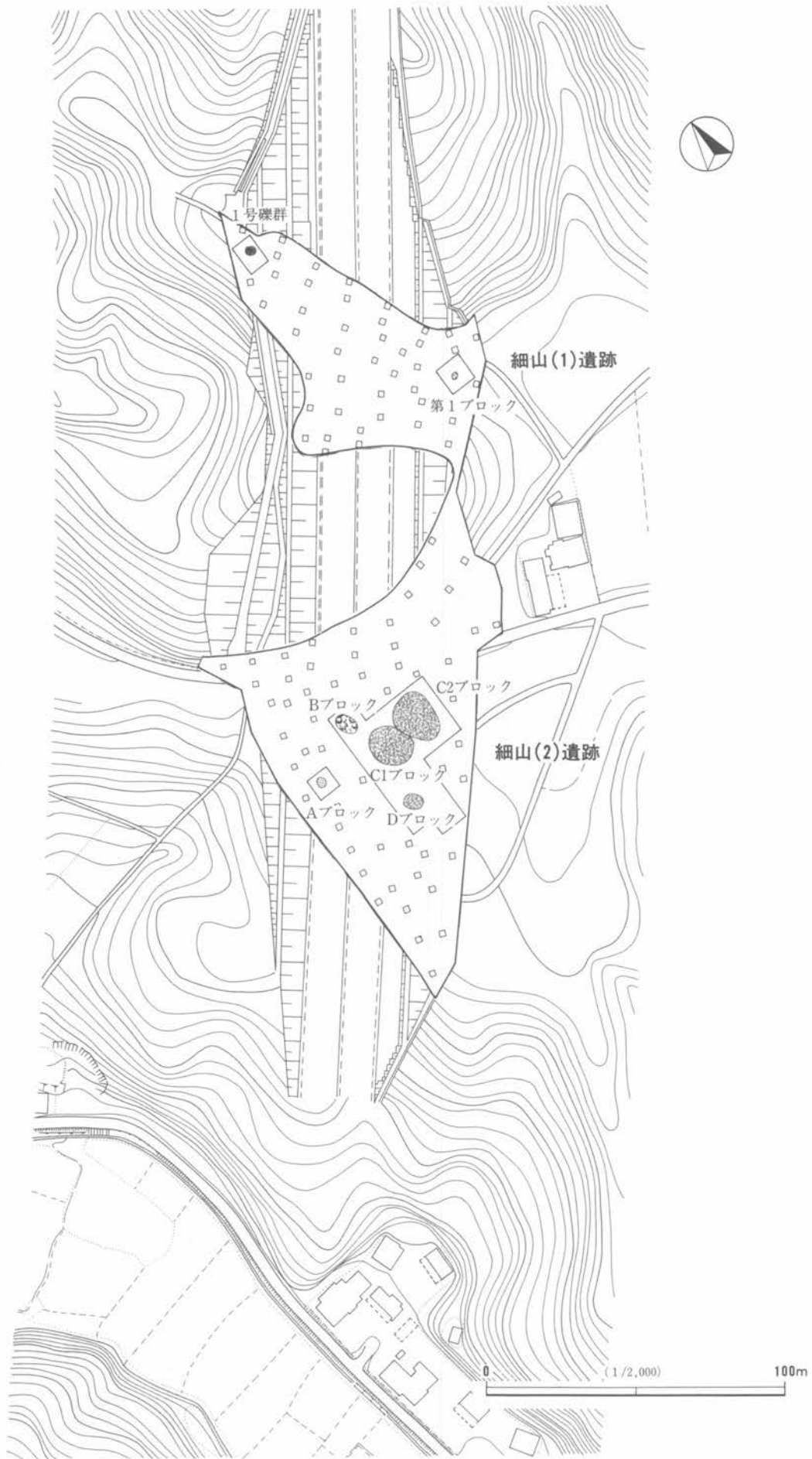
b. 1号礫群 (第143図)

本礫群は、2F-01・02, 2F-11・12グリッドに位置し、南北1m、東西2mの範囲に分布している。垂直分布は62.522m~62.545mの約0.02m、V層上面に認められた。

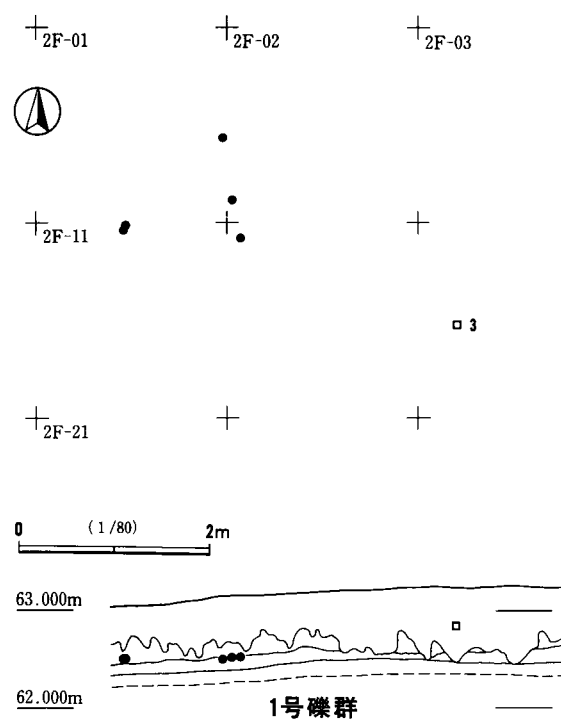
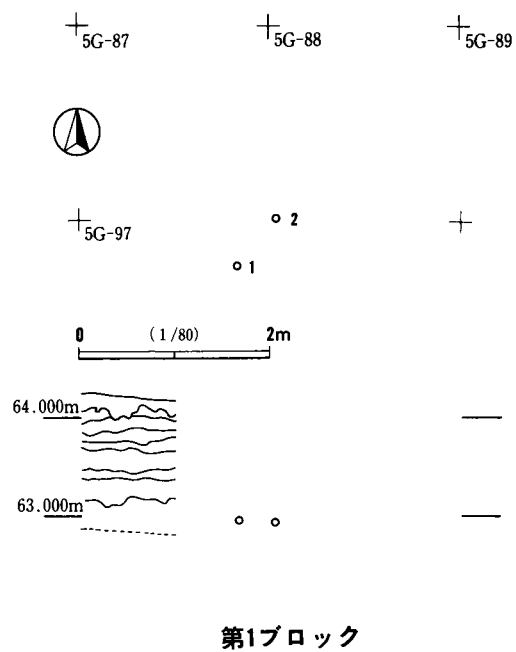
石材は、砂岩4点、チャート1点である。全て完形で、表面に被熱によると思われる赤化が認められる。この礫群から2m程東側で、黒曜石の石核1点(3)が検出された。この石核は、幅4.0cm、長さ2.1cm、



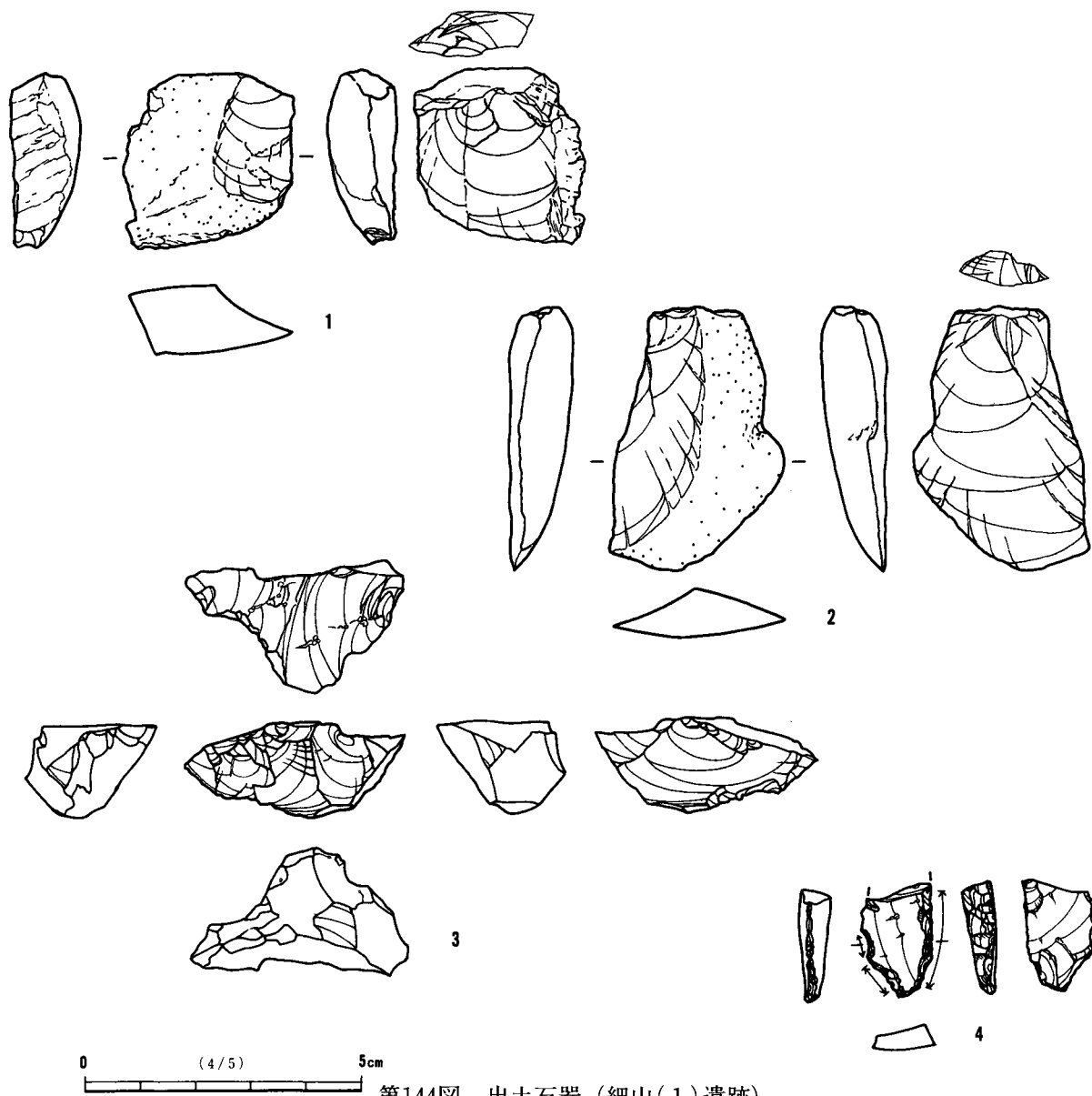
第141図 グリッド設定, 上層本調査区及び確認トレンチ配置



第142図 下層本調査区及び確認トレンチ配置



第143図 旧石器出土状況 (細山(1)遺跡)



厚さ1.7cmの小振りなもので、ソフトローム層中から検出した。

c. ブロック外出土石器 (第144図)

4は、5Gグリッドにおいて表土中から出土したナイフ形石器である。黒曜石の縦長剥片を素材として
いる。

2. 細山(2)遺跡

(1) 概要

本遺跡において、2m×2mのグリッド67か所268㎡において確認調査を行ったところ、9か所で旧石器時代の遺物の広がり認められ、各地点周辺960㎡において、旧石器時代の本調査を実施し、ブロック5か所を検出した。

(2) 検出した遺構と遺物

5か所のブロックのうち、最も多くの遺物によって構成される2か所(C1・C2ブロック)は近接して検出されたが、他の3か所はやや離れており、うち2か所は層位的にも異なっているため、全部で3文化層として捉えた。

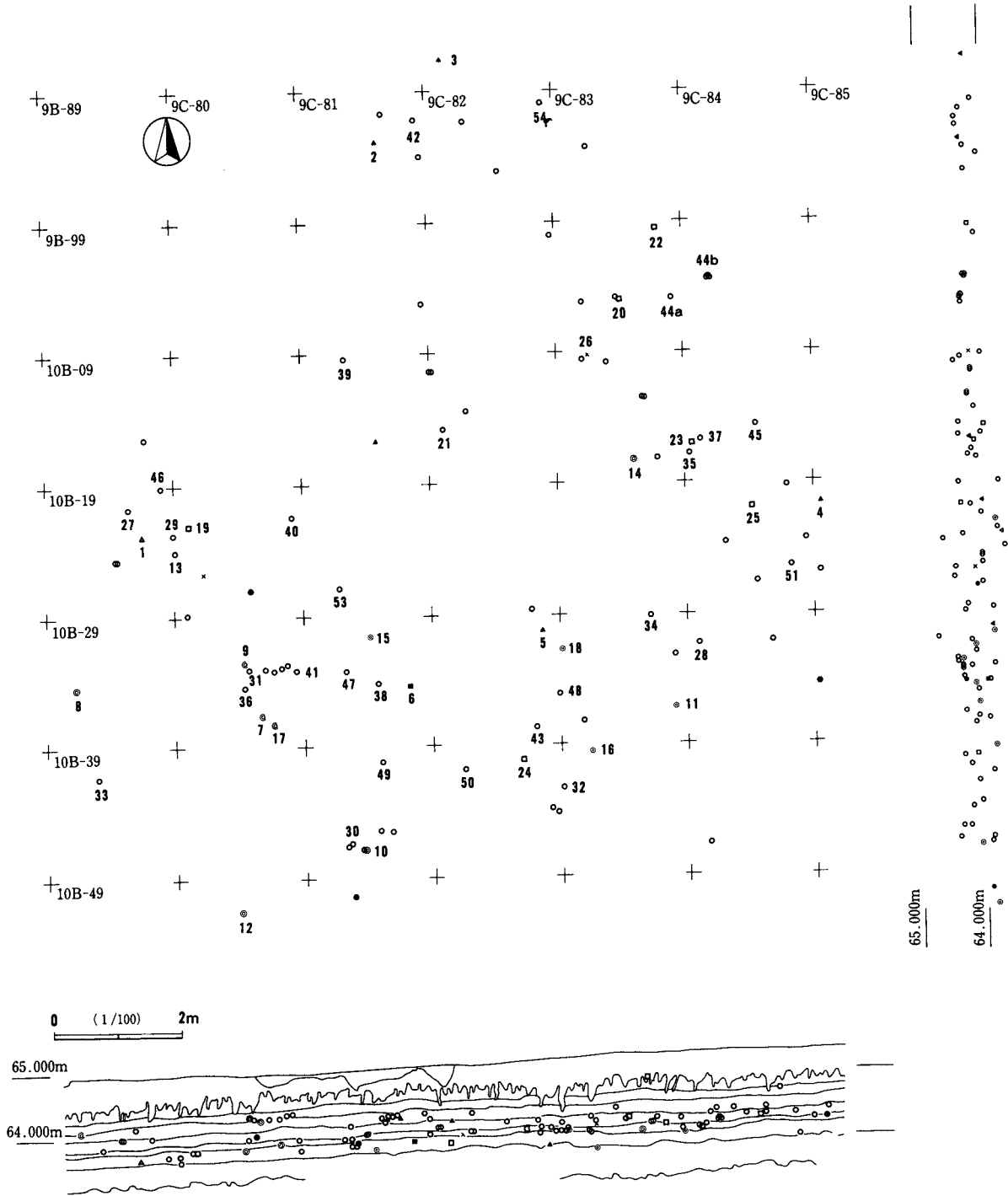
a. 第Ⅰ文化層

調査区中央に位置するC1・C2ブロックは、発掘調査時においては、Cブロックとして取り扱われたが、その分布と接合関係等から、2か所に分割し、その西側をC1ブロック、東側をC2ブロックと設定し直した。このC1・C2ブロックと、南南西約10mほどのところに位置するDブロック、更にその周辺に点在する単独出土の石器を同一文化層と捉え、第Ⅰ文化層とした。

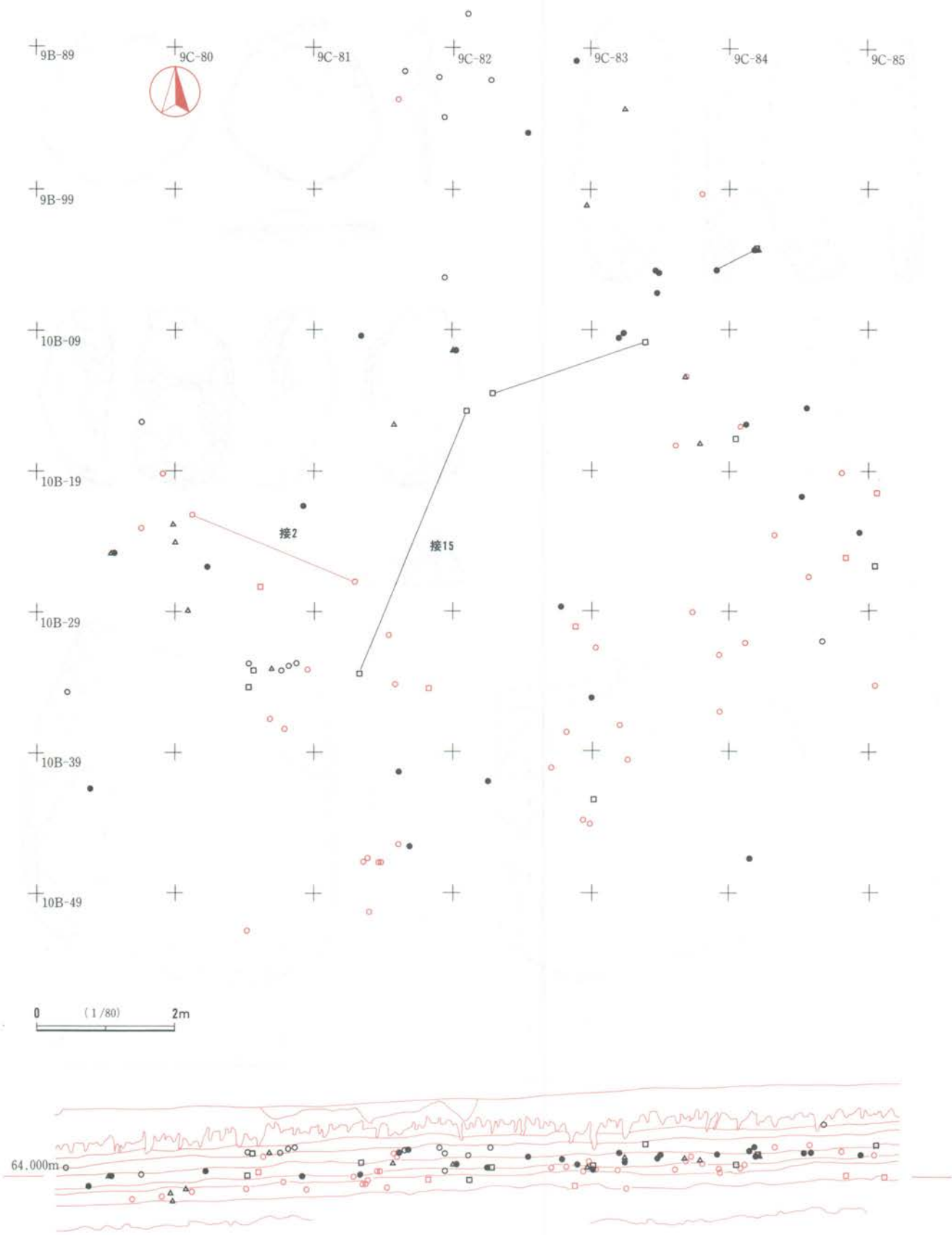
C1ブロック(第145～157図、第22表、図版73・74) 本ブロックは、9C-72・9C-81～83、9C-91～94・10B-19～10C-19・10B-29～10C-25・10B-39～10C-34・10C-40～41グリッドに位置し、南北約13m、東西約12mの範囲に、ナイフ形石器1点、搔器2点、削器1点、敲石1点、使用痕を有する剥片12点、加工痕を有する剥片1点、石核6点、楔形石器2点、剥片70点、礫4点が楕円状に分布している。垂直分布は、標高63.632m～64.715mの約1.1m、Ⅵ層からⅩ層の間、特にⅨ層上部に濃く認められた。

石器の石材は、珪質頁岩27点、安山岩19点、チャート14点、黒曜石13点、凝灰岩10点、頁岩9点、砂岩5点、ホルンフェルス3点で、珪質頁岩と安山岩がやや多い傾向にある。

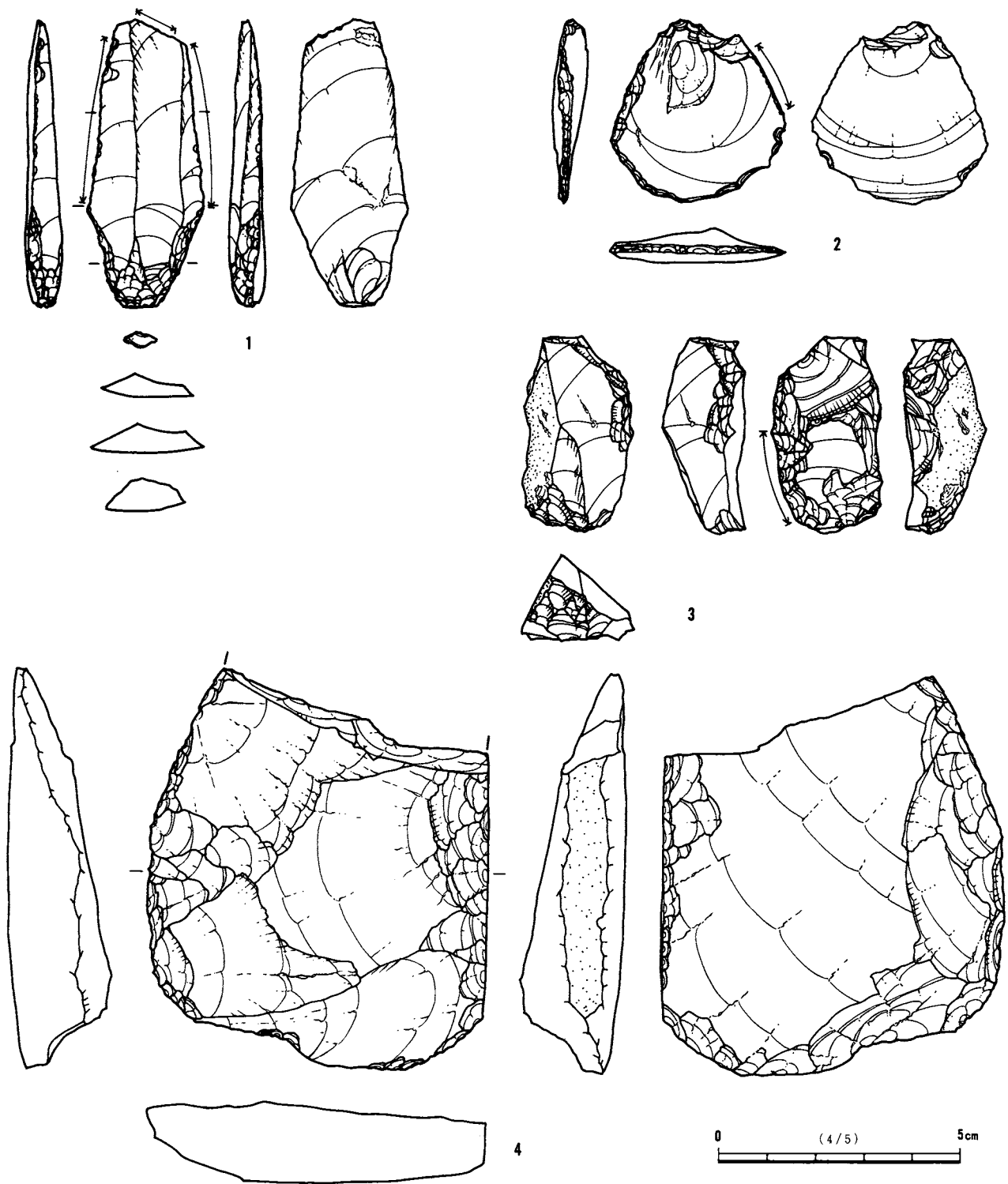
1は、ナイフ形石器である。縦長剥片を素材として、側縁の打面寄りにブランディングを施し、先端部と両側縁を刃部としている。2・3は、搔器である。2は薄手の横長剥片を素材として、先端部に腹面側からの調整によって刃部を作り出している。3は厚手の縦長剥片を素材として、打面部に腹面側から調整を加えて刃部をつくりだしている。また、右側縁にも背面からの調整によって刃部を作り出している。4は削器である。自然面を残す大形の剥片を素材とし、一端に刃部を作り出している。5は削器である。6は敲石である。拳大の自然礫の両端に敲打痕が認められる。7～18は使用痕を有する剥片である。19は加工痕を有する剥片である。厚手の縦長剥片に腹面側から、先端部に調整を施している。20～25は石核である。20・21は、幼児の拳大の円礫に、その長軸端部に打撃を加えての剥離と、短軸に打撃を加えて打面形成のための剥離を行っている。22は、扁平な円礫に多方向から打撃を加えて剥離を行っている。23～25は、剥片を素材として剥片剥離を行っている。26・27は、楔形石器である。自然面を残す剥片に対して、両極打法による剥片剥離を行っている。28～35は、割合整った縦長剥片である。36・37も同様の剥片が折れたものと考えられる。38～46は、幅広の縦長剥片である。42・43・45・46は背面に大きく自然面を残す。47



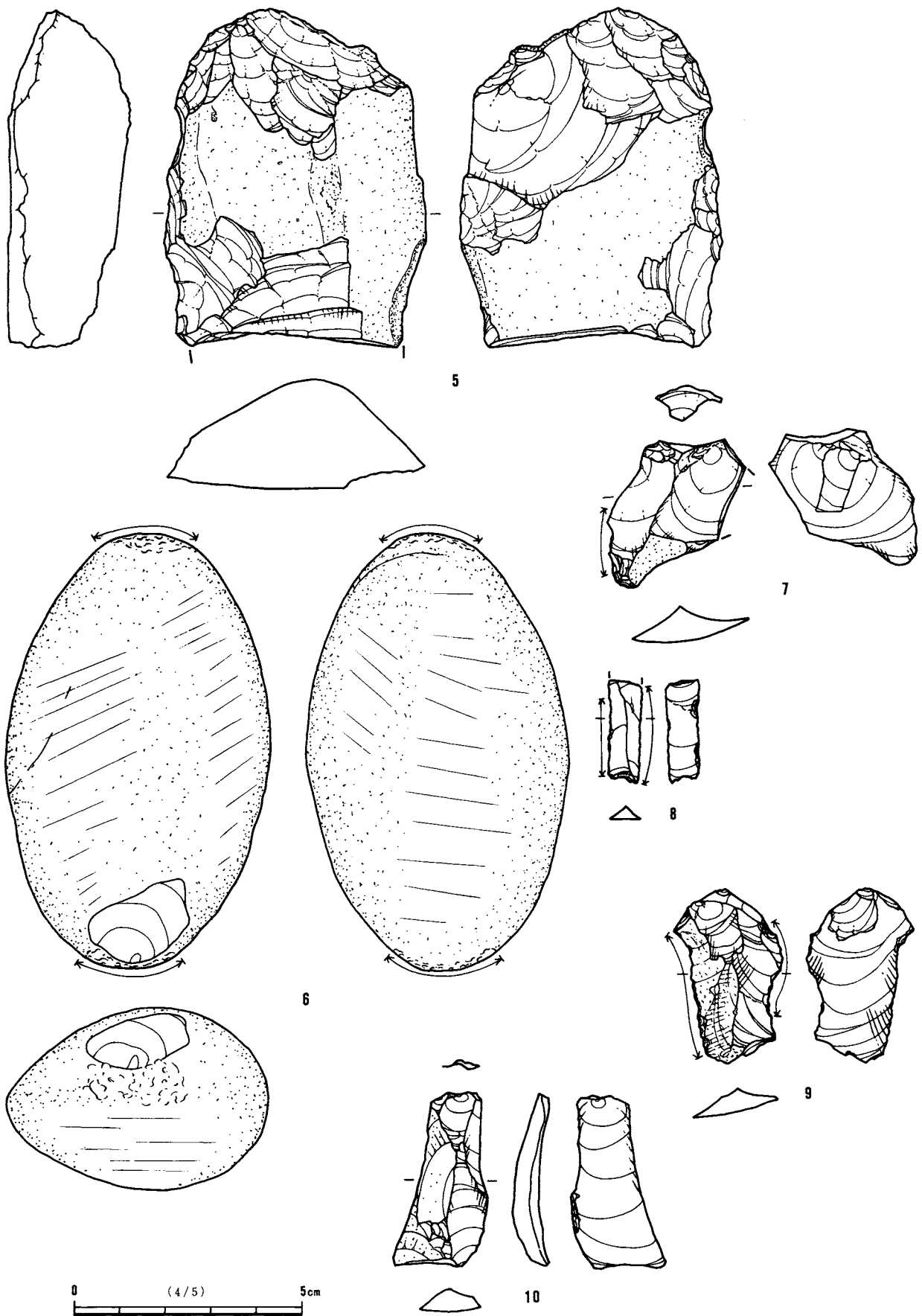
第145図 C1ブロック器種別分布



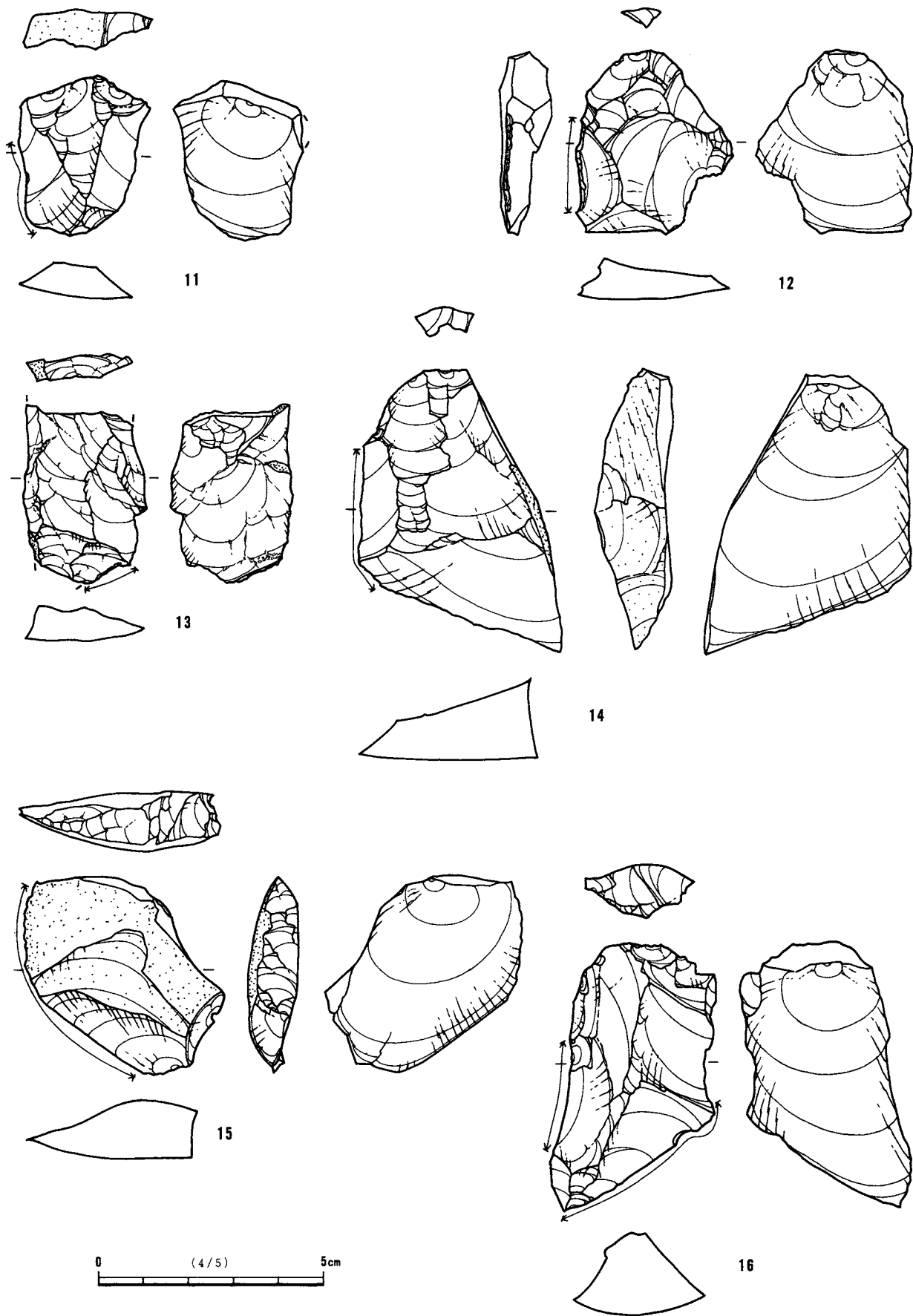
第146図 C1ブロック石材別分布



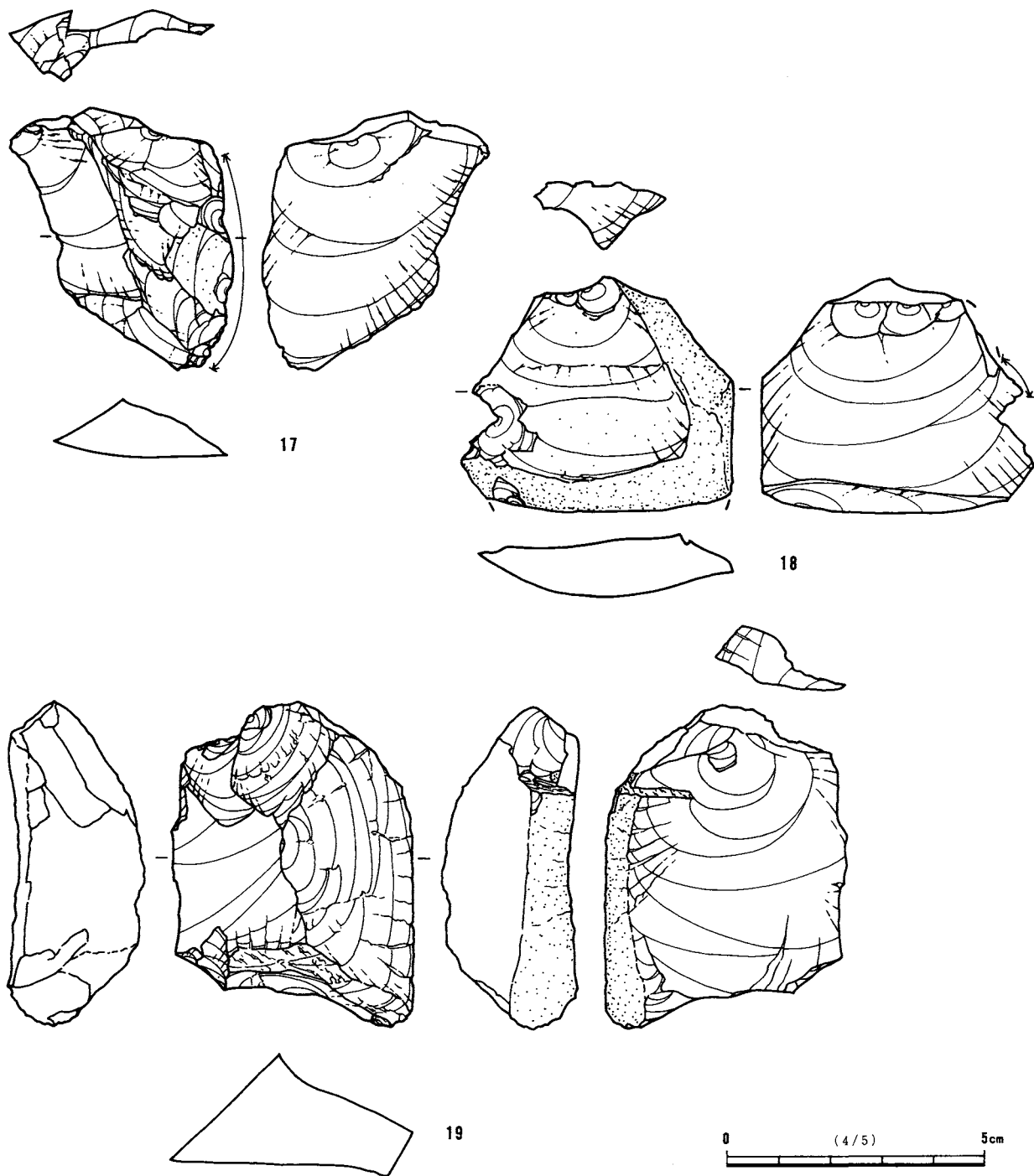
第147図 C1ブロック出土石器(1)



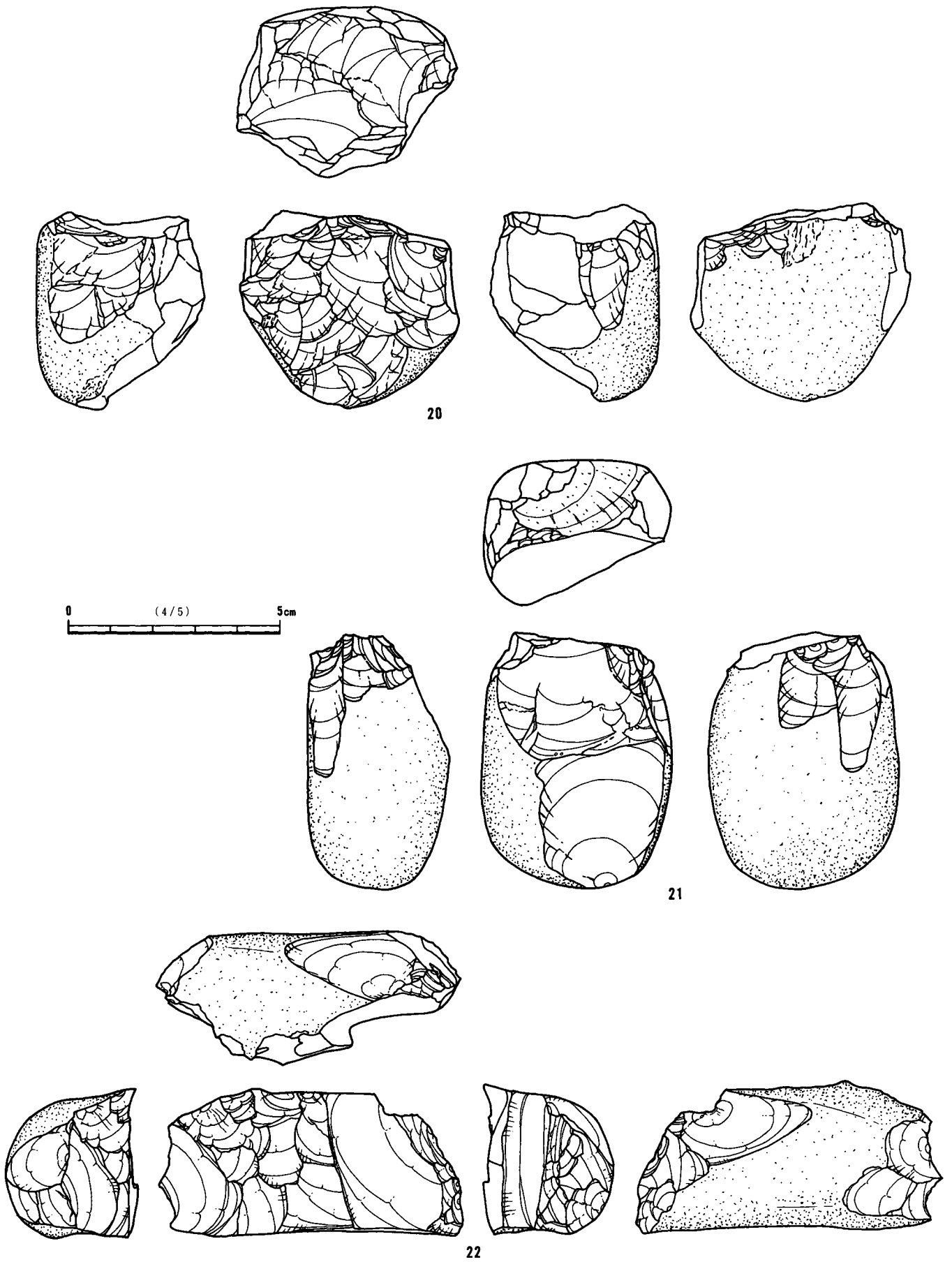
第148図 C1ブロック出土石器(2)



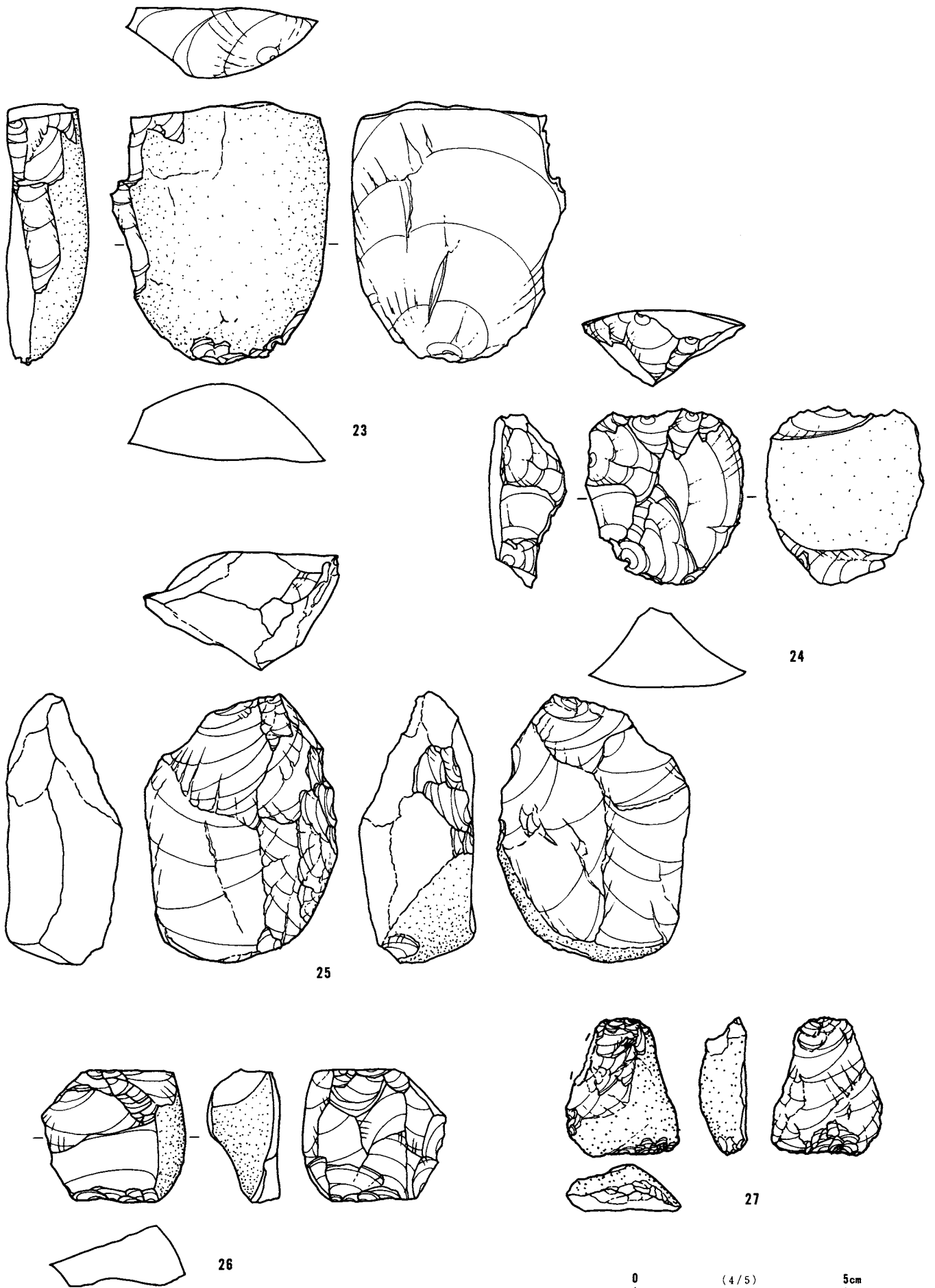
第149図 C1ブロック出土石器(3)



第150図 C1ブロック出土石器(4)

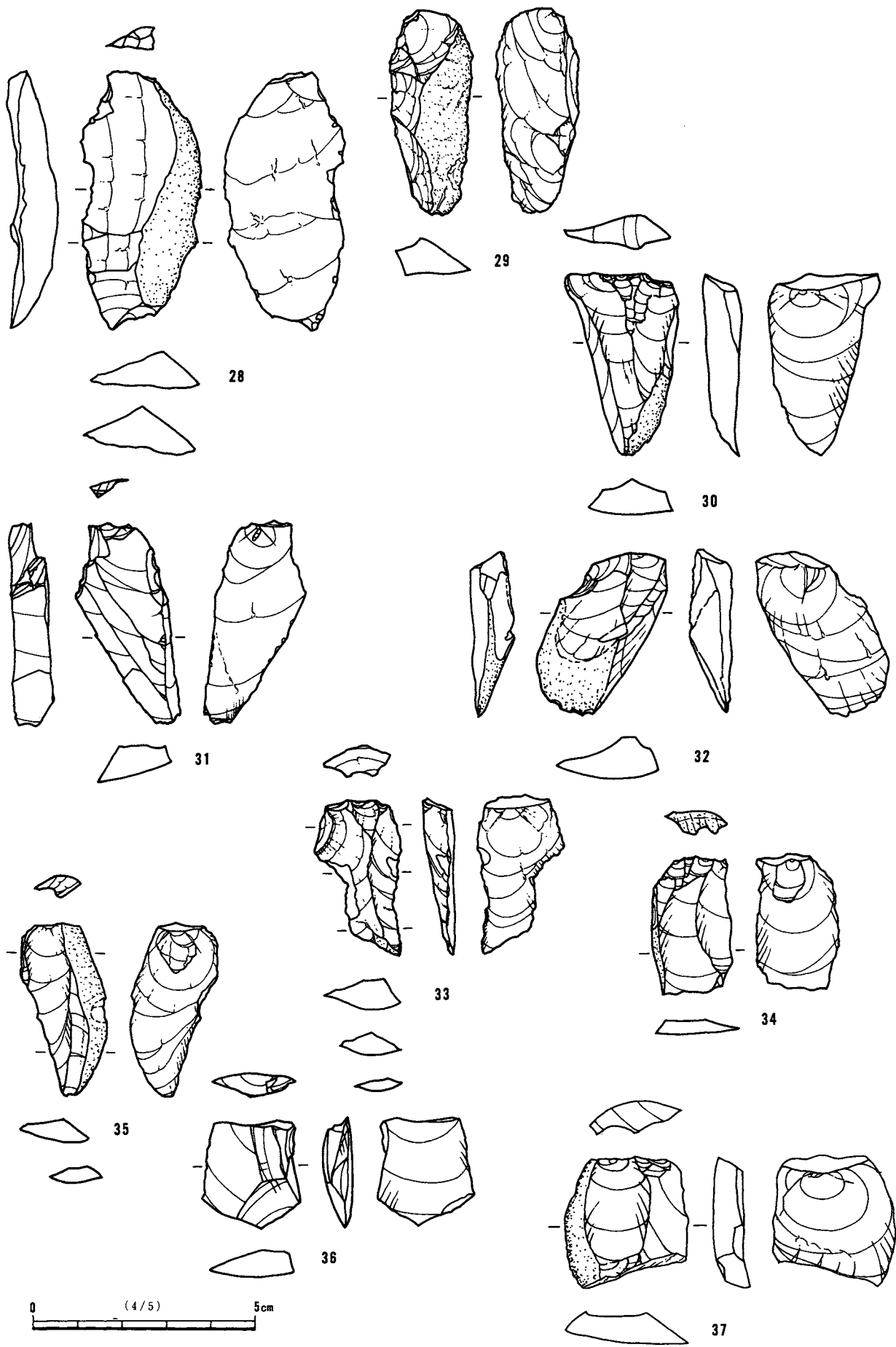


第151図 C1ブロック出土石器(5)

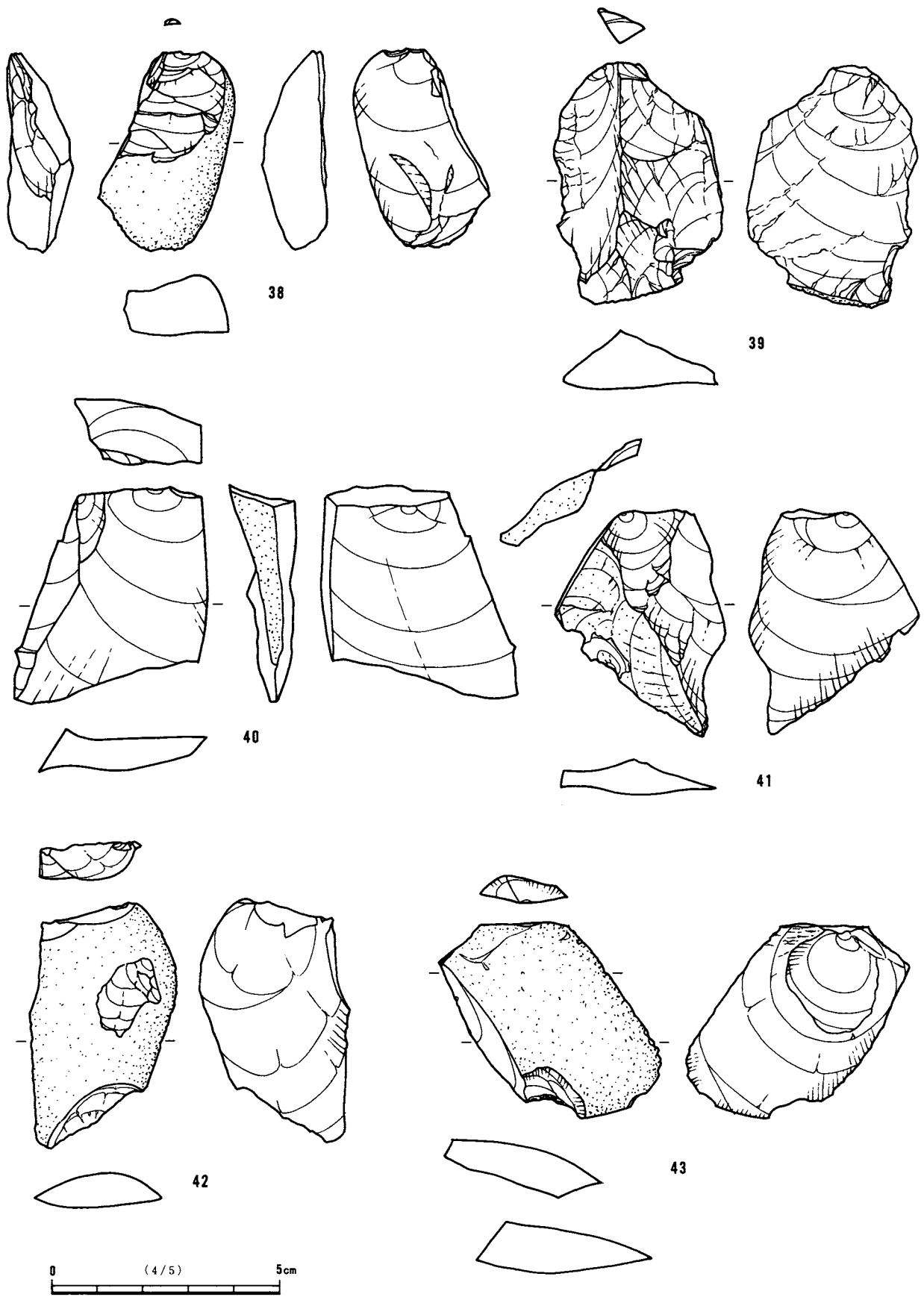


第152図 C1ブロック出土石器(6)

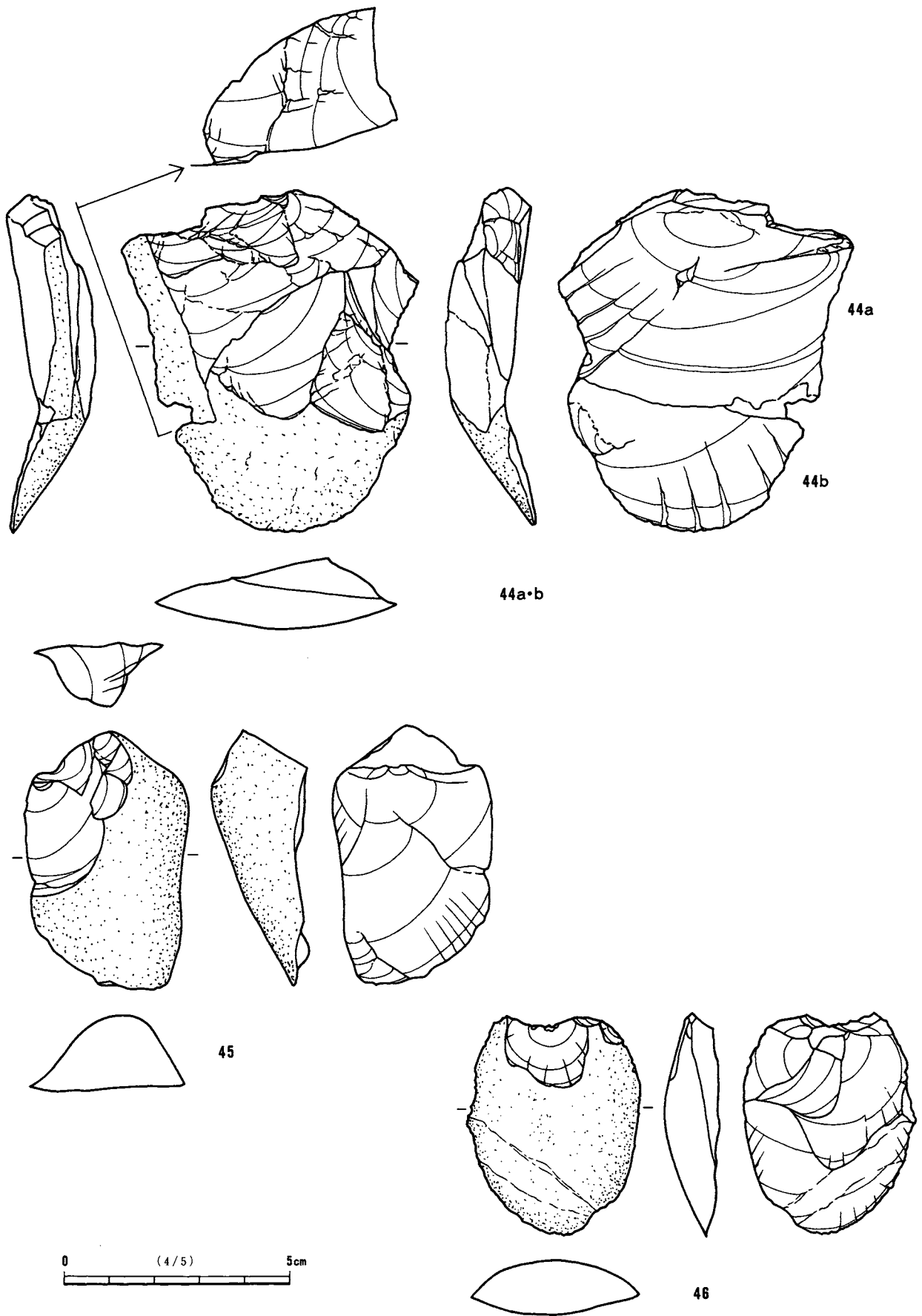
0 (4/5) 5cm



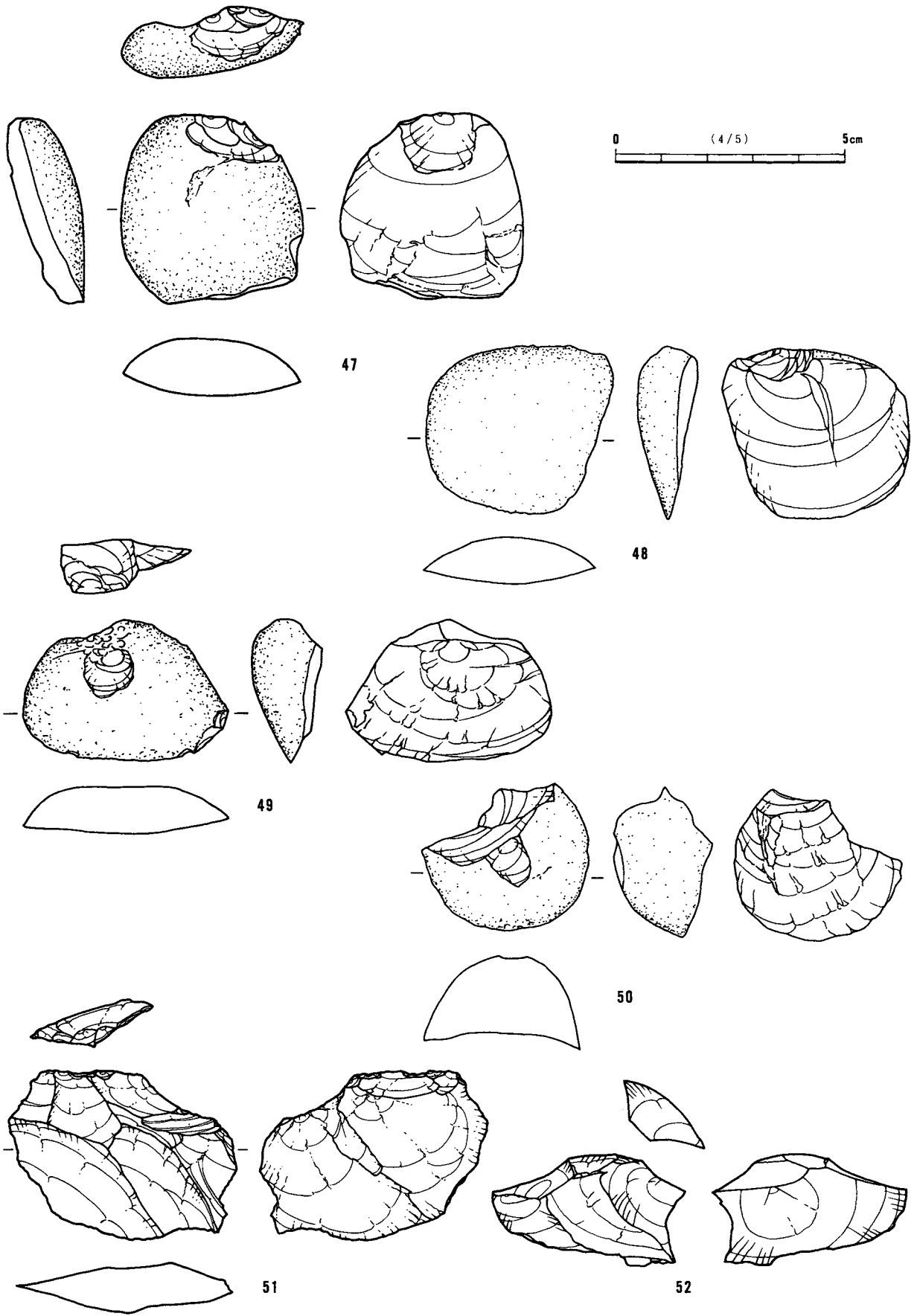
第153図 C1ブロック出土石器(7)



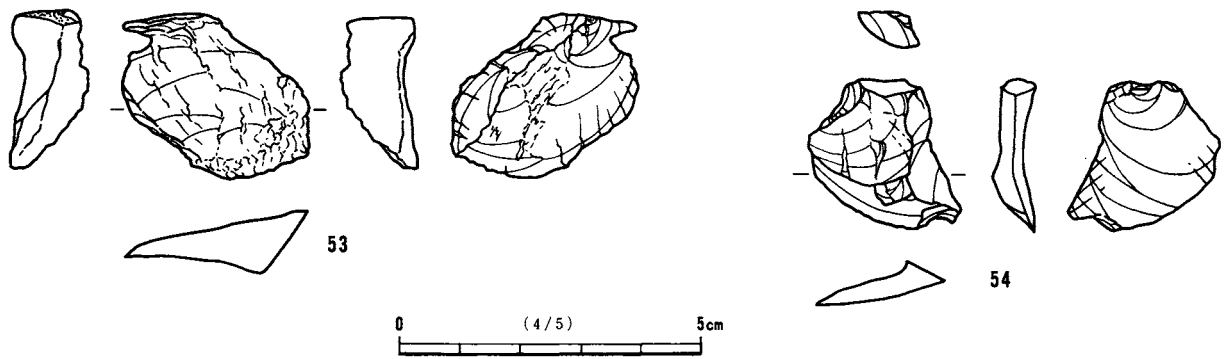
第154図 C1ブロック出土石器(8)



第155図 C1ブロック出土石器(9)



第156図 C1ブロック出土石器 (10)



第157図 C1ブロック出土石器 (11)

第22表 C1ブロック

図 No	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
3	9C-72	001		64.272	搔器	黒曜石	13.60	41.3	23.9	16.6
2	9C-81	001		64.307	搔器	頁岩	8.29	37.3	36.5	6.4
	9C-81	002		64.370	剥片	黒曜石	0.66	10.5	21.9	2.9
	9C-81	003		64.341	剥片	黒曜石	0.44	19.8	8.9	3.1
	9C-81	004		64.054	砕片	黒曜石	0.04	5.3	9.1	0.8
	9C-82	001		64.382	剥片	黒曜石	3.87	25.0	24.1	7.1
42	9C-82	002		64.229	剥片	安山岩	18.60	53.6	35.8	10.4
54	9C-82	004		64.143	剥片	安山岩	2.51	24.0	24.4	5.7
	9C-83	001		64.242	剥片	チャート	0.38	11.6	8.4	4.5
	9C-91	001		64.294	剥片	黒曜石	—	—	—	—
	9C-92	002		64.088	剥片	チャート	3.86	23.2	25.7	5.7
44 a	9C-93	001		64.280	剥片	チャート	42.76	46.1	66.4	11.8
20	9C-93	002		64.291	石核	ホルンフェルス	113.90	42.1	52.0	42.9
22	9C-93	003		64.193	石核	頁岩	96.24	33.7	71.8	29.4
	9C-93	004		64.240	剥片	安山岩	0.18	10.3	6.4	2.5
44 b	9C-94	002		64.250	剥片	チャート	24.16	61.6	52.5	10.7
	9C-94	002		64.250	剥片	チャート	0.92	18.2	7.3	5.6
	9C-94	002		64.250	剥片	凝灰岩	0.36	14.6	15.6	2.0
	10B-09	001		64.015	剥片	黒曜石	0.26	14.0	9.5	2.2
	10B-19	001		64.166	剥片	黒曜石	—	—	—	—
	10B-19	002		64.010	剥片	チャート	3.89	35.8	15.6	7.9
	10B-19	002		64.010	剥片	安山岩	5.50	18.8	34.3	12.1
13	10B-19	003		63.632	使用痕を有する剥片	チャート	9.50	40.1	27.2	7.1
29	10B-19	004		63.762	剥片	チャート	7.45	45.0	16.7	10.5
46	10B-19	005		63.732	剥片	頁岩	18.39	47.1	37.1	11.2
1	10B-19	006		63.693	ナイフ形石器	珪質頁岩	9.63	59.1	24.1	7.6
8	10B-29	001		64.115	使用痕を有する剥片	黒曜石	0.41	21.7	7.2	3.1
33	10B-39	001		63.874	剥片	安山岩	3.47	36.5	19.5	7.3
	10C-01	001		64.165	剥片	チャート	3.73	19.6	21.1	7.8
39	10C-01	003		64.000	剥片	安山岩	24.08	51.8	36.8	12.7
	10C-02	001		64.172	剥片	安山岩	1.28	18.8	13.5	3.7
	10C-02	001		64.172	剥片	チャート	3.27	23.7	13.0	8.9
	10C-02	002		64.100	剥片	凝灰岩	3.64	22.7	15.7	9.8
21	10C-02	003	接合15	63.928	石核	凝灰岩	127.18	56.7	46.3	34.2
	10C-03	001		64.306	剥片	安山岩	0.72	12.2	23.5	2.0
26	10C-03	002		64.194	楔形石器	安山岩	18.19	30.7	34.4	17.6
	10C-03	003		64.430	剥片	凝灰岩	3.39	21.5	16.2	8.9
	10C-03	006		64.207	剥片	珪質頁岩	0.56	8.5	14.2	4.2
	10C-03	006		64.207	剥片	チャート	2.46	19.9	19.7	6.7
	10C-03	007		64.189	砕片	チャート	0.03	4.5	4.1	1.1
14	10C-03	008		64.089	使用痕を有する剥片	珪質頁岩	34.11	65.2	41.3	14.8
45	10C-04	003		64.335	剥片	安山岩	37.29	56.9	35.5	20.7
37	10C-04	004		64.347	剥片	安山岩	7.47	28.3	28.0	8.0
23	10C-04	005		64.116	石核	珪質頁岩	76.49	59.3	51.6	19.3

(第22表 続き)

図 No.	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
35	10C-04	006		64.147	剥片	凝灰岩	3.69	38.6	17.9	5.5
27	10C-10	001		64.095	楔形石器	ホルンフェルス	8.83	31.9	26.4	11.5
	10C-10	002		64.055	礫	砂岩	4.61	—	—	—
40	10C-10	003		63.996	剥片	安山岩	19.40	49.9	39.4	12.5
	10C-10	004		63.805	剥片	チャート	3.75	34.7	24.7	6.4
19	10C-10	005	接合2	63.792	加工痕を有する剥片	珪質頁岩	72.96	62.8	43.0	29.2
53	10C-11	001	接合2	63.995	剥片	珪質頁岩	6.28	24.2	37.0	10.4
	10C-12	001		64.231	砕片	安山岩	0.10	8.5	5.4	1.3
	10C-14	001		64.348	剥片	頁岩	0.35	8.4	18.3	2.0
25	10C-14	002		64.316	石核	ホルンフェルス	75.61	61.5	47.7	25.6
	10C-14	003		64.609	剥片	頁岩	0.23	17.8	9.5	1.4
	10C-14	004		64.433	剥片	頁岩	1.01	10.3	22.8	4.4
	10C-14	005		64.270	剥片	安山岩	2.46	13.6	13.6	11.2
51	10C-14	006		64.002	剥片	砂岩	19.79	37.5	50.3	13.0
52	10C-15	001		64.408	剥片	凝灰岩	11.90	28.1	42.7	12.6
4	10C-15	002		63.980	削器	砂岩	149.60	75.9	74.5	20.7
9	10C-20	001		64.326	使用痕を有する剥片	黒曜石	3.95	34.2	31.7	6.7
31	10C-20	002		64.315	剥片	凝灰岩	6.95	46.6	20.0	8.1
	10C-20	003		64.318	剥片	チャート	1.59	13.9	13.7	5.7
	10C-20	004		64.324	砕片	黒曜石	0.18	16.2	5.9	2.1
	10C-20	005		64.382	砕片	黒曜石	0.05	3.9	6.5	1.0
	10C-20	006		64.386	剥片	黒曜石	0.32	8.7	11.6	2.5
7	10C-20	007		64.294	使用痕を有する剥片	珪質頁岩	0.39	19.3	12.4	2.0
17	10C-20	008		63.928	使用痕を有する剥片	珪質頁岩	21.02	42.7	44.1	13.0
41	10C-20	009		63.815	剥片	珪質頁岩	12.43	50.7	35.0	10.7
36	10C-20	010		63.957	剥片	凝灰岩	3.78	25.8	25.5	6.3
47	10C-21	001	接合15	64.188	剥片	凝灰岩	27.96	41.6	40.3	12.8
38	10C-21	002		64.305	剥片	珪質頁岩	16.05	42.8	23.6	13.7
15	10C-21	003		63.832	使用痕を有する剥片	珪質頁岩	21.75	41.3	45.7	12.4
6	10C-21	004		63.945	敲石	砂岩	305.62	95.1	58.2	39.9
	10C-22	002		64.130	剥片	頁岩	4.80	19.3	20.4	10.6
5	10C-22	003		63.850	削器	砂岩	133.82	71.4	56.9	24.7
34	10C-23	001		64.280	剥片	珪質頁岩	3.32	31.3	18.8	4.9
43	10C-23	002		64.080	剥片	珪質頁岩	22.27	43.2	53.6	12.3
	10C-23	003		64.106	剥片	珪質頁岩	6.18	28.7	26.6	27.1
11	10C-23	004		64.070	使用痕を有する剥片	珪質頁岩	8.72	34.1	28.9	8.6
18	10C-23	005		64.110	使用痕を有する剥片	珪質頁岩	31.20	46.3	53.4	12.2
48	10C-23	006		64.075	剥片	安山岩	20.68	38.3	37.5	12.6
	10C-24	001		64.715	砕片	黒曜石	0.03	7.3	4.6	1.0
28	10C-24	002		64.170	剥片	頁岩	11.87	57.0	33.6	9.4
	10C-25	003		64.300	礫	珪質頁岩	3.28	25.2	14.1	11.1
49	10C-31	001		64.330	剥片	安山岩	20.00	30.9	44.7	14.4
	10C-31	002		64.356	砕片	安山岩	1.17	11.2	21.5	4.9
	10C-31	003		64.253	砕片	珪質頁岩	3.55	23.3	15.5	8.5
	10C-31	004		64.056	剥片	珪質頁岩	0.51	15.8	7.0	5.1
10	10C-31	004		64.056	使用痕を有する剥片	珪質頁岩	3.22	37.7	19.0	7.4
	10C-31	005		63.890	剥片	珪質頁岩	10.04	32.7	28.8	7.8
30	10C-31	006		63.883	剥片	珪質頁岩	7.75	42.3	25.5	9.0
	10C-32	001		64.202	剥片	珪質頁岩	0.23	15.2	8.2	1.8
24	10C-32	002		64.120	石核	珪質頁岩	24.13	41.5	38.4	17.8
	10C-32	003		64.072	剥片	珪質頁岩	2.40	27.9	14.7	4.6
50	10C-32	004		64.212	剥片	安山岩	22.32	29.0	35.5	17.3
16	10C-33	002		63.816	使用痕を有する剥片	珪質頁岩	28.10	59.4	35.7	16.8
32	10C-33	003		64.118	剥片	凝灰岩	6.85	38.4	24.8	9.5
	10C-34	001		64.410	剥片	安山岩	4.82	17.5	34.7	10.5
12	10C-40	001		63.838	使用痕を有する剥片	珪質頁岩	10.22	38.7	34.2	10.3
	10C-41	001		63.940	礫	頁岩	129.02	—	—	—

～54は、横長剥片である。47～50は背面の大半が自然面に覆われる。53～54は、調整剥片と思われる。

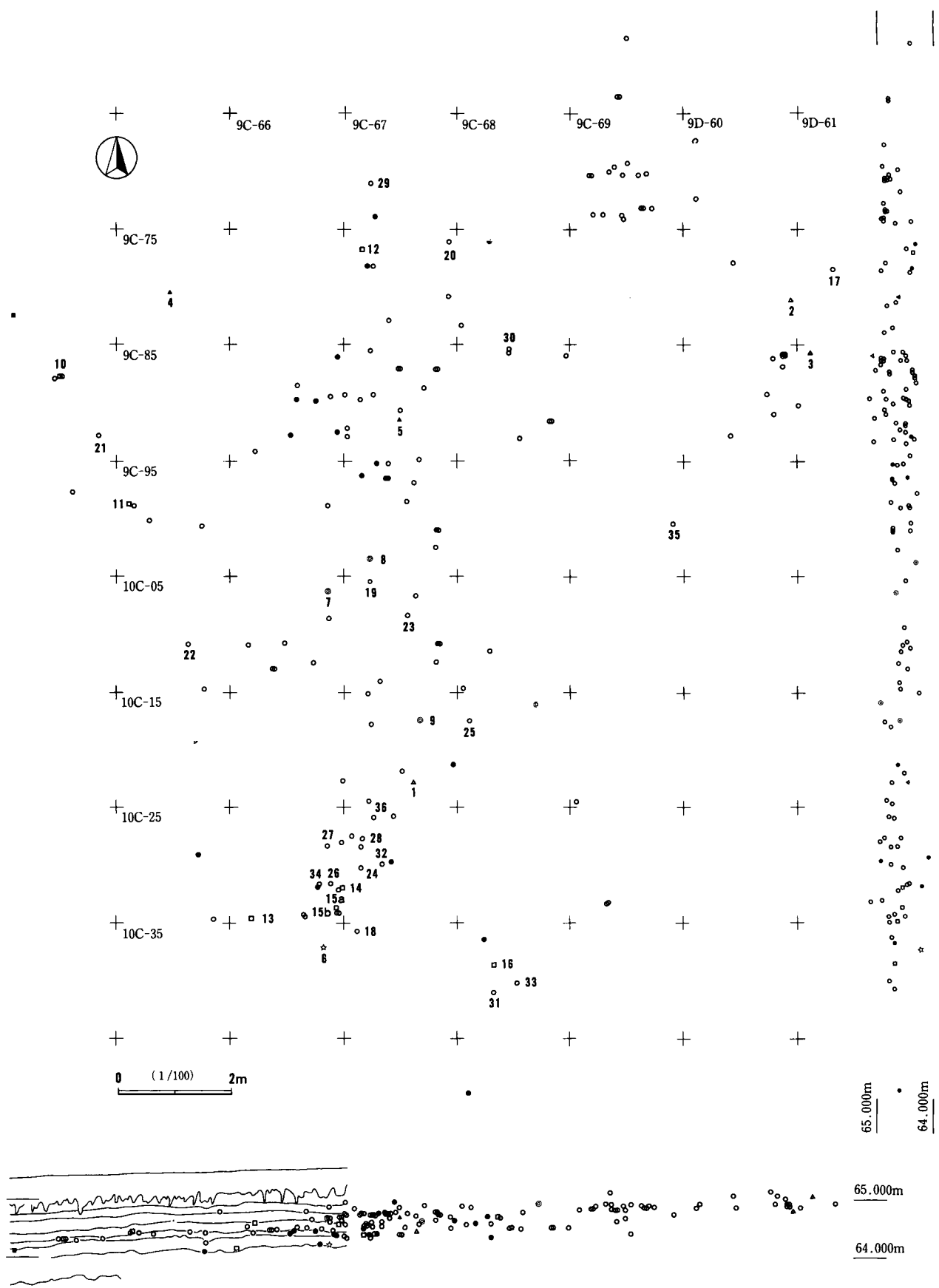
C 2ブロック (第158～166図, 第23表, 図版75) 本ブロックは、9C-59・9C-67～9D-60・9D-75～9D-71・9C-84～9D81・9C-94～9C-99・10C-05～10C-08・10C-17～18・10C-25～29・10C-36～38・10C-48グリッドにかけて位置し、南北19m、東西14m程の範囲にナイフ形石器3点、搔器1点、削器1点、局部磨製石斧1点、加工痕を有する剥片4点、石核7点、剥片・碎片113点、礫17点が棒状に分布している。垂直分布は、64.090m～65.127mの約1.1m、V～IX層の間、特にIX層上部に濃く認められた。

石材は、黒曜石36点、珪質頁岩17点、頁岩5点、チャート33点、瑪瑙1点、安山岩34点、ホルンフェルス10点、閃緑岩1点、砂岩5点、凝灰岩5点で、安山岩・黒曜石・チャートが多い傾向に有る。

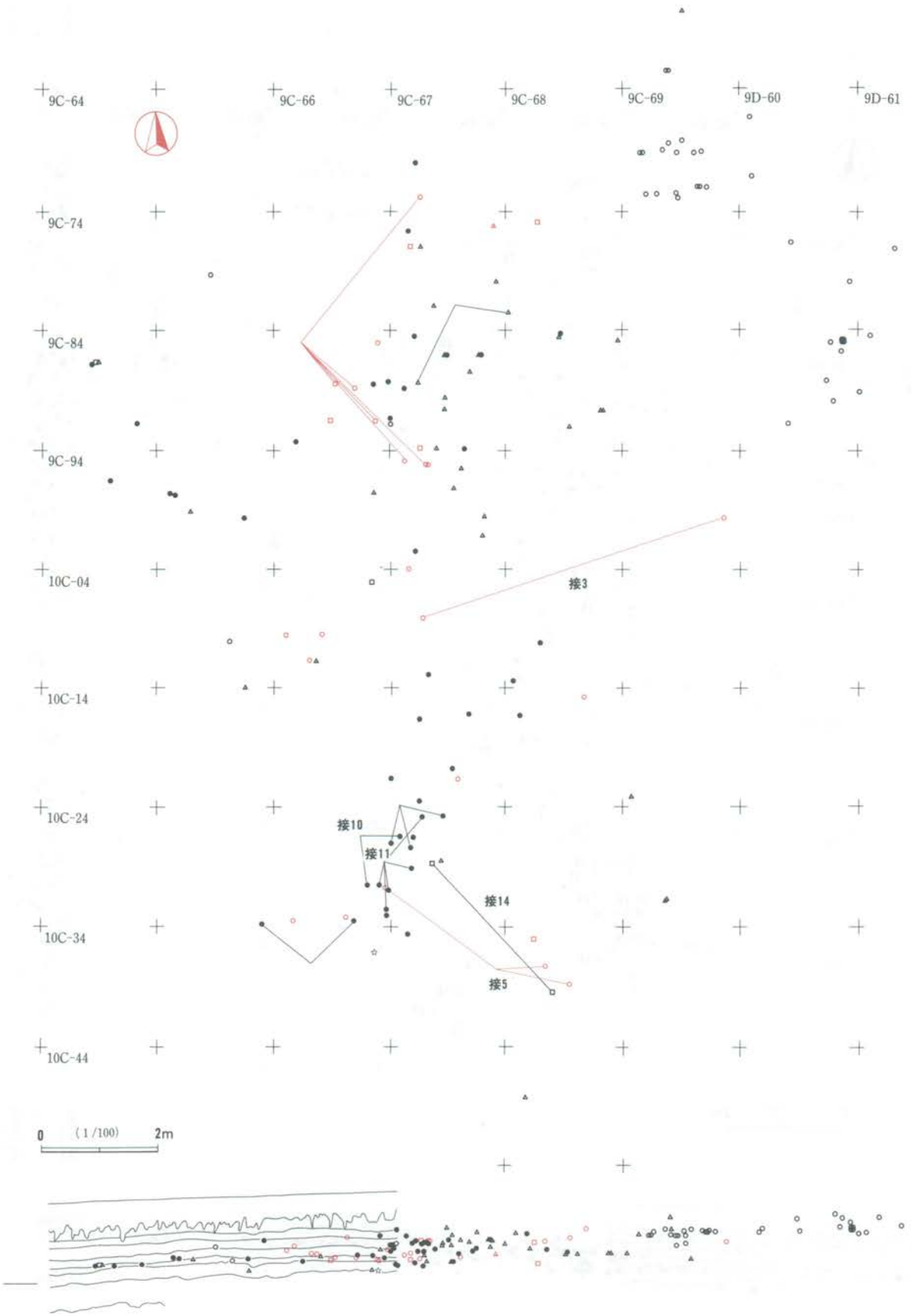
1～3は、ナイフ形石器である。1・2は縦長剥片を素材とし、3は横長剥片を素材としている。1は上半部を欠損するが、打面よりの二側縁にブランディングを施している。2は下半部を欠損するが、先端部から右側縁にかけてブランディングを施している。3は、上半部を欠損するが、打面部を折断し、先端部にブランディングを施している。4は、搔器である。打面転移が認められる、先端部の肥厚した縦長剥片を素材とし、打面部を腹面側からの加工によって取り除き、刃部を形成している。5は削器である。自然面を打面とした厚手の横長剥片を素材として、左側縁に腹面側からの加工によって、刃部を形成している。6は、局部磨製石斧である。基部を欠損するが、両主面に自然面が認められており、薄手の扁平礫を素材として、片刃の刃部を研ぎ出している。刃部左縁には使用による剥離が認められる。7～9・28は加工痕を有する剥片である。6は石刃状の縦長剥片を素材とし、左側縁の先端部付近に腹面側から加工を施している。7は幅広の剥片を素材とし、左側縁の一部に加工を施している。9は、厚手の剥片を素材とし、右側縁に背面側からの加工を施している。左側面は折れによるもので、欠損の可能性が高い。28には、打面部を取り除くような調整が施されている。10～16は石核である。10・11は円礫を分割したものを素材として小振りな剥片を剥離している。12・13は、扁平な円礫において、厚み方向に打撃を加え、横長剥片を剥離している。14・15・16は、円礫を分割し、厚みに対して交互に横長剥片を剥離している。15は最終的に15aが、15bから剥離している。17～23は縦長剥片である。24～27・29は横長剥片である。30～33は背面に自然面を大きく残す剥片である。34～36は調整剥片である。

Dブロック (第167～176図, 第24表, 図版76) 本ブロックは、10B-97～10C-90・11B-08～11C-00・11B-18～10C-10・11B-29グリッドに位置する、南北6m、東西6m程の範囲に、ナイフ形石器1点、使用痕を有する剥片1点、加工痕を有する剥片1点、敲石1点、石核8点、剥片・碎片86点、礫5点が楕円状に固まって分布している。垂直分布は、63.350m～64.029mの約0.7m、VII～X層の間、特にIX層上部に濃く認められた。石材は、安山岩68点、凝灰岩10点、頁岩9点、砂岩7点、珪質頁岩5点、チャート4点で、安山岩が大半を占めている。

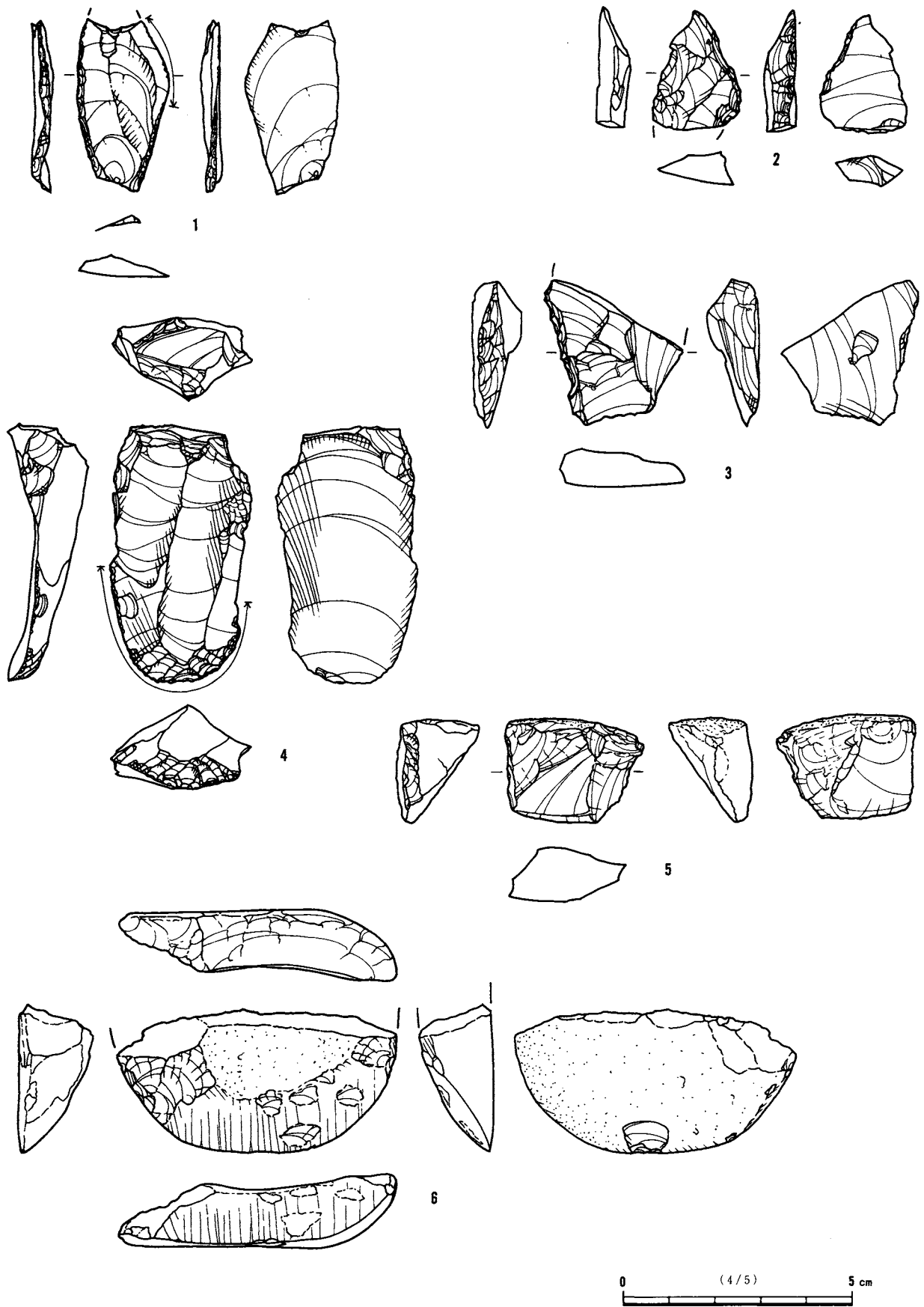
1は、ナイフ形石器である。縦長剥片を素材として、両側縁の打面側寄りにブランディングを施している。左側縁のブランディングは腹面から、右側縁は背面から施されている。2は、使用痕を有する剥片である。縦長剥片の右側縁と先端部の一部に、微小な剥離痕が認められる。4は、敲石である。棒状の扁平礫が、折れたもので、長軸端部に敲打痕が認められる。5～12は、石核である。全て自然面を残しており、円礫から直接剥片剥離を行っている。13～26は、縦長剥片である。21～26は、背面に大きく自然面を残している。27～41は、幅広の剥片である。31～41は、背面に大きく自然面を残している。42～46は、調整剥片である。



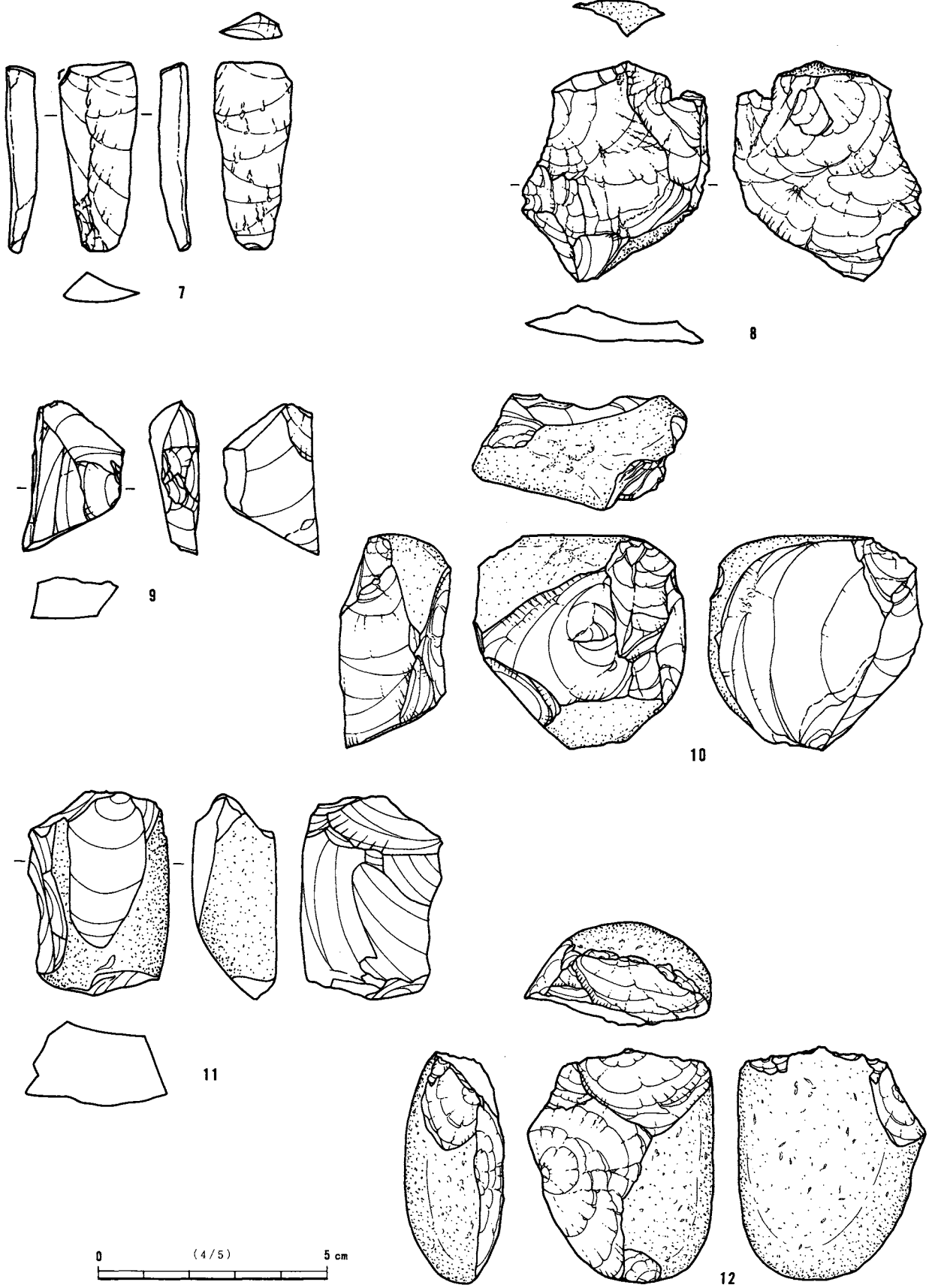
第158図 C 2 ブロック器種別分布



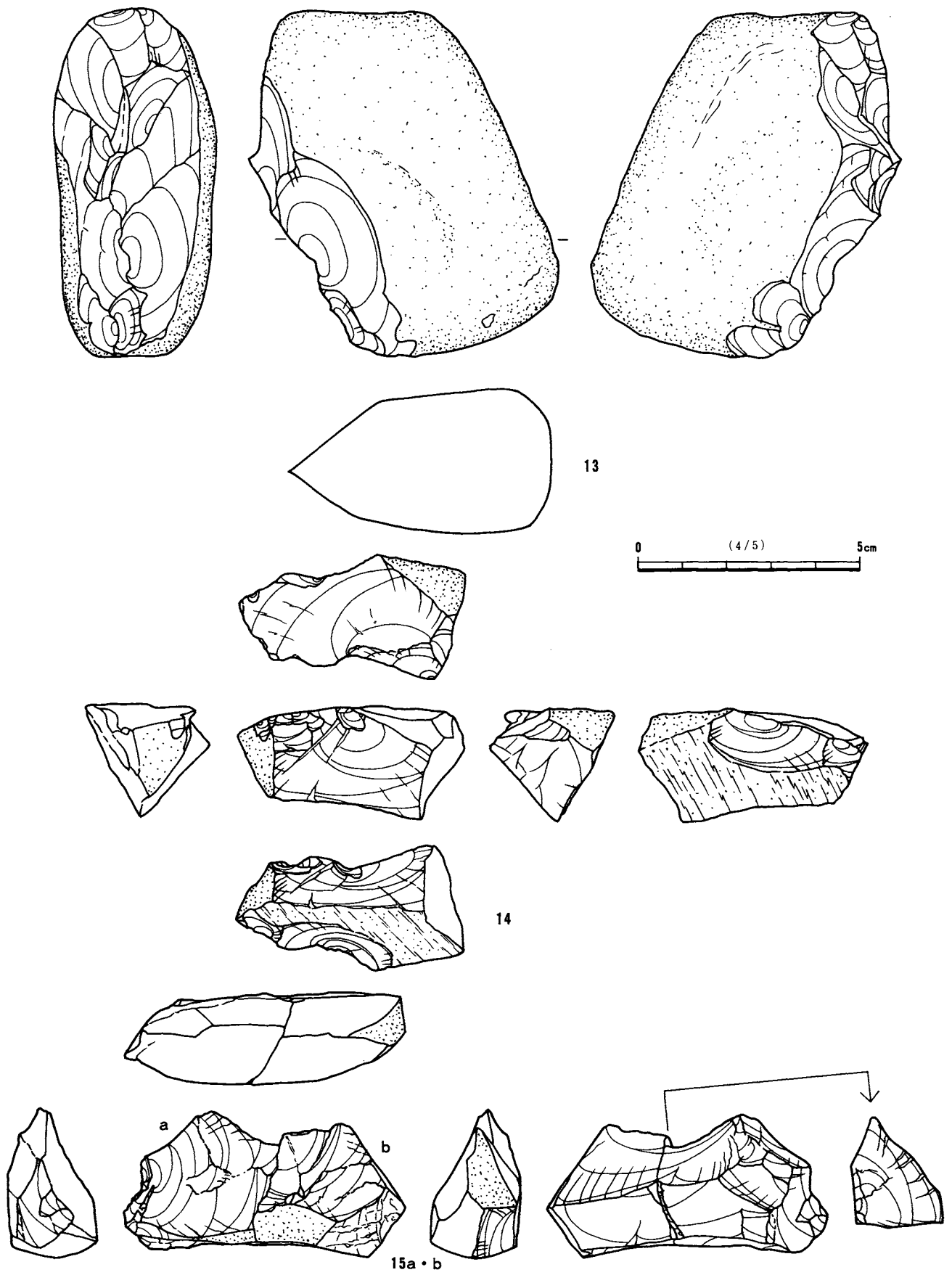
第159図 C 2 ブロック石材別分布



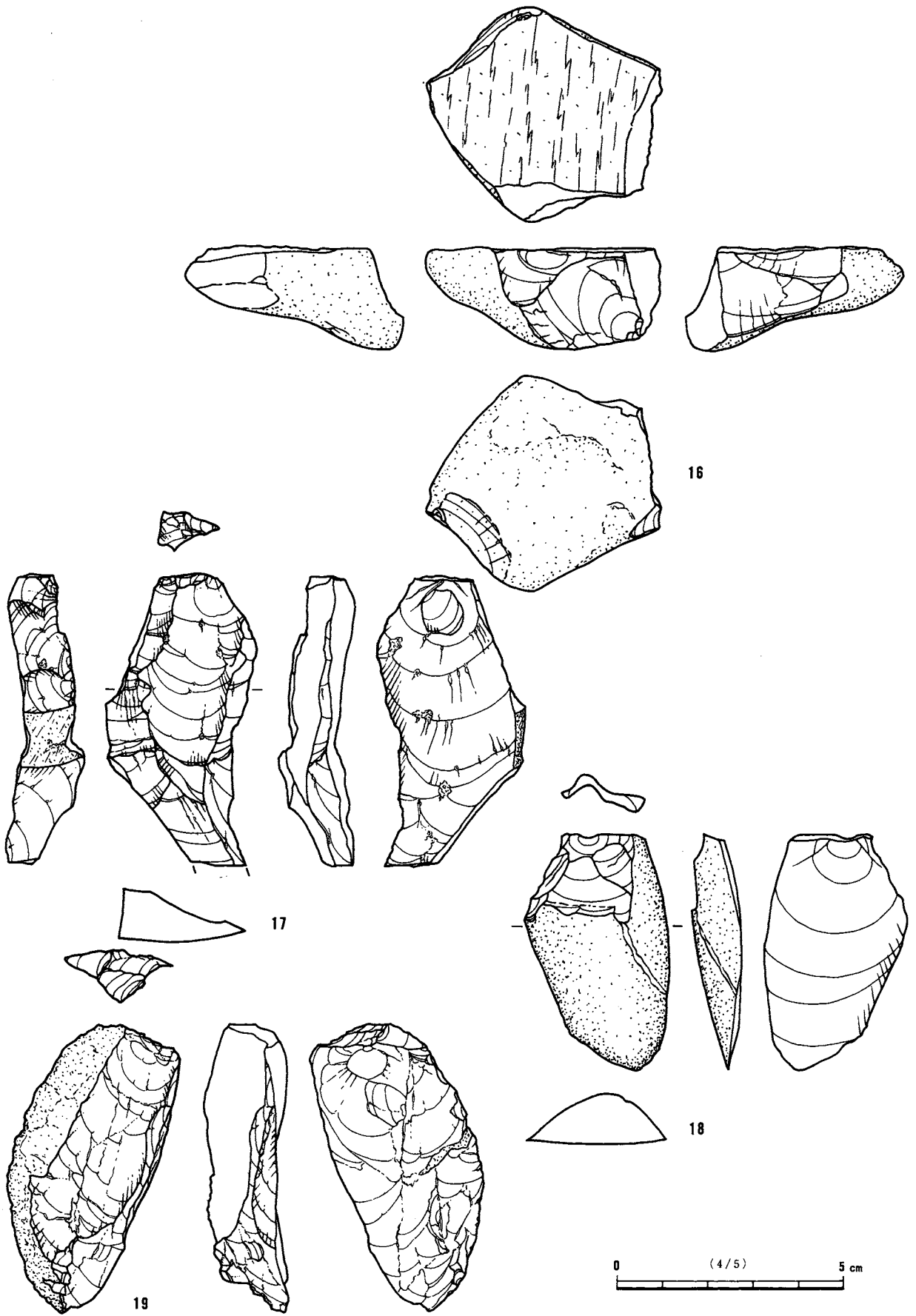
第160図 C2ブロック出土石器(1)



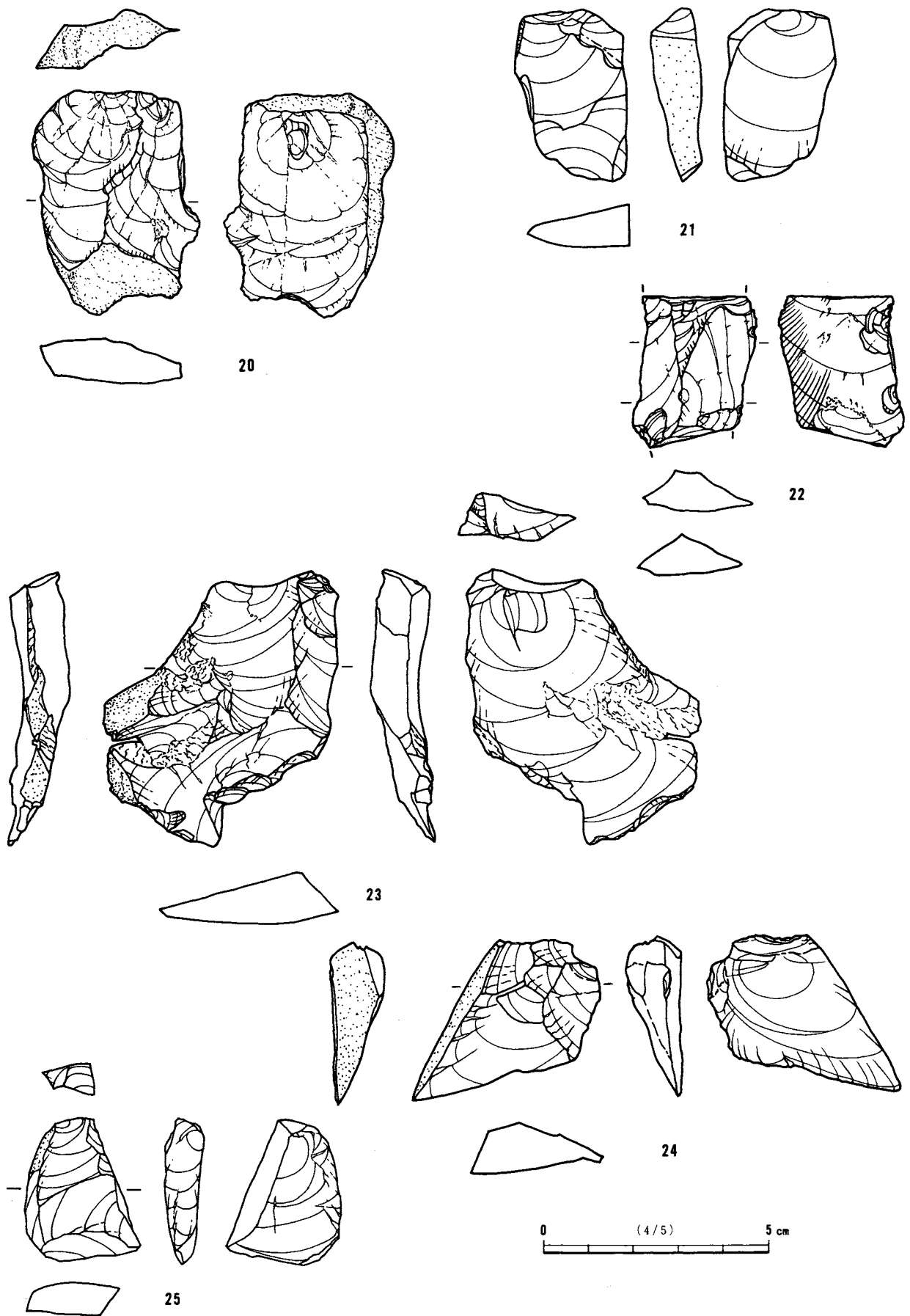
第161図 C2ブロック出土石器(2)



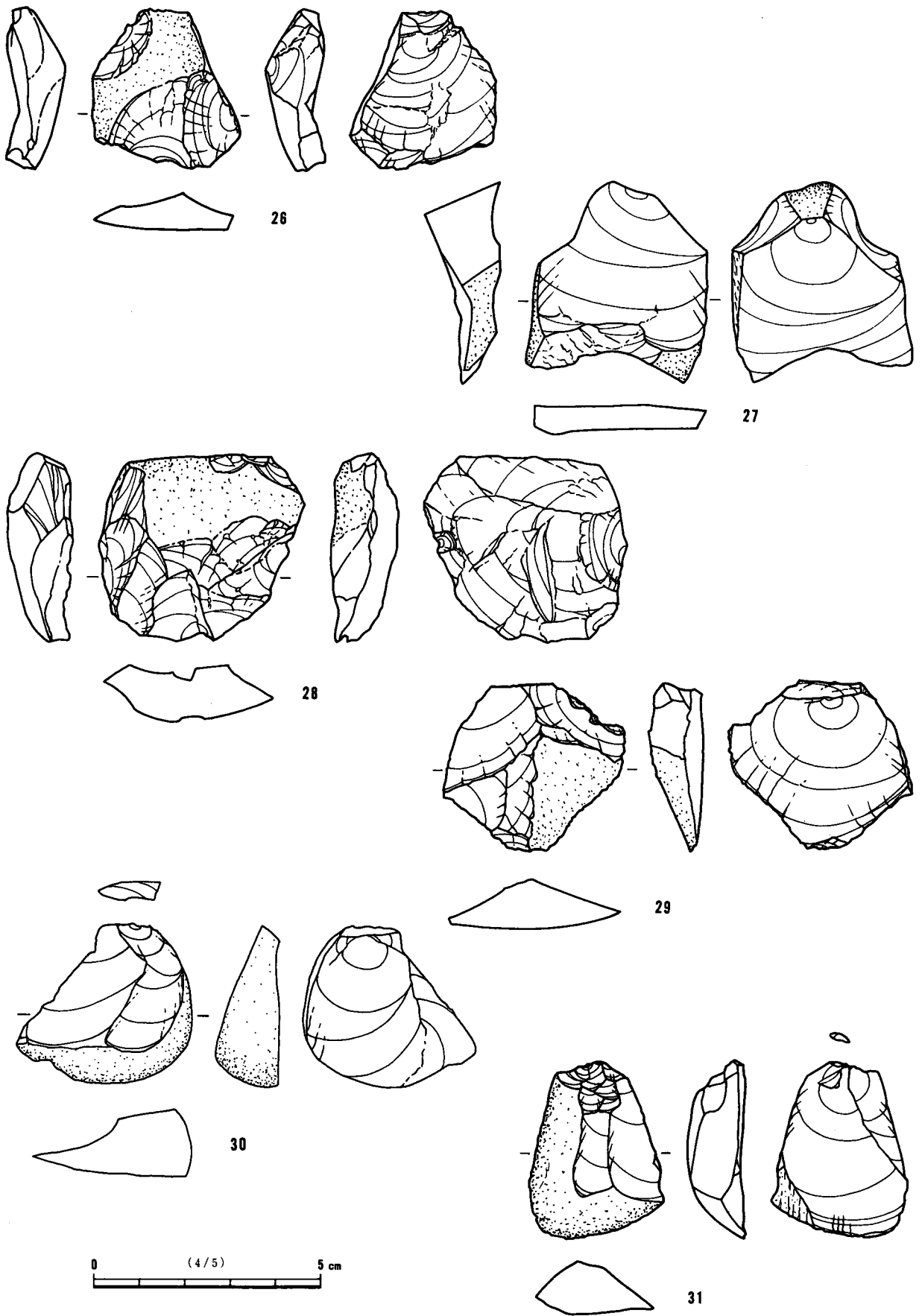
第162図 C 2ブロック出土石器 (3)



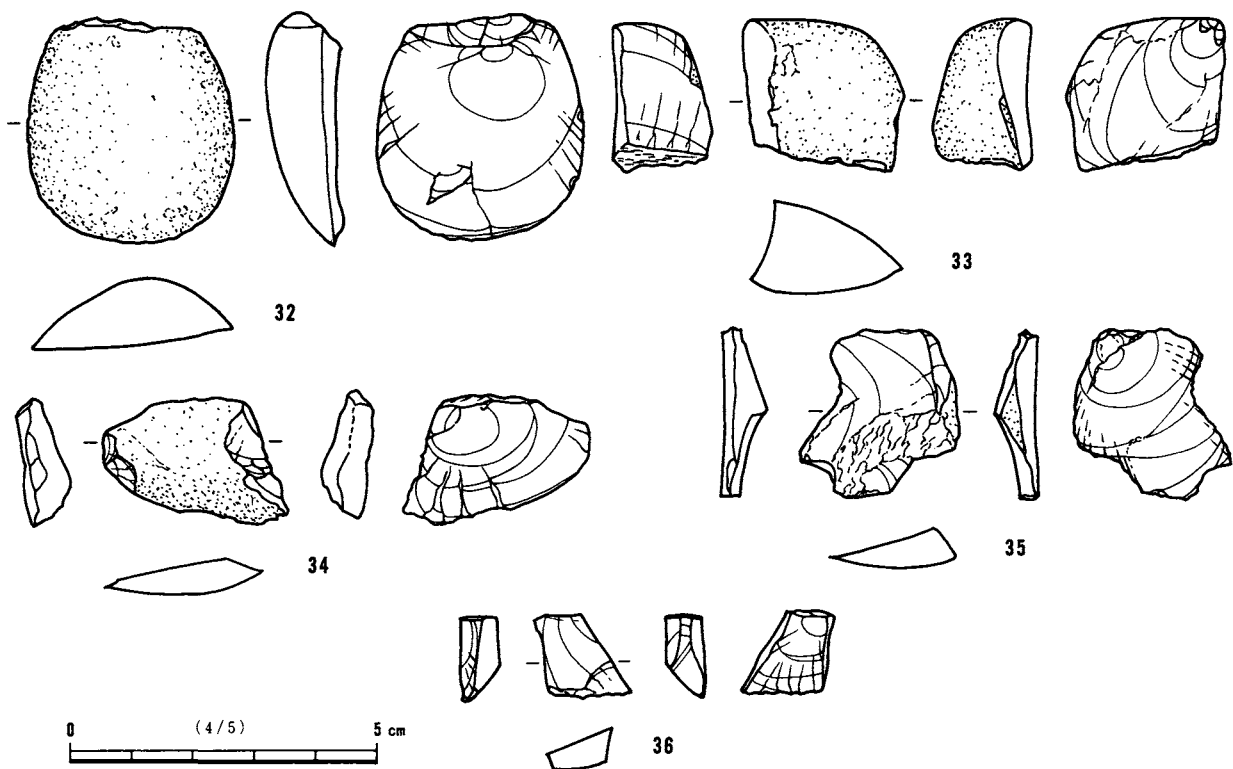
第163図 C 2ブロック出土石器 (4)



第164図 C2ブロック出土石器(5)



第165図 C 2 ブロック出土石器 (6)



第166図 C2ブロック出土石器(7)

第23表 C2ブロック

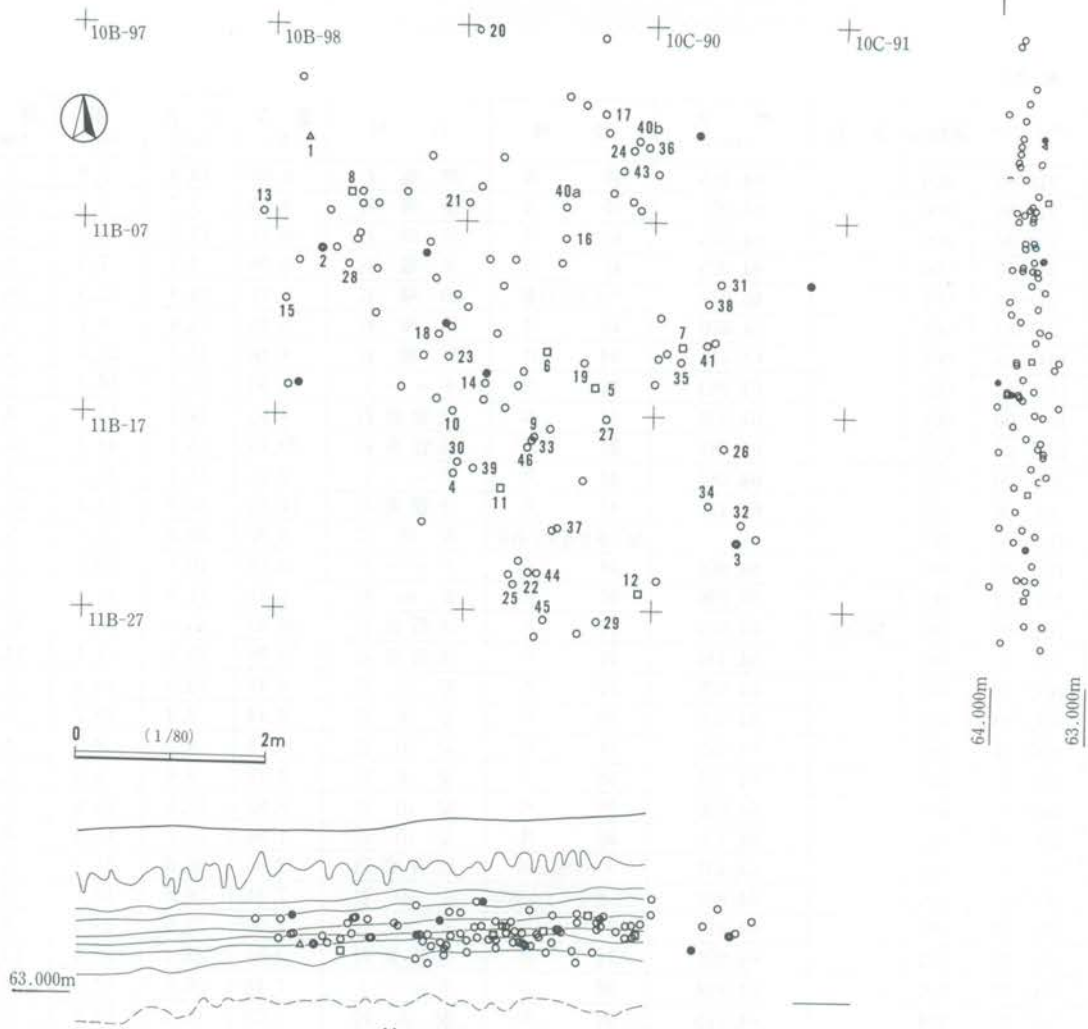
図 No.	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
	9C-59	001		64.795	剥片	黒曜石	2.84	26.8	23.8	8.6
	9C-59	001		64.795	剥片	黒曜石	3.06	30.7	13.0	8.3
	9C-59	002		64.406	砕片	チャート	0.77	10.8	10.0	6.2
	9C-67	001		64.413	礫	珪質頁岩	514.69	—	—	—
29	9C-67	002		64.575	剥片	安山岩	12.42	33.8	36.3	11.3
	9C-69	001		64.880	剥片	黒曜石	0.37	22.3	9.0	2.6
	9C-69	002		64.900	剥片	黒曜石	0.25	17.7	8.1	3.0
	9C-69	003		64.875	剥片	黒曜石	4.15	27.0	35.5	6.5
	9C-69	004		64.870	砕片	黒曜石	0.03	6.7	3.7	1.1
	9C-69	004		64.870	砕片	黒曜石	0.03	6.3	4.0	0.9
	9C-69	005		64.860	砕片	黒曜石	0.13	8.5	1.4	1.3
	9C-69	006		64.827	剥片	黒曜石	0.17	6.7	10.8	1.9
	9C-69	006		64.827	砕片	黒曜石	0.09	5.7	7.0	1.8
	9C-69	007		64.820	剥片	黒曜石	0.19	14.8	7.6	2.4
	9C-69	008		64.796	剥片	黒曜石	0.21	14.1	9.2	3.0
	9C-69	009		64.900	剥片	黒曜石	1.48	21.9	20.3	5.6
	9C-69	010		64.875	砕片	黒曜石	0.06	7.1	6.9	1.2
	9C-69	011		64.875	剥片	黒曜石	0.20	12.7	8.2	2.0
	9C-69	012		64.668	剥片	黒曜石	0.27	17.8	8.7	3.0
	9C-69	013		64.620	剥片	黒曜石	0.11	13.2	7.6	1.1
4	9C-75	001		64.627	搔器	黒曜石	16.59	54.3	30.5	16.0
	9C-77	001		64.724	剥片	チャート	2.13	17.8	14.2	8.7
	9C-77	002		64.684	剥片	チャート	1.06	17.1	11.0	5.6
20	9C-77	003		64.479	剥片	メノウ	21.47	50.2	39.4	9.9
	9C-77	004		64.395	砕片	チャート	0.18	9.0	6.1	3.0
12	9C-77	005		64.383	石核	ホルンフェルス	52.20	51.4	39.7	22.3
	9C-77	006		64.392	礫	砂岩	102.86	—	—	—
	9C-78	001		64.858	剥片	チャート	4.67	28.8	19.8	9.9
	9C-78	002		64.315	礫片	砂岩	11.35	—	—	—

(第23表 続き)

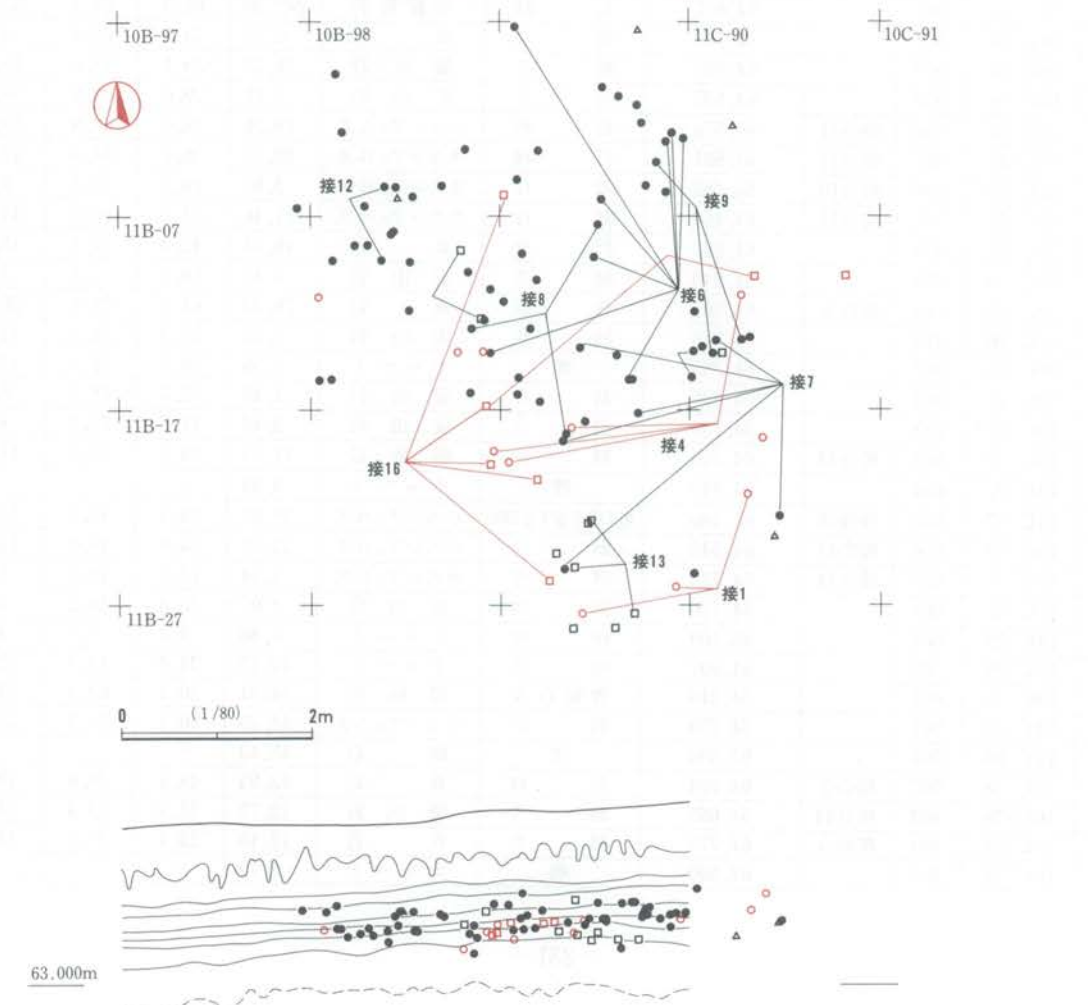
図 No.	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
10	9C-84	001		64.317	剥片	チャート	0.97	12.7	12.9	6.2
	9C-84	001		64.317	石核	凝灰岩	60.43	46.2	47.7	25.7
	9C-84	002		64.296	剥片	安山岩	26.72	41.3	44.3	13.3
21	9C-84	003		64.342	剥片	安山岩	9.40	37.8	23.4	8.9
	9C-86	001		64.410	剥片	安山岩	4.88	30.0	22.9	7.5
9C-86	002		64.386	礫	砂岩	1.42	—	—	—	
9C-86	003		64.435	礫	珪質頁岩	151.54	—	—	—	
9C-86	004		64.510	剥片	安山岩	1.86	23.2	15.5	4.3	
9C-86	005		64.420	礫	珪質頁岩	4.24	—	—	—	
9C-86	006		64.599	礫	珪質頁岩	6.88	—	—	—	
9C-86	007		64.714	砕片	黒曜石	0.03	3.3	3.5	2.0	
9C-86	008		64.533	剥片	安山岩	6.74	29.6	20.0	11.1	
9C-86	009		64.848	剥片	安山岩	1.08	13.5	18.7	4.0	
9C-86	010		64.580	礫	珪質頁岩	2.31	—	—	—	
9C-86	011		64.548	剥片	安山岩	2.37	19.0	30.3	5.5	
9C-87	001		64.722	剥片	安山岩	1.74	28.3	8.3	6.4	
9C-87	002		64.503	剥片	チャート	6.18	32.8	13.9	11.6	
9C-87	003		64.706	剥片	安山岩	6.05	20.9	39.3	8.0	
9C-87	004		64.776	剥片	安山岩	1.84	24.4	15.4	6.1	
9C-87	004		64.776	剥片	チャート	1.04	27.2	12.7	5.0	
9C-87	005		64.877	剥片	チャート	11.03	34.6	36.2	7.7	
9C-87	006		64.840	剥片	チャート	2.81	20.3	21.4	7.7	
5	9C-87	007		64.659	削器	チャート	10.83	21.4	31.1	16.1
	9C-87	008		64.560	砕片	安山岩	0.13	11.2	5.3	1.8
	9C-87	009		64.387	剥片	安山岩	0.13	11.4	5.0	1.4
9C-87	009		64.387	剥片	チャート	1.88	20.8	17.4	7.5	
9C-88	001		64.492	砕片	チャート	0.73	13.3	15.2	7.5	
9C-88	002		64.502	砕片	チャート	0.92	16.3	7.2	4.8	
9C-88	002		64.502	砕片	チャート	0.92	16.3	7.2	4.8	
9C-88	004		64.488	剥片	チャート	3.69	11.8	22.8	13.2	
9C-88	005		64.513	砕片	チャート	0.46	7.7	14.0	2.4	
30	9C-88	006		64.530	剥片	安山岩	17.00	35.0	39.0	13.4
	9C-94	001		64.310	剥片	安山岩	1.41	21.2	15.9	5.5
9C-95	001		64.416	剥片	安山岩	3.83	26.0	27.1	7.6	
9C-95	002		64.414	剥片	チャート	3.34	33.8	23.0	7.1	
9C-95	003		64.432	剥片	安山岩	3.14	18.1	37.9	5.1	
11	9C-95	004		64.464	石核	ホルンフェルス	33.93	44.4	30.5	18.1
	9C-96	001		64.594	剥片	チャート	5.99	26.5	32.4	9.2
9C-97	001		64.627	剥片	チャート	1.84	19.5	20.7	4.0	
9C-97	002		64.732	礫		1.43	—	—	—	
9C-97	002		64.732	剥片	チャート	0.62	19.2	10.7	2.5	
9C-97	003		64.746	剥片	チャート	6.98	19.5	18.9	14.2	
9C-97	004		64.712	剥片	チャート	0.73	13.5	8.9	7.1	
9C-97	005		64.481	礫	珪質頁岩	9.19	—	—	—	
9C-97	006		64.725	礫	珪質頁岩	4.67	—	—	—	
9C-97	006		64.725	礫	珪質頁岩	5.98	—	—	—	
9C-97	007		64.725	礫	砂岩	1.42	—	—	—	
9C-97	008		64.662	剥片	チャート	6.47	24.8	31.6	8.5	
8	9C-97	009		64.316	加工痕を有する剥片	安山岩	14.91	48.3	40.6	10.5
35	9C-99	001	接合3	64.733	剥片	珪質頁岩	3.03	29.5	25.2	5.6
	9D-60	001		64.900	剥片	黒曜石	2.36	28.0	29.8	5.2
9D-60	002		64.852	砕片	黒曜石	0.08	7.4	10.0	1.5	
2	9D-70	001		64.807	ナイフ形石器	黒曜石	2.71	25.4	19.2	6.0
	9D-70	002		64.848	砕片	黒曜石	0.74	10.2	21.6	2.6
17	9D-71	001		64.950	剥片	黒曜石	21.75	63.3	38.9	12.3
	9D-80	001		65.059	砕片	黒曜石	0.05	18.5	9.1	4.1
	9D-80	002		65.056	砕片	黒曜石	0.10	9.9	5.8	2.0
	9D-80	003		65.127	砕片	黒曜石	0.35	10.8	13.9	3.3
	9D-80	004		65.000	砕片	黒曜石	0.44	15.6	13.6	2.5
9D-80	005		64.925	砕片	黒曜石	1.05	15.4	15.5	6.6	

(第23表 続き)

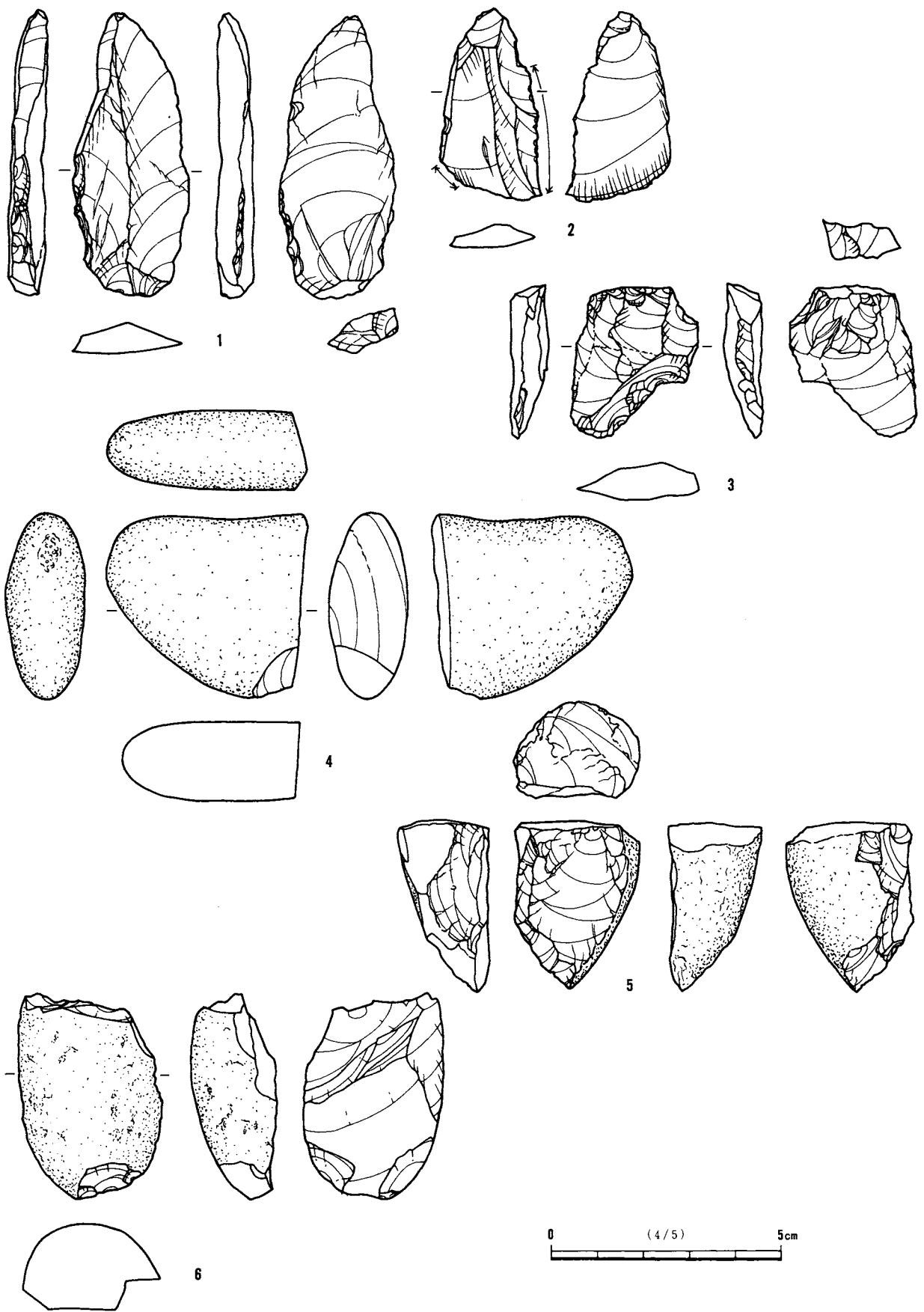
図 No.	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
	9D-80	006		64.925	砕片	黒曜石	0.06	13.9	2.9	1.9
	9D-80	006		64.925	砕片	黒曜石	0.05	9.7	5.3	0.9
	9D-80	006		64.925	砕片	黒曜石	0.12	13.1	6.0	2.2
	9D-80	006		64.925	砕片	黒曜石	0.08	6.4	7.5	2.2
3	9D-81	001		65.074	ナイフ形石器	黒曜石	6.22	24.8	32.5	10.9
	9D-81	002		64.870	砕片	黒曜石	0.25	15.8	8.1	2.9
22	10C-05	001		64.412	剥片	黒曜石	8.18	32.3	27.0	9.4
	10C-05	002		64.243	剥片	チャート	3.30	22.7	16.5	7.1
	10C-06	001		64.534	剥片	珪質頁岩	4.85	39.1	13.4	9.7
	10C-06	002		64.487	剥片	珪質頁岩	29.40	63.4	48.5	10.4
	10C-06	002		64.487	剥片	チャート	2.76	17.1	16.5	7.8
	10C-06	003		64.477	剥片	珪質頁岩	14.43	37.2	38.6	11.5
7	10C-06	005			加工痕を有する剥片	凝灰岩	3.32	39.9	16.6	5.8
	10C-06	006		64.666	剥片	チャート	3.16	10.1	30.0	7.4
	10C-07	001		64.596	剥片	安山岩	1.61	11.8	20.4	6.0
23	10C-07	002	接合3	64.515	剥片	珪質頁岩	26.43	65.6	50.1	12.5
19	10C-07	003		64.495	剥片	珪質頁岩	34.29	65.1	31.4	14.8
	10C-08	001		64.579	剥片	安山岩	0.49	13.0	10.4	2.9
	10C-08	002		64.579	剥片	安山岩	4.44	3.4	20.2	7.0
	10C-16	001		64.757	砕片	安山岩	0.17	8.1	8.5	2.3
	10C-17	001		64.731	剥片	安山岩	0.19	8.6	6.3	4.9
	10C-17	002		64.520	剥片	安山岩	0.83	17.1	15.4	3.6
	10C-17	003		64.739	剥片	安山岩	1.88	15.7	12.9	6.7
1	10C-17	005		64.437	ナイフ形石器	珪質頁岩	2.66	38.6	21.7	3.1
9	10C-17	006		64.607	加工痕を有する剥片	安山岩	7.44	26.8	19.1	9.7
25	10C-18	001		64.870	剥片	安山岩	7.50	30.9	25.3	8.0
	10C-18	002		64.925	剥片	珪質頁岩	3.84	28.2	15.4	13.2
	10C-19	001		64.814	剥片	チャート	1.48	20.8	12.3	3.6
	10C-25	001		64.773	剥片	安山岩	3.29	11.3	36.9	9.7
	10C-25	002		64.090	礫	自然礫	8.88	—	—	—
13	10C-26	001		64.615	石核	珪質頁岩	242.39	86.9	60.2	33.9
	10C-26	002		64.778	剥片	頁岩	2.25	15.5	23.1	4.7
	10C-26	003		64.695	剥片	凝灰岩	16.73	39.1	37.5	15.5
	10C-26	003		64.695	剥片	安山岩	7.97	29.0	29.8	10.2
15 b	10C-26	004	接合11	64.574	石核	ホルンフェルス	19.26	36.6	28.9	19.2
15 a	10C-26	005	接合11	64.621	石核	ホルンフェルス	20.74	36.7	31.5	17.8
34	10C-26	006	接合10	64.485	剥片	ホルンフェルス	3.87	19.1	32.5	6.4
26	10C-26	007	接合11	64.460	剥片	ホルンフェルス	11.46	33.2	30.6	11.9
27	10C-26	008		64.667	剥片	頁岩	16.71	42.0	37.1	15.7
	10C-26	009		64.949	剥片	安山岩	0.47	19.7	7.6	3.6
14	10C-26	010	接合5	64.565	石核	頁岩	26.34	47.1	24.8	20.0
	10C-26	011		64.510	剥片	安山岩	8.51	22.3	39.9	12.7
	10C-26	012		64.235	礫	チャート	2.56	10.0	19.9	11.2
	10C-27	001		64.836	剥片	安山岩	1.46	12.3	18.2	5.5
	10C-27	002		64.755	剥片	安山岩	2.80	17.9	25.2	8.4
32	10C-27	003	接合14	64.765	剥片	凝灰岩	17.15	35.1	33.8	11.1
	10C-27	004		64.949	礫	チャート	4.39	—	—	—
28	10C-27	005	接合10	64.586	加工痕を有する剥片	ホルンフェルス	29.07	40.8	45.7	13.8
24	10C-27	006	接合11	64.546	剥片	ホルンフェルス	12.62	34.8	49.4	13.9
36	10C-27	007	接合11	64.720	剥片	ホルンフェルス	1.04	12.7	19.3	5.5
	10C-27	008		64.770	剥片	安山岩	2.07	20.0	18.2	5.8
	10C-29	001		65.100	砕片	チャート	0.86	9.0	8.7	4.3
	10C-29	002		64.907	剥片	チャート	10.15	34.6	18.9	12.5
6	10C-36	001		64.216	磨製石斧	閃緑岩	34.21	29.1	62.2	14.0
18	10C-37	001		64.750	剥片	ホルンフェルス	18.39	50.1	38.3	11.9
	10C-38	001		64.694	礫	砂岩	43.43	—	—	—
16	10C-38	002	接合5	64.704	石核	頁岩	52.93	49.6	46.6	19.3
31	10C-38	003	接合14	64.665	剥片	凝灰岩	12.72	35.9	29.1	11.2
33	10C-38	004	接合5	64.775	剥片	頁岩	12.18	25.1	22.1	14.6
	10C-48	001		64.600	礫	チャート	6.79	—	—	—



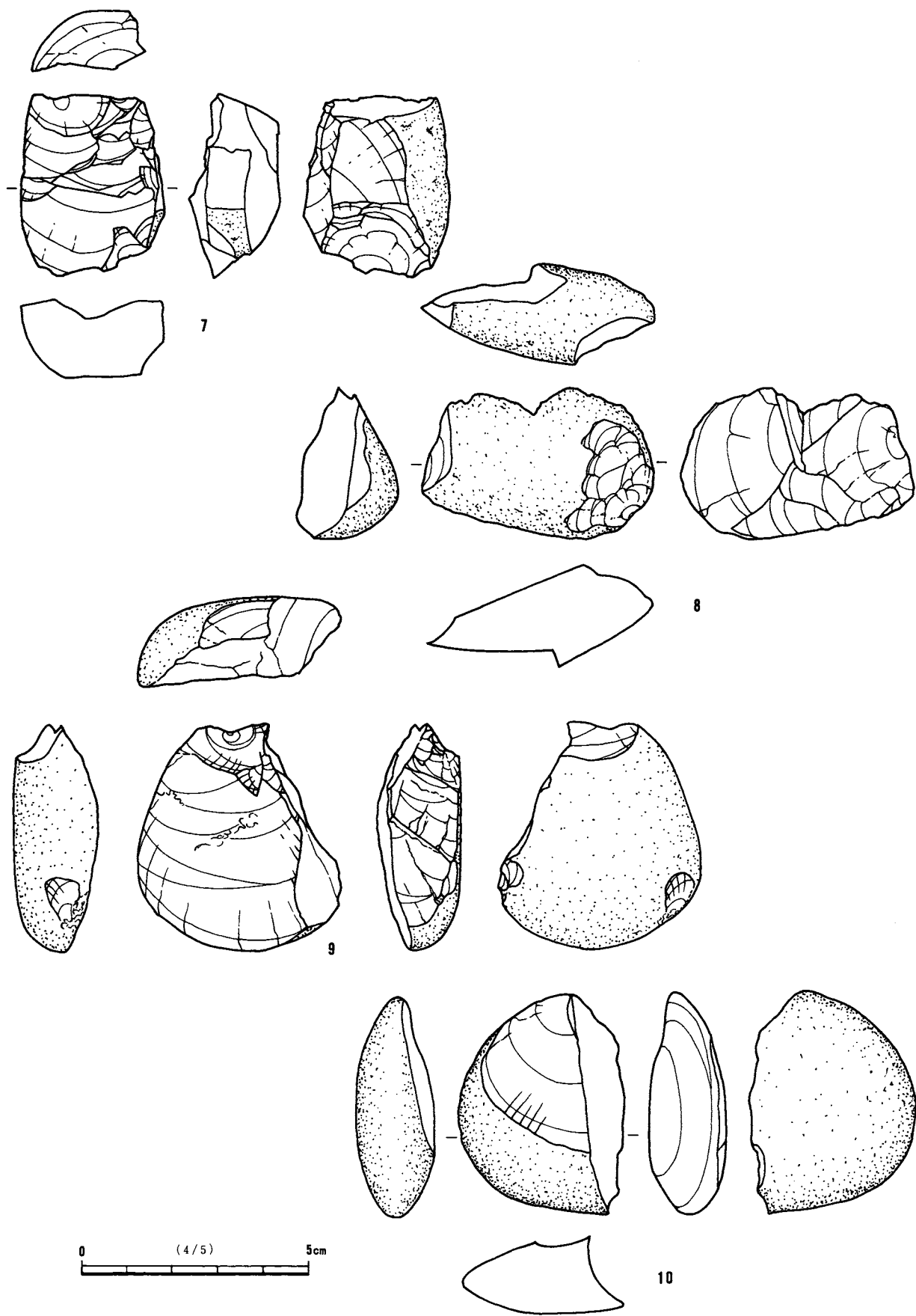
第167図 Dブロック器種別分布



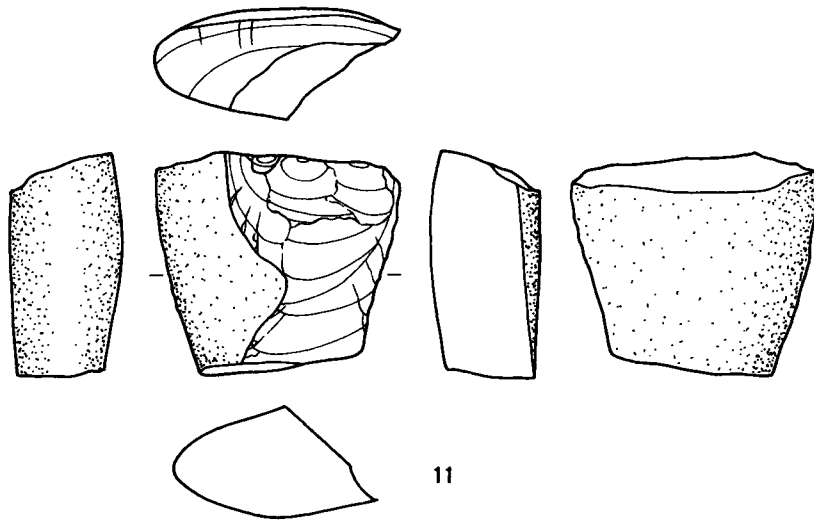
第168図 Dブロック石材別分布



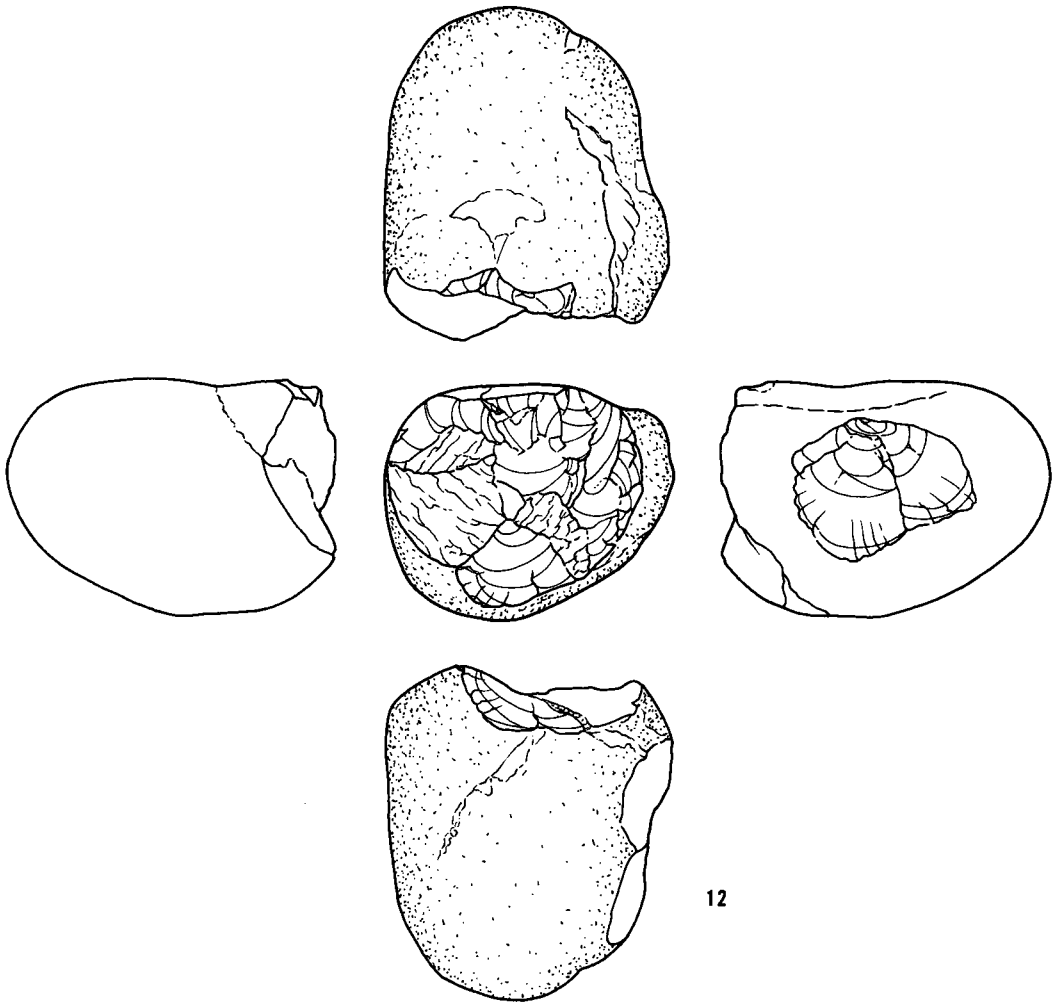
第169図 Dブロック出土石器 (1)



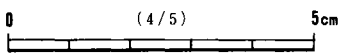
第170図 Dブロック出土石器(2)



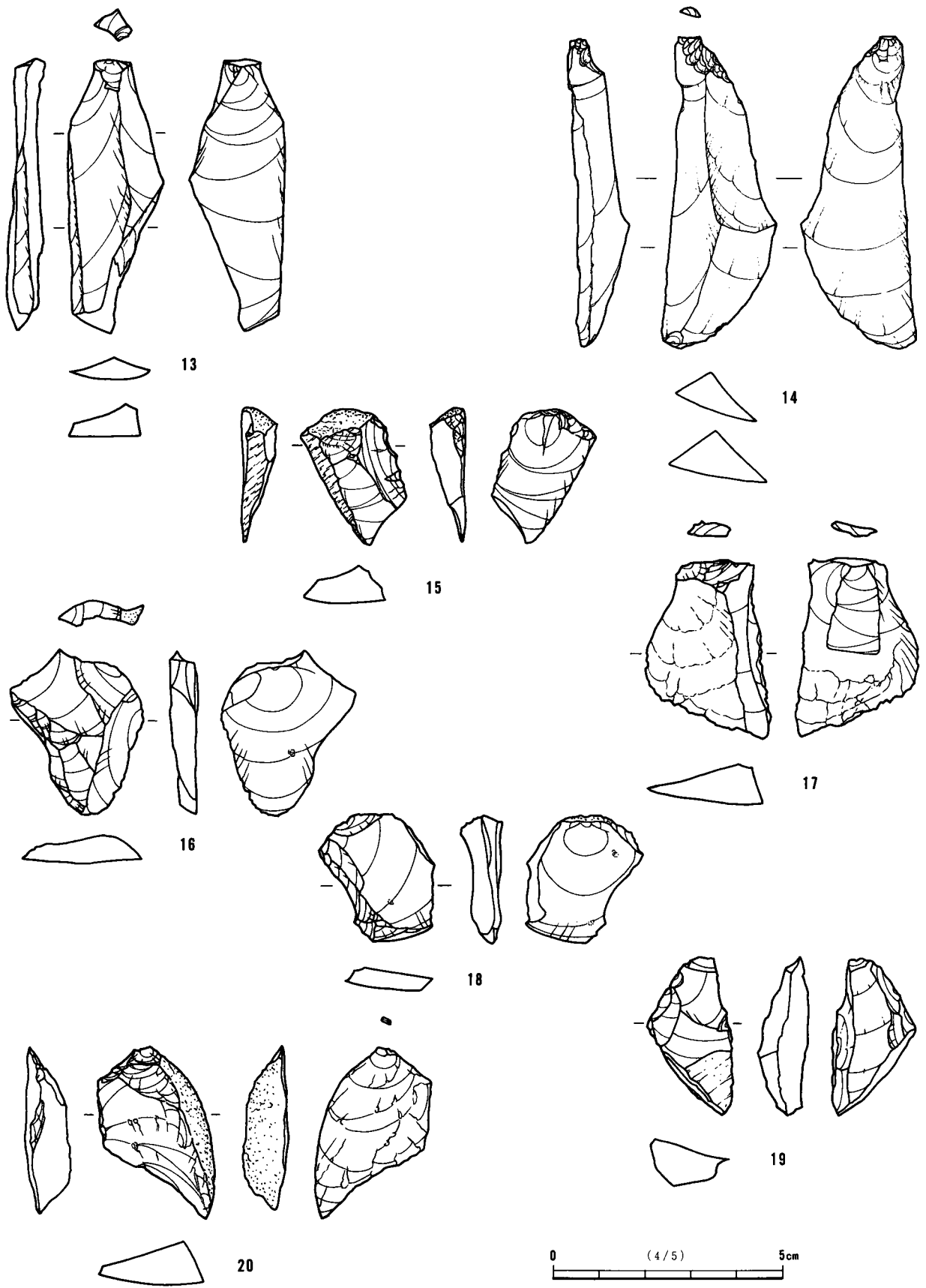
11



12



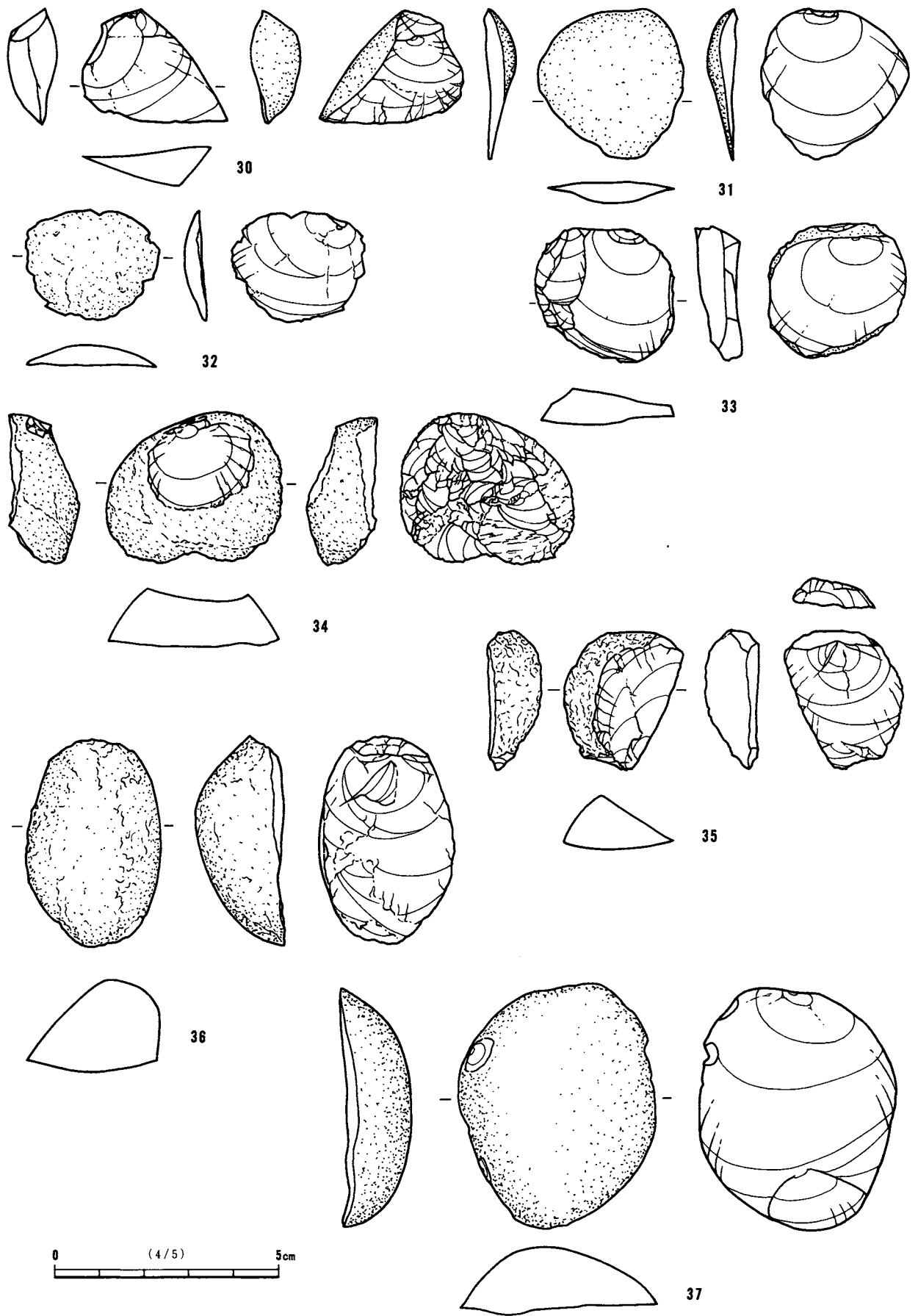
第171図 Dブロック出土石器 (3)



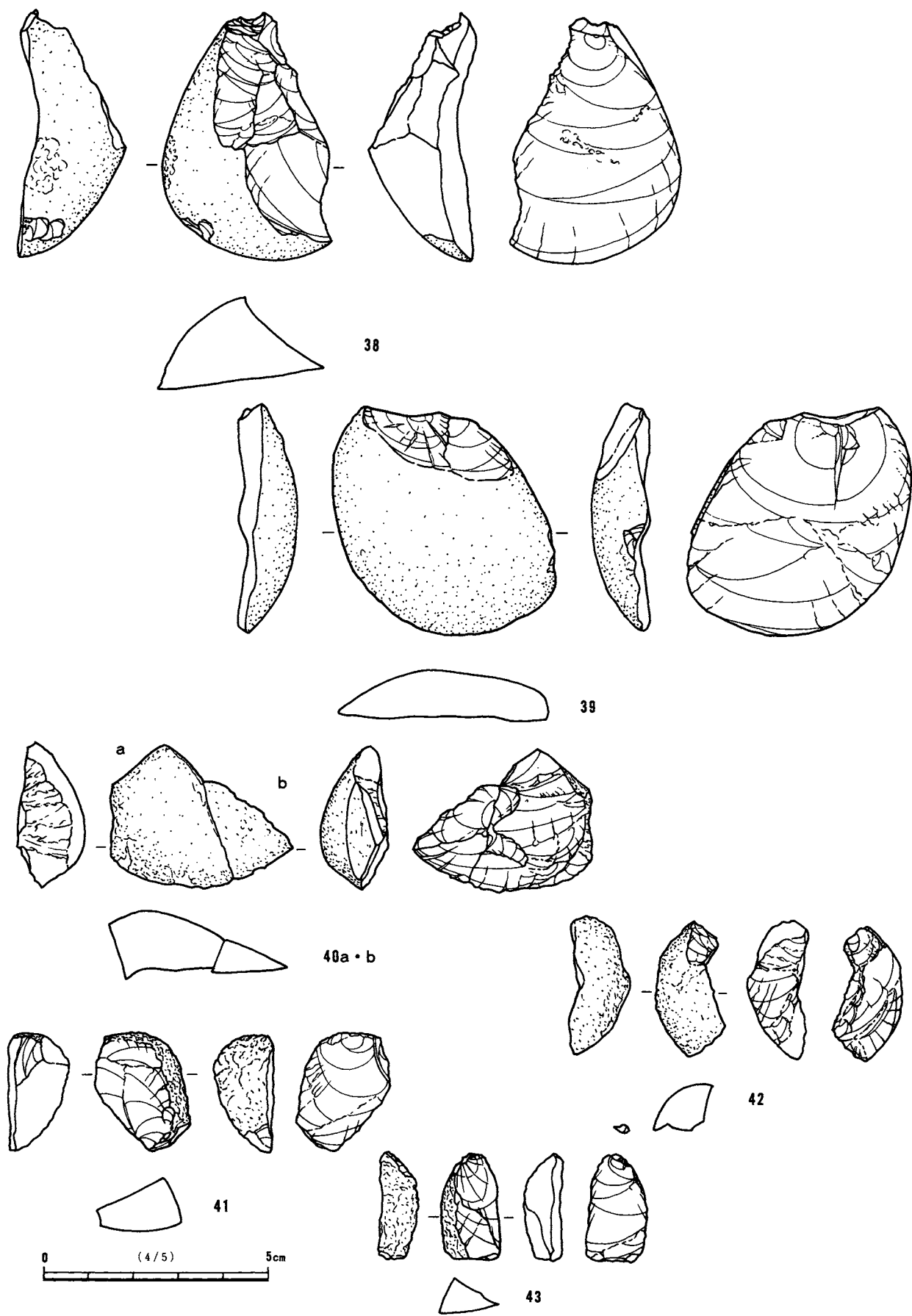
第172図 Dブロック出土石器(4)



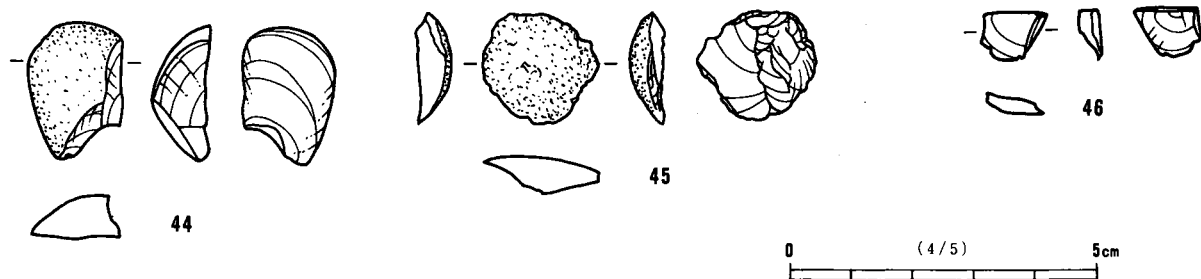
第173図 Dブロック出土石器(5)



第174図 Dブロック出土石器 (6)



第175図 Dブロック出土石器(7)



第176図 Dブロック出土石器 (8)

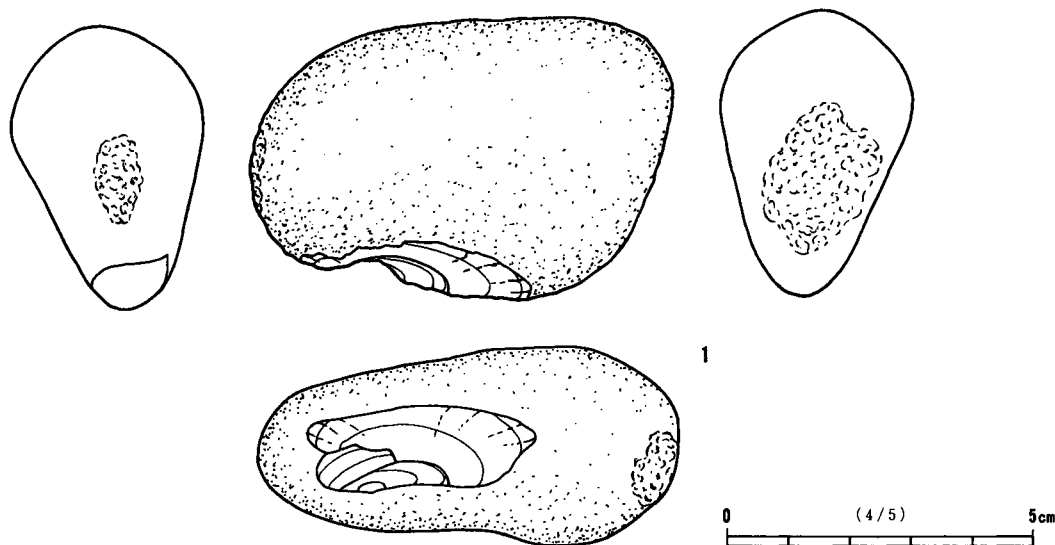
第24表 Dブロック

図 No.	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
13	10B-97	001		63.790	剥片	安山岩	7.61	59.1	20.9	7.8
	10B-98	001		63.566	剥片	安山岩	1.94	18.5	18.8	5.5
	10B-98	002		63.717	剥片	安山岩	0.21	11.3	9.6	3.4
	10B-98	003		63.604	剥片	安山岩	0.98	15.7	1.1	4.4
	10B-98	004		63.803	剥片	安山岩	0.18	11.1	8.9	2.2
8	10B-98	006	接合12	63.474	石核	安山岩	32.91	31.9	51.0	21.4
	10B-98	007		63.607	剥片	安山岩	1.42	20.3	14.4	7.9
1	10B-98	008		63.518	ナイフ形石器	安山岩	11.37	61.2	27.0	8.1
	10B-98	009		63.633	剥片	安山岩	1.88	16.4	14.9	5.7
36	10B-99	001	接合6	63.767	剥片	安山岩	30.11	45.8	29.1	20.1
40b	10B-99	002	接合6	63.768	剥片	安山岩	1.73	15.6	22.4	7.9
24	10B-99	003	接合6	63.770	剥片	安山岩	4.14	39.1	12.1	6.7
43	10B-99	004	接合9	63.700	剥片	安山岩	2.65	12.7	23.1	8.3
	10B-99	005		63.837	剥片	安山岩	1.12	17.2	11.6	6.5
	10B-99	006		63.633	剥片	安山岩	0.81	17.6	10.9	5.3
	10B-99	007		63.618	剥片	安山岩	1.42	20.3	14.2	7.5
	10B-99	008		63.753	剥片	安山岩	0.42	12.9	7.3	4.0
	10B-99	019		63.705	剥片	安山岩	7.44	40.3	27.0	9.0
17	10B-99	010		63.895	剥片	安山岩	1.67	22.7	11.4	6.0
	10B-99	011		63.678	剥片	安山岩	0.26	12.7	11.2	1.9
	10B-99	012		63.787	剥片	チャート	0.31	11.9	7.0	2.0
40a	10B-99	013	接合6	63.710	剥片	安山岩	13.81	32.7	27.7	15.2
	10B-99	014		63.796	剥片	安山岩	1.69	18.2	18.2	5.8
	10B-99	015		63.585	剥片	安山岩	15.78	24.4	41.8	16.9
21	10B-99	016	接合16	63.660	剥片	砂岩	8.34	44.0	16.4	10.1
20	10B-99	017	接合6	63.730	剥片	安山岩	6.66	38.0	23.2	8.9
	10C-90	001		63.519	礫	チャート	22.08	-	-	-
	10C-90	002		63.870	砕片	珪質頁岩	0.18	9.3	5.5	2.7
10	11B-08	001	接合16	63.510	石核	砂岩	34.20	47.0	35.5	15.7
	11B-08	003		63.787	剥片	頁岩	0.80	10.5	5.1	0.9
23	11B-08	003	接合6	63.787	剥片	安山岩	7.38	3.9	18.4	12.2
	11B-08	004		63.565	礫	凝灰岩	288.63	-	-	-
	11B-08	005		63.875	剥片	安山岩	1.37	22.3	17.4	4.2
	11B-08	006		63.773	砕片	安山岩	0.30	8.2	12.8	2.7
15	11B-08	007		63.577	剥片	頁岩	3.81	28.7	26.7	7.4
	11B-08	008		63.615	剥片	安山岩	5.29	33.2	18.3	9.3
2	11B-08	009		63.545	使用痕を有する剥片	安山岩	4.24	41.5	22.2	4.5
28	11B-08	010	接合12	63.580	剥片	安山岩	8.83	31.6	30.8	10.3
	11B-08	011		63.736	砕片	安山岩	0.14	8.6	7.0	2.7
	11B-08	012		63.587	剥片	安山岩	2.12	17.9	24.7	4.5
	11B-08	013		63.838	礫	安山岩	0.19	-	-	-
	11B-08	014		63.779	砕片	安山岩	0.14	8.6	8.4	2.5
	11B-08	015		63.628	砕片	安山岩	0.36	14.1	7.9	3.5
	11B-08	016		63.640	礫	凝灰岩	210.03	-	-	-

(第24表 続き)

図 No.	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
	11B-08	017		63.628	剥片	チャート	0.91	12.6	9.0	5.6
18	11B-08	018	接合8	63.520	剥片	安山岩	4.31	26.8	26.3	5.3
	11B-08	019		63.640	剥片	安山岩	1.47	21.8	12.9	5.6
	11B-08	020		63.538	砕片	安山岩	0.47	15.7	8.5	3.3
	11B-08	021		63.463	剥片	安山岩	0.58	19.2	9.2	4.6
	11B-08	022		63.370	砕片	頁岩	0.11	7.3	6.2	2.0
	11B-08	023		63.350	剥片	安山岩	2.14	25.6	14.7	6.7
5	11B-09	001	接合6	63.885	石核	安山岩	22.27	36.5	27.0	18.9
19	11B-09	001	接合7	63.885	剥片	安山岩	5.13	33.8	18.6	9.4
6	11B-09	002	接合7	63.620	石核	安山岩	31.01	44.6	29.9	19.0
	11B-09	003		63.685	砕片	頁岩	0.11	10.4	5.3	0.9
	11B-09	005		63.598	砕片	安山岩	0.33	8.4	13.2	2.3
	11B-09	006		63.603	砕片	安山岩	0.79	12.8	9.8	5.3
	11B-09	008		63.990	砕片	安山岩	0.49	16.7	8.9	3.7
42	11B-09	009	接合6	63.860	剥片	安山岩	4.18	23.8	16.4	16.4
16	11B-09	010	接合8	63.713	剥片	安山岩	5.44	35.7	29.0	6.1
	11B-09	012		63.738	剥片	安山岩	3.01	23.1	22.5	7.3
	11B-09	013		63.869	剥片	安山岩	0.67	16.9	10.9	3.7
	11B-09	014		63.507	剥片	安山岩	2.17	25.1	15.5	5.6
14	11B-09	015		63.605	剥片	安山岩	12.34	66.2	29.4	11.4
	11B-09	016		63.390	砕片	安山岩	0.42	10.9	11.5	3.0
4	11B-18	002	接合16	63.544	敲石	砂岩	45.72	39.5	42.7	16.6
30	11B-18	003	接合4	63.628	剥片	頁岩	6.30	23.9	34.8	10.8
27	11B-19	001	接合7	63.817	剥片	安山岩	5.38	26.7	26.4	6.2
	11B-19	002		63.700	剥片	安山岩	10.40	31.1	23.0	13.5
33	11B-19	003	接合8	63.565	剥片	安山岩	8.58	27.2	30.5	10.0
37	11B-19	005	接合13	63.565	剥片	凝灰岩	35.44	52.3	44.3	13.0
11	11B-19	006	接合16	63.659	石核	砂岩	31.61	36.5	39.9	17.4
22	11B-19	008	接合7	63.670	剥片	安山岩	1.76	27.8	9.0	5.9
25	11B-19	009	接合16	63.660	剥片	砂岩	15.14	38.8	31.8	10.9
12	11B-19	010	接合1	63.665	石核	珪質頁岩	131.11	55.4	42.5	36.2
9	11B-19	011	接合4	63.540	石核	頁岩	44.49	49.4	46.8	16.6
	11B-19	012		63.492	砕片	安山岩	0.68	13.0	16.3	4.3
46	11B-19	012	接合7	63.492	砕片	安山岩	0.22	7.4	10.6	2.2
39	11B-19	013	接合4	63.465	剥片	頁岩	34.42	56.6	43.8	12.7
	11B-19	014		63.473	剥片	凝灰岩	1.20	15.2	18.8	4.1
	11B-19	015		63.582	剥片	凝灰岩	3.27	23.7	23.6	5.8
44	11B-19	016	接合13	63.550	砕片	凝灰岩	2.66	22.2	15.3	9.2
45	11B-29	001	接合1	63.655	剥片	珪質頁岩	1.69	17.4	19.5	4.7
	11B-29	002		63.903	剥片	凝灰岩	3.13	24.4	23.0	6.9
	11B-29	003		63.485	剥片	凝灰岩	1.30	16.0	11.4	7.3
29	11B-29	004	接合13	63.482	剥片	凝灰岩	14.10	30.6	33.6	12.5
35	11C-00	001	接合9		剥片	安山岩	8.49	30.6	22.7	11.6
	11C-00	001			剥片	凝灰岩	0.45	12.1	11.4	4.5
7	11C-00	002	接合7		石核	安山岩	29.14	39.5	31.0	17.5
41	11C-00	003	接合9		剥片	安山岩	5.99	26.3	19.5	14.0
	11C-00	004			剥片	安山岩	6.95	28.8	26.3	9.2
	11C-00	005			剥片	安山岩	7.44	30.5	24.8	8.7
	11C-00	006			剥片	安山岩	4.57	24.7	33.8	5.5
	11C-00	007			剥片	安山岩	2.85	22.2	23.1	5.8
38	11C-00	008	接合4		剥片	頁岩	38.40	54.4	40.9	22.5
31	11C-00	009	接合16		剥片	砂岩	5.80	32.6	31.6	5.6
	11C-00	010			礫	砂岩	7.37	—	—	—
	11C-10	001		63.801	剥片	頁岩	0.46	11.6	8.5	5.1
32	11C-10	002	接合7	63.707	剥片	安山岩	3.56	24.3	29.4	4.8
3	11C-10	003		63.670	加工痕を有する剥片	チャート	6.91	33.1	29.8	7.8
34	11C-10	004	接合1	63.774	剥片	珪質頁岩	21.43	40.5	36.0	12.0
26	11C-10	005		63.950	剥片	珪質頁岩	16.15	49.4	30.1	14.1
	11C-10	006		64.029	剥片	安山岩	2.12	12.4	31.2	6.2

ブロック外出土石器（第177図、第25表、図版77・78） Dブロックの南約8mの地点で検出された単独石器である。幼児の拳大の礫を素材とし、長軸の一端に敲打痕が認められ、短軸の一端に剝離痕が認められる。石核の可能性も考えられる。



第177図 第1文化層ブロック外出土石器

第25表 第1文化層ブロック外石器属性

図 No.	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
1	11C-51	001		63.598	敲石	砂岩	135.78	69.3	45.9	31.8
	11C-52	001		64.285	碎片	黒曜石	0.57	16.0	12.8	3.2
	11C-61	001		64.065	楔形石器	黒曜石	17.00	34.7	16.8	9.0

接合資料（第178～184図、図版77・78） 第1文化層において接合関係の認められたものは、礫を含めて18例を数えるが、広範囲に亘ることは無く、同一ブロック内で完結している。今回、この内16例を図示した。

石材については、接合資料1～3が珪質頁岩、接合資料4・5が頁岩、接合資料6～9・12が安山岩、接合資料10・11がホルンフェルス、接合資料13～15が凝灰岩、接合資料16が砂岩である。

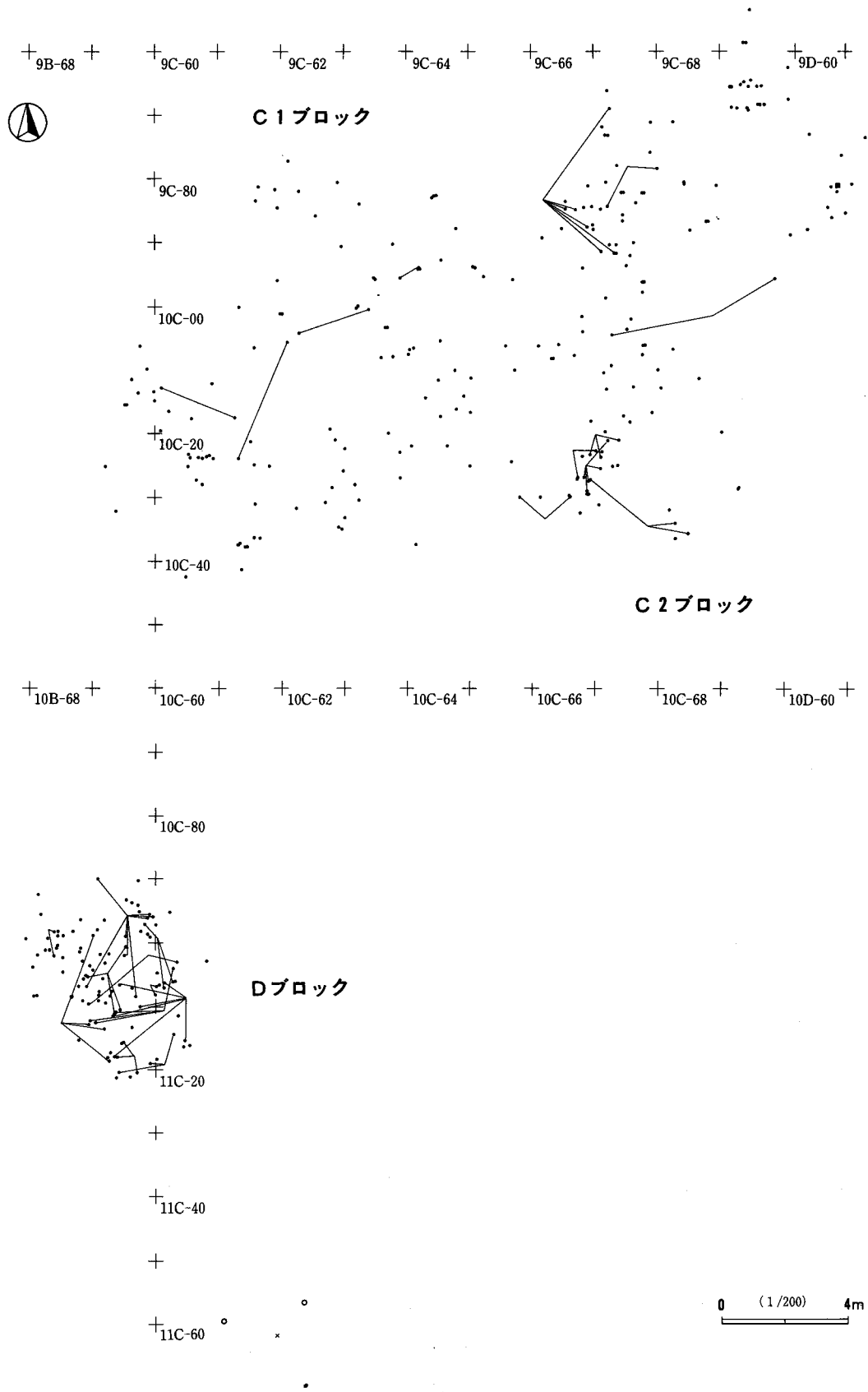
各ブロックにおける石材同様、安山岩の占める割合が高い。

接合資料1 Dブロックにおける、石核1点と剥片2点において認められた接合である。D-34は、打面形成のための剥片剝離とも考えられるが、背面に同一方向からの剝離痕が認められることから、拳大の円礫を素材として、自然面を打面とした剥片剝離を想定できよう。

接合資料2 C1ブロックにおける、加工痕を有する剥片1点と剥片1点において認められた接合である。このうち、C1-53は、C1-19の加工において剝離された調整剥片の一つと考えられる。

接合資料3 C2ブロックにおける、剥片2点において認められた接合である。C2-23の腹面先端部にC2-35の背面が接合する。石核よりC2-23を剝離した後、打面を180度転換してC2-35を剝離している。

接合資料4 Dブロックにおける、石核1点と剥片3点において認められた接合である。幼児の拳大の円礫を素材として、長軸の一端に剥片剝離を行い、その剝離面を打面としてD-39、D-30、D-38を剝離している。最終的にD-9が残核となった。



第178図 第1文化層接合関係

接合資料5 C2ブロックにおける、石核2点と剥片1点において認められた接合である。C2-14とC2-16は、節理によって分割した円礫を素材として夫々剥片剥離を行った石核である。C2-33はC2-16から剥離された剥片である。

接合資料6 Dブロックにおける、石核1点と剥片6点（内1点は節理によって分割しており、点数的には7点）において認められた接合である。幼児の拳大の円礫を素材として、長軸の一端側からD-42・D-40a・bを剥離し、その後同一方向から剥片剥離を行い、その剥離面を打面としてD-36を剥離している。このD-36の剥離面を打面として、D-20・D-24・D-23を連続的に剥離している。最終的にD-5が残核となった。

接合資料7 Dブロックにおける、石核2点と剥片5点において認められた接合である。幼児の拳大の円礫を分割したものを素材として、D-6からD-19・D-22等を剥離する以前の剥片を剥離し、これを石核としてD-22・D-19を剥離している。最終的にD-6が残核となった。D-6等の剥片を剥離した石核から、D-32・D-46・D-27を剥離している。最終的にD-7が残核となった。

接合資料8 Dブロックにおける、剥片3点において認められた接合である。幼児の拳大の円礫を素材として、表皮を剥ぐような剥片剥離を行った後、この剥離面を打面としてD-16・D-18・D-33を連続的に剥離している。

接合資料9 Dブロックにおける、剥片3点において認められた接合である。幼児の拳大の円礫を素材として、表皮を剥ぐような剥片剥離を行った後、この剥離面を打面としてD-43・D-35を剥離し、自然面を打面としてD-41を剥離している。

接合資料10 C2ブロックにおける、加工痕を有する剥片1点と剥片1点において認められた接合である。自然面を打面として剥離した剥片の打面を取り除くために、腹面を打面としてC2-28からC2-34等を剥離している。

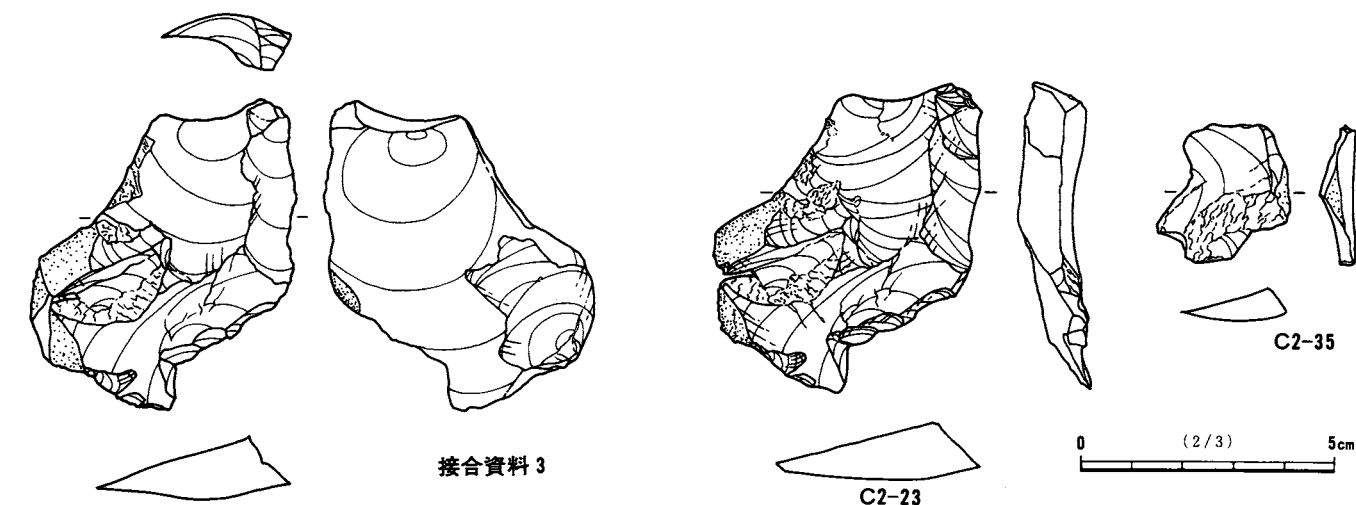
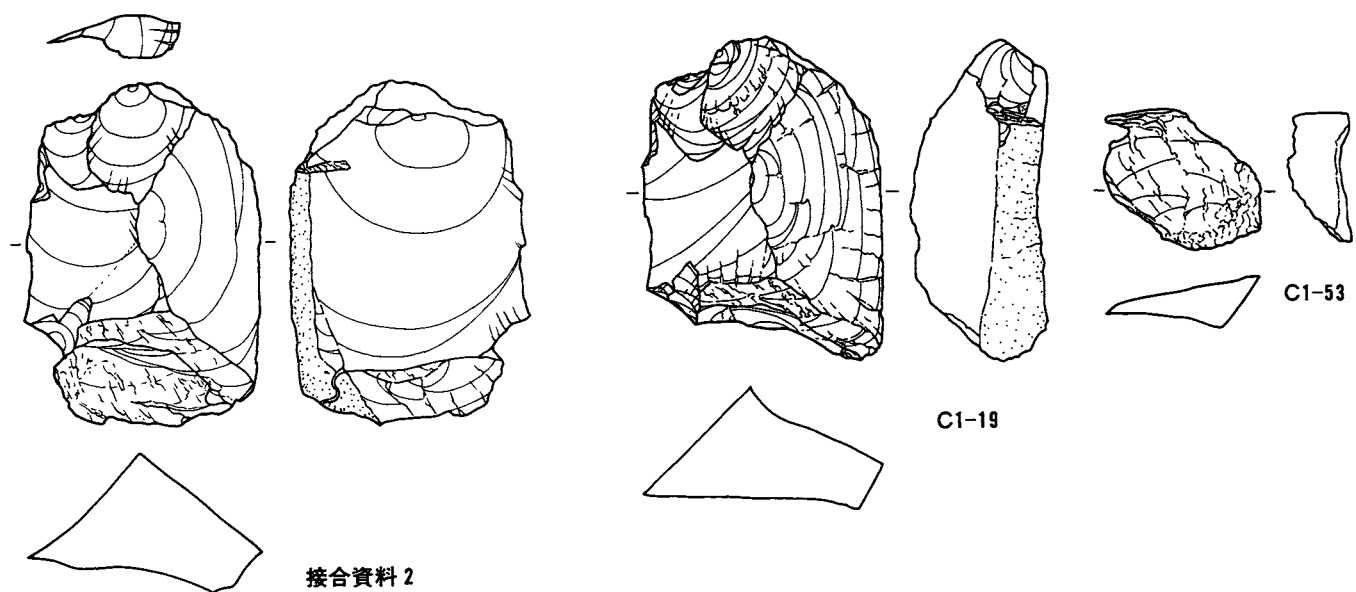
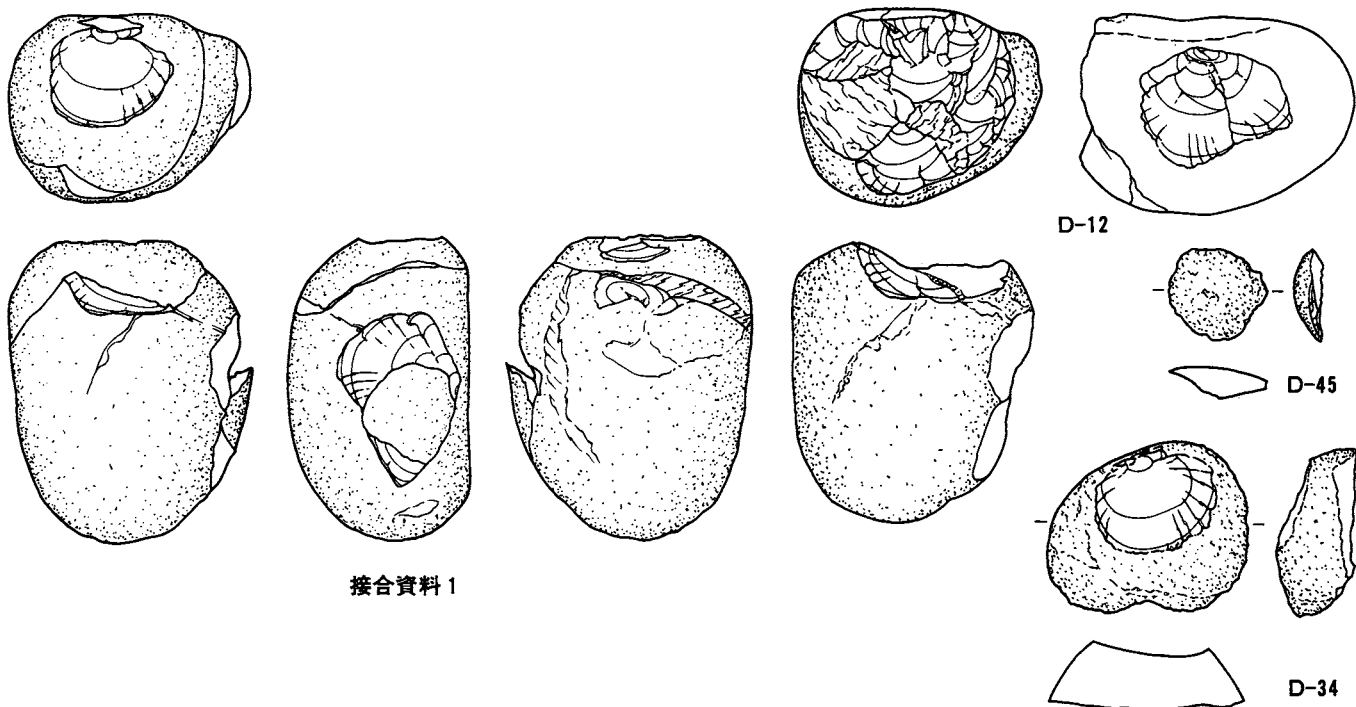
接合資料11 C2ブロックにおける、石核1点（分割しており点数的には2点）と剥片3点において認められた接合である。板状の剥片を素材として、腹面側からの剥離痕を打面として、背面側からC2-24等を剥離し、次いで腹面側からそれらの剥離面を打面としてC2-36・C2-24等を剥離している。最終的にC2-35が残核となった。

接合資料12 Dブロックにおける、石核1点と剥片1点において認められた接合である。円礫の自然面を打面として剥離した剥片を素材として、その先端部側からD-28等の剥片を剥離している。最終的にD-8が残核となった。

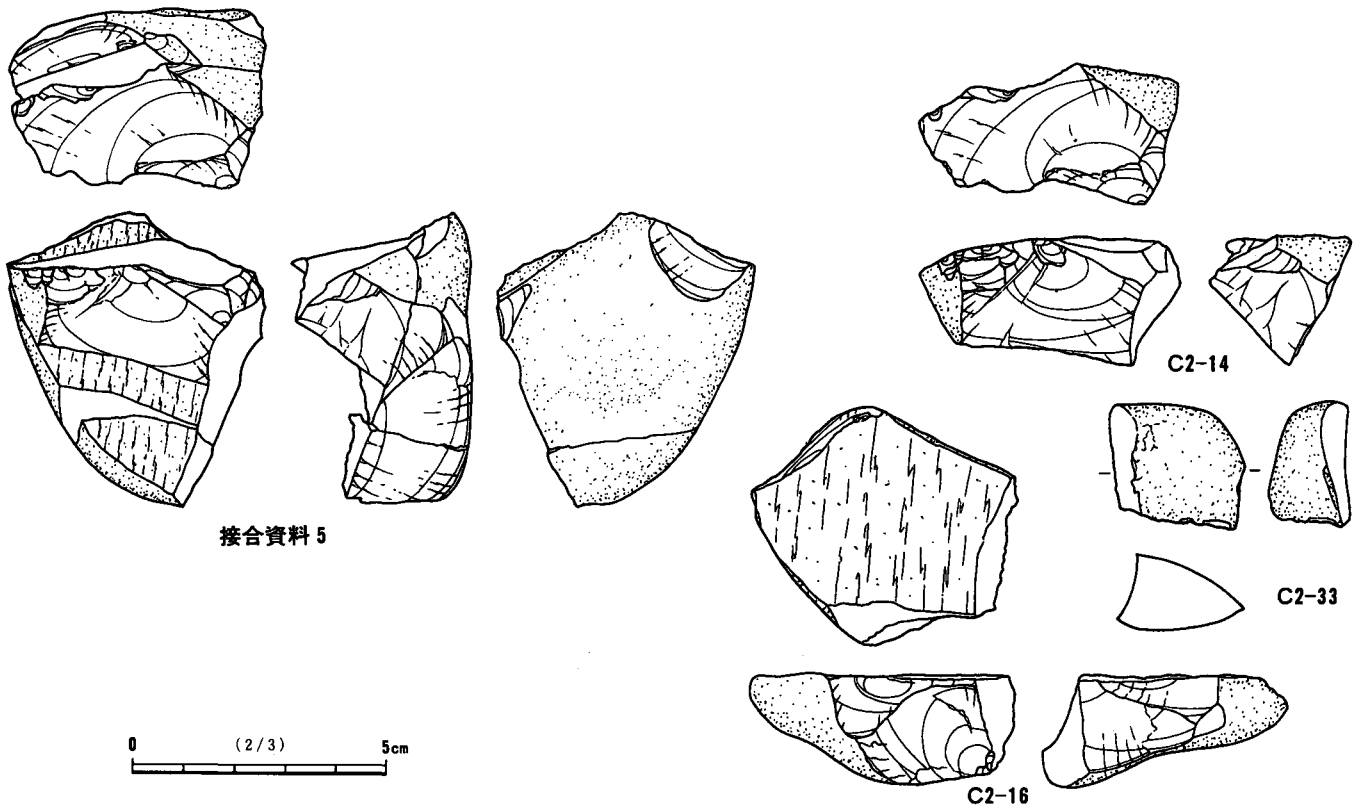
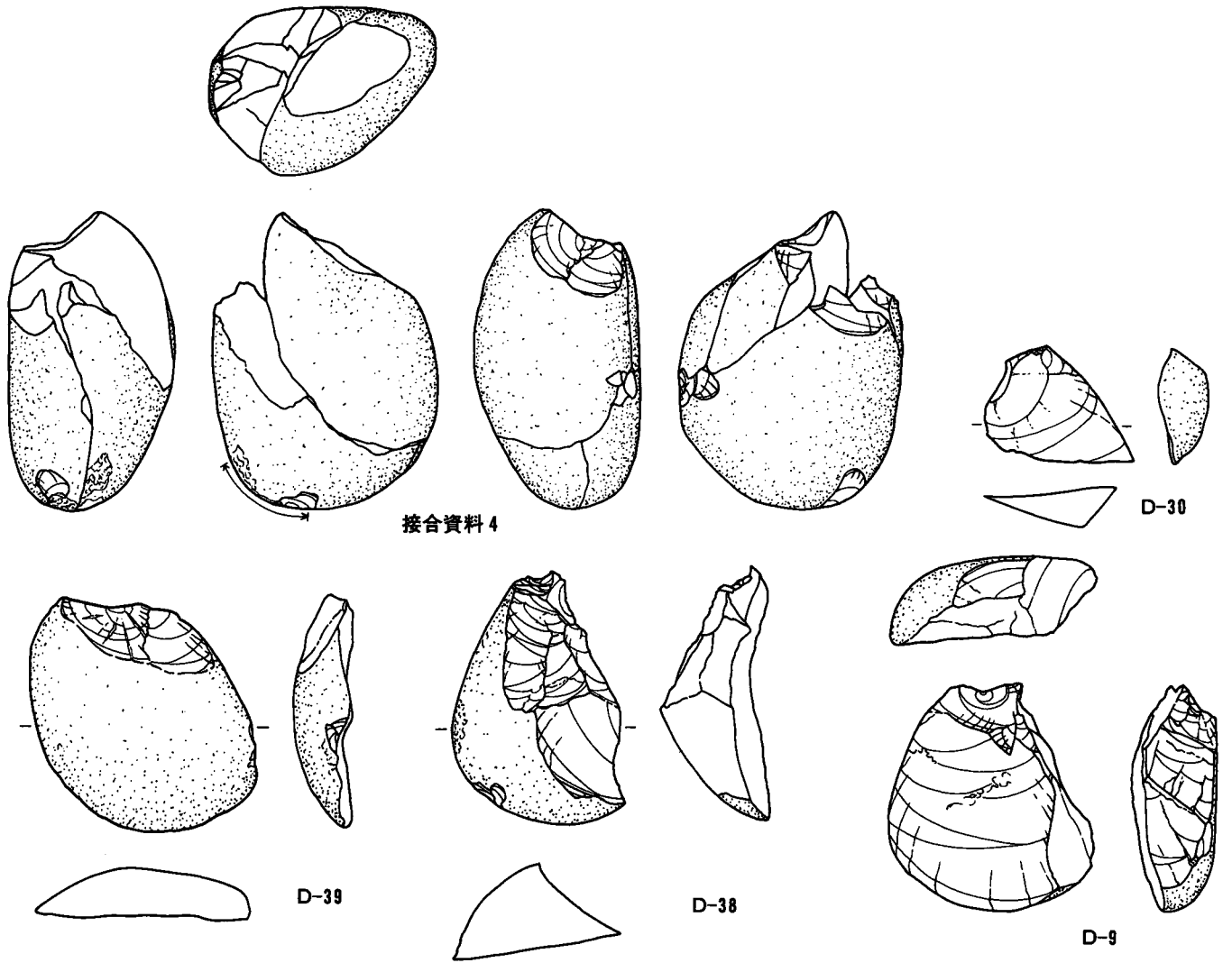
接合資料13 Dブロックにおける、剥片3点において認められた接合である。幼児の拳大の円礫を素材とし、自然面を打面としてD-37を剥離し、その剥離痕を打面としてD-44を剥離し、更にその剥離痕を打面としてD-29を剥離している。

接合資料14 C2ブロックにおける、剥片2点において認められた接合である。円礫の自然面を打面として行った剥片剥離の剥離痕を打面としてC2-32・C2-31を剥離している。

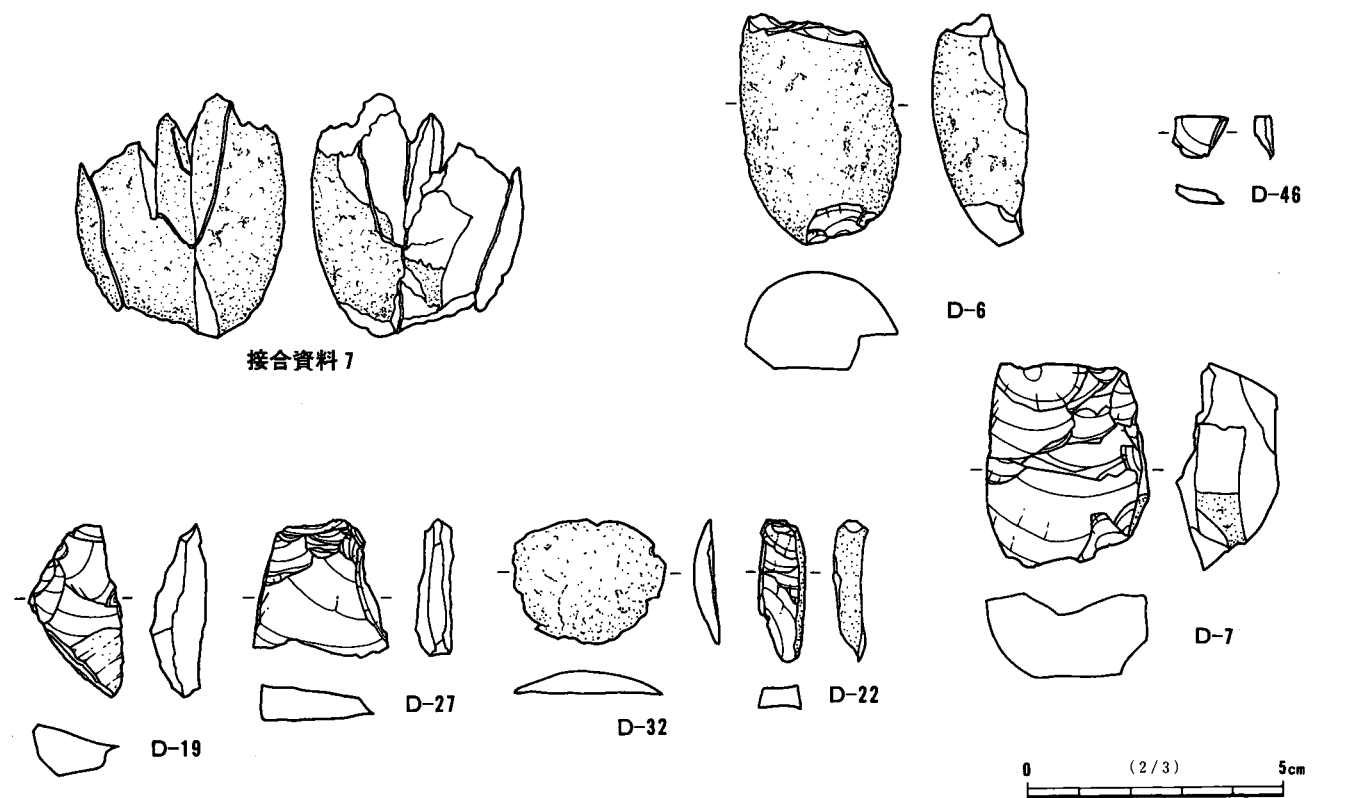
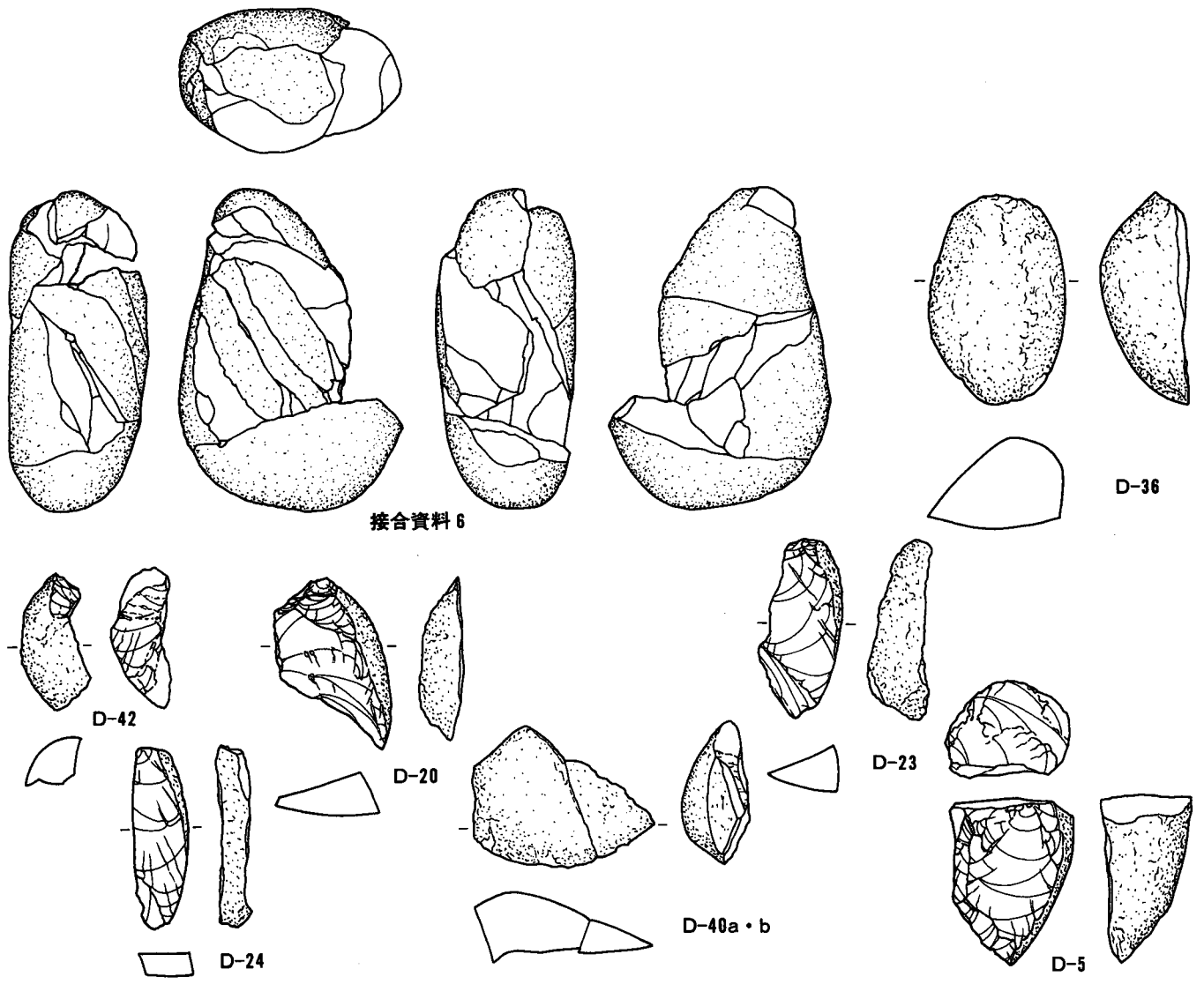
接合資料15 C1ブロックにおける、石核1点と剥片1点において認められた接合である。幼児の拳大の円礫を素材とし、その長軸下端部から、自然面を打面とした剥片剥離を行い、次いで上端からCC1-47を剥離している。その後石核に打面再生剥片剥離を行い（節理による目的外分割の可能性有り）これを打面とした剥片剥離を行っている。最終的にC1-31が残核となった。



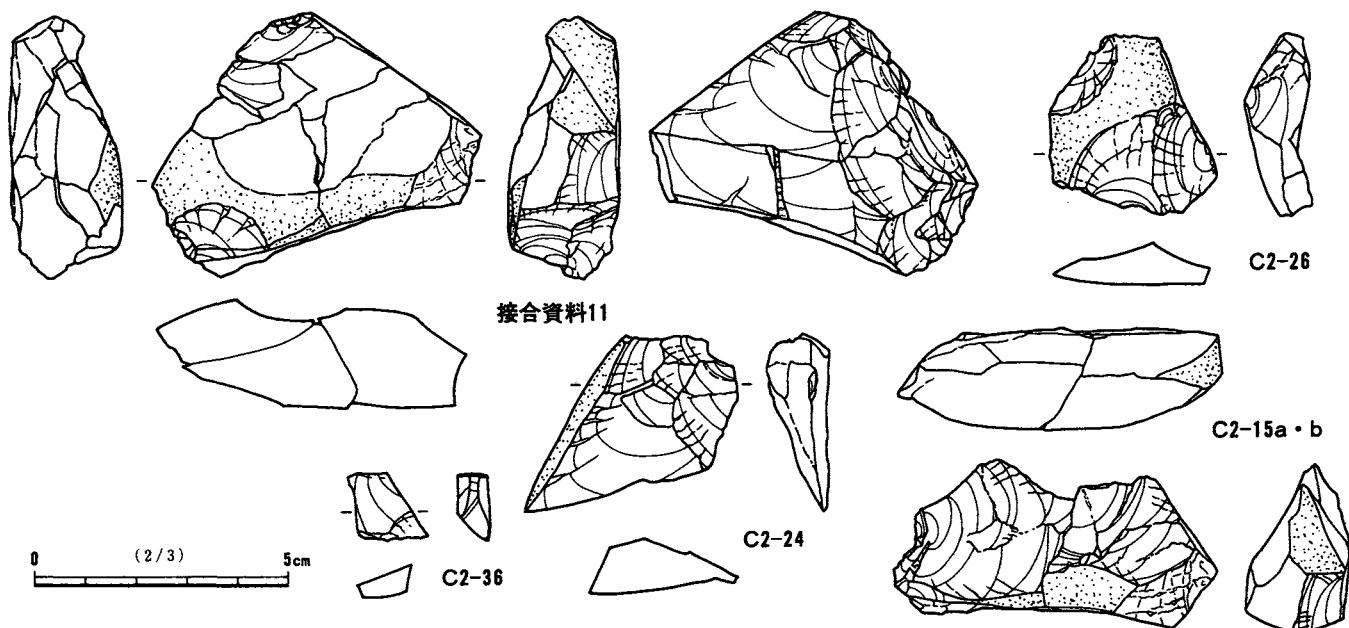
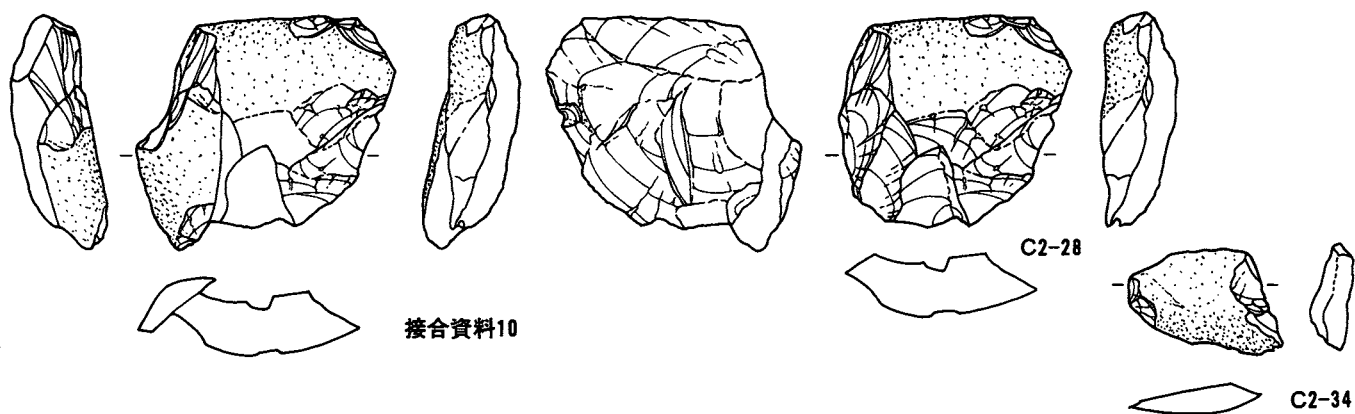
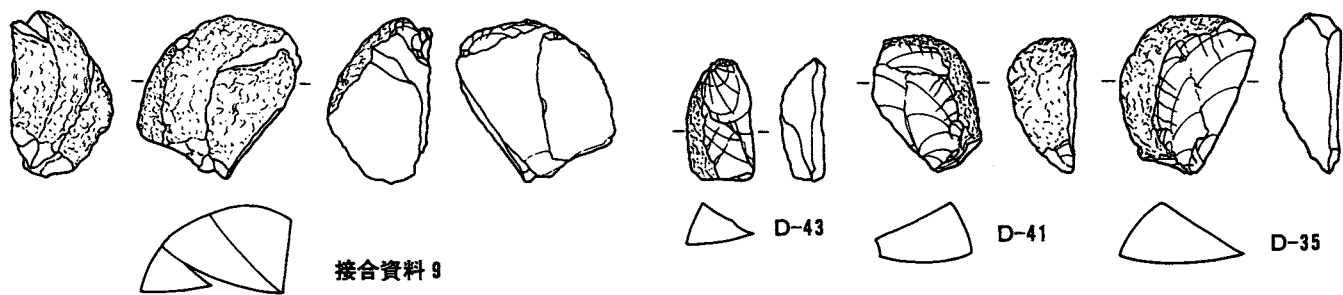
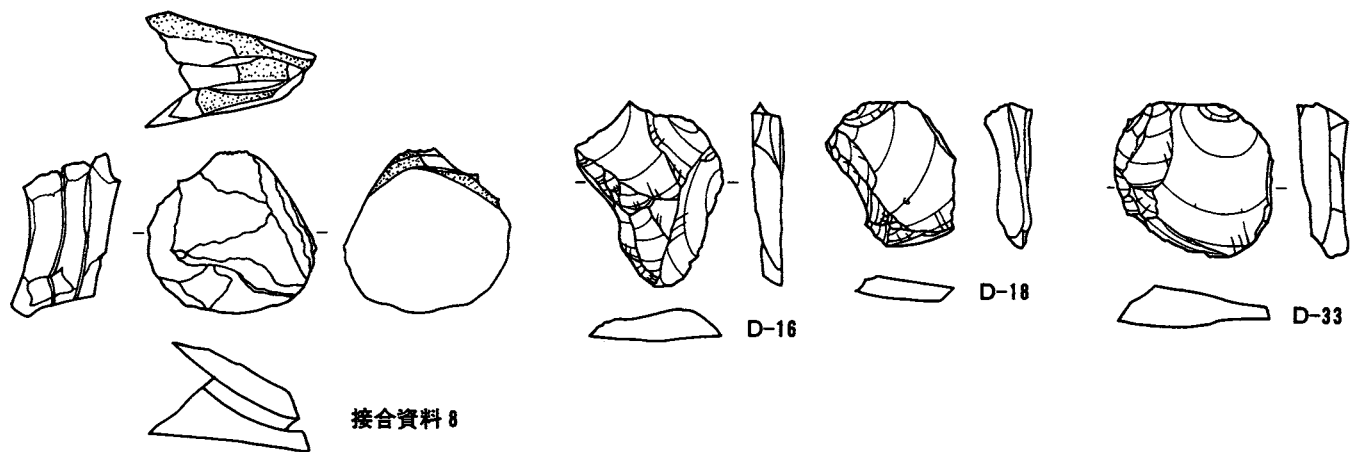
第179図 第1文化層接合資料(1)



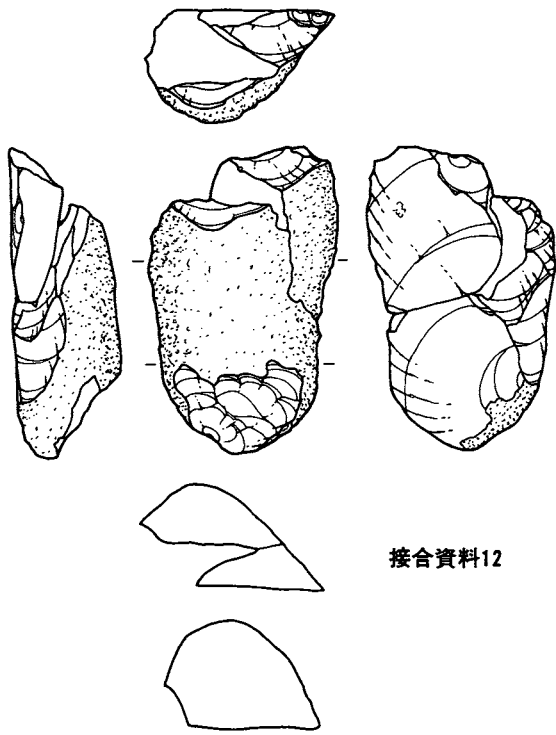
第180図 第1文化層接合資料(2)



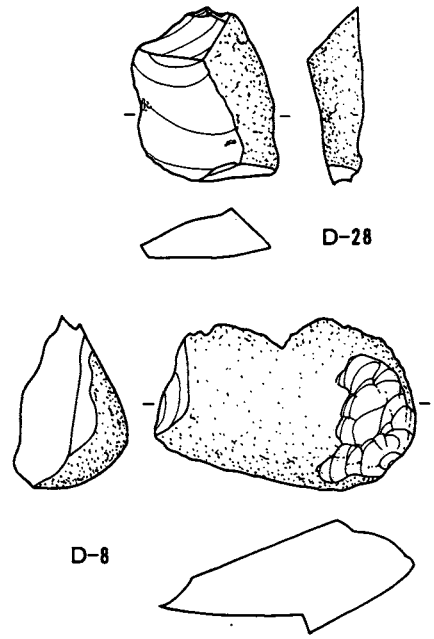
第181図 第1文化層接合資料(3)



第182図 第1文化層接合資料(4)

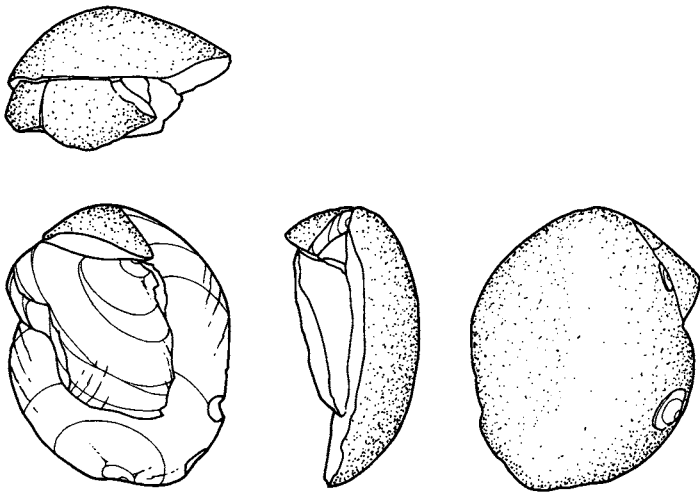


接合資料12

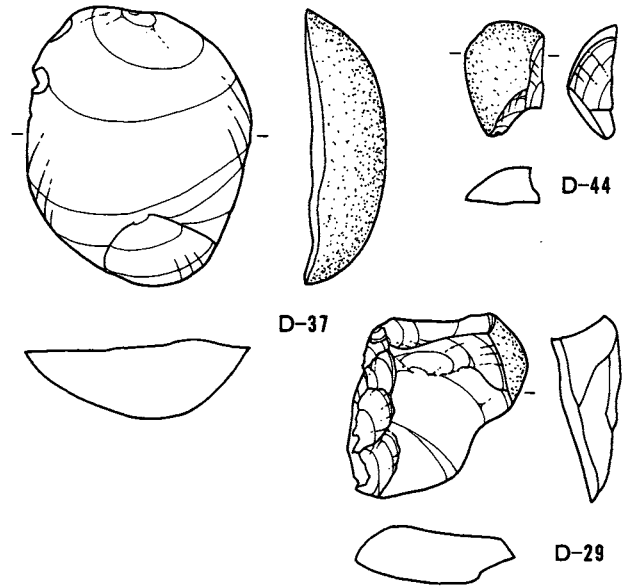


D-8

D-28



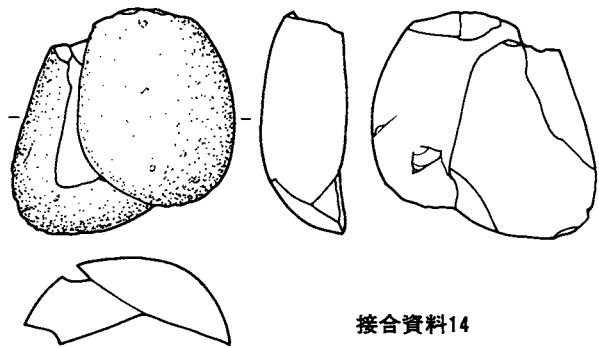
接合資料13



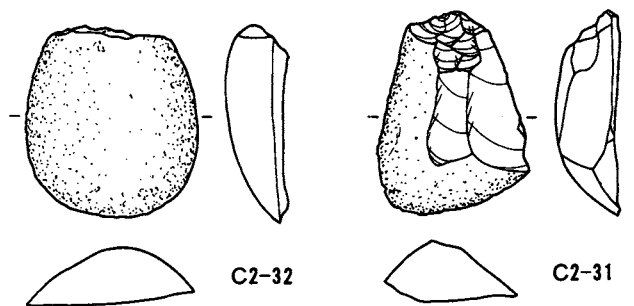
D-37

D-44

D-29



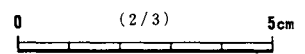
接合資料14

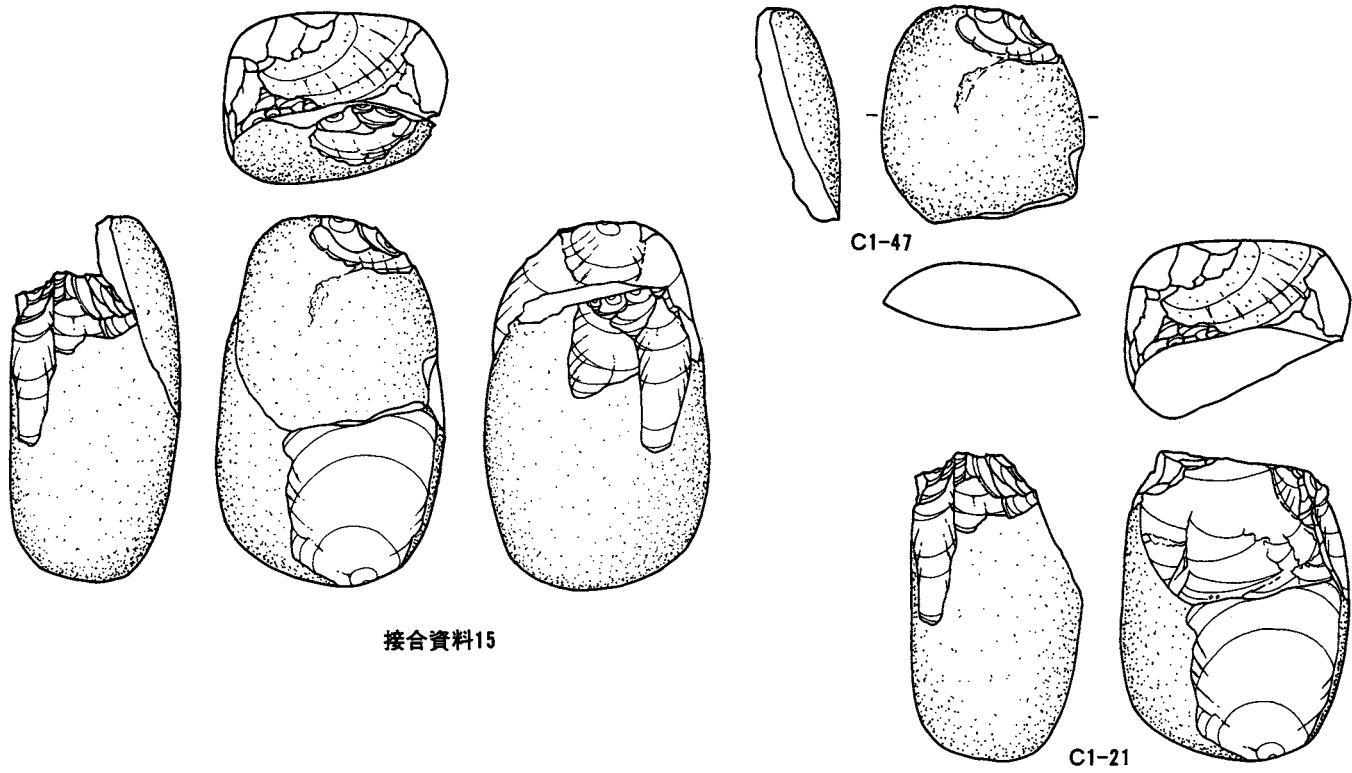


C2-32

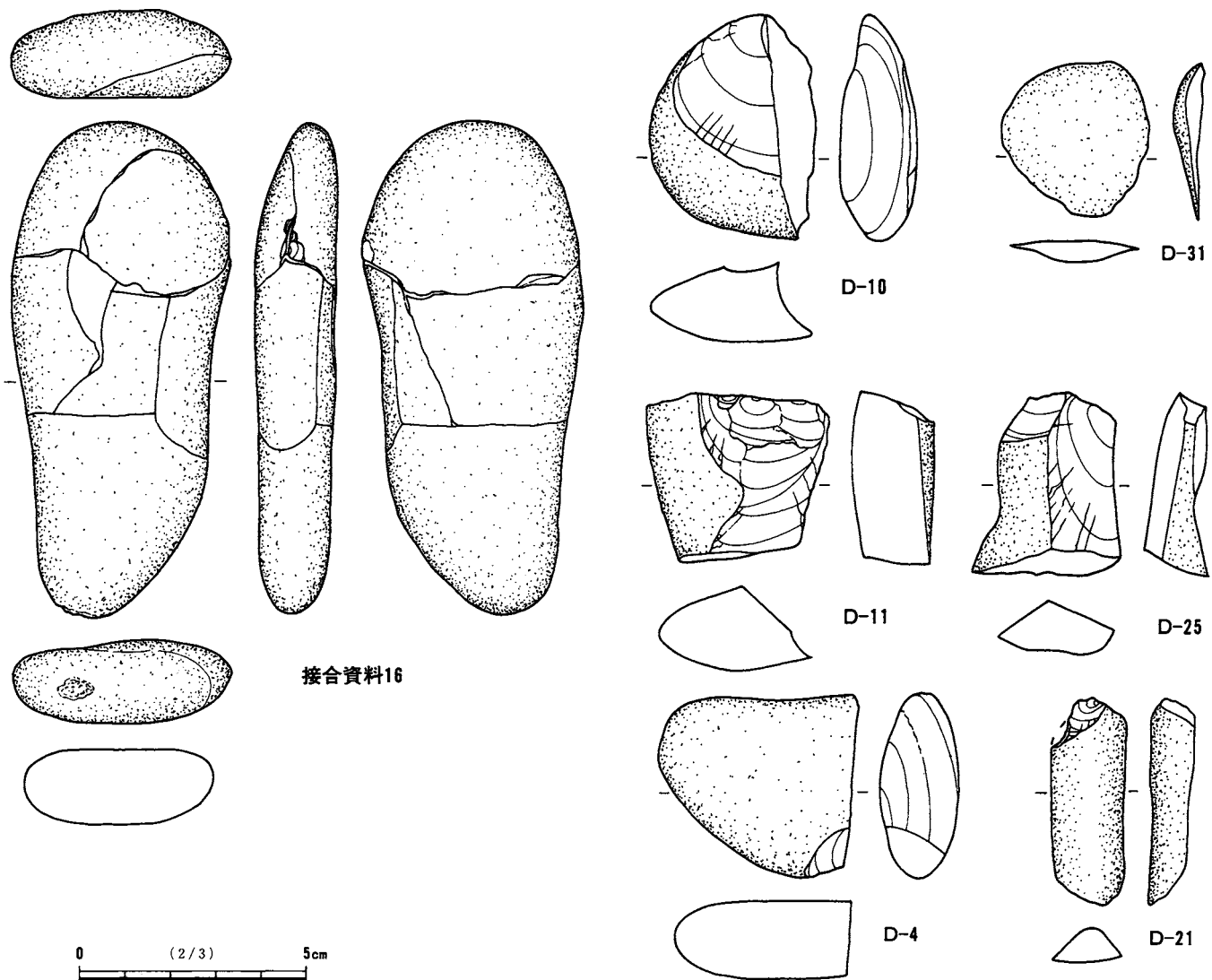
C2-31

第183図 第1文化層接合資料(5)





接合資料15



接合資料16

第184図 第1文化層接合資料(6)

接合資料16 Dブロックにおける、石核2点と敲石1点・剥片3点において認められた接合である。棒状の扁平な円礫を素材として、短軸端部の自然面を打面としてD-31を剥離し、次いでD-10を折るように剥離している。このD-10を剥離した面を打面としてD-21を剥離している。この段階の石核下端部において、D-4を折るように剥離した後、再度D-10を剥離した面を打面としてD-25を剥離している。最終的にD-11が残核となった。

D-31を剥離した打面については僅かではあるが短軸において尖った部分であることが観察できる。このことからD-31の剥片を剥離したことについては、自然礫を敲石として使用した際の衝撃による可能性が考えられる。更にD-4の敲石についても、自然面の尖った部分に敲打痕が認められるものであり、剥離した段階で使用したものか、自然礫状態で敲石として使用したものかは判別できない。

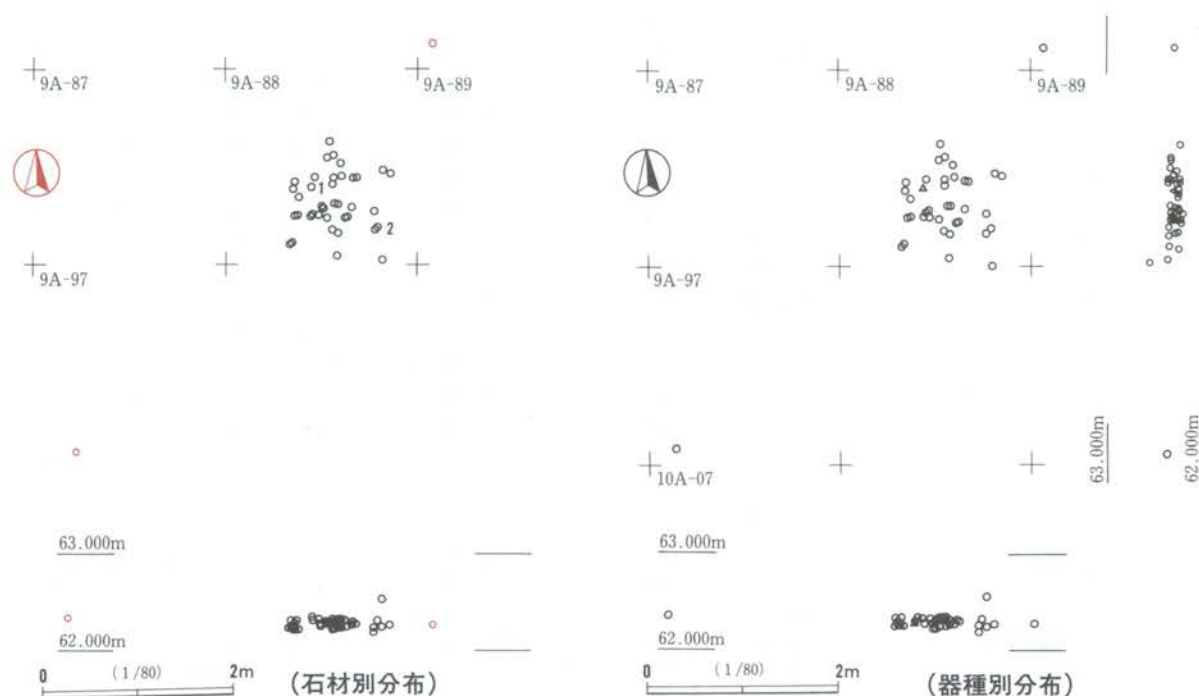
b. 第2文化層

第1文化層C1ブロックの西、やや斜面部よりにおいて検出したAブロックを第2文化層として捉えた。

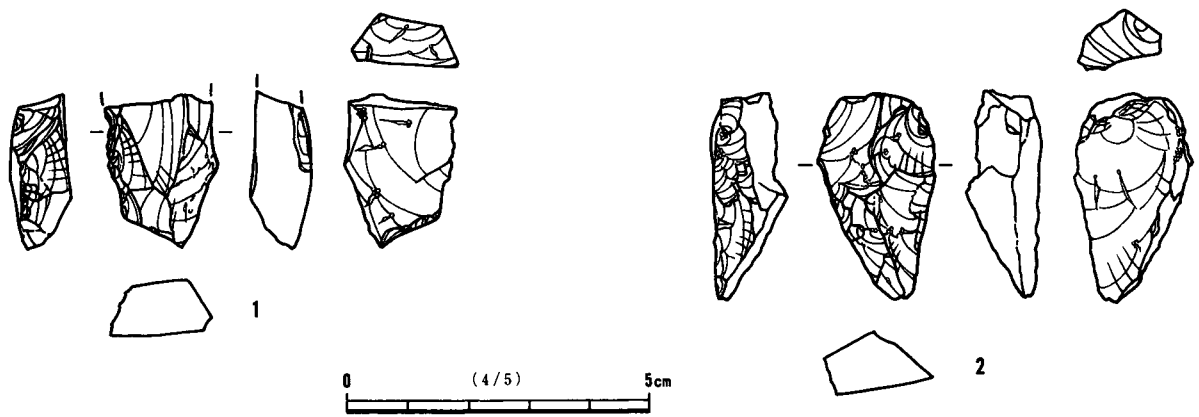
Aブロック(第185・187図、第25表、図版78) 本ブロックは9A-79・9A-88・9A-97グリッドに位置し、南北4m、東西4mの範囲に、ナイフ形石器1点、剥片・碎片42点が、中央部にほぼ大半が密集するように分布する。垂直分布は62.207m～62.555mの約0.3mの間、Ⅲ～Ⅳ層中に密集して分布する。

石材は黒曜石42点、珪質頁岩1点で、ほぼ全部が黒曜石で構成されている。

1は、ナイフ形石器である。上半部を欠失するが、横長剥片を素材として、その打面部を除去するようにブランディングを施している。2は、厚みのある縦長剥片である。左側縁が折られたように欠失する。ナイフ形石器の素材の可能性はある。



第185図 Aブロック出土状況



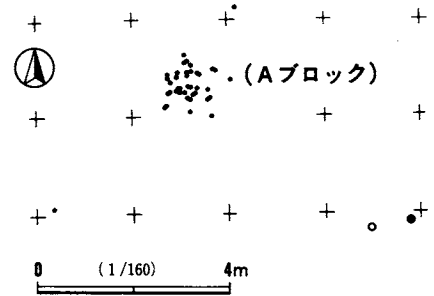
第186図 Aブロック出土石器

第26表 Aブロック石器属性

図 No.	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
		9A-79 001		62.290	砕片	珪質頁岩	0.14	8.2	11.6	1.8
		9A-88 001		62.555	剥片	黒曜石	2.88	21.2	21.3	6.5
		9A-88 002		62.357	剥片	黒曜石	1.29	14.5	14.8	4.2
		9A-88 003		62.346	砕片	黒曜石	0.06	4.7	11.1	1.0
		9A-88 004		62.335	砕片	黒曜石	0.15	10.4	10.9	1.7
		9A-88 005		62.312	砕片	黒曜石	0.08	6.2	3.8	3.2
		9A-88 006		62.305	砕片	黒曜石	0.02	6.3	5.2	1.0
		9A-88 007		62.344	砕片	黒曜石	0.10	6.2	3.6	3.2
		9A-88 007		62.344	砕片	黒曜石	0.01	4.2	3.5	1.6
		9A-88 008		62.342	剥片	黒曜石	1.70	12.2	30.7	4.6
		9A-88 009		62.285	剥片	黒曜石	0.67	16.3	18.2	4.5
		9A-88 010		62.349	砕片	黒曜石	0.10	7.3	6.8	1.9
		9A-88 011		62.280	砕片	黒曜石	0.22	8.8	12.4	2.2
		9A-88 012		62.295	砕片	黒曜石	0.08	8.2	10.4	1.3
		9A-88 013		62.355	砕片	黒曜石	0.13	8.4	11.3	1.2
2		9A-88 014		62.337	剥片	黒曜石	5.94	33.5	19.0	11.9
		9A-88 015		62.258	砕片	黒曜石	0.12	8.2	7.7	2.3
		9A-88 016		62.207	砕片	黒曜石	1.69	12.0	20.3	6.8
		9A-88 017		62.292	剥片	黒曜石	0.19	8.8	11.7	1.8
		9A-88 018		62.262	剥片	黒曜石	0.10	8.2	12.8	1.5
		9A-88 019		62.315	剥片	黒曜石	0.16	10.8	12.6	1.8
		9A-88 020		62.333	剥片	黒曜石	0.12	9.8	10.2	1.6
		9A-88 021		62.252	砕片	黒曜石	0.02	4.0	3.0	1.0
		9A-88 022		62.250	剥片	黒曜石	1.01	10.9	18.2	8.5
		9A-88 023		62.260	砕片	黒曜石	0.07	7.4	6.5	1.4
		9A-88 024		62.329	剥片	黒曜石	0.24	13.2	10.2	1.8
1		9A-88 025		62.298	ナイフ形石器	黒曜石	4.15	24.6	18.1	8.7
		9A-88 026		62.285	剥片	黒曜石	0.97	13.9	18.7	5.3
		9A-88 027		62.265	剥片	黒曜石	0.37	10.7	14.8	3.5
		9A-88 028		62.252	剥片	黒曜石	0.62	14.8	20.3	3.4
		9A-88 029		62.323	砕片	黒曜石	0.09	10.1	10.7	1.1
		9A-88 030		62.324	砕片	黒曜石	0.32	6.8	12.9	3.6
		9A-88 031		62.240	砕片	黒曜石	0.14	9.9	9.4	1.8
		9A-88 032		62.338	砕片	黒曜石	0.05	10.3	5.4	1.0
		9A-88 033		62.250	砕片	黒曜石	0.01	5.6	5.0	0.6
		9A-88 034		62.335	砕片	黒曜石	0.02	6.3	4.5	1.1
		9A-88 035		62.275	剥片	黒曜石	1.74	17.5	22.2	5.5
		9A-88 036		62.250	砕片	黒曜石	0.07	4.0	5.7	2.2
		9A-88 037		62.255	砕片	黒曜石	0.05	3.5	7.7	1.1
		9A-88 038		62.246	砕片	黒曜石	0.01	3.1	4.3	0.6
		9A-88 038		62.246	砕片	黒曜石	0.00	2.8	4.1	0.2
		9A-88 039		62.356	剥片	黒曜石	0.72	15.2	14.3	7.3
		9A-97 001		62.356	剥片	黒曜石	0.86	19.4	11.2	4.4

ブロック外出土石器 (第186図, 第27表, 図版78)

Aブロックの東南4m程の地点で、黒曜石の剥片1点と礫1点が検出された。出土層位もAブロックとほぼ同様であり、同一文化層と判断した。



第187図 ブロック外石器分布

第27表 第2文化層ブロック外石器属性

図 Na	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
	10B-00	001		62.656	剥片	黒曜石	1.64	22.1	12.6	8.2
	10B-00	002		62.727	礫		-	-	-	-

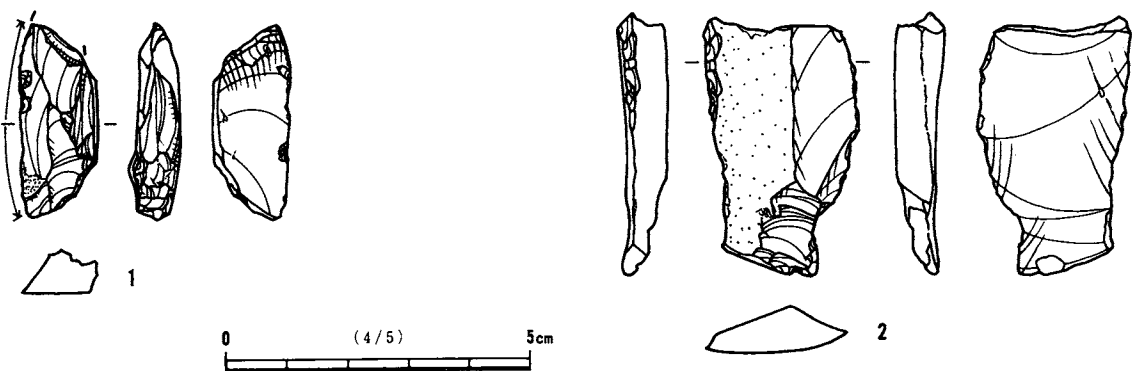
c. 第3文化層

第1文化層C1ブロックの北5m程の地点で検出したBブロックを、第3文化層として捉えた。

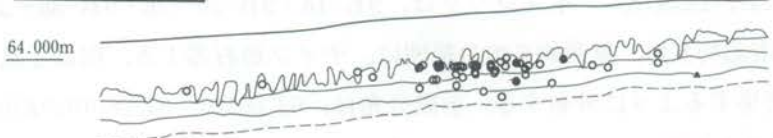
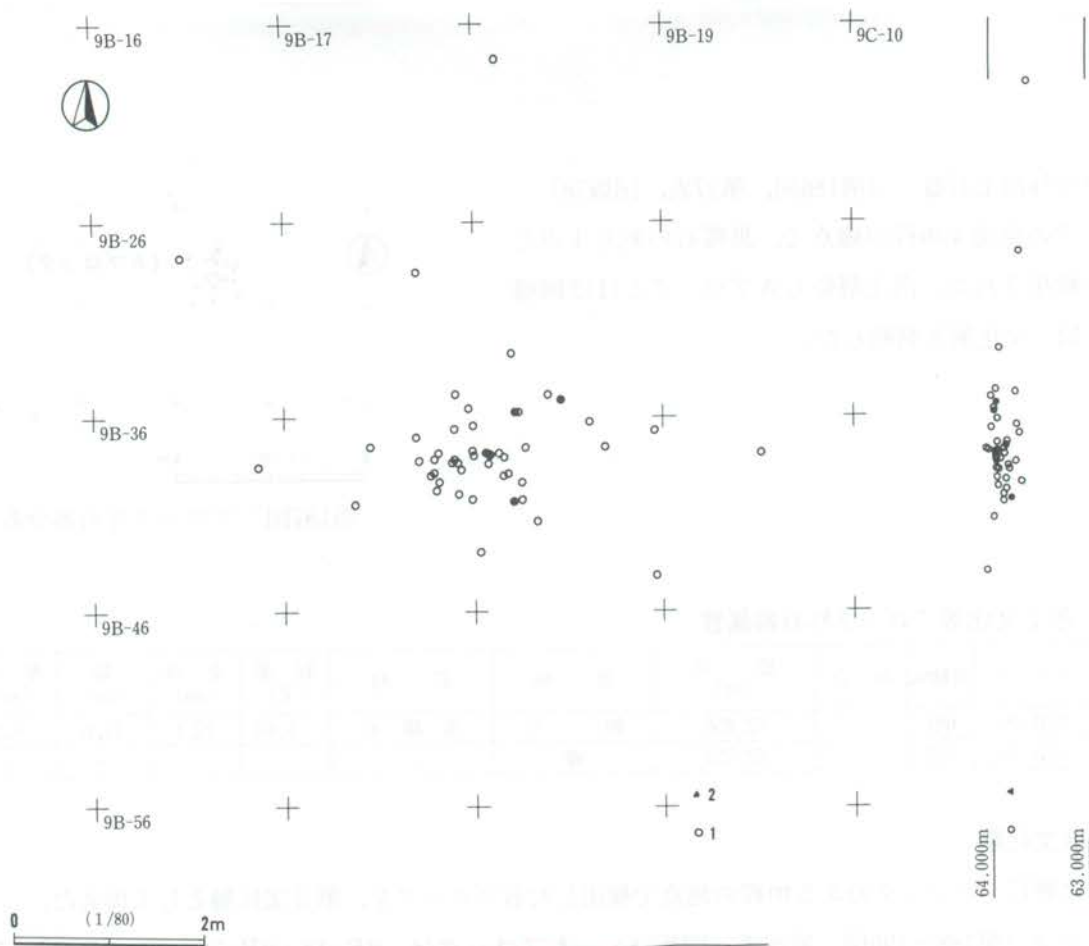
Bブロック (第188~190図, 第28表, 図版78) 本ブロックは、9B-18・9B-26~28・9B-36~39・9B-49・9B-59グリッドに位置し、南北約8m、東西約6mの範囲に、ナイフ形石器1点、削器1点、剥片・碎片49点が、中央部に大半が密集するように分布する。垂直分布は、63.601m~64.060mの約0.4m、Ⅲ~Ⅴ層の間、特にⅢ層下部に濃く分布する。

石材は、珪質頁岩47点、黒曜石2点、頁岩1点で大半が珪質頁岩で占められる。

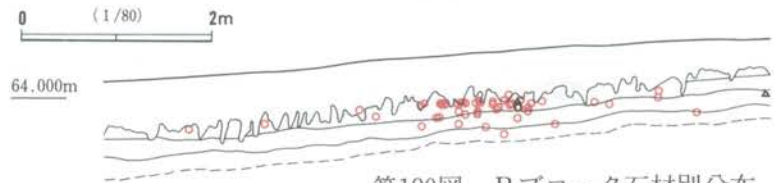
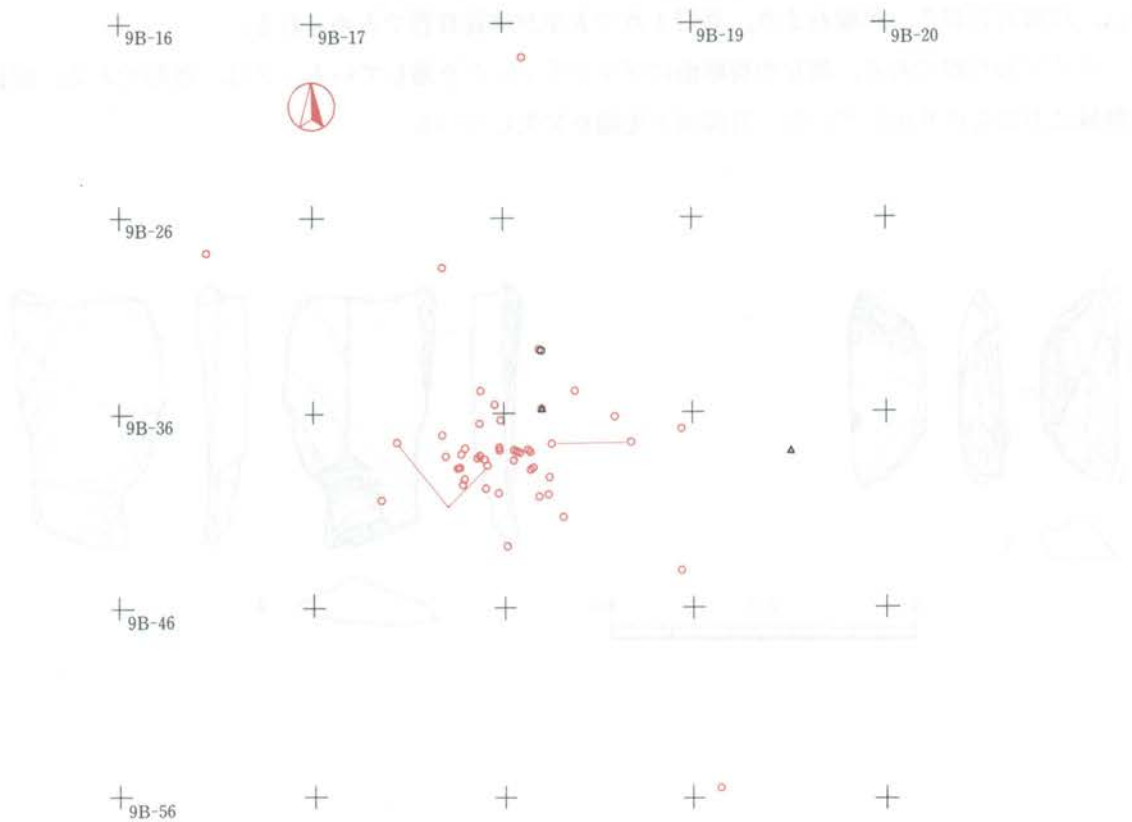
1は、ナイフ形石器である。剥片の折断面にブランディングを施している。2は、削器である。縦長剥片の左側縁に刃部を作り出している。打面側と先端を欠失している。



第188図 Bブロック出土石器



第189図 Bブロック器種別分布



第190図 Bブロック石材別分布

第28表 Bブロック石器属性

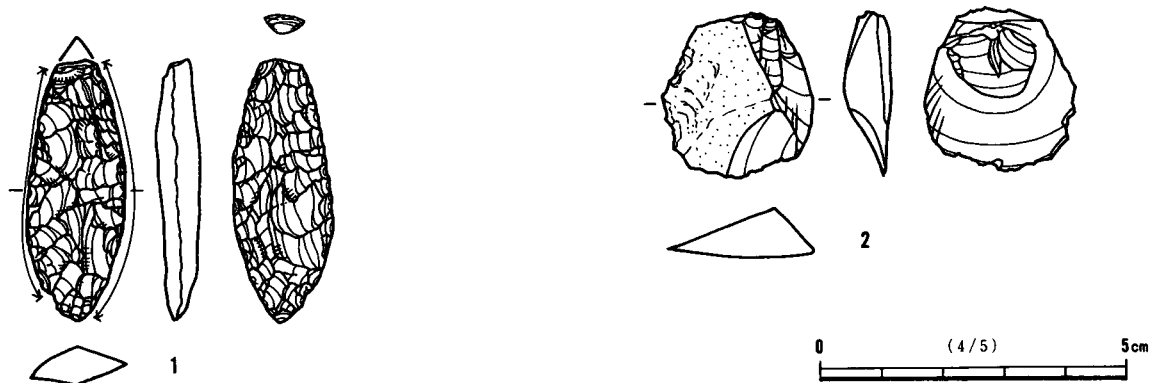
図 No.	グリッド	遺物No.	接合	標高 (m)	器種	石材	質量 (g)	全長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
	9B-18	001		63.601	剥片	珪質頁岩	0.66	14.1	9.8	3.8
	9B-26	001		63.677	砕片	珪質頁岩	0.92	19.9	22.9	3.8
	9B-27	001		63.917	砕片	珪質頁岩	0.16	8.1	4.6	3.0
	9B-27	002		63.940	砕片	珪質頁岩	0.88	22.8	18.5	2.3
	9B-27	003		63.946	砕片	珪質頁岩	0.41	18.8	10.7	1.8
	9B-28	001		63.957	剥片	珪質頁岩	3.78	31.5	25.2	9.2
	9B-28	002		63.910	剥片	黒曜石	0.24	10.4	14.1	1.5
	9B-28	002		63.910	剥片	珪質頁岩	6.37	35.4	22.5	9.3
	9B-28	003		63.990	剥片	珪質頁岩	11.93	35.8	17.0	15.5
	9B-28	004		63.738	砕片	珪質頁岩	2.54	20.1	21.9	7.1
	9B-36	001		63.737	砕片	珪質頁岩	0.20	13.4	16.9	1.1
	9B-37	001		63.720	砕片	珪質頁岩	0.91	14.4	15.2	4.6
	9B-37	002		63.915	砕片	珪質頁岩	0.07	12.8	9.5	0.9
	9B-37	003		63.868	砕片	珪質頁岩	0.82	22.2	17.0	2.9
	9B-37	004	珪頁1	63.953	砕片	珪質頁岩	1.14	14.2	19.6	3.9
	9B-37	005		63.920	砕片	珪質頁岩	0.05	9.4	11.9	0.9
	9B-37	006		63.925	砕片	珪質頁岩	0.05	7.2	10.2	0.8
	9B-37	007		63.934	砕片	珪質頁岩	0.21	12.7	17.6	1.0
	9B-37	008		63.926	砕片	珪質頁岩	0.02	4.2	8.7	0.6
	9B-37	009		63.936	砕片	珪質頁岩	0.03	7.5	3.8	0.5
	9B-37	010	珪頁1	63.821	剥片	珪質頁岩	2.30	16.9	28.0	5.4
	9B-37	011		63.865	砕片	珪質頁岩	0.74	12.4	15.5	3.7
	9B-37	012		63.944	砕片	珪質頁岩	0.01	5.3	3.5	0.5
	9B-37	013		63.818	砕片	珪質頁岩	0.04	6.9	8.0	1.0
	9B-37	014		63.937	砕片	珪質頁岩	0.52	14.8	18.9	2.8
	9B-37	015		63.695	剥片	珪質頁岩	0.12	8.0	11.7	1.7
	9B-37	016		63.793	砕片	珪質頁岩	0.07	6.2	7.4	3.0
	9B-37	017		63.790	砕片	珪質頁岩	0.03	3.9	9.5	0.3
	9B-37	017		63.790	砕片	珪質頁岩	0.13	9.0	11.1	1.6
	9B-37	019		63.850	砕片	珪質頁岩	0.07	8.4	9.1	1.3
	9B-37	021		63.838	砕片	珪質頁岩	0.06	8.4	11.9	0.6
	9B-38	001		63.987	剥片	珪質頁岩	5.61	26.7	22.1	14.4
	9B-38	002	珪頁2	63.910	剥片	珪質頁岩	15.95	20.0	44.4	16.2
	9B-38	003		63.940	砕片	珪質頁岩	0.78	13.8	23.3	4.1
	9B-38	004		64.060	砕片	珪質頁岩	1.16	23.7	13.2	4.9
	9B-38	005		63.960	砕片	珪質頁岩	0.10	7.8	12.8	1.5
	9B-38	006		63.890	砕片	珪質頁岩	2.47	14.9	25.2	7.4
	9B-38	008		63.853	砕片	珪質頁岩	0.17	11.4	10.4	2.2
	9B-38	009	珪頁2	63.930	剥片	珪質頁岩	4.17	18.2	27.6	11.8
	9B-38	010		63.945	砕片	珪質頁岩	0.32	10.3	11.5	4.0
	9B-38	011		64.017	剥片	珪質頁岩	0.43	11.6	16.7	2.8
	9B-38	013		63.918	砕片	珪質頁岩	0.01	6.3	2.4	0.4
	9B-38	014		63.968	砕片	珪質頁岩	0.02	8.8	3.4	1.3
	9B-38	015		63.692	砕片	珪質頁岩	1.31	28.7	20.7	3.9
	9B-38	016		63.925	砕片	珪質頁岩	0.03	5.7	6.3	1.2
	9B-38	017		63.893	砕片	珪質頁岩	0.07	9.2	8.2	0.8
	9B-38	017		63.893	砕片	珪質頁岩	0.19	8.2	9.6	3.0
	9B-38	018		63.857	砕片	珪質頁岩	0.02	4.7	6.1	0.9
	9B-39	001		64.015	剥片	チャート	0.34	11.8	9.3	3.1
2	9B-49	001		63.825	搔器	頁岩	6.41	39.5	24.5	6.4
1	9B-59	001		63.803	ナイフ形石器	黒曜石	3.07	30.9	13.1	7.9

グリッド出土石器 (第191図)

表土層中より出土した石器において、少数例ながら旧石器時代の石器と思われるものが認められた。

1は、9B-02グリッドにおいて表土層中より検出した槍先形尖頭器で、先端部を欠失している。石材は黒曜石で、両面調整による木葉形を呈している。

2は、9C-52グリッドにおいて表土層中より検出した横長剥片で、背面に自然面を残す。



第191図 グリッド出土石器

第3節 縄文時代

1. 細山(1)遺跡

前述したように、遺構等は検出されず、本調査は行っていない。だが、確認調査において縄文時代早期の土器、石器及び礫を少量検出した。土器及び礫とも、調査区の北側で尾根の先端に近い部分、1Fグリッドから3Fグリッドにわたる地点から、その大半が出土している。

(1) 土器 (第192図, 図版79)

土器は125点(1,356.0g)出土した。無文で、擦痕による器面調整を施すものが、大半を占める。前期に比定される2点を除き、縄文時代早期田戸上層式終末～子母口式期に位置づけられるものである。種類別の内訳は、有文(田戸上層式)が1点(34.5g)、擦痕調整(口縁部)が6点(37.1g)、擦痕調整(胴部)が104点(1,092.2g)、条痕調整(口縁部)が1点(15.8g)、条痕調整(胴部)が11点(152.2g)である。加えて、前期が2点(24.2g)である。本報告では、14点を図示した(第192図1～14)。

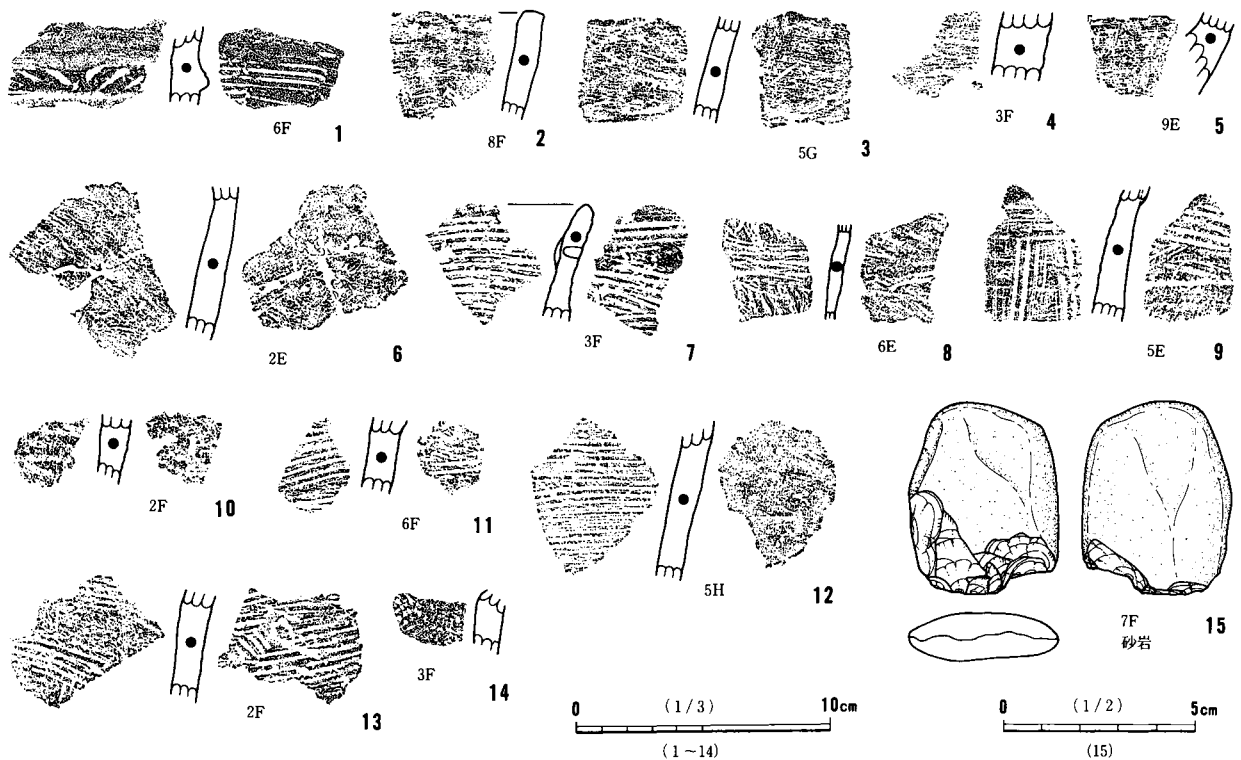
1は、斜位の刻みを施す隆帯を巡らしている。刻みは、図中央部で方向を違えている。隆帯及び刻みの施文後に、横方向のナデによる器面調整を行っている。内面には、条痕を施した後に擦痕を加えている。胎土は繊維を含むが、焼成は良好である。色調は、内外面とも明黄褐色である。これらの特徴から、田戸上層式終末期に比定される。2～6は擦痕調整のみのものである。いずれも胎土は、繊維を含む。2は、角状の口唇部形態をなし、外面には横方向の擦痕が施される。内面調整は、剥落が著しく、不明である。5は、底部近くの破片である。径が小さく、下に向かって肥厚することから、尖底の個体と思われる。7～9・11～13は、条痕調整を施すものである。7は、内外面に深い条痕が施される。また、口縁部下に、間隔のあく刺突列が施文される。刺突は角棒状工具により、斜方向からなされ、内面が瘤状に膨らんでいる。図右側の刺突については、貫通しているように観察される。8・9は、浅い条痕が内外面に施される。8の外面は斜位の条痕の後に、図中央に横位の条痕が施される。9の外面は、図上端に断面三角形の突帯がみられ、その下には横位及び縦位の条痕が施される。12は、外面に横方向の条痕、内面に丁寧なナデを施す。13の外面には、横方向の条痕を施した後に、部分的にナデを加えて条痕が磨り消されている。内面には、横方向の条痕を施し、図左側に抉るような、短く斜方向の条痕を加える。10は前期前半期の土器である。縄文が施文されているが、器表面の荒れが激しく、原体は判然としない。胎土に繊維を含み、色調は極暗褐色である。14は前期後半期の土器である。屈曲する部分の破片で、単節縄文LRが施文される。胎土に繊維は含まず、色調は外面が明褐色、内面が明黄褐色である。

(2) 石器 (第192図15, 図版79)

石斧を1点(35.9g)検出した。砂岩の扁平礫を素材とした、短冊形のいわゆる礫斧である。調整は、刃部形成の粗い剥離のみ、しかもそのほとんどが背面側からのものである。正面右側の刃部は、正面側からの最終剥離により抉れている。左側の刃部は、両側から細かな剥離がなされ、鈍い角度の刃を形成する。また、上部先端の原礫面は、摩耗による光沢が観察される。装着及び使用の痕跡と考えられる。

(3) 礫

礫は45点(1,659.3g)出土した。状態別の内訳は、完形で赤化が1点(5.0g)、完形で非赤化が16点(358.8g)、破損で赤化が13点(732.2g)、破損で非赤化が15点(563.3g)である。石材はチャート及び砂岩である。



第192図 細山(1)遺跡出土遺物

2. 細山(2)遺跡

台地中央部の本調査区から、早期中葉に属する15基の炉穴を検出した(重複分を含む, 第193図)。また, 調査区全体から, 早期中葉の土器を中心とした遺物を検出した。

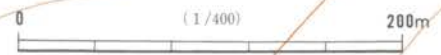
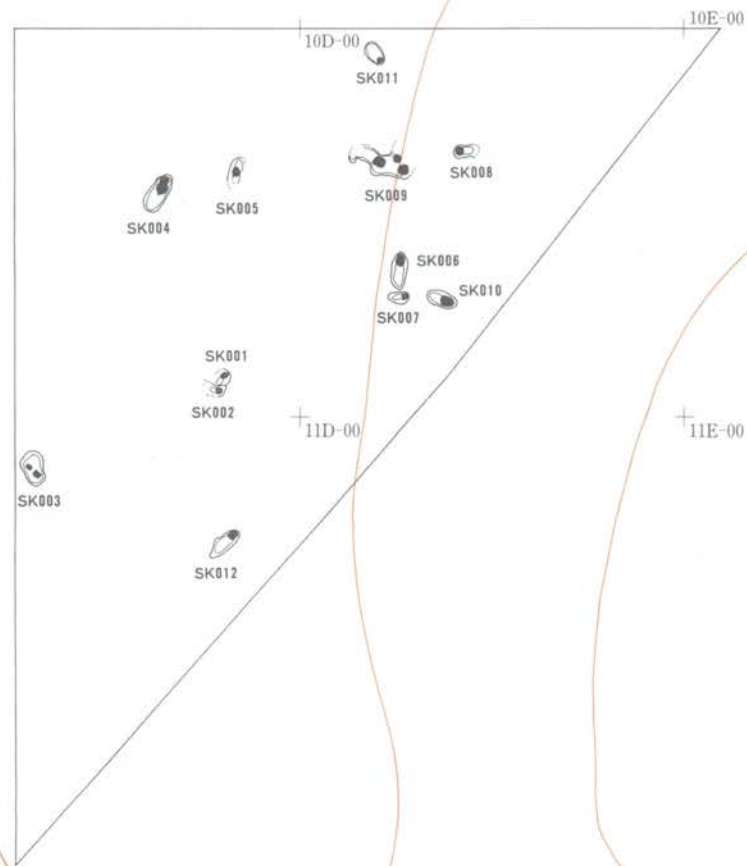
(1) 炉穴(遺構: 第194図・図版31・32, 遺物: 第195・196図・第29表・図版79・80)

S K 001・S K 002

2基が重複しており, 10C-87グリッド付近に位置する。長軸方向は, S K 001がN-45°-E, S K 002がS-74°-Eである。双方とも西側が大きく攪乱されているが, 覆土断面の観察結果から, S K 001よりもS K 002の方が新しいと考えられる。現存規模は, S K 001が長軸1.1m, 短軸0.7m, S K 002は長軸1.2m, 短軸0.7mほどである。覆土は, ロームブロック, ローム粒を少量含む黒褐色土である。なお, S K 001の方がロームブロックの量が多い。燃焼部には焼土が堆積し, 底面は被熱により赤化及び硬化している。

S K 001からは, 遺物は検出されなかった。S K 002からは, 縄文時代早期の土器片が51点(548.6g), 石器類が17点(第29表)及び礫が1点(9.3g, 完形・赤化, チャート)出土している。本報告では, 土器4点及び石器類3点を図示する。なお, 図示しなかった土器は, いずれも無文で, 胎土に繊維を含むものである。器面調整により分類すると, 擦痕のものが38点(335.8g), 条痕のものが9点(75.8g)である。図示したものを含め, 田戸上層式最終末から子母口式期に比定される資料と考えられる。

1~3は土器である。1・2は, 擦痕により器面調整されるものである。いずれも口唇部は, 丸みを帯びる。2の外面には, 条痕の後に擦痕を加える。しかし, 擦痕は不十分なものであり, 器面には条痕の痕跡が残る。内面は比較的丁寧に調整され, 器面は平滑である。なお, 2は胎土に繊維を多く含んでいるが, 1は比較的少量である。3は底部付近の破片である。外面には横位の擦痕が施されるが, 内面には粗い擦



第193図 細山(2)遺跡上層遺構配置

痕の後に、貝殻条痕文が部分的に施されている。胎土には繊維を多く含む。

4～6は石器である。4は石鏃である。透明度の高い、比較的良質の黒曜石を用いている。脚部の先端を欠損しているが、全体の形状は、ほぼ正三角形である。基部の抉りは深く、全長の1/3を超えている。調整は丹念に行われ、素材剥片面は残していない。5は石鏃未製品である。用いている黒曜石は、比較的良質であるが、不純物が混じる部分がある。原礫面を残す肉厚の剥片を素材として用い、全体形状を整える剥離の途中であると思われる。背面右側の調整は、蝶番状剥離 (Hinge fracture) をおこし、素材の肉厚な部分を除去することができないことから、製作を放棄したものと考えられる。6は、使用痕あるいは二次加工痕のある剥片 (U・R-fl) である。素材は切断されているが、本来の形状は三角形で、石鏃未製品であったと思われる。切断面上部に、二次加工及び微細剥離が認められる。石材は、5とよく似た特徴を有する黒曜石である。なお、この他に剥片12点及び碎片2点が出土している。いずれも黒曜石であり、二次加工及び使用などの痕跡は見られない。剥片に関しては、打点が観察されるものが3点にとどまる。他のものは切断により、頭部を有していない。

S K 003

11C-12グリッド付近に位置する。平面形は、歪みのある長楕円形である。燃烧部の数から、2基の重複と考えられる。南側の燃烧部から見た長軸方向は、N-15°-Wである。規模は長軸が1.8m、短軸が1.2mほどである。燃烧部の掘込みは、北西側の方がやや深い。覆土は、上層がローム粒及び焼土粒を少量含む黒褐色土、下層がロームブロックを含む黒褐色土である。燃烧部は黄褐色土が堆積し、底面のハードロームが被熱により赤化及び硬化している。

遺物は、早期子母口式後半～野島式初頭に比定される土器片1点 (15.2g) (第195図7) 及び識別不能の小片 (3.2g) が検出された。7は、細隆線によって口縁部が区画され、縦位の刻目が施される。無文帯を挟んで、横位細隆線の下位に細沈線による斜格子文を施文する。器面調整は内外面共に、条痕を施した後、ナデにより磨り消している。条痕は完全には磨り消されず、その痕跡は多分に残る。胎土に繊維を少量含む、焼成は比較的良好である

S K 004

10C-36グリッド付近に位置する。平面形は、歪みのある長楕円形である。燃烧部の数から、2基の重複と考えられる。長軸方向は、N-27°-Eである。北側先端部は、攪乱を受けている。残存部分の大きさは長軸が2.0m、短軸が1.0mほどである。燃烧部の掘込みは、南側の方がやや深い。覆土は、ローム粒子を若干含む黒褐色土を基本とするが、燃烧部のある北側は、焼土粒子を含んでいる。燃烧部の覆土は、焼土ブロックを多く含む、引き締まっている。

遺物は、早期子母口式前後の土器片112点 (1290.3g) 及び礫8点 (664.8g) が出土した。この出土量は、他の遺構と比して格段に多い。土器は、いずれも胎土に繊維を含み、器面は擦痕あるいは条痕により調整されている。本報告では7点を図示した (第195図9～15)。なお、図示しなかった土器の内訳は、擦痕のものが86点 (589.5g)、条痕のもの18点 (240.5g) である。礫の状態別内訳は、完形で赤化が2点 (288.4g)、完形で非赤化が4点 (39.3g)、破損で赤化が2点 (337.1g) である。石材は、砂岩が6点、チャートが2点である。

土器は、燃烧部付近に、比較的まとまって状態で検出されている。第195図5・6・8・11が北側の燃烧部から、7が南側の燃烧部部から検出されたものである。

5～8・10は、器面調整が擦痕によるものである。5は器面に、製作時の指頭圧痕を顕著に残している。6・10は同一個体である。胎土は、繊維の他に砂粒を多く含んでいる。7は、口縁部の一部が外側へ張り出し、上面形が正円形にはならず、方形もしくは菱形になると思われる。口縁部断面は外削ぎの先尖状であり、口縁部には細かな刻みが施される。割れた後に二次焼成を受けているためか、色調は断面も含めて明黄褐色である。8は、口縁部付近で大きく外反する器形と思われる。内削ぎ状に作出された口唇部の外端には、細かな刻みが施される。さらに、口唇部上にも爪形の刺突が、まばらに施文されている。9は、細沈線と細隆線により文様を構成するものである。縦位の細沈線は、三本一単位であり、その下端が横位の細隆線によって区画されている。内面は条痕の後にナデが施され、条痕は痕跡程度になっている。野島式土器に比定されるが、やや異質な施文である。11は、条痕が格子目状に施される。内面には、ナデによる調整が施されている。

S K 005

10C-38グリッド付近に位置する。平面形は、攪乱部分が多く明確ではないが、長楕円形であると思われる。中央部付近に燃焼部が検出されている。長軸方向は、N-20°-Eである。残存部分の規模は、長軸1.2m、短軸1.3mほどである。

遺物は、覆土中から田戸下層式土器の小片が1点(19.0g)検出されたのみである(第195図8)。8は沈線によって文様が構成される。外面は丁寧なケズリによる調整が施され、器面は平滑である。

S K 006

10D-52グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形、長軸方向はN-8°-Eである。燃焼部は、北側に検出された。規模は長軸が2.0m、短軸が0.8mほどである。覆土は黒褐色土を基本とし、ローム粒及び焼土粒を少量含んでいる。燃焼部には、焼土粒及び焼土ブロックを多く含む赤褐色土が堆積する。

遺物は、燃焼部付近を中心として、早期子母口式前後の土器片が43点(620.6g)検出された。いずれも胎土に繊維を含み、擦痕あるいは条痕により器面調整されるものである。本報告では、このうち4点を図示した(第196図16~20)。なお、図示しなかったものの内訳は、擦痕のもの32点(266.7g)、条痕のもの7点(15.2g)、小片(16.6g)である。なお、土器以外の遺物は、検出されなかった。土器は、燃焼部付近からまとめて検出されている(16・17・20)。

16・18・20は同一個体である。16は口縁部、18胴部及び20は底部付近の破片である。器形は、口縁部付近でやや強く外反する深鉢形で、底部は丸底になると思われる。口縁部は、内削ぎ状に調整され、先尖状となる。内外面共に、擦痕調整が施されているが、外面はより丁寧に行われ、器表面が平滑である。口縁部には、刺突列が施文される。原体には、先が荒れている半截竹管を用いている。そして、押し引き気味に施文することにより、角押状の刺突文となっている。施文に際し、強く押圧することにより、口唇部を波状にする効果を得ている。17・19は、外面に条痕が施されているものである。同一個体と思われるが、17は二次焼成を激しく受けて赤化している。内面には、丁寧なナデが施され、平滑な仕上がりとなっている。

S K 007

10D-62グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形、長軸方向はN-89°-Eである。規模は長軸が1.1m、短軸が0.6mほどである。覆土は、ローム粒子を含む黒褐色土を基本とし、燃焼部付近には、焼土ブロックを多く含む赤褐色土が堆積する。なお、遺物は検出されなかった。

S K 008

10D-34グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形だが、東側端と西側燃焼部付近が攪乱されている。長軸方向は、S-86°-Wである。規模は長軸が1.3m（推定）、短軸0.7mほどである。覆土は、ローム粒を含む黒褐色土を基本とし、燃焼部付近には、焼土ブロックを多く含む赤褐色土が堆積する。

遺物は、早期子母口式前後の土器片15点（102.9g）、前期諸磯b式土器片1点（39.2g）、土器小片（16.5g）、礫1点（44.3g、破損・赤化・流紋岩）が検出された。早期土器片は、いずれも擦痕調整のみのもので、胎土に繊維を含んでいる。また、前期土器片に関しては、混入と考えられる。本報告では早期土器片2点を図示した（第196図21・22）。

21・22は、無文の胴部破片である。21は焼成が悪く、色調は褐色である。18の外表面は丁寧に擦痕調整が施され、平滑である。焼成は良好、色調は暗褐色である。

S K 009

10D-32グリッド付近に位置する。攪乱部分が多く、全体の形状は不明である。だが、燃焼部の位置と数から、東西を長軸方向とする2基と、南北を長軸方向とする1基の計3基の重複と考えられる。これらの新旧関係は不明である。現存する形状から、個々の炉穴を復元した場合、西側のものが、長軸約2.1m、短軸約0.72m、東側のものが、長軸約2.1m、短軸約1mとなる。しかし、中央のものについては、不明である。長軸方向は、西側のものがS-59°-Eに、東側のものがS-79°-Eと推測される。

遺物は、早期子母口式前後の土器片68点（562.4g）、土製円盤1点（6.7g）、礫4点（366.0g）を検出した。土器片はいずれも無文で、胎土に繊維を含んでいる。本報告では、早期土器片2点及び土製円盤1点を図示した（第196図23~26）。図示しなかった土器の内訳は、擦痕調整のものが65点（365.9g）、条痕調整のものが1点（4.8g）、小片（22.6g）である。礫の状態別内訳は、完形で赤化が1点（301.0g・流紋岩）、完形で非赤化が1点（4.1g・砂岩）、破損で赤化が1点（52.3g・流紋岩）、破損で非赤化が1点（8.6g・チャート）である。

23・24は土器である。23は東側の燃焼部から、24は西側の燃焼部から検出された。23は、ゆるい波状口縁の個体である。外表面には擦痕が顕著に残るが、内表面には擦痕の後にナデが施され、擦痕はわずかにその痕跡が残る程度である。胎土は繊維の他に、砂粒を多く含む。色調は暗褐色～黒褐色である。24は内外面ともに、粗大な条痕が雑に施される。焼成は良好で、色調は明灰褐色である。

25は、約1/2が残存する土製円盤である。外表面に条痕を有する早期土器片を利用し、周縁を円形に研磨している。胎土は繊維及び砂粒を多く含んでいる。色調は暗褐色である。

S K 010

10D-73グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形であり、東端に燃焼部がある。長軸方向はS-71°-Eである。規模は長軸が1.7m、短軸が0.8mほどである。覆土はロームブロック、ローム粒を少量含む黒褐色土を基本とし、燃焼部付近には焼土粒子が混入する。燃焼部には焼土が堆積し、底面が被熱により硬化している。

遺物は、早期子母口式前後の土器片39点（204.6g）、黒曜石製U・R-fl（使用痕のある剥片）1点（1.66g）を検出した。本報告では土器片2点を図示した（第196図26・27）。なお、土器はいずれも擦痕調整で、胎土に繊維を含むものである。

26は、やや角張った口縁部形態をなす。外表面に縦位、内表面に横位の丁寧な擦痕が施され、器表面は平滑

である。焼成は良好、色調は黒褐色である。23は底部付近の破片である。内外面に擦痕が施される。色調は外面が褐色、内面が極暗褐色である。

S K 011

10D-02グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形であり、南東端に燃烧部がある。長軸方向はS-35°-Eである。規模は長軸が1.31m、短軸が0.8mほどである。覆土は、ロームブロック・ローム粒を少量含む黒褐色土を基本とし、燃烧部には焼土が堆積している。なお、遺物は検出されなかった。

S K 012

10C-38グリッド付近に位置する。平面形は長楕円形、長軸方向はN-38°-Eである。規模は長軸が2.0m、短軸が0.8mほどである。覆土はロームブロック・ローム粒を少量含む黒褐色土を基本とし、燃烧部付近には径3cmほどのロームブロックを少量含む。燃烧部には焼土が堆積し、底面は被熱により硬化している。

遺物は、早期子母口式前後の土器片15点(140.4g)及び礫1点(3.7g、破損・赤化、流紋岩)を検出した。土器片はいずれも胎土に繊維を含むものである。本報告では、2点を図示した(第196図28・29)。なお、図示しなかった土器の内訳は、擦痕のもの11点(62.9g)、条痕のもの2点(9.3g)、小片(43.0g)である。また、土器片の多くは、燃烧部及び北西側部の張り出し部分付近から検出された。

28は燃烧部付近、29は張り出し付近の出土である。ともに口縁部破片で、24は口唇部断面が先尖状になり、内外面とも条痕が施される。25は外面に擦痕を施している。内面には、条痕を施した後、横方向のナデを加え、条痕を磨り消している。共に、色調は黒褐色、焼成は不良である。

(2) 遺構外出土遺物(第197・198図)

土器(第197図)

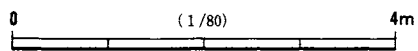
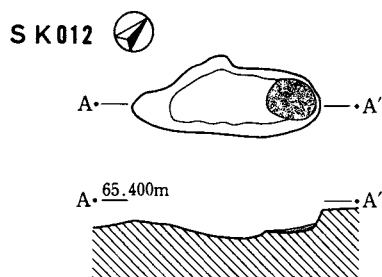
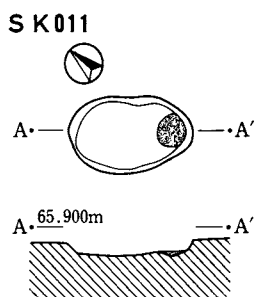
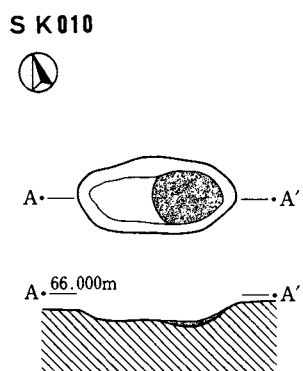
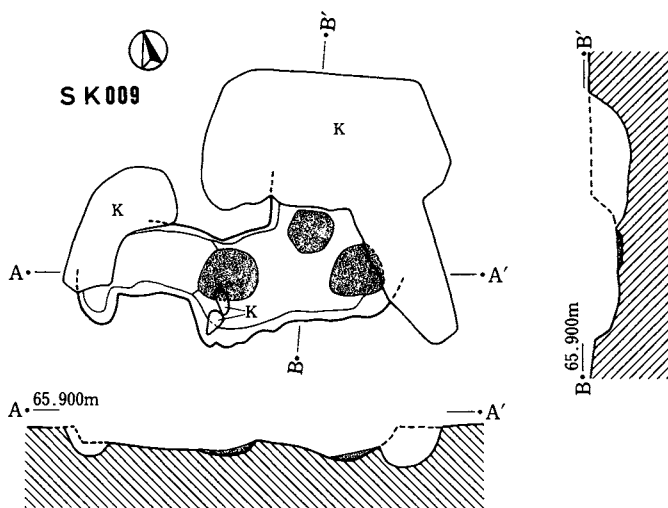
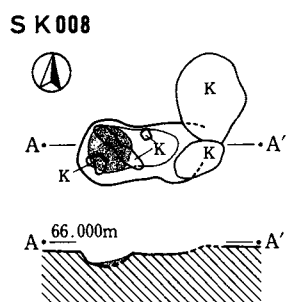
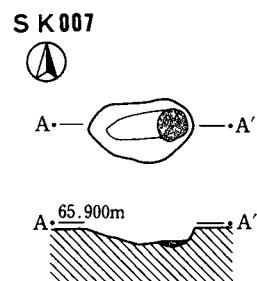
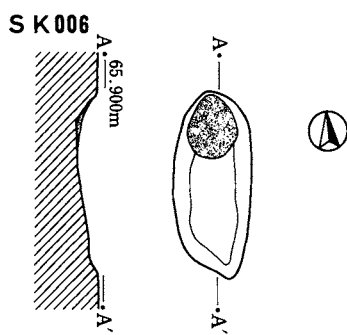
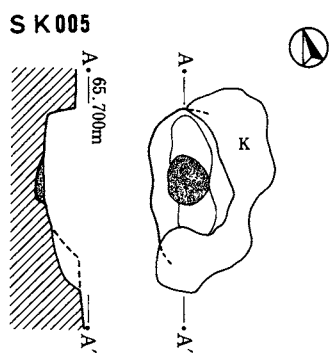
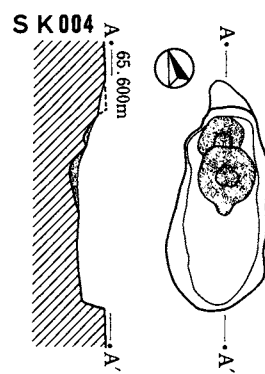
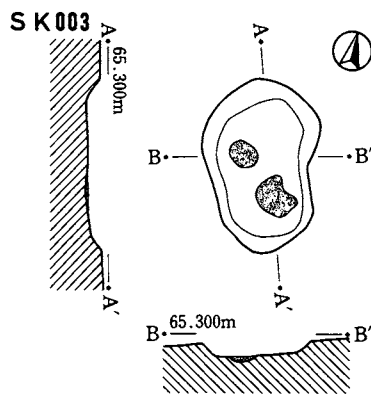
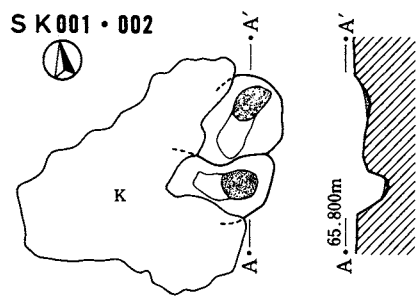
調査区全体から、縄文時代早期前葉～中葉、前期後半、中期後半の土器が検出された。総検出量は250点(2,610.3g)である。

出土土器の多くは、縄文時代早期中葉子母口式の前後に属するもので、いずれも胎土に繊維を含んでいる。文様が確認できる破片は、7点(97.6g)と極めて少数である。無文のものは、器面調整が擦痕によるものが207点(1,769.4g)と大半を占め、条痕によるものが23点(291.5g)と少数である。以上の土器は、調査区全体から出土しているが、炉穴が検出された周辺の10Dグリッド及び11Cグリッドに集中する傾向がある。この付近の地形は、西面する丘陵上の緩斜面である。

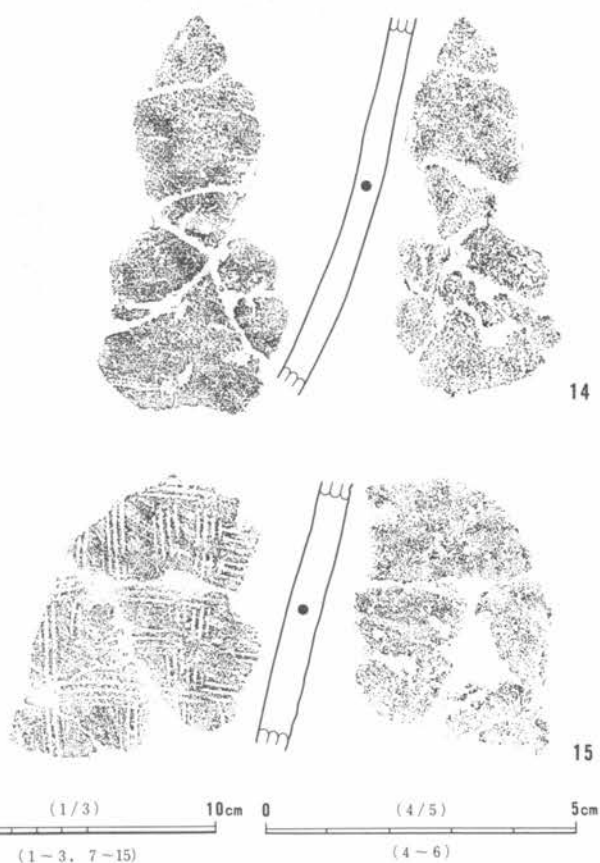
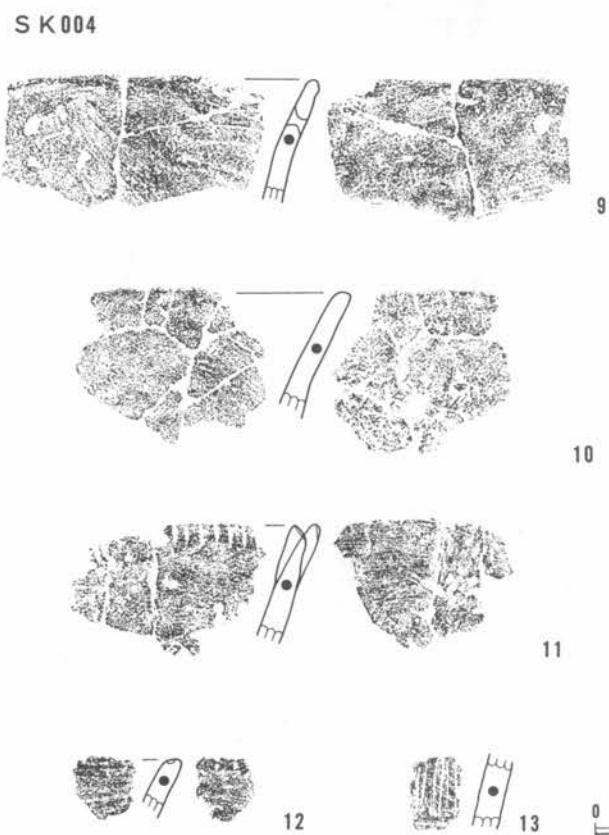
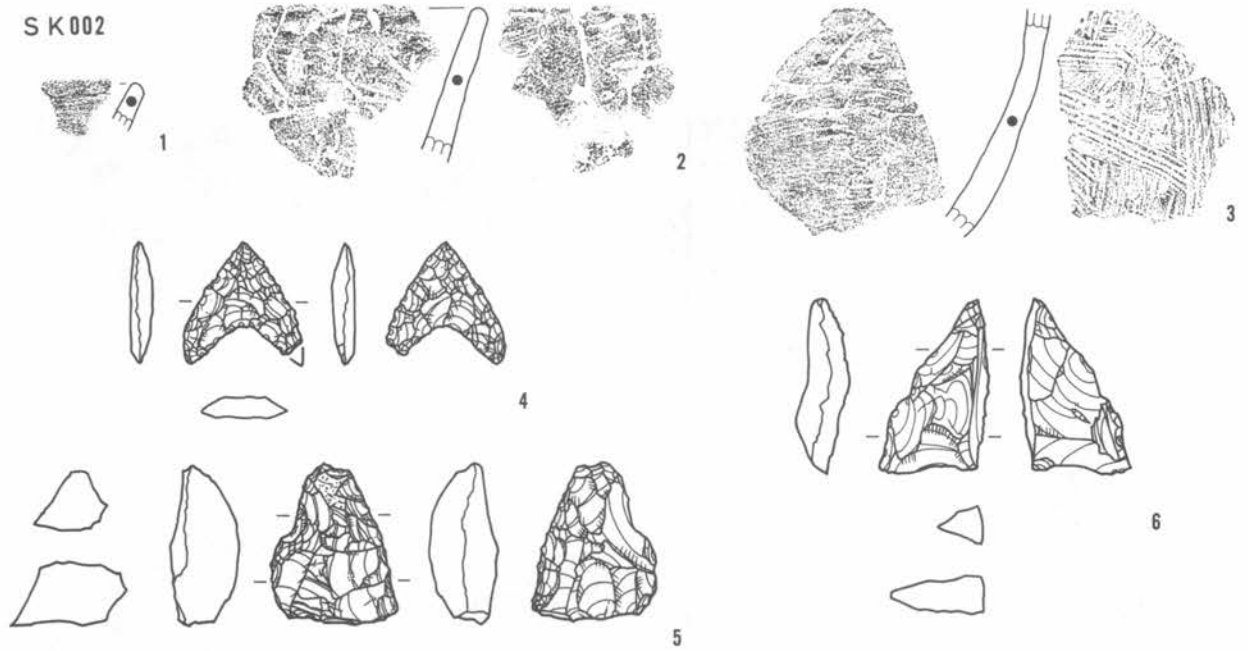
早期中葉以外の時期は極めて少数で、早期前葉田戸下層式土器が2点(94.1g)、前期後半のものが9点(177.5g)、中期後半加曾利E式土器が2点(78.1g)及び分類不能である小片(102.1g)が検出されたのみである。これらの資料は、8A・8B・8Dといった、細い尾根沿いのやや急な斜面から検出されているものが多く、早期中葉のものとは分布を違える傾向がある。本報告では、23点を図示した。

1・2は田戸下層式土器である。沈線文のみのよって、文様を構成する。1は、外削ぎ状の断面形態をなし、口縁部に矢羽状の沈線文を施文される。その下には、横位の太沈線文と細沈線文が見られる。2は縦位の太沈線文を基本とするが、図左側には短沈線が見られる。ともに胎土には砂粒を多く含み、器表面がざらついている。焼成は良好で、色調は褐色～暗褐色である。

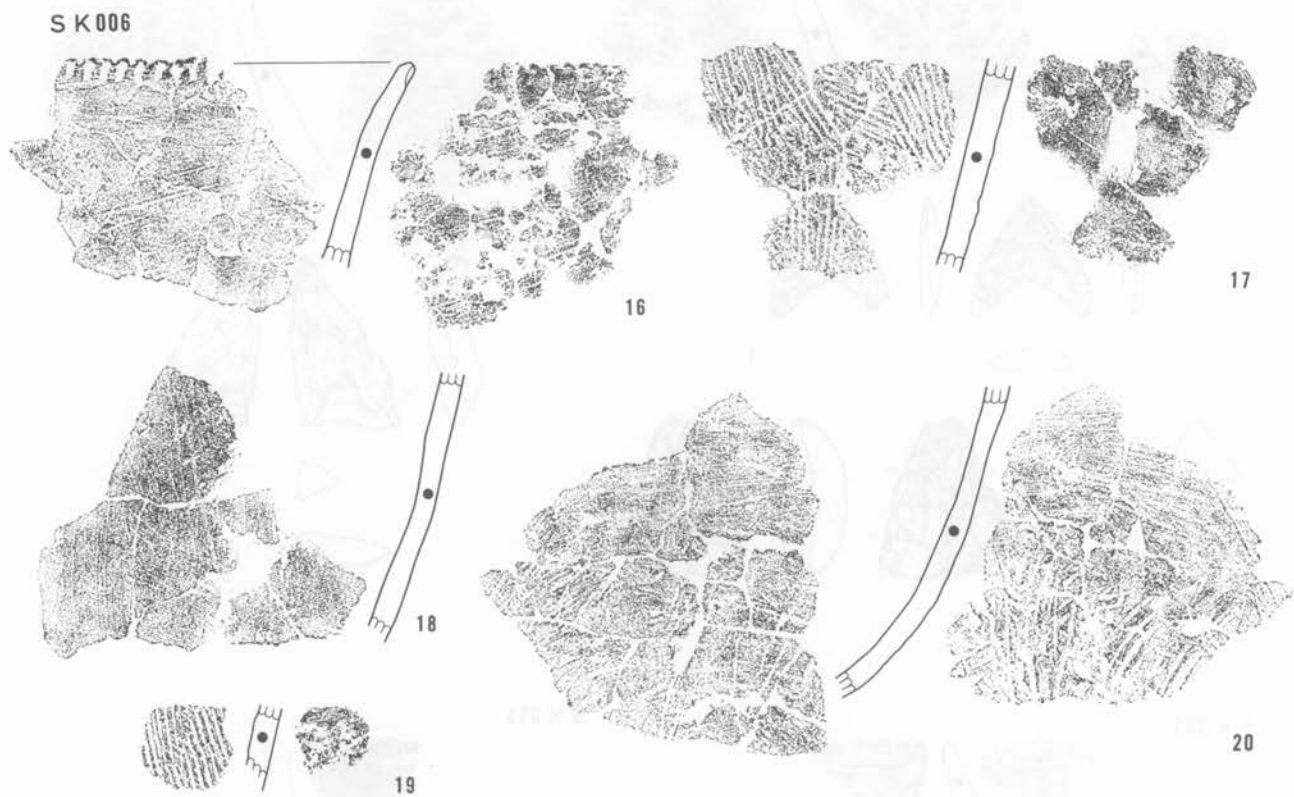
3～17は早期中葉子母口式前後に比定されるものである。3・4・7～9は田戸上層式終末期から子母口式にかけての資料と考えられる。3は口縁部に斜位の刻みが施される。外面は条痕を施した後、抉るよ



第194图 炉穴



第195图 炉穴出土遗物(1)



S K 008



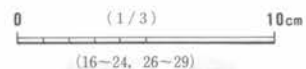
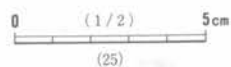
S K 009



S K 010



S K 012

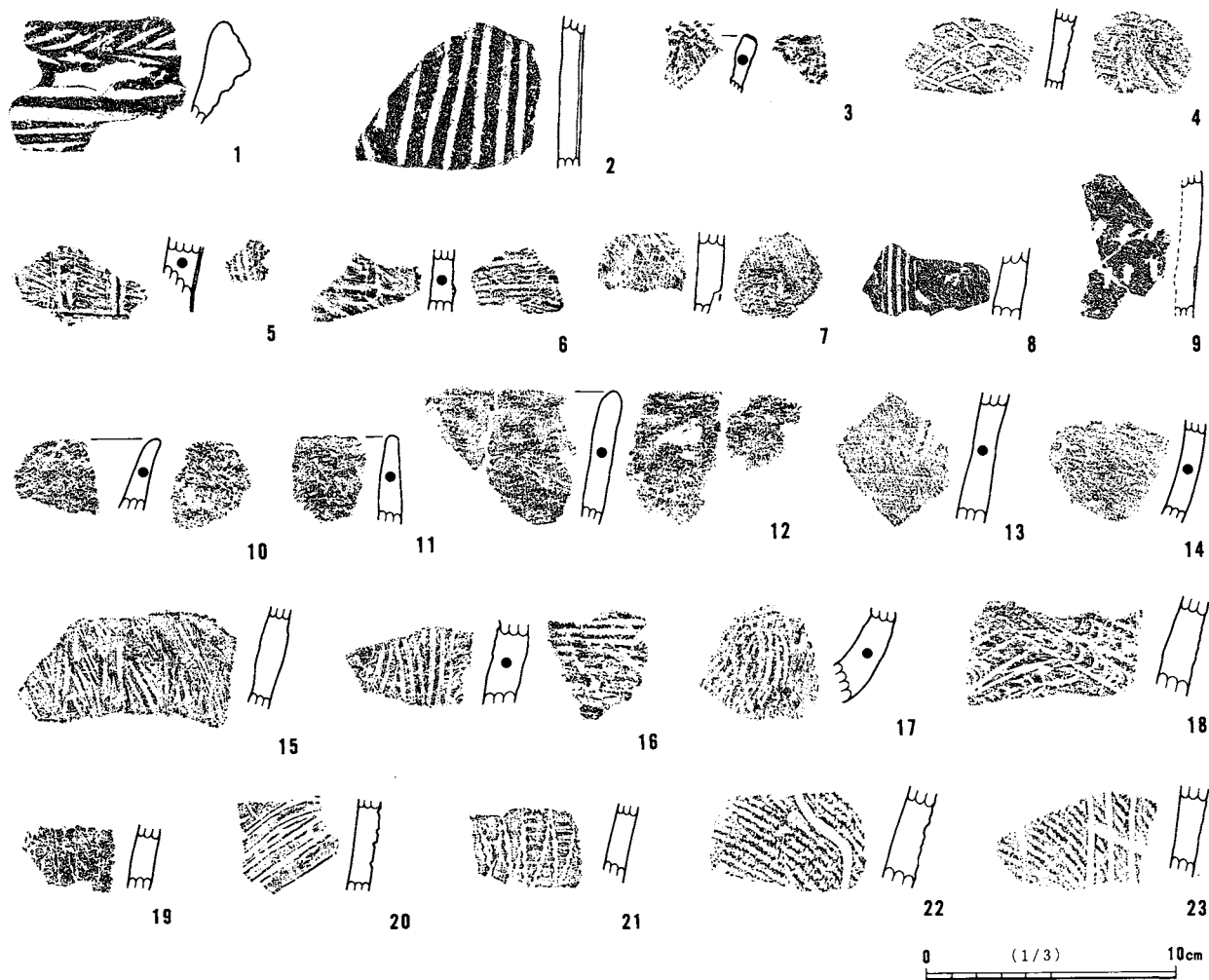


第196图 炉穴出土遗物(2)

うな強い縦位のナデを加えている。4は、連弧状及び斜位の細沈線を施文し、網目状文様を描出する。内面は、条痕を施した後に丁寧なナデを加える。7は、斜位の貝殻背圧痕を施文する。器面調整は、内外面共に擦痕である。8は擦痕地上に、縦位の絡条体条痕を施文する。9は、縦長の刺突列を2段にわたって施文する。内面は剥落が激しい。5・6は子母口式から野島式初頭の資料と考えられる。条痕を施した後、軽いナデを加えた器面に、縦位及び横位の細隆線を施文する。5の縦位細隆線には、刻みも加えられている。内面調整は、共に条痕である。10～14は、内外面とも器面調整が擦痕によるものである。13・14には、軽いナデが加えられている。15～17は、外面の器面調整が条痕によるものである。15・17の内面は、指頭圧痕が顕著に残り、ナデによって条痕を磨り消している。16の内面には、横位の条痕が施される。

18～21は前期後半に比定されるものである。18は、平行沈線文の間に爪形文を施文する。胎土は砂粒及び白色スコリア粒を多く含み、器表面がざらついている。19は、縦方向の平行有節沈線文を施文する。20は、平行線文によって文様が構成されるものである。21は、アナグラ属貝殻を用いた縦位貝殻紋を、押し引き状に施文することにより、部分的に条痕が観察される。19～21の内面は、丁寧にナデ調整され平滑である。

22・23は中期後半加曾利E式土器である。共に縦方向に回転した単節縄文LRを地文として、22は波状沈線、23は3本の縦位沈線を施紋する。23の内面には、ススの付着が見られる。



第197図 遺構外出土遺物(1)

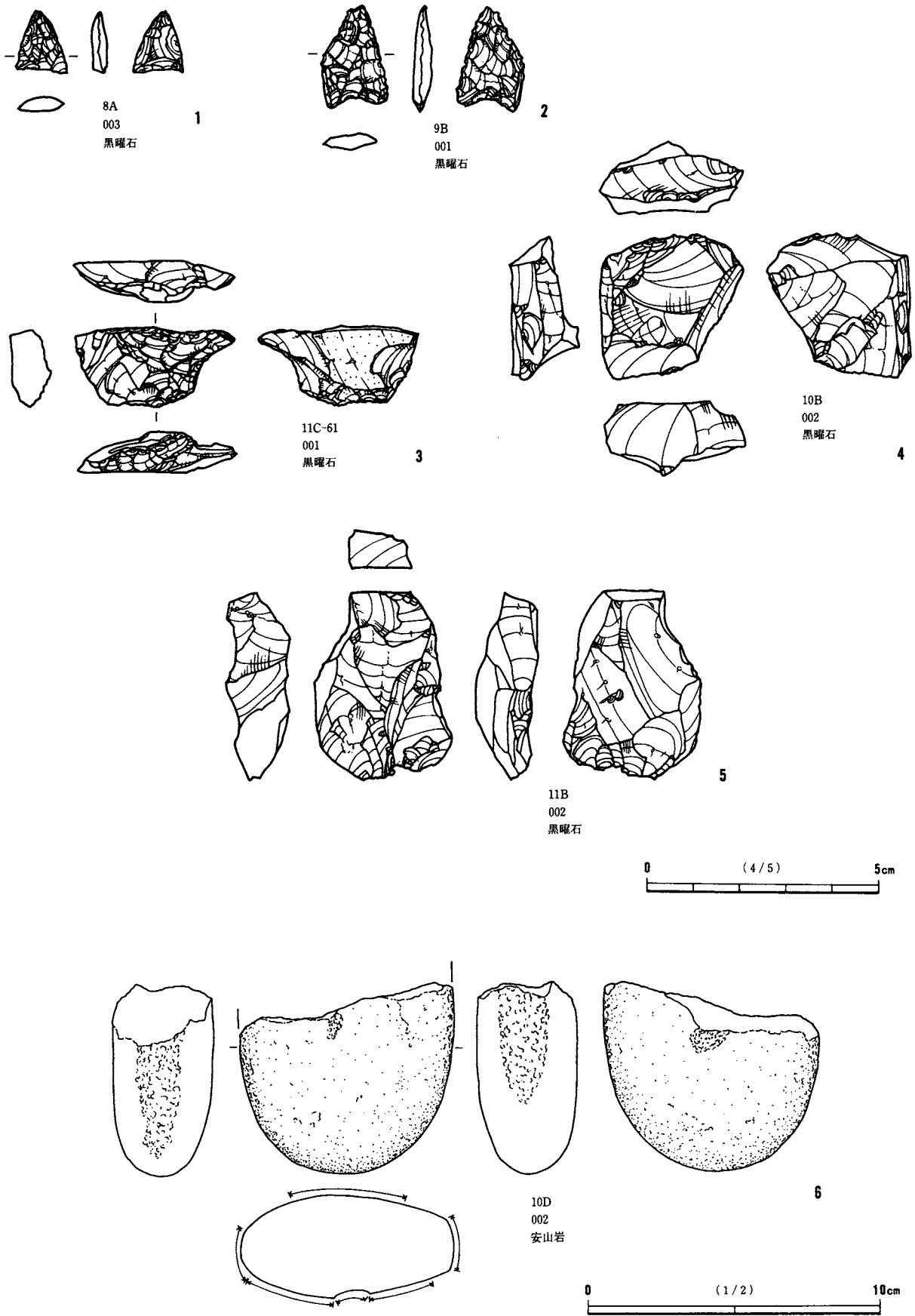
石器（第198図，第29・30表）

石器は22点出土した（第29・30表）。本報告では6点を図示した。

1・2は黒曜石製の石鏃である。1は小型のもので，基部の抉りはわずかである。2は，基部の抉りが明瞭である。先端部及び脚部の片側が欠き，左右非対称の平面形となっている。欠損後も調整を加えているが，全体の剥離の様子より，再調整ではなく製作途中の欠損に伴う調整と思われる。3・4は，使用痕あるいは二次加工痕のある剥片（U・R-fl）である。3は，背面上端及び下端に細かな調整剥離が見られる。調整以前の剥離は蝶番状剥離（Hinge fracture）になる部分が多く，楔形石器の破損品を再加工したものと考えられる。4は，背面上端に二次加工痕が認められる。5は，黒曜石製の石核である。打面転移を頻繁に行いながら，剥片を採取したと思われる。6は磨石，敲石及び凹石として用いられたものの破損品である。楕円形の礫（安山岩）を素材として，表裏面に磨痕，側面に敲打痕が認められる。さらに，表裏面の中央部には，浅い凹みが認められる。

礫（第31表）

遺構外から検出された礫は，72点（3,376.7g）である。調査区全体に疎らに分布し，いわゆる礫群の形成は見られない。大グリッドごとの，状態別出土量を第31表に示した。礫の赤化率は，全体個数の26%にとどまるが，破損率は50%を超えている。石材は，チャート及び砂岩が主体を占める。分布及び数量からは，積極的な礫利用をしている様子は見られず，赤化率の低さもそれを裏付けるものと思われる。しかし，破損率の高さは，個数が少ないながらも，何らかの利用を示していると考えられる。



第198図 遺構外出土遺物(2)

第29表 細山（2）遺跡遺構出土石器

図No.	遺構番号	遺物番号	器種	石材	質量(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	
4	SK002	004-1	石 鎌	黒曜石	0.80	19.5	19.4	3.7	
5	SK002	004-2	石鎌未製品	黒曜石	5.31	25.4	20.8	11.2	
6	SK002	004-3	U・R-fl	黒曜石	2.75	28.1	17.8	8.7	
	SK002	004-4	剥 片	黒曜石	1.39	21.6	10.9	6.6	
	SK002	004-5	剥 片	黒曜石	0.97	16.9	13.6	3.6	
	SK002	004-6	剥 片	黒曜石	0.86	15.0	10.3	7.7	
	SK002	004-7	剥 片	黒曜石	0.73	14.2	13.8	5.7	
	SK002	004-8	剥 片	黒曜石	0.69	19.0	10.6	3.0	
	SK002	004-9	剥 片	黒曜石	0.36	5.2	11.8	3.6	
	SK002	004-10	剥 片	黒曜石	0.35	15.9	9.7	3.2	
	SK002	004-11	剥 片	黒曜石	0.28	9.2	10.0	3.3	
	SK002	004-12	剥 片	黒曜石	0.23	10.8	9.0	2.0	
	SK002	004-13	剥 片	黒曜石	0.22	16.2	8.1	1.5	
	SK002	004-14	剥 片	黒曜石	0.21	12.3	11.9	2.0	
	SK002	004-15	剥 片	黒曜石	0.17	11.0	8.0	1.7	
	SK002	005-1	剥 片	黒曜石	0.24	10.0	13.0	2.0	
	SK002	005-2	剥 片	黒曜石	0.14	14.5	6.1	2.0	
	SK010	001	U・R-fl	黒曜石	1.70	25.2	20.6	4.5	

第30表 細山（2）遺跡遺構外出土石器

図No.	遺構番号	遺物番号	器種	石材	質量(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	備 考
1	8A	003	石 鎌	黒曜石	0.45	13.5	11.0	3.5	
2	9B	001	石 鎌	黒曜石	1.08	21.6	14.0	4.1	
3	11C-61	001	U・R-fl	黒曜石	4.72	18.1	34.5	18.9	
4	10B	002	剥 片	黒曜石	12.28	34.7	30.2	15.0	
5	11B	002	石 核	黒曜石	15.96	39.9	29.5	14.0	
6	10D	002	敲 石	砂岩	231.38	(56.7)	74.0	33.7	破損
	10B-00	001	U・R-fl	黒曜石	1.64	22.0	12.5	8.0	
	5A	002	楔形石器	黒曜石	0.92	19.0	10.4	5.3	
	10D	001	楔形石器	黒曜石	8.78	21.7	32.3	12.6	
	10D	004	楔形石器	黒曜石	6.02	24.0	22.7	9.4	
	表採	001	楔形石器	黒曜石	1.31	(17.1)	18.7	5.8	破損(折れ)
	5G	002	剥 片	黒曜石	1.26	24.2	13.5	4.8	
	8A	001	剥 片	黒曜石	0.22	9.4	11.9	2.9	
	10C	001	剥 片	チャート	8.10	17.7	26.1	15.5	
	10C	005	剥 片	チャート	11.03	25.9	26.2	11.6	
	10C	005	剥 片	チャート	26.41	40.4	38.8	11.9	
	11C	003	剥 片	黒曜石	3.88	22.6	12.0	8.9	
	11C	003	剥 片	黒曜石	1.42	18.1	21.6	6.2	
	11C	003	剥 片	黒曜石	3.36	13.4	23.5	12.0	
	11D	001	剥 片	砂岩	16.35	37.5	19.4	13.8	
	8D	001	磨 石	流紋岩	132.32	(45.6)	68.3	(28.9)	破損・赤化

※ () 内の数字は現存値

第31表 細山（2）遺跡遺構外出土礫

グリッド	完形・非赤化		完形・赤化		破損・非赤化		破損・赤化		合計	
	数	質量(g)	数	質量(g)	数	質量(g)	数	質量(g)	数	重さ(g)
2C					1	1.6			1	1.6
3G							1	0.6	1	0.6
8B			1	11.4			1	0.7	2	12.1
10C	10	83.0	3	278.4	7	50.3			20	411.7
10D	8	89.0	2	156.4	8	173.8	4	100.7	22	519.9
11C	4	268.1	2	394.6	16	528.7	6	314.7	28	1506.2
12C	3	45.2							3	45.2
合計	25	485.3	8	840.9	32	754.4	12	416.8	77	2497.3

第8章 まとめ

第1節 旧石器時代

1 志保知遺跡

志保知遺跡における旧石器時代の遺構は、石器製作跡と考えられる第1ブロックと調理痕跡と考えられる1号礫群が、重なる様に検出されている。第1ブロックから検出された石器点数は18点と少なく、石材的にも黒曜石・珪質頁岩の2種類で、小人数・短期間の生活痕跡と考えられる。ナイフ形石器については、他の剥片（珪質頁岩）とは母岩が異なり、持込であろう。

2 下椎木遺跡

下椎木遺跡における旧石器時代の遺構は、石器製作跡と考えられる3Dブロック・4Cブロックが、時間的推移を示して検出されている。3Dブロックにおける石器点数は20点と少なく、石材的にも珪質頁岩・安山岩・黒曜石の3種類で、両極打法による石器製作を示すのみの、短期的生活跡である。

4Cブロックにおける、石器点数は41点とややまとまっているが、石材的には瑪瑙・黒曜石のほぼ2種類で、幅広の剥片剥離を行っている短期的生活跡である。

3 ヤジ山遺跡

ヤジ山遺跡における旧石器時代の遺構は、石器製作跡と考えられる11か所のブロックが、5時期にわたる時間的推移を示して検出されている。最古期にあたる第1文化層は、458点の石器が2か所にまとまって分布している。このまとまりであるA・Bブロックはそれぞれナイフ形石器を伴い、石核・剥片によって組成されている。さらに両ブロック間にわたる石器の接合例や、同一母岩による石器が存在している。

石器の破損による接合例を除いた、ブロック内における接合例は、Aブロックが2例（ブロック外を含む）、Bブロックが7例、両ブロック間にわたるものが4例を数える。A・Bブロック間において接合関係の認められた4例は、剥片がBブロックで、石核がAブロックで確認されたもの2例、剥片がAブロックで、石核がBブロックで確認されたもの1例、剥片がA・Bブロックで確認されたもの1例で、両ブロック間にわたって石核の移動が行われている。個別別分類においても、同一母岩による石核が両ブロックから出土し、それぞれに多数の剥片・碎片が伴う傾向が認められる。A・Bブロックには密接な関係を窺うことが出来よう。

第2文化層は、243点の石器が、ほぼ4か所にまとまって、第1文化層のA・Bブロックを中心に、南から西にかけて弧を描くように分布している。このまとまりであるC・D・E・9Fブロックは、主に剥片・碎片で構成され、C・D・9Fブロックがナイフ形石器を、Dブロックが削器を、E・9Fブロックが石核をそれぞれ伴っている。ブロック間にわたる接合関係は確認出来なかったが、同一母岩による石器は、C・D・Eブロック、C・D・9Fブロック、C・Dブロック、D・Eブロックにおいて確認されている。C・D・E・9Fブロックには、かなり密接な関係を窺うことができる。しかしEブロックにおける石器の石材が、チャートを主体としており、黒曜石を主体とする他のブロックとの間に若干の相違が存在している。

第3文化層は、石器2点と少なく、第4文化層も石器3点が2か所にまとまって検出されたのみである。

第5文化層は、134点の石器が、2か所にまとまって分布している。このまとまりである8L・8Mブロックは、約10m程の距離をもって確認されたが、搔器を伴い、石器の石材に瑪瑙を多用するなど、類似点が認められる。

4 細山(1)(2)遺跡

細山遺跡における旧石器時代の遺構は、(1)・(2)合わせて、石器製作跡と考えられる6か所のブロックと、調理痕跡と考えられる礫群1か所が、5時期にわたる時間的推移を示して検出されている。最も古い細山(1)遺跡の第1ブロックは、2点の剥片が検出されたのみで、その様相については、明確ではない。

次いで細山(2)遺跡の第1文化層は、382点の石器が、ほぼ3か所にまとまって検出された。本文化層においては、組成としてナイフ形石器や搔器・削器の他に局部磨製石斧が伴い、剥片剥離技術として両極打法が行われている。石器の石材としては、安山岩や珪質頁岩・頁岩が多用されている。

第2文化層は、44点の石器が、第3文化層は、51点の石器が、それぞれほぼ1か所にまとまって分布する。石器の石材として、第2文化層のAブロックは黒曜石を多用し、第3文化層のBブロックは、珪質頁岩を多用している。

5 結語

今回旧石器時代の遺構が確認された遺跡の内、下椎木遺跡・志保知遺跡・ヤジ山遺跡は、同一台地上に位置し、時間的推移を示す分布を呈している。時間的変遷としては、ヤジ山遺跡第1文化層(Ⅸ下)→同第2文化層(Ⅸ上)→同第3文化層(Ⅶ～Ⅵ)→同第4文化層(Ⅵ)→下椎木遺跡第1文化層(Ⅵ～Ⅴ)→ヤジ山遺跡第5文化層(Ⅴ)→下椎木遺跡第2文化層(Ⅳ～Ⅲ)→志保知遺跡(Ⅲ)の順が想定される。

また深城川を挟んで対岸に位置する細山遺跡における第1文化層は、層位的にヤジ山遺跡第2文化層に対応するものと考えられるが、その石器組成、使用石材における相違点が多々認められることから、それぞれのブロックを残した集団の性格に何らかの違いが存在したものと考えられる。

今回の調査成果については路線の工事部分と言う限られた範囲であり、断片的な資料であることから、不明確な点も多いが、千葉県南部における旧石器時代の変遷を垣間見ることが出来た。今後類例の増加を待って千葉県北部との対比等を考えていきたい。

第2節 縄文時代

1 概要

今回報告する7遺跡では、いずれも縄文時代の遺構ないし遺物が検出されている。中でも、量的に充実するのは、縄文時代早期中葉田戸上層式終末から子母口式にかけての資料である。特に、ヤジ山遺跡においては、炉穴をはじめとする該期の遺構並びに遺物がまとまって検出されている。子母口式前後の遺構及び遺物は、未だに検出例が少ないことから、該期の生活内容を検討する上で極めて貴重な成果であると言える。特に、遺物については、土器及び石器が豊富に検出されており、今後の研究に寄与するところが、大いにあるものと考えられる。

また、百目木遺跡、下椎木遺跡、志保知遺跡、細山(2)遺跡からも、同時期の遺構が検出されているが、遺物量を見ても、ヤジ山遺跡に比して小規模なものといわざるを得ない。しかし、ヤジ山遺跡を中心として、周辺の台地にも積極的に遺跡形成が起っていた様子が看取され、本地域の遺跡密度は、予想以

上に高いものとなるであろう。今回の報告は、高速道路の路線上のみの調査であり、本地域の遺跡の全容解明には、ほど遠い。だが、今後も行われると思われる調査成果を加えていけば、本地域におけるかなり活発な縄文時代早期の土地利用の構図を復元することができると思われる。

2 ヤジ山遺跡第Ⅲ群土器について

ヤジ山遺跡第Ⅲ群土器は、本文中でも触れたように早期中葉田戸上層式終末～子母口式期に対比できるものである。この時期の資料は、近年までまとまった遺跡に恵まれず、長い間不明点の多いものとされてきた。しかし、1980年代後半以降、特に千葉県内において資料が増加し、徐々にその様相が明らかとなってきている¹⁾。だが、多くの遺跡は印旛・利根川水系に所在し、上総地域においては断片的と言わざるを得ない状況であった。そのような中、東関東自動車道及びかずさアカデミアパーク等の大規模開発が行われ、それに伴って上総地域の丘陵部における発掘調査が本格化し、当該期資料も著しい増加が見られた。特に、ここ数年でそれらの資料報告がなされるようになり、本格的な検討の土台が整えられてきたと言える。無論、本報告書もその一つである。ヤジ山遺跡近隣では、市原市片又木遺跡²⁾、市原市大作頭遺跡³⁾、木更津市台木B遺跡⁴⁾になどにおいて、まとまった量の資料があることが確認できる。

ヤジ山遺跡第Ⅲ群土器は、大量の無文土器（2類）を伴い、少数の有文土器（1類）が存在している。このような状況は、各遺跡で一般的に見られ、無文土器の中に若干の条痕（あまり深くないものが多い）調整の土器がある傾向も一致している。有文土器の組成を見ると、隆線文（a種）及びまばらな刺突文（b種）を中心とするものが大半を占め、若干の絡条体圧痕文が施文されるもの（c種）が含まれている。さらに、刺突文の中には、田戸上層式最終末段階（城ノ台北貝塚第5類⁵⁾）を特徴づける、口縁部の円形刺突文の資料が見られる。以上のような組成は、近隣の片又木遺跡例に類似するが、同じく近隣の大作頭遺跡例及び台木B遺跡例とは異なっている。ちなみに、大作頭遺跡例では絡条体圧痕文が、台木B遺跡例では集合する刺突文が特徴的な資料である。また、ヤジ山遺跡例では、「折り返し状口縁部」への、刺突文及び沈線文等の加飾がみられる（第117図41・42等）。この部分に絡条体圧痕文を施文するのは、子母口式の特徴であり、ヤジ山遺跡例中も1点（第118図107）であるが確認できる。なお、この類例は、ほぼ同時期と考えられる干潟町桜井平遺跡⁶⁾例の中に見いだすことができ、子母口式初頭の資料として位置づけられている⁷⁾。

ここで、ヤジ山遺跡第Ⅲ群1類土器に対し、絡条体圧痕文の有無を中心とする現行編年⁸⁾に照合してみると、田戸上層式終末期（新々段階）にa種・b種が、子母口式段階にb種の一部及びc種が、それぞれ相当する。しかしながら、第118図84のように、口縁部に円形刺突文を持ちながら、口唇部に絡条体圧痕文を施文する例もあり、一概に印旛・利根川水系を中心とした現行編年に対応させることに對し、慎重な姿勢が求められるものと考えられる。なお、子母口式段階にa種及びb種も含めて考えた場合、明らかに大作頭遺跡例や台木B遺跡例よりも古相である。もちろん、全てを子母口式段階に含めることは極論に近いが、「ヤジ山遺跡例・片又木遺跡例→大作頭遺跡例・台木B遺跡例」という、上総地域編年の大枠を想定することができる。今後、千葉県内資料全体の見直しはもちろん、常に広域編年の視点を持ちながら、この想定に対し、検討を加えていかなければならないと思われる。

3 ヤジ山遺跡の縄文時代石器について

先に述べたように、ヤジ山遺跡においては、田戸上層式終末期から子母口式にかけての土器とともに、石器も豊富に検出されている。包含層出土のものが大半であり、時期的に限定することは困難を伴うが、土

器とあわせて、数量及び分布状況を見る限り、その多くは該期のものとして考えることができよう。ただし、第127図に示した尖頭器及び搔器については、形状等から草創期の所産である可能性が極めて強い。特に第127図1については、いわゆる「本ノ木型」の尖頭器である。第127図2～4についても、形態及び調整技法が、他の石器類と比して特異であり、早期の石器群からは除外して考えたい。

早期のものとして考えられる石器群を概観すると、剥片石器類と礫石器類に大別できる。まず、剥片石器についてみると、大量の剥片・碎片類が目立つ。しかも、大半が黒曜石であり、二次加工痕及び使用痕が見られるものも多く存在する⁹⁾。これに伴って、石核も多く検出されている。石核は、全て黒曜石であり、打面転移を繰り返し、小規模な剥片を生産していたものばかりである。もちろん、初期段階の剥離では、石鏃の素材となる剥片を目的としていたものもあると思われる。だが、石核自体がかなり小型化しても、剥離を継続していることから、いわゆる不定形剥片の生産を主目的としていた様相がうかがえる。石鏃以外の定型的な製品類を持たず、不定形剥片を積極的に使用する状況は、関東地方の縄文時代全般にわたって見られる状況であり、本遺跡もその一例として考えることができる。また、石鏃については、黒曜石を用い、基部の挟りがごくわずかなものが大半であり、未製品も多く見いだせる。石鏃製作跡と思われる石器集中地点も、2か所検出されており、かなり活発な生産を行っていたものと思われる。未製品を見る限り、剥片素材とするものが多く、両極剥片を素材とするものを見出すことは困難である。本遺跡における楔形石器の少なさも、そのことを裏付けるであろう。礫石器類については、石斧、磨石・敲石などが多く検出されている。石斧は、原礫面を残す打製のものである。この中には、摩耗面を有し、剥離面が痕跡程度となるものも見られる。第133図3は、原礫面との境に稜を有することから、研磨による調整を行っていた可能性がある。しかし、第133図1・4は原礫面との境界が不明瞭であり、使用の結果による摩耗であると考えられる。また、第133図1・3は、意図的に石斧自体の長さを短くしたものと考えられる。長身の石斧と比べ、機能差があるものかどうか、興味深いものである。さらに、磨石・敲石及び石皿の存在は、定住生活と密接な関わりがあるものと思われ、その数の多さもヤジ山遺跡における定住性の高さを示すものと思われる。

注1 小笠原永隆 1997「子母口式土器の成立についての予察」『人間・遺跡・遺物3』発掘者談話会

2 寺島 博 1984『片又木遺跡』(財)市原市文化財センター

3 加納 実 1999『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書3-市原市大作頭遺跡-』(財)千葉県文化財センター

4 安藤道由 1996『台木B遺跡』(財)君津郡市文化財センター

5 吉田 格 1955「千葉県城ノ台貝塚」『石器時代』第1号

6 蜂屋孝之 1998『千漕工業団地埋蔵文化財調査報告書』(財)千葉県文化財センター

7 蜂屋孝之・小笠原永隆 1999「田戸上層式終末期の土器について」『先史考古学研究』第7号

8 岡本東三ほか 1994『城ノ台南貝塚発掘調査報告書』千葉大学文学部考古学研究室

9 使用痕あるいは二次加工痕のある剥片(U・R-fl)については、肉眼で識別できるものを分別した。剥片としたものについては、時間の制約から高倍率ルーペを使用した観察を行っていない。従って、この中には、特に使用痕を有するものが多く含まれている可能性がある

写 真 图 版



○ 申伊沢遺跡

○ 百目木遺跡

○ 下椎木遺跡

○ 志保知遺跡

○ ヤジ山遺跡

○ 細山遺跡



調査前風景



上層確認状況



下層確認状況



調査前風景



002 (炉穴)



002 (炉穴)



001 (炬穴)



001 (炬穴)



001 (炬穴)



001 (炉穴)



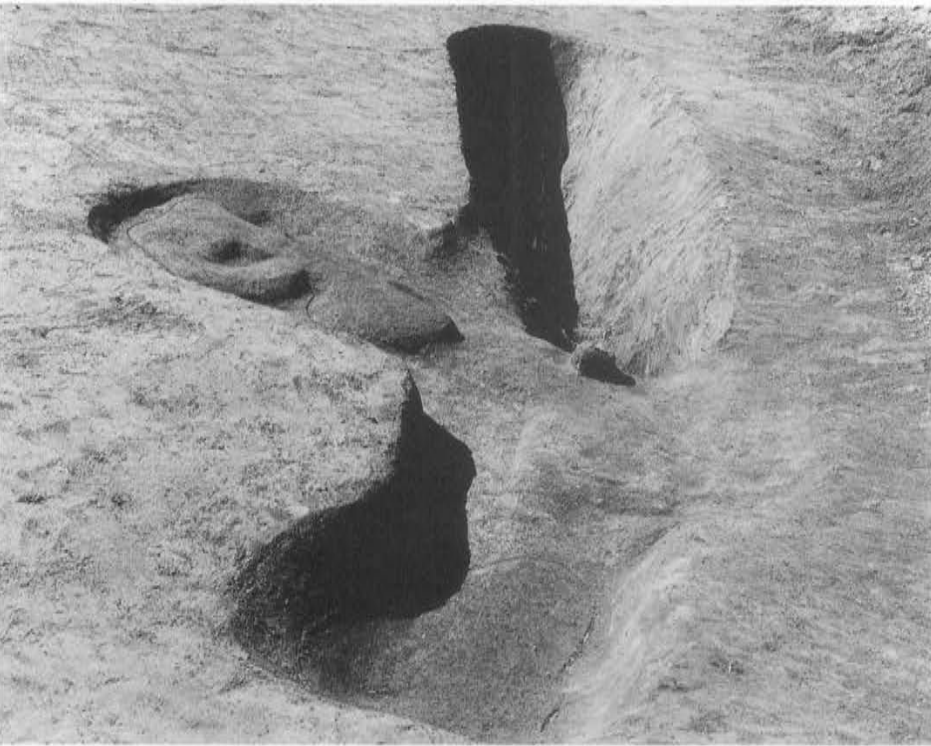
002 (炉穴)



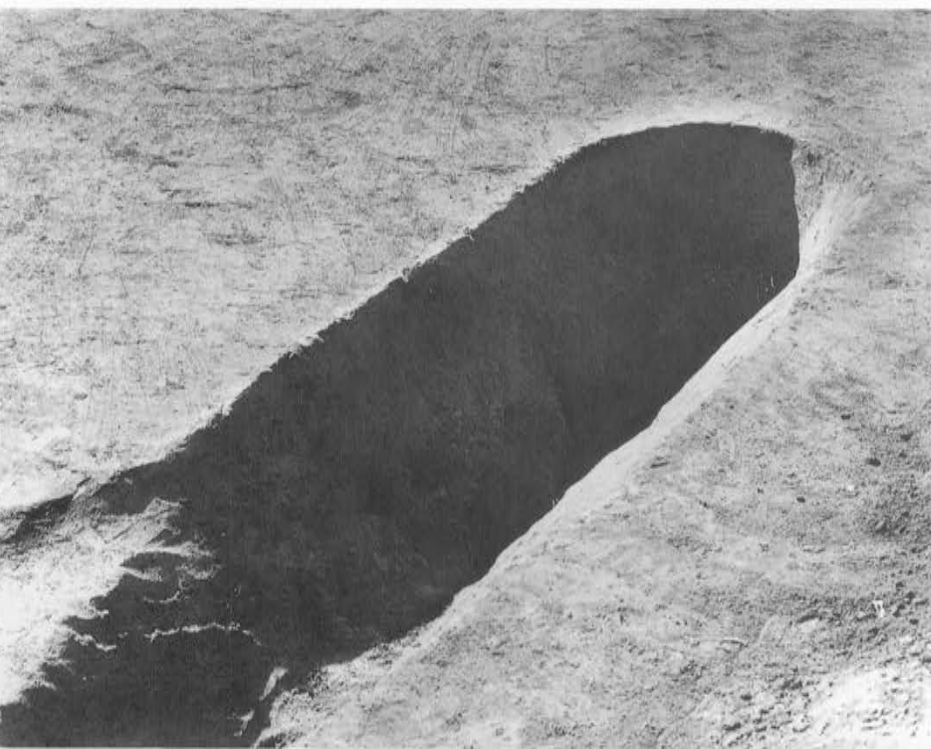
003 (炉穴)



004 (炉穴)



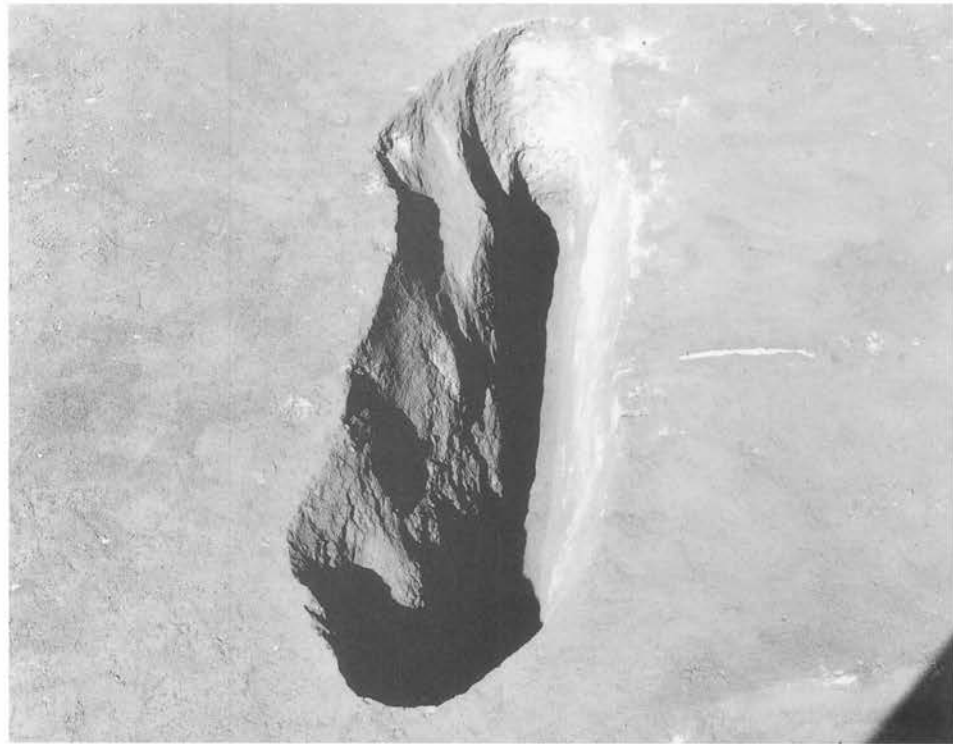
005 A (陥穴)
005 B (炉穴)



005 A (陥穴)



006 (炉穴)



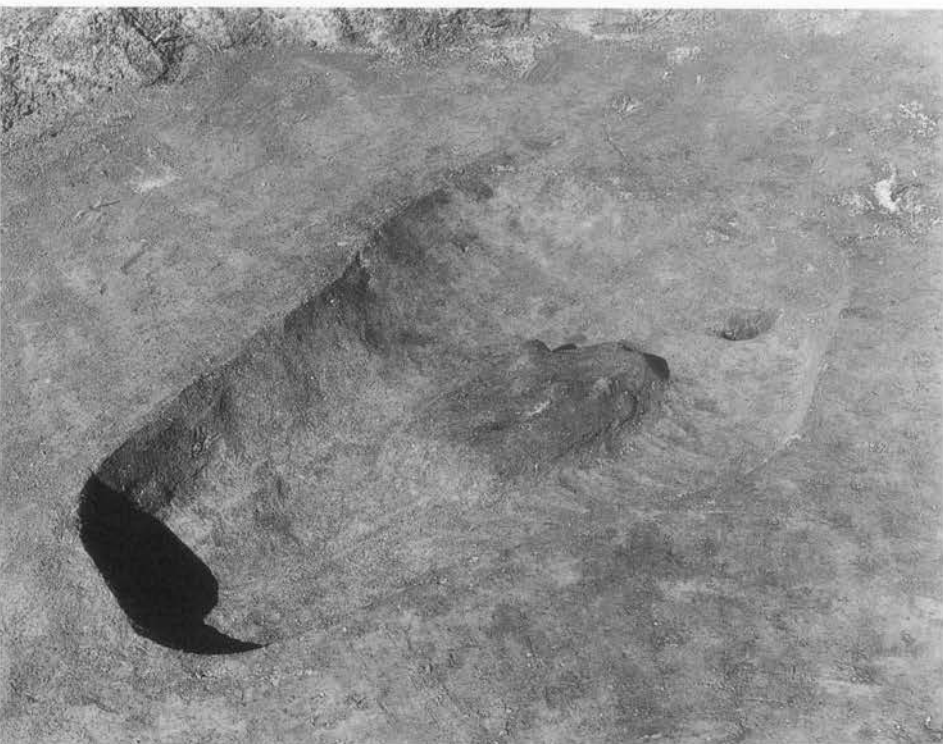
007 (陥穴)



008 (炉穴)



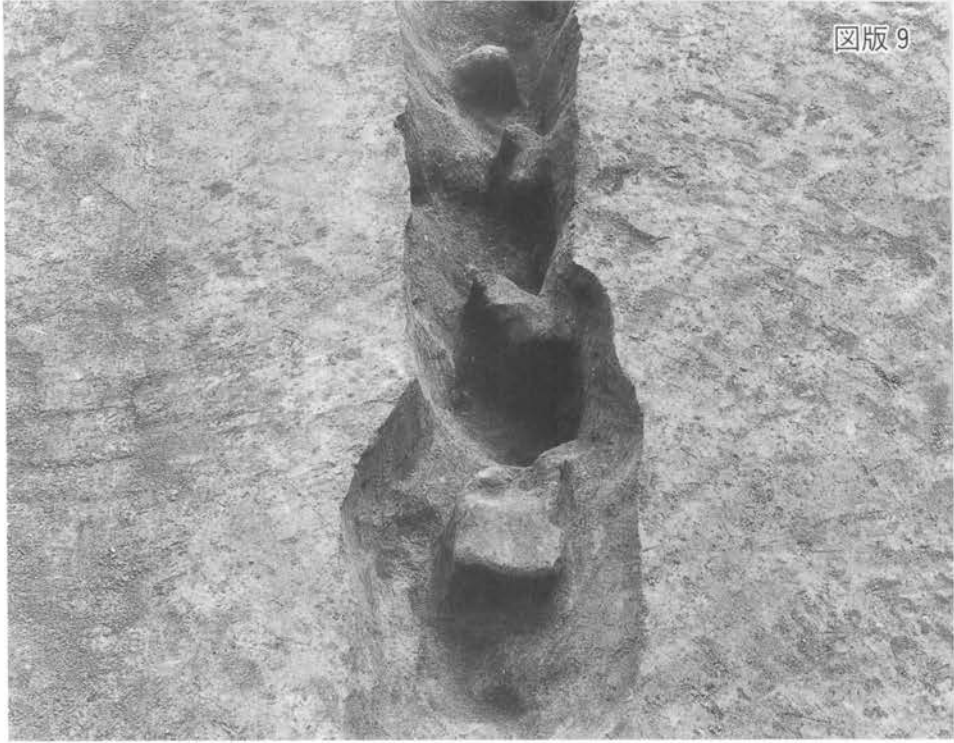
009 (炉穴)



010 (炉穴)



011 (陥穴)



012 (炬穴)



013 (炬穴)



014 (炬穴)



015 (炉穴)



016 (炉穴)



017 (陥穴)



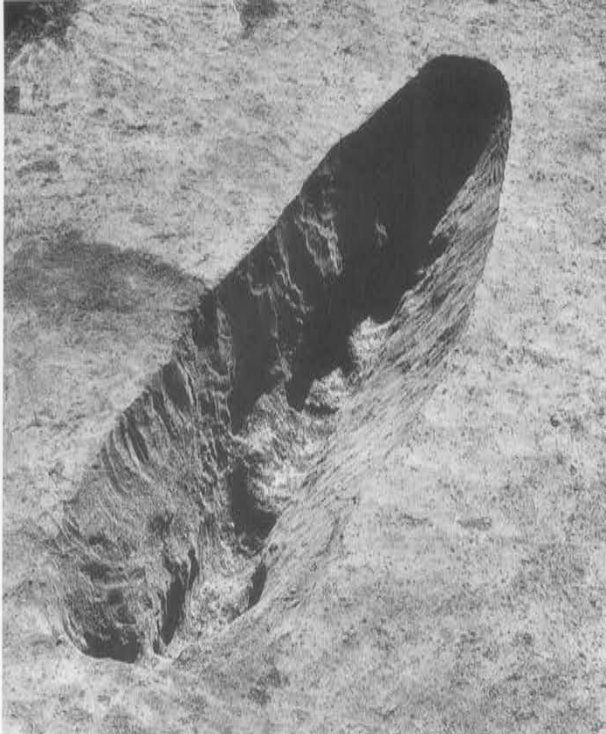
018 (炉穴)



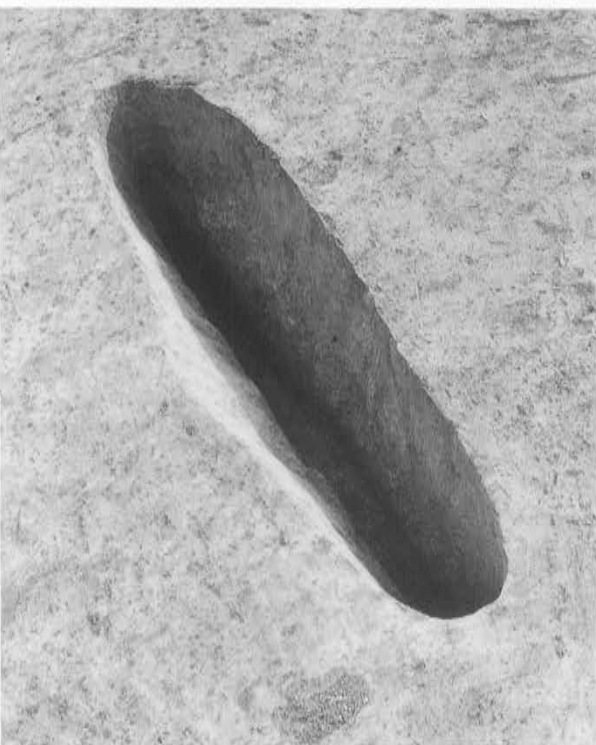
旧石器時代遺物集中地点
遺物出土状況



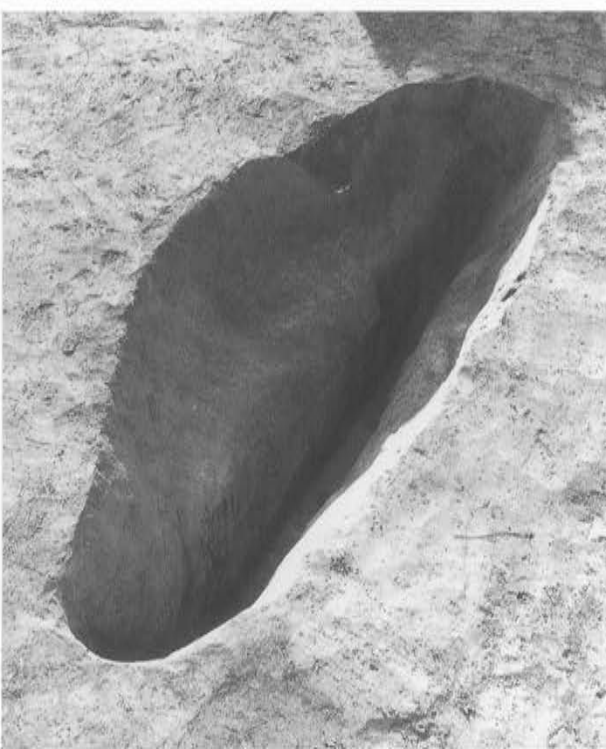
旧石器時代遺物集中地点
遺物出土状況



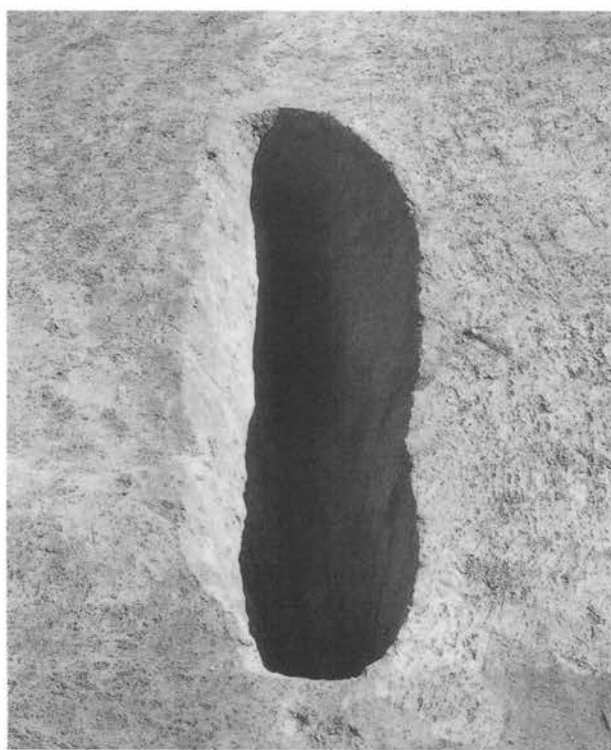
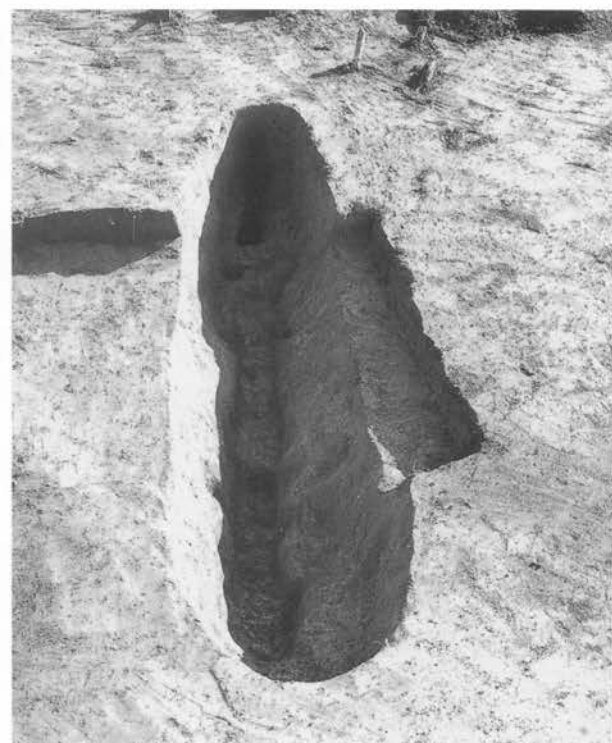
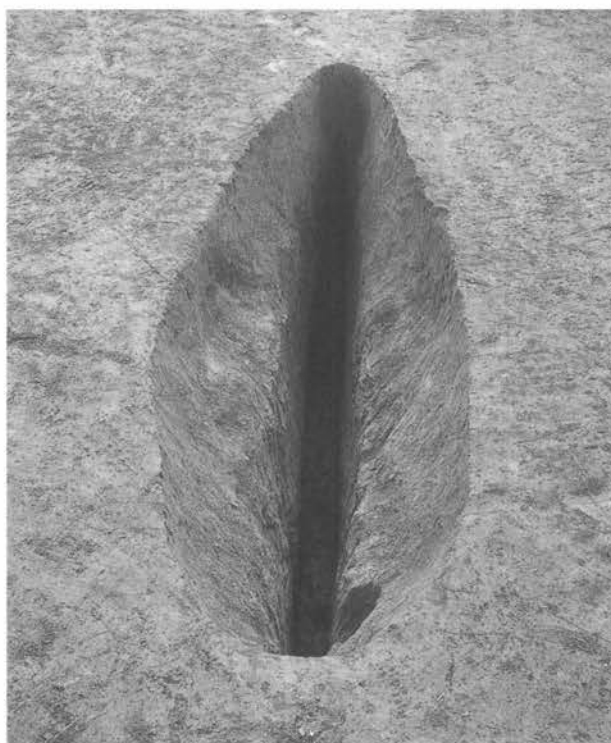
左：001 (陥穴)
右：004 (陥穴)



左：003 (陥穴)
右：002 (陥穴)



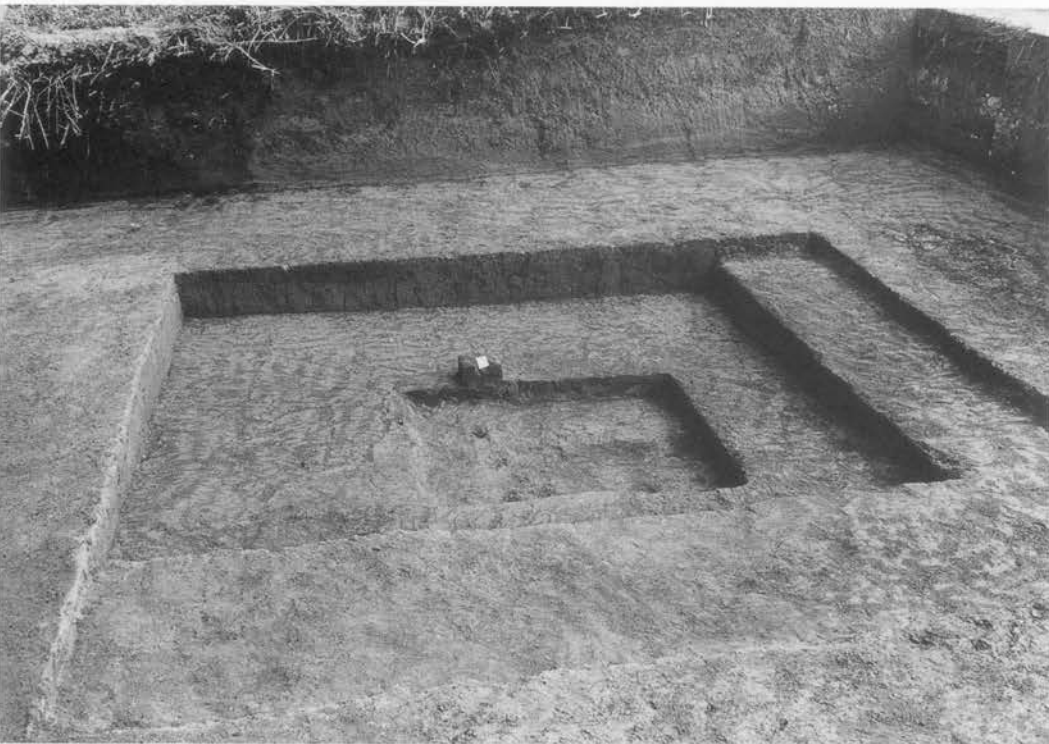
左：005 (陥穴)
右：006 (陥穴)



左上：007（陥穴），右上：008（陥穴）
左中：009（陥穴），右中：011（陥穴）
左下：012（陥穴）



旧石器時代遺物集中地点
遺物出土状況



旧石器時代遺物集中地点
遺物出土状況



調査風景



調査前風景



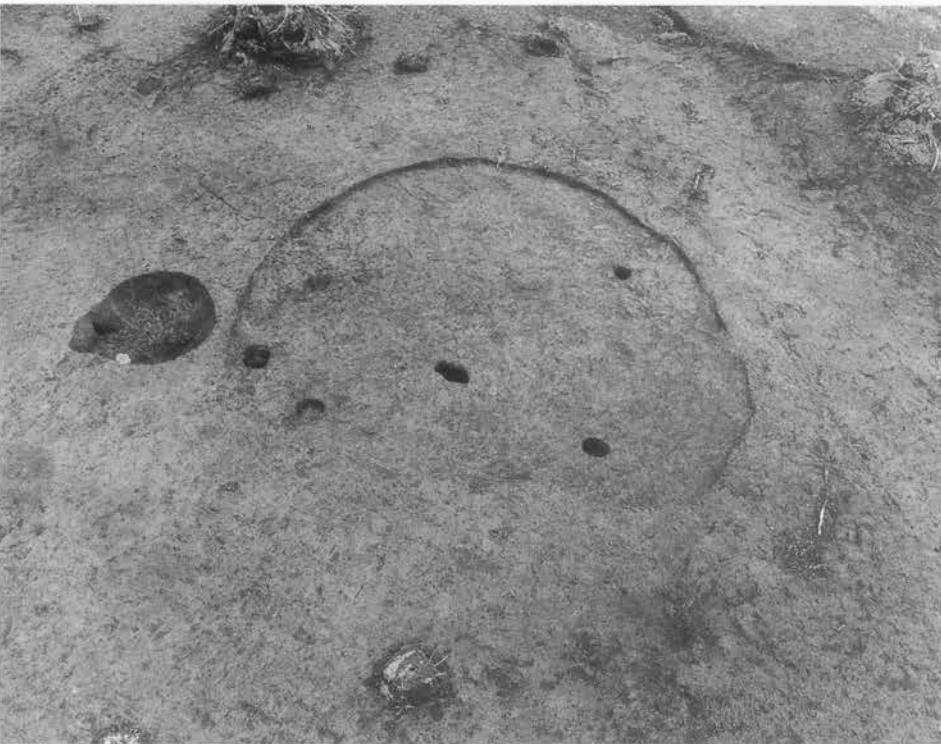
調査前風景



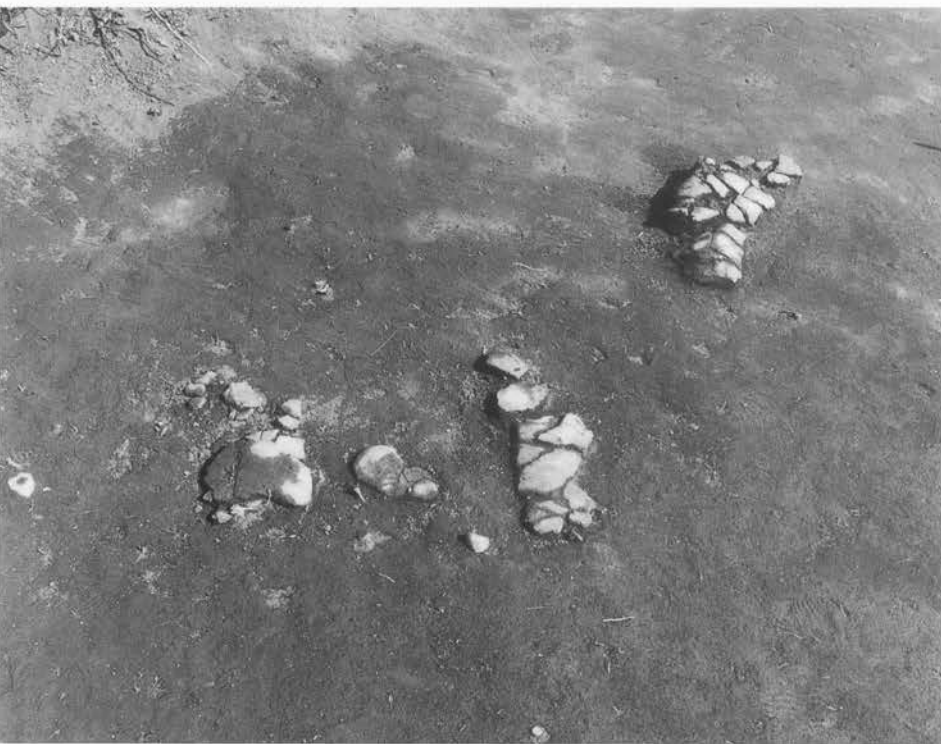
調査遠景



縄文時代包含層
遺物出土状況



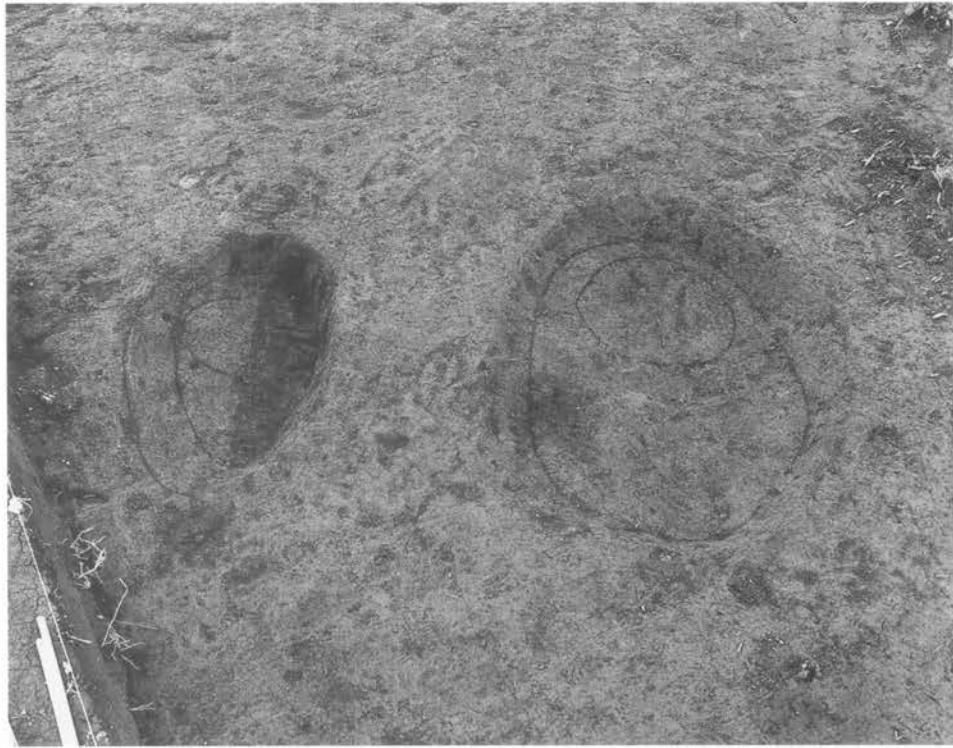
033 (竪穴住居跡)



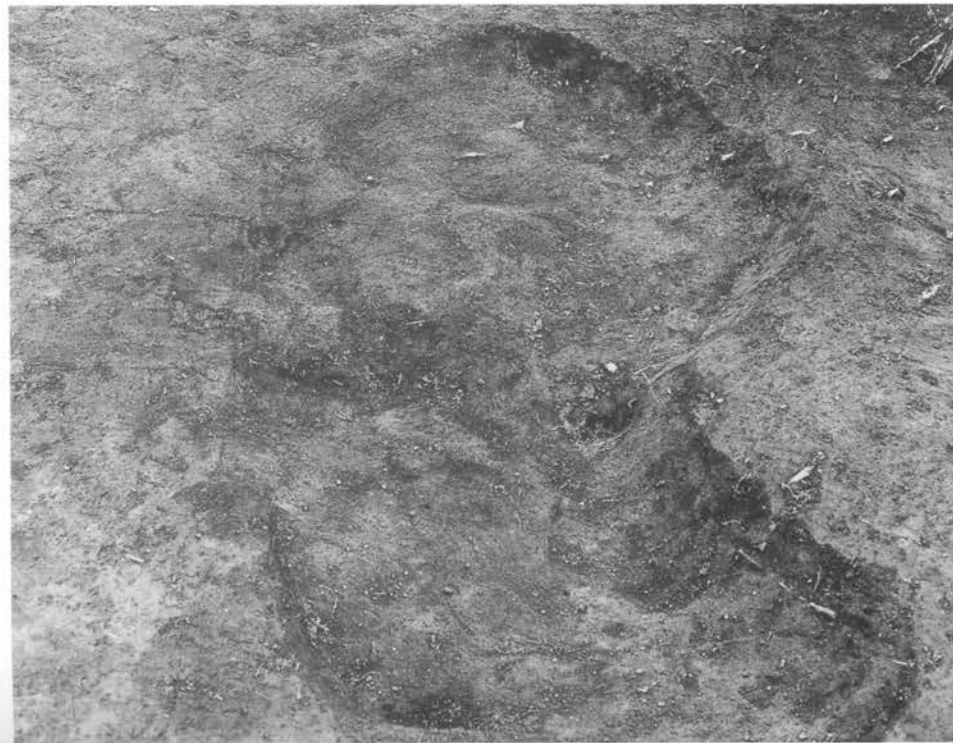
033 (竪穴住居跡)
遺物出土状況



005 (炉穴)



左：006 (炉穴)
右：025 (炉穴)



007 (炉穴)



012 (炉穴)



019 (炉穴)



021 (炉穴)



024 (炬穴)



031 (炬穴)



032 (炬穴)



043 (炬穴)



057 (炬穴)



058 (炬穴)



201 (炉穴)



202 (炉穴)



203 (炉穴)



左：205 (陥穴)
右：206 (炬穴)



左：213 (炬穴)
右：028 (陥穴)



左：040 (陥穴)
右：046 (陥穴)



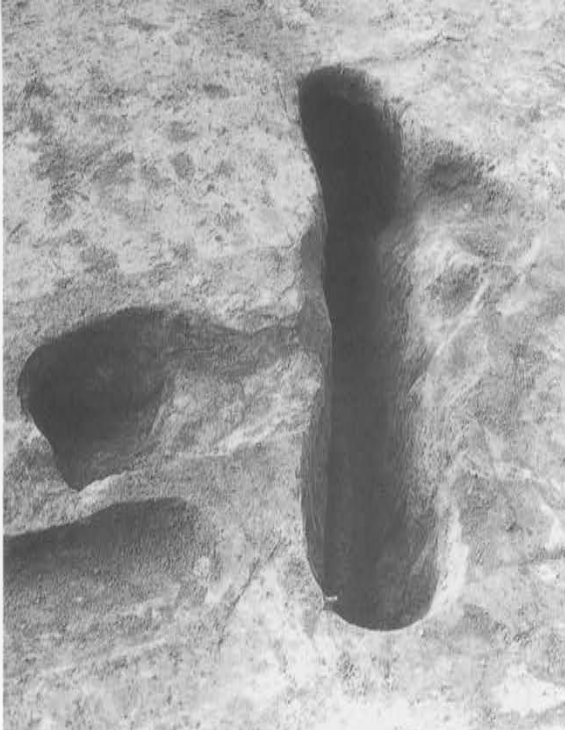
左：054 (陥穴)
右：050 (陥穴)



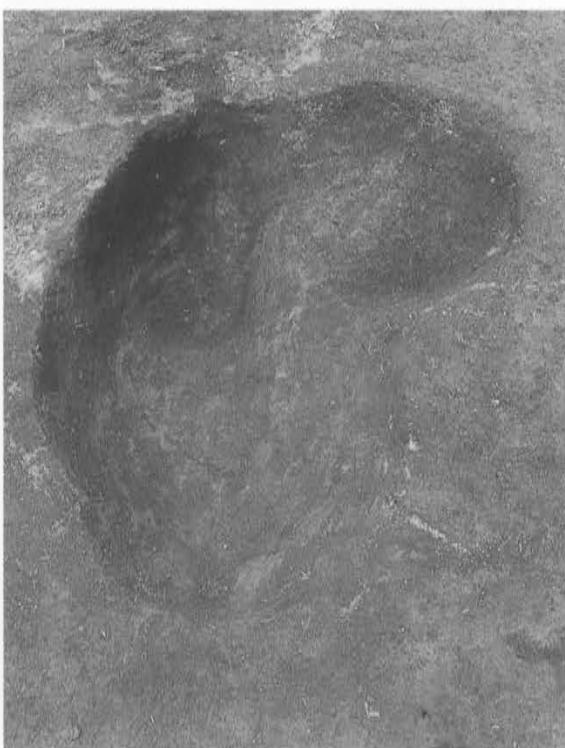
左：055 (陥穴)
右：051 (陥穴)



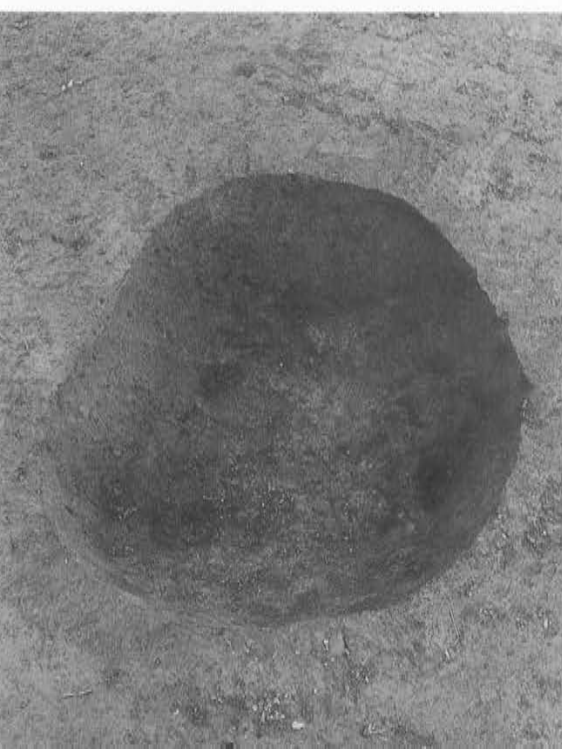
左：056 (陥穴)
右：053 (陥穴)



左：059 (陥穴)
右：207 (陥穴)



左：204 (陥穴)
右：030 (土坑)



左：026 (土坑)
右：036 (土坑)



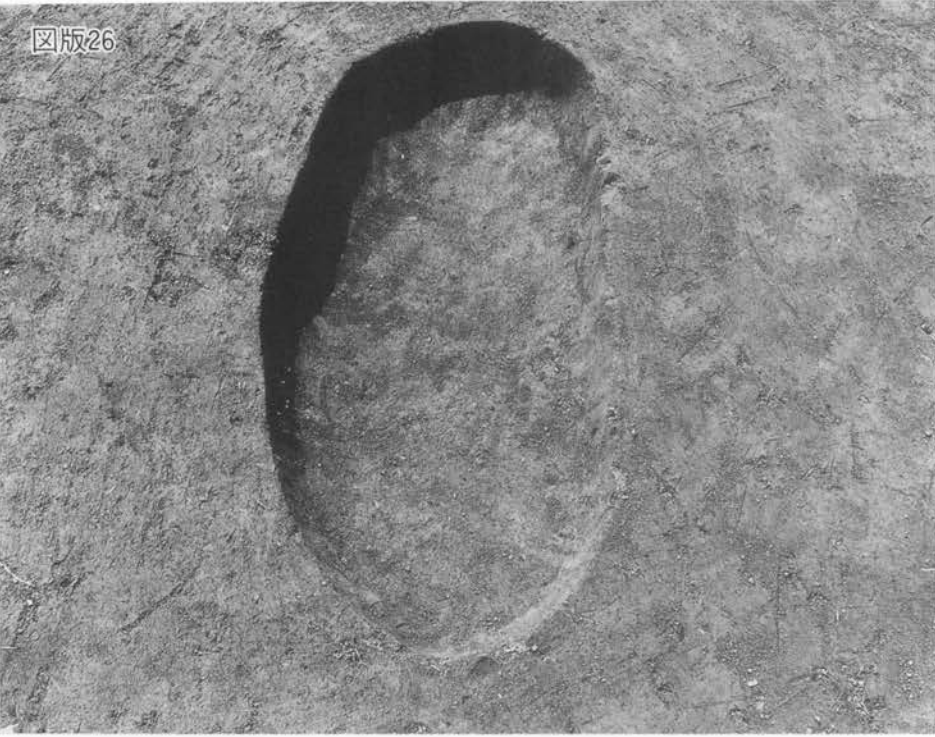
左：039 (土坑)
右：045 (土坑)



左：041 (土坑)
右：047 (土坑)



左：044 (土坑)
右：048 (土坑)



049 (土坑)



027 (溝状遺構)



052 (溝状遺構)



下層基本層序(1)
(8 K-32・42西面)



下層基本層序(2)
(9 L-45東面)



旧石器時代遺物集中地点
(8 F-77グリッド)



旧石器時代遺物集中地点
(9 F-27グリッド)



旧石器時代遺物集中地点
(9 G-27グリッド 4群)



旧石器時代遺物集中地点
(9 G-27グリッド 2群)



旧石器時代遺物集中地点
(8 L-72グリッド)



旧石器時代遺物集中地点
(9 Mグリッド)



旧石器時代遺物集中地点
(10 Nグリッド)



上層確認状況



旧石器時代遺物集中地点
(2 G-02グリッド)



旧石器時代遺物集中地点
(5 G-98グリッド)



調査前風景



001・002 (炉穴)



009 (炉穴)



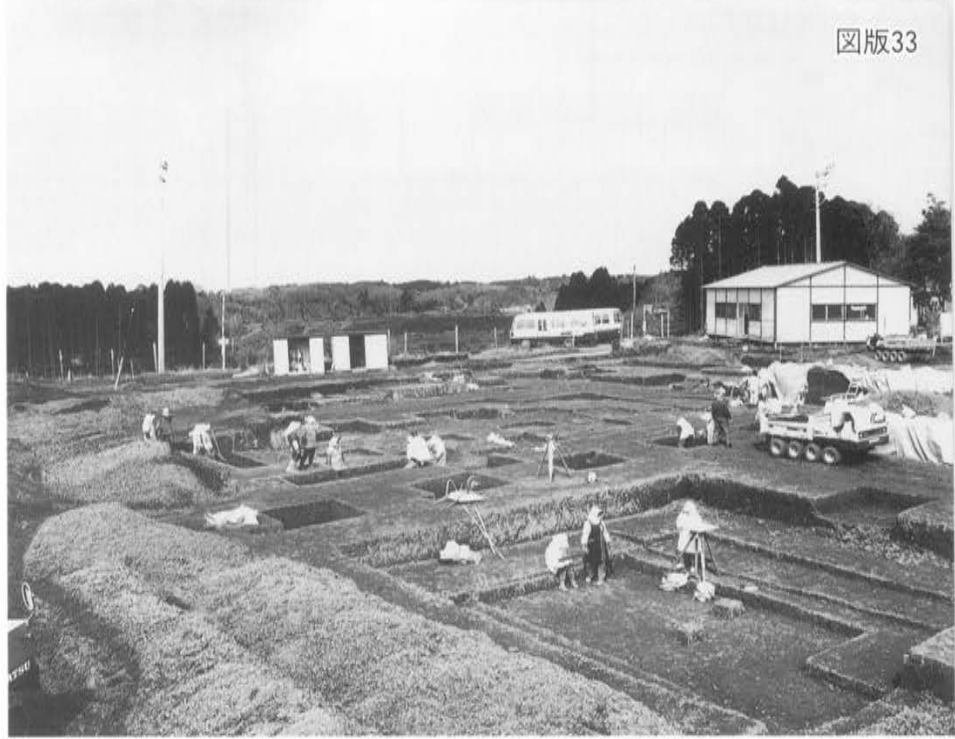
左：003 (炉穴)
右：004 (炉穴)



左：010 (炉穴)
右：012 (炉穴)



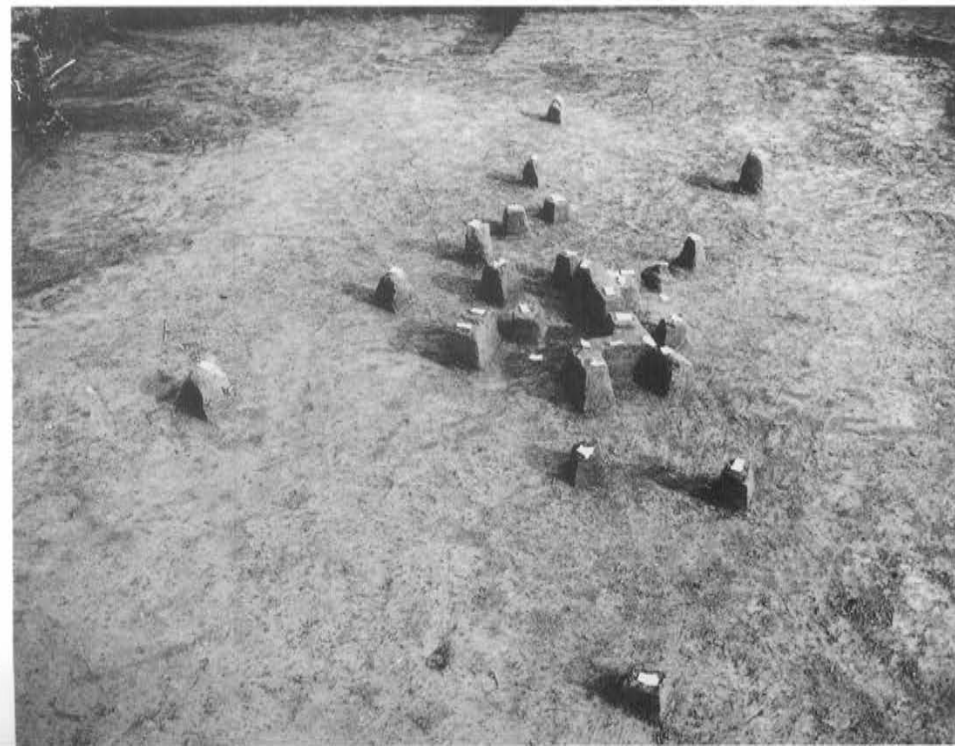
左：006 (炉穴)
右：006 (炉穴)



調査風景



旧石器時代遺物集中地点
(Bブロック)



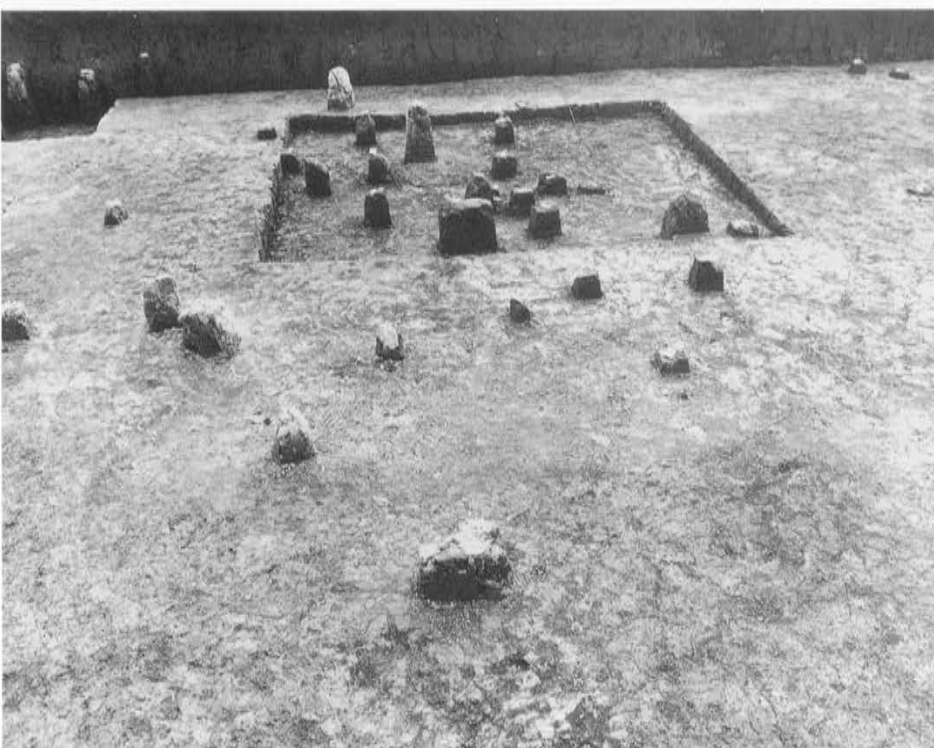
旧石器時代遺物集中地点
(Bブロック)



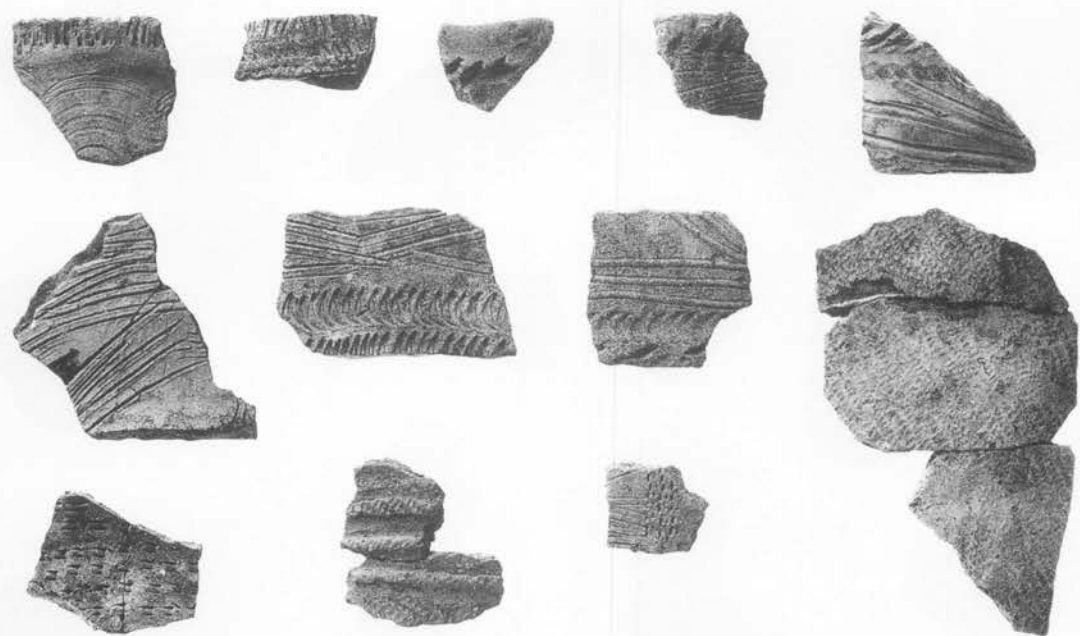
旧石器時代遺物集中地点
(C1・C2ブロック)



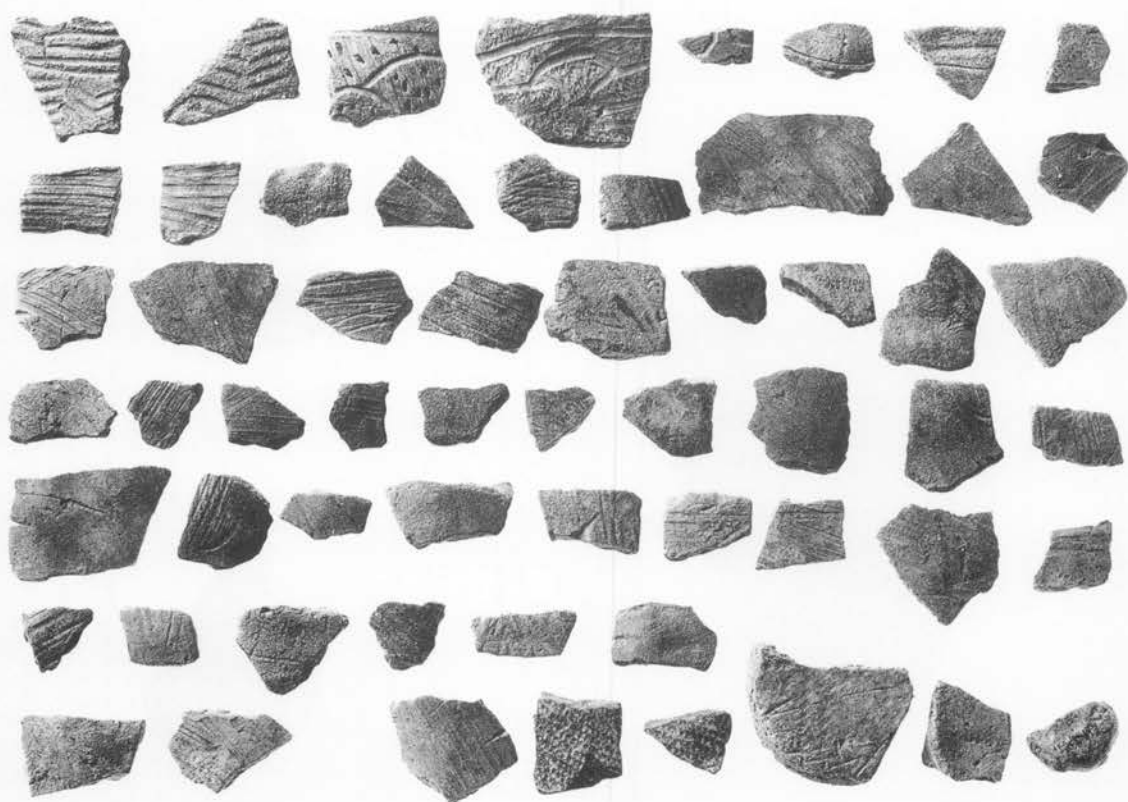
旧石器時代遺物集中地点
(C1ブロック)



旧石器時代遺物集中地点
(C2ブロック)

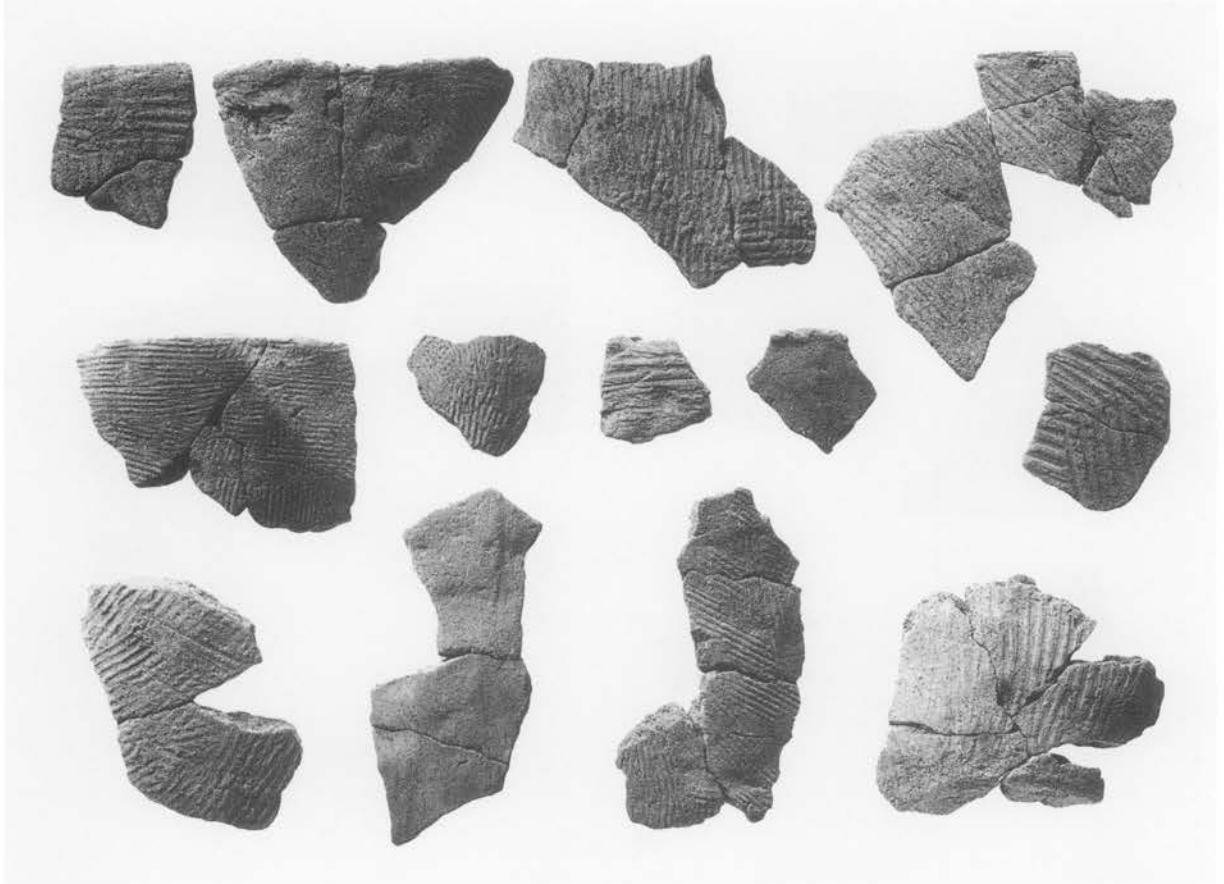


縄文土器



弥生土器

百目木遺跡



縄文土器 (1)



縄文土器 (2)



(表)



(裏)

縄文時代石器

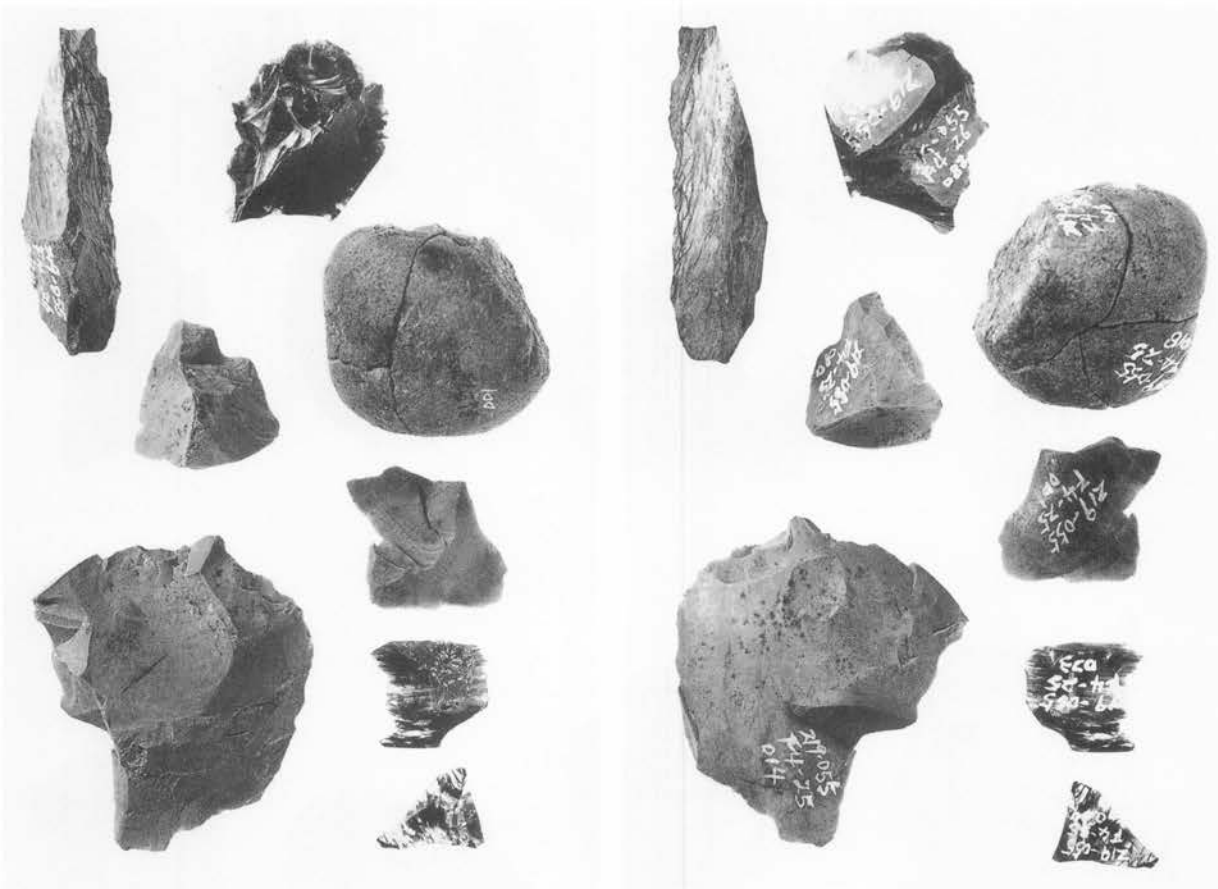
下椎木遺跡



旧石器時代石器（4Cブロック）



縄文土器

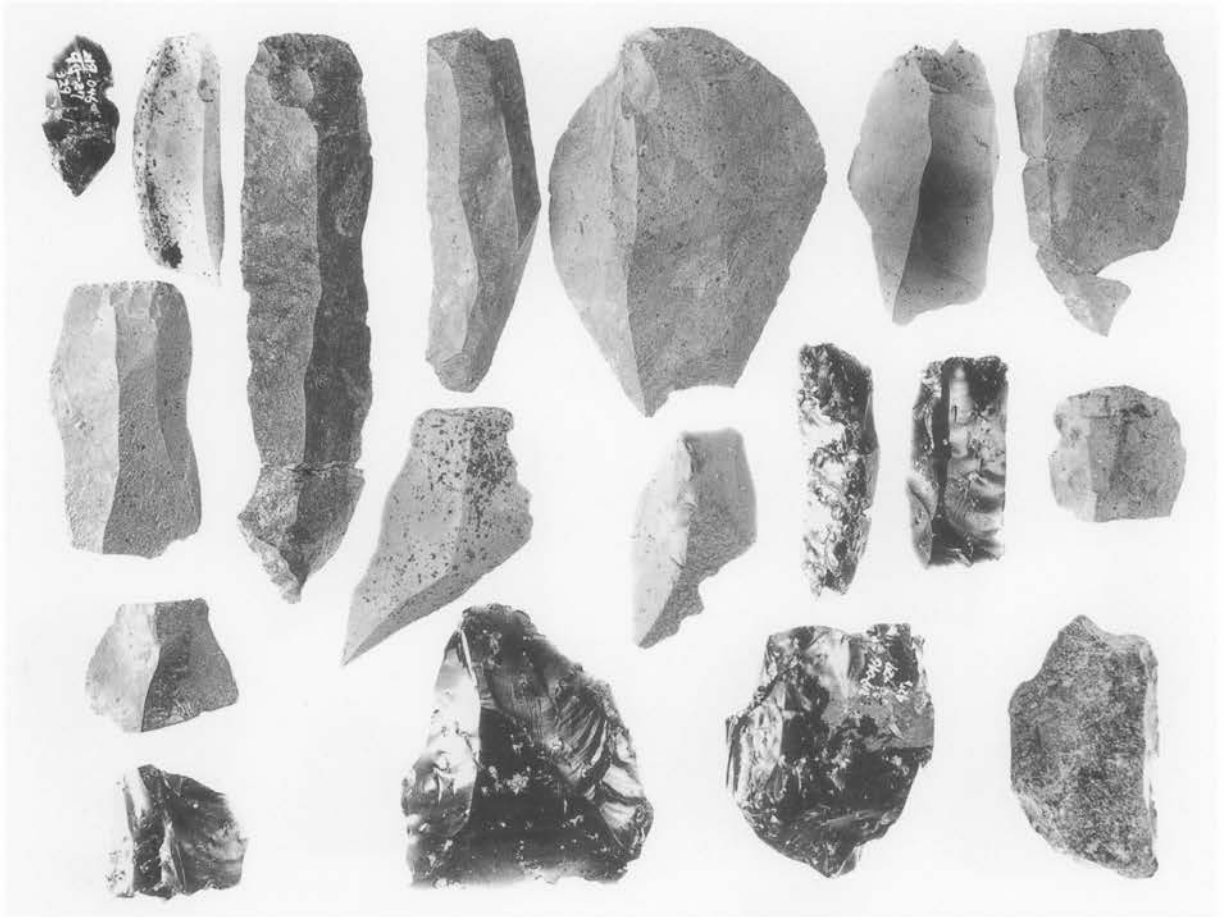


旧石器時代石器 (第1ブロック)



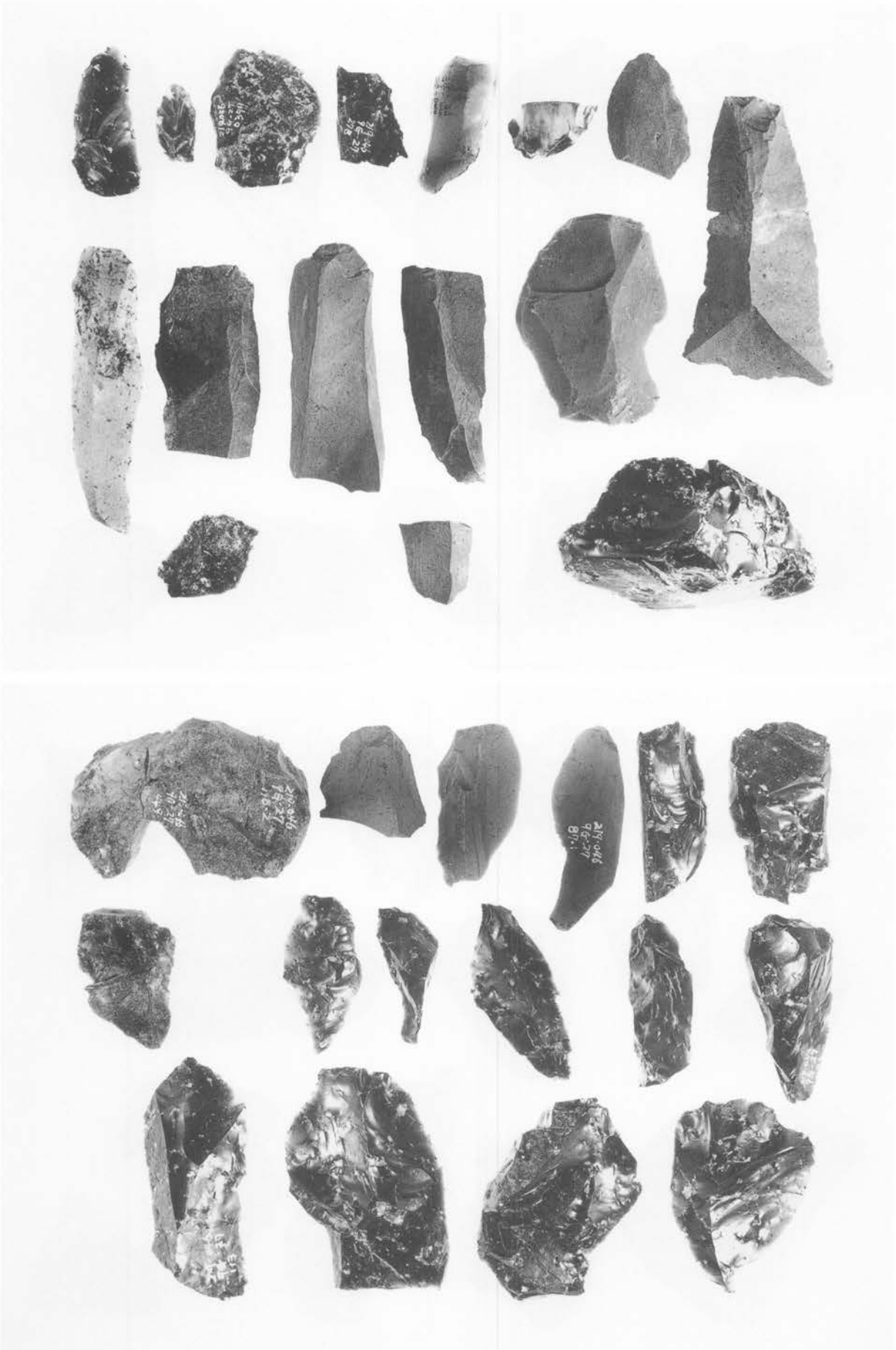
旧石器時代石器 (ブロック外)

ヤジ山遺跡



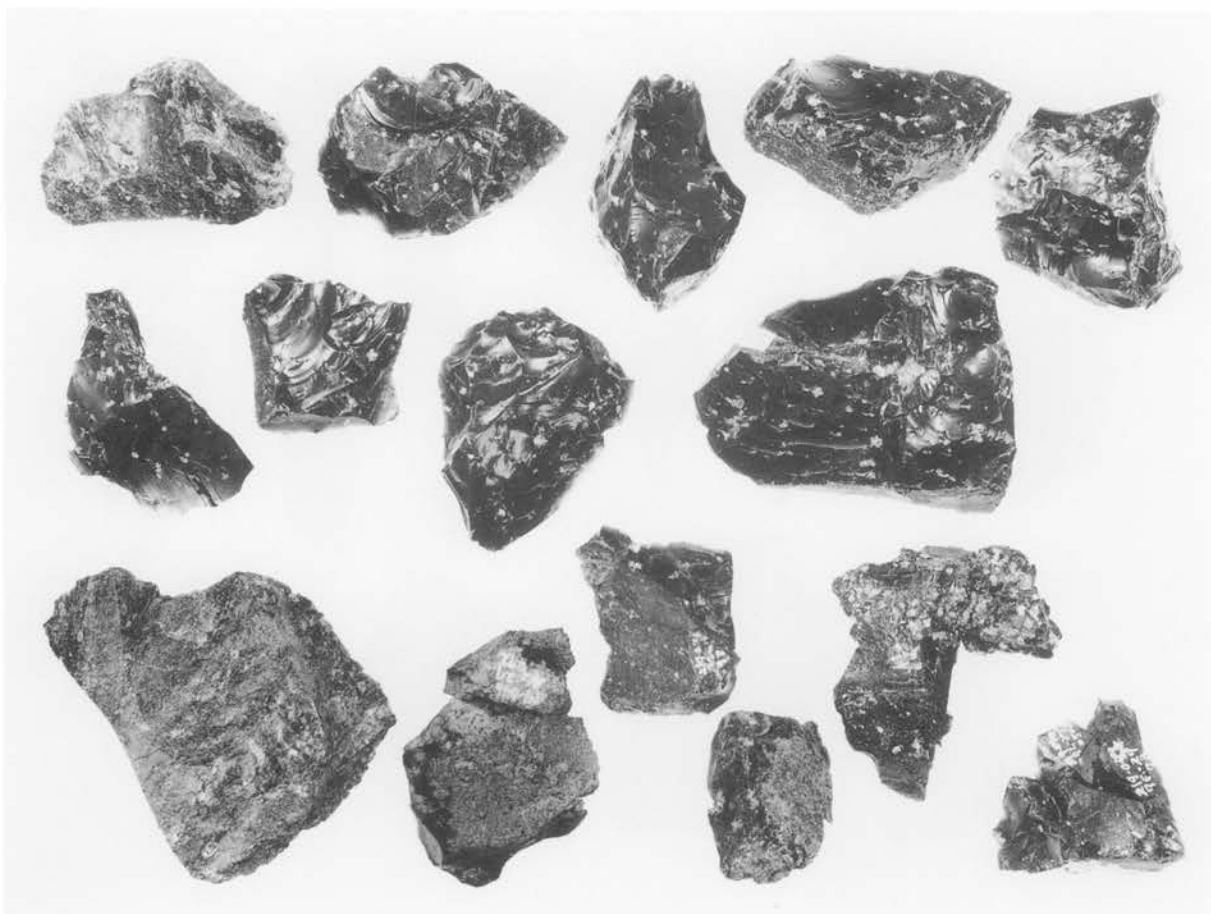
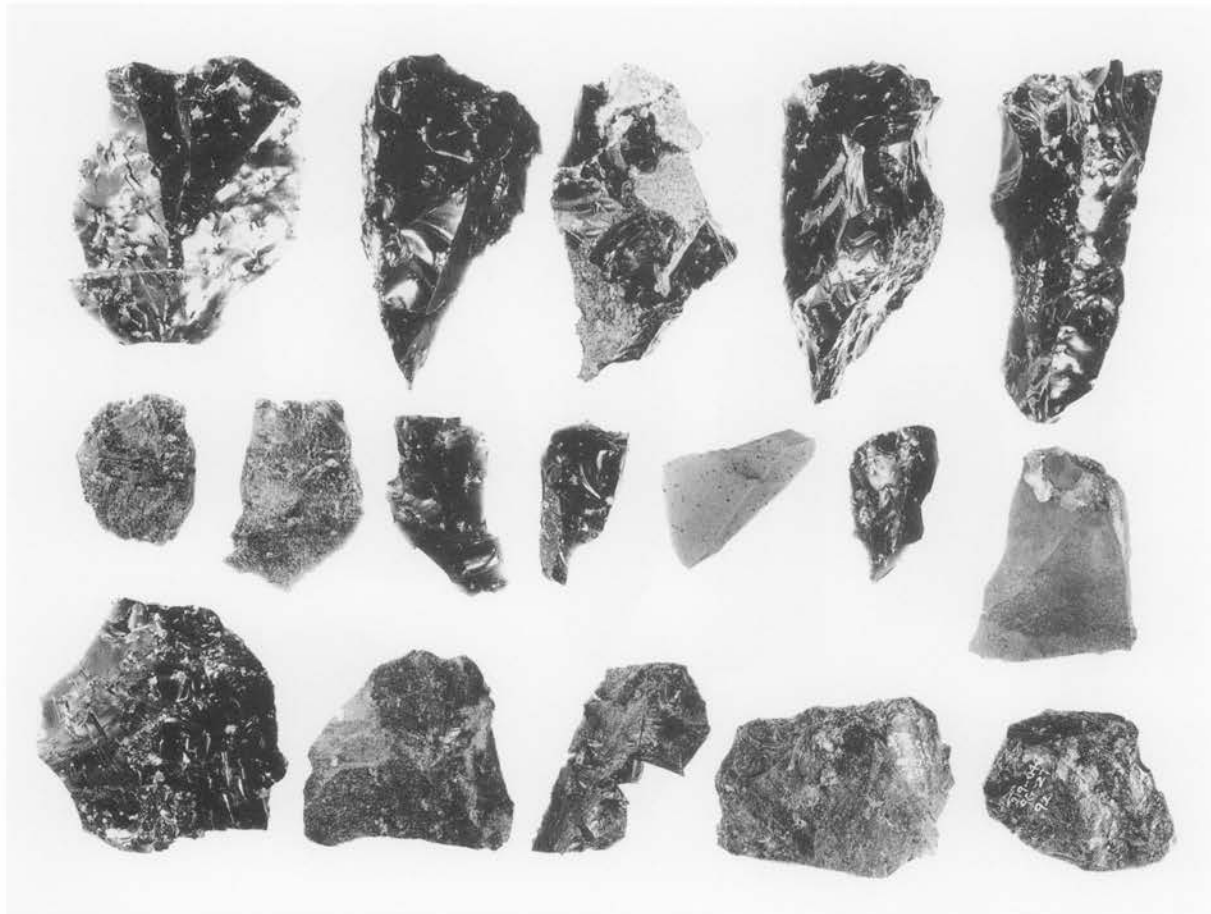
旧石器時代石器 (Aブロック)

ヤジ山遺跡



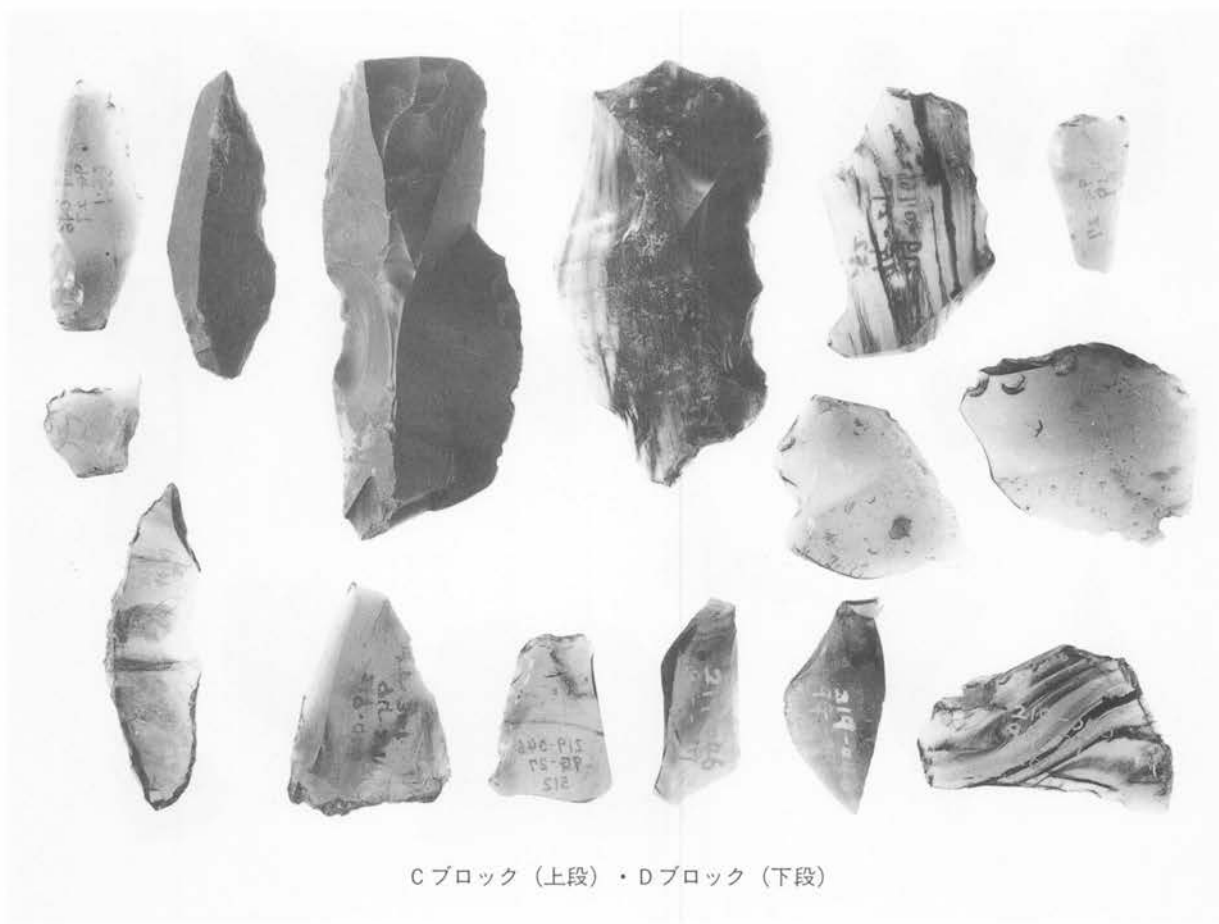
旧石器時代石器 (Bブロック)

ヤジ山遺跡

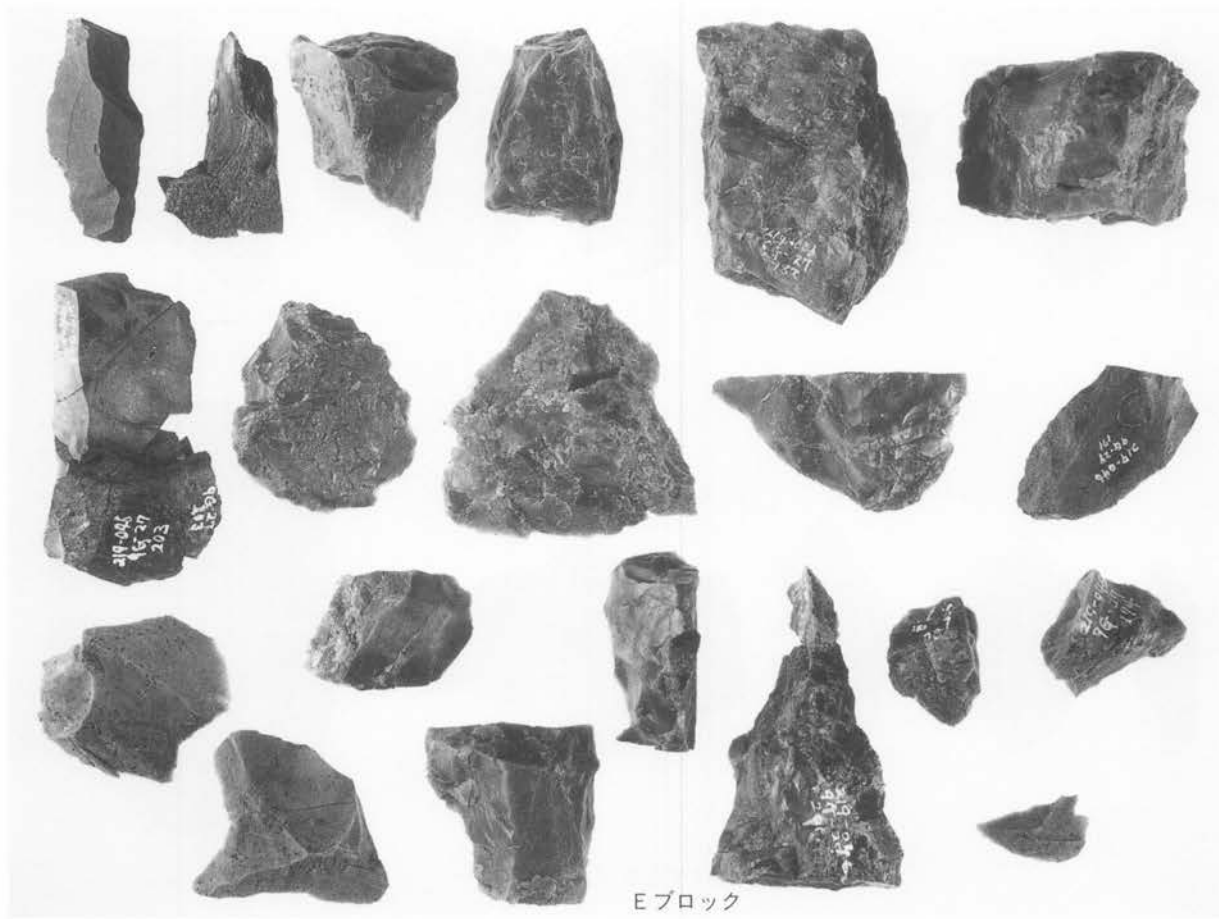


旧石器時代石器 (Bブロック)

ヤジ山遺跡



Cブロック (上段) ・ Dブロック (下段)



Eブロック

旧石器時代石器 (C・D・Eブロック)

ヤジ山遺跡



9 Fブロック



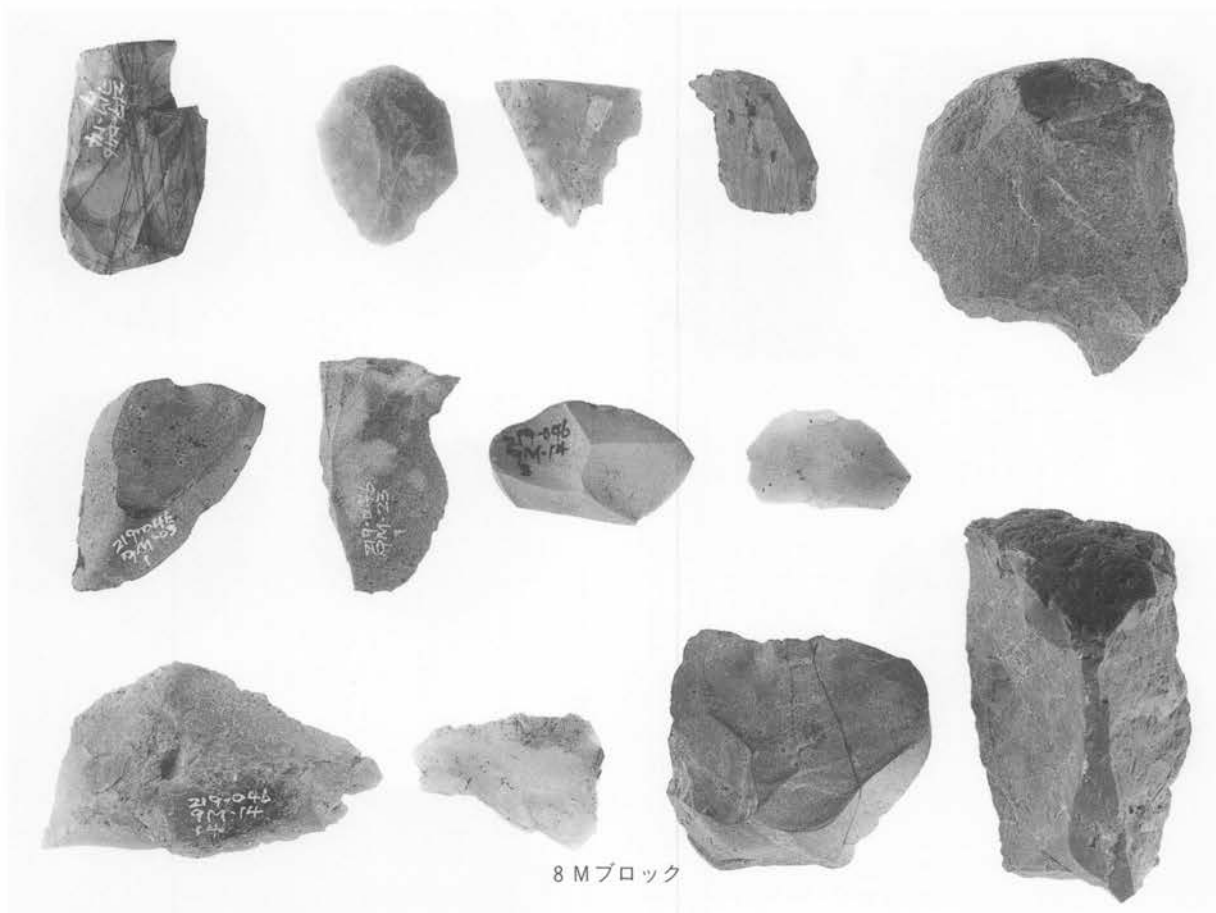
第1文化層ブロック外



第2文化層ブロック外

旧石器時代石器 (9 Fブロック, 第1文化層・第2文化層ブロック外)

ヤジ山遺跡



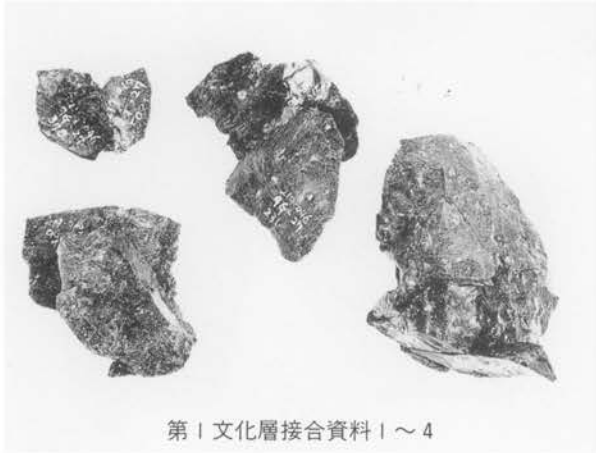
8 Mブロック



8 Lブロック

旧石器時代石器 (8M・8Lブロック)

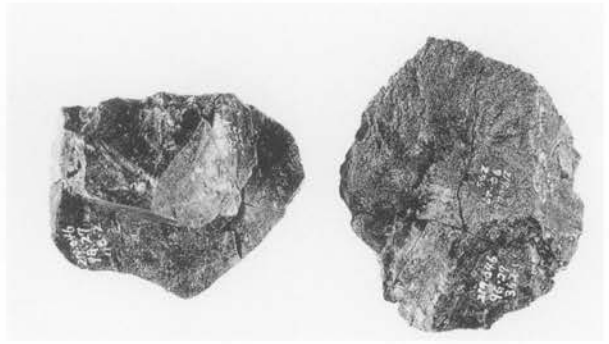
ヤジ山遺跡



第I文化層接合資料1～4



第I文化層接合資料7～9

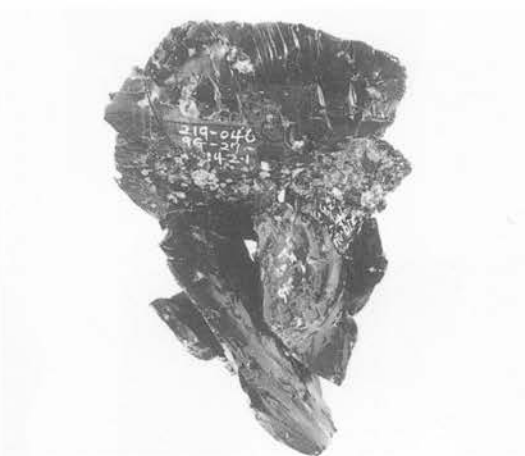
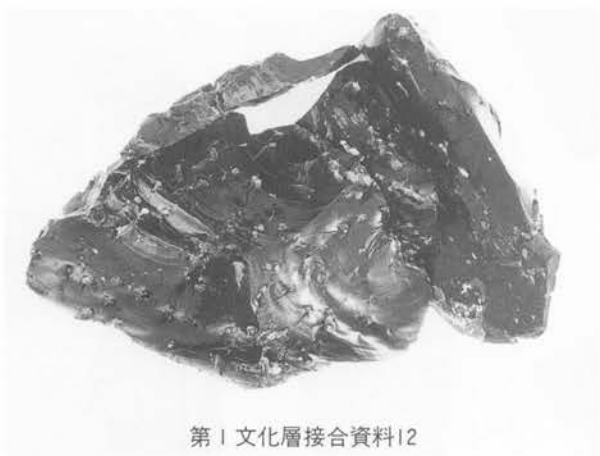
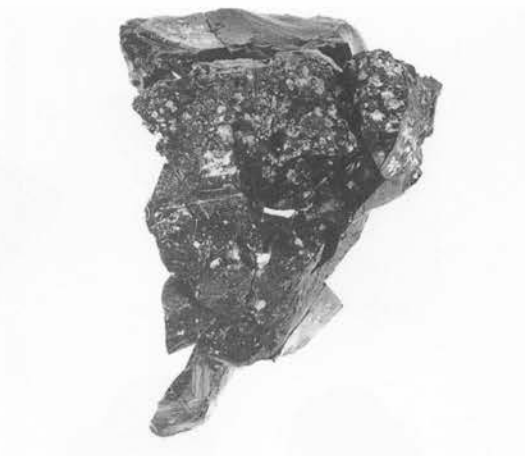


第I文化層接合資料5・6



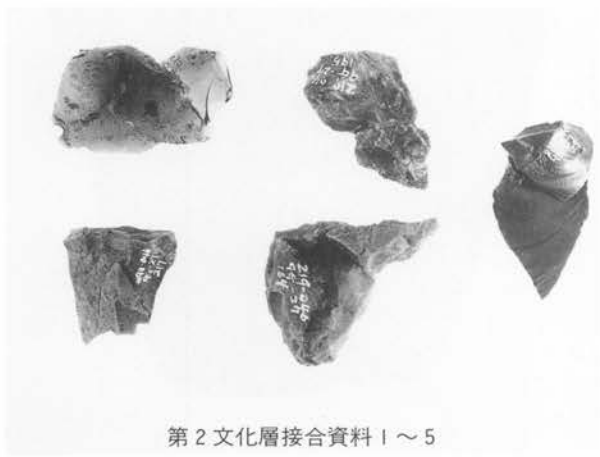
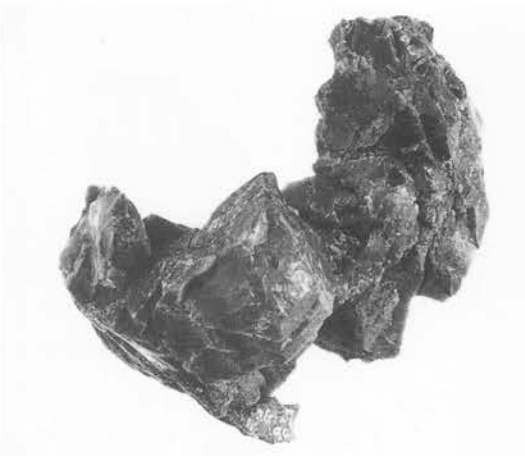
第I文化層接合資料10

ヤジ山遺跡



第1文化層接合資料11

第1文化層接合資料12

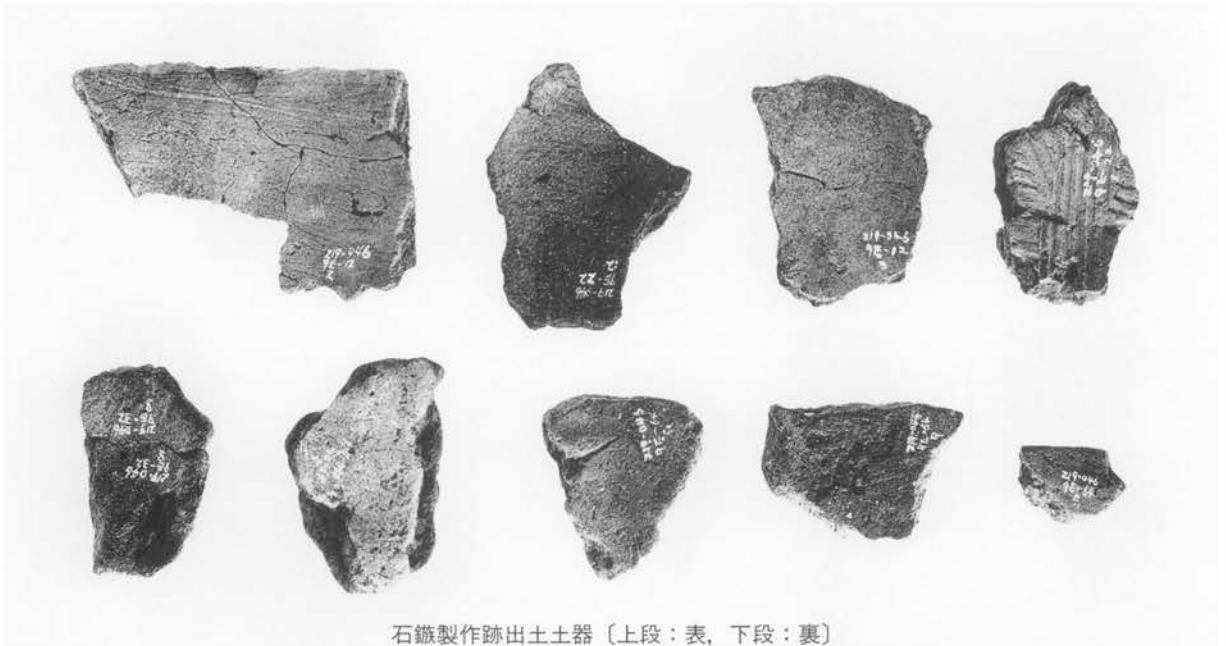


第2文化層接合資料6

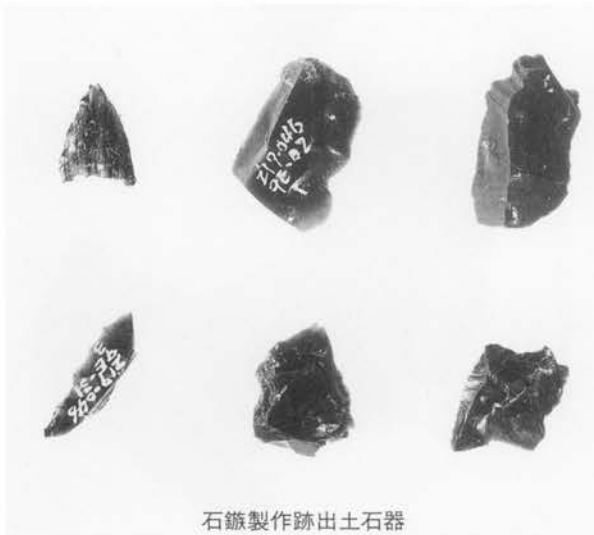
第2文化層接合資料1～5

旧石器時代石器 (接合資料(2))

ヤジ山遺跡



石鏃製作跡出土土器〔上段：表，下段：裏〕

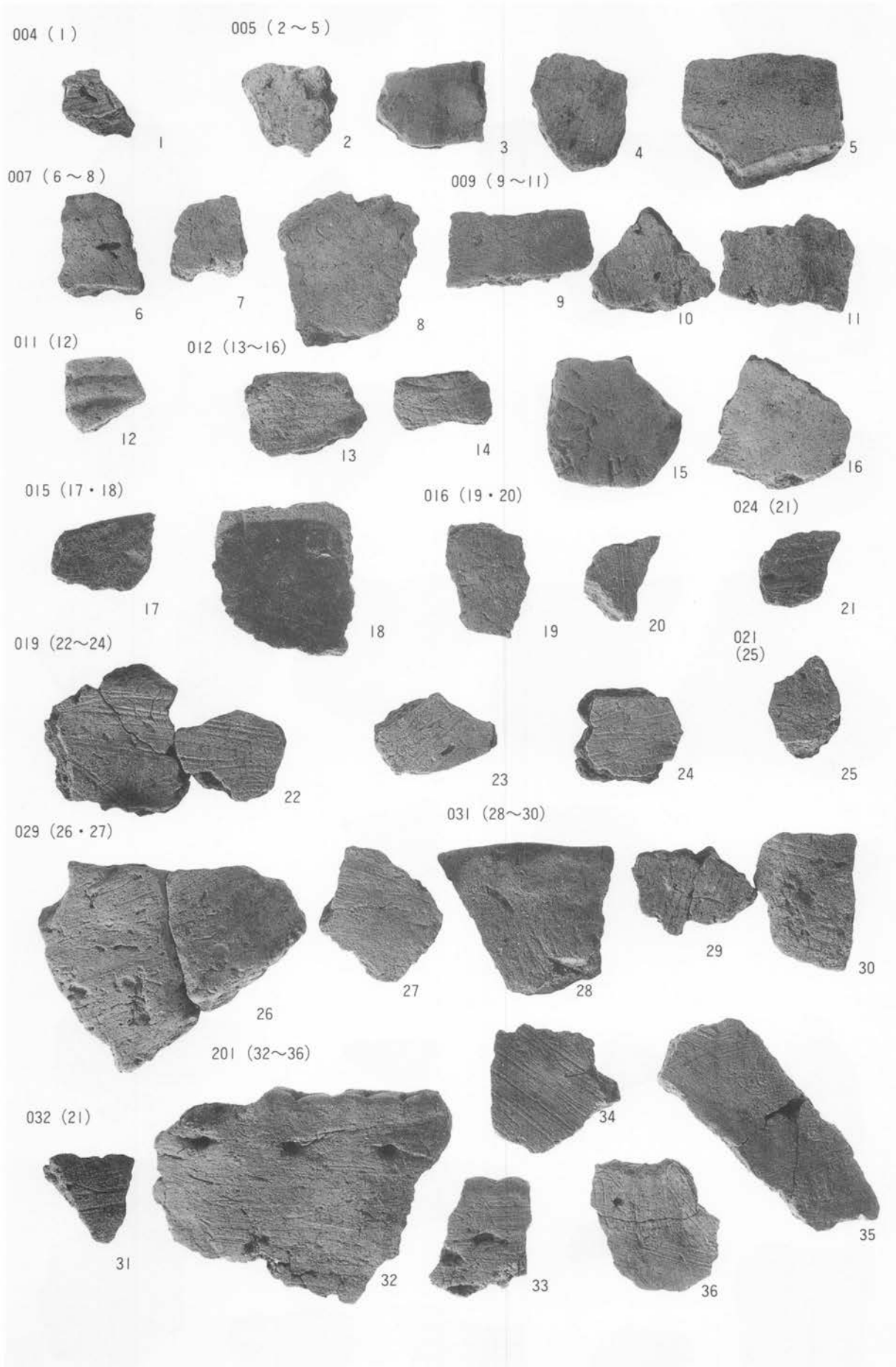


石鏃製作跡出土石器



竪穴住居跡（003号）出土土器

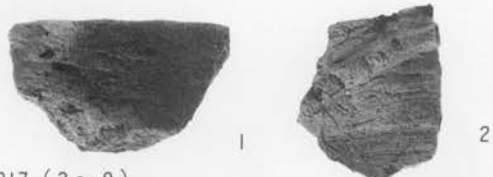
ヤジ山遺跡



遺構内出土遺物(2) (炉穴)

ヤジ山遺跡

003 (1・2)



009 (10~14)



017 (3~9)



018 (15・16)



030 (17~19)



018 (15・16)



045 (22)



0048 (23・24)



207 (2)



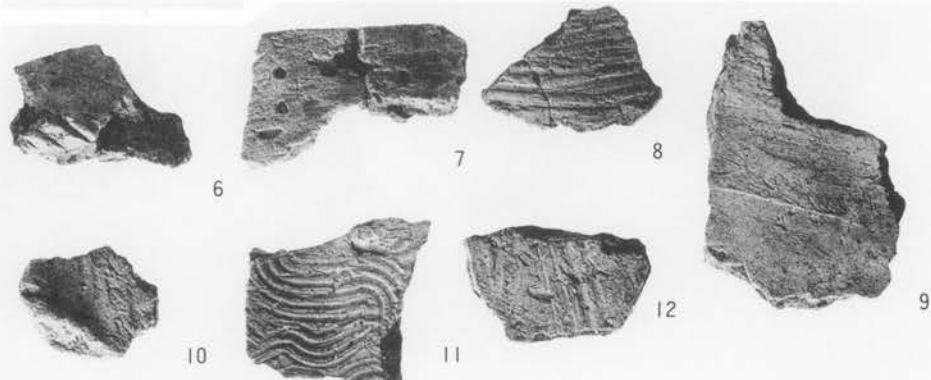
020 (1)



028 (3・4)

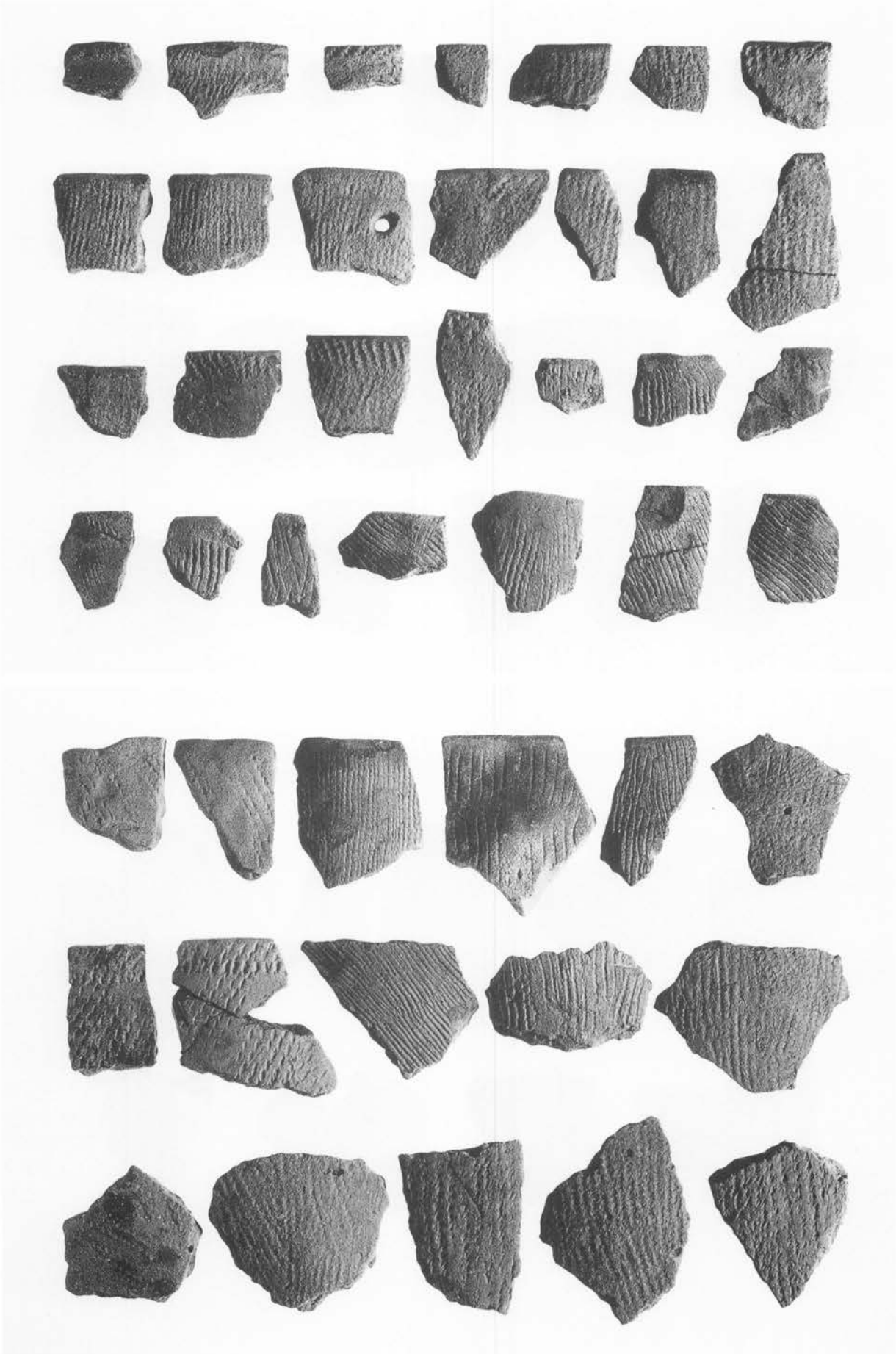


027 (5~12)



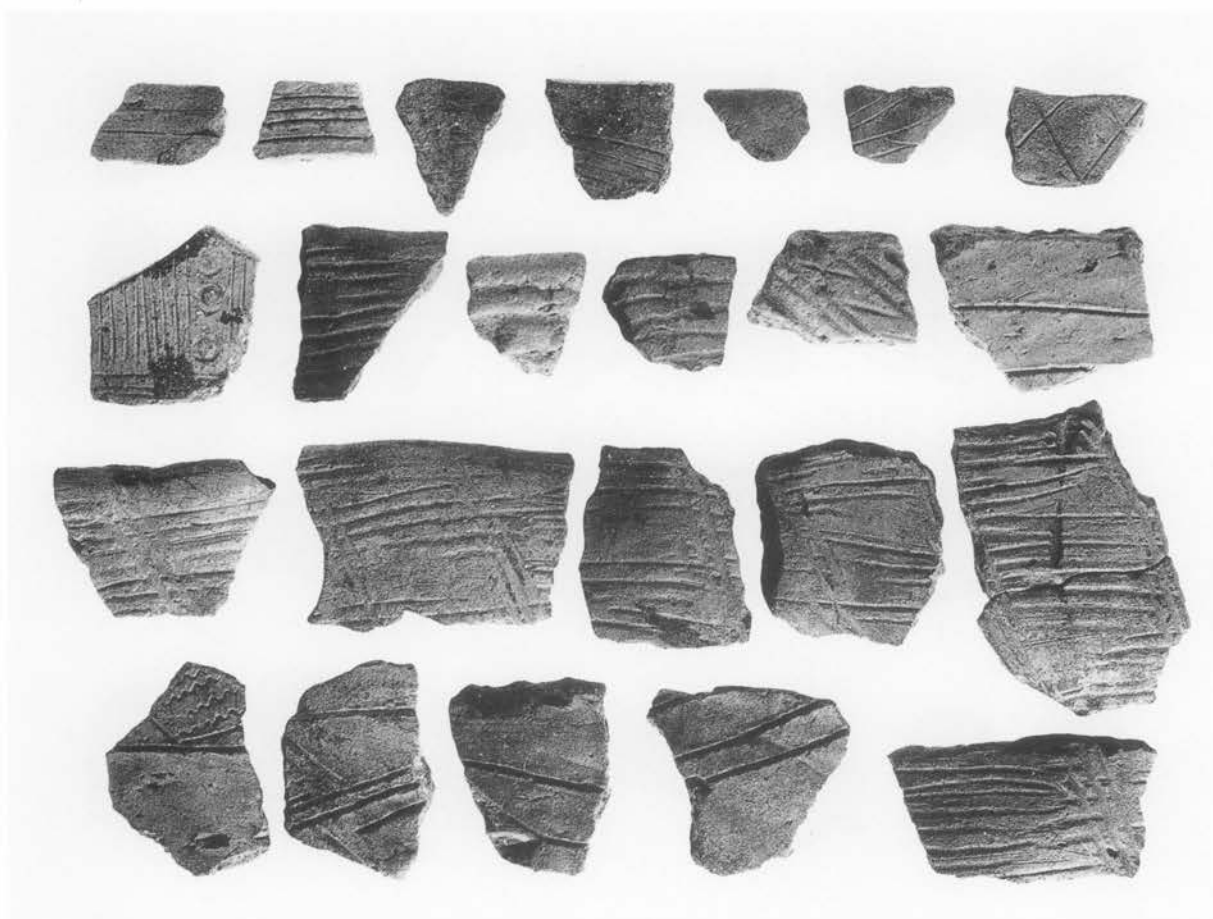
遺構内出土遺物(3) (土坑・陥穴・溝)

ヤジ山遺跡



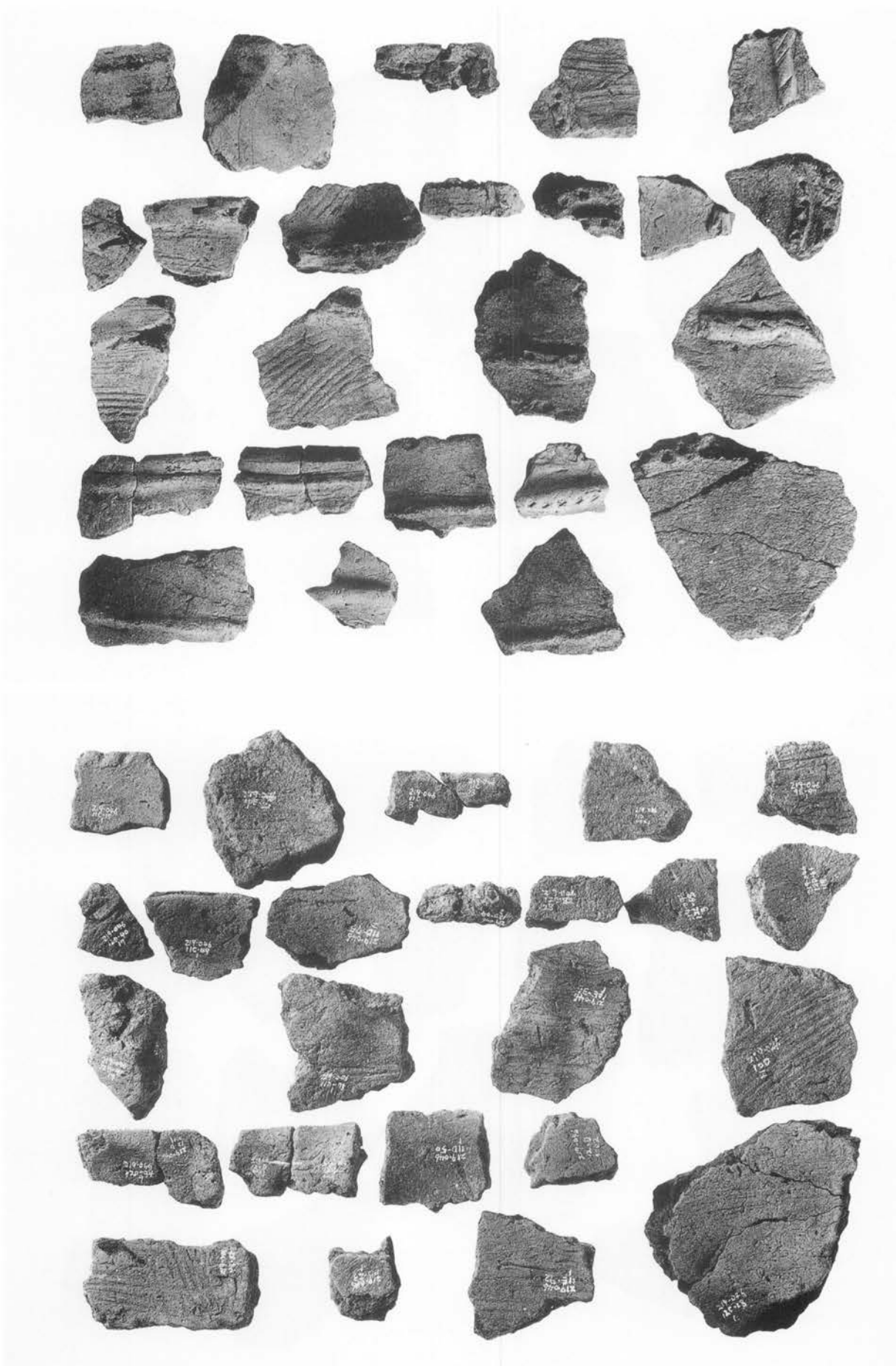
第I群 (捺糸文) 土器

ヤジ山遺跡



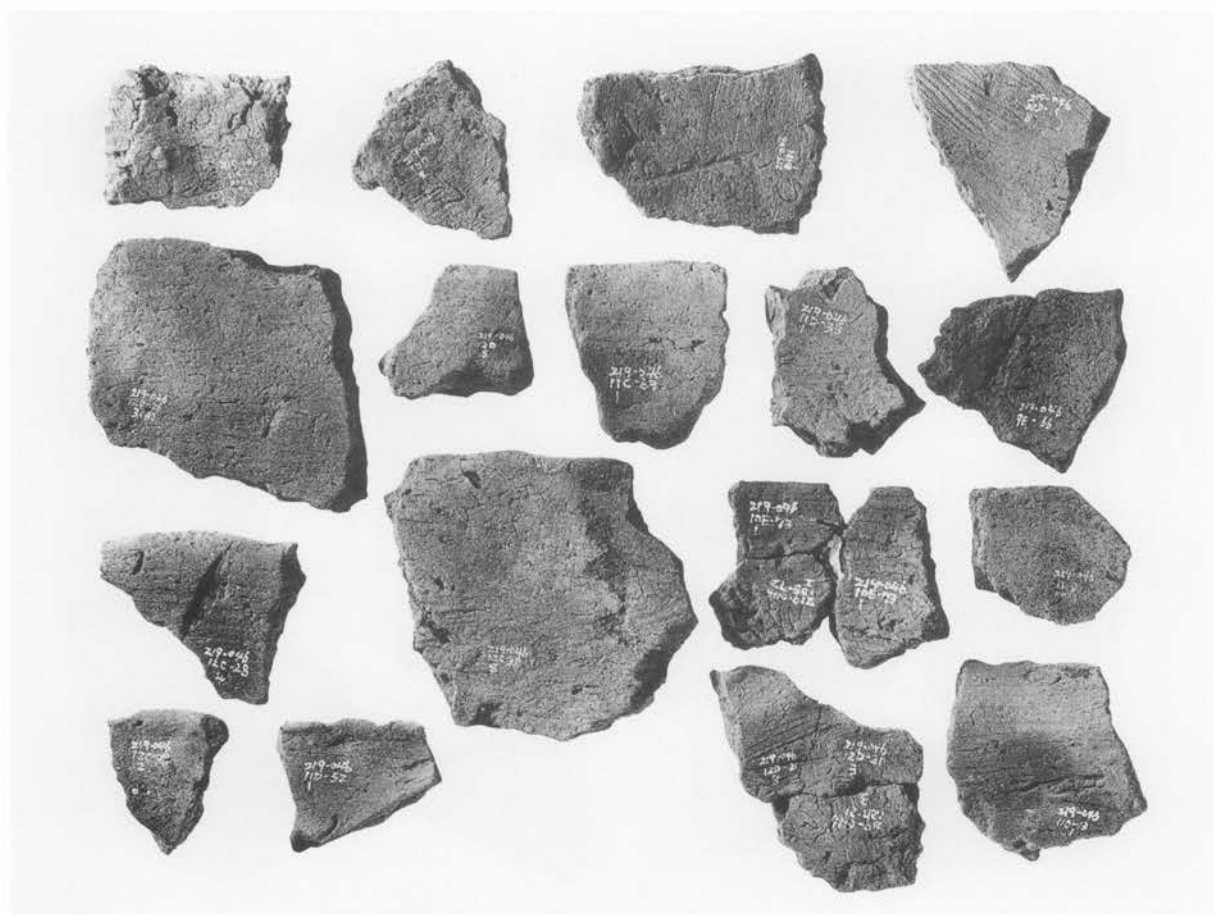
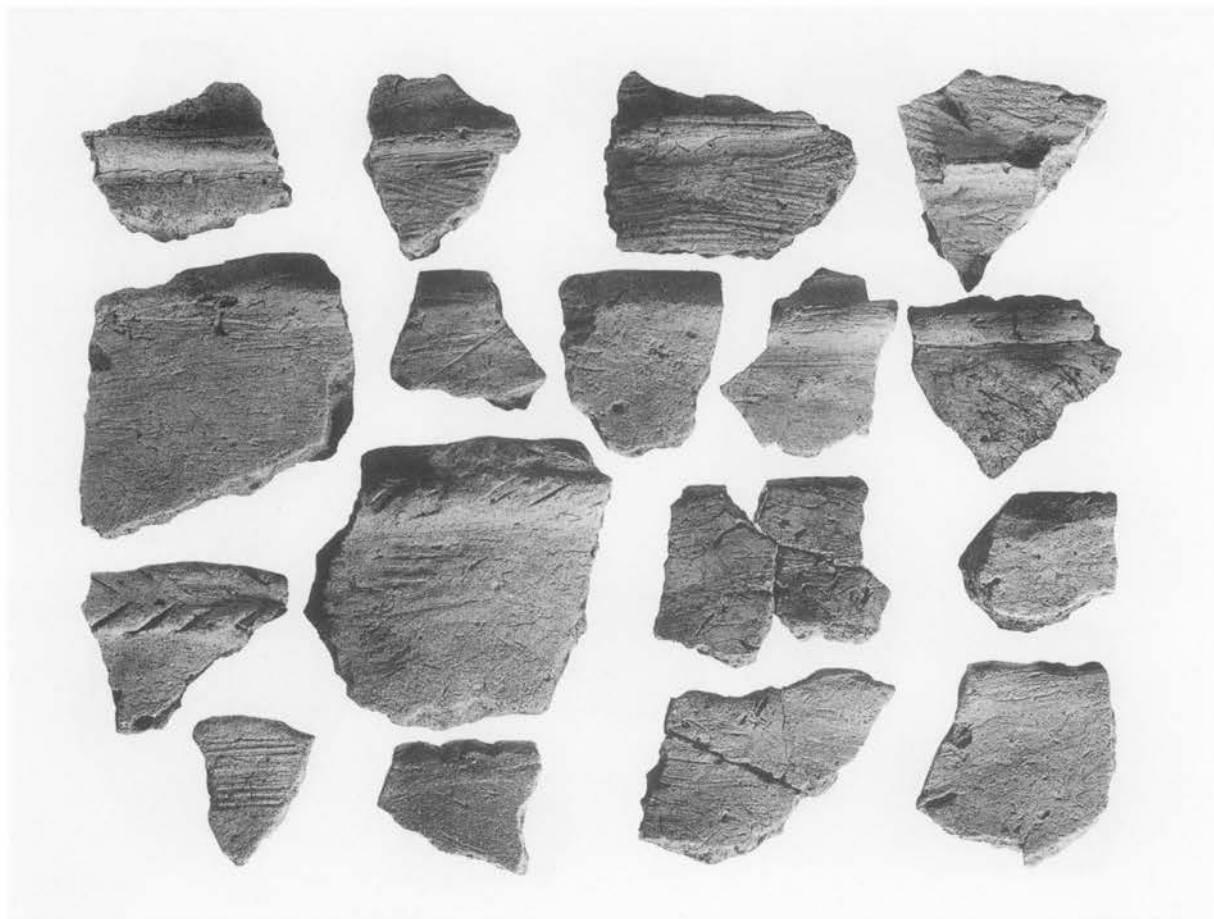
第II群（田戸下層式）土器

ヤジ山遺跡



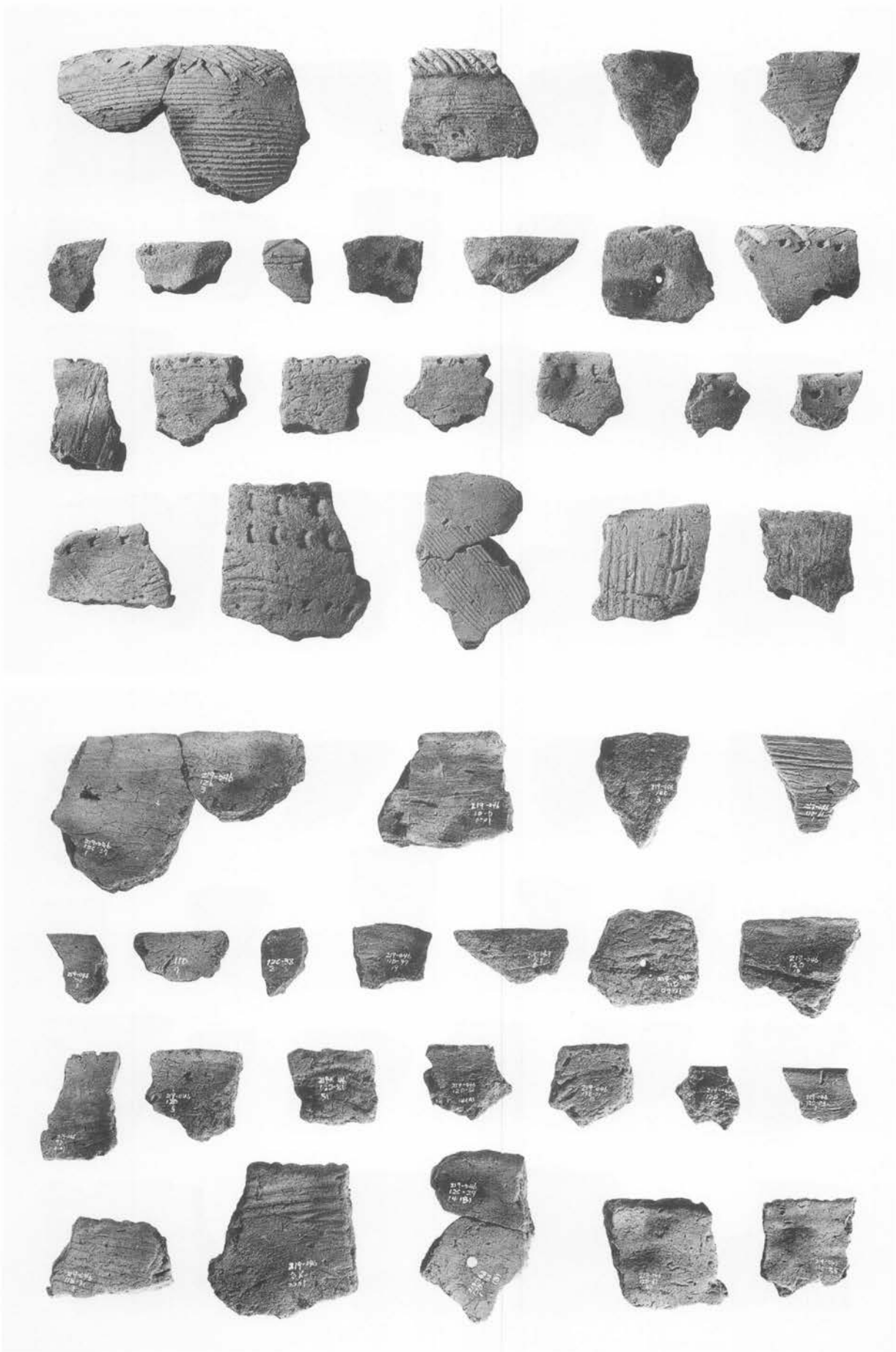
第Ⅲ群 (田戸上層式～子母口式) 1類土器 (1) (上段：表，下段：裏)

ヤジ山遺跡



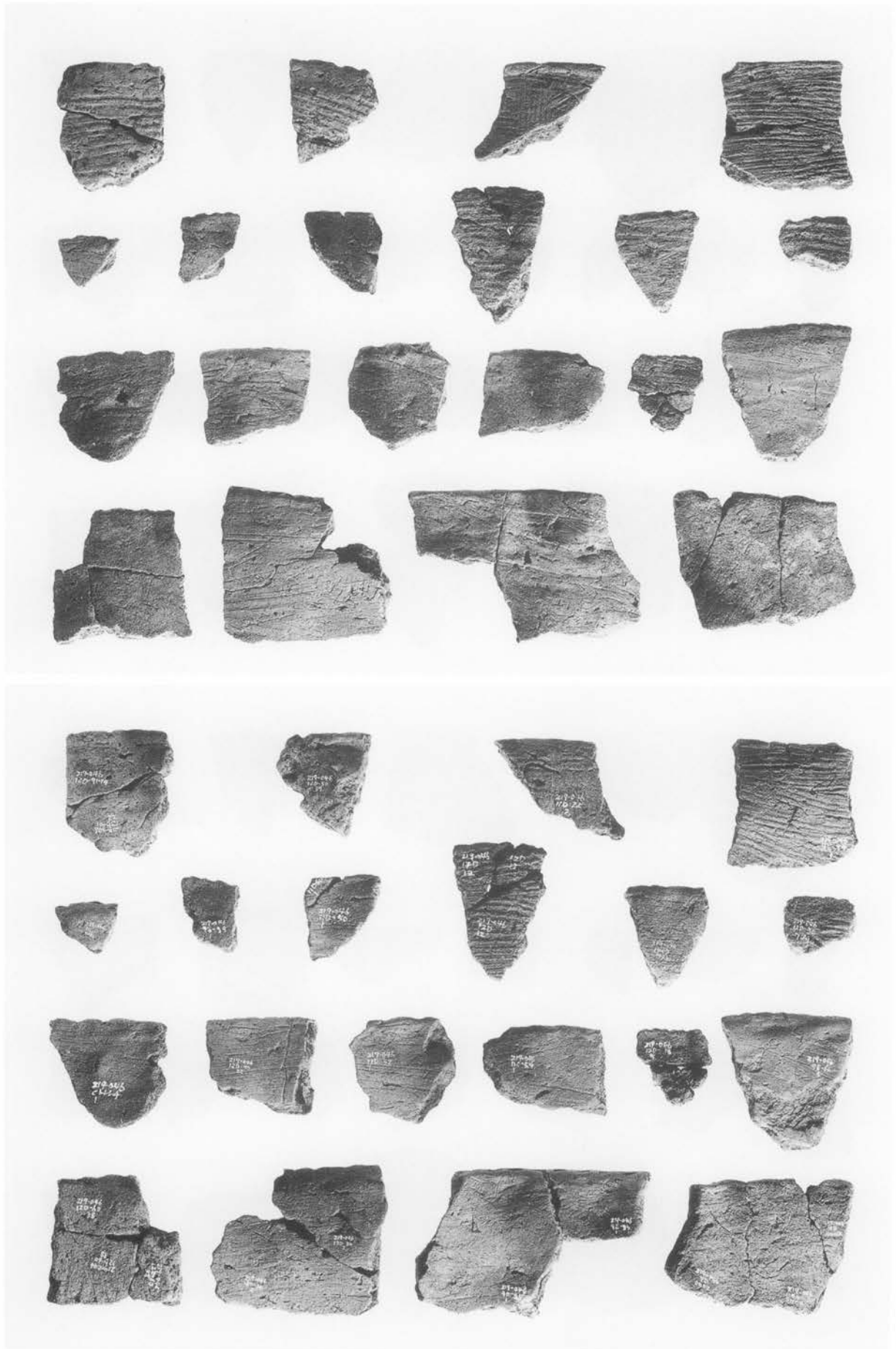
第Ⅲ群1類土器(2)〔上段：表，下段：裏〕

ヤジ山遺跡

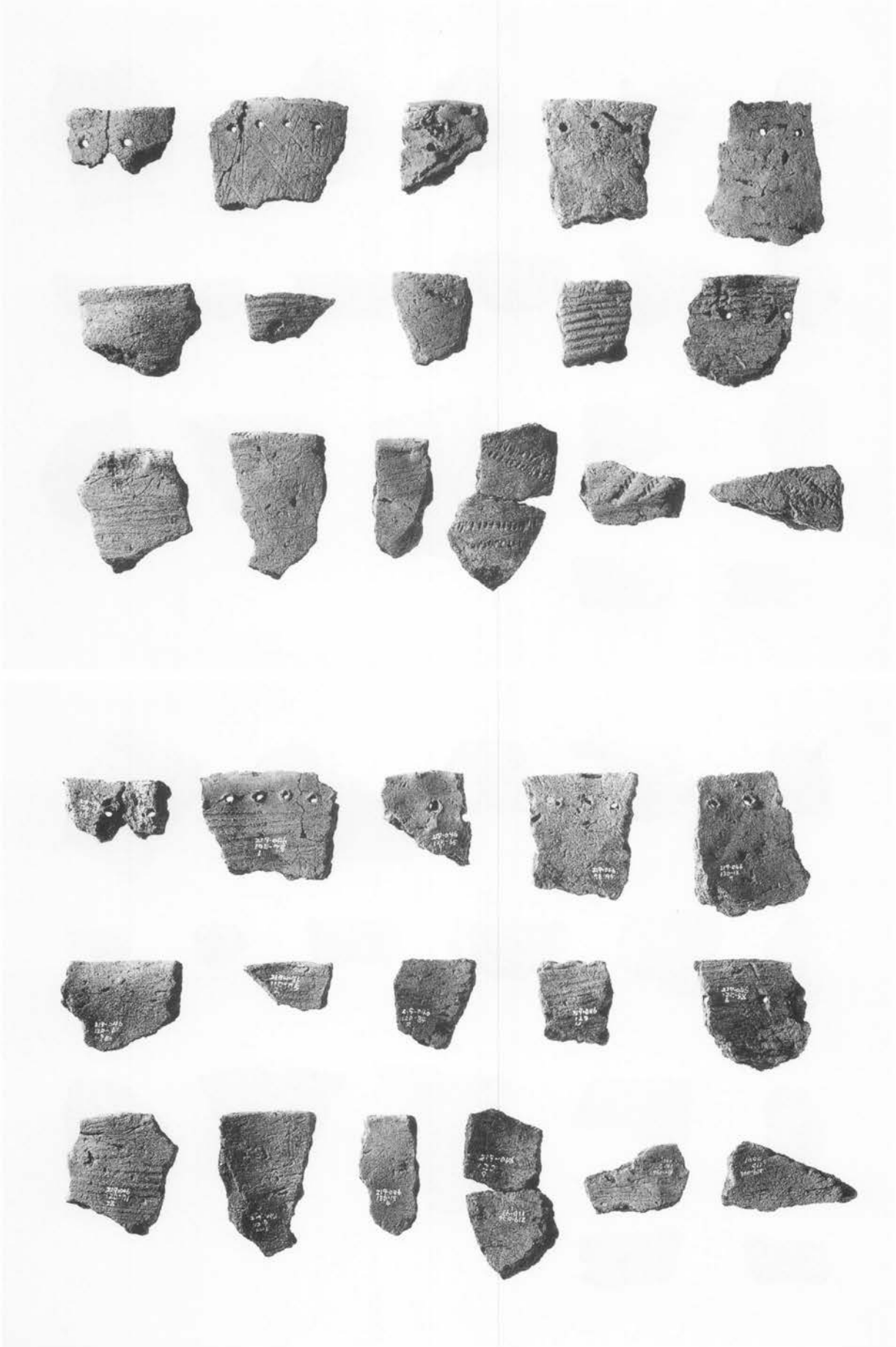


第Ⅲ群1類土器(3)〔上段：表，下段：裏〕

ヤジ山遺跡

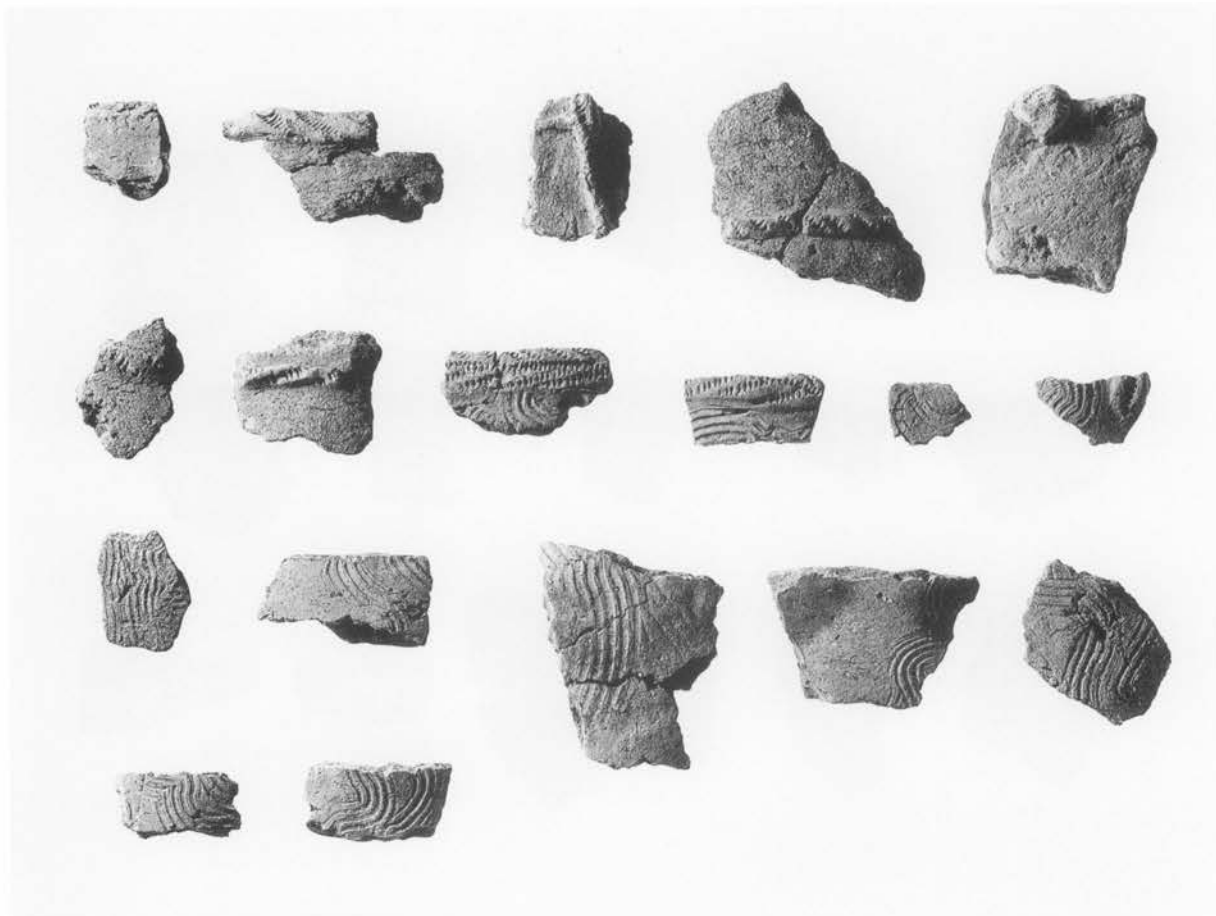


第Ⅲ群1類土器(4)〔上段：表，下段：裏〕



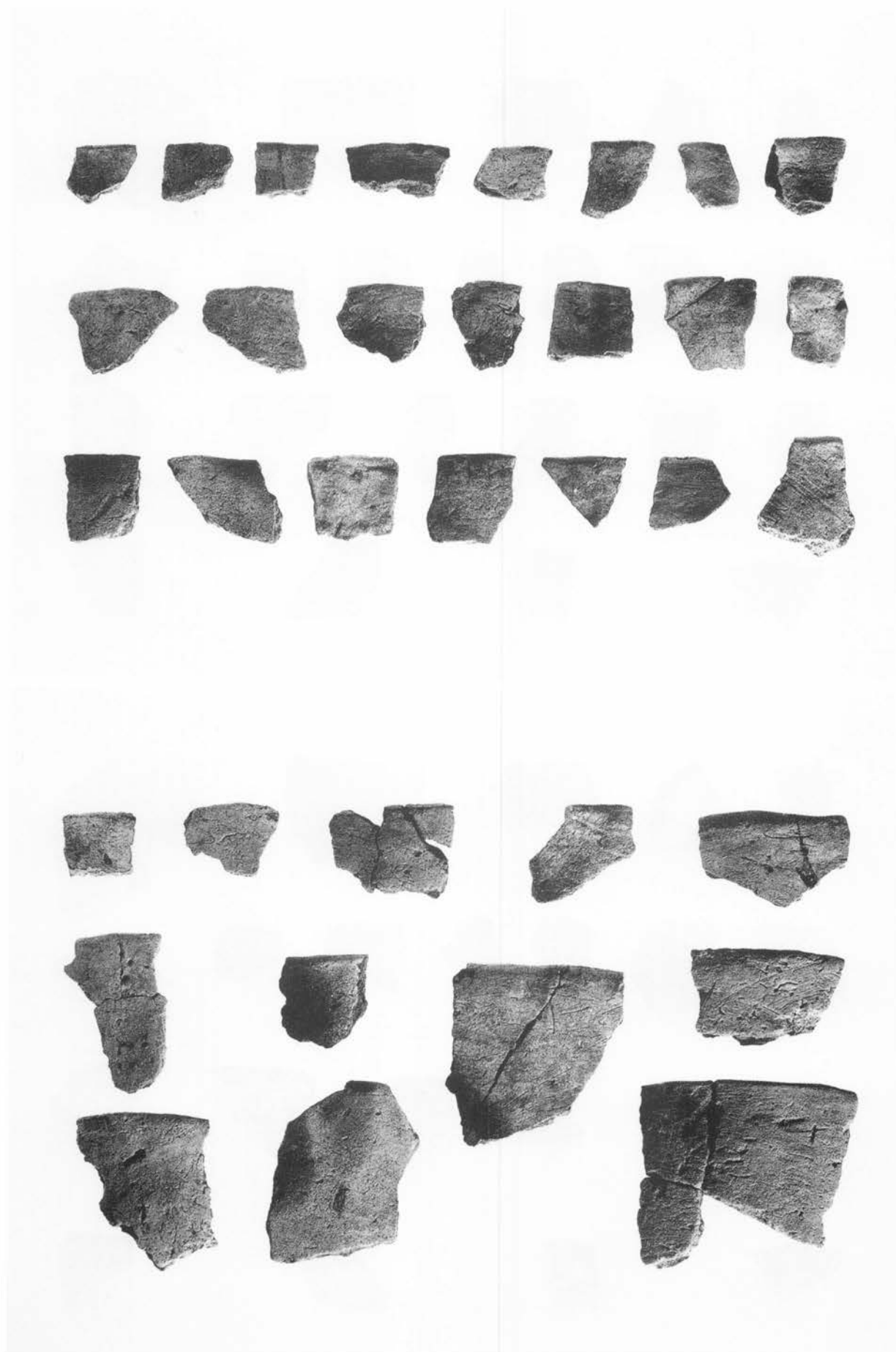
第Ⅲ群1類土器(5)〔上段：表，下段：裏〕

ヤジ山遺跡



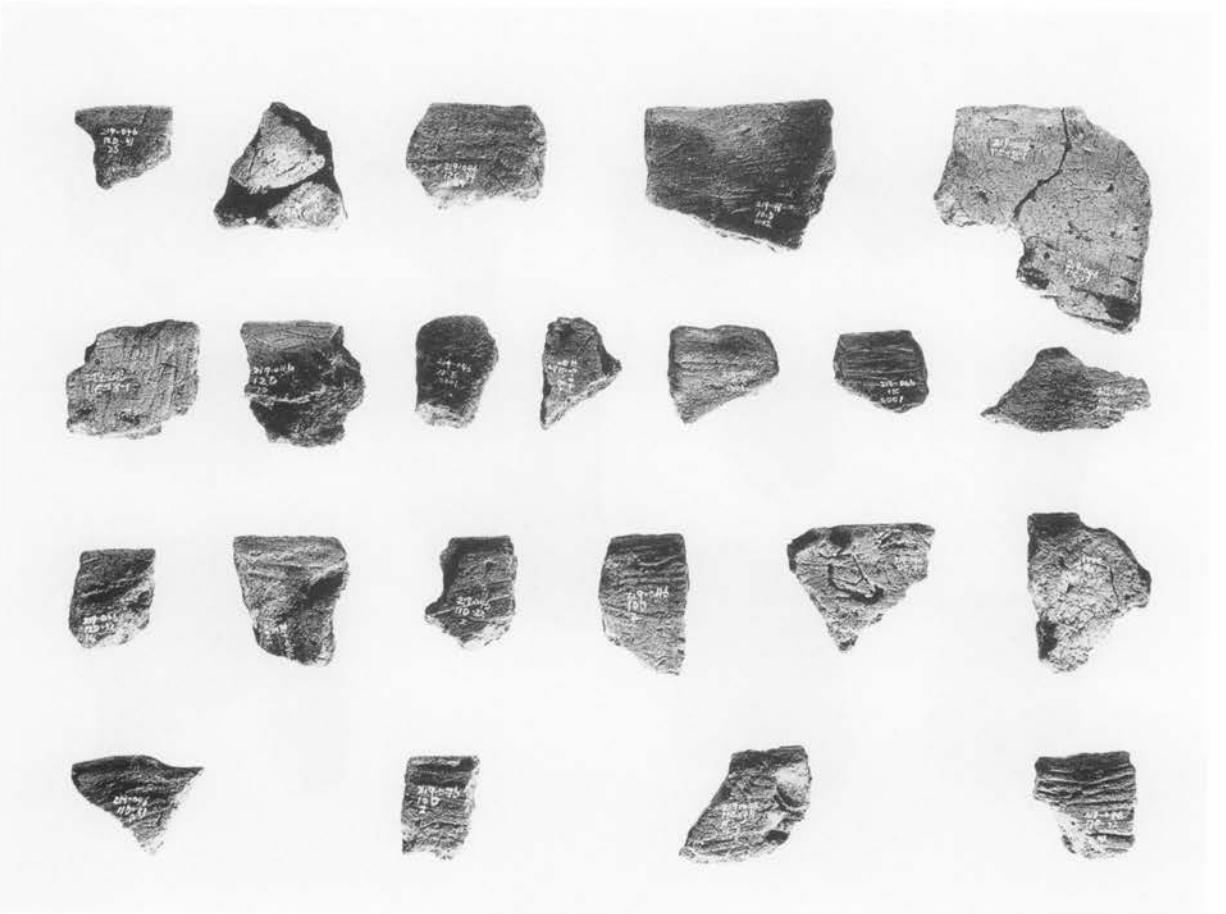
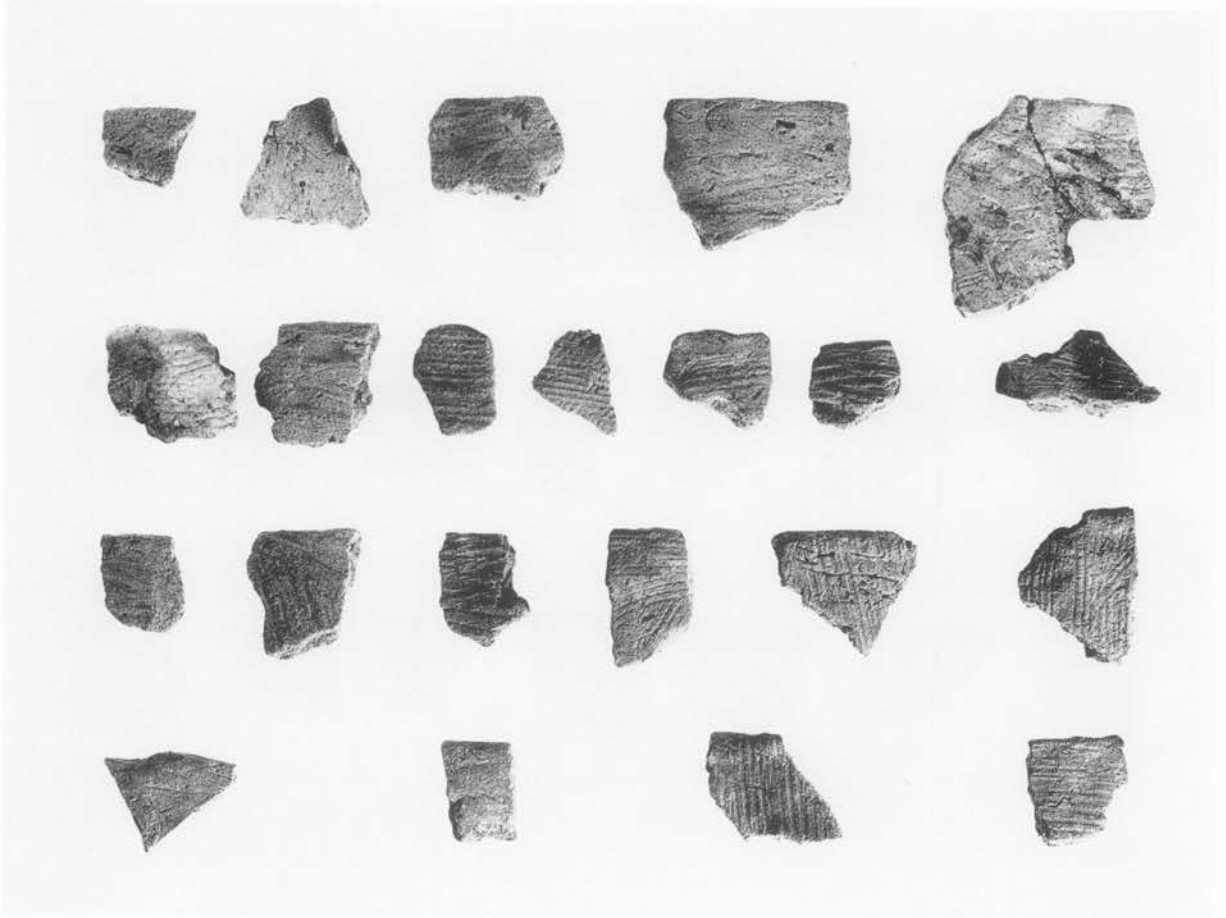
第Ⅲ群1類土器(6)〔上段：表，下段：裏〕

ヤジ山遺跡

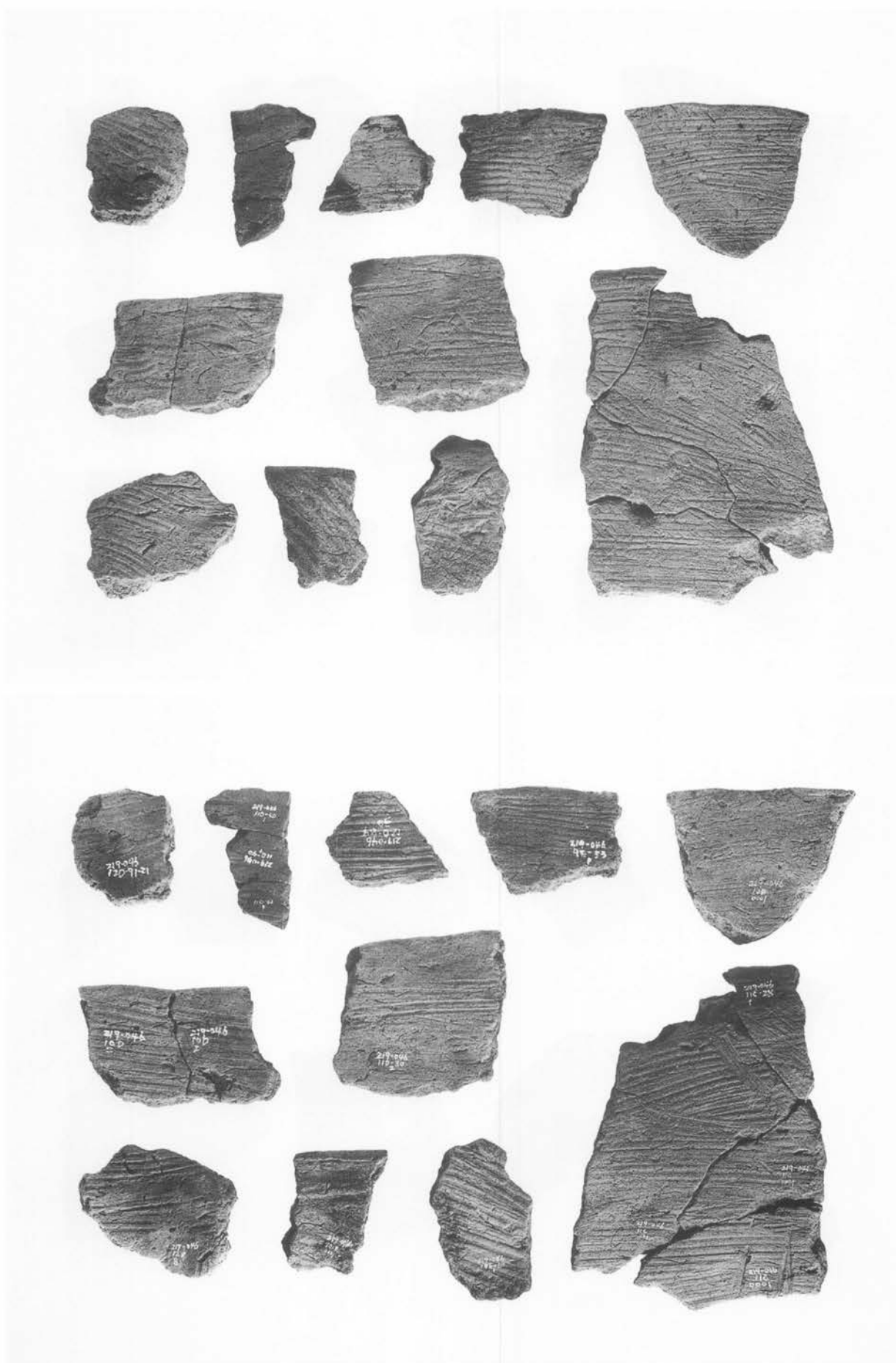


第Ⅲ群2類a種土器

ヤジ山遺跡

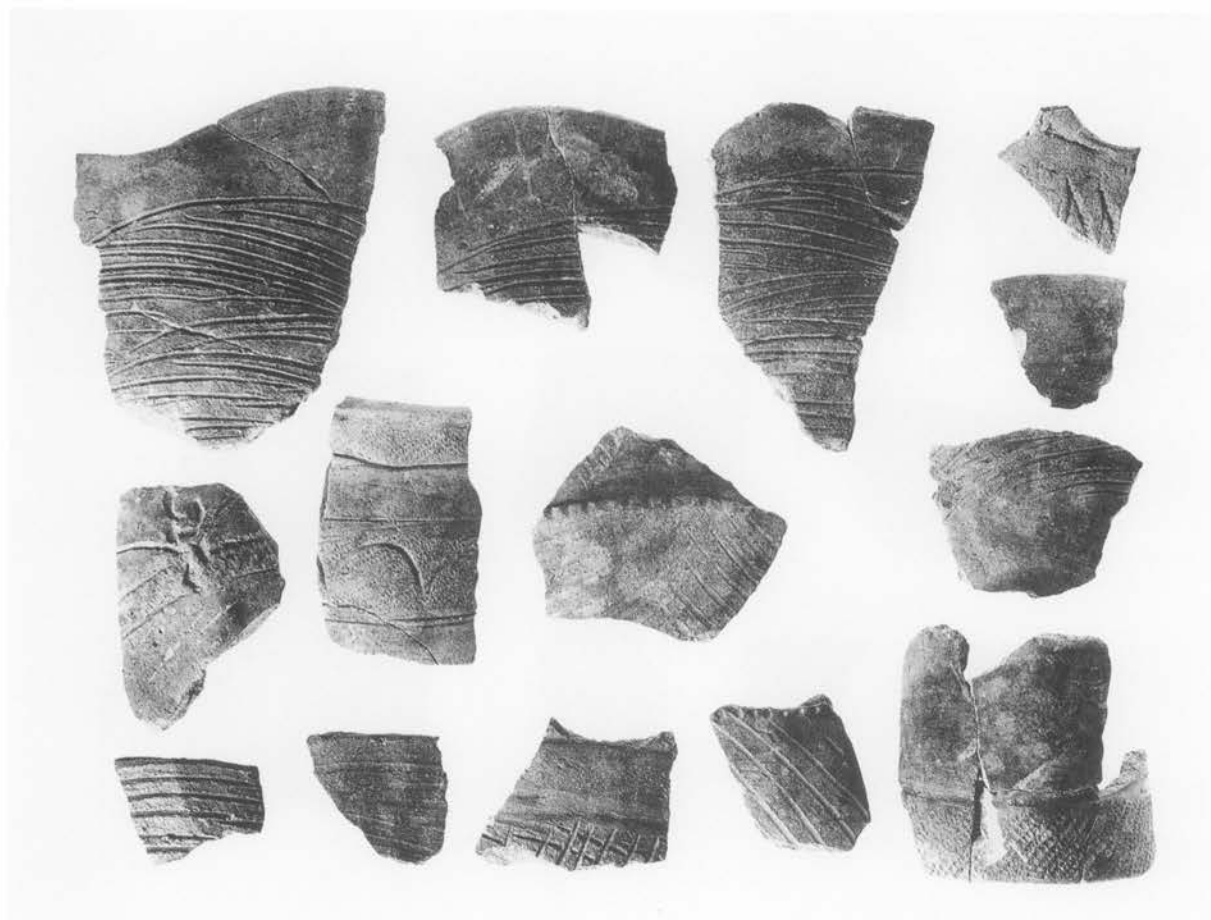


第III群2類b種土器(1)



第Ⅲ群2類b種土器(2)

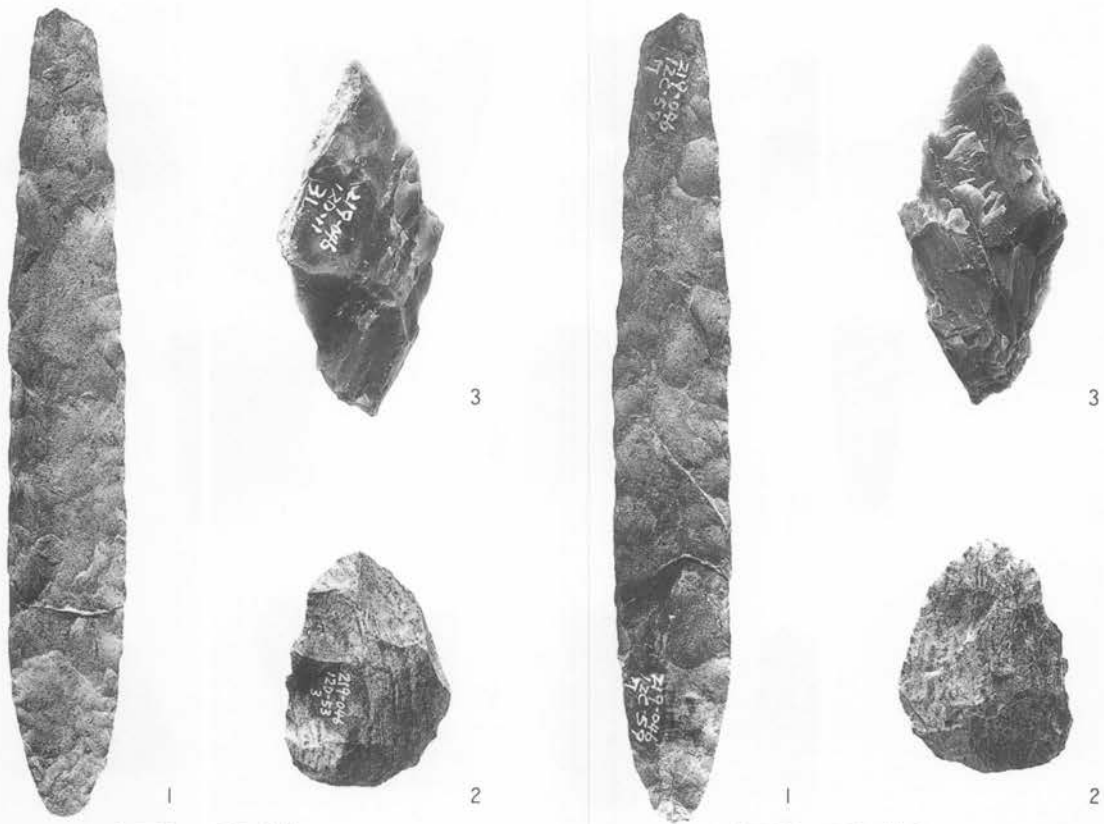
ヤジ山遺跡



第IV群（前期・後期）土器



第III・IV群土器（底部）

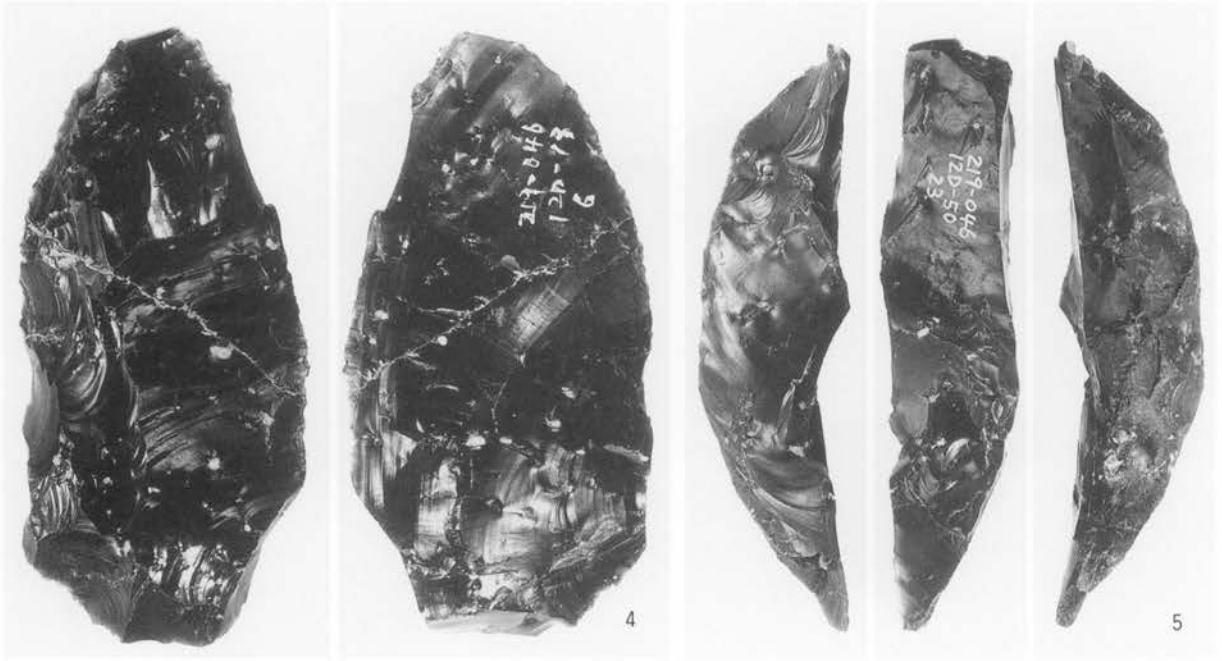


尖頭器・搔器（表）

尖頭器・搔器（裏）

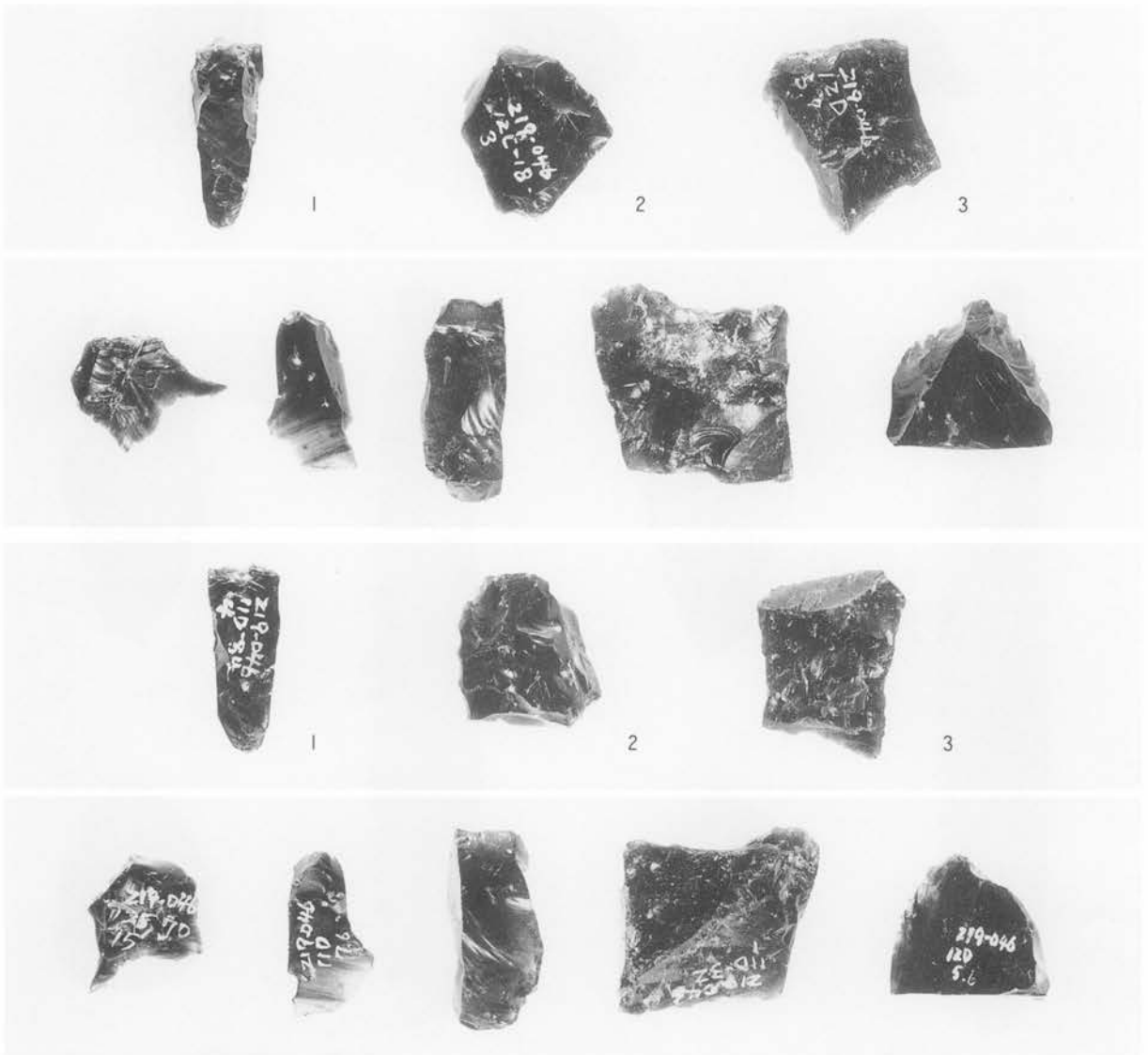
縄文時代石器（1）

ヤジ山遺跡



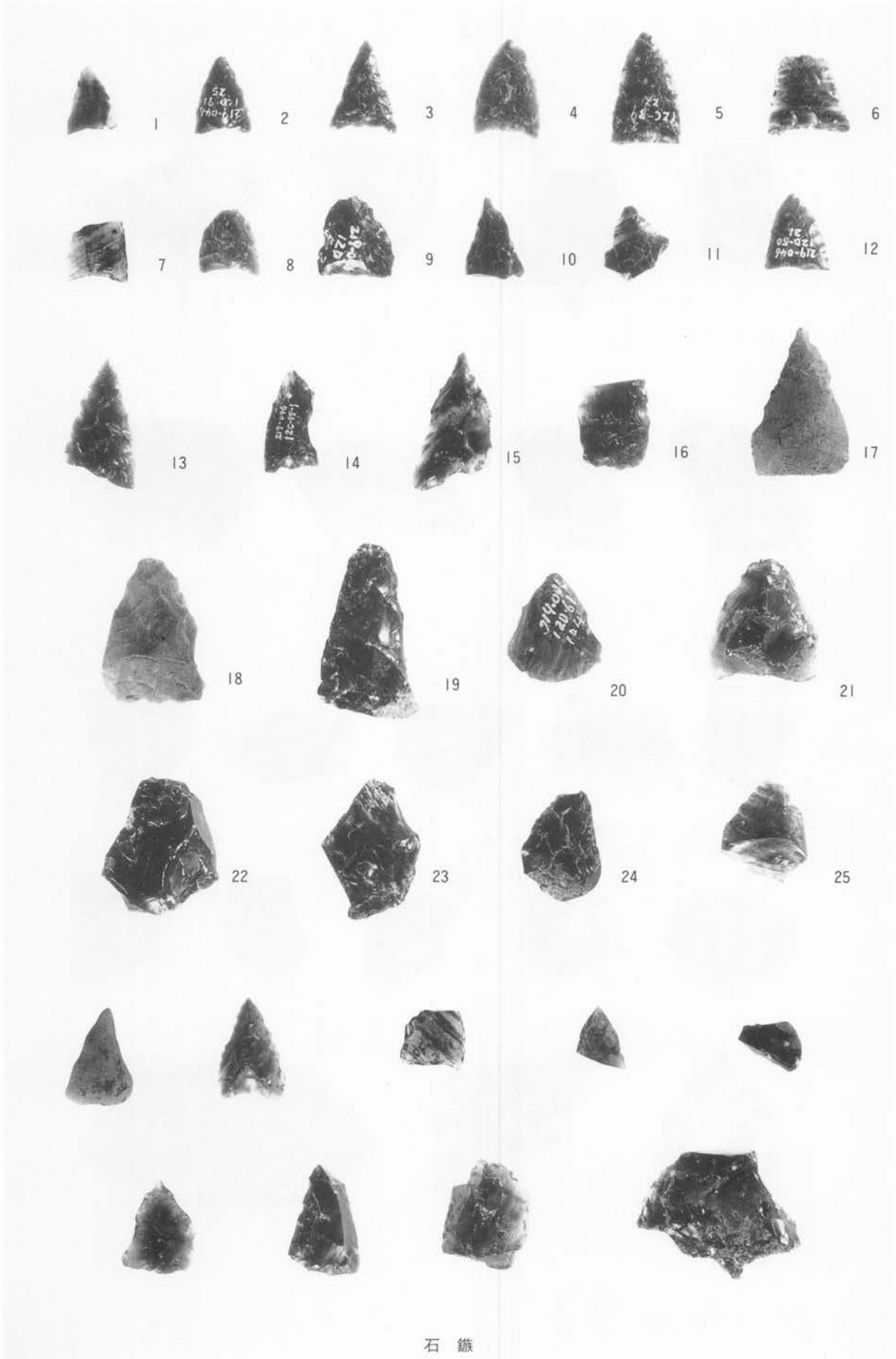
搔器

剝片



楔形石器 (上段：表, 下段：裏)
縄文時代石器 (2)

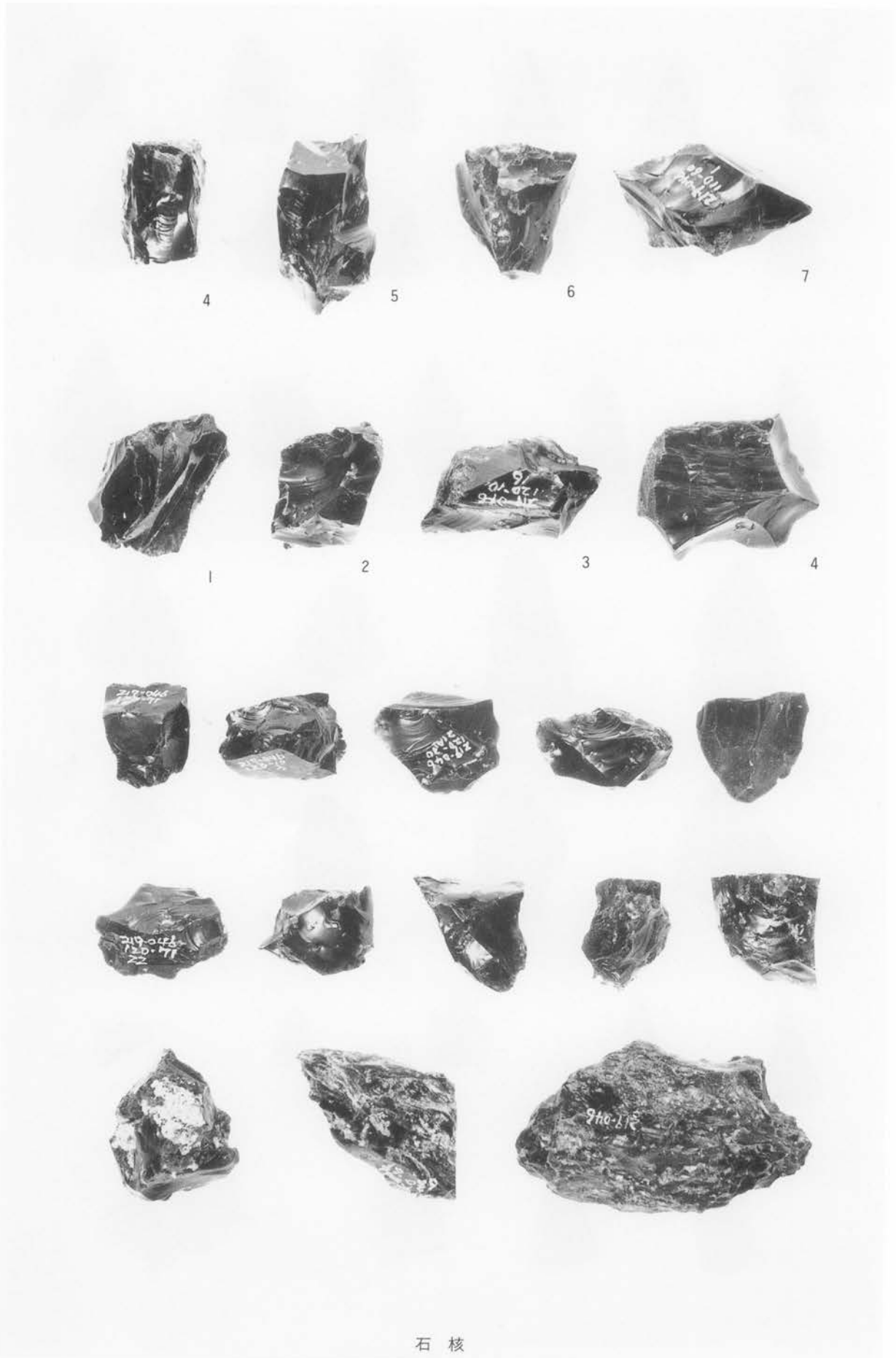
ヤジ山遺跡



石 鏃

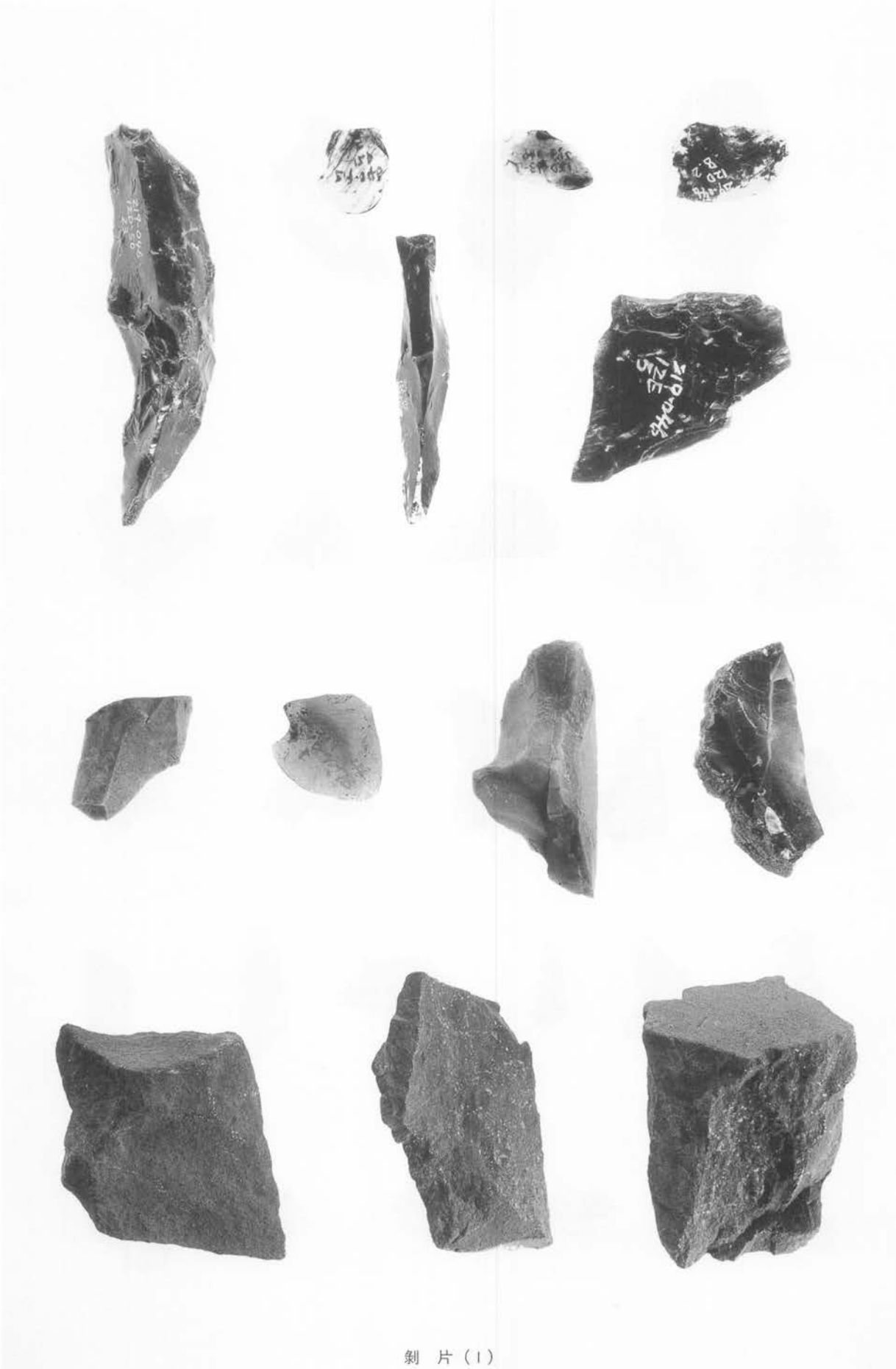
縄文時代石器 (3)

ヤジ山遺跡



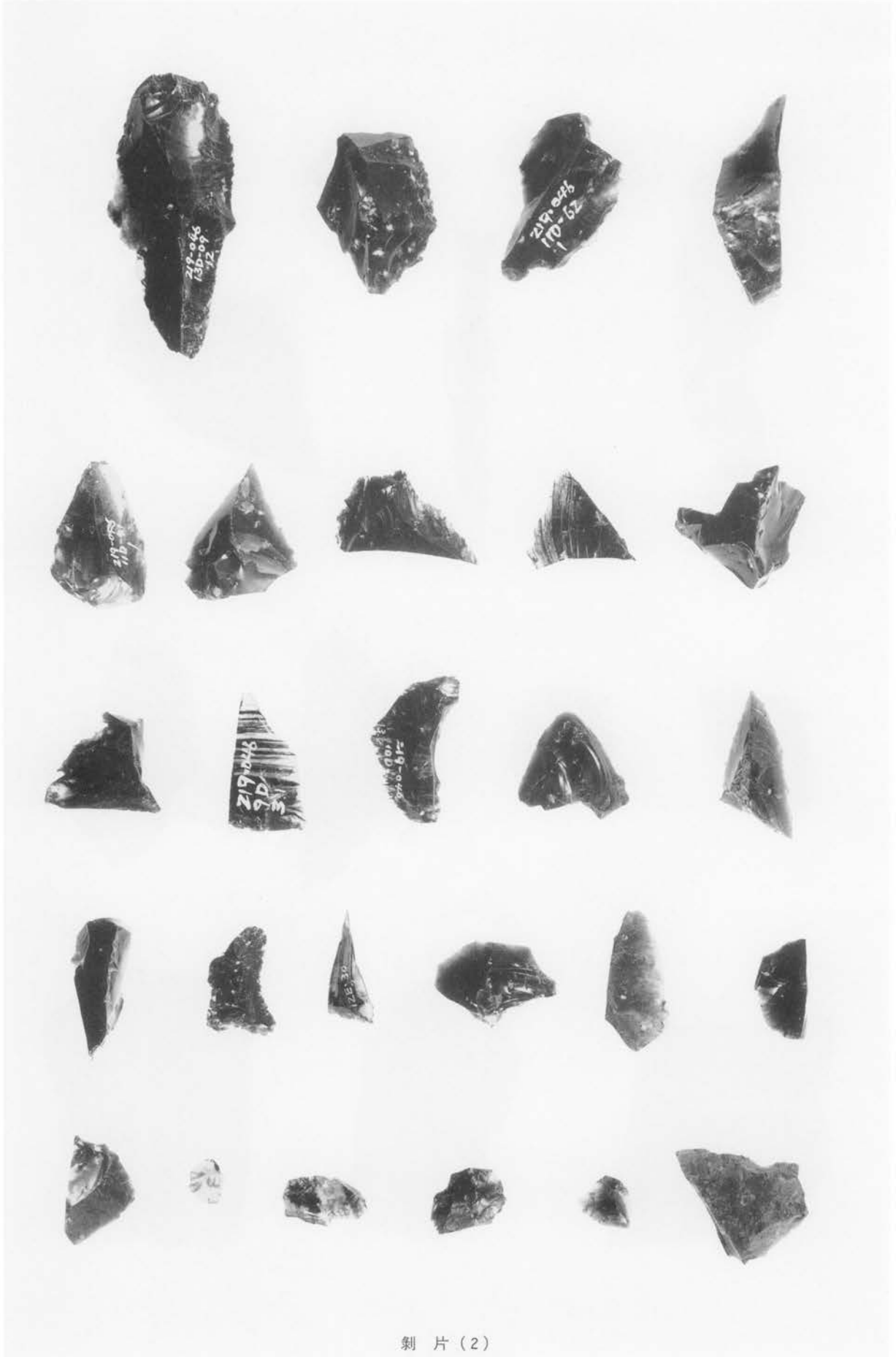
石核
縄文時代石器(4)

ヤジ山遺跡

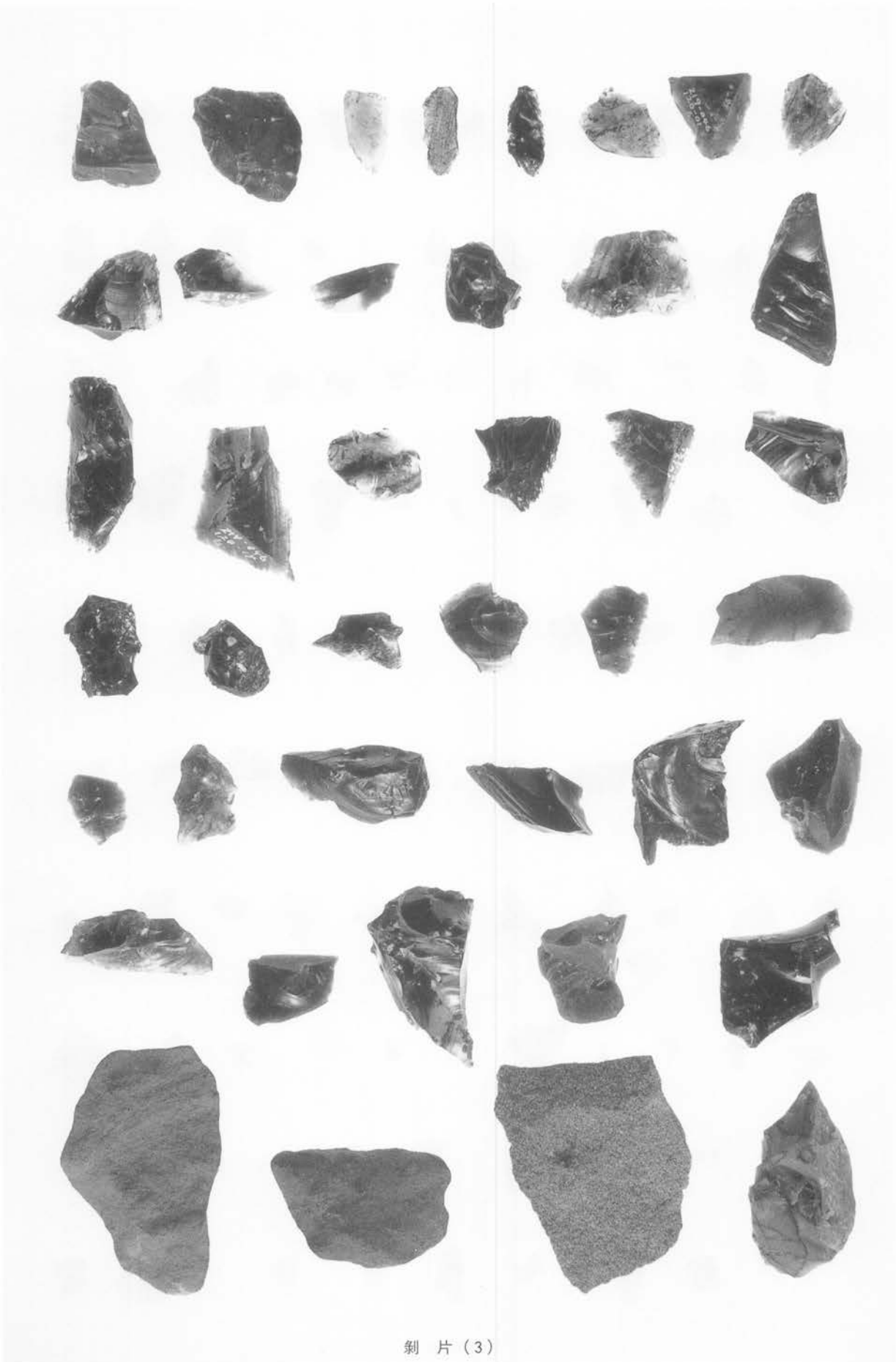


剥片(1)
縄文時代石器(5)

ヤジ山遺跡

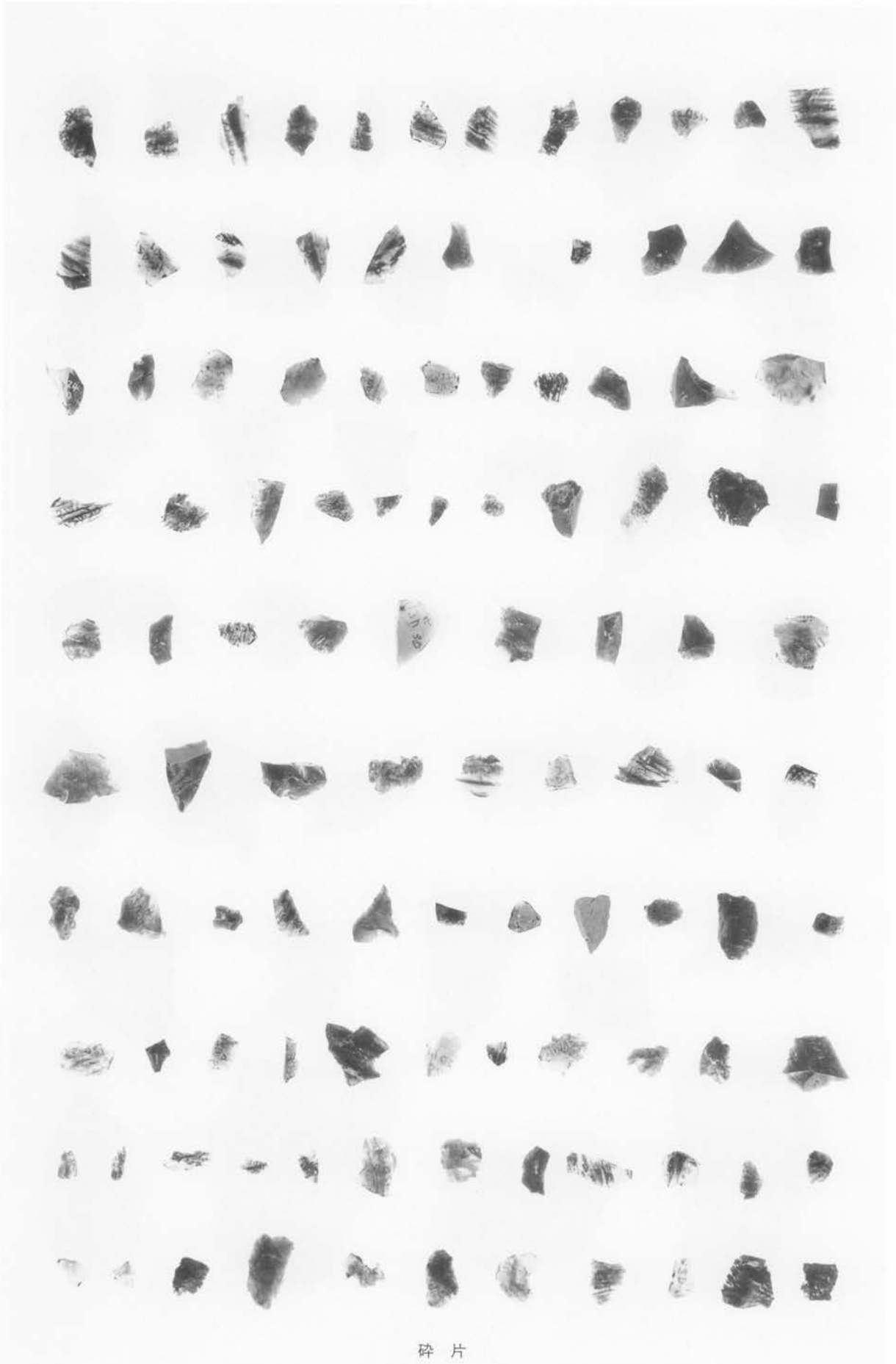


剥片(2)
縄文時代石器(6)



剥片(3)
縄文時代石器(7)

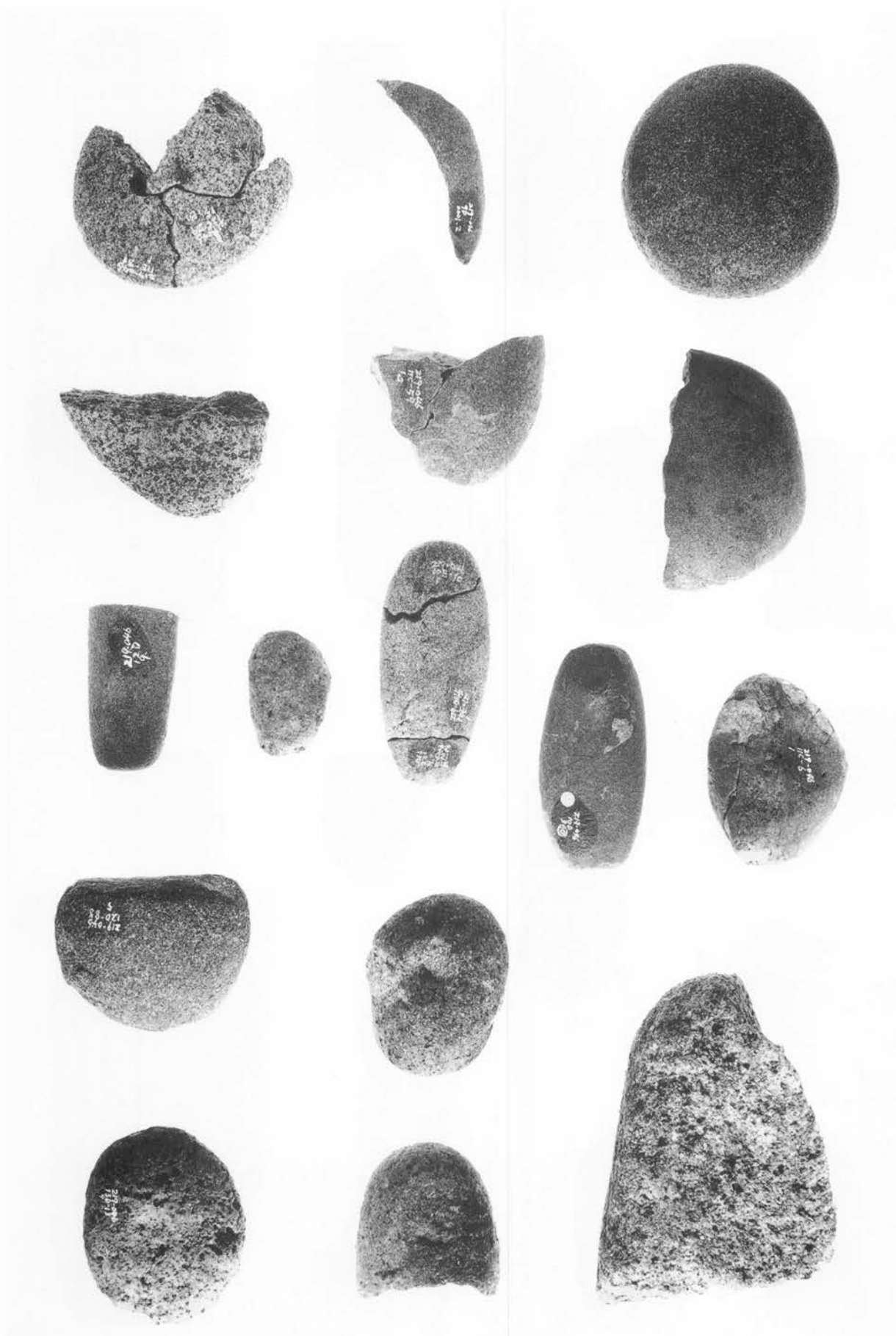
ヤジ山遺跡



碎 片

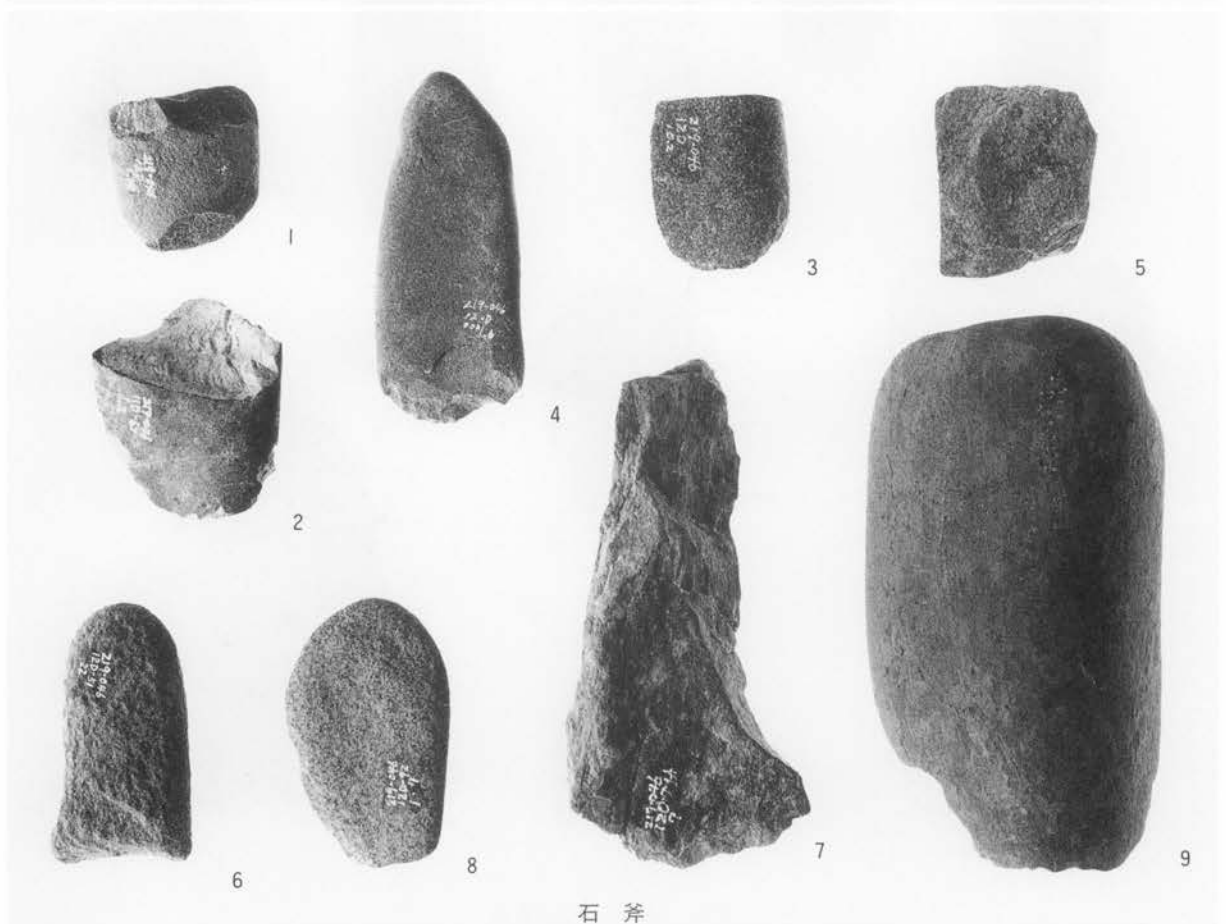
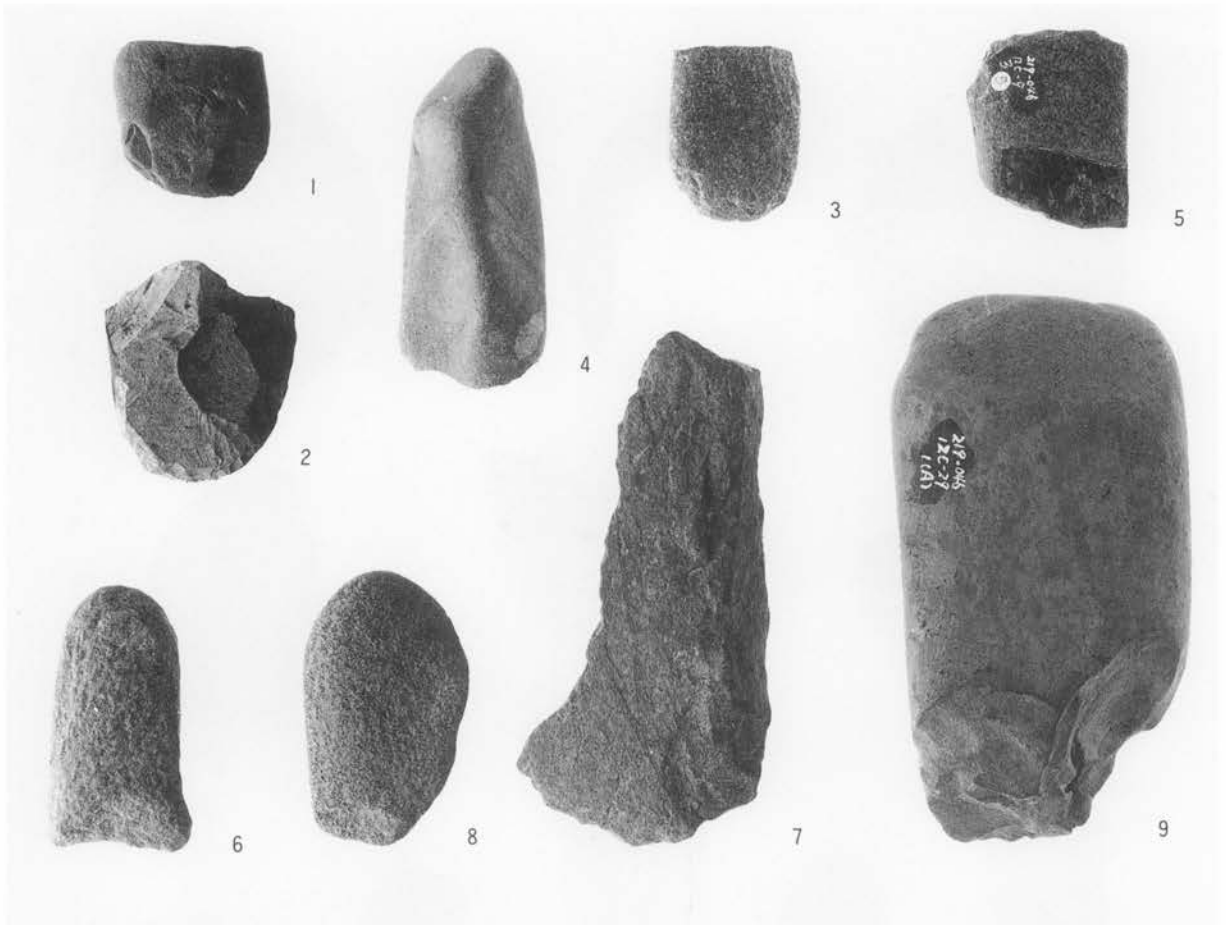
縄文時代石器 (8)

ヤジ山遺跡



磨石・敲石・凹石・石皿
縄文時代石器(9)

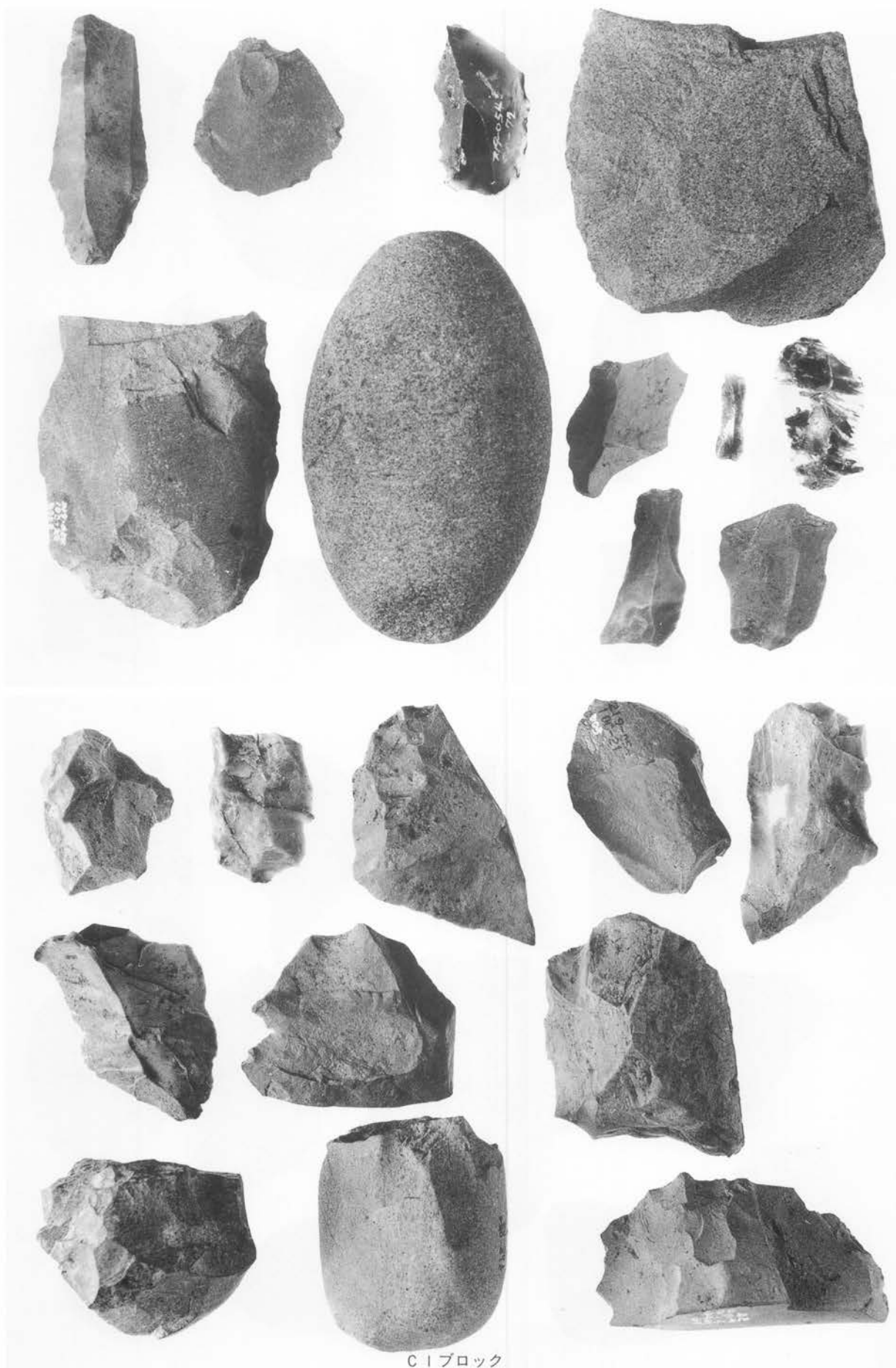
ヤジ山遺跡



石斧

縄文時代石器 (10)

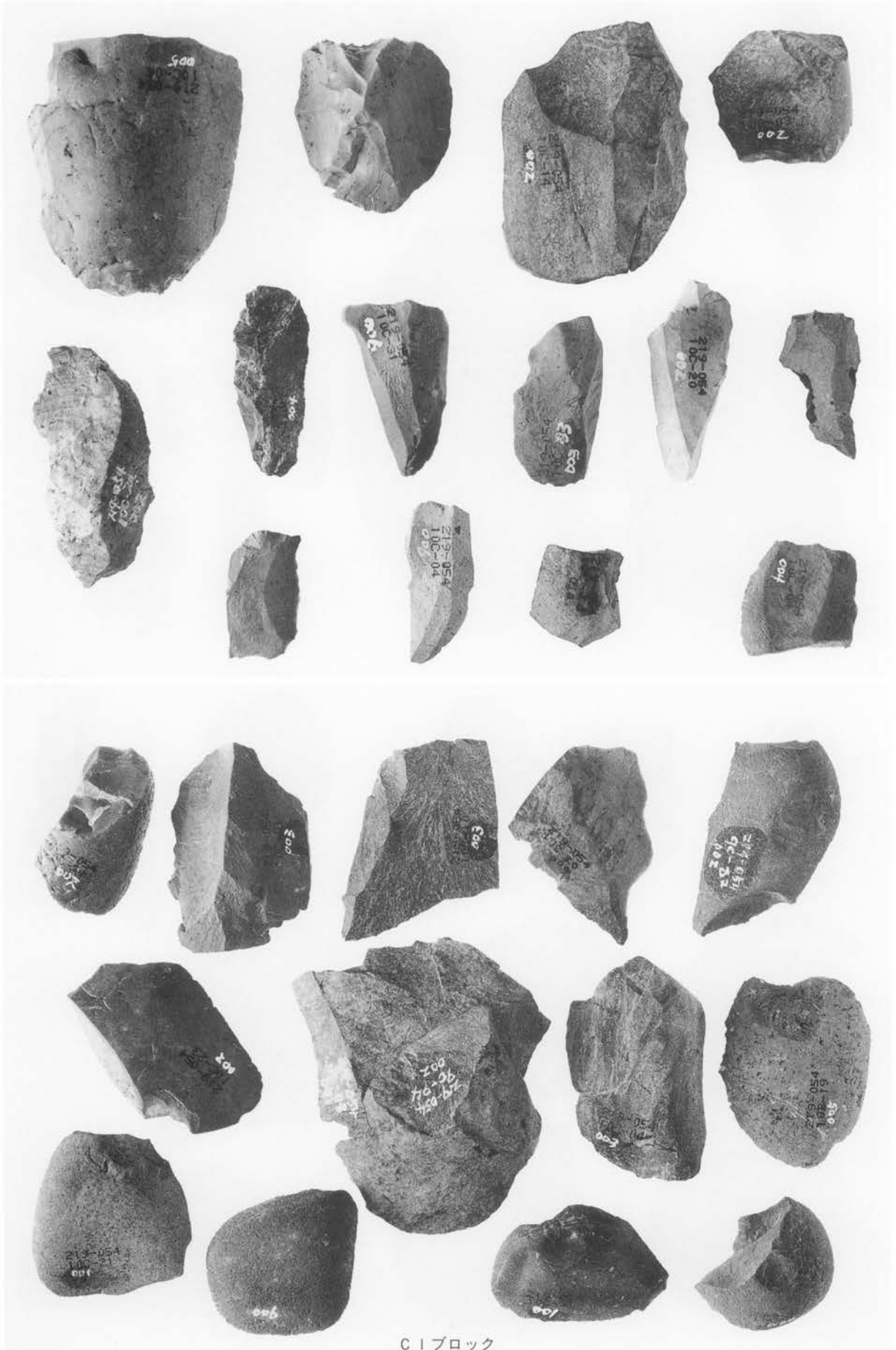
細山(2)遺跡



C1ブロック

旧石器時代石器(1)

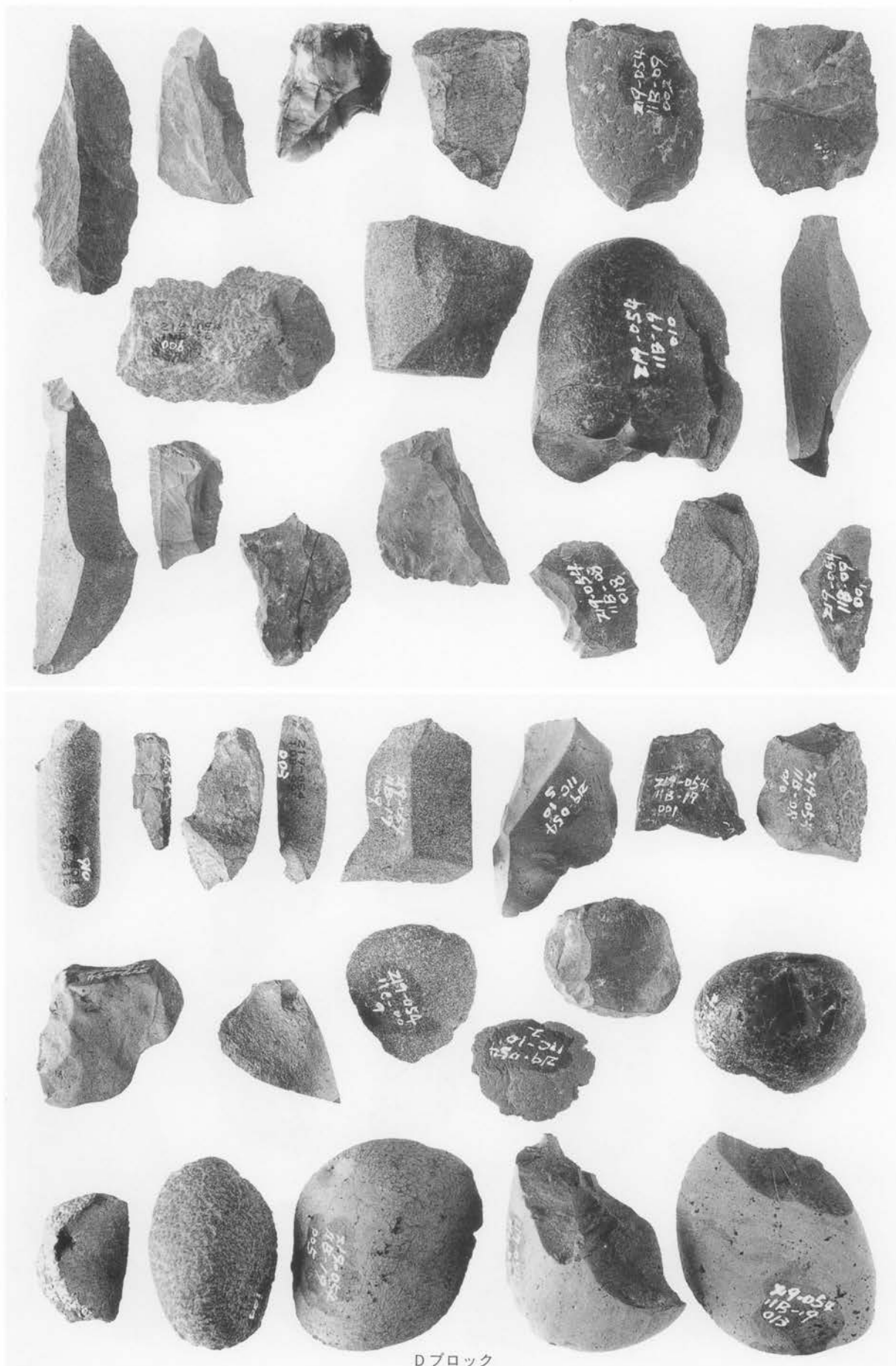
細山(2)遺跡



C1ブロック

旧石器時代石器(2)

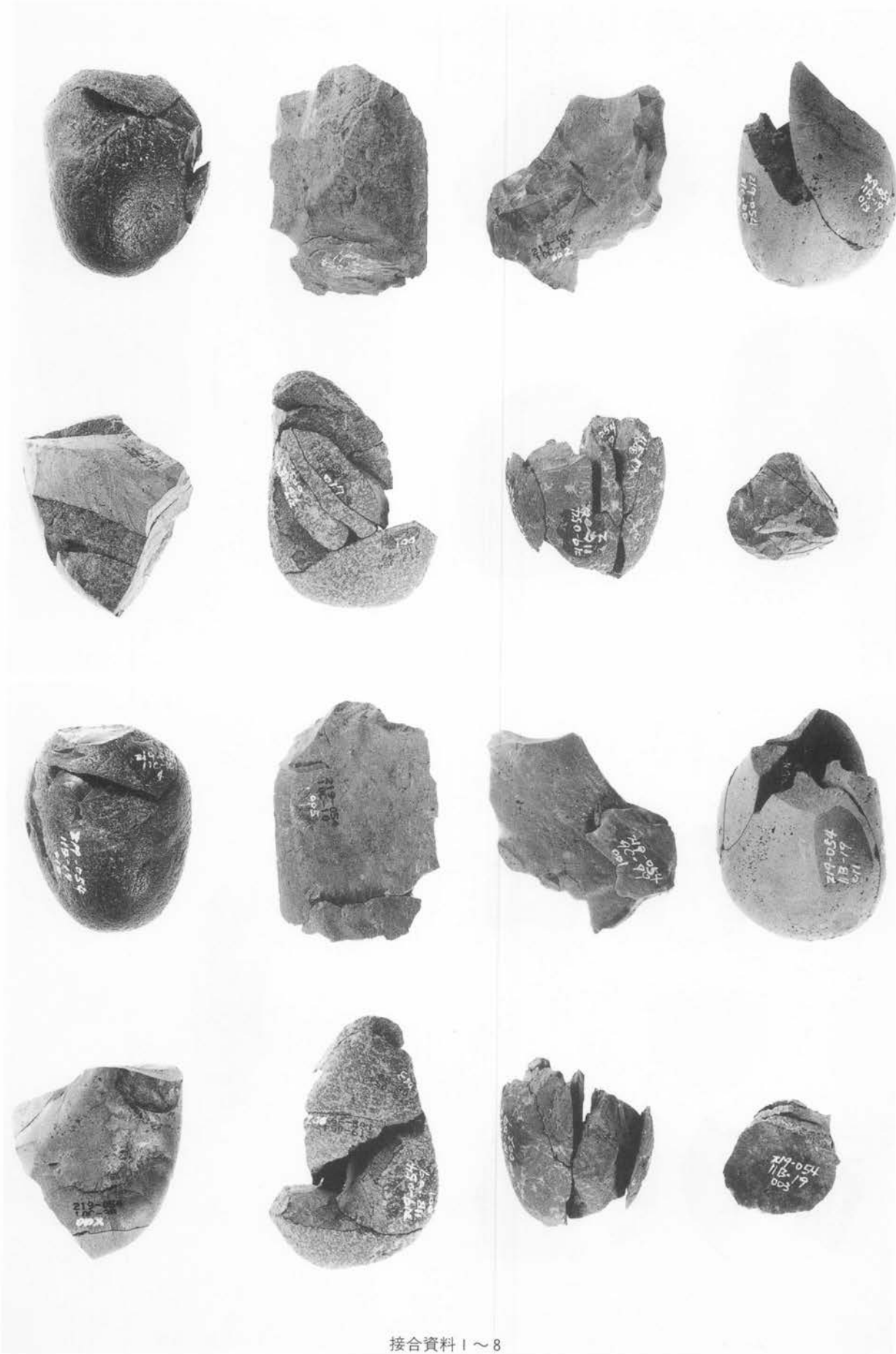
細山(2)遺跡



Dブロック

旧石器時代石器(4)

細山(2)遺跡



接合資料 1~8

旧石器時代石器 (5)

細山(2)遺跡



接合資料 9～16



A・Bブロック出土石器

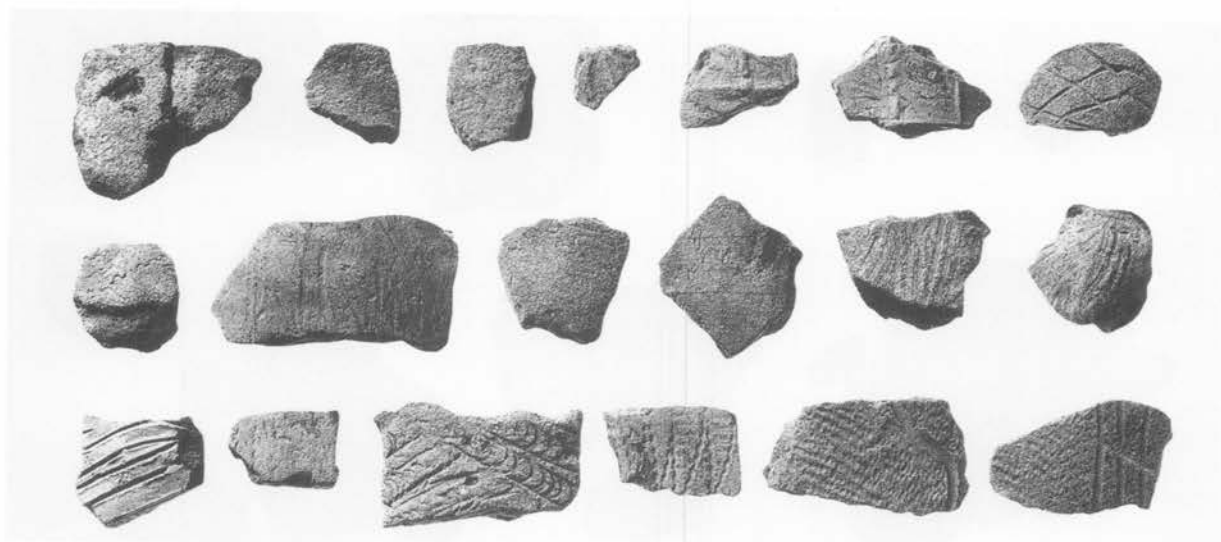
グリッド出土石器

旧石器時代石器 (6)

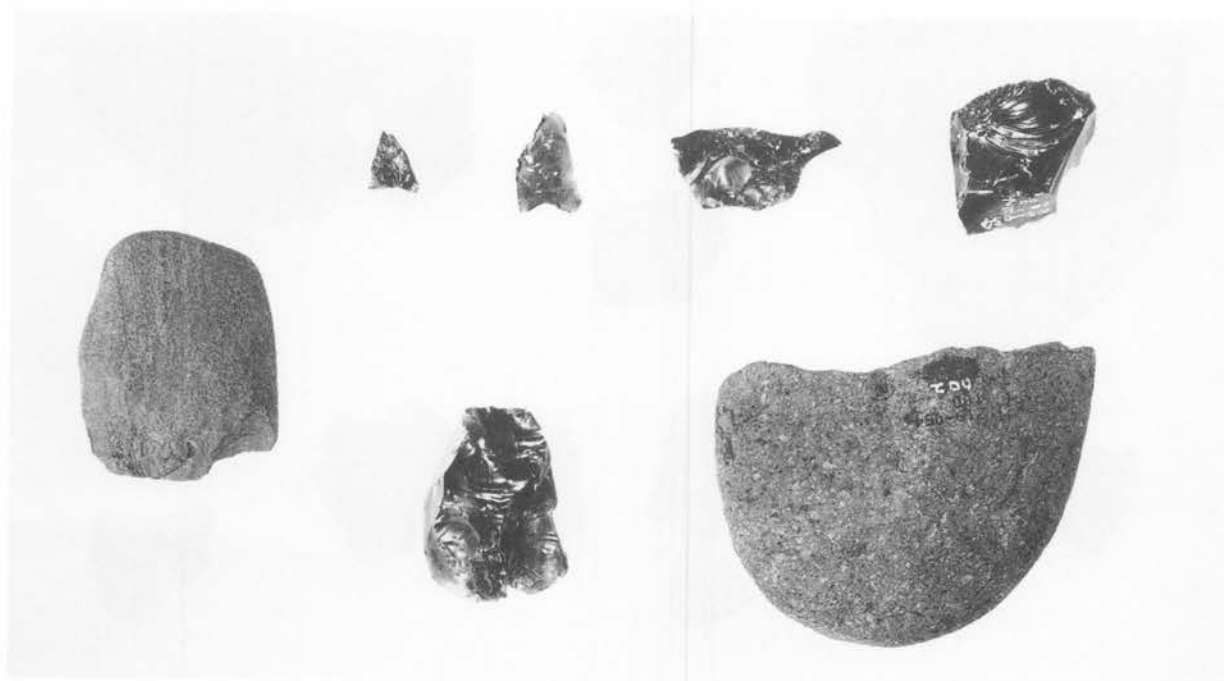
細山(1)・(2)遺跡



縄文土器 (細山(1)遺跡)

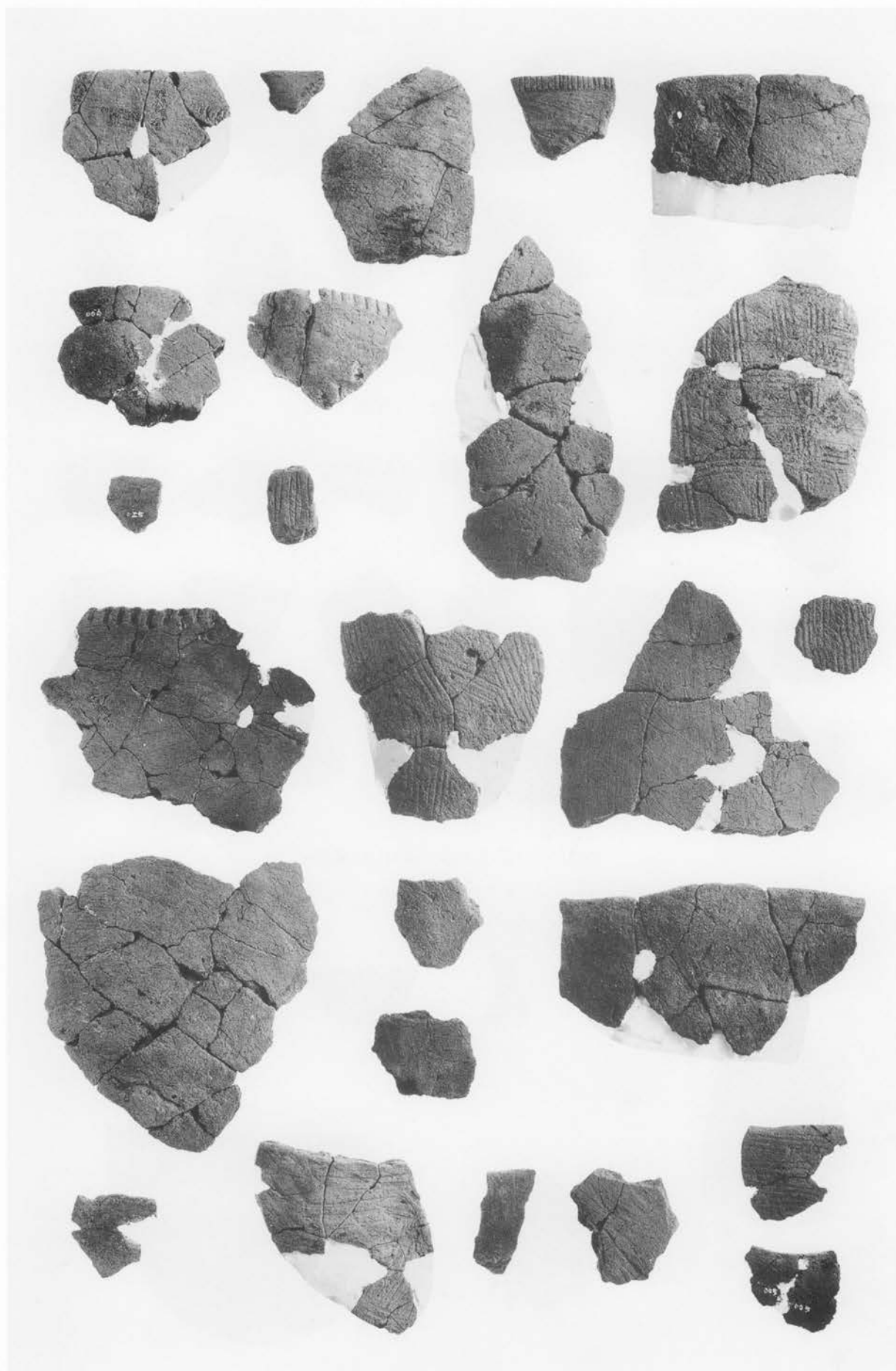


遺構外出土縄文土器 (細山(2)遺跡)



縄文時代石器 (細山(1)・(2)遺跡)

細山(2)遺跡



遺構出土縄文土器

報告書抄録

ふりがな	ひがしかんとうじどうしゃどう (ちば・ふつつせん) まいぞうふんかざいちょうさほうこくしょ
書名	東関東自動車道 (千葉・富津線) 埋蔵文化財調査報告書5
副書名	市原市中伊沢遺跡・百目木遺跡・下椎木遺跡・志保知遺跡・ヤジ山遺跡・細山(1)(2)遺跡
巻次	5
シリーズ名	財団法人千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第383集
編著者名	豊田秀治・小笠原永隆・吉野健一
編集機関	財団法人千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 Tel043-422-8811
発行年月日	西暦 2000年 3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
なかいざいせき 中伊沢遺跡	ちばけんいちほらし 千葉県市原市 かいほあぎなかいざわ 海保字中伊沢 1,290-1ほか	2 1 9	0 4 9	35° 26' 44"	140° 4' 50"	19900402~ 19900516	600㎡	道路 (東関東自動車道) 建設に伴う事前調査
どうめぎいせき 百目木遺跡	いちほらしとよなり 市原市豊成 396ほか	2 1 9	0 5 7	35° 26' 35"	140° 4' 30"	19910401~ 19910715	1,140㎡	
しもしいのきいせき 下椎木遺跡	いちほらしいりやまず 市原市不入斗 あざしもしいのき 字下椎木543ほか	2 1 9	0 5 6	35° 26' 22"	140° 4' 9"	19910107~ 19910228	1,000㎡	
しばちいせき 志保知遺跡	いちほらしふかしろあぎ 市原市深城字 しばち 志保知577-3ほか	2 1 9	0 5 5	35° 26' 20"	140° 4' 0"	19901126~ 19910131	2,875㎡	
やじやまいせき ヤジ山遺跡	いちほらしふかしろあぎ 市原市深城字 やじやま ヤジ山282-1ほか	2 1 9	0 4 6	35° 26' 15"	140° 3' 47"	19900101~ 19900317 19900401~ 19900821 19910917~ 19911225	5,690㎡	
ほそやま(1)いせき 細山(1)遺跡	いちほらししいつあぎ 市原市権津字 ばちたに バチ谷2,970-1ほか	2 1 9	0 5 3	35° 25' 50"	140° 3' 15"	19901101~ 19910131	100㎡	
ほそやま(2)いせき 細山(2)遺跡	いちほらしあもうだあぎ 市原市天羽田字 でききだい 出崎台1,163-1ほか	2 1 9	0 5 4	35° 25' 46"	140° 3' 12"	19901101~ 19910328	960㎡	

所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構		主 な 遺 物	特 記 事 項
中伊沢遺跡	包蔵地	縄文時代			縄文土器 (前期)	弥生時代初頭の土器が出土した。
		弥生時代			弥生土器 (前期)	
百目木遺跡	集落跡	縄文時代	炉 穴	13基	縄文土器 (早期) 石器 (使用痕のある剥片)	
下椎木遺跡	集落跡	旧石器時代	遺物集中地点	2 か所	旧石器時代石器	
		縄文時代	炉 穴 陥 穴 土 坑	27基 2 基 1 基	縄文土器 (早期)	
志保知遺跡	集落跡	旧石器時代	遺物集中地点	1 か所	旧石器時代石器	
		縄文時代	陥 穴 土 坑	12基 1 基	縄文土器 (早期・中期) 石器 (剥片)	
ヤジ山遺跡	集落跡	旧石器時代	遺物集中地点	7 か所	旧石器時代石器	旧石器時代のⅧ層を中心とする良好な石器群, 縄文時代草創期の尖頭器, 早期田戸上層式終末から子母口式にかけてのまとまった遺構群及び遺物が検出された。
		縄文時代	竪穴住居跡 炉 穴 陥 穴 土 坑 遺物集中地点	1 軒 37基 14基 22基 2 か所	縄文土器 (早期・前期・後期) 石器 (尖頭器・石鏃・石核・ 楔形石器・石斧・石皿・ 敲石・磨石・剥片)	
細山(1)遺跡	包蔵地	旧石器時代	遺物集中地点	1 か所	旧石器時代石器	
		縄文時代			縄文土器 (早期・前期) 石器 (石斧)	
細山(2)遺跡	集落跡	旧石器時代	遺物集中地点	8 か所	旧石器時代石器	旧石器時代のⅣ層を中心とする良好な石器群が検出された。
		縄文時代	炉 穴	15基	縄文土器 (早期) 石器 (石鏃・剥片)	

千葉県文化財センター調査報告第383集

東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書 5

市原市中伊沢遺跡・百目木遺跡・下椎木遺跡・

志保知遺跡・ヤジ山遺跡・細山(1)(2)遺跡

平成12年 3月31日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 日 本 道 路 公 団

東京都港区虎ノ門1-18-1

財団法人 千葉県文化財センター

四街道市鹿渡809-2

印 刷 株式会社 太陽堂印刷所

千葉市中央区末広1-4-27
